

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7309541号
(P7309541)

(45)発行日 令和5年7月18日(2023.7.18)

(24)登録日 令和5年7月7日(2023.7.7)

(51)国際特許分類

F I

A 6 3 F 7/02 (2006.01) A 6 3 F 7/02 3 2 0

請求項の数 1 (全265頁)

(21)出願番号	特願2019-165041(P2019-165041)	(73)特許権者	000144153 株式会社三共 東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
(22)出願日	令和1年9月11日(2019.9.11)	(72)発明者	小倉 敏男 東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号 株式会社三共内
(65)公開番号	特開2021-40928(P2021-40928A)	審査官	本村 真也
(43)公開日	令和3年3月18日(2021.3.18)		
審査請求日	令和4年7月28日(2022.7.28)		

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値を設定可能な設定手段と、
前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段と、
前記示唆演出が実行される前に前記示唆演出が実行されることを予告する準備演出を実行可能な準備演出実行手段と、を備え、
前記示唆演出は、第1示唆演出と、該第1示唆演出とは異なる第2示唆演出と、該第1示唆演出および該第2示唆演出とは異なるとともに実行された場合に該第1示唆演出および該第2示唆演出よりも前記有利状態に制御される割合が低い第3示唆演出とを含み、
前記準備演出は、前記第1示唆演出が実行されることを予告する第1準備演出と、前記第2示唆演出が実行されることを予告する第2準備演出とを含み、
前記第3示唆演出、前記第1準備演出および前記第2準備演出は、同一期間に並列して、かつ互いに独立して実行可能であり、
第1パターンと、実行された場合に該第1パターンよりも前記有利状態に制御される割合が低い第2パターンとにより前記第1準備演出を実行可能であり、
前記第1パターンの前記第1準備演出と前記第3示唆演出を同一期間に並列して実行可能である一方、前記第2パターンの前記第1準備演出と前記第3示唆演出を同一期間に並列して実行せず、
前記第1準備演出および前記第2準備演出のいずれかが実行されているときよりも、前

記第 1 準備演出および前記第 2 準備演出のいずれも実行されていないときの方が、前記第 3 示唆演出が実行されやすく、

前記設定手段により設定された設定値に対応して前記第 2 示唆演出を実行可能であり、
前記第 1 準備演出および前記第 2 準備演出のいずれもが実行されるときの実行パターン
として、前記有利状態に制御されることが報知される特定パターンを有する、

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技を行うことが可能なパチンコ遊技機等の遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

遊技機として、有利状態に制御されることを示唆する示唆演出と、示唆演出が実行され
る前に示唆演出が実行されることを予告する準備演出とを実行可能に構成されたものがある。
例えば、特許文献 1 には、保留表示を変化させる矢を保留表示の周辺でストック（表
示）する演出が記載されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開 2017-131277 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、特許文献 1 に記載された遊技機では、期待度を高める演出の実行中に他
の演出が実行されることで、却って興味が低下してしまうおそれがある。

【0005】

そこで、本発明は、好適に興味を維持することができる遊技機を提供することを目的と
する。

【課題を解決するための手段】

【0006】

手段 A の遊技機は、

遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値を設定可能な設定手段と、

前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段と、

前記示唆演出が実行される前に前記示唆演出が実行されることを予告する準備演出を実
行可能な準備演出実行手段と、を備え、

前記示唆演出は、第 1 示唆演出と、該第 1 示唆演出とは異なる第 2 示唆演出と、該第 1
示唆演出および該第 2 示唆演出とは異なるとともに実行された場合に該第 1 示唆演出およ
び該第 2 示唆演出よりも前記有利状態に制御される割合が低い第 3 示唆演出とを含み、

前記準備演出は、前記第 1 示唆演出が実行されることを予告する第 1 準備演出と、前記
第 2 示唆演出が実行されることを予告する第 2 準備演出とを含み、

前記第 3 示唆演出、前記第 1 準備演出および前記第 2 準備演出は、同一期間に並列して
、かつ互いに独立して実行可能であり、

第 1 パターンと、実行された場合に該第 1 パターンよりも前記有利状態に制御される割
合が低い第 2 パターンとにより前記第 1 準備演出を実行可能であり、

前記第 1 パターンの前記第 1 準備演出と前記第 3 示唆演出を同一期間に並列して実行可
能である一方、前記第 2 パターンの前記第 1 準備演出と前記第 3 示唆演出を同一期間に並
列して実行せず、

前記第 1 準備演出および前記第 2 準備演出のいずれかが実行されているときよりも、前
記第 1 準備演出および前記第 2 準備演出のいずれも実行されていないときの方が、前記第

10

20

30

40

50

3 示唆演出が実行されやすく、

前記設定手段により設定された設定値に対応して前記第2示唆演出を実行可能であり、
前記第1準備演出および前記第2準備演出のいずれもが実行される時の実行パターン
として、前記有利状態に制御されることが報知される特定パターンを有する、

ことを特徴とする。

また、手段C1の遊技機は、

演出画像（画像IM）を表示可能な画像表示装置（画像表示装置5）を備え、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）を仮想空間内（仮想三次元（x，y，z）空間）に配置し、当該三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）を特定視点から見たときの画像を透視投影により描画して演出画像（画像IM）の生成を行う画像生成手段（表示制御部123のVDP1500）を備え、

前記画像生成手段（表示制御部123のVDP1500）は、

前記画像表示装置（画像表示装置5）の演出表示領域（演出表示領域27TMO05A）を模した所定画像（演出画像EG）と、仮想空間（仮想三次元（x，y，z）空間）内に配置された三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）とを関連付ける所定処理（合成処理）を行い、

当該所定処理（合成処理）が行われた三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）を変化（変形又は移動）させ、当該変化後の三次元のオブジェクトを特定視点（視点EY0）から見たときの画像を透視投影により描画して演出画像（画像IM）の生成を行い、

前記所定画像（演出画像EG）は、更新される更新情報（第1の演出情報、第2の演出情報）を含み、前記所定処理（合成処理）が行われることなく演出画像（画像IM）として前記画像表示装置（画像表示装置5）に表示可能であり、

前記画像生成手段（表示制御部123のVDP1500）は、前記所定処理（合成処理）として、仮想空間（仮想三次元（x，y，z）空間）内に配置された三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）に対して、前記所定画像（演出画像EG）に基づくテクスチャマッピングを行い、当該テクスチャマッピングが行われた三次元のオブジェクトを変化（変形又は移動）させ、当該変化後の三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）を特定視点（視点EY0）から見たときの画像を透視投影により描画して演出画像（画像IM）の再生成を行い、

さらに、

前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、保留表示予告演出やタイマ演出、チャンス目予告演出など）を実行可能な示唆演出実行手段と、

前記示唆演出が実行される前に前記示唆演出が実行されることを予告する準備演出（例えば、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出など）を実行可能な準備演出実行手段と、を備え、

前記示唆演出は、第1示唆演出（例えば、保留表示予告演出）と、該第1示唆演出とは異なる第2示唆演出（例えば、タイマ演出）と、該第1示唆演出および該第2示唆演出とは異なる第3示唆演出（例えば、チャンス目予告演出）とを含み、

前記準備演出は、前記第1示唆演出が実行されることを予告する第1準備演出（例えば、保留表示予告準備演出）と、前記第2示唆演出が実行されることを予告する第2準備演出（例えば、タイマ準備演出など）とを含み、

前記第3示唆演出、前記第1準備演出および前記第2準備演出は、同一期間に並列して実行可能であり（図15-11（A1），（A2）参照）、

前記第1準備演出および前記第2準備演出のいずれかが実行されているときよりも、前記第1準備演出および前記第2準備演出のいずれも実行されていないときの方が、前記第3示唆演出が実行されやすい（例えば、図15-10参照）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、演出表示領域の表示態様を変化させる演出の興趣を向上させ

10

20

30

40

50

ることができる。また、画像生成手段の処理負担を軽減させることができる。また、好適に興味を維持することができる。

【0007】

手段C2の遊技機は、

手段C1の遊技機であって、

有利度が異なる複数の設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）のうちのいずれかの設定値に設定可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

遊技者にとって有利な有利状態（大当たり遊技状態）に制御可能な有利状態制御手段（CPU103）と、

前記有利状態（大当たり遊技状態）となることを示唆する予告演出（擬似連演出、カットイン予告演出、スーパーリーチ）を実行可能な予告演出制御手段（演出制御用CPU120）と、

設定に関する示唆を行う示唆演出（第3設定示唆演出、第4設定示唆演出）を実行可能な示唆演出制御手段（演出制御用CPU120）と、

第1表示（第1演出画像27TM100）を更新するとともに、前記第1表示とは異なる第2表示（第2演出画像27TM200）を更新する特定演出（分割演出）を実行可能な特定演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備える

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能な遊技機における遊技の興趣を向上させることができる。

【0008】

手段C3の遊技機は、

手段C2の遊技機であって、

前記予告演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記第1表示（第1演出画像27TM100）に対応する予告演出の態様と、前記第2表示（第2演出画像27TM200）に対応する予告演出の態様を異ならせることが可能である（擬似連演出の実行回数（2回と1回）、カットイン画像の態様（「大チャンス!!」と「チャンス!」）、及び、スーパーリーチ中に出現するキャラクタ（キャラクタBとキャラクタA））

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特定演出の興趣を一層向上させることができる。

【0009】

手段C4の遊技機は、

手段C2または手段C3の遊技機であって、

前記特定演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特定演出の終了に伴い、前記第1表示と前記第2表示のうちの一方の更新を終了させて他方の更新を継続させる（分割演出の終了後も、分割演出の終了直前の第1演出画像27TM100に表示されていた演出情報（味方キャラクタ27TM500及び敵キャラクタB（27TM510B）の画像、並びに、4個の星形のオブジェクト画像27TM550）と共通の演出情報が画面上に継続して表示される）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特定演出が終了した後も、第1表示と第2表示のうちの何れか一方の更新は継続されることにより、表示の更新が継続されることの興趣を遊技者に感じさせることができる。

【0010】

手段C5の遊技機は、

手段C2から手段C4のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出は、設定値に応じて特別表示（[ベル]、[ベル]、[ベル]のミニスロット図柄の組合せ）が表示される割合が異なる第1示唆演出（第1設定示唆演出）を含み、

前記示唆演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記第2表示（第2演出画像27TM200）に対応する第1示唆演出（第1設定示唆演出）を制限する

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第 1 示唆演出の実行に伴い遊技者が混乱してしまうことを防止することができる。

【0011】

手段 C 6 の遊技機は、

手段 C 2 から手段 C 5 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出は、特定の設定値（設定値が「6」）を示唆する第 2 示唆演出（第 3 設定示唆演出（設定 6 確定演出））を含み、

前記示唆演出制御手段（演出制御用 CPU 120）は、前記第 2 表示に対応する第 2 示唆演出（第 3 設定示唆演出（設定 6 確定演出））を制限する

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第 2 示唆演出の実行に伴い遊技者が混乱してしまうことを防止することができる。

【0012】

手段 C 7 の遊技機は、

手段 C 2 から手段 C 6 のいずれかに記載の遊技機であって、

可動体（可動体 27 T M 6 0 0）を動作させる可動体演出を実行可能な可動体演出制御手段（演出制御用 CPU 120）と、

操作を促す操作促進表示（操作促進表示 27 T M 3 5 0）を表示可能な操作促進表示手段（演出制御用 CPU 120）と、

操作部（押しボタン 31 B）を、操作を促す操作促進態様（点滅態様）とすることが可能な操作部制御手段（演出制御用 CPU 120）と、を備え、

前記操作促進表示手段（演出制御用 CPU 120）は、前記第 1 表示に対応した操作促進表示（図 10-17（9）に示す操作促進表示 27 T M 3 5 0）と、前記第 2 表示に対応した操作促進表示（図 10-16（6）に示す操作促進表示 27 T M 3 5 0）を表示可能であり、

前記操作部制御手段（演出制御用 CPU 120）は、前記特定演出が実行されているときには、前記操作部を前記操作促進態様としない（図 10-17（9）に示すように、分割演出が実行されている状態では、押しボタン 31 B は通常態様（消灯態様）のままとなっている）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第 1 表示と第 2 表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【0013】

手段 C 8 の遊技機は、

手段 C 2 から手段 C 7 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記特定演出が実行されていないときに動作可能であり、前記特定演出が実行されているときに動作しない演出装置を備える（分割演出を伴わない変動パターンである場合には、押しボタン 31 B の態様を変化させる装置を用いた演出の実行を決定可能であるが、分割演出を伴う変動パターンである場合には、押しボタン 31 B の態様を変化させる装置を用いた演出の実行を決定不能である）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第 1 表示と第 2 表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【0014】

手段 C 9 の遊技機は、

手段 C 2 から手段 C 8 のいずれかに記載の遊技機であって、

可動体（可動体 27 T M 6 0 0）を動作させる可動体演出を実行可能な可動体演出制御手段（演出制御用 CPU 120）と、

前記可動体演出に関連した関連情報（擬似連エフェクト画像 27 T M 3 0 0 A）を表示

10

20

30

40

50

可能な関連情報表示制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記可動体演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特定演出が実行されているときに前記可動体演出を制限し、

前記関連情報表示制御手段は、前記特定演出が実行されているときに前記関連情報を表示可能である（図10-16（4）に示すように、分割演出が実行されているときには、擬似連演出〔Y：強〕が実行されたことに対応して、擬似連エフェクト画像27TM300は表示されるものの可動体演出は実行されない）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第1表示と第2表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【0015】

手段C10の遊技機は、

手段C2から手段C9のいずれかに記載の遊技機であって、

右目用画像と左目用画像とを水平方向に交互に並べて表示する視差画像表示（立体画像）が可能な表示体（画像用液晶パネル）と、該表示体の前方に設けられ、遊技者の左目による前記右目用画像の視認を阻止するとともに遊技者の右目による前記左目用画像の視認を阻止するための視差形成体（レンチキュラシート）と、を有する画像表示手段（演出制御用CPU120）を備え、

前記画像表示手段（表示制御部123）は、前記特定演出が実行されているときには前記視差画像表示を制限する（分割演出が実行されているときには立体画像の表示をしない）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第1表示と第2表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【0016】

手段C11の遊技機は、

手段C2から手段C10のいずれかに記載の遊技機であって、

可変表示（変動表示）に対応する対応表示（保留表示、アクティブ表示）を表示可能な対応表示制御手段（演出制御用CPU120）と、

前記対応表示の表示態様を変化させる変化演出（第1変化演出）を実行可能な変化演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記対応表示制御手段（演出制御用CPU120）は、前記対応表示を前記第1表示および前記第2表示のいずれとも異なる領域（第1保留表示領域27TM011、アクティブ表示領域27TM031）に表示させ、

前記変化演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特定演出が実行されているときには、前記変化演出を制限する（分割演出が実行されているときに、保留表示及びアクティブ表示の表示態様を変化させないようにしている）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、遊技者を特定演出に注目させることができる。

【0017】

手段C12の遊技機は、

手段C2から手段C11のいずれかに記載の遊技機であって、

前記予告演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記予告演出として第1予告演出（1回の擬似連演出）と、前記第1予告演出よりも前記有利状態に制御される割合が高い第2予告演出（2回の擬似連演出）を実行可能であり、

前記特定演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特定演出（分割演出）の終了に伴い、前記第2表示（第2演出画像27TM200）の更新を終了させて前記第1表示（第1演出画像27TM100）の更新を継続し、

前記第1表示に対応して前記第2予告演出が実行される割合は、前記第2表示に対応して前記第2予告演出が実行される割合よりも高い（表示期間が短い第2演出画像27TM200よりも、表示期間が長い第1演出画像27TM100の方が、大当たり期待度が高い

10

20

30

40

50

演出情報が表示される割合が高い)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、遊技者は、第2予告演出が実行されている方が第1表示であり、特定演出の終了後もその更新が継続されるとの期待感を抱くようになり、特定演出の興趣を向上させることができる。

【0018】

手段C13の遊技機は、

手段C2から手段C12のいずれかに記載の遊技機であって、

可変表示パターン(変動パターン)に基づいて可変表示(変動表示)を実行する可変表示手段(CPU103)を備え、

前記特定演出制御手段(演出制御用CPU120)は、可変表示パターン(変動パターン)に対応した特定演出(分割演出)を実行可能であり、当該特定演出を終了させるタイミングを、当該可変表示パターンに対応した複数の終了タイミング(図10-8に示すように、TA1のタイミング及びTA2のタイミング)のうちの何れかの終了タイミングに設定する

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特定演出を伴う可変表示パターン毎に個別の演出データを記憶させておく必要がなくなり、演出データの記憶容量が過度に増大してしまうことを防止することができる。

【0019】

特開2010-200902号公報(図12)に示すように、遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能であり、設定変更前後の設定値に応じたキャラクタ画像を表示する遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報(図12)に記載されたような、複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能な遊技機に関しては、設定に関する示唆を行う演出が実行されたときに、遊技者が興趣を感じるようにすることが好ましい。手段A1～手段A12に係る発明、及び、手段B1～手段B12に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能な遊技機に関する演出の興趣を向上させることを目的とする。

【0020】

手段A1の遊技機は、

有利度が異なる複数の設定値(大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6)のうちのいずれかの設定値に設定可能な遊技機(パチンコ遊技機1)であって、

遊技者にとって有利な有利状態(大当たり遊技状態)に制御可能な有利状態制御手段(CPU103)と、

前記有利状態(大当たり遊技状態)となることを示唆する予告演出(擬似連演出、カットイン予告演出、スーパーリーチ)を実行可能な予告演出制御手段(演出制御用CPU120)と、

設定に関する示唆を行う示唆演出(第3設定示唆演出、第4設定示唆演出)を実行可能な示唆演出制御手段(演出制御用CPU120)と、

第1表示(第1演出画像27TM100)を更新するとともに、前記第1表示とは異なる第2表示(第2演出画像27TM200)を更新する特定演出(分割演出)を実行可能な特定演出制御手段(演出制御用CPU120)と、を備え、

前記予告演出制御手段(演出制御用CPU120)は、前記第1表示(第1演出画像27TM100)に対応する予告演出(変動開始時演出決定処理において決定された当該変動表示の表示結果を示唆する擬似連演出、カットイン予告演出、スーパーリーチ)と前記第2表示(第2演出画像27TM200)に対応する予告演出(ムービー中の画像として擬似連演出、カットイン予告演出、スーパーリーチ)を実行可能であり、

前記示唆演出制御手段(演出制御用CPU120)は、前記第2表示に対応する示唆演出を制限する(第2演出画像27TM200が表示されている第2演出画像表示領域27

10

20

30

40

50

T M 2 0 0 Aにおいては、変動パターンに対応した所定のムービーが再生されることになり、設定示唆演出は実行されない)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第2表示に対応する示唆演出を制限することにより、示唆演出が実行されたことに伴う遊技者の混乱を防止して、示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0021】

手段A2の遊技機は、

手段A1の遊技機であって、

前記予告演出制御手段(演出制御用CPU120)は、前記第1表示(第1演出画像27TM100)に対応する予告演出の態様と、前記第2表示(第2演出画像27TM200)に対応する予告演出の態様を異ならせることが可能である(擬似連演出の実行回数(2回と1回)、カットイン画像の態様(「大チャンス!!」と「チャンス!」)、及び、スーパーリーチ中に出現するキャラクタ(キャラクタBとキャラクタA))

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特定演出の興趣を一層向上させることができる。

【0022】

手段A3の遊技機は、

手段A1または手段A2の遊技機であって、

前記特定演出制御手段(演出制御用CPU120)は、前記特定演出の終了に伴い、前記第1表示と前記第2表示のうちの一方の更新を終了させて他方の更新を継続させる(分割演出の終了後も、分割演出の終了直前の第1演出画像27TM100に表示されていた演出情報(味方キャラクタ27TM500及び敵キャラクタB(27TM510B))の画像、並びに、4個の星形のオブジェクト画像27TM550)と共通の演出情報が画面上に継続して表示される)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特定演出が終了した後も、第1表示と第2表示のうちの何れか一方の更新は継続されることにより、表示の更新が継続されることの興趣を遊技者に感じさせることができる。

【0023】

手段A4の遊技機は、

手段A1から手段A3のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出は、設定値に応じて特別表示([ベル]、[ベル]、[ベル]のミニスロット図柄の組合せ)が表示される割合が異なる第1示唆演出(第1設定示唆演出)を含み、

前記示唆演出制御手段(演出制御用CPU120)は、前記第2表示(第2演出画像27TM200)に対応する第1示唆演出(第1設定示唆演出)を制限する

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第1示唆演出の実行に伴い遊技者が混乱してしまうことを防止することができる。

【0024】

手段A5の遊技機は、

手段A1から手段A4のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出は、特定の設定値(設定値が「6」)を示唆する第2示唆演出(第3設定示唆演出(設定6確定演出))を含み、

前記示唆演出制御手段(演出制御用CPU120)は、前記第2表示に対応する第2示唆演出(第3設定示唆演出(設定6確定演出))を制限する

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第2示唆演出の実行に伴い遊技者が混乱してしまうことを防止することができる。

【0025】

10

20

30

40

50

手段 A 6 の遊技機は、

手段 A 1 から手段 A 5 のいずれかに記載の遊技機であって、

可動体（可動体 2 7 T M 6 0 0）を動作させる可動体演出を実行可能な可動体演出制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）と、

操作を促す操作促進表示（操作促進表示 2 7 T M 3 5 0）を表示可能な操作促進表示手段（演出制御用 C P U 1 2 0）と、

操作部（プッシュボタン 3 1 B）を、操作を促す操作促進態様（点滅態様）とすることが可能な操作部制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）と、を備え、

前記操作促進表示手段（演出制御用 C P U 1 2 0）は、前記第 1 表示に対応した操作促進表示（図 1 0 - 1 7（9）に示す操作促進表示 2 7 T M 3 5 0）と、前記第 2 表示に対応した操作促進表示（図 1 0 - 1 6（6）に示す操作促進表示 2 7 T M 3 5 0）を表示可能であり、

10

前記操作部制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）は、前記特定演出が実行されているときには、前記操作部を前記操作促進態様としない（図 1 0 - 1 7（9）に示すように、分割演出が実行されている状態では、プッシュボタン 3 1 B は通常態様（消灯態様）のままとなっている）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第 1 表示と第 2 表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【 0 0 2 6 】

20

手段 A 7 の遊技機は、

手段 A 1 から手段 A 6 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記特定演出が実行されていないときに動作可能であり、前記特定演出が実行されているときに動作しない演出装置を備える（分割演出を伴わない変動パターンである場合には、プッシュボタン 3 1 B の態様を変化させる装置を用いた演出の実行を決定可能であるが、分割演出を伴う変動パターンである場合には、プッシュボタン 3 1 B の態様を変化させる装置を用いた演出の実行を決定不能である）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第 1 表示と第 2 表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

30

【 0 0 2 7 】

手段 A 8 の遊技機は、

手段 A 1 から手段 A 7 のいずれかに記載の遊技機であって、

可動体（可動体 2 7 T M 6 0 0）を動作させる可動体演出を実行可能な可動体演出制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）と、

前記可動体演出に関連した関連情報（擬似連エフェクト画像 2 7 T M 3 0 0 A）を表示可能な関連情報表示制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）と、を備え、

前記可動体演出制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）は、前記特定演出が実行されているときに前記可動体演出を制限し、

前記関連情報表示制御手段は、前記特定演出が実行されているときに前記関連情報を表示可能である（図 1 0 - 1 6（4）に示すように、分割演出が実行されているときには、擬似連演出〔Y：強〕が実行されたことに対応して、擬似連エフェクト画像 2 7 T M 3 0 0 は表示されるものの可動体演出は実行されない）

40

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第 1 表示と第 2 表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【 0 0 2 8 】

手段 A 9 の遊技機は、

手段 A 1 から手段 A 8 のいずれかに記載の遊技機であって、

右目用画像と左目用画像とを水平方向に交互に並べて表示する視差画像表示（立体画像

50

）が可能な表示体（画像用液晶パネル）と、該表示体の前方に設けられ、遊技者の左目による前記右目用画像の視認を阻止するとともに遊技者の右目による前記左目用画像の視認を阻止するための視差形成体（レンチキュラシート）と、を有する画像表示手段（演出制御用CPU120）を備え、

前記画像表示手段（表示制御部123）は、前記特定演出が実行されているときには前記視差画像表示を制限する（分割演出が実行されているときには立体画像の表示をしない）ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第1表示と第2表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【0029】

手段A10の遊技機は、

手段A1から手段A9のいずれかに記載の遊技機であって、

可変表示（変動表示）に対応する対応表示（保留表示、アクティブ表示）を表示可能な対応表示制御手段（演出制御用CPU120）と、

前記対応表示の表示態様を変化させる変化演出（第1変化演出）を実行可能な変化演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記対応表示制御手段（演出制御用CPU120）は、前記対応表示を前記第1表示および前記第2表示のいずれとも異なる領域（第1保留表示領域27TM011、アクティブ表示領域27TM031）に表示させ、

前記変化演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特定演出が実行されているときには、前記変化演出を制限する（分割演出が実行されているときに、保留表示及びアクティブ表示の表示態様を変化させないようにしている）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、遊技者を特定演出に注目させることができる。

【0030】

手段A11の遊技機は、

手段A1から手段A10のいずれかに記載の遊技機であって、

前記予告演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記予告演出として第1予告演出（1回の擬似連演出）と、前記第1予告演出よりも前記有利状態に制御される割合が高い第2予告演出（2回の擬似連演出）を実行可能であり、

前記特定演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特定演出（分割演出）の終了に伴い、前記第2表示（第2演出画像27TM200）の更新を終了させて前記第1表示（第1演出画像27TM100）の更新を継続し、

前記第1表示に対応して前記第2予告演出が実行される割合は、前記第2表示に対応して前記第2予告演出が実行される割合よりも高い（表示期間が短い第2演出画像27TM200よりも、表示期間が長い第1演出画像27TM100の方が、大当たり期待度が高い演出情報が表示される割合が高い）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、遊技者は、第2予告演出が実行されている方が第1表示であり、特定演出の終了後もその更新が継続されるとの期待感を抱くようになり、特定演出の興趣を向上させることができる。

【0031】

手段A12の遊技機は、

手段A1から手段A11のいずれかに記載の遊技機であって、

可変表示パターン（変動パターン）に基づいて可変表示（変動表示）を実行する可変表示手段（CPU103）を備え、

前記特定演出制御手段（演出制御用CPU120）は、可変表示パターン（変動パターン）に対応した特定演出（分割演出）を実行可能であり、当該特定演出を終了させるタイミングを、当該可変表示パターンに対応した複数の終了タイミング（図10-8に示すように、TA1のタイミング及びTA2のタイミング）のうちの何れかの終了タイミングに

10

20

30

40

50

設定する

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特定演出を伴う可変表示パターン毎に個別の演出データを記憶しておく必要がなくなり、演出データの記憶容量が過度に増大してしまうことを防止することができる。

【0032】

手段B1の遊技機は、

有利度が異なる複数の設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）のうちのいずれかの設定値に設定可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

遊技者にとって有利な有利状態（大当たり遊技状態）に制御可能な有利状態制御手段（CPU103）と、

前記有利状態（大当たり遊技状態）となることを示唆する予告演出（擬似連演出、カットイン予告演出、スーパーリーチ）を実行可能な予告演出制御手段（演出制御用CPU120）と、

設定に関する示唆を行う示唆演出（第5設定示唆演出）を実行可能な示唆演出制御手段（演出制御用CPU120）と、

第1表示（第1演出画像27TM100）を更新するとともに、前記第1表示とは異なる第2表示（第2演出画像27TM200）を更新する特定演出（分割演出）を実行可能な特定演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記予告演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記第1表示（第1演出画像27TM100）に対応する予告演出（変動開始時演出決定処理において決定された当該変動表示の表示結果を示唆する擬似連演出、カットイン予告演出、スーパーリーチ）と前記第2表示（第2演出画像27TM200）と前記第2表示に対応する予告演出（ムービー中の画像として擬似連演出、カットイン予告演出、スーパーリーチ）を実行可能であり、

前記示唆演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記第1表示に対応する示唆演出の態様と前記第2表示に対応する示唆演出の態様を異ならせることが可能である（第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出の実行割合（40%）は、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出の実行割合（20%）よりも高い）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0033】

手段B2の遊技機は、

手段B1の遊技機であって、

前記予告演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記第1表示（第1演出画像27TM100）に対応する予告演出の態様と、前記第2表示（第2演出画像27TM200）に対応する予告演出の態様を異ならせることが可能である（擬似連演出の実行回数（2回と1回）、カットイン画像の態様（「大チャンス!!」と「チャンス!」）、及び、スーパーリーチ中に出現するキャラクタ（キャラクタBとキャラクタA））

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特定演出の興趣を一層向上させることができる。

【0034】

手段B3の遊技機は、

手段B1または手段B2の遊技機であって、

前記特定演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特定演出の終了に伴い、前記第1表示と前記第2表示のうちの一方の更新を終了させて他方の更新を継続させる（分割演出の終了後も、分割演出の終了直前の第1演出画像27TM100に表示されていた演出情報（味方キャラクタ27TM500及び敵キャラクタB（27TM510B）の画像、並びに、4個の星形のオブジェクト画像27TM550）と共通の演出情報が画面上に継続して表示される）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特定演出が終了した後も、第1表示と第2表示のうちの何れか一方の更新は継続されることにより、表示の更新が継続されることの興趣を遊技者に感じさせることができる。

【0035】

手段B4の遊技機は、

手段B1から手段B3のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出は、設定値に応じて特別表示（「ベル」、「ベル」、「ベル」のミニスロット図柄の組合せ）が表示される割合が異なる第1示唆演出（第1設定示唆演出）を含み、

前記示唆演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記第2表示（第2演出画像27TM200）に対応する第1示唆演出（第1設定示唆演出）を制限する

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第1示唆演出の実行に伴い遊技者が混乱してしまうことを防止することができる。

【0036】

手段B5の遊技機は、

手段B1から手段B4のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出は、特定の設定値（設定値が「6」）を示唆する第2示唆演出（第3設定示唆演出（設定6確定演出））を含み、

前記示唆演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記第2表示に対応する第2示唆演出（第3設定示唆演出（設定6確定演出））を制限する

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第2示唆演出の実行に伴い遊技者が混乱してしまうことを防止することができる。

【0037】

手段B6の遊技機は、

手段B1から手段B5のいずれかに記載の遊技機であって、

可動体（可動体27TM600）を動作させる可動体演出を実行可能な可動体演出制御手段（演出制御用CPU120）と、

操作を促す操作促進表示（操作促進表示27TM350）を表示可能な操作促進表示手段（演出制御用CPU120）と、

操作部（押しボタン31B）を、操作を促す操作促進態様（点滅態様）とすることが可能な操作部制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記操作促進表示手段（演出制御用CPU120）は、前記第1表示に対応した操作促進表示（図10-17（9）に示す操作促進表示27TM350）と、前記第2表示に対応した操作促進表示（図10-16（6）に示す操作促進表示27TM350）を表示可能であり、

前記操作部制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特定演出が実行されているときには、前記操作部を前記操作促進態様としない（図10-17（9）に示すように、分割演出が実行されている状態では、押しボタン31Bは通常態様（消灯態様）のままとなっている）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第1表示と第2表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【0038】

手段B7の遊技機は、

手段B1から手段B6のいずれかに記載の遊技機であって、

前記特定演出が実行されていないときに動作可能であり、前記特定演出が実行されているときに動作しない演出装置を備える（分割演出を伴わない変動パターンである場合には、押しボタン31Bの態様を変化させる装置を用いた演出の実行を決定可能であるが、分割演出を伴う変動パターンである場合には、押しボタン31Bの態様を変化させ

10

20

30

40

50

る装置を用いた演出の実行を決定不能である)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第1表示と第2表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【0039】

手段B8の遊技機は、

手段B1から手段B7のいずれかに記載の遊技機であって、

可動体(可動体27TM600)を動作させる可動体演出を実行可能な可動体演出制御手段(演出制御用CPU120)と、

前記可動体演出に関連した関連情報(擬似連エフェクト画像27TM300A)を表示可能な関連情報表示制御手段(演出制御用CPU120)と、を備え、

前記可動体演出制御手段(演出制御用CPU120)は、前記特定演出が実行されているときに前記可動体演出を制限し、

前記関連情報表示制御手段は、前記特定演出が実行されているときに前記関連情報を表示可能である(図10-16(4))に示すように、分割演出が実行されているときには、擬似連演出[Y:強]が実行されたことに対応して、擬似連エフェクト画像27TM300は表示されるものの可動体演出は実行されない)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第1表示と第2表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【0040】

手段B9の遊技機は、

手段B1から手段B8のいずれかに記載の遊技機であって、

右目用画像と左目用画像とを水平方向に交互に並べて表示する視差画像表示(立体画像)が可能な表示体(画像用液晶パネル)と、該表示体の前方に設けられ、遊技者の左目による前記右目用画像の視認を阻止するとともに遊技者の右目による前記左目用画像の視認を阻止するための視差形成体(レンチキュラシート)と、を有する画像表示手段(演出制御用CPU120)を備え、

前記画像表示手段(表示制御部123)は、前記特定演出が実行されているときには前記視差画像表示を制限する(分割演出が実行されているときには立体画像の表示をしない)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第1表示と第2表示の何れに注目すべきかを遊技者が容易に把握できないようにすることができる。

【0041】

手段B10の遊技機は、

手段B1から手段B9のいずれかに記載の遊技機であって、

可変表示(変動表示)に対応する対応表示(保留表示、アクティブ表示)を表示可能な対応表示制御手段(演出制御用CPU120)と、

前記対応表示の表示態様を変化させる変化演出(第1変化演出)を実行可能な変化演出制御手段(演出制御用CPU120)と、を備え、

前記対応表示制御手段(演出制御用CPU120)は、前記対応表示を前記第1表示および前記第2表示のいずれとも異なる領域(第1保留表示領域27TM011、アクティブ表示領域27TM031)に表示させ、

前記変化演出制御手段(演出制御用CPU120)は、前記特定演出が実行されているときには、前記変化演出を制限する(分割演出が実行されているときに、保留表示及びアクティブ表示の表示態様を変化させないようにしている)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、遊技者を特定演出に注目させることができる。

【0042】

手段B11の遊技機は、

10

20

30

40

50

手段 B 1 から手段 B 1 0 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記予告演出制御手段（演出制御用 CPU 1 2 0）は、前記予告演出として第 1 予告演出（1 回の擬似連演出）と、前記第 1 予告演出よりも前記有利状態に制御される割合が高い第 2 予告演出（2 回の擬似連演出）を実行可能であり、

前記特定演出制御手段（演出制御用 CPU 1 2 0）は、前記特定演出（分割演出）の終了に伴い、前記第 2 表示（第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0）の更新を終了させて前記第 1 表示（第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0）の更新を継続し、

前記第 1 表示に対応して前記第 2 予告演出が実行される割合は、前記第 2 表示に対応して前記第 2 予告演出が実行される割合よりも高い（表示期間が短い第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 よりも、表示期間が長い第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 の方が、大当たり期待度が高い演出情報が表示される割合が高い）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、遊技者は、第 2 予告演出が実行されている方が第 1 表示であり、特定演出の終了後もその更新が継続されるとの期待感を抱くようになり、特定演出の興趣を向上させることができる。

【0043】

手段 B 1 2 の遊技機は、

手段 B 1 から手段 B 1 1 のいずれかに記載の遊技機であって、

可変表示パターン（変動パターン）に基づいて可変表示（変動表示）を実行する可変表示手段（CPU 1 0 3）を備え、

前記特定演出制御手段（演出制御用 CPU 1 2 0）は、可変表示パターン（変動パターン）に対応した特定演出（分割演出）を実行可能であり、当該特定演出を終了させるタイミングを、当該可変表示パターンに対応した複数の終了タイミング（図 1 0 - 8 に示すように、T A 1 のタイミング及び T A 2 のタイミング）のうちの何れかの終了タイミングに設定する

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特定演出を伴う可変表示パターン毎に個別の演出データを記憶させておく必要がなくなり、演出データの記憶容量が過度に増大してしまうことを防止することができる。

【0044】

また、後述する発明を実施するための形態には、以下の手段 C 1 4 から手段 C 1 8 の遊技機に係る発明が含まれる。従来より、遊技機において、特開 2 0 1 7 - 1 3 1 2 7 7 号公報に示されているような、有利状態に制御されることを示唆する示唆演出と、示唆演出が実行される前に示唆演出が実行されることを予告する準備演出とを実行可能に構成されたものがあった。しかしながら、このような遊技機にあっては、期待度を高める演出の実行中に他の演出が実行されることで、却って興趣が低下してしまうおそれがあり、この点に鑑み、好適に興趣を維持することができる遊技機の提供が求められている。

【0045】

手段 C 1 4 の遊技機は、

遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能な遊技機であって、有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、保留表示予告演出やタイマ演出、チャンス目予告演出など）を実行可能な示唆演出実行手段と、示唆演出が実行される前に示唆演出が実行されることを予告する準備演出（例えば、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出など）を実行可能な準備演出実行手段とを備え、示唆演出は、第 1 示唆演出（例えば、保留表示予告演出）と、該第 1 示唆演出とは異なる第 2 示唆演出（例えば、タイマ演出）と、該第 1 示唆演出および該第 2 示唆演出とは異なる第 3 示唆演出（例えば、チャンス目予告演出）とを含み、準備演出は、第 1 示唆演出が実行されることを予告する第 1 準備演出（例えば、保留表示予告準備演出）と、第 2 示唆演出が実行されることを予告する第 2 準備演出（例えば、タイマ準備演出など）とを含み、第 3 示唆演出、第 1 準備演出および第 2 準備演出は、同一期間に並列して実行可能であり（図 1 5 - 1 1（A 1

）、（Ａ２）参照）、第１準備演出および第２準備演出のいずれかが実行されているときよりも、第１準備演出および第２準備演出のいずれも実行されていないときの方が、第３示唆演出が実行されやすい（例えば、図１５－１０参照）ことを特徴としている。

そのような構成によれば、好適に興味を維持することができる。

【００４６】

手段Ｃ１５の遊技機は、

手段Ｃ１４に記載の遊技機であって、

第１準備演出と第２準備演出とは、実行される期間が異なる（例えば、保留表示予告準備演出（第２演出態様）の実行が終了した後に、タイマ準備演出が実行される。図１５－７（Ｄ）参照）ようにしてもよい。

そのような構成によれば、好適に興味を維持することができる。

【００４７】

手段Ｃ１６の遊技機は、

手段Ｃ１４または手段Ｃ１５に記載の遊技機であって、

第１示唆演出は、複数種類の演出態様（例えば、第１演出態様（青色）、第２演出態様（緑色）、第３演出態様（赤色）など。図１５－３（Ａ）参照）のうちのいずれかにより実行され、第１準備演出は、複数種類の演出態様（例えば、第１演出態様（エフェクト小）、第２演出態様（エフェクト大）など。図１５－３（Ｂ）参照）のうちのいずれかにより実行され、いずれの演出態様の第１準備演出が実行されるかに応じて、実行可能な第１示唆演出の演出態様が異なる（例えば、第１演出態様の保留表示予告準備演出が実行された場合には、第１～第３演出態様のうちのいずれかにより保留表示予告演出が実行され、第２演出態様の保留表示予告準備演出が実行された場合には、第２～第３演出態様のうちのいずれかにより保留表示予告演出が実行される）ようにしてもよい。

そのような構成によれば、好適に興味を維持することができる。

【００４８】

手段Ｃ１７の遊技機は、

手段Ｃ１４から手段Ｃ１６のいずれかに記載の遊技機であって、

示唆演出は、対応する準備演出が実行されることなく実行可能であり（例えば、保留表示予告演出やタイマ演出を実行すると決定したときに、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出が実行なしと決定する場合がある。図１５－３（Ｂ）、図１５－４（Ｂ）参照）、対応しない準備演出が実行されたか否かに応じて、実行されやすさが異なる（例えば、図１５－３に示すように、入賞時判定結果が大当りの場合には、保留表示予告演出および保留表示予告準備演出を実行すると決定されやすい。また、図１５－４に示すように、タイマ演出も実行すると決定されやすい。ただし、タイマ準備演出を実行しないと決定されることがある。すると、タイマ演出に対応しない保留表示予告準備演出が実行されたときの方が、保留表示予告準備演出が実行されないときよりも、タイマ演出が実行されやすくなる）ようにしてもよい。

そのような構成によれば、好適に興味を維持することができる。

【００４９】

手段Ｃ１８の遊技機は、

手段Ｃ１４から手段Ｃ１７のいずれかに記載の遊技機であって、

準備演出が実行されたか否かに応じて、いずれの演出態様の示唆演出が実行されるかの割合が異なる（例えば、保留表示予告演出やタイマ準備演出の演出態様を第２演出態様と決定した場合には、第１演出態様と決定した場合に比べて、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出を実行すると決定する割合が高い。図１５－３（Ｂ）、図１５－４（Ｂ）参照）ようにしてもよい。

そのような構成によれば、好適に興味を維持することができる。

【図面の簡単な説明】

【００５０】

【図１】この実施の形態におけるパチンコ遊技機の正面図である。

10

20

30

40

50

- 【図 2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。
- 【図 3】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 5】第 1 特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 6】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 7】演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-1】パチンコ遊技機の回路構成例を示すブロック図である。
- 【図 8-2】払出制御基板の回路構成を示すブロック図である。
- 【図 8-3】パチンコ遊技機を示す背面図である。
- 【図 8-4】表示結果判定テーブルを示す説明図である。
- 【図 8-5】(1)～(3)は、設定示唆演出の演出態様を示す説明図、(4)は、設定示唆演出の演出態様を決定するためのテーブルを示す説明図である。
- 【図 8-6】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-7】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-8】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-9】セキュリティ信号の出力期間を示すタイミング図である。
- 【図 8-10】電源投入時に設定変更中フラグがセットされているときの報知例を示す説明図である。
- 【図 8-11】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-12】(1)は、設定値確定前に電源断が発生した場合の制御、(2)は、設定値確定後に電源断が発生した場合の制御を示す説明図である。
- 【図 9-1】画像表示装置に表示される各表示情報の具体例を示す説明図である。
- 【図 9-2】始動入賞時に実行される変化演出決定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 9-3】(A)は、アクティブ表示の最終表示態様を決定するためのテーブルを示す説明図であり、(B)は、アクティブ表示の変化パターンを決定するためのテーブルを示す説明図である。
- 【図 9-4】保留表示の変化パターンを決定するためのテーブルを示す説明図である。
- 【図 9-5】変動開始時に実行される演出決定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 9-6】(G)は、第 1 設定示唆の実行有無を決定するためのテーブルを示す説明図であり、(H1)及び(H2)は、第 1 設定示唆演出を実行する場合に使用する、期待度予告演出の実行有無を決定するためのテーブルを示す説明図であり、(I1)及び(I2)は、第 1 設定示唆演出を実行しない場合に使用する、期待度予告演出の実行有無を決定するためのテーブルを示す説明図であり、(J)は、第 2 変化演出の演出態様を決定するためのテーブルを示す説明図である。
- 【図 9-7】(K)は、第 1 設定示唆演出を実行する場合に使用する、期待度予告演出の成立役決定テーブルを示す説明図であり、(L)は、第 1 設定示唆演出を実行しない場合に使用する、期待度予告演出の成立役決定テーブルを示す説明図であり、(M)は第 2 設定示唆演出の実行有無を決定するためのテーブルを示す説明図である。
- 【図 9-8】各種演出の実行タイミングを示すタイムチャートである。
- 【図 9-9】各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図 9-10】各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図 9-11】ミニリール情報の具体例を示す説明図である。
- 【図 10-1】分割演出における演出情報の具体例を示す説明図である。
- 【図 10-2】分割演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図 10-3】はずれ用の変動パターン判定テーブルを示す説明図である。
- 【図 10-4】大当たり用の変動パターン判定テーブルを示す説明図である。
- 【図 10-5】始動入賞時演出決定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 10-6】ムービー A に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図 10-7】ムービー B に関する演出態様の具体例を示す説明図である。

10

20

30

40

50

- 【図10-8】各ムービーの再生終了タイミングを示すタイムチャートである。
- 【図10-9】擬似連演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-10】第1実施形態における変動開始時演出決定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-11】(A)は第3設定示唆演出の実行有無決定テーブルを示す説明図であり、(B)は第4設定示唆演出の実行有無決定テーブルを示す説明図であり、(C)はカットイン予告演出の実行有無決定テーブルを示す説明図である。
- 【図10-12】(A)は第3設定示唆演出に関する演出態様の具体例を示す説明図であり、(B)は第4設定示唆演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-13】カットイン予告演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-14】第1実施形態における各種演出の実行タイミングを示すタイムチャートである。
- 【図10-15】第1実施形態における各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-16】第1実施形態における各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-17】第1実施形態における各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-18】第1実施形態における各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-19】第1実施形態における各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-20】第2実施形態における変動開始時演出決定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-21】第5設定示唆演出の実行有無決定テーブルを示す説明図である。
- 【図10-22】第5設定示唆演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-23】第2実施形態における各種演出の実行タイミングを示すタイムチャートである。
- 【図10-24】第2実施形態における各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図10-25】表示制御部を示すブロック図である。
- 【図10-26】三次元画像処理の描画方法を示す説明図である。
- 【図10-27】演出画像とオブジェクトとの合成処理の具体例を示す説明図である。
- 【図10-28】合成処理後のオブジェクトを回転させる変化の具体例を示す説明図である。
- 【図10-29】仮想三次元空間における視点とオブジェクトとの関係を示す説明図である。
- 【図10-30】仮想スクリーンに投影される画像と背景画像の表示態様を示す画面図である。
- 【図11】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。
- 【図12】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図13】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図14-1】パチンコ遊技機の正面図である。
- 【図14-2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。
- 【図14-3】パチンコ遊技機の背面斜視図である。
- 【図14-4】(A)、(B)は、演出制御コマンドを例示する図である。
- 【図14-5】各乱数を示す説明図である。
- 【図14-6】変動パターンを例示する図である。
- 【図14-7】表示結果判定テーブルを示す説明図である。
- 【図14-8】大当たり種別判定テーブルを示す説明図である。

10

20

30

40

50

【図14-9】各種大当りの内容を示す説明図である。

【図14-10】(A)は大当り用変動パターン判定テーブル(大当りA用)を示す説明図であり、(B)は大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)を示す説明図であり、(C)は小当り用変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図14-11】はずれ用変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図14-12】(A)は、表示モニタの正面図、(B)は、表示モニタの表示態様を示す図、(C)は表示内容の説明図である。

【図14-13】遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

【図14-14】(A)は、演出制御用データ保持エリアの構成例を示すブロック図であり、(B)は、始動入賞時受信コマンドバッファの構成を示す図である。

【図14-15】始動入賞判定処理を示すフローチャートである。

【図14-16】入賞時乱数値判定処理を示すフローチャートである。

【図14-17】演出制御プロセス処理の一部を示すフローチャートである。

【図14-18】先読予告設定処理を示すフローチャートである。

【図14-19】先読予告演出の表示パターンの決定割合を示す図である。

【図14-20】可変表示開始設定処理を示すフローチャートである。

【図14-21】後部可変表示中示唆演出決定処理を示すフローチャートである。

【図14-22】(A)は後部可変表示中示唆演出として実行する演出の決定割合を示す図であり、(B)は後部可変表示中示唆演出として実行する大当り示唆演出と設定示唆演出の演出パターンを示す図である。

【図14-23】大当り示唆演出の演出パターンの決定割合を示す図である。

【図14-24】設定示唆演出の演出パターンの決定割合を示す図である。

【図14-25】前部可変表示中示唆演出決定処理を示すフローチャートである。

【図14-26】(A)は大当り示唆演出の実行が決定されている場合に前部可変表示中示唆演出として実行する演出の決定割合を示す図であり、(B)は設定示唆演出の実行が決定されている場合に前部可変表示中示唆演出として実行する演出の決定割合を示す図であり、(C)は前部可変表示中示唆演出として実行するキャラクタ演出とタイマ演出の演出パターンを示す図であり、(D)はキャラクタ演出とタイマ演出の大当り期待度及び設定示唆演出の実行期待度を示す図である。

【図14-27】(A)はキャラクタ演出の演出パターンの決定割合を示す図であり、(B)はタイマ演出の演出パターンの決定割合を示す図であり、(C)はタイマ演出の各演出パターンの内容を示す図である。

【図14-28】スーパーリーチの可変表示における演出実行期間を示す図である。

【図14-29】スーパーリーチの可変表示における演出態様を示す図である。

【図14-30】スーパーリーチの可変表示における演出態様を示す図である。

【図14-31】スーパーリーチの可変表示における演出態様を示す図である。

【図14-32】変形例におけるキャラクタ演出とタイマ演出の前部可変表示中示唆演出としての実行決定割合と設定示唆演出の実行期待度を示す図である。

【図14-33】変形例における保留記憶表示と演出画像との表示態様を示す図である。

【図14-34】変形例におけるノーマルリーチ、短縮なし非リーチ、短縮非リーチの可変表示での設定示唆演出の実行期間を示す図である。

【図15-1】演出制御プロセス処理の一部を示すフローチャートである。

【図15-2】先読予告設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図15-3】保留表示予告演出決定テーブルおよび保留表示予告準備演出決定テーブルの一例を示す説明図である。

【図15-4】タイマ演出決定テーブルおよびタイマ予告準備演出決定テーブルの一例を示す説明図である。

【図15-5】チャンス目予告演出決定テーブルの一例を示す説明図である。

【図15-6】先読予告実行処理の一例を示すフローチャートである。

【図15-7】保留表示予告演出(準備演出)およびタイマ演出(準備演出)の実行タイ

10

20

30

40

50

ミングの一例を示す説明図である。

【図 15-8】 保留表示予告準備演出およびタイマ準備演出の演出態様を示す説明図である。

【図 15-9】 チャンス目予告設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図 15-10】 チャンス目予告実行可否決定テーブルの一例を示す説明図である。

【図 15-11】 保留表示予告準備演出およびチャンス目予告演出の演出態様を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0051】

(基本説明)

まず、パチンコ遊技機 1 の基本的な構成及び制御（一般的なパチンコ遊技機の構成及び制御でもある。）について説明する。

【0052】

(パチンコ遊技機 1 の構成等)

図 1 は、パチンコ遊技機 1 の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機（遊技機） 1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤） 2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠） 3 とから構成されている。遊技盤 2 には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

【0053】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の右側方）には、複数種類の特別識別情報としての特別図柄（特図ともいう）の可変表示（特図ゲームともいう）を行う第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B が設けられている。これらは、それぞれ、7 セグメントの LED などからなる。特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。特別図柄には、LED を全て消灯したパターンが含まれてもよい。

【0054】

なお、特別図柄の「可変表示」とは、例えば、複数種類の特別図柄を変動可能に表示することである（後述の他の図柄についても同じ）。変動としては、複数の図柄の更新表示、複数の図柄のスクロール表示、1 以上の図柄の変形、1 以上の図柄の拡大／縮小などがある。特別図柄や後述の普通図柄の変動では、複数種類の特別図柄又は普通図柄が更新表示される。後述の飾り図柄の変動では、複数種類の飾り図柄がスクロール表示又は更新表示されたり、1 以上の飾り図柄が変形や拡大／縮小されたりする。なお、変動には、ある図柄を点滅表示する態様も含まれる。可変表示の最後には、表示結果として所定の特別図柄が停止表示（導出又は導出表示などともいう）される（後述の他の図柄の可変表示についても同じ）。なお、可変表示を変動表示、変動と表現する場合がある。

【0055】

なお、第 1 特別図柄表示装置 4 A において可変表示される特別図柄を「第 1 特図」ともいい、第 2 特別図柄表示装置 4 B において可変表示される特別図柄を「第 2 特図」ともいう。また、第 1 特図を用いた特図ゲームを「第 1 特図ゲーム」といい、第 2 特図を用いた特図ゲームを「第 2 特図ゲーム」ともいう。なお、特別図柄の可変表示を行う特別図柄表示装置は 1 種類であってもよい。

【0056】

また、第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B の下方には、遊技領域の右方を狙って発射操作を行う右打ち操作を促すための右打ち表示器 26 が設けられている。なお、右打ち表示器 26 は、例えば、LED によって構成され、主基板 11 に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ 100（具体的には、CPU 103）によって点灯制御される（図 2 参照）。

【0057】

遊技盤 2 における遊技領域の中央付近には画像表示装置 5 が設けられている。画像表示

10

20

30

40

50

装置 5 は、例えば L C D（液晶表示装置）や有機 E L（Electro Luminescence）等から構成され、各種の演出画像を表示する。画像表示装置 5 は、プロジェクタ及びスクリーンから構成されていてもよい。画像表示装置 5 には、各種の演出画像が表示される。

【 0 0 5 8 】

例えば、画像表示装置 5 の画面上では、第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄（数字などを示す図柄など）の可変表示が行われる。ここでは、第 1 特図ゲーム又は第 2 特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において飾り図柄が可変表示（例えば上下方向のスクロール表示や更新表示）される。なお、同期して実行される特図ゲーム及び飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

10

【 0 0 5 9 】

また、例えば、画像表示装置 5 の画面上には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示を表示するための表示エリアが設けられている。本例では、第 1 特図の可変表示に対応する保留表示を表示するための第 1 保留表示領域 5 A と、第 2 特図の可変表示に対応する保留表示を表示するための第 2 保留表示領域 5 B とが設けられている。なお、画像表示装置 5 の画面上には、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示を表示するための表示エリアが設けられていてもよい。保留表示及びアクティブ表示を総称して可変表示に対応する可変表示対応表示ともいう。

【 0 0 6 0 】

また、画像表示装置 5 の右方には、右打ち操作を促すための右打ち報知用 L E D 3 7 が設けられている。なお、右打ち報知用 L E D 3 7 は、演出制御基板 1 2 に搭載された演出制御用 C P U 1 2 0 によって点灯制御される（図 2 参照）。

20

【 0 0 6 1 】

保留されている可変表示の数は保留記憶数ともいう。第 1 特図ゲームに対応する保留記憶数を第 1 保留記憶数、第 2 特図ゲームに対応する保留記憶数を第 2 保留記憶数ともいう。また、第 1 保留記憶数と第 2 保留記憶数との合計を合計保留記憶数ともいう。

【 0 0 6 2 】

また、遊技盤 2 の所定位置には、複数の L E D を含んで構成された第 1 保留表示器 2 5 A と第 2 保留表示器 2 5 B とが設けられ、第 1 保留表示器 2 5 A は、L E D の点灯個数によって、第 1 保留記憶数を表示し、第 2 保留表示器 2 5 B は、L E D の点灯個数によって、第 2 保留記憶数を表示する。

30

【 0 0 6 3 】

画像表示装置 5 の下方には、第 1 始動入賞口を有する入賞球装置 6 A が設けられている。第 1 始動入賞口に入賞した遊技球は、遊技盤 2 の背面に導かれ、第 1 始動口スイッチ 2 2 A によって検出される。第 1 始動口スイッチ 2 2 A によって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（1 個）の遊技球が賞球として払い出される。

【 0 0 6 4 】

また、第 1 始動入賞口の右方には、釘の列 1 9 が設けられており、遊技領域の右方から流下した遊技球が第 1 始動入賞口が設けられた領域に進入しないように構成されている。このように、遊技領域の右方から流下した遊技球が進入することを防止する釘の列 1 9 が設けられていることによって、遊技領域の左方を狙って遊技球を発射操作（いわゆる左打ち操作）した場合にのみ第 1 始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成されている。

40

【 0 0 6 5 】

なお、本例では、釘の列 1 9 が設けられていることにより左打ち操作した場合にのみ第 1 始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成される場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、第 1 始動入賞口が遊技領域の左方に設けられていることによって左打ち操作した場合にのみ第 1 始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成してもよいし、第 1 始動入賞口が遊技領域の左方に設けられているとともに釘の列 1 9 も設けることによって左打ち操作した場合にのみ第 1 始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成してもよい。

【 0 0 6 6 】

50

画像表示装置 5 の右方には、通過ゲート 4 1 が設けられている。通過ゲート 4 1 を通過した遊技球は、ゲートスイッチ 2 1 によって検出される。

【 0 0 6 7 】

通過ゲート 4 1 の下方には、大入賞口を形成する特別可変入賞球装置 7 が設けられている。特別可変入賞球装置 7 は、やや傾斜した状態で左右方向に延在し、遊技球が流下する流路の底面として形成される板状の底面部材を、前後方向に進退移動させることにより、底面部材の下方に位置する大入賞口に遊技球が入賞可能な開状態（開放状態ともいう）と遊技球が入賞不能な閉状態（閉鎖状態ともいう）とに変化させる。特別可変入賞球装置 7 は、第 1 特別図柄表示装置 4 A または第 2 特別図柄表示装置 4 B に特定表示結果（大当り図柄）が導出表示されたときに生起する大当り遊技状態において、底面部材を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材を後方に向けて後退移動させ、入賞領域となる大入賞口を開状態とする開放制御を実行する。

10

【 0 0 6 8 】

特別可変入賞球装置 7 の下方には、小当り用の特殊入賞口を形成する特殊可変入賞球装置 1 7 と、第 2 始動入賞口を有する可変入賞球装置 6 B とが設けられており、図 1 に示すように、左側に特殊可変入賞球装置 1 7 が配置され、その右側に隣り合うように可変入賞球装置 6 B が配置されている。これら特殊可変入賞球装置 1 7 および可変入賞球装置 6 B は、やや傾斜した状態で左右方向に延在し、遊技球が流下する流路の底面として形成される板状の底面部材を、前後方向に進退移動させることにより、底面部材の下方に位置する特殊入賞口や第 2 始動入賞口に遊技球が入賞可能な開状態（開放状態ともいう）と遊技球が入賞不能な閉状態（閉鎖状態ともいう）とに変化させる。特殊可変入賞球装置 1 7 は、第 1 特別図柄表示装置 4 A または第 2 特別図柄表示装置 4 B に所定表示結果（小当り図柄）が導出表示されたときに生起する小当り遊技状態において、底面部材を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材を後方に向けて後退移動させ、入賞領域となる特殊入賞口を開状態とする開放制御を実行する。また、可変入賞球装置 6 B は、普通図柄表示器 2 0 に当り図柄が導出表示されたときに、底面部材を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材を後方に向けて後退移動させ、入賞領域となる第 2 始動入賞口を開状態とする開放制御を実行する。

20

【 0 0 6 9 】

なお、本例では、特別可変入賞球装置 7 と特殊可変入賞球装置 1 7 と可変入賞球装置 6 B とは、同様の構造を有するように形成されている。また、図 1 に示すように、特別可変入賞球装置 7 は底面部材が左上から右下に向けてやや傾斜する態様で形成されているので、特別可変入賞球装置 7 上に落下した遊技球は、特別可変入賞球装置 7 が閉状態であれば特別可変入賞球装置 7 上を左上から右下に向けて移動して行き、その下の可変入賞球装置 6 B 上に落下する。

30

【 0 0 7 0 】

また、本例では、可変入賞球装置 6 B と比較して特殊可変入賞球装置 1 7 の方が若干大きい。また、図 1 に示すように、特殊可変入賞球装置 1 7 および可変入賞球装置 6 B は底面部材が右上から左下に向けてやや傾斜する態様で形成されているので、特殊可変入賞球装置 1 7 や可変入賞球装置 6 B 上の遊技球は、特殊可変入賞球装置 1 7 や可変入賞球装置 6 B が閉状態であれば特殊可変入賞球装置 1 7 や可変入賞球装置 6 B 上を右上から左下に向けて移動して行く。また、図 1 に示すように、特殊可変入賞球装置 1 7 と可変入賞球装置 6 B とは隣り合うように配置されているので、特別可変入賞球装置 7 に入賞することなく可変入賞球装置 6 B 上に落下した遊技球は、可変入賞球装置 6 B の底面部材が後退移動されて第 2 始動入賞口が開状態となっていれば、遊技球は第 2 始動入賞口に入賞し、特殊可変入賞球装置 1 7 の方には遊技球は流れて行かない。一方、第 2 始動入賞口が開状態となっていなければ、遊技球は可変入賞球装置 6 B の底面部材の上を移動して特殊可変入賞球装置 1 7 の方に導かれる。この際に特殊可変入賞球装置 1 7 の底面部材が後退移動されて特殊入賞口が開状態となっていれば、遊技球は特殊入賞口に入賞する。さらに、特殊入賞口も開状態となっていなければ、遊技球は特殊可変入賞球装置 1 7 の底面部材の上を移

40

50

動して、そのままアウト口の方へ落下することになる。

【0071】

また、本例では、特別可変入賞球装置7、特殊可変入賞球装置17および可変入賞球装置6Bには、底面部材上を流下する遊技球の流下速度を低下させる複数の規制片が形成されている。本例では、特別可変入賞球装置7、特殊可変入賞球装置17および可変入賞球装置6Bにおいて規制片が設けられていることによって、左上から右下方向または右上から左下方向に向けて流下する遊技球を前後方向成分の動きをもって蛇行するように、遊技球の流下方向を変更させて、その流下にかかる時間を、規制片がない場合よりも遅延させる。

【0072】

なお、本例では、図1に示すように、特殊可変入賞球装置17が左側に配置され、可変入賞球装置6Bが右側に配置されているのであるが、特殊可変入賞球装置17および可変入賞球装置6Bの底面部材が右上方から左下方に緩やかに傾斜するように形成され、底面部材が後退しておらず閉状態である場合には可変入賞球装置6Bの方から特殊可変入賞球装置17の方に向かって遊技球が流れるように構成されているので、この意味で、可変入賞球装置6Bの方が上流側に設けられ、特殊可変入賞球装置17の方が下流側に設けられているといえる。

【0073】

大入賞口内には、大入賞口内に入賞した遊技球を検出可能なスイッチ（第1カウントスイッチ23）が設けられている。第1カウントスイッチ23によって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（例えば15個）の遊技球が賞球として払い出される。従って、特別可変入賞球装置7が開放制御されて大入賞口が開状態となれば、遊技者にとって有利な状態となる。その一方で、特別可変入賞球装置7が閉鎖制御されて大入賞口が閉状態となれば、大入賞口に遊技球を通過（進入）させて賞球を得ることができないため、遊技者にとって不利な状態となる。

【0074】

特殊入賞口内には、特殊入賞口内に入賞した遊技球を検出可能なスイッチ（第2カウントスイッチ24）が設けられている。第2カウントスイッチ24によって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（例えば10個）の遊技球が賞球として払い出される。ここで、特殊可変入賞球装置17において開状態となった特殊入賞口を遊技球が通過（進入）したときには、大入賞口に遊技球が入賞したときと比較すると賞球の数が少ないものの、例えば第1始動入賞口1や第2始動入賞口といった、他の入賞口を遊技球が通過（進入）したときよりも多くの賞球が払い出されるようになっている。従って、特殊可変入賞球装置17が開放制御されて特殊入賞口が開状態となれば、遊技者にとって有利な状態となる。その一方で、特殊可変入賞球装置17が閉鎖制御されて特殊入賞口が閉状態となれば、特殊入賞口に遊技球を通過（進入）させて賞球を得ることができないため、遊技者にとって不利な状態となる。

【0075】

また、第2始動入賞口内には、第2始動入賞口内に入賞した遊技球を検出可能な第2始動口スイッチ22Bが設けられている。第2始動口スイッチ22Bによって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（1個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0076】

以下、第1始動入賞口と第2始動入賞口とを総称して始動入賞口または始動口ということがある。

【0077】

なお、このパチンコ遊技機1では、通過ゲート41、特別可変入賞球装置7（大入賞口）、可変入賞球装置6B（第2始動入賞口）、および特殊可変入賞球装置17（特殊入賞口）が遊技領域の右方に設けられているので、大当たり遊技中やKT状態（いわゆる小当たりタイム）中である場合には、遊技者は遊技領域の右方を狙って発射操作（いわゆる右打ち

10

20

30

40

50

操作)を行う。

【0078】

遊技盤2の所定位置(図1に示す例では、遊技領域の左右下方4箇所)には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる一般入賞口10が設けられる。この場合には、一般入賞口10のいずれかに進入したときには、所定個数(例えば10個)の遊技球が賞球として払い出される。

【0079】

一般入賞口10を含む各入賞口に遊技球が進入することを「入賞」ともいう。特に、始動口(第1始動入賞口、第2始動入賞口始動口)への入賞を始動入賞ともいう。

【0080】

遊技盤2の所定位置(図1に示す例では、遊技領域の左側方)には、普通図柄表示器20が設けられている。一例として、普通図柄表示器20は、7セグメントのLEDなどからなり、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行う。普通図柄は、「0」～「9」を示す数字や「-」などの点灯パターンなどにより表される。普通図柄には、LEDを全て消灯したパターンが含まれてもよい。このような普通図柄の可変表示は、普図ゲームともいう。

【0081】

普通図柄表示器20の上方には、普図保留表示器25Cが設けられている。普図保留表示器25Cは、例えば4個のLEDを含んで構成され、実行が保留されている普図ゲームの数である普図保留記憶数をLEDの点灯個数により表示する。

【0082】

なお、このパチンコ遊技機1では、通過ゲート41を遊技球が通過したことにもとづいて普通図柄の変動表示が実行されることから、通過ゲート41は普通始動領域としての役割を担っているのであるが、大当り図柄が導出表示された場合にも通過ゲート41を遊技球が通過したことにもとづいて大当り遊技状態に移行するので、通過ゲート41は作動領域としての役割も担っている。従って、通過ゲート41は、普通始動領域と作動領域との両方の役割を担う兼用ゲートとして構成されている。

【0083】

遊技盤2の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車及び多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

【0084】

遊技機用枠3の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ8L、8Rが設けられており、さらに遊技領域周辺部には、遊技効果用の枠LED9が設けられている。

【0085】

遊技盤2の所定位置(図1では図示略)には、演出に応じて動作する可動体32が設けられている。

【0086】

遊技機用枠3の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドル(操作ノブ)30が設けられている。

【0087】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持(貯留)する打球供給皿(上皿)が設けられている。上皿の下方には、上皿満タン時に賞球が払い出される打球供給皿(下皿)が設けられている。

【0088】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ31Aが取り付けられている。スティックコントローラ31

10

20

30

40

50

Aには、遊技者が押下操作可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントローラ31Aに対する操作は、コントローラセンサユニット35A（図2参照）により検出される。

【0089】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、遊技者が押下操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン31Bが設けられている。プッシュボタン31Bに対する操作は、プッシュセンサ35B（図2参照）により検出される。

【0090】

パチンコ遊技機1では、遊技者の動作（操作等）を検出する検出手段として、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bが設けられるが、これら以外の検出手段が設けられていてもよい。

【0091】

（遊技の進行の概略）

このパチンコ遊技機1では、遊技状態が通常状態である場合には、遊技者は遊技領域の左方を狙って発射操作（いわゆる左打ち操作）を行うのが有利である。パチンコ遊技機1が備える打球操作ハンドル30への遊技者による回転操作により、左打ち操作を行い、入賞球装置6Aに形成された第1始動入賞口に遊技球が進入すると、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲームが開始される。

【0092】

なお、特図ゲームの実行中の期間や、後述する大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御されている期間に、遊技球が始動入賞口へ進入（入賞）した場合（始動入賞が発生したが当該始動入賞に基づく特図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該進入に基づく特図ゲームは所定の上限数（例えば4）までその実行が保留される。

【0093】

第1特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄、例えば「7」、後述の大当り種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当り」となる。また、大当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「-」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。なお、第1特図ゲームであっても、極低い割合で小当り図柄が停止表示され、「小当り」となる場合があるように構成してもよい。

【0094】

第1特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技球が通過ゲート41を通過したことを条件として、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。

【0095】

大当り遊技状態では、特別可変入賞球装置7により形成される大入賞口が所定の態様で開放状態となる。当該開放状態は、所定期間（例えば29秒間や1.8秒間）の経過タイミングと、大入賞口に進入した遊技球の数が所定個数（例えば9個）に達するまでのタイミングと、のうちのいずれか早いタイミングまで継続される。前記所定期間は、1ラウンドにおいて大入賞口を開放することができる上限期間であり、以下、開放上限期間ともいう。このように大入賞口が開放状態となる1のサイクルをラウンド（ラウンド遊技）という。大当り遊技状態では、当該ラウンドが所定の上限回数（15回や2回）に達するまで繰り返し実行可能となっている。

【0096】

大当り遊技状態においては、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。従って、大当り遊技状態は、遊技者にとって有利な状態である。大当り遊技状態におけるラウンド数が多い程、また、開放上限期間が長い程遊技者にとって有利となる。

【0097】

なお、「大当り」には、大当り種別が設定されている。例えば、大入賞口の開放態様（ラウンド数や開放上限期間）や、大当り遊技状態後の遊技状態（通常状態、確変状態（高

10

20

30

40

50

確率状態)、K T 状態、高ベース状態など)を複数種類用意し、これらに応じて大当り種別が設定されている。大当り種別として、多くの賞球を得ることができる大当り種別や、賞球の少ない又はほとんど賞球を得ることができない大当り種別が設けられていてもよい。

【0098】

大当り遊技状態が終了した後は、上記大当り種別に応じて、確変状態やK T 状態、高ベース状態に制御されることがある。

【0099】

確変状態(確率変動状態)では、表示結果が「大当り」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が実行される。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当り」となりやすい状態であるので、遊技者にとってさらに有利な状態である。

10

【0100】

K T 状態では、通常状態よりも小当りになりやすいK T 制御が実行される。このパチンコ遊技機1では、小当り遊技状態でもある程度の賞球を得ることができるので、大当り遊技状態と比べると得られる賞球が少ないが遊技者にとって有利な状態である。

【0101】

高ベース状態では、平均的な特図変動時間(特図を変動させる期間)を通常状態よりも短縮させる制御(時短制御)が実行され(時短状態)、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させる等により、第2始動入賞口に遊技球が進入しやすくなる制御(高開放制御、高ベース制御)も実行される。高ベース状態は、特別図柄(特に第2特別図柄)の変動効率が向上する状態であるので、遊技者にとって有利な状態である。

20

【0102】

確変状態やK T 状態、高ベース状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたことと、次回の大当り遊技状態が開始されたこと等といった、いずれか1つの終了条件が先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切り(回数切り確変等)ともいう。

【0103】

通常状態とは、遊技者にとって有利な大当り遊技状態等の有利状態、確変状態、K T 状態、高ベース状態等の特別状態以外の遊技状態のことであり、特図ゲームにおける表示結果が「大当り」となる確率などのパチンコ遊技機1が、パチンコ遊技機1の初期設定状態(例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復帰処理を実行しなかったとき)と同一に制御される状態である。

30

【0104】

大当り遊技を終了し、遊技状態が確変状態やK T 状態、高ベース状態に制御されると、遊技者は遊技領域の右方を狙って発射操作(右打ち操作)を行うのが有利である。パチンコ遊技機1が備える打球操作ハンドル30への遊技者による回転操作により、右打ち操作を行い、遊技球が通過ゲート41を通過すると、普通図柄表示器20による普図ゲームが開始される。なお、前回の普図ゲームの実行中の期間等に遊技球が通過ゲート41を通過した場合(遊技球が通過ゲート41を通過したが当該通過に基づく普図ゲームを直ちに実行できない場合)には、当該通過に基づく普図ゲームは所定の上限数(例えば4)まで保留される。

40

【0105】

この普図ゲームでは、特定の普通図柄(普図当り図柄)が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、普図当り図柄以外の普通図柄(普図ハズレ図柄)が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図ハズレ」となる。「普図当り」となると、可変入賞球装置6Bを所定期間開放状態とする開放制御が行われる(第2始動入賞口が開放状態になる)。

【0106】

可変入賞球装置6Bに形成された第2始動入賞口に遊技球が進入すると、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームが開始される。

【0107】

50

第2特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄、例えば「7」、後述の大当り種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当り」となり、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄（小当り図柄、例えば「2」）が停止表示されれば、「小当り」となる。また、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「-」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。

【0108】

第2特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技球が通過ゲート41を通過したことを条件として、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。第2特図ゲームでの表示結果が「小当り」になった後には、小当り遊技状態に制御される。

【0109】

小当り遊技状態では、特殊可変入賞球装置17により形成される特殊入賞口が所定の開放態様で開放状態となる。なお、大当り種別と同様に、「小当り」にも小当り種別を設けてもよい。

【0110】

小当り遊技状態が終了した後は、遊技状態の変更が行われず、特図ゲームの表示結果が「小当り」となる以前の遊技状態に継続して制御される（但し、「小当り」発生時の特図ゲームが、上記回数切りにおける上記所定回数目の特図ゲームである場合には、当然遊技状態が変更される）。

【0111】

なお、遊技状態は、大当り遊技状態中に遊技球が特定領域（例えば、大入賞口内の特定領域）を通過したことに基づいて、変化してもよい。例えば、遊技球が特定領域を通過したとき、その大当り遊技状態後に確変状態に制御してもよい。

【0112】

（演出の進行など）

パチンコ遊技機1では、遊技の進行に応じて種々の演出（遊技の進行状況を報知したり、遊技を盛り上げたりする演出）が実行される。当該演出について以下説明する。なお、当該演出は、画像表示装置5に各種の演出画像を表示することによって行われるが、当該表示に加えて又は代えて、スピーカ8L、8Rからの音声出力、及び／又は、枠LED9の点等／消灯、可動体32の動作等により行われてもよい。

【0113】

遊技の進行に応じて実行される演出として、画像表示装置5に設けられた「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームが開始されることに伴って、飾り図柄の可変表示が開始される。第1特図ゲームや第2特図ゲームにおいて表示結果（確定特別図柄ともいう。）が停止表示されるタイミングでは、飾り図柄の可変表示の表示結果となる確定飾り図柄（3つの飾り図柄の組合せ）も停止表示（導出）される。

【0114】

飾り図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間では、飾り図柄の可変表示の態様が所定のリーチ態様となる（リーチが成立する）ことがある。ここで、リーチ態様とは、画像表示装置5の画面上にて停止表示された飾り図柄が後述の大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄については可変表示が継続している態様などのことである。

【0115】

また、飾り図柄の可変表示中に上記リーチ態様となったことに伴ってリーチ演出が実行される。パチンコ遊技機1では、演出態様に伴って表示結果（特図ゲームの表示結果や飾り図柄の可変表示の表示結果）が「大当り」となる割合（大当り信頼度、大当り期待度とも呼ばれる。）が異なる複数種類のリーチ演出が実行される。リーチ演出には、例えば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当り信頼度の高いスーパーリーチと、がある。

10

20

30

40

50

【0116】

特図ゲームの表示結果が「大当たり」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた大当たり組合せとなる確定飾り図柄が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「大当たり」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上に同一の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示される。

【0117】

大当たり遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当たり」である場合には、奇数の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示され、大当たり遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当たり（通常大当たり）」である場合には、偶数の飾り図柄（例えば、「6」等）が揃って停止表示されるようにしてもよい。この場合、奇数の飾り図柄を確変図柄、偶数の飾り図柄を非確変図柄（通常図柄）ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当たり」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

【0118】

特図ゲームの表示結果が「小当たり」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた小当たり組合せとなる確定飾り図柄（例えば、「1 3 5」等）が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「小当たり」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上にチャンス目を構成する飾り図柄が停止表示される。なお、特図ゲームの表示結果が、一部の大当たり種別（小当たり遊技状態と同様の態様の大当たり遊技状態の大当たり種別）の「大当たり」となるときと、「小当たり」となるときとで、共通の確定飾り図柄が導出表示されてもよい。

【0119】

特図ゲームの表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに、飾り図柄の可変表示の表示結果として、非リーチ組合せの確定飾り図柄（「非リーチハズレ」ともいう。）が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「非リーチハズレ」となる）ことがある。また、表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となった後に、飾り図柄の可変表示の表示結果として、大当たり組合せでない所定のリーチ組合せ（「リーチハズレ」ともいう）の確定飾り図柄が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「リーチハズレ」となる）こともある。

【0120】

パチンコ遊技機1が実行可能な演出には、上記の可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）を表示することも含まれる。また、他の演出として、例えば、大当たり信頼度を予告する予告演出等が飾り図柄の可変表示中に実行される。予告演出には、実行中の可変表示における大当たり信頼度を予告する予告演出や、実行前の可変表示（実行が保留されている可変表示）における大当たり信頼度を予告する先読み予告演出がある。先読み予告演出として、可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）の表示態様を通常とは異なる態様に変化させる演出が実行されるようにしてもよい。

【0121】

また、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示中に飾り図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させることで、1回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる疑似連演出を実行するようにしてもよい。

【0122】

大当たり遊技状態中にも、大当たり遊技状態を報知する大当たり中演出が実行される。大当たり中演出としては、ラウンド数を報知する演出や、大当たり遊技状態の価値が向上することを示す昇格演出が実行されてもよい。また、小当たり遊技状態中にも、小当たり遊技状態を報知する小当たり中演出が実行される。なお、小当たり遊技状態中と、一部の大当たり種別（小当たり遊技状態と同様の態様の大当たり遊技状態の大当たり種別で、例えばその後の遊技状態を高確状態とする大当たり種別）での大当たり遊技状態とで、共通の演出を実行することで、現在が

10

20

30

40

50

小当り遊技状態中であるか、大当り遊技状態中であるかを遊技者に分からないようにしてもよい。そのような場合であれば、小当り遊技状態の終了後と大当り遊技状態の終了後とで共通の演出を実行することで、高確状態であるか低確状態であるかを識別できないようにしてもよい。

【0123】

また、例えば特図ゲーム等が実行されていないときには、画像表示装置5にデモ（デモンストレーション）画像が表示される（客待ちデモ演出が実行される）。

【0124】

（基板構成）

パチンコ遊技機1には、例えば図2に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、LED制御基板14、中継基板15などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、電源基板などといった、各種の基板が配置されている。

【0125】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機1における上記遊技の進行（特図ゲームの実行（保留の管理を含む）、普図ゲームの実行（保留の管理を含む）、大当り遊技状態、小当り遊技状態、遊技状態など）を制御する機能を有する。主基板11は、遊技制御用マイクロコンピュータ100、スイッチ回路110、ソレノイド回路111などを有する。

【0126】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、ROM（Read Only Memory）101と、RAM（Random Access Memory）102と、CPU（Central Processing Unit）103と、乱数回路104と、I/O（Input/Output port）105とを備える。

【0127】

CPU103は、ROM101に記憶されたプログラムを実行することにより、遊技の進行を制御する処理（主基板11の機能を実現する処理）を行う。このとき、ROM101が記憶する各種データ（後述の変動パターン、後述の演出制御コマンド、後述の各種決定を行う際に参照される各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM102がメインメモリとして使用される。RAM102は、その一部または全部がパチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップRAMとなっている。なお、ROM101に記憶されたプログラムの全部又は一部をRAM102に展開して、RAM102上で実行するようにしてもよい。

【0128】

乱数回路104は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値（遊技用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技用乱数は、CPU103が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0129】

I/O105は、例えば各種信号（後述の検出信号）が入力される入力ポートと、各種信号（第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、普図保留表示器25Cなどを制御（駆動）する信号、ソレノイド駆動信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0130】

スイッチ回路110は、遊技球検出用の各種スイッチ（ゲートスイッチ21、始動口スイッチ（第1始動口スイッチ22Aおよび第2始動口スイッチ22B）、カウントスイッチ（第1カウントスイッチ23および第2カウントスイッチ24））からの検出信号（遊技球が通過又は進入してスイッチがオンになったことを示す検出信号など）を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送する。検出信号の伝送により、遊技球の通過又は進入が検出されたことになる。

10

20

30

40

50

【0131】

ソレノイド回路111は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からのソレノイド駆動信号（例えば、ソレノイド81やソレノイド82、ソレノイド83をオンする信号など）を、普通電動役物用のソレノイド81や大入賞口扉用のソレノイド82、特殊入賞口用のソレノイド83に伝送する。

【0132】

主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）は、遊技の進行の制御の一部として、遊技の進行に応じて演出制御コマンド（遊技の進行状況等を指定（通知）するコマンド）を演出制御基板12に供給する。主基板11から出力された演出制御コマンドは、中継基板15により中継され、演出制御基板12に供給される。当該演出制御コマンドには、例えば主基板11における各種の決定結果（例えば、特図ゲームの表示結果（大当たり種別を含む。）、特図ゲームを実行する際に使用される変動パターン（詳しくは後述））、遊技の状況（例えば、可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態）、エラーの発生等を指定するコマンド等が含まれる。

10

【0133】

演出制御基板12は、主基板11とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドに基づいて演出（遊技の進行に応じた種々の演出であり、可動体32の駆動、エラー報知、電断復旧の報知等の各種報知を含む）を実行する機能を有する。

【0134】

演出制御基板12には、演出制御用CPU120と、ROM121と、RAM122と、表示制御部123と、乱数回路124と、I/O125とが搭載されている。

20

【0135】

演出制御用CPU120は、ROM121に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部123とともに演出を実行するための処理（演出制御基板12の上記機能を実現するための処理であり、実行する演出の決定等を含む）を行う。このとき、ROM121が記憶する各種データ（各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM122がメインメモリとして使用される。

【0136】

演出制御用CPU120は、コントローラセンサユニット35Aやプッシュセンサ35Bからの検出信号（遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号）に基づいて演出の実行を表示制御部123に指示することもある。

30

【0137】

表示制御部123は、VDP（Video Display Processor）、CGROM（Character Generator ROM）、VRAM（Video RAM）などを備え、演出制御用CPU120からの演出の実行指示に基づき、演出を実行する。

【0138】

表示制御部123は、演出制御用CPU120からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置5に供給することで、演出画像を画像表示装置5に表示させる。表示制御部123は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、枠LED9および右打ち報知用LED37の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板13に供給したり、LED信号（LEDの点灯／消灯態様を指定する信号）をLED制御基板14に供給したりする。また、表示制御部123は、可動体32を動作させる信号を当該可動体32又は当該可動体32を駆動する駆動回路に供給する。

40

【0139】

音声制御基板13は、スピーカ8L、8Rを駆動する各種回路を搭載しており、当該音指定信号に基づきスピーカ8L、8Rを駆動し、当該音指定信号が指定する音声をスピーカ8L、8Rから出力させる。

【0140】

50

LED制御基板14は、枠LED9や右打ち報知用LED37を駆動する各種回路を搭載しており、当該LED信号に基づき枠LED9や右打ち報知用LED37を駆動し、当該LED信号が指定する態様で枠LED9や右打ち報知用LED37を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部123は、音声出力、LEDの点灯／消灯を制御する。

【0141】

なお、音声出力、LEDの点灯／消灯の制御（音指定信号やLED信号の供給等）、可動体32の制御（可動体32を動作させる信号の供給等）は、演出制御用CPU120が実行するようにしてもよい。

【0142】

乱数回路124は、各種演出を実行するために使用される各種の乱数値（演出用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。演出用乱数は、演出制御用CPU120が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0143】

演出制御基板12に搭載されたI/O125は、例えば主基板11などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、各種信号（映像信号、音指定信号、LED信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0144】

演出制御基板12、音声制御基板13、LED制御基板14といった、主基板11以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機1のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【0145】

（動作）

次に、パチンコ遊技機1の動作（作用）を説明する。

【0146】

（主基板11の主要な動作）

まず、主基板11における主要な動作を説明する。パチンコ遊技機1に対して電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理が実行される。図3は、主基板11におけるCPU103が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

【0147】

図3に示す遊技制御メイン処理では、CPU103は、まず、割込禁止に設定する（ステップS1）。続いて、必要な初期設定を行う（ステップS2）。初期設定には、スタックポインタの設定、内蔵デバイス（CTC（カウンタ／タイマ回路）、パラレル入出力ポート等）のレジスタ設定、RAM102をアクセス可能状態にする設定等が含まれる。

【0148】

次いで、クリアスイッチからの出力信号がオンであるか否かを判定する（ステップS3）。クリアスイッチは、例えば電源基板に搭載されている。クリアスイッチがオンの状態で電源が投入されると、出力信号（クリア信号）が入力ポートを介して遊技制御用マイクロコンピュータ100に入力される。クリアスイッチからの出力信号がオンである場合（ステップS3；Yes）、初期化处理（ステップS8）を実行する。初期化处理では、CPU103は、RAM102に記憶されるフラグ、カウンタ、バッファをクリアするRAMクリア処理を行い、作業領域に初期値を設定する。

【0149】

また、CPU103は、初期化を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する（ステップS9）。演出制御用CPU120は、当該演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示を行う。

【0150】

クリアスイッチからの出力信号がオンでない場合には（ステップS3；No）、RAM

10

20

30

40

50

102 (バックアップRAM) にバックアップデータが保存されているか否かを判定する (ステップS4)。不測の停電等 (電断) によりパチンコ遊技機1への電力供給が停止したときには、CPU103は、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、RAM102にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、RAM102のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号 (チェックサム、パリティビット等) の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ (各種フラグ、各種タイマの状態等を含む) の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。ステップS4では、バックアップフラグがオンであるか否かを判定する。バックアップフラグがオフでRAM102にバックアップデータが記憶されていない場合 (ステップS4; No)、初期化処理 (ステップS8) を実行する。

10

【0151】

RAM102にバックアップデータが記憶されている場合 (ステップS4; Yes)、CPU103は、バックアップしたデータのデータチェックを行い (誤り検出符号を用いて行われる)、データが正常か否かを判定する (ステップS5)。ステップS5では、例えば、パリティビットやチェックサムにより、RAM102のデータが、電力供給停止時のデータと一致するか否かを判定する。これらが一致すると判定された場合、RAM102のデータが正常であると判定する。

【0152】

RAM102のデータが正常でないと判定された場合 (ステップS5; No)、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、初期化処理 (ステップS8) を実行する。

20

【0153】

RAM102のデータが正常であると判定された場合 (ステップS5; Yes)、CPU103は、主基板11の内部状態を電力供給停止時の状態に戻すための復旧処理 (ステップS6) を行う。復旧処理では、CPU103は、RAM102の記憶内容 (バックアップしたデータの内容) に基づいて作業領域の設定を行う。これにより、電力供給停止時の遊技状態に復旧し、特別図柄の変動中であつた場合には、後述の遊技制御用タイマ割込み処理の実行によって、復旧前の状態から特別図柄の変動が再開されることになる。

30

【0154】

そして、CPU103は、電断からの復旧を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する (ステップS7)。これに合わせて、バックアップされている電断前の遊技状態を指定する演出制御コマンドや、特図ゲームの実行中であつた場合には当該実行中の特図ゲームの表示結果を指定する演出制御コマンドを送信するようにしてもよい。これらコマンドは、後述の特別図柄プロセス処理で送信設定されるコマンドと同じコマンドを使用できる。演出制御用CPU120は、電断からの復旧時を特定する演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、電断からの復旧がなされたこと又は電断からの復旧中であることを報知するための画面表示を行う。演出制御用CPU120は、前記演出制御コマンドに基づいて、適宜の画面表示を行うようにしてもよい。

40

【0155】

復旧処理または初期化処理を終了して演出制御基板12に演出制御コマンドを送信した後には、CPU103は、乱数回路104を初期設定する乱数回路設定処理を実行する (ステップS10)。そして、所定時間 (例えば2ms) 毎に定期的にタイマ割込みがかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行い (ステップS11)、割込みを許可する (ステップS12)。その後、ループ処理に入る。以後、所定時間 (例えば2ms) ごとにCTCから割込み要求信号がCPU103へ送出され、CPU103は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【0156】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号

50

を受信して割込み要求を受け付けると、図4のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図4に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU103は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、第1カウントスイッチ23、第2カウントスイッチ24といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する(ステップS21)。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする(ステップS22)。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報(大当たりの発生回数等を示す情報)、始動情報(始動入賞の回数等を示す情報)、確率変動情報(確変状態となった回数等を示す情報)などのデータを出力する(ステップS23)。

10

【0157】

情報出力処理に続いて、主基板11の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する(ステップS24)。この後、CPU103は、第1特別図柄プロセス処理を実行する(ステップS25A)。CPU103がタイマ割込み毎に第1特別図柄プロセス処理を実行することにより、第1特図ゲームの実行及び保留の管理や、大当たり遊技状態や小当たり遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される(詳しくは後述)。また、CPU103は、第2特別図柄プロセス処理を実行する(ステップS25B)。CPU103がタイマ割込み毎に第2特別図柄プロセス処理を実行することにより、第2特図ゲームの実行及び保留の管理や、大当たり遊技状態や小当たり遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される。なお、このパチンコ遊技機1では、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを同時に並行して実行することが可能である。

20

【0158】

第1特別図柄プロセス処理および第2特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される(ステップS26)。CPU103がタイマ割込み毎に普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ21からの検出信号に基づく(通過ゲート41に遊技球が通過したことに基づく)普図ゲームの実行及び保留の管理や、「普図当たり」に基づく可変入賞球装置6Bの開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普通図柄表示器20を駆動することにより行われ、普図保留表示器25Cを点灯させることにより普図保留数を表示する。

30

【0159】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理等などが行われてもよい。その後、CPU103は、コマンド制御処理を実行する(ステップS27)。CPU103は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップS27のコマンド制御処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板12などのサブ側の制御基板に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後は、割込みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

40

【0160】

また、図4では記載を省略しているが、遊技制御用タイマ割込み処理では、遊技機の制御状態を遊技機外部で確認できるようにするための試験信号を出力するための処理である試験端子処理も実行される。試験端子処理では、CPU103は、右打ち操作を行う期間であることを特定可能な試験信号(右打ち試験信号)も出力する制御を行う。具体的には、試験端子処理において、CPU103は、大当たり遊技中や、第2特別図柄の変動表示にもとづく小当たり遊技中、KT状態中に右打ち試験信号を出力する制御を行う。一方、試験端子処理において、CPU103は、第1特別図柄の変動表示にもとづく小当たり遊技中には右打ち試験信号を出力する制御を行わない。

【0161】

50

図5は、第1特別図柄プロセス処理として、図4に示すステップS25Aにて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この第1特別図柄プロセス処理において、CPU103は、まず、第1始動入賞判定処理を実行する（ステップS101A）。

【0162】

第1始動入賞判定処理では、第1始動入賞口への始動入賞の発生を検出し、RAM102の所定領域に保留情報を格納し第1保留記憶数を更新する処理が実行される。第1始動入賞口への始動入賞が発生すると、表示結果（大当たり種別を含む）や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報としてRAM102に設けられた第1保留記憶バッファに記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読み判定する処理が実行されてもよい。保留情報や第1保留記憶数を記憶した後は、演出制御基板12に始動入賞の発生、第1保留記憶数、先読み判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、例えば第1特別図柄プロセス処理が終了した後、図4に示すステップS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

10

【0163】

S101にて第1始動入賞判定処理を実行した後、CPU103は、RAM102に設けられた第1特図プロセスフラグの値に応じて、ステップS110A～S121Aの処理のいずれかを選択して実行する。なお、第1特別図柄プロセス処理の各処理（ステップS110A～S121A）では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板12に送信するための送信設定が行われる。

20

【0164】

ステップS110Aの第1特別図柄通常処理は、第1特図プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される。この第1特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第1特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、第1特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、第1特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当たり」または「小当たり」とするか否かや「大当たり」とする場合の大当たり種別を、その表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、第1特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、第1特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当たり図柄や小当たり図柄、ハズレ図柄のいずれか）が設定される。その後、第1特図プロセスフラグの値が“1”に更新され、第1特別図柄通常処理は終了する。

30

【0165】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM101に格納されている各種のテーブル（乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル）が参照される。主基板11における他の決定、演出制御基板12における各種の決定についても同じである。演出制御基板12においては、各種のテーブルがROM121に格納されている。

【0166】

ステップS111Aの第1変動パターン設定処理は、第1特図プロセスフラグの値が“1”のときに実行される。この第1変動パターン設定処理には、表示結果を「大当たり」または「小当たり」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。第1変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、第1特図プロセスフラグの値が“2”に更新され、第1変動パターン設定処理は終了する。

40

【0167】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図変動時間）（飾り図柄の可変表示の実行時間でもある）や、飾り図柄の可変表示の態様（リーチの有無等）、飾り図柄の可変表示中の演出内容（リーチ演出の種類等）を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

【0168】

ステップS112Aの第1特別図柄変動処理は、第1特図プロセスフラグの値が“2”の

50

ときに実行される。この第1特別図柄変動処理には、第1特別図柄表示装置4Aにおいて第1特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その第1特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、第1特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図変動時間に達したときには、第1特図プロセスフラグの値が“3”に更新され、第1特別図柄変動処理は終了する。

【0169】

なお、本例では、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とは並行して実行可能であるので、例えば、第1特別図柄変動処理（ステップS112A）に移行して第1特別図柄の変動表示中であるときに、第2特別図柄の変動表示において小当たりとなり小当り遊技に制御される場合がある。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、小当り遊技中であるか否かを判定し（具体的には、第2特図プロセスフラグの値が第2小当り開放前処理～第2小当り終了処理に相当する値であるか否かを判定し）、小当り遊技中であれば、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄変動処理に相当する値から変更しないようにし、小当り遊技中でなければ、第1特図プロセスフラグの値を次の第1特別図柄停止処理に相当する値に更新可能としている。そのような制御を行うことにより、第2特別図柄の変動表示にもとづく小当り遊技中では第1特別図柄の変動表示を中断し、その小当り遊技の終了後に第1特別図柄の変動表示を再開するように制御している。なお、そのような制御にかかわらず、例えば、第2特別図柄の変動表示にもとづく小当り遊技中は、第1特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理を中断（タイマの更新を中断）するように構成してもよい。

【0170】

また、例えば、小当り終了処理期間としての小当りエンディング期間を遊技状態によって異ならせるように構成してもよい。例えば、通常状態において、第1特別図柄の変動表示を中断するように構成すると、第1特別図柄の変動表示の中断期間が長くなり、第1特別図柄の変動表示の実行期間と中断期間との差が大きくなると飾り図柄の揺れ停止などにより中断期間を吸収する必要があると、遊技者に違和感を与える演出になってしまう。そのため、通常状態では、小当りエンディング期間をKT状態（第1KT状態、第2KT状態）よりも短くすることが望ましい。この場合、例えば、通常状態では小当りエンディング期間が0.5秒であるのに対して、KT状態では小当りエンディング期間が3秒であるように構成してもよい。

【0171】

また、上記のように構成する場合、例えば、第1KT状態では、小当り制御において実質的に遊技球が入賞困難であり特に演出を行わないので、第2KT状態に比べて小当りエンディング期間を短くするように構成してもよい。一方、第2KT状態では、小当り制御において遊技球が入賞容易であり小当り制御を強調する演出を実行するので、第1KT状態に比べて小当りエンディング期間を長くするように構成してもよい。この場合、例えば、第1KT状態では小当りエンディング期間が0.5秒であるのに対して、第2KT状態では小当りエンディング期間が3秒であるように構成してもよい。

【0172】

さらに、小当り開放前処理期間としての小当りファンファーレ期間についても、上記の小当りエンディング期間と同様に、遊技状態によって期間の長さを異ならせてもよい。

【0173】

ステップS113Aの第1特別図柄停止処理は、第1特図プロセスフラグの値が“3”のときに実行される。この第1特別図柄停止処理には、第1特別図柄表示装置4Aにて第1特別図柄の変動を停止させ、第1特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当り」である場合には第1特図プロセスフラグの値が“4”に更新される。その一方で、大当りフラグがオフであり、表示結果が「小当り」である場合には、第1特図プロセスフラグの値が“9”に更新される。また、表示結果が「ハズレ」である場合には、第1特図プロセスフラグの

値が“ 0 ”に更新される。表示結果が「小当り」又は「ハズレ」である場合、確変状態や K T 状態、高ベース状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。第 1 特図プロセスフラグの値が更新されると、第 1 特別図柄停止処理は終了する。

【 0 1 7 4 】

ステップ S 1 1 4 A の第 1 ゲート通過待ち処理は、第 4 特図プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される。この第 1 ゲート通過待ち処理では、通過ゲート 4 1 への遊技球の通過を待機する制御を行う。通過ゲート 4 1 への遊技球の通過を検知したときには第 1 特図プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新される。

【 0 1 7 5 】

ステップ S 1 1 5 A の第 1 大当り開放前処理は、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される。この第 1 大当り開放前処理には、表示結果が「大当り」となったことなどに基つき、大当り遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当り種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 6 ”に更新され、第 1 大当り開放前処理は終了する。

【 0 1 7 6 】

ステップ S 1 1 6 A の第 1 大当り開放中処理は、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される。この第 1 大当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間や第 1 カウントスイッチ 2 3 によって検出された遊技球の個数などに基ついて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 7 ”に更新し、第 1 大当り開放中処理を終了する。

【 0 1 7 7 】

ステップ S 1 1 7 A の第 1 大当り開放後処理は、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される。この第 1 大当り開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当り遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 6 ”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 8 ”に更新される。第 1 特図プロセスフラグの値が更新されると、第 1 大当り開放後処理は終了する。

【 0 1 7 8 】

ステップ S 1 1 8 A の第 1 大当り終了処理は、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 8 ”のときに実行される。この第 1 大当り終了処理には、大当り遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当り遊技状態の終了に対応して確変制御や K T 制御、高ベース制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新され、第 1 大当り終了処理は終了する。

【 0 1 7 9 】

ステップ S 1 1 9 A の第 1 小当り開放前処理は、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 9 ”のときに実行される。この第 1 小当り開放前処理には、表示結果が「小当り」となったことに基つき、小当り遊技状態において特殊入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。このときには、第 1 特図プロセスフラグの値が“ 1 0 ”に更新され、第 1 小当り開放前処理は終了する。

【 0 1 8 0 】

10

20

30

40

50

ステップ S 1 2 0 A の第 1 小当り開放中処理は、第 1 特図プロセスフラグの値が “ 1 0 ” のときに実行される。この第 1 小当り開放中処理には、特殊入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間などに基づいて、特殊入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。特殊入賞口を閉鎖状態に戻して小当り遊技状態の終了タイミングとなったときには、第 1 特図プロセスフラグの値が “ 1 1 ” に更新され、第 1 小当り開放中処理は終了する。

【 0 1 8 1 】

ステップ S 1 2 1 A の第 1 小当り終了処理は、第 1 特図プロセスフラグの値が “ 1 1 ” のときに実行される。この第 1 小当り終了処理には、小当り遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理などが含まれている。ここで、小当り遊技状態が終了するときには、小当り遊技状態となる以前のパチンコ遊技機 1 における遊技状態を継続させる。小当り遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、第 1 特図プロセスフラグの値が “ 0 ” に更新され、第 1 小当り終了処理は終了する。

【 0 1 8 2 】

なお、第 2 特別図柄プロセス処理（ステップ S 2 5 B）において実行される処理は、第 1 特別図柄プロセス処理（ステップ S 2 5 A）において実行される処理と同様である。すなわち、図 5 で説明した第 1 特別図柄プロセス処理において、「第 1」を「第 2」と読み替えれば、第 2 特別図柄プロセス処理が説明されることになる。また、第 2 特別図柄プロセス処理（ステップ S 2 5 B）の第 1 始動入賞判定処理で抽出された各乱数値は、保留情報として RAM 1 0 2 に設けられた第 2 保留記憶バッファに記憶される。

【 0 1 8 3 】

なお、本例では、第 1 特別図柄の変動表示と第 2 特別図柄の変動表示とは並行して実行可能であるので、例えば、第 2 特別図柄変動処理に移行して第 2 特別図柄の変動表示中であるときに、第 1 特別図柄の変動表示において小当りとなり小当り遊技に制御される場合もある。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0（具体的には、CPU 1 0 3）は、小当り遊技中であるか否かを判定し（具体的には、第 1 特図プロセスフラグの値が第 1 小当り開放前処理～第 1 小当り終了処理に相当する値であるか否かを判定し）、小当り遊技中であれば、第 2 特図プロセスフラグの値を第 2 特別図柄変動処理に相当する値から変更しないようにし、小当り遊技中でなければ、第 2 特図プロセスフラグの値を次の第 2 特別図柄停止処理に相当する値に更新可能としている。そのような制御を行うことにより、第 1 特別図柄の変動表示にもとづく小当り遊技中では第 2 特別図柄の変動表示を中断し、その小当り遊技の終了後に第 2 特別図柄の変動表示を再開するように制御している。なお、そのような制御にかぎらず、例えば、第 1 特別図柄の変動表示にもとづく小当り遊技中は、第 2 特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理を中断（タイマの更新を中断）するように構成してもよい。

【 0 1 8 4 】

なお、第 2 特別図柄の変動表示にもとづく小当り制御に関しても、遊技状態によって小当りファンファーレ期間や小当りエンディング期間の長さを異ならせるように構成してもよい。

【 0 1 8 5 】

（演出制御基板 1 2 の主要な動作）

次に、演出制御基板 1 2 における主要な動作を説明する。演出制御基板 1 2 では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用 CPU 1 2 0 が起動して、図 6 のフローチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図 6 に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用 CPU 1 2 0 は、まず、所定の初期化処理を実行して（ステップ S 7 1）、RAM 1 2 2 のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板 1 2 に搭載された CTC（カウンタ／タイマ回路）のレジスタ設定等を行う。また、初期動作制御処理を実行する（ステップ S 7 2）。初期動作制御処理では、可動体 3 2 を駆動して初期位置に戻す制御、所定の動作確認を行う制御といった可動体 3 2 の初期動作を行う制御が実行

10

20

30

40

50

される。

【0186】

その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う（ステップS73）。タイマ割込みフラグは、例えばCTCのレジスタ設定に基づき、所定時間（例えば2ミリ秒）が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば（ステップS73；No）、ステップS73の処理を繰り返し実行して待機する。

【0187】

また、演出制御基板12の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板11からの演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板11からの演出制御INT信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用CPU120は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならないCPUを用いている場合には、割込み禁止命令（DI命令）を発行することが望ましい。演出制御用CPU120は、演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I/O125に含まれる入力ポートのうちで、中継基板15を介して主基板11から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドを取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、例えばRAM122に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用CPU120は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

【0188】

ステップS73にてタイマ割込みフラグがオンである場合には（ステップS73；Yes）、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに（ステップS74）、コマンド解析処理を実行する（ステップS75）。コマンド解析処理では、例えば主基板11の遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。例えば、どの演出制御コマンドを受信したかや演出制御コマンドが特定する内容等を演出制御プロセス処理等で確認できるように、読み出された演出制御コマンドをRAM122の所定領域に格納したり、RAM122に設けられた受信フラグをオンしたりする。また、演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合、遊技状態に応じた背景の表示を表示制御部123に指示してもよい。

【0189】

ステップS75にてコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する（ステップS76）。演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置5の表示領域における演出画像の表示動作、スピーカ8L、8Rからの音声出力動作、枠LED9及び装飾用LEDといった装飾発光体における点灯動作、可動体32の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が行われる。また、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板11から送信された演出制御コマンド等に応じた判定や決定、設定などが行われる。

【0190】

ステップS76の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され（ステップS77）、演出制御基板12の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部がソフトウェアにより更新される。その後、ステップS73の処理に戻る。ステップS73の処理に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

【0191】

図7は、演出制御プロセス処理として、図6のステップS76にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図7に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用CPU120は、まず、先読予告設定処理を実行する（ステップS161）。先読予告設定処理では、例えば、主基板11から送信された始動入賞時の演出制御コマンドに基づい

て、先読み予告演出を実行するための判定や決定、設定などが行われる。また、当該演出制御コマンドから特定される保留記憶数に基づき保留表示を表示するための処理が実行される。

【0192】

ステップS161の処理を実行した後、演出制御用CPU120は、例えばRAM122に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなステップS170～S177の処理のいずれかを選択して実行する。

【0193】

ステップS170の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板11から可変表示の開始を指定するコマンドなどを受信したか否かに基づき、画像表示装置5における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理などを含んでいる。画像表示装置5における飾り図柄の可変表示を開始すると判定された場合、演出プロセスフラグの値を“1”に更新し、可変表示開始待ち処理を終了する。

【0194】

ステップS171の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が“1”のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理では、演出制御コマンドにより特定される表示結果や変動パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の表示結果（確定飾り図柄）、飾り図柄の可変表示の態様、リーチ演出や各種予告演出などの各種演出の実行の有無やその態様や実行開始タイミングなどを決定する。そして、その決定結果等を反映した演出制御パターン（表示制御部123に演出の実行を指示するための制御データの集まり）を設定する。その後、設定した演出制御パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の実行開始を表示制御部123に指示し、演出プロセスフラグの値を“2”に更新し、可変表示開始設定処理を終了する。表示制御部123は、飾り図柄の可変表示の実行開始の指示により、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示を開始させる。

【0195】

ステップS172の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“2”のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用CPU120は、表示制御部123を指示することで、ステップS171にて設定された演出制御パターンに基づく演出画像を画像表示装置5の表示画面に表示させることや、可動体32を駆動させること、音声制御基板13に対する指令（効果音信号）の出力によりスピーカ8L、8Rから音声や効果音を出力させること、LED制御基板14に対する指令（電飾信号）の出力により枠LED9や装飾用LEDを点灯／消灯／点滅させることといった、飾り図柄の可変表示中における各種の演出制御を実行する。こうした演出制御を行った後、例えば演出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読み出されたこと、あるいは、主基板11から確定飾り図柄を停止表示させることを指定するコマンドを受信したことなどに対応して、飾り図柄の表示結果となる確定飾り図柄を停止表示させる。確定飾り図柄を停止表示したときには、演出プロセスフラグの値が“3”に更新され、可変表示中演出処理は終了する。

【0196】

ステップS173の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“3”のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用CPU120は、主基板11から大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドを受信したきに、そのコマンドが大当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を“6”に更新する。これに対して、そのコマンドが小当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を小当り中演出処理に対応した値である“4”に更新する。また、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定するコマンドを受信せずに、当該コマンドの受信待ち時間が経過したときには、特図ゲームにおける表示結果が「ハズレ」であったと判定して、

10

20

30

40

50

演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新する。演出プロセスフラグの値を更新すると、特図当り待ち処理を終了する。

【 0 1 9 7 】

ステップ S 1 7 4 の小当り中演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される処理である。この小当り中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば小当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、小当り中演出処理では、例えば主基板 1 1 から小当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値を小当り終了演出に対応した値である“ 5 ”に更新し、小当り中演出処理を終了する。

10

【 0 1 9 8 】

ステップ S 1 7 5 の小当り終了演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される処理である。この小当り終了演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば小当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態の終了時における各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新し、小当り終了演出処理を終了する。

【 0 1 9 9 】

ステップ S 1 7 6 の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、例えば主基板 1 1 から大当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出制御プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である“ 7 ”に更新し、大当り中演出処理を終了する。

20

【 0 2 0 0 】

ステップ S 1 7 7 のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態の終了時におけるエンディング演出の各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新し、エンディング演出処理を終了する。

30

【 0 2 0 1 】

(基本説明の変形例)

この発明は、上記基本説明で説明したパチンコ遊技機 1 に限定されず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。

【 0 2 0 2 】

上記基本説明のパチンコ遊技機 1 は、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機であったが、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。

【 0 2 0 3 】

特別図柄の可変表示中に表示されるものは 1 種類の図柄（例えば、「ー」を示す記号）だけで、当該図柄の表示と消灯とを繰り返すことによって可変表示を行うようにしてもよい。さらに可変表示中に当該図柄が表示されるものも、可変表示の停止時には、当該図柄が表示されなくてもよい（表示結果としては「ー」を示す記号が表示されなくてもよい）。

40

【 0 2 0 4 】

上記基本説明では、遊技機としてパチンコ遊技機 1 を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能なスロット機（例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、R T、A T、A

50

R T、C Z（以下、ボーナス等）のうち１以上を搭載するスロット機）にも本発明を適用可能である。

【０２０５】

本発明を実現するためのプログラム及びデータは、パチンコ遊技機１に含まれるコンピュータ装置などに対して、着脱自在の記録媒体により配布・提供される形態に限定されるものではなく、予めコンピュータ装置などの有する記憶装置にインストールしておくことで配布される形態を採っても構わない。さらに、本発明を実現するためのプログラム及びデータは、通信処理部を設けておくことにより、通信回線等を介して接続されたネットワーク上の、他の機器からダウンロードすることによって配布する形態を採っても構わない。

【０２０６】

そして、ゲームの実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行するものだけではなく、通信回線等を介してダウンロードしたプログラム及びデータを、内部メモリ等に一旦格納することにより実行可能とする形態、通信回線等を介して接続されたネットワーク上における、他の機器側のハードウェア資源を用いて直接実行する形態としてもよい。さらには、他のコンピュータ装置等とネットワークを介してデータの交換を行うことによりゲームを実行するような形態とすることもできる。

【０２０７】

なお、本明細書において、演出の実行割合などの各種割合の比較の表現（「高い」、「低い」、「異ならせる」などの表現）は、一方が「０％」の割合であることを含んでもよい。例えば、一方が「０％」の割合で、他方が「１００％」の割合又は「１００％」未満の割合であることも含む。

【０２０８】

〔特徴部２１ＴＭに関する説明〕

次に、特徴部２１ＴＭに関して説明する。パチンコ遊技機１には、例えば図８－１に示すような主基板１１、演出制御基板１２、ターミナル基板（情報出力基板）２１ＴＭ０１６といった、各種の制御基板が搭載されている。また、パチンコ遊技機１には、主基板１１と演出制御基板１２との間で伝送される各種の制御信号を中継するための中継基板１５なども搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機１における遊技盤２などの背面には、例えば払出制御基板、発射制御基板、インタフェース基板などといった、各種の基板が配置されている。

【０２０９】

なお、前述した図２に示すように、主基板１１には、第１始動口スイッチ２２Ａ及び第２始動口スイッチ２２Ｂ、並びに、第１特別図柄表示装置４Ａ及び第２特別図柄表示装置４Ｂ等の各種部品が接続されており、演出制御基板１２には、スピーカ８Ｌ、８Ｒ、枠ＬＥＤ９等の各種演出装置が接続されているが、図８－１では、これらを省略している。

【０２１０】

主基板１１は、メイン側の制御基板であり、図８－３に示すように、基板ケース２１ＴＭ２０１に収納された状態でパチンコ遊技機１の背面に搭載され、パチンコ遊技機１における遊技の進行を制御するための各種回路が搭載されている。主基板１１は、主として、特図ゲームにおいて用いる乱数の設定機能、所定位置に配設されたスイッチ等からの信号の入力を行う機能、演出制御基板１２などからなるサブ側の制御基板に宛てて、指令情報の一例となる制御コマンドを制御信号として出力して送信する機能、ホールの管理コンピュータに対して各種情報を出力する機能などを備えている。また、主基板１１は、第１特別図柄表示装置４Ａと第２特別図柄表示装置４Ｂを構成する各ＬＥＤ（例えばセグメントＬＥＤ）などの点灯／消灯制御を行って第１特図や第２特図の変動表示を制御することや、普通図柄表示器２０の点灯／消灯／発色制御などを行って普通図柄表示器２０による普通図柄の変動表示を制御することといった、所定の表示図柄の変動表示を制御する機能も備えている。

【０２１１】

また、主基板１１には、図８－３に示すように、パチンコ遊技機１の背面側から視認可

能な表示モニタ 21TM029 が設けられており、該表示モニタ 21TM029 に、入賞に関する各種の入賞情報を表示する機能も備えている。尚、表示モニタ 21TM029 の左側方には表示切替スイッチ 21TM030 が設けられており、該表示切替スイッチ 21TM030 の操作によって表示モニタ 21TM029 に表示されている情報を切り替えることが可能となっている。

【0212】

主基板 11 には、例えば遊技制御用マイクロコンピュータ 100 や、遊技球検出用の各種スイッチからの検出信号の他、電源断信号、クリア信号、リセット信号等の各種信号を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に伝送するスイッチ回路 110、ターミナル基板 21TM016 からセキュリティ信号等の各種の信号の出力を行うための情報出力回路 112 が搭載されている。

【0213】

また、図 8-1 に示す主基板 11 は、図 8-3 に示すように、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケース 21TM201 に封入されており、主基板 11 の中央には表示モニタ 21TM029（例えば、7 セグメント）が配置され、表示モニタ 21TM029 の右側には表示切替スイッチ 21TM030 が配置されている。表示モニタ 21TM029 及び表示切替スイッチ 21TM030 は、主基板 11 を視認する際の正面に配置されている。主基板 11 の背面中央下部には、後述する設定変更モードまたは設定確認モードに切り替えるための錠スイッチ 21TM051（図 8-1 参照）が設けられている。主基板 11 は、遊技機用枠 3 を開放していない状態では視認できないので、主基板 11 を視認する際の正面とは、遊技機用枠 3 を開放した状態における遊技盤 2 の裏面側を視認する際の正面であり、パチンコ遊技機 1 の正面とは異なる。ただし、主基板 11 を視認する際の正面とパチンコ遊技機 1 の正面とが共通するようにしてもよい。

【0214】

また、主基板 11（遊技制御用マイクロコンピュータ 100）は、各入賞口（大入賞口、第 2 始動入賞口、第 1 始動入賞口、第 1～第 4 一般入賞口、以下、「進入領域」ともいう）への遊技球の進入数の集計を行い、該集計による連比、役比などの各種の入賞情報が表示モニタ 21TM029 に表示されるようになっており、これら入賞情報が表示されることで、遊技場に設置後における連比、役比などの各種の入賞情報を確認できる。つまり、パチンコ遊技機 1 のメーカ側においては、予め定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入するように（試験を通過するように）遊技盤面を設計することが通常である。また、試験を行う際には、あらかじめ定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかが確認される。さらに、パチンコ遊技機 1 を設置した後においても、どのような調整が行われているか、その調整の結果、設計どおりの頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかが確認される。そこで、本実施例のパチンコ遊技機 1 では、当該パチンコ遊技機 1 において、設置後にどのような調整を加えられたかを認識できるようになっている。

【0215】

また、電源基板は、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケースに封入されており、電源基板の背面右側下部には、後述する大当りの当選確率（出玉率）等の設定値を変更するための設定スイッチとして機能するクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 と、電源スイッチ 21TM055 が設けられている。遊技場の店員等が、パチンコ遊技機 1 に電源電圧が供給されていない状態で、電源スイッチ 21TM055 を操作することで、主基板 11、演出制御基板 12、払出制御基板 21TM037 等の各基板に所定の動作電圧が供給される。さらに、電源スイッチ 21TM055 が操作されるタイミングで、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 が操作されていれば、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 にクリア信号が入力され、後述する初期化处理（RAM クリア）が実行される。同じ電源基板上において、電源スイッチ 21TM055 とクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 を近くに配置することで、電源投入操作及び初期化操作を行い易いようにしている。

【0216】

尚、錠スイッチ 21TM051 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 は、パチンコ遊技機 1 の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠 3 を開放しない限り操作不可能とされており、所定のキーを所持する店員のみが操作可能となる。また、錠スイッチ 21TM051 はキー操作を要することから、遊技店の店員のなかでも、錠スイッチ 21TM051 の操作を行うキーを所持する店員のみ操作が可能とされている。また、錠スイッチ 21TM051 は、所定のキーによって ON と OFF の切替操作を実行可能なスイッチであるが、該切替操作を実行可能であると共に該切替操作とは異なる操作（例えば、押込み操作）を実行可能なスイッチであっても良い。

【0217】

なお、錠スイッチ 21TM051 は、ON 状態又は OFF 状態を維持可能である。即ち、遊技場の店員等により力を加えられなくても、錠スイッチ 21TM051 は、ON 状態又は OFF 状態を維持可能である。また、錠スイッチ 21TM051 は、OFF 状態のみキーを挿抜可能な構成とする。このような構成によれば、遊技場の店員等は、キーを回収するために錠スイッチ 21TM051 を OFF 状態としなければならないので、遊技場の店員等が錠スイッチ 21TM051 を ON 状態としたまま放置してしまうことを防ぐことができる。

【0218】

尚、図 8-3 に示すように、パチンコ遊技機 1 の背面側の下部には、各入賞口に入賞した遊技球やアウト口に進入した遊技球をパチンコ遊技機 1 外に排出するためのノズル（排出口）が設けられており、該ノズル内には、パチンコ遊技機 1 内から排出される遊技球を検出する（発射された遊技球を検出する）ための排出口スイッチ 21TM070 が設けられている。該排出口スイッチ 21TM070 は、スイッチ回路 110 に接続されている。

【0219】

主基板 11 から演出制御基板 12 に向けて伝送される制御信号は、中継基板 15 によって中継される。中継基板 15 を介して主基板 11 から演出制御基板 12 に対して伝送される制御コマンドは、例えば電気信号として送受信される演出制御コマンドである。演出制御コマンドには、例えば画像表示装置 5 における画像表示動作を制御するために用いられる表示制御コマンドや、スピーカ 8L、8R からの音声出力を制御するために用いられる音声制御コマンド、枠 LED 9 や装飾用 LED の点灯動作などを制御するために用いられる LED 制御コマンドが含まれている。

【0220】

図 8-2 は、払出制御基板 21TM037 および球払出装置 21TM097 などの払出に関連する構成要素を示すブロック図である。図 8-2 に示すように、払出制御基板 21TM037 には、払出制御用 CPU 21TM371 を含む払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が搭載されている。この実施の形態では、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、1 チップマイクロコンピュータであり、少なくとも RAM が内蔵されている。払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370、RAM（図示せず）、払出制御用プログラムを格納した ROM（図示せず）および I/O ポート等は、払出制御基板 21TM037 を構成する。すなわち、払出制御基板 21TM037 は、払出制御用 CPU 21TM371、RAM および ROM を有する払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 と、I/O ポートとで実現される。また、I/O ポートは、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 に内蔵されていてもよい。

【0221】

球切れスイッチ 21TM187、満タンスイッチ 21TM048 および払出個数カウントスイッチ 21TM301 からの検出信号は、中継基板 21TM072 を介して払出制御基板 21TM037 の I/O ポート 21TM372 f に入力される。なお、この実施の形態では、払出個数カウントスイッチ 21TM301 からの検出信号は、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 に入力されたあと、I/O ポート 21TM372 a および出力回路 21TM373 B を介して主基板 11 に出力される。

【0222】

また、払出制御基板 21TM037 には、図 8-2 に示すように、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠 3 の開放を検知する遊技機枠開放センサと、遊技盤 2 の前面を開閉可能に覆うガラス扉枠 3a の開放を検知する扉枠開放センサと、を備える遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が接続されており、これらのセンサから出力される検知信号に基づいて、各種の異常（エラー）の発生を判定する機能も備えている。なお、遊技機用枠 3 の開放が検知されたときの検知信号と、ガラス扉枠 3a の開放が検知されたときの検出信号とは、異なる端子に入力されることにより、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、遊技機用枠 3 の開放状態と、ガラス扉枠 3a の開放状態とを、区別して認識可能となっている。

【0223】

また、払出モータ位置センサ 21TM295 からの検出信号は、中継基板 21TM072 を介して払出制御基板 21TM037 の I/O ポート 21TM372e に入力される。払出モータ位置センサ 21TM295 は、払出モータ 21TM289 の回転位置を検出するための発光素子（LED）と受光素子とによるセンサであり、遊技球が詰まったこと、すなわちいわゆる球噛みを検出するために用いられる。払出制御基板 21TM037 に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、球切れスイッチ 21TM187 からの検出信号が球切れ状態を示していたり、満タンスイッチ 21TM048 からの検出信号が満タン状態を示していると、球払出処理を停止する。

【0224】

さらに、満タンスイッチ 21TM048 からの検出信号が満タン状態を示していると、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、打球発射装置からの球発射を停止させるために、発射基板 21TM090 に対してローレベルの満タン信号を出力する。発射基板 21TM090 の AND 回路 21TM091 が出力する発射モータ 21TM094 への発射モータ信号は、発射基板 21TM090 から発射モータ 21TM094 に伝えられる。払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 からの満タン信号は、発射基板 21TM090 に搭載された AND 回路 21TM091 の入力側の一方に入力され、駆動信号生成回路 21TM092 からの駆動信号（発射モータ 21TM094 を駆動するための信号であって、電源基板からの電源を供給する役割を果たす信号である。）は、AND 回路 21TM091 の入力側の他方に入力される。そして、AND 回路 21TM091 の発射モータ信号が発射モータ 21TM094 に入力される。すなわち、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が満タン信号を出力している間は、発射モータ 21TM094 への発射モータ信号の出力が停止される。

【0225】

払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 には、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 とシリアル通信で信号を入出力（送受信）するためのシリアル通信回路 21TM380 が内蔵されている。この実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 と払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 とは、シリアル通信回路 21TM505、21TM380 を介して、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 と払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 との間の接続確認を行うために、一定の間隔（例えば 1 秒）で信号（賞球要求信号、受信 ACK 信号）をやり取り（送受信）している。すなわち、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、シリアル通信回路 21TM505 を介して、一定の間隔で接続確認を行うための信号（この実施の形態における賞球要求信号）を送信し、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 からの賞球要求信号を受信した場合、その旨を通知する信号（受信 ACK 信号）を遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に送信する。この実施の形態では、賞球要求信号や受信 ACK 信号に特定のデータを乗せることにより、賞球要求信号や受信 ACK 信号を送受信するタイミングにおいて、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 と払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 との間で特定のデータをやり取りするように構成している。例えば、入賞が発生した場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、払い出すべき賞球個数を示すデータを、賞球要求信号の所定ビットを異ならせることに

10

20

30

40

50

より設定し、当該設定がなされた賞球要求信号を 払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に送信する。そして、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、賞球払出動作が終了すると、賞球終了を示すデータを、受信 A C K 信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた受信 A C K 信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。また、所定のエラー（球貸し、満タン、球切れなどのエラー）が発生した場合には、エラーの内容を示すデータを、受信 A C K 信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた受信 A C K 信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。

【 0 2 2 6 】

払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b を介して、賞球払出数を示す賞球情報信号および貸し球数を示す球貸し個数信号をターミナル基板（枠用外部端子基板と盤用外部端子基板とを含む） 2 1 T M 1 6 0 に出力する。なお、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b の外側に、ドライバ回路が設置されているが、図 8 - 2 では記載省略されている。

【 0 2 2 7 】

また、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 c を介して、7 セグメント L E D によるエラー表示用 L E D 2 1 T M 3 7 4 にエラー信号を出力する。さらに、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b を介して、点灯／消灯を指示するための信号を賞球 L E D 2 1 T M 0 5 3 および球切れ L E D 2 1 T M 0 5 4 に出力する。なお、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の入力ポート 2 1 T M 3 7 2 f には、エラー状態を解除するためのエラー解除スイッチ 2 1 T M 3 7 5 からの検出信号が入力される。エラー解除スイッチ 2 1 T M 3 7 5 は、ソフトウェアリセットによってエラー状態を解除するために用いられる。

【 0 2 2 8 】

さらに、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 からの払出モータ 2 1 T M 2 8 9 への駆動信号は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 a および中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して球払出装 2 1 T M 0 9 7 の払出機構部分における払出モータ 2 1 T M 2 8 9 に伝えられる。なお、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 a の外側に、ドライバ回路（モータ駆動回路）が設置されているが、図 8 - 3 では記載省略されている。

【 0 2 2 9 】

遊技機に隣接して設置されているカードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、カードユニット制御用マイクロコンピュータが搭載されている。また、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、使用可表示ランプ、連結台方向表示器、カード投入表示ランプおよびカード挿入口が設けられている。インタフェース基板（中継基板） 2 1 T M 0 6 6 には、度数表示 L E D 2 1 T M 0 6 0、球貸し可 L E D 2 1 T M 0 6 1、球貸しスイッチ 2 1 T M 0 6 2 および返却スイッチ 2 1 T M 0 6 3 が接続される。

【 0 2 3 0 】

インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 からカードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、遊技者の操作に応じて、球貸しスイッチ 2 1 T M 0 6 2 が操作されたことを示す球貸しスイッチ信号および返却スイッチ 2 1 T M 0 6 3 が操作されたことを示す返却スイッチ信号が与えられる。また、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からインタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 には、プリペイドカードの残高を示すカード残高表示信号および球貸し可表示信号が与えられる。カードユニット 2 1 T M 0 5 0 と払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の間では、接続信号（V L 信号）、ユニット操作信号（B R D Y 信号）、球貸し要求信号（B R Q 信号）、球貸し完了信号（E X S 信号）およびパチンコ機動作信号（P R D Y 信号）が入力ポート 2 1 T M 3 7 2 f および出力ポート 2 1 T M 3 7 2 d を介して送受信される。カードユニット 2 1 T M 0 5 0 と払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の間には、インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 が介在している。よって、接続信号（V L 信号）等の信号は、図 8 - 2 に示すように、インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 を介してカードユニット 2 1 T M 0 5 0 と払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の間で送受信されることになる。

【0231】

パチンコ遊技機1の電源が投入されると、払出制御基板21TM037に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、カードユニット21TM050にPRDY信号を出力する。また、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、電源が投入されると、VL信号を出力する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号の入力状態によってカードユニット21TM050の接続状態／未接続状態を判定する。カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチが操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。

10

【0232】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、カードユニット21TM050に対するEXS信号を立ち上げ、カードユニット21TM050からのBRQ信号の立ち下がりを検出すると、払出モータ21TM289を駆動し、所定個の貸し球を遊技者に払い出す。そして、払出が完了したら、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、カードユニット21TM050に対するEXS信号を立ち下げる。その後、カードユニット21TM050からのBRDY信号がオン状態でないことを条件に、遊技制御用マイクロコンピュータ100から払出指令信号を受けると賞球払出制御を実行する。

【0233】

カードユニット21TM050で用いられる電源電圧AC24Vは払出制御基板21TM037から供給される。すなわち、カードユニット21TM050に対する電源基板からの電力供給は、払出制御基板21TM037およびインタフェース基板21TM066を介して行われる。この例では、インタフェース基板21TM066内に配されているカードユニット21TM050に対するAC24Vの電源供給ラインに、カードユニット21TM050を保護するためのヒューズが設けられ、カードユニット21TM050に所定電圧以上の電圧が供給されることが防止される。

20

【0234】

本実施例のパチンコ遊技機1は、設定値に応じて大当りの当選確率（出玉率）が変わる構成とされている。詳しくは、後述する特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブル（当選確率）を用いることにより、大当りの当選確率（出玉率）が変わるようになっている。設定値は1～6の6段階からなり、6が最も出玉率が高く、6，5，4，3，2，1の順に値が小さくなるほど出玉率が低くなる。すなわち、設定値として6が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高く、5，4，3，2，1の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。

30

【0235】

図8-4（A）～（F）は、各設定値に対応する表示結果判定テーブルを示す説明図である。表示結果判定テーブルとは、ROM101に記憶されているデータの集まりであって、MR1と比較される当り判定値が設定されているテーブルである。各表示結果判定テーブルは、変動特図指定バッファが1（第1）である、つまり、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と、変動特図指定バッファが2（第2）である、つまり、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合のそれぞれについて、大当たりとする判定値が設定されている。

40

【0236】

図8-4（A）に示すように、設定値1に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合、つまり、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合には、設定値が「2」、「3」、「4」、「5」、「6」である場合よりも低い確率（1／300）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされ

50

ている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/300$ ）で大当りに当選するようになっている。

【0237】

また、図8-4（B）に示すように、設定値2に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」である場合よりも高い確率（ $1/280$ ）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/280$ ）で大当りに当選するようになっている。

10

【0238】

また、図8-4（C）に示すように、設定値3に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」である場合よりも高い確率（ $1/280$ ）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/280$ ）で大当りに当選するようになっている。

【0239】

また、図8-4（D）に示すように、設定値4に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」である場合よりも高い確率（ $1/250$ ）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/250$ ）で大当りに当選するようになっている。

20

【0240】

また、図8-4（E）に示すように、設定値5に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」、「4」である場合よりも高い確率（ $1/235$ ）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/235$ ）で大当りに当選するようになっている。

30

【0241】

また、図8-4（F）に示すように、設定値5に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」、「4」、「5」である場合よりも高い確率（ $1/220$ ）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/220$ ）で大当りに当選するようになっている。

40

【0242】

つまり、CPU103は、その時点で設定されている設定値に対応する表示結果判定テーブルを参照して、MR1の値が図8-4（A）～（F）に示す大当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り（大当りA～大当りF）とすることを決定する。すなわち、設定値に応じた確率で大当りの当選を決定する。尚、図8-4（A）～（F）に示す「確率」は、大当りになる確率（割合）を示す。また、大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示装置4Aまたは第2特別図柄表示装置4Bにおける停止図柄を

50

大当り図柄にするか否か決定するということでもある。

【0243】

また、本実施例では、CPU103は、図8-4(A)～(F)に示す表示結果判定テーブルを用いて大当りとするか否かを判定するようになっているが、大当り判定テーブルを別個に設け、大当りの判定は、変動特図指定バッファによらず第1特別図柄の変動表示である場合と第2特別図柄の変動表示である場合とで共通のテーブルを用いて行うようにしてもよい。

【0244】

尚、本実施例では、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値として1～6の計6個の設定値を設けているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値は、2個、3個、4個、5個、または7個以上であってもよい。

【0245】

(設定示唆演出)

設定コマンドを受信した演出制御用CPU120は、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。図8-5(1)、(2)、及び(3)は、設定示唆演出の例を示している。図8-5(1)は、大当り終了画面において「晴れ」態様のエンディング画像が選択された例、図8-5(2)は、大当り終了画面において「曇り」態様のエンディング画面が選択された例、図8-5(3)は、大当り終了画面において「雨」態様のエンディング画像が選択された例を示している。また、図8-5(4)は、設定示唆演出の態様を、設定コマンドが指定した設定値に基づいて決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。

【0246】

CPU103は、設定値を指定する設定コマンドを演出制御用CPU120に送信している。また、CPU103は、大当り遊技状態が終了したときに、画像表示装置5においてエンディング演出を実行するための演出制御用コマンドを演出制御用CPU120に送信する。演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドにより指定された設定値をRAM102に記憶することにより、記憶した設定値に基づいてエンディング演出の態様を決定可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに送信される演出制御用コマンドに基づいて、画像表示装置5に、大当り遊技状態が終了したことを報知する文字(「BONUS終了」の文字)と共に、記憶している設定値に基づいて決定された態様(晴れの態様、曇りの態様、雨の態様)のエンディング画像を表示することが可能となる。

【0247】

図8-5(4)に示すテーブルには、設定コマンドで指定された設定値が「1, 2」である場合、「3, 4」である場合、及び「5, 6」である場合について、それぞれ、設定示唆演出の態様を、図8-5(1)に示す「晴れ」態様に決定する場合、図8-5(2)に示す「曇り」態様に決定する場合、及び図8-5(3)に示す「雨」態様に決定する場合、の判定値が割り振られている。

【0248】

演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「1」又は「2」である場合には、低い割合(例えば20%)で(1)に示す「晴れ」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、中程度の割合(例えば40%)で(2)に示す「曇り」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、中程度の割合(例えば40%)で(3)に示す「雨」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定する。また、演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「3」又は「4」である場合には、低い割合(例えば20%)で(1)に示す「晴れ」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、高い割合(例えば50%)で(2)に示す「曇り」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、中程度の割合(例えば30%)で(3)に示す「雨」

態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定する。また、演出制御用 CPU120 は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「5」又は「6」である場合には、高い割合（例えば 50%）で（1）に示す「晴れ」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、低い割合（例えば 20%）で（2）に示す「曇り」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、中程度の割合（例えば 30%）で（3）に示す「雨」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定する。

【0249】

このように、設定値に応じて設定示唆演出の各態様の決定割合を異ならせることにより、遊技者は設定示唆演出がどのような態様で実行されるかに関心を抱くことになり、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。本例では、遊技者は、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出がどのような態様で実行されるかに関心を抱くことになり、特に、「晴れ」態様でエンディング演出が実行されることに期待することになる。

【0250】

（電源投入時処理）

次に、電源投入時処理について説明する。

図8-6～図8-8は、パチンコ遊技機1の電源投入時に遊技制御用マイクロコンピュータ100において実行される処理の一例を示す図である。

【0251】

図8-6に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103は、電源が投入された後に、バックアップRAM領域のデータチェックを行う（ステップS21TM4010）。この処理は、データチェックとしてパリティチェックを行う。

【0252】

チェック結果が正常であれば（ステップS21TM4010でYES）、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が、正規の値、例えば、0～5の何れかに合致するか否かを確認する（ステップS21TM4020）。本例では設定値格納領域に格納されている設定値として、0、1、2、3、4、及び5の6つの数字を正規の値としており、大当り確率が異なる6段階の設定値を設けている。本例における設定値0は前述した図8-4等で示す設定値1に相当し、本例における設定値1は前述した図8-4等で示す設定値2に相当し、本例における設定値2は前述した図8-4等で示す設定値3に相当し、本例における設定値3は前述した図8-4等で示す設定値4に相当し、本例における設定値4は前述した図8-4等で示す設定値5に相当し、本例における設定値5は前述した図8-4等で示す設定値6に相当する。

【0253】

ここで、本例では、パチンコ遊技機1が遊技機メーカーから出荷される際（遊技場に設置される前）には、設定値格納領域に、上記正規の値のうち最も大当り確率が低い値（本例では0）が記憶されているものとする。なお、設定値格納領域のデータが壊れている場合には、正規の値となっていない場合がある。設定値が正規の値であれば（ステップS21TM4020でYES）、設定変更中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS21TM4030）。設定変更中フラグは、後述する設定変更モードに移行したときにセットされ（ステップS21TM4580）、錠スイッチ21TM051がOFF状態に切り替えられたときにクリアされる（ステップS21TM4720）。

【0254】

設定変更中フラグがセットされていなければ（ステップS21TM4030でNO）、CPU103は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であるか否かを確認する（ステップS21TM4040）。

【0255】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であれば（ステップS21TM4040でYES）、CPU103は、RAMクリアフラグを1に設定する（ス

10

20

30

40

50

テップ S 2 1 T M 4 0 5 0)。R A M クリアフラグの値は、R A M クリア（遊技状態の初期化）が実行されることに決定されたか否かを示す値であり、値が 1 である場合には R A M クリアが実行されることに決定されたことを示している。本例では、R A M クリアフラグが 1 にセットされた時点では実際に R A M クリアは実行されておらず、設定変更モードに制御される場合には、設定変更モードに関する処理が終了した後に R A M クリアが実行されることになる。

【 0 2 5 6 】

R A M クリアフラグの値が格納される領域は、バックアップ R A M 領域には含まれない。そのため電源断が発生した場合には R A M クリアフラグの値は保持されず、電源復旧時の R A M クリアフラグの値は 0（初期値が非セット状態）となっている。なお、遊技状態が初期化されることの報知は、設定変更モード又は設定確認モードに制御される前に行われるようにしても良く、後述するように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に行われるようにしても良い。

【 0 2 5 7 】

一方、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が O F F 状態であれば（ステップ S 2 1 T M 4 0 4 0 で N O）、C P U 1 0 3 は、ステップ S 2 1 T M 4 0 6 0 に移行する。

【 0 2 5 8 】

次いで、C P U 1 0 3 は、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が開放状態となっているか否かを確認する（ステップ S 2 1 T M 4 0 6 0）。ここで、前述したように、遊技機用枠 3 の開放状態、ガラス扉枠 3 a の開放状態は、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により検出可能となっており、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 から払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に、遊技機用枠 3 の開放状態が検出されたことを示す検出信号、ガラス扉枠 3 a の開放状態が検出されたことを示す検出信号が出力される。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が、遊技機用枠 3 の開放状態が検出されたことを認識すると、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に、遊技機用枠 3 の開放状態が検出された旨を通知し、ガラス扉枠 3 a の開放状態が検出されたことを認識すると、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に、ガラス扉枠 3 a の開放状態が検出された旨を通知することで、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 側で、遊技機用枠 3 の開放状態と、ガラス扉枠 3 a の開放状態とを、個別に認識可能となっている。

【 0 2 5 9 】

なお、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 から遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に対して、遊技機用枠 3 の開放状態が検出されたことを示す検出信号、ガラス扉枠 3 a の開放状態が検出されたことを示す検出信号が出力される構成とした場合（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 を備える場合）には、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、これらの検出信号の入力によって、遊技機用枠 3 の開放状態と、ガラス扉枠 3 a の開放状態とを、個別に認識可能となる。

【 0 2 6 0 】

C P U 1 0 3 が、遊技機用枠 3 の開放状態又はガラス扉枠 3 a の開放状態を認識した場合には（ステップ S 2 1 T M 4 0 6 0 で Y E S）、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であるか否かを確認する（ステップ S 2 1 T M 4 0 7 0）。そして、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であれば（ステップ S 2 1 T M 4 0 7 0 で Y E S）、図 8 - 7 に示す、設定変更モード又は設定確認モードに関連したステップ S 2 1 T M 4 5 1 0 以降の処理、に移行する。設定変更モードに移行した場合には設定値の確認及び変更が可能となり、設定確認モードに移行した場合には設定値の確認が可能となる。

【 0 2 6 1 】

即ち、バックアップ R A M 領域のデータチェック結果が正常であり（ステップ S 2 1 T M 4 0 1 0 で Y E S）、設定値が正規の値であり（ステップ S 2 1 T M 4 0 2 0 で Y E S）、設定変更中に電源断が発生していない場合には（ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で N O

10

20

30

40

50

）、遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4060でYES）、且つ、錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM4070でYES）ことを条件として、設定値の変更及び／又は確認が可能となる。一方、遊技機用枠3が閉鎖状態であるか（ステップS21TM4060でNO）、又は、錠スイッチ21TM051がOFF状態である（ステップS21TM4070でNO）場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく、後述するステップS21TM4760（設定コマンドの送信）に移行する。

【0262】

本実施形態では、設定値の変更を許可しないものの設定値を確認することが可能な状態（設定確認モード）とするためには、（1）遊技機用枠3が開放状態であり、（2）錠スイッチ21TM051がON状態である、という2つの条件が必要となっている。CPU103は、ステップS21TM4060及びステップS21TM4070の判定処理によって、これら（1）及び（2）の条件が何れも成立していることを確認したときに、設定値を確認することが可能な状態（設定確認モード）に移行可能としている。また、これら（1）及び（2）の条件に加えて、さらに、（3）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である（YES）と判定されたことに基づいてRAMクリアフラグがセットされていることを条件として、後述するように、設定値を変更することが可能な状態（設定変更モード）に移行可能となっている。

【0263】

前述したように、設定値を確認又は変更するために操作しなければならない錠スイッチ21TM051は、遊技盤2の裏面側に設けられており、遊技機用枠3を開放状態としなければ操作することができない。仮に、遊技機用枠3が開放状態となっていないにもかかわらず、錠スイッチ21TM051が操作されたということは、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300に異常があるか、又は、何らかの不正な手段で設定値の確認又は変更が行われようとしている可能性がある。このような状態で、設定値の確認又は変更を許可することは不適切であるため、本実施形態では、遊技機用枠3が開放状態となっていないときには、パチンコ遊技機1を設定確認モード及び設定変更モードの何れにも制御させないようにしている。

【0264】

なお、本実施形態では、（1）の条件として、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの何れか一方が開放状態となっているときには、パチンコ遊技機1を設定確認モード又は設定変更モードに制御可能としているが、このような形態に限らず、仮に、ガラス扉枠3aが開放状態となっても、遊技機用枠3が開放状態となっていなければ、設定確認モード及び設定変更モードの何れにも制御させないようにしても良い。

【0265】

一方、ステップS21TM4060で、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識しなかった場合（ステップS21TM4060でNO）、即ち、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっている場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく、後述するステップS21TM4760（設定コマンドの送信）に移行する。また、ステップS21TM4070で、錠スイッチ21TM051がOFF状態であることが確認されると（ステップS21TM4070でNO）、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく、後述するステップS21TM4760（設定コマンドの送信）に移行する。

【0266】

バックアップRAM領域のデータチェックにおいて（ステップS21TM4010）、チェック結果が異常であれば（ステップS21TM4010でNO）、CPU103は、ステップS21TM4120に移行する。また、設定値格納領域に格納されている値のチェックにおいて（ステップS21TM4020）、設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されていない場合には（ステップS21TM4020でNO）、CPU103は、ステップS21TM4120に移行する。また、設定変更中フラグのチェックにおいて（

10

20

30

40

50

ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0)、設定変更中フラグがセットされていることが確認された場合には(ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0で Y E S)、C P U 1 0 3は、ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0に移行する。

【0267】

ここで、仮に、設定値格納領域に正規の値(0~5)が格納されている場合であっても、バックアップRAM領域の一部が壊れている場合には、ステップ S 2 1 T M 4 0 1 0で N Oと判定されて、ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0に移行する。即ち、設定値格納領域に格納されている値が不適切である可能性がある場合には、設定変更モード移行条件(後述するステップ S 2 1 T M 4 1 2 0~ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0)が成立していることに基づいて設定変更モードに制御されることになる。また、仮に、バックアップRAM領域のデータチェックにおいて(ステップ S 2 1 T M 4 0 1 0)、チェック結果が正常であっても(ステップ S 2 1 T M 4 0 1 0で Y E S)、設定値格納領域に正規の値(0~5)が格納されていない場合には(ステップ S 2 1 T M 4 0 2 0で N O)、設定変更モード移行条件(後述するステップ S 2 1 T M 4 1 2 0~ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0)が成立していることに基づいて設定変更モードに制御されることになる。また、前回の電源断発生時に設定変更モードに制御されていた場合には、設定変更モード移行条件(後述するステップ S 2 1 T M 4 1 2 0~ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0)が成立していることに基づいて設定変更モードに制御されることになる。

【0268】

ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0において、C P U 1 0 3は、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっているか否かを確認する(ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0)。C P U 1 0 3が、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識した場合には(ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0で Y E S)、錠スイッチ21 T M 0 5 1がON状態であるか否かを確認する(ステップ S 2 1 T M 4 1 3 0)。

【0269】

錠スイッチ21 T M 0 5 1がON状態であれば(ステップ S 2 1 T M 4 1 3 0で Y E S)、C P U 1 0 3は、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21 T M 0 5 2がON状態であるか否かを確認する(ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0)。

【0270】

クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21 T M 0 5 2がON状態であれば(ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0で Y E S)、C P U 1 0 3は、RAMクリアフラグを1に設定する(ステップ S 2 1 T M 4 1 5 0)。そして、図8-7に示す、設定変更モードに関連したステップ S 2 1 T M 4 5 1 0以降の処理が実行される。

【0271】

一方、ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0で、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識しなかった場合(ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0で N O)、即ち、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっている場合、ステップ S 2 1 T M 4 1 3 0で、錠スイッチ21 T M 0 5 1がON状態となっていない場合(ステップ S 2 1 T M 4 1 3 0で N O)、ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0において、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21 T M 0 5 2がON状態となっていない場合(ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0で N O)には、C P U 1 0 3は、設定変更モードに関連したステップ S 2 1 T M 4 5 1 0以降の処理を実行することなく、設定値格納領域に格納されている設定値が異常である可能性があることを示す設定値異常エラーコマンドを演出制御用C P U 1 2 0に送信する。

【0272】

演出制御用C P U 1 2 0は、設定値異常エラーコマンドを受信すると、画像表示装置5において、設定値が異常である可能性があることを報知する。例えば「設定値が異常である可能性があります」というメッセージを表示する。さらに、演出制御用C P U 1 2 0は、画像表示装置5において、一旦は電源断の状態(電源スイッチ21 T M 0 5 5をO F F)にした後、電源再投入時(電源スイッチ21 T M 0 5 5をO N時)に設定変更モードに移行させて設定値を変更するための操作を行う(設定値を確定させる)ように促す報知を

10

20

30

40

50

行う。例えば「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示する。なお、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力により、同様の報知を行うようにしても良い。

【0273】

次いで、演出制御用 CPU 120 は、電源断となるまで所定のループ処理（ステップ S 21 TM 4 2 0 0 ～ステップ S 21 TM 4 2 2 0 の繰り返し）を実行する。

【0274】

このループ処理では、CPU 103 が、4 ms のウェイト（ステップ S 21 TM 4 2 0 0）を行った後に、表示モニタ 21 TM 0 2 9 に「E」の文字を表示すること等により、「設定値が正規の値（0～5）ではない可能性があるにもかかわらず設定変更モードに制御するための移行条件（ステップ S 21 TM 4 1 2 0 ～ステップ S 21 TM 4 1 4 0 で全て YES と判定されること）が成立しておらず設定変更モードに移行していないこと」を報知する（ステップ S 21 TM 4 2 1 0）。そして、セキュリティ信号線の一端が接続されている出力端子（端子番号 10）からセキュリティ信号を出力する（ステップ S 21 TM 4 2 2 0）。セキュリティ信号はセキュリティ信号線他端が接続されている外部装置（例えば、複数の遊技機の情報を管理するホールコンピュータ、当該遊技機に対応して設けられるカードユニット又は呼出ランプ装置等）に入力される。

【0275】

ループ処理の期間は、表示モニタ 21 TM 0 2 9 が備える 7 セグメント表示器に、4 ms 毎に「E」の文字が表示されることになる。4 ms のウェイトを設けることで 7 セグメント表示器に過度の熱が滞留して表示器にダメージを及ぼすことを防止するようにしている。また、ループ処理の期間はセキュリティ信号が継続して出力されている。セキュリティ信号を外部出力することで、ホールコンピュータ等の外部装置において、セキュリティ信号が入力されたことに基づいて当該パチンコ遊技機 1 で所定事象（本例では、設定値が正規の値（0～5）ではない可能性があるにもかかわらず設定変更モードに制御するための移行条件が成立しておらず設定変更モードに移行していないこと）が発生した可能性を特定可能となる。

【0276】

ステップ S 21 TM 4 2 0 0 ～ステップ S 21 TM 4 2 2 0 のループ処理は、電力供給が停止するまで（電源スイッチ 21 TM 0 5 5 が OFF とされるまで）継続されることになる。

【0277】

即ち、バックアップ RAM 領域のデータチェック結果が異常である場合（ステップ S 21 TM 4 0 1 0 で NO）、設定値が正規の値ではない場合（ステップ S 21 TM 4 0 2 0 で NO）、及び、設定変更中に電源断が発生した場合（即ち、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合であり、ステップ S 21 TM 4 0 3 0 で YES と判定される場合）、のいずれかに該当する場合には、この状態で遊技を行わせるべきではなく、通常遊技処理（例えば、賞球処理や特別図柄プロセス処理等を含む遊技制御用タイマ割込処理）に移行する前に、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させる必要がある。そのため、RAM クリアフラグをセットして設定変更モードに移行させるようにしている。

【0278】

本実施形態では、設定値の変更が可能な状態（設定変更モード）とするためには、（1）遊技機用枠 3 が開放状態であり、（2）錠スイッチ 21 TM 0 5 1 が ON 状態であり、（3）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21 TM 0 5 2 が ON 状態である、という 3 つの条件が必要となっている。CPU 103 は、ステップ S 21 TM 4 1 2 0、ステップ S 21 TM 4 1 3 0、及びステップ S 21 TM 4 1 4 0 の判定処理によって、これら（1）～（3）の条件が何れも成立していることを確認したときに、設定値の変更が可能な状態（設定変更モード）に移行可能としている。

【0279】

仮に、（1）～（3）の条件のうち何れかの条件が成立していなければ、設定値の変更

10

20

30

40

50

が許可されないため、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させることができず、通常遊技処理に移行させることができない。そのため、ステップS21TM4120、ステップS21TM4130、及びステップS21TM4140の判定処理のうち、何れかでNOと判定された場合には、前述したループ処理（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220）に移行する。

【0280】

ループ処理（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220）に移行してしまうと通常遊技処理に移行することができなくなるため、遊技場の店員等は、一旦パチンコ遊技機1を電源断として再度電源を投入しなければならない。このように、設定変更モードに移行するための条件が成立していない場合には、一旦は電源断を行わせて、次の電源投入時に（1）～（3）の条件を全て成立させるようにして、設定変更モードに移行させ、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させるようにしている。

【0281】

なお、CPU103は、（1）～（3）の条件のうち何れかの条件が成立していない場合には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bを、予め定められた電源断指示態様で発光させることにより、電源をOFF状態とするように促すようにしても良い。

【0282】

本実施形態では、設定変更中フラグがセットされていない場合（ステップS21TM4030でNO）、設定値の変更を許可しないものの、設定値を確認することが可能な状態（設定確認モード）とするために、（1）遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4060でYES）、（2）錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM4070でYES）、という2つの条件が必要となっている。

【0283】

しかしながら、設定変更中フラグがセットされている場合には（ステップS21TM4030でYES）、（1）遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4120でYES）、（2）錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM4130でYES）、という2つの条件が成立している場合であっても、設定確認モードに制御されることはない。これら（1）及び（2）の条件が成立している場合であっても、（3）ステップS21TM4140でクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態でない（NO）と判定された場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理）に制御されることになる。

【0284】

次に、設定変更モード及び設定確認モードに関連する処理について、図8-7及び図8-8を用いて説明する。図8-7の処理において、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が、正規の値（本例では0～5の何れか）に合致するか否かを確認する（ステップS21TM4510）。設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されている場合には（ステップS21TM4510でYES）、ステップS21TM4530に移行する。設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されていない場合には（ステップS21TM4510でNO）、CPU103は、設定値格納領域に、正規の値として、最も大当り確率が低い「0」を格納する（ステップS21TM4520）。そして、ステップS21TM4530に移行する。

【0285】

次いで、CPU103は、4msのウェイト（ステップS21TM4530）を行った後に、電源断用処理を実行する（ステップS21TM4540）。電源断用処理において、CPU103は、不測の停電等を含む電源断に基づく電源断信号が入力されているか否かを確認して、電源断信号が入力されている場合には、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、RAM102にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、

10

20

30

40

50

RAM102のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号（チェックサム、パリティビット等）の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ（各種フラグ、各種タイマの状態等を含む）の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。即ち、電源断用処理では所定のバックアップ領域にチェックデータを格納する。

【0286】

これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されているときに（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620の繰返し処理、又は、ステップS21TM4530～ステップS21TM4570及びステップS21TM4650の繰返し処理が行われているときに）、電源断が発生した場合、電源復旧後のステップS21TM4010で適切にデータチェックが実行されることになる。

10

【0287】

次いで、CPU103は、設定値格納領域に格納されている設定値（本例では0～5）に対応した値を、表示モニタ21TM029に表示させる（ステップS21TM4550）。ここで、表示モニタ21TM029に表示される値は、設定値格納領域に格納されている値（0～5）に1を加算した値（1～6）である。遊技場の店員は通常、設定値の範囲を1～6と認識しているため、設定値格納領域に格納されている値をそのまま表示モニタ21TM029に表示させてしまうと、遊技場の店員が実際の設定値を誤って認識してしまうおそれがある。従って、本例では「設定値格納領域に格納されている値+1」を、設定値として表示モニタ21TM029に表示させるようにしている。次いで、CPU103は、セキュリティ信号を出力する（ステップS21TM4560）。

20

【0288】

次いで、CPU103は、RAMクリアフラグが0であるか否かを確認する（ステップS21TM4570）。RAMクリアフラグが0であれば（ステップS21TM4570でYES）、即ち、モード（ここでは設定確認モード）終了後にRAMクリアが実行されない場合には、CPU103は、設定確認モードに制御されたことを指定する設定確認モードコマンドを送信し（ステップS21TM4650）、ステップS21TM4680に移行する。演出制御用CPU120は、設定確認モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定確認モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5やスピーカ8L、8Rにより、当該遊技機が設定確認モードに制御されていることを報知することが可能となる。

30

【0289】

一方、RAMクリアフラグが1であれば（ステップS21TM4570でNO）、即ち、モード（ここでは設定変更モード）終了後にRAMクリアが実行される場合には、CPU103は、設定値の変更が行われている可能性があることを示す設定変更中フラグをセットする（ステップS21TM4580）。設定変更中フラグの値が格納される領域は、バックアップRAM領域に含まれるため、電源断の状態となっても、設定変更中フラグの値は保持される。そのため設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合には、次の電源投入時に設定変更中フラグの値が1の状態（セット状態）となっている。

【0290】

40

次いで、CPU103は、設定変更モードに制御されたことを指定する設定変更モードコマンドを送信する（ステップS21TM4590）。演出制御用CPU120は、設定変更モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5やスピーカ8L、8Rにより、当該遊技機が設定変更モードに制御されていることを報知することが可能となる。

【0291】

次いで、CPU103は、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたか否かを示す設定切替スイッチ情報を入力し（ステップS21TM4600）、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたか否かを確認する（ステ

50

ップ S 2 1 T M 4 6 1 0)。

【 0 2 9 2 】

設定切替スイッチ (クリアスイッチ) 2 1 T M 0 5 2 が操作されていなければ (ステップ S 2 1 T M 4 6 1 0 で N O)、C P U 1 0 3 は、ステップ S 2 1 T M 4 6 8 0 に移行する。設定切替スイッチ (クリアスイッチ) 2 1 T M 0 5 2 が操作された場合には (ステップ S 2 1 T M 4 6 1 0 で Y E S)、C P U 1 0 3 は、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値を更新して (ステップ S 2 1 T M 4 6 2 0)、ステップ S 2 1 T M 4 6 8 0 に移行する。更新された設定値は次のステップ S 2 1 T M 4 5 5 0 で表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示される。

【 0 2 9 3 】

遊技場の店員が、設定切替スイッチ (クリアスイッチ) 2 1 T M 0 5 2 を操作する (ステップ S 2 1 T M 4 6 1 0 で Y E S) 毎に、設定値格納領域に格納されている設定値が更新される (ステップ S 2 1 T M 4 6 2 0)。例えば、正規の設定値が 0 ~ 5 の範囲であり、設定変更モードに制御されたとき (電源投入時、前回の電源断発生時) に設定値格納領域に格納されていた設定値が 3 であったとすると、設定変更操作毎に、設定値格納領域に格納される設定値が、3 → 4 → 5 → 0 → 1 → 2 → 3 の順序で更新され、これに応じて、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示される情報が、4 → 5 → 6 → 1 → 2 → 3 → 4 の順序で更新されることになる。

【 0 2 9 4 】

ここで、現在の設定値の表示 (ステップ S 2 1 T M 4 5 5 0) 及びセキュリティ信号の出力 (ステップ S 2 1 T M 4 5 6 0)、並びに設定確認モードコマンドの送信 (ステップ S 2 1 T M 4 6 5 0) を実行可能であるが、設定変更モードコマンドの送信 (ステップ S 2 1 T M 4 5 9 0) 及び設定値の更新 (ステップ S 2 1 T M 4 6 2 0) を実行できない状態は、設定値の確認は可能であるか設定値の変更はできない設定確認モードに相当する。設定確認モードに制御されている期間は、ステップ S 2 1 T M 4 5 3 0 ~ ステップ S 2 1 T M 4 5 7 0 及びステップ S 2 1 T M 4 6 5 0 の処理が繰り返し実行されることになる。

【 0 2 9 5 】

設定確認モードには、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であり (ステップ S 2 1 T M 4 0 7 0 で Y E S と判定され)、クリアスイッチ (設定切替スイッチ) 2 1 T M 0 5 2 が O F F 状態であること (ステップ S 2 1 T M 4 0 4 0 で N O と判定されて R A M クリアフラグが 0 のままであること) に基づいて制御される。

【 0 2 9 6 】

また、現在の設定値の表示 (ステップ S 2 1 T M 4 5 5 0) 及びセキュリティ信号の出力 (ステップ S 2 1 T M 4 5 6 0) を実行可能であると共に、設定変更モードコマンドの送信 (ステップ S 2 1 T M 4 5 9 0) 及び設定値の更新 (ステップ S 2 1 T M 4 6 2 0) を実行可能な状態は、設定値の確認及び変更が可能な設定変更モードに相当する。

【 0 2 9 7 】

設定変更モードには、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であり (ステップ S 2 1 T M 4 0 7 0 又はステップ S 2 1 T M 4 1 3 0 で Y E S と判定され)、クリアスイッチ (設定切替スイッチ) 2 1 T M 0 5 2 が O N 状態であること (ステップ S 2 1 T M 4 0 4 0 又はステップ S 2 1 T M 4 1 4 0 で Y E S と判定されて、ステップ S 2 1 T M 4 0 5 0 又はステップ S 2 1 T M 4 1 5 0 で R A M クリアフラグが 1 に設定されていること) に基づいて制御される。

【 0 2 9 8 】

なお、設定確認モードコマンドに関しては、設定確認モード制御時に 1 回のみ送信されるコマンドである。そのため、C P U 1 0 3 は、設定確認モードコマンドを送信したときに、設定確認モードコマンドを送信したことを特定可能であり電源断時のバックアップ記憶が不要な設定確認モードコマンド送信フラグをセットするようにしておき、設定変更中フラグがクリアされたとき (ステップ S 2 1 T M 4 7 2 0) に、設定確認モードコマンド送信フラグをクリアするようにしても良い。そして、設定確認モードコマンド送信フラグ

10

20

30

40

50

がセットされていない場合にのみ、設定確認モードコマンドを送信可能としても良い。同様に、設定変更モードコマンドに関しては、設定変更モード制御時に1回のみ送信されるコマンドである。そのため、CPU103は、設定変更モードコマンドを送信したときに、設定変更モードコマンドを送信したことを特定可能であり電源断時のバックアップ記憶が不要な設定変更モードコマンド送信フラグをセットするようにしておき、設定変更中フラグがクリアされたとき（ステップS21TM4720）に、設定変更モードコマンド送信フラグをクリアするようにしても良い。そして、設定変更モードコマンド送信フラグがセットされていない場合にのみ、設定変更モードコマンドを送信可能としても良い。

【0299】

CPU103は、ステップS21TM4680において、錠スイッチ21TM051がOFF状態であるか否かを確認する。そして、錠スイッチ21TM051がON状態であれば（ステップS21TM4680でNO）、再び4msのウェイト（ステップS21TM4530）を行った後にステップS21TM4540以降の処理を繰り返す。即ち、RAMクリアフラグの値が0であれば設定確認モードの制御を継続し、RAMクリアフラグの値が1であれば設定変更モードの制御を継続する。

【0300】

ステップS21TM4680において、錠スイッチ21TM051がOFF状態であれば（ステップS21TM4680でYES）、CPU103は、設定変更モード又は設定確認モードを終了させて、セキュリティ信号タイマの値として1000msを設定する（ステップS21TM4710）。セキュリティ信号タイマの値として所定時間が設定されることで、その後、通常遊技処理に移行した際の情報出力処理において、セキュリティ信号タイマの値が所定時間から0msになるまでセキュリティ信号が継続して出力されることになる。例えば、遊技制御用タイマ割込処理が2ms毎に実行される場合には、セキュリティ信号タイマの値が2msずつ減算され、0msになった時点でセキュリティ信号の出力が停止される。従って、ステップS21TM4710の時点では、設定変更モードが終了したのか、あるいは、設定確認モードが終了したのかにかかわらず、セキュリティ信号の残り出力期間が1000msに設定されていることになる。

【0301】

即ち、図8-9（1）に示すように、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の開始に対応してセキュリティ信号の出力を開始し（ステップS21TM4560）、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の終了に対応して、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の終了から少なくとも1secが経過するまでセキュリティ信号を継続して出力するようにセキュリティ信号タイマの値をセットする（ステップS21TM4710）。

【0302】

ここで、ステップS21TM4560でセキュリティ信号の出力を開始する処理は、設定変更モードに制御されるか、あるいは設定確認モードに制御されるかにかかわらず（何れのモードに制御されるかの判定を行うことなく）共通の処理として実行されている。また、ステップS21TM4710においてセキュリティ信号の残り出力期間をセットする処理も、設定変更モードに制御されたのか、あるいは設定確認モードに制御されたのかにかかわらず（何れのモードに制御されたかの判定を行うことなく）共通の処理として実行されている。このように、設定変更モードに制御される場合と、設定確認モードに制御される場合とで、セキュリティ信号の出力開始制御及び出力終了制御を共通化することにより、セキュリティ信号の出力制御を簡素化し、制御負担を軽減させることができる。

【0303】

また、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の開始に対応してセキュリティ信号の出力を開始し、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の終了に対応してセキュリティ信号の出力を停止することにより、ホールコンピュータ等の外部装置に対して、当該遊技機が設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があることを適切に通知することができる。

【0304】

ここで、設定変更モード又は設定確認モードの制御が終了した直後のステップS21TM4710では、設定変更モードに制御された場合と、設定確認モードに制御された場合とで共通の値(1000ms)をセキュリティ信号タイマにセットしている。しかしながら、設定変更モードに制御された場合と、設定変更モードに制御された場合とで、セキュリティ信号の出力開始制御及び出力終了制御を両方とも共通化してしまうと、外部装置側で何れのモードに制御されたのかを把握することが困難となってしまう。

【0305】

そこで、本実施形態では、図8-9(2)に示すように、設定変更モードに制御された場合、即ちRAMクリアフラグが1にセットされている場合には、一旦はステップS21TM4710でセキュリティ信号タイマの値として1000msをセットした後に、後述するステップS21TM4770でNOと判定されたことに基づいて、RAMクリア後のステップS21TM1465でセキュリティ信号タイマの値として3000msを再セットする(上書きする)ようにしている。即ち、セキュリティ信号の残り出力期間を一旦は1secにセットした後に、セキュリティ信号の残り出力期間を30secに再セットする(上書きする)ようにしている。

【0306】

以上に示した信号出力制御を行った場合、セキュリティ信号の最終的な出力停止タイミングは、図8-9(2)に示すように、設定確認モードに制御されていた場合には設定確認モード終了から1secが経過したタイミングとなり、設定変更モードに制御されていた場合には設定変更モード終了から30secが経過したタイミングとなる。

【0307】

具体的には、設定確認モードに制御されていた場合(RAMクリアが行われず、セキュリティ信号タイマの値が1秒から変更されなかった場合)には、割込許可後の遊技制御用タイマ割込処理(例えば、情報出力処理)において、セキュリティ信号タイマの値が1000msから0msになるまでセキュリティ信号の出力を継続し、設定変更モードに制御されていた場合(RAMクリアが行われた場合であり、セキュリティ信号タイマの値が1秒から30秒に変更された場合)には、割込許可後の遊技制御用タイマ割込処理(例えば、情報出力処理)において、セキュリティ信号タイマの値が3000msから0msになるまでセキュリティ信号の出力を継続することになる。なお、設定確認モードに制御されていた場合、設定変更モードに制御されていた場合に、遊技制御用タイマ割込処理に移行する前のタイミングで、セキュリティ信号タイマの値が所定時間(1000ms又は3000ms)から0msになるまでセキュリティ信号の出力を継続するようにして、セキュリティ信号の出力終了後に遊技制御用タイマ割込処理に移行するようにしても良い。

【0308】

このように、設定確認モードの制御が終了した場合と、設定変更モードの制御が終了した場合とで、少なくとも1secはセキュリティ信号が継続して出力されることになり、設定変更モードに制御された場合には、設定変更モードの制御が終了してから30secが経過するまでセキュリティ信号が継続して出力されることになる。このような構成により、セキュリティ信号の出力制御を共通化しつつ、設定確認モードに制御された場合と、設定変更モードに制御された場合とで、セキュリティ信号の出力期間を異ならせることができる。

【0309】

その結果、外部装置においては、初期化処理が実行されずに設定確認モードに制御されたのか、又は、初期化処理が実行されて設定変更モードに制御されたのかを把握することも可能となる。例えば、セキュリティ信号の出力期間が30秒未満であれば初期化処理が実行されることなく設定確認モードに制御されたことを特定可能であり、セキュリティ信号の出力期間が30秒以上であれば初期化処理が実行されて設定変更モードに制御された可能性があることを推定可能となる。

【0310】

なお、磁気異常等の遊技停止対象エラーが異常検出センサにより検出された場合にも、セキュリティ信号が出力されることになる。この場合のセキュリティ信号は、遊技機の電源がOFFとなるまで継続して出力される。また、CPU103は、異常検出センサにより異常が検出されたことに基づいてRAM102のバックアップ領域（ただし初期化処理によりクリアされる領域）に異常検出フラグをセットする。そして、電源復旧時に異常検出フラグがセットされていることに基づいて、セキュリティ信号を4分間出力するものとする。

【0311】

ここで、電源復旧時に設定確認モードに制御された場合には、RAMクリアが実行されないため、信号出力処理において異常検出フラグの値が初期化されずにセットされたままの状態となっており、セキュリティ信号を電源ONから4分間継続して出力することが可能である。即ち、セキュリティ信号の出力期間を、設定確認モードの制御終了から1秒が経過するまでの期間に限定させないことが可能となる。一方で、電源復旧時に設定変更モードに制御された場合には、RAMクリアが実行されることになるため、その後の信号出力処理において異常検出フラグがクリアされた状態となっており（電源断発生時に異常が検出されていたか否かが不明な状態となっており）、結果として、セキュリティ信号の出力期間は、設定変更モードの終了から30秒が経過するまでの期間（RAMクリアの実行に応じた期間）となる。

【0312】

なお、図8-7のステップS21TM4710に示す例では、セキュリティ信号タイマの値として1秒を設定するようにしているが、このような形態に限らず、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に最初に設定するセキュリティ信号タイマの値は、少なくともセキュリティ信号が出力されたことを外部装置側で認識可能な期間であれば良く、例えば50ms以上であれば良い。即ち、設定変更モードが終了した場合と設定確認モードが終了した場合とで、共通の50msをセキュリティ信号タイマの値として設定しても良い。

【0313】

ステップS21TM4710の処理の後、CPU103は、設定変更中フラグをクリアする（ステップS21TM4720）。ここで、設定変更中フラグがクリアされたことにより、これ以降に電源断が発生した場合には、電源復旧時に設定変更中フラグがセットされていない（ステップS21TM4030でNO）と判定されることになる。

【0314】

次いで、CPU103は、表示モニタ21TM029に表示している設定値を消去する（ステップS21TM4730）。そして、設定値格納領域に格納されている設定値（0～5の何れか）を設定コマンドにセットして、その設定コマンドを送信する（ステップS21TM4760）。なお、電源投入時に設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されない場合であっても、ステップS21TM4760の処理は実行されることになり、設定コマンドが送信される。

【0315】

ここで、遊技者は通常、設定値の範囲を1～6と認識しており、演出制御用CPU120側で、設定コマンドが指定する値（設定値格納領域に格納されている値）をそのまま画像表示装置5に表示してしまうと、遊技者が設定値を誤って理解してしまうおそれがある。そこで、本実施形態では、演出制御用CPU120側で、設定コマンドにより指定される値（0～5）に1を加算した値を設定値（1～6）として認識し、設定値1～6の範囲で、設定値を示唆する演出を実行するようにしている。

【0316】

なお、このような形態に限らず、CPU103が、設定値格納領域に格納されている設定値（0～5）に1を加算した値（1～6）を設定コマンドにセットして、演出制御用CPU120に送信するようにしても良い。これにより、設定コマンドが指定する設定値の範囲は1～6となり、遊技者が通常認識している範囲と合致することになる。演出制御用CPU120側では、設定コマンドが指定する設定値（1～6）をそのまま画像表示装置

10

20

30

40

50

5に表示したり、あるいは、設定コマンドが指定する設定値（1～6）を示唆する演出を実行することで、適切に設定値を報知又は示唆することができる。また、演出制御用CPU120側で、受信した設定コマンドが指定する設定値に対して加算処理を行うことも不要となり、演出制御用CPU120側の制御負担を軽減できる。

【0317】

前述したように、演出制御用CPU120は、設定コマンドの受信により、設定確認モード又は設定変更モードが終了したことを特定可能である。また、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。

10

【0318】

次いで、CPU103は、RAMクリアフラグの値が0であるか否かを確認する（ステップS21TM4770）。

【0319】

ここで、RAMクリアフラグの値が0である（ステップS21TM4770でYES）ということは、バックアップRAM領域のデータチェック結果が正常であり（ステップS21TM4010でYES）、設定値が正規の値である（ステップS21TM4020でYES）、と判定され、且つ、設定変更中に電源断が発生しておらず（ステップS21TM4030でNO）、さらに、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態である（ステップS21TM4040でNO）ということであるから、RAMクリアを伴わない電源断復旧時の処理を実行すれば良い。

20

【0320】

CPU103は、RAMクリアフラグの値が0である場合、電源投入時にバックアップRAM領域のデータチェック結果が正常であった場合の処理を実行して、割込許可後に遊技制御用タイマ割込処理（特別図柄プロセス処理等を含む）に移行すれば良い。即ち、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されなかった場合、又は、設定確認モードの制御が終了した場合には、CPU103は、RAMクリアフラグの値が0であることに基づいてRAMクリアを実行することなく、電源断復旧時のコマンドとしてバックアップコマンドを送信して、通常遊技処理に移行することになる。

【0321】

演出制御用CPU120では、このバックアップコマンド（復旧時のコマンド）を受信したことに基づいて、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたこと（RAMクリアは行われてないこと）を認識する。演出制御用CPU120は、バックアップコマンドを受信すると、例えば画像表示装置5、スピーカ8L、8R、枠LED9等の演出装置において、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたこと（RAMクリアは行われてないこと）を報知することが可能である。

30

【0322】

一方、RAMクリアフラグの値が1である（ステップS21TM4770でNO）ということは、ステップS21TM4050又はステップS21TM4150で、RAMクリアが1に設定されており、RAMクリアを実行することに決定されているということであるから、RAMクリアを伴う電源投入時の処理を実行すれば良い。

40

【0323】

CPU103は、RAMクリアフラグの値が1である場合、セキュリティ信号タイマの値として30秒を設定する処理、及び電源投入時にバックアップRAM領域のデータチェック結果が異常であった場合の処理を実行して、割込許可後に遊技制御用タイマ割込処理（特別図柄プロセス処理等を含む）に移行すれば良い。

【0324】

図8-8に示すように、CPU103は、RAMクリアフラグが1であることに基づいてRAMクリア処理を行う（ステップS21TM1410）。RAMクリア処理では、RAM102の遊技状態情報格納領域に格納されている電力供給停止前の遊技状態を示すデ

50

ータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ、保留記憶等）はクリアされて、初期値が設定されるが、RAM 102の設定値格納領域に格納されている設定値はクリアされず、RAMクリア処理の前から変更されない。また、設定値毎に、連比、役比、及びベース等の各集計値（表示モニタ21TM029に表示可能な遊技情報）が記憶されている領域も、クリアされず、これら設定値毎の各集計値は、RAMクリア処理の前から変更されない。そして、表示モニタ21TM029に「C」の文字を表示すること等により、遊技状態が初期化されたことを報知する（ステップS21TM1420）。なお、RAMクリア処理によって、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）は0に初期化されるが、任意の値またはあらかじめ決められている値に初期化するようにしてもよい。また、RAM102の全領域を初期化せず、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）をそのままにしてもよい。

10

【0325】

このRAMクリア処理において設定値格納領域に格納されている設定値をクリアさせない理由は、（a）設定変更モードに制御されなかった場合には、電源投入時に設定値格納領域には正規の値が格納されていたことになり（ステップS21TM4020でYES）、（b）設定変更モードに制御された場合には、設定値格納領域の値が0に設定されたか（ステップS21TM4520）又は設定変更モード中の操作によって正規の値が格納されている（ステップS21TM4610及びステップS21TM4620）ためである。さらに、RAMクリア処理以降は、設定変更モードに制御することができず、設定値格納領域に格納されている値を変更する機会がないためである。

20

【0326】

次いで、CPU103は、ROM101に格納されている初期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップS21TM1430）、初期化時設定テーブルの内容を順次作業領域に設定する（ステップS21TM1440）。ステップS21TM1430およびステップS21TM1440の処理によって、例えば、普通図柄当り判定用乱数カウンタ、特別図柄バッファ、総賞球数格納バッファ、特別図柄プロセスフラグなど制御状態に応じて選択的に処理を行うためのフラグに初期値が設定される。

【0327】

ステップS21TM1430、ステップS21TM1440の実行後、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出す（ステップS21TM1450）。後述する遊技制御用タイマ割込処理では、ここで読み出された設定値に基づいて特別図柄プロセス処理における大当り判定が実行される。次いで、CPU103は、電源投入時（あるいは設定変更モードの終了時）に初期化処理が行われたことを指定する初期化コマンドを送信する（ステップS21TM1460）。演出制御用CPU120では、この初期化コマンドを受信したことに基づいて、初期化処理が行われたこと（電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われずに、RAMクリアが行われたこと）を認識する。演出制御用CPU120は、初期化コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5、スピーカ8L、8R、枠LED9等の演出装置において、遊技状態等の初期化が行われたこと（電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われずに、RAMクリアが行われたこと）を報知することが可能である。

30

40

【0328】

次いで、CPU103は、セキュリティ信号タイマの値として30秒を設定する（ステップS21TM1465）。これにより、設定変更モード終了後のステップS21TM4710で設定されていたセキュリティ信号タイマの値（1秒）が、RAMクリアが実行されたことに対応した値（30秒）に変更（上書き）されることになる。また、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなくRAMクリアが実行された場合には、ステップS21TM4710が実行されることなく（セキュリティ信号タイマの値として1秒が設定されることなく）、セキュリティ信号タイマの値が、RAMクリアが実行されたことに対応した30秒に設定される。一方、RAMクリアが実行されな

50

った場合（設定確認モードに制御された場合を含む）には、このステップ S 2 1 T M 1 4 6 5 の処理は実行されないで、セキュリティ信号タイマの値はステップ S 2 1 T M 4 7 1 0 で設定された 1 秒のままである。

【 0 3 2 9 】

このステップ S 2 1 T M 1 4 6 5 又は前述したステップ S 2 1 T M 4 7 1 0 で、セキュリティ信号タイマの値が設定されたことにより、割込許可後の遊技制御用タイマ割込処理においてセキュリティ信号が出力されることになり（情報出力処理）、その後、割込許可により遊技制御用タイマ割込処理が実行される毎に、セキュリティ信号タイマの値が 2 m s ずつ減算され、セキュリティ信号タイマの値が 0 となったタイミングでセキュリティ信号の出力が停止されることになる。

10

【 0 3 3 0 】

そして、C P U 1 0 3 は、シリアル通信回路 2 1 T M 5 0 5 の設定処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0）。この設定処理では、主基板 1 1 の出力回路 2 1 T M 0 6 7 から払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の入力回路 2 1 T M 3 7 3 A に接続確認信号が出力される。また、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 のシリアル通信回路 2 1 T M 5 0 5 と、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 のシリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 との通信を実行可能な状態に設定する。

【 0 3 3 1 】

次に、C P U 1 0 3 は、乱数回路 1 0 4 を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 1 4 9 0）。C P U 1 0 3 は、例えば、乱数回路設定プログラムに従って処理を実行することによって、乱数回路 1 0 4 に特図表示結果判定用の乱数値 M R 1 の値を更新させるための設定を行う。

20

【 0 3 3 2 】

そして、ステップ S 2 1 T M 1 5 0 0 において、C P U 1 0 3 は、所定時間（例えば 2 m s）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に内蔵されている C T C のレジスタの設定を行う。すなわち、初期値として例えば 2 m s に相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。この実施例では、2 m s 毎に定期的にタイマ割込がかかるとする。

【 0 3 3 3 】

次いで、C P U 1 0 3 は、表示用乱数更新処理（ステップ S 2 1 T M 1 5 2 0）および初期値用乱数更新処理（ステップ S 2 1 T M 1 5 3 0）を繰返し実行する。表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理を実行するときには割込禁止状態に設定し（ステップ S 2 1 T M 1 5 1 0）、表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理の実行が終了すると割込許可状態に設定する（ステップ S 2 1 T M 1 5 4 0）。これにより、遊技制御用タイマ割込み処理を実行可能な通常遊技処理に移行する。本実施例では、表示用乱数とは、大当たりとしない場合の特別図柄の停止図柄を決定するための乱数や大当たりとしない場合にリーチとするか否かを決定するための乱数であり、表示用乱数更新処理とは、表示用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。また、初期値用乱数更新処理とは、初期値用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。この実施例では、初期値用乱数とは、普通図柄に関して当たりとするか否か決定するための乱数を発生するためのカウンタ（普通図柄当たり判定用乱数発生カウンタ）のカウント値の初期値を決定するための乱数である。後述する遊技の進行を制御する遊技制御処理（遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が、遊技機に設けられている演出表示装置、可変入賞球装置、球払出装置等の遊技用の装置を、自身で制御する処理、または他のマイクロコンピュータに制御させるために指令信号を送信する処理、遊技装置制御処理ともいう）において、普通図柄当たり判定用乱数のカウント値が 1 周（普通図柄当たり判定用乱数の取りうる値の最小値から最大値までの間の数値の個数分歩進したこと）すると、そのカウンタに初期値が設定される。

30

40

【 0 3 3 4 】

なお、本例では、C P U 1 0 3 は、ステップ S 2 1 T M 4 7 7 0 で R A M クリアフラグ

50

が0である（YES）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっているか否かを確認することなく（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態によらず）、電源断復旧時の処理に移行しているが、このような形態に限らず、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが0である（YES）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっていることを条件として（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態に応じて）、電源断復旧時の処理に移行しても良い。

【0335】

また、本例では、CPU103は、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが1である（NO）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっているか否かを確認することなく（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態によらず）、電源投入時の処理（ステップS21TM1410（RAMクリア）以降の処理）に移行しているが、このような形態に限らず、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが1である（NO）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっていることを条件として（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態に応じて）、電源投入時の処理（ステップS21TM1410（RAMクリア）以降の処理）に移行しても良い。

【0336】

以上に示したように、遊技場の店員等は、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をON状態とすることで、パチンコ遊技機1を設定変更モードに制御させることが可能であると共に、遊技状態等を初期化させること（RAMクリアを実行させること）ことが可能となる。また、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をOFF状態とすることで、パチンコ遊技機1を設定確認モードに制御させることが可能であると共に、遊技状態等を初期化させない（ステップS21TM4040又はステップS21TM4140でNOと判定させてRAMクリアフラグを1に設定させないこと）ことが可能となる。このように、遊技場の店員は、パチンコ遊技機1を設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるのかを選択可能であると共に、遊技状態等を初期化させるか否かも選択可能となっている。

【0337】

前述したように、電源投入時に設定変更中フラグがセットされている場合には、電源断発生時に設定変更モードに制御されていたことになるため、設定値が不安定な状態となっており、遊技場側で確定させようとしている設定値が設定値格納領域に格納されていない可能性がある。図8-6～図8-8に示した例では、CPU103は、設定変更中フラグがセットされていること（ステップS21TM4030でYES）に基づいて、通常遊技処理に移行させず遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理）に制御可能なようにしており、遊技停止状態への制御に対応してセキュリティ信号を出力するようにしている（ステップS21TM4220）。

【0338】

このような構成とすることにより、設定値が不安定な状態で遊技が開始される（遊技制御用タイマ割込処理が実行される）ことを防止するとともに、電源が投入されたときに、電源断発生時に設定変更モードに制御されていたことを外部装置に通知可能としている。

【0339】

また、図8-6～図8-8に示した例では、CPU103は、設定変更中フラグがセットされていること（ステップS21TM4030でYES）に基づいて、設定変更モードに移行するための条件（ステップS21TM4120～ステップS21TM4140が全てYESであること）が成立していない場合に、設定値異常エラーコマンドを送信する（ステップS21TM4190）とともに、遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理）において表示モニタ21TM029に「E」の文字を表示するエラー表示を行う（ステップS21TM4210）。

【0340】

図 8-10 に示す例では、表示モニタ 21TM029 を構成する各 7 セグメント表示器 21TM029A ~ 21TM029D に、それぞれ「E」の文字を表示することで、遊技場の店員に異常の発生（設定変更モードに制御されていた状態で電源断が発生した可能性があること）を明確に報知するようにしている。また、設定値異常エラーコマンドを受信した演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 に「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示することにより、遊技場の店員等に、一旦は電源断の状態（電源スイッチ 21TM055 を OFF）にした後、電源再投入時（電源スイッチ 21TM055 を ON 時）に設定変更モードに移行させて設定値を変更するための操作を行う（設定値を確定させる）ように促す報知を行う。

【0341】

本例では、（a）電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合において、設定変更モードに制御するための移行条件が成立している場合、即ち、（i）遊技機用枠 3 が開放状態であり（ステップ S21TM4120 で YES）、（ii）錠スイッチ 21TM051 が ON 状態であり（ステップ S21TM4130 で YES）、且つ、（iii）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 が ON 状態である（ステップ S21TM4140 で YES）、と判定された場合には、設定変更モードに制御される。その結果、主基板 11 側でのエラー表示（ステップ S21TM4210：表示モニタ 21TM029 における「E」の表示）は実行されず、演出制御基板 12 側でのメッセージ表示（「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」）も行われなくなる。

【0342】

ここで、設定変更モードコマンド（ステップ S21TM4590）を受信した演出制御用 CPU 120 では、画像表示装置 5 に設定変更モードに制御されたこと、即ち、設定変更操作（設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052 の操作）に応じて設定値の変更が可能であることを報知できる。例えば、「設定変更モード中です」というメッセージや、「設定変更操作を行って設定値を変更して下さい」というメッセージを画像表示装置 5 に表示させることができる。これにより、遊技場の店員等は、設定変更モードに制御されていることを把握可能であり、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052 を操作することで、設定値格納領域に格納されている設定値を、予定していた設定値に変更した後に、錠スイッチ 21TM051 を OFF 状態に切り替えることで、設定値を確定させてパチンコ遊技機 1 を通常遊技処理に移行させることができる。

【0343】

一方で、（b）電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合において、設定変更モードに制御するための移行条件が成立していない場合、即ち、上記（i）～（iii）のうちの何れかの条件が不成立の場合には、設定変更モードに制御されることなく、設定値異常エラーコマンド送信（ステップ S21TM4190）後に遊技停止状態（ステップ S21TM4200 ~ ステップ S21TM4220 のループ処理）に制御される。その結果、主基板 11 側でのエラー表示（ステップ S21TM4210：表示モニタ 21TM029 における「E」の表示）が実行されるとともに、演出制御基板 12 側でのメッセージ表示（「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」）も行われることになる。

【0344】

このように、主基板 11 側でのエラー表示（ステップ S21TM4210：表示モニタ 21TM029 における「E」の表示）が実行されるとともに、演出制御基板 12 側でのメッセージ表示（「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」）も行われる場合には、遊技機の状態として、設定変更モード中に電源断が発生したにもかかわらず電源復旧後に設定変更モードへの移行条件が成立していない状態であることが報知されることになる。この場合には、遊技場の店員等は、設定変更モードに制御されておらず、遊技停止状態となっていること（電源を再投入して設定変更モードに制御させる必要があること）を把握可能である。従って、一端電源を OFF にした後に、設定変更モー

10

20

30

40

50

ドへの移行条件 (i) ~ (i i i) が全て成立するように操作して電源を再投入する。そして、設定変更モードにおいて、設定切替スイッチ (クリアスイッチ) 2 1 T M 0 5 2 を操作することで、設定値格納領域に格納されている設定値を、予定していた設定値に変更した後に、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O F F 状態に切り替えることで、設定値を確定させてパチンコ遊技機 1 を通常遊技処理に移行させることができる。

【0345】

このように、設定変更モードにおいて電源断が発生した場合には、電源復旧時に遊技機の状態を適切に報知することができる。

【0346】

ここで、電源復旧時に設定変更モードへの移行条件が成立している (a) の場合には、主基板 1 1 側でのエラー表示 (ステップ S 2 1 T M 4 2 1 0 : 表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 における「E」の表示) が行われることなく自動的に設定変更モードに移行されることになり、不要なエラー表示を回避して適切に設定値の変更を促すことができる。

【0347】

一方で、電源復旧時に設定変更モードへの移行条件が成立していない (b) の場合には、設定変更モード中に電源断が発生したにもかかわらず、電源復旧時に設定変更モードに移行できない状態となっているため、強制的に遊技停止状態 (ステップ S 2 1 T M 4 2 0 0 ~ ステップ S 2 1 T M 4 2 2 0 のループ処理) に制御され、主基板 1 1 側でのエラー表示 (ステップ S 2 1 T M 4 2 1 0 : 表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 における「E」の表示) が行われることになる。これにより、設定値が確定していない不安定な状態での遊技の進行を制限することができ、適切な遊技制御を実現できる。

【0348】

なお、設定変更中フラグがセットされている場合に (ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で Y E S)、設定変更モードに移行するための移行条件 (i) ~ (i i i) が全て成立している場合と、移行条件 (i) ~ (i i i) の何れかが成立していない場合とで、設定値が異常である可能性があることを示すコマンドとして異なるコマンドを送信するようにしても良い。

【0349】

例えば、移行条件が成立している場合には、設定値が異常である可能性があることを示すコマンドであり且つ設定変更モードに移行されたこと (あるいは移行する条件が成立していること) を示すコマンドを送信し、このコマンドを受信した演出制御用 C P U 1 2 0 では、「設定値が異常である可能性があります」というメッセージ及び「自動的に設定変更モードに制御されます」というメッセージを画像表示装置 5 に表示させるようにすると良い。一方、移行条件が成立していない場合には、前述したようにステップ S 2 1 T M 4 1 9 0 の設定値異常エラーコマンドを送信すると良い。

【0350】

設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理へ移行した後は、遊技機用枠 3 及びガラス扉枠 3 a が何れも閉鎖状態となっているときに、(1) 錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が操作されたこと (O F F 状態から O N 状態となったこと) に応じて、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から演出制御用 C P U 1 2 0 に対して、錠スイッチ操作コマンドが送信され、(2) 設定切替スイッチ (クリアスイッチ) 2 1 T M 0 5 2 が操作されたこと (O F F 状態から O N 状態となったこと) に応じて、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から演出制御用 C P U 1 2 0 に対して、設定切替スイッチ操作コマンドが送信されることになる。

【0351】

そして、演出制御基板 1 2 (演出制御用 C P U 1 2 0) は、錠スイッチ操作コマンド、及び／又は、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず、設定値を変更させるための操作が行われたことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、錠スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、画像表示装置 5 において「錠スイッチの操作を検出

しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。また、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。これにより、遊技場の店員等は、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず設定値を変更させるための操作が行われたことを明確に把握して、不正が行われていないか等を確認することができる。

【0352】

なお、このような形態に限らず、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理へ移行した後は、錠スイッチ21TM051が操作されたか否か、及び、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたか否か、を確認することなく、錠スイッチ操作コマンド及び設定切替スイッチ操作コマンドを送信しないようにしても良い。このように、通常遊技処理（遊技制御用タイマ割込処理）が実行されている期間は、設定値を変更するための操作及び設定値を確認するための操作の実行状況を確認しないようにすることで、遊技制御用マイクロコンピュータ100の制御負担を軽減することが可能になる。

【0353】

（電源投入時処理の変形例）

図8-6に示した例では、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合には（ステップS21TM4030でYES）、（i）遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4120でYES）、（ii）錠スイッチ21TM051がON状態であり（ステップS21TM4130でYES）、且つ、（iii）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である（ステップS21TM4140でYES）、という3条件が成立していることを確認した場合にのみ、RAMクリアフラグを1に設定して（ステップS21TM4150）、設定変更モードに移行した（ステップS21TM4570でNO）。

【0354】

このような形態に限らず、図8-11に示すように、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合には（ステップS21TM4030でYES）、（i）～（iii）の3条件が成立しているか否かを確認することなく、RAMクリアフラグを1に設定して（ステップS21TM4150）、設定変更モードに移行する（ステップS21TM4570でNO）ようにしても良い。

【0355】

図8-11に示す処理では、バックアップRAM領域のデータチェック結果が異常である場合（ステップS21TM4010でNO）、設定値が正規の値ではない場合（ステップS21TM4020でNO）、設定変更中フラグがセットされている場合（ステップS21TM4030でYES）に、（i）～（iii）の条件が成立しているか否かを判定することなく、RAMクリアフラグを1に設定して（ステップS21TM4150）、設定変更モードに制御され（ステップS21TM4570でNO）、遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理に相当する処理）には制御されない部分が、図8-6に示した処理と異なる。それ以外の部分は、図8-6～図8-8に示した処理と同様である。

【0356】

このような形態とした場合であっても、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていることに基づいて、RAMクリアフラグが1に設定されて設定変更モードに移行されることになり、設定変更中に電源断が発生した場合の遊技機の状態を適切に定めることができる。

【0357】

図8-11に示す例では、設定変更中フラグがセットされていない場合には（ステップS21TM4030でNO）、（i）遊技機用枠3が開放状態であり、（ii）錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、（iii）クリアスイッチ（設定切替スイッ

10

20

30

40

50

チ) 21TM052がON状態である、という3条件が成立していることに基づいて、設定変更モードに制御される(ステップS21TM4570でNOと判定されて、設定値格納領域の設定値を変更可能な状態となる)のに対して、設定変更中フラグがセットされている場合(ステップS21TM4030でYES)には、(i)～(iii)の3条件が成立しているか否かにかかわらず、強制的に設定変更モードに制御されることになる。

【0358】

このように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合には、電源復旧時に設定変更中フラグが設定されていることに基づいて、(i)～(iii)の3条件が成立しているか否かにかかわらず自動的に設定変更モードに制御されることにより、設定値を確定させるための作業性を向上させることができる。

10

【0359】

ここで、設定変更中フラグがセットされている場合(ステップS21TM4030でYES)には、(ii)錠スイッチ21TM051がON状態である(ステップS21TM4130でYES)という条件が成立していない場合でも、設定変更モードに制御されることになる。その結果、設定変更モードにおいては、錠スイッチ21TM051がOFF状態のままで、設定切替スイッチ(クリアスイッチ)21TM052を操作することで、設定値格納領域に格納されている設定値が変更されることになる(図8-7のステップS21TM4610～ステップS21TM4620)。

【0360】

前述したように、設定変更モードを終了させる条件は、錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替えることである(ステップS21TM4680でYESと判定させることである)。そのため、設定値の変更操作を行った遊技場の店員は、設定値を確定して設定変更モードを終了させるために、錠スイッチ21TM051がOFF状態であれば、一旦、錠スイッチ21TM051をOFF状態からON状態に切り替えた後に、錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替える(ステップS21TM4680でYESと判定させる)ことになる。

20

【0361】

このように、設定変更中フラグがセットされていない場合と(ステップS21TM4030でNO)、設定変更中フラグがセットされている場合とで(ステップS21TM4030でYES)、設定変更モードの制御を開始させる条件を異ならせる一方で、設定変更モードの制御を終了させる条件(錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替える操作)は共通化することで、設定変更モードの制御を終了させる条件を明確にして、適切に通常遊技処理に移行させるようにしている。

30

【0362】

ここで、設定変更中フラグがセットされている(ステップS21TM4030でYES)ことに基づいて設定変更モードに制御された場合に、錠スイッチ21TM051をON状態にするように促す報知を行うようにしても良い。例えば、CPU103は、設定変更中フラグがセットされている場合に(ステップS21TM4030でYES)、ステップS21TM4150でRAMクリアフラグを1に設定するとともに、設定値異常エラーコマンドを送信する(前述したステップS21TM4190に相当する処理を実行する)ようにしておき、設定値異常エラーコマンド(ステップS21TM4110)を受信した演出制御用CPU120が、「錠スイッチを一旦ONにして、設定値変更後にOFFに切り替えて下さい」というメッセージを画像表示装置5に表示するようにしても良い。

40

【0363】

なお、図8-6～図8-8、並びに図8-11に示した処理においては、設定変更中フラグがセットされている状態では通常遊技処理に移行できないようになっている。そのため、遊技機メーカーが、パチンコ遊技機1を出荷する際(遊技場への設置前)に、予め設定変更中フラグをセットしておくことで、その後、遊技場側では、設定変更モードを経て設定値を変更し、設定変更モードを終了させなければ、当該パチンコ遊技機1での遊技を行わせることができなくなる。これにより、遊技場でパチンコ遊技機1を設置する際に

50

、確実に設定変更モードに制御させて設定変更操作を行わせ、設定値を確定させる措置をとるようにすることができる。

【0364】

図8-6～図8-8に示したように、設定変更モードに制御された場合には、必ずRAMクリア（ステップS21TM1410）が実行されるようになっている。これは、図8-4に示したように、設定値に応じて大当たりと判定される乱数の範囲が異なるためである。例えば、設定変更前の始動入賞時に抽出された大当たり判定用乱数が、変更前の設定値との関係では大当たりと判定されたものの、変更後の設定値との関係でははずれと判定される事象や、これとは逆に、変更前の設定値との関係でははずれと判定されたものの、変更後の設定値との関係では大当たりと判定される事象が生じうる。このような場合に、設定変更前の始動入賞時に抽出された大当たり判定用乱数に基づいて、設定変更後の遊技を継続させる（特別図柄プロセス処理を含む遊技制御用タイマ割込処理を実行させる）ことは不適切であるため、遊技状態を初期化することにより保留記憶（特別図柄の保留記憶、普通図柄の保留記憶）をクリアして、保留記憶数を初期値（0）とするようにしている。

【0365】

また、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、ステップS21TM1540の割込許可が行われえない結果、遊技制御用タイマ割込処理におけるスイッチ処理（図4に示すステップS21）も行われず、始動入賞やゲート通過等は無効となっている。これは、設定変更モードに制御されている期間は乱数回路設定処理（ステップS21TM1490）等が未だ実行されておらず、乱数の更新が行われていないためである。仮に、設定変更モードに制御されている期間において始動入賞に基づいて乱数を抽出してしまうと、始動入賞のタイミングによらず同じ乱数値になってしまい、このような乱数値に基づいて遊技を進行させることは不適切であるため、始動入賞やゲート通過を無効化している。

【0366】

（設定値変更中に電源断が発生した場合の設定値記憶制御）

次に、設定値変更中に電源断が発生した場合の設定値記憶制御に関して、図8-12を用いて説明する。図8-7に示した例では、設定変更モードにおいて、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されることで、設定値格納領域に格納されている設定値自体が変更されることになる。

【0367】

まず、設定変更モード中に設定値の変更操作が行われて、錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り替えられる前（設定変更モード終了前）に電源断が発生した場合の制御に関して、図8-12（1）を用いて説明する。

【0368】

順番1に示すように、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態として（クリアスイッチ21TM052もON状態として）設定変更モードに制御させるものとする。本例では、この電源投入時において、RAM102の設定値格納領域に設定値として「0」が格納されている。次いで、順番2に示すように、設定変更モードが開始されたことに伴い、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値「0」が読み出されて、読み出された設定値に1を加算した「1」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。

【0369】

次いで、順番3に示すように、設定変更モードにおいて、1回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作が行われたことに基づいて、設定値格納領域に格納される設定値が「0」から「1」に変更され、変更後の設定値に1を加算した「2」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。さらに、順番4に示すように、設定変更モードにおいて、2回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作が行われたことに基づいて、設定値格納領域に格納される設定値が「1」から「2」に変更され、変更後の設定

値に1を加算した「3」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。

【0370】

次いで、順番5に示すように、設定変更モードにおいて、錠スイッチ21TM051がON状態のままで、即ち、設定変更モードを終了させる操作が行われる前に、電源断が発生したものとする。このとき、設定値格納領域には、2回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作が行われた後の設定値「2」が格納された状態である。電源断の状態では、RAM102のバックアップ領域に形成された設定値格納領域に格納されている設定値「2」がそのまま保持されることになる。

【0371】

次いで、順番6に示すように、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態として（クリアスイッチ21TM052もON状態として）設定変更モードに制御させるものとする。この電源投入時において、RAM102の設定値格納領域に設定値として「2」が格納されている。この設定値「2」は、前回の設定変更モード中の電源断発生時に設定値格納領域に格納されていた値である。

【0372】

次いで、順番7に示すように、設定変更モードが開始されたことに伴い、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値「2」が読み出されて、読み出された設定値に1を加算した「3」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。

【0373】

なお、順番6の電源投入時には、設定変更中フラグがセットされた状態であるため、前述した図8-11に示した制御を適用する場合、錠スイッチ21TM051がOFF状態であっても（又はクリアスイッチ21TM052がOFF状態であっても）、自動的に設定変更モードに制御されることになる。そのため、順番6及び順番7における錠スイッチ21TM051の状態は、OFF状態である場合がある。

【0374】

このように、設定変更モードにおいて設定値の変更が行われて、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされることなく（設定変更モードを終了させることなく）電源断が発生した場合には、電源復旧時に、前回の設定変更モードにおける変更後の設定値が設定値格納領域に保持された状態となっている。従って、電源復旧時には、既に予定していた設定値が設定されている場合もあり、この場合には、遊技場の店員は改めて設定値を変更する操作を行わずとも、設定変更モードを終了させて遊技機を通常遊技処理に移行させれば良いため、作業性を向上させることができる。

【0375】

次に、設定変更モード中に設定値の変更操作が行われて、錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り替えられた後（設定変更モード終了後）に電源断が発生した場合の制御に関して、図8-12（2）を用いて説明する。

【0376】

順番1～順番4に関しては、図8-12（1）に示した例と同様であり、説明を省略する。次いで、順番5に示すように、設定変更モードにおいて、錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り替えられたことにより、設定変更モードが終了する。これにより、2回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作が行われた後の設定値「2」が、最終的な設定値として確定する。このとき設定値格納領域には設定値として「2」が格納されており、表示モニタ21TM029には、確定した設定値に1を加算した「3」が表示されている。

【0377】

その後に、順番6に示すように、電源スイッチ21TM055をOFF状態とする操作が行われて、電力供給が停止された状態となったものとする。この電源断の状態では、RAM102のバックアップ領域に形成された設定値格納領域に格納されている設定値「2

10

20

30

40

50

」がそのまま保持されることになる。

【0378】

次いで、順番7に示すように、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態として（クリアスイッチ21TM052もON状態として）設定変更モードに制御させるものとする。この電源投入時において、RAM102の設定値格納領域に設定値として「2」が格納されている。この設定値「2」は、前回の設定変更モード終了時に最終的に設定値格納領域に格納されていた値である。

【0379】

次いで、順番8に示すように、設定変更モードが開始されたことに伴い、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値「2」が読み出されて、読み出された設定値に1を加算した「3」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。

【0380】

図8-12（1）及び（2）に示すように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合と、設定変更モードの制御が終了した後に電力供給が停止された場合とで、何れの場合にも、電源復旧時には、前回の設定変更モードにおける設定変更操作に応じて変更された後の設定値、即ち電源断直前に設定値格納領域に格納されていた設定値が、有効な設定値（電源復旧時に設定格納領域に格納されている設定値）となっている。

【0381】

なお、図8-12に示した設定値の記憶制御に限られない。即ち、設定変更モードに制御されたときに設定値格納領域に格納されている設定値を設定情報一時記憶領域にコピーして、設定変更モードに制御されているときに設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には、設定値格納領域の設定値を変更せずに設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値を変更し、設定変更モードを終了させる操作（錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替える操作）が行われたことに基づいて、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値を設定値格納領域に格納して（上書きして）設定値を確定させるようにしても良い。なお、この場合に表示モニタ21TM029に表示させる設定値は、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値（0～5）に1を加算した値（1～6）となり、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値が変更されることに応じて、表示モニタ21TM029に表示される設定値も変化することになる。

【0382】

このような構成とすることで、電源投入に伴い設定変更モードに制御され、設定変更操作が行われた場合（表示モニタ21TM029に表示される設定値が変更された場合）であっても、設定変更モードを終了させる操作が完了することなく（錠スイッチ21TM051がOFF状態に切り替えられることなく）、電源断が発生した場合には、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は、電源投入時（設定変更モードにおいて設定変更操作が行われる前）から変更されていないことになる。即ち、電力供給停止状態では、前回の電源投入時に設定値格納領域に格納されていた設定値が引き続き保持されることになる。従って、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示される設定値は、前回の電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値に応じた値となる。

【0383】

このように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合の設定値を適切に定めることができる。また、設定変更モードが終了していない不安定な状態において電力供給が停止された場合に、設定値の変更を制限することができる。

【0384】

上記の実施形態に示した設定変更モード及び設定確認モードに関連した制御は、複数の設定値（例えば0～5）が設けられており、設定値に応じて大当り確率が異なる遊技機に対して適用可能であるが、これに限らず、複数の設定値（例えば0～5）が設けられてい

10

20

30

40

50

るものの、設定値によらず大当たり確率は共通である（例えば、設定値 0～5 の全てに関して大当たり確率が 300 分の 1 である）遊技機に対しても適用可能である。

【0385】

また、本特徴部 21 TM では、以下に示す発明が開示されている。

【0386】

特開 2010-200902 号公報（段落 0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。また、特開 2014-200506 号公報（段落 0102）に示すように、主制御基板の外部出力端子から、「大当たり信号」等が出力される遊技機が提案されている。特開 2010-200902 号公報（段落 0007）に記載されたような遊技機に関しては、設定値の変更等の際に、設定に関連する制御状態を外部装置側で把握することが必要となる場合があるが、特開 2014-200506 号公報（段落 0102）に記載されている従来の遊技機の信号出力技術を適用しても、外部装置側でこれを把握することが困難であるという課題がある。手段 01～手段 04 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定に関連する制御状態を遊技機外部に適切に通知可能な遊技機を提供することにある。

【0387】

手段 01 の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値 0～5 の 6 段階）に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21 TM 4530～ステップ S21 TM 4620 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S21 TM 4530～ステップ S21 TM 4570 及びステップ S21 TM 4650 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかの制御の開始に対応して特定信号（セキュリティ信号）を出力する特定信号出力手段（ステップ S21 TM 4560 でセキュリティ信号を出力する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

特定信号が出力される期間に関する値（セキュリティ信号タイマの値）を設定する設定手段（セキュリティ信号タイマの値をセットする遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、を備え、

前記設定手段は、前記設定変更モードに制御される場合と前記設定確認モードに制御される場合とで共通の所定値を設定可能であり（ステップ S21 TM 4710 でセキュリティ信号タイマの値として 1 秒を設定し）、

前記特定信号出力手段は、前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかの制御の終了に対応して、少なくとも前記所定値に対応した期間が経過するまで特定信号を出力する（設定確認モードの終了に伴い設定確認モードの終了から 1 秒が経過するまでセキュリティ信号を継続して出力し、設定変更モードの終了に伴い設定変更モードの終了から 30 秒が経過するまでセキュリティ信号を継続して出力する）

ことを特徴とする。

これによれば、設定に関連する遊技機の状態を外部装置に適切に通知できる。

【0388】

手段 02 の遊技機は、

手段 01 の遊技機であって、

遊技状態を初期化する初期化手段（ステップ S21 TM 4050、ステップ S21 TM 4150 で RAM クリアフラグがセットされていることに基づいて RAM クリア（ステップ S21 TM 1410）を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）を備え、

前記初期化手段は前記設定変更モードの制御に伴い遊技状態を初期化し（設定変更モー

ドに制御される場合には、設定変更モードに制御された後にRAMクリアが実行されており）、

前記設定手段は、前記所定値を設定した後（ステップS21TM4710でセキュリティ信号タイマの値として1秒を設定した後）に、前記所定値に対応した期間よりも長い期間に対応した特定値を設定可能であり（RAMクリアが実行される場合にはステップS21TM1465でセキュリティ信号タイマの値として30秒を設定可能であり）、

前記特定信号出力手段は、前記設定変更モードの制御の終了に対応して、前記特定値に対応した期間が経過するまで特定信号を出力する（設定変更モードの終了に伴い設定変更モードの終了から30秒が経過するまでセキュリティ信号を継続して出力する）

ことを特徴とする。

10

これによれば、設定変更モードの制御が終了した場合及び設定確認モードの制御が終了した場合の何れの場合にも少なくとも所定値に対応した期間は特定信号が出力されることになり、設定変更モードに制御された場合には所定値に対応した期間よりも長い期間、特定信号が出力されることになるため、設定手段による設定処理を共通化しつつ設定変更モードと設定確認モードとで異なる出力期間を設定することが可能となる。

【0389】

手段O3の遊技機は、

手段O1又は手段O2の遊技機であって、

前記設定変更モードにおいて、前記設定変更モードを終了させるための特定操作（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFとされたことの検出）が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止された場合に特定情報（設定変更中フラグ）を記憶する特定情報記憶手段（RAM102のバックアップ領域において、設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

20

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、遊技停止状態とするとともに特定信号を出力する（設定変更モードに移行するための条件が成立していないことに基づいてステップS21TM4200～ステップS21TM4220の処理を電源断まで繰り返し実行する）ことが可能である

30

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードの制御中に電力供給が停止された場合に、電力供給再開時に遊技機の状態を外部装置に適切に通知することができる。

【0390】

手段O4の遊技機は、

手段O1～手段O3から選択される何れかの遊技機であって、

遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

40

前記遊技制御手段は、

表示手段（表示モニタ21TM029）と、

前記設定変更モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定変更モードにおいて、前記設定変更モードを終了させるための特定操作が行われることなく（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFとされる操作が検出されることなく）当該遊技機への電力供給が停止された場合に特定情報を記憶する特定情報記憶手段（RAM102のバックアップ領域において、設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグ

50

をクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、を有し、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに(電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に)、前記表示手段においてエラー報知を実行するとともに前記演出制御手段にエラーコマンドを送信することが可能であり(ステップS21TM4190で設定値異常エラーコマンドを送信し、ステップS21TM4210のエラー表示において表示モニタ21TM029に「E」の文字を表示することが可能であり)、

前記演出制御手段は、前記エラーコマンドを受信したことに応じて、設定値を変更するための操作を促す報知を行う(画像表示装置5に「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示する)

10

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員に対して遊技機の状態を適切に報知できるとともに、設定値を変更するための操作を促すことができる。

【0391】

また、特開2010-200902号公報(段落0007)に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報(段落0007)に記載されたような遊技機では、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に報知する必要がある。手段P1~手段P4に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に報知する遊技機を提供することにある。

20

【0392】

手段P1の遊技機は、

設定値(大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値0~5の6段階)に応じた制御(特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等)を実行可能な遊技機(パチンコ遊技機1)であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段(ステップS21TM4530~ステップS21TM4620を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

前記設定変更モードに制御されたことを特定可能な特定情報を記憶する特定情報記憶手段(設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、を備え、

30

前記特定情報記憶手段は、当該遊技機への電力供給が停止された後も前記特定情報を記憶可能であり(設定変更中フラグの値はRAM102のバックアップ領域に格納されており)、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに(電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に)、エラー報知を実行可能なエラー報知手段(設定変更モードへの移行条件が成立していない場合にステップS21TM4210でエラー表示を行う遊技制御用マイクロコンピュータ100)をさらに備える

40

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードにおいて電力供給が停止された場合に遊技機の状態を適切に報知することができる。

【0393】

手段P2の遊技機は、

手段P1の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、設定変更条件が成立していること(電源投入時に、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がON状態であること)に基づい

50

て前記設定変更モードに制御可能であり、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記設定変更条件が成立していることに基づいて、前記エラー報知を実行することなく前記設定変更モードに制御可能である（電源投入時に、ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0、ステップ S 2 1 T M 4 1 3 0、ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0 ですべて Y E S と判定されたことに基づいて、ステップ S 2 1 T M 4 2 0 0 ～ステップ S 2 1 T M 4 2 2 0 のループ処理に移行することなく設定変更モードに移行する）

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御される条件が成立しているときにはエラー報知を実行することなく設定変更モードに制御されることになり、不要なエラー報知を回避して適切に設定値の変更を促すことができる。

【 0 3 9 4 】

手段 P 3 の遊技機は、

手段 P 1 又は手段 P 2 の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記エラー報知を実行するとともに遊技停止状態とすることが可能である（電源投入時に、設定変更モードへの移行条件が成立していない場合には（ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0 ～ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0 の何れかで N O と判定された場合には）、設定変更モードに移行することなくステップ S 2 1 T M 4 2 0 0 ～ステップ S 2 1 T M 4 2 2 0 のループ処理に移行する）

ことを特徴とする。

これによれば、設定値が不安定な状態での遊技の進行を制限することができ、適切な遊技制御を実現できる。

【 0 3 9 5 】

手段 P 4 の遊技機は、

手段 P 1 ～手段 P 3 から選択される何れかの遊技機であって、

遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）と、を備え、

前記遊技制御手段は、

表示手段（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9）と、

前記設定変更モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 4 5 3 0 ～ステップ S 2 1 T M 4 6 2 0 の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、

前記特定情報記憶手段と、を有し、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記表示手段において前記エラー報知を実行するとともに前記演出制御手段にエラーコマンドを送信することが可能であり（ステップ S 2 1 T M 4 1 9 0 で設定値異常エラーコマンドを送信し、ステップ S 2 1 T M 4 2 1 0 のエラー表示において表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に「E」の文字を表示することが可能であり）

前記演出制御手段は、前記エラーコマンドを受信したことに応じて、設定値を変更するための操作を促す報知を行う（画像表示装置 5 に「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示する）

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員に対して遊技機の状態を適切に報知できるとともに、設定値を変更するための操作を促すことができる。

【 0 3 9 6 】

また、特開 2010-200902 号公報（段落 0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開 2010-200902 号公報（段落 0007）に記載されたような遊技機では、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に定める必要がある。手段 Q1～手段 Q5 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に定める遊技機を提供することにある。

【0397】

手段 Q1 の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値 0～5 の 6 段階）に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21TM4530～ステップ S21TM4620 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

前記設定変更モードに制御されたことを特定可能な特定情報を記憶する特定情報記憶手段（設定変更モードに移行したことに基づいてステップ S21TM4580 で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップ S21TM4720 で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、を備え、

前記特定情報記憶手段は、当該遊技機への電力供給が停止された後も前記特定情報を記憶可能であり（設定変更中フラグの値は RAM102 のバックアップ領域に格納されており）、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップ S21TM4030 で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記設定変更モードに制御する（電源投入時に、遊技機用枠 3 が開放状態となっており、錠スイッチ 21TM051 が ON 状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 が ON 状態である、という設定変更モードに移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御する）

ことを特徴とする。

これによれば、遊技状態の初期化を伴う設定変更モードにおいて電力供給が停止された場合に遊技機の状態を適切に定めることができる。

なお、手段 Q1 の遊技機が、前記設定変更モードの制御に対応して遊技状態を初期化する初期化手段（例えば、ステップ S21TM4050、ステップ S21TM4150 で RAM クリアフラグがセットされていることに基づいて RAM クリア（ステップ S21TM1410）を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）を更に備えていても良い。

【0398】

手段 Q2 の遊技機は、

手段 Q1 の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されていないときには設定変更条件が成立していることに基づいて前記設定変更モードに制御し（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされていない場合には（ステップ S21TM4030 で NO）、遊技機用枠 3 が開放状態となっており、錠スイッチ 21TM051 が ON 状態であり、且つ、RAM クリアフラグが 1 である（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 が ON 状態であったことにより設定変更モード終了後に RAM クリアが実行される）、という設定変更モードに移行するための条件が成立していることに基づいて設定変更モードに移行し）、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されている場合には前記設定変更条件が成立しているか否かにかかわらず前記設定変更モードに制御する（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされている場合には（ステップ S21TM4030 で YES）、設定変更モードに

移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御する)

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード制御中に電源断が発生した場合には、電源復旧時に特定情報が記憶されていることに基づいて、設定変更条件が成立していないときにも設定変更モードに制御されることになるため、作業性を向上させることができる。

【0399】

手段Q3の遊技機は、

手段Q1又は手段Q2の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合の移行操作（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされていないときには（ステップS21TM4030でNO）、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、RAMクリアフラグが1である（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であったことにより設定変更モード終了後にRAMクリアが実行される）、という設定変更モードに移行するための条件が成立していること）に基づいて前記設定変更モードに制御することが可能であり、前記設定変更モードに制御されているときの特定操作（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたこと）に基づいて前記設定変更モードを終了させることが可能であり、

前記特定情報記憶手段は、前記設定変更モードに制御されるときに前記特定情報を記憶し（設定変更モードの制御が開始されたステップS21TM4580のタイミングで設定変更中フラグをセットし）、前記特定操作に基づいて前記設定変更モードが終了するときに前記特定情報を消去し（設定変更モードの制御が終了したステップS21TM4720のタイミングで設定変更中フラグをクリアし）、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときには前記移行操作が行われたか否かにかかわらず前記設定変更モードに制御し（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされている場合には（ステップS21TM4030でYES）、設定変更モードに移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御し）、前記特定操作に基づいて前記設定変更モードを終了させる（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたことに基づいて設定変更モードを終了させる）

ことを特徴とする。

これによれば設定変更モードの制御を終了させる条件を適切に定めることができる。

【0400】

手段Q4の遊技機は、

手段Q1～手段Q3から選択される何れかの遊技機であって、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）を記憶する設定値記憶手段（設定値が格納されるRAM102の設定値格納領域）を備え、

前記設定値記憶手段に記憶されている設定値に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能であり、

前記設定変更モードに制御されているときの変更操作に基づいて前記設定値記憶手段に記憶されている設定値を変更し（ステップS21TM4610で設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には設定値格納領域に格納されている設定値を変更し）、

前記設定変更モード制御手段は、前記設定変更モードに制御されているときの特定操作に基づいて前記設定変更モードを終了させ（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたことに基づいて設定変更モードを終了させ）、

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されている場合に前記特定操作が行

10

20

30

40

50

われることなく当該遊技機への電力供給が停止されたときに、前記設定変更モードにおいて前記変更操作により変更された後の設定値を継続して記憶する（設定値格納領域はRAM102のバックアップ領域に形成されており、設定変更モード中に設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されると設定値格納領域に格納されている設定値自体が変更されることになるため、設定変更モード中に電源断が発生した場合でも変更操作により変更された後の設定値が保持される）

ことを特徴とする。

これによれば、電力供給が再開されたときに、電源断発生前の設定変更モードにおいて変更操作により変更された後の設定値が設定値記憶手段に記憶されており、当該設定値に応じた制御が実行されることになるため作業性を向上できる。

【0401】

手段Q5の遊技機は、

手段Q1～手段Q3から選択される何れかの遊技機であって、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）を記憶する設定値記憶手段（設定値が格納されるRAM102の設定値格納領域）を備え、

前記設定値記憶手段に記憶されている設定値に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能であり、

前記設定変更モード制御手段は、前記設定変更モードに制御されているときの変更操作と（設定変更モードにおいて設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には設定値格納領域に格納されている設定値ではなく設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値のみを変更し）、該変更操作後の特定操作とに基づいて前記設定値記憶手段に記憶されている設定値を変更するとともに前記設定変更モードを終了させ（設定変更モードにおいて錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたことに基づいてそのとき設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値を設定値格納領域に格納して有効な設定値として確定させるとともに設定変更モードを終了させ）、

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されている場合に前記特定操作が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止されたときに、前記設定変更モードにおいて前記変更操作が行われる前の設定値を記憶する（設定変更モード中に設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合でも錠スイッチ21TM051がOFFに切り替えられなければ設定値格納領域に格納されている設定値自体は変更されないため、設定変更モード中に電源断が発生した場合には設定変更モードに制御される前の設定値が保持される）

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードが終了していない不安定な状態において電力供給が停止された場合に、設定値の変更を制限することができる。

【0402】

〔特徴部16TMに関する説明〕

次に、特徴部16TMに関して説明する。図9-1（A1）及び（B1）は、本実施形態における保留表示及びアクティブ表示の具体例を示す説明図である。保留表示は、実行されていない特別図柄の変動表示に対応した表示情報であり、アクティブ表示は、実行されている特別図柄の変動表示に対応した表示情報である。本実施形態では、画像表示装置5の画面左下部に、第1保留記憶数（0～4の第1保留表示16TM001）が表示される第1保留表示領域16TM011が設けられており、画像表示装置5の画面中央下部に、現在実行中の変動表示に対応するアクティブ表示16TM003が表示されるアクティブ表示領域16TM013が設けられている。

【0403】

また、遊技状態が低確低ベース状態（通常状態）に制御されている場合、画像表示装置5の画面中央下部であってアクティブ表示16TM003の下方に設けられた特別演出領域16TM035に、後述するミニスロット16TM030が表示される。本例では、ミニスロット16TM030がアクティブ表示16TM003の直下に表示されているため

10

20

30

40

50

、遊技者からは、あたかもミニスロット16TM030がアクティブ表示16TM003の台座であるかのように見える。即ち、ミニスロット16TM030が、アクティブ表示16TM003に対応した位置に表示されていることにより、ミニスロット16TM030によって、実行中の変動表示に対応した演出が実行されることを遊技者は容易に把握することができる。

【0404】

本実施形態において、ミニスロット16TM030は、特別図柄の変動表示が実行されているか否か（飾り図柄の変動表示が実行されているか否か）によらず、また、保留記憶数によらず表示可能な情報である。

【0405】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が0でないときには、第1保留表示領域16TM011に第1保留記憶数に相当する数の第1保留表示16TM001を表示する。即ち、第1保留表示16TM001は、始動条件（例えば、第1始動入賞口への入賞）は成立したが開始条件（例えば、特別図柄の変動表示が実行されておらず、大当り遊技状態に制御されておらず、且つ、第2保留記憶数が0であり第1保留記憶数が0ではないこと）が成立していない第1特別図柄の変動表示（及び飾り図柄の変動表示）に対応した情報である。第1保留表示領域16TM011に複数の第1保留表示16TM001が表示されている場合には、アクティブ表示領域16TM013に近い順序で（遊技者から見て右から順に）、その第1保留表示16TM001に対応した変動表示の開始条件が成立する。

【0406】

演出制御用CPU120は、飾り図柄の変動表示が実行されているときには、アクティブ表示領域16TM013にアクティブ表示16TM003を表示する。即ち、アクティブ表示16TM003は、始動条件（例えば、第1始動入賞口又は第2始動入賞口への入賞）が成立した後に開始条件（例えば、特別図柄の変動表示が実行されておらず、大当り遊技状態に制御されておらず、且つ、保留記憶数が0ではないこと）が成立した特別図柄の変動表示（及び飾り図柄の変動表示）に対応した情報である。

【0407】

本実施形態では、前述したように、特別図柄の変動表示に対応して、飾り図柄の変動表示が実行される。図9-1（A1）及び（B1）に示すように、飾り図柄が変動表示及び停止表示される、画像表示装置5の中央上部のエリアを、左から図柄表示エリア5L、図柄表示エリア5C、図柄表示エリア5Rとする。

【0408】

また、本実施形態では、図9-1（A1）及び（B1）に示すように、画像表示装置5の右上部に表示される、飾り図柄よりも小さな図柄であって、特別図柄が変動表示されているか否か及び特別図柄の表示結果を示す図柄を小図柄と称する。小図柄の変動表示は、特別図柄の変動表示と並行して実行可能であり、小図柄の停止表示も、特別図柄の停止表示と並行して実行可能である。そして、第1特別図柄に対応した小図柄が変動表示及び停止表示される、画像表示装置5の画面右上部のエリアを、左から小図柄表示エリア5l、小図柄表示エリア5c、小図柄表示エリア5rとする。小図柄表示エリア5l、5c、5rは、図柄表示エリア5L、5C、5Rよりも表示領域が小さい。従って、小図柄の視認性は飾り図柄の視認性より低くなっている。

【0409】

図9-1（A1）及び（B1）に示すように、本実施形態では、低確低ベース状態（通常状態）に制御されている場合に、画像表示装置5の特別演出領域16TM035においてミニスロット16TM030が表示される。ミニスロット16TM030では、複数種類のミニスロット図柄の可変表示が実行される。後述する第1のミニスロット可変表示では、図9-1（A2）に示すように、「リプレイ」、「ベル」、「スイカ」、「チェリー」、「7」、及び「blank」のミニスロット図柄が可変表示され、後述する第2のミニスロット可変表示では、図9-1（B2）に示すように、予告文字が表示されていない図柄（「表示なし」）、並びに、大当り期待度を示唆する予告文字からなる図柄である「C

10

20

30

40

50

HANCE」、「激熱」、及び「FEVER」のミニスロット図柄が可変表示される。

【0410】

(第1のミニスロット可変表示)

図9-1(A1)に示すように、本実施形態では、低確低ベース状態(通常状態)に制御されている場合に、特別図柄の変動表示(飾り図柄の変動表示、小図柄の変動表示)が実行される毎に、「左」、「中」、「右」の3つに区分されたミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1(スロットマシンにおける3つのリールのそれぞれに対応した領域)において、ミニスロット図柄が可変表示(例えば上下方向のスクロール表示や更新表示)される第1のミニスロット可変表示を実行可能である。第1のミニスロット可変表示では、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、ミニスロット図柄は、各々一段(1ライン)に表示される。なお、以下の説明において単に「変動表示」という場合は、特別図柄の変動表示、または、特別図柄の変動表示に対応した飾り図柄の変動表示もしくは小図柄の変動表示のことをいう。

【0411】

ここで、図9-1(A2)に示すように、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1(3リール)の各ミニスロット図柄表示エリアにおいて、「リプレイ」、「ベル」、「スイカ」、「チェリー」、「7」、「blank(本例では横方向の直線形オブジェクト(-))」といった互いに識別可能な複数種類の図柄が、所定の順序で可変表示される。

【0412】

そして、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1にミニスロット図柄が停止した際に、成立役と呼ばれる図柄の組合せが揃うと、役が成立したものとして役成立となる。成立役は、同一図柄の組合せであっても良いし、異なる図柄を含む組合せであっても良い。本実施形態における成立役は、同一図柄の組合せ及び異なる図柄を含む組合せである。なお、異なる図柄の組合せの場合は、成立役として「はずれ」となる。

【0413】

本実施形態では、同一図柄の組合せが揃うと役成立とする。例えば、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に[ベル]、[ベル]、[ベル]の同一図柄の組合せが揃うと「ベル」の役成立となる。同様に、[スイカ]、[スイカ]、[スイカ]の同一図柄の組合せが揃うと「スイカ」の役成立となり、[チェリー]、[チェリー]、[チェリー]の同一図柄の組合せが揃うと「チェリー」の役成立となり、[7]、[7]、[7]の同一図柄の組合せが揃うと「7揃い」の役成立となる。但し、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に[blank]、[blank]、[blank]の同一図柄の組合せが揃った場合は、成立役が「はずれ」であるときと同じ扱いとなる。

【0414】

(第2のミニスロット可変表示)

図9-1(B1)に示すように、本実施形態では、第1のミニスロット可変表示が実行された後(上述した何れかの成立役が成立した後)に、複数に区分されていない単一のミニスロット図柄表示エリア5LCR1(1つのリールに対応した領域)において、ミニスロット図柄が可変表示(例えば上下方向のスクロール表示や更新表示)される第2のミニスロット可変表示を実行可能である。第2のミニスロット可変表示では、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1において、ミニスロット図柄は一段(1ライン)に表示される。

【0415】

ここで、図9-1(B2)に示すように、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1(1リール)において、「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、及び「FEVER」といった互いに識別可能な複数種類の図柄が、所定の順序で可変表示される。本実施形態では、第2のミニスロット可変表示による表示結果、即ち、表示された文字によって、実行されている特別図柄の変動表示の表示結果(実行されている飾り図柄の変動表示の表示結果)が「大当り」となることが示唆される。

【0416】

また、本実施形態では、図9-1(A1)及び(B1)に示すように、遊技状態が低確低ベース状態(通常状態)に制御されてから実行された変動表示の回数をカウントする変動回数カウンタの値を示す変動回数表示16TM040が、画像表示装置5の画面左下部に表示される。変動回数表示16TM040が示す値によって、遊技者は、通常状態で実行された変動表示の回数を把握することができる。図9-1(A1)及び(B1)に示す例では、変動回数表示16TM040として「125」が表示されており、遊技状態が通常状態に移行してから既に124回の変動表示が実行され、現時点で125回目の変動表示が実行されている状態を示している。

【0417】

ここで、変動回数表示16TM040は、当該遊技機の設定値に基づいて、後述する第2設定示唆演出が実行されることにより、通常態様(例えば白色態様)から、通常態様と異なる設定示唆態様(例えば紫色態様)に変化する。

【0418】

なお、変動回数表示16TM040の表示態様を、実行される変動表示の表示結果に基づいて、通常態様(例えば白色態様)から、通常態様及び前述した設定示唆態様(例えば紫色態様)の何れとも異なる期待度予告態様(例えば赤色態様)に変化させる予告演出(例えば第2期待度予告演出と称する)を実行しても良い。但し、同一の変動表示において、第2設定示唆演出及び第2期待度予告演出の両方は実行されず、第2設定示唆演出を実行することに決定された場合には、当該変動表示において第2期待度予告演出を実行しないものとする。即ち、第2設定示唆演出を第2期待度予告演出よりも優先して実行する。

【0419】

図9-2は、始動入賞時に実行される変化演出決定処理を示すフローチャートである。演出制御用CPU120は、図7に示した演出制御プロセス処理の先読予告設定処理(ステップS161)において、図9-2に示す始動入賞時変化演出決定処理を実行する。

【0420】

始動入賞時変化演出決定処理において、演出制御用CPU120は、まず、第1始動入賞口への始動入賞が発生したことに基づく1セットの始動入賞時のコマンド(例えば、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、及び第1保留記憶数加算指定コマンド)を新たに受信したか否かを確認する(ステップS16TM1000)。

【0421】

図柄指定コマンドは、入賞時判定結果のうち、大当たりとなるか否かや、大当たりの種別の判定結果を示す演出制御コマンドである。CPU103は、始動入賞時に抽出した大当たり判定用乱数及び大当たり種別判定用乱数に基づいて、大当たりとなるか否か、及び、大当たりとなる場合の大当たり種別を判定して、その判定結果を指定する図柄指定コマンドを出力する。また、変動カテゴリコマンドは、入賞時判定結果のうち、変動パターンの判定結果を示す演出制御コマンドである。CPU103は、始動入賞時に抽出した変動パターン種別判定用乱数に基づいて、ノーマルリーチとなるか否かや、スーパーリーチとなるか否か等を判定して、その判定結果を指定する変動カテゴリコマンドを出力する。また、第1保留記憶数加算指定コマンドは、第1保留記憶数が1増加したことを指定する演出制御コマンドである。

【0422】

具体的には、演出制御用CPU120は、始動入賞時コマンド格納領域に1セットの始動入賞時のコマンド(図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、及び第1保留記憶数加算指定コマンド)が新たに格納されているか否かを判定する。1セットの始動入賞時のコマンドを新たに受信していなければ(ステップS16TM1000でNO)、そのまま処理を終了する。

【0423】

1セットの始動入賞時のコマンドを新たに受信していれば、演出制御用CPU120は、アクティブ表示の最終表示態様を、後述するアクティブ表示の最終表示態様決定テーブル(図9-3(A)を参照)に基づいて決定する(ステップS16TM1010)。なお

10

20

30

40

50

、ステップ S 1 6 T M 1 0 1 0 で決定するアクティブ表示の最終表示態様とは、あくまで始動入賞時に決定されるアクティブ表示の最終的な表示色である。本実施形態では、アクティブ表示が最終的な表示色まで変化した後に、後述する期待度予告演出が実行されたことに応じて、そのアクティブ表示に予告文字が重畳表示される場合がある。即ち、始動入賞時に決定されたアクティブ表示の最終表示態様から、さらに、変動開始時の演出決定処理に基づいてアクティブ表示の態様が変化する可能性がある。

【 0 4 2 4 】

図 9 - 3 (A) は、アクティブ表示の最終表示態様決定テーブルの具体例を示す説明図である。図 9 - 3 (A) に示すように、この実施の形態では、アクティブ表示 1 6 T M 0 0 3 の最終表示態様として、「通常態様（白色態様）」、「青色態様」、及び「赤色態様」の何れかを決定可能となっており、これらの各態様に対して、それぞれ判定値が割り振られている。

10

【 0 4 2 5 】

図 9 - 3 (A) に示すように、始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第 1 保留記憶）に基づく変動表示に対応したアクティブ表示 1 6 T M 0 0 3 の最終表示態様は、7 0 % の割合で通常態様（白色の丸形表示）となり、2 5 % の割合で青色態様（青色の丸形表示）となり、5 % の割合で赤色態様（赤色の丸形表示）となる。

【 0 4 2 6 】

一方、始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第 1 保留記憶）に基づく変動表示に対応したアクティブ表示 1 6 T M 0 0 3 の最終表示態様は、1 0 % の割合で通常態様となり、3 0 % の割合で青色態様となり、6 0 % の割合で赤色態様となる。

20

【 0 4 2 7 】

次いで、演出制御用 C P U 1 2 0 は、アクティブ表示の変化パターン、並びに、第 1 変化演出の実行有無及び実行回数を、アクティブ表示の変化パターン決定テーブル（図 9 - 3 (B) を参照）に基づいて決定する（ステップ S 1 6 T M 1 0 2 0 ）。

【 0 4 2 8 】

図 9 - 3 (B) は、アクティブ表示の変化パターンを決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。この実施の形態では、アクティブ表示の変化パターンとして、変化パターン 0 0 1 ~ 変化パターン 0 2 5 の何れかを決定可能となっており、これらの各変化パターンに対して、それぞれ判定値が割り振られている。

30

【 0 4 2 9 】

図 9 - 3 (B) に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が通常態様となる場合であって、（１）始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第 1 保留記憶）に基づく変動表示に対応したアクティブ表示の変化パターンは、変化パターン 0 0 1 が 7 0 % の確率で選択され、変化パターン 0 0 2 が 2 5 % の確率で選択され、変化パターン 0 0 3 が 5 % の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、（２）始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第 1 保留記憶）に基づく変動表示に対応したアクティブ表示の変化パターンは、変化パターン 0 0 1 が 1 0 % の確率で選択され、変化パターン 0 0 2 が 3 0 % の確率で選択され、変化パターン 0 0 3 が 6 0 % の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

40

【 0 4 3 0 】

この実施の形態では、演出制御用 C P U 1 2 0 は、始動入賞が発生したときにアクティブ表示の最終表示態様を決定しているが、アクティブシフト時のアクティブ表示の表示態様が最終表示態様とは異なる場合には、アクティブ表示の表示態様を変化させるアクティブ変化演出を実行することになる。

【 0 4 3 1 】

50

ここで、アクティブ表示の表示態様を変化させる場合（アクティブ変化演出を実行する場合）、及び、アクティブ表示の表示態様を変化させない場合（アクティブ変化演出を実行しない場合）において、アクティブ表示の表示態様を変化させる可能性があることを示唆する第1変化演出を実行可能である。この第1変化演出には、成功態様と、失敗態様とがあり、以下に示す例では、成功態様の第1変化演出が実行された場合には、アクティブ表示の表示態様を変化させ、失敗態様の第1変化演出が実行された場合には、アクティブ表示の表示態様を変化させないものとする。また、第1変化演出は、アクティブ表示にキャラクタが作用する演出である。成功態様の第1変化演出が実行された場合には、キャラクタがアクティブ表示に作用することにより、アクティブ表示の表示態様を変化させ、失敗態様の第1変化演出が実行された場合には、キャラクタがアクティブ表示に作用するものの、アクティブ表示の表示態様を変化させないものとする。

10

【0432】

変化パターン001における第1変化演出の実行回数は0回である。変化パターン002における第1変化演出の実行回数は1回であり、失敗態様の第1変化演出が実行される。変化パターン003における第1変化演出の実行回数は2回であり、何れも失敗態様の第1変化演出が実行される。

【0433】

また、図9-3（B）に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が青色態様となる場合であって、（1）始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく変動表示に対応したアクティブ表示の変化パターンは、変化パターン011が30%の確率で選択され、変化パターン012が27%の確率で選択され、変化パターン013が23%の確率で選択され、変化パターン014が10%の確率で選択され、変化パターン015が5%の確率で選択され、変化パターン016が5%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、（2）始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく変動表示に対応したアクティブ表示の変化パターンは、変化パターン011が5%の確率で選択され、変化パターン012が10%の確率で選択され、変化パターン013が15%の確率で選択され、変化パターン014が20%の確率で選択され、変化パターン015が25%の確率で選択され、変化パターン016が25%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

20

30

【0434】

このとき、変化パターン011における第1変化演出の実行回数は0回である。変化パターン012における第1変化演出の実行回数は1回であり、失敗態様の第1変化演出が実行される。変化パターン013における第1変化演出の実行回数は2回であり、何れも失敗態様の第1変化演出が実行される。変化パターン014における第1変化演出の実行回数は1回であり、成功態様の第1変化演出が実行される。変化パターン015における第1変化演出の実行回数は2回であり、失敗態様の第1変化演出が実行された後に、成功態様の第1変化演出が実行される。変化パターン016における第1変化演出の実行回数は2回であり、成功態様の第1変化演出が実行された後に、失敗態様の第1変化演出が実行される。

40

【0435】

また、図9-3（B）に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が赤色態様となる場合であって、（1）始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく変動表示に対応したアクティブ表示の変化パターンは、変化パターン021が35%の確率で選択され、変化パターン022が25%の確率で選択され、変化パターン023が20%の確率で選択され、変化パターン024が10%の確率で選択され、変化パターン025が10%の確率で選択されるように判定値が割り振られ

50

ている。一方で、(2) 始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応したアクティブ表示の変化パターンは、変化パターン021が5%の確率で選択され、変化パターン022が15%の確率で選択され、変化パターン023が30%の確率で選択され、変化パターン024が25%の確率で選択され、変化パターン025が25%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0436】

このとき、変化パターン021における第1変化演出の実行回数は0回である。変化パターン022における第1変化演出の実行回数は1回であり、成功態様の第1変化演出が実行される。変化パターン023における第1変化演出の実行回数は2回であり、何れも成功態様の第1変化演出が実行される。変化パターン024における第1変化演出の実行回数は2回であり、失敗態様の第1変化演出が実行された後に、成功態様の第1変化演出が実行される。変化パターン025における第1変化演出の実行回数は2回であり、失敗態様の第1変化演出が実行された後に、成功態様の第1変化演出が実行される。

【0437】

次いで、演出制御用CPU120は、保留表示の変化パターンを、保留表示の変化パターン決定テーブル(図9-4(C)~(F)を参照)に基づいて決定し(ステップS16TM1030)、そのまま処理を終了する。

【0438】

図9-4(C)は、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数が「1」である場合における、保留1個用の保留表示の変化パターンを決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。この実施の形態では、保留表示の変化パターンとして、変化パターン101~変化パターン103の何れかを決定可能となっており、これらの各変化パターンに対して、それぞれ判定値が割り振られている。

【0439】

図9-4(C)に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が通常態様となる場合であって、(1) 始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンとして、変化パターン101が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、(2) 始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン101が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0440】

図9-4(C)に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が青色態様となる場合であって、(1) 始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン102が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、(2) 始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン102が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0441】

図9-4(C)に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が赤色態様となる場合であって、(1) 始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン103が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、(2)

始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン103が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0442】

なお、図9-4の説明において、アクティブシフトとは、第1保留表示16TM001が第1保留表示領域16TM011からアクティブ表示領域16TM013にシフトすること（その結果として、始動入賞時の判定対象となった変動表示に対応したアクティブ表示16TM003が表示されること）をいう。

【0443】

なお、本実施形態では、第1保留表示16TM001が第1保留表示領域16TM011からアクティブ表示領域16TM013にシフトするときに、表示態様を変化させない。即ち、アクティブシフトする直前の第1保留表示16TM001の表示態様と、アクティブシフトした直後のアクティブ表示16TM003の表示態様は合致する。

【0444】

なお、本実施形態では、アクティブシフト時に、第1保留表示16TM001の表示態様を変化させない構成となっているが、このような形態に限らず、アクティブシフト時に第1保留表示16TM001の表示態様を変化させても良い。

【0445】

図9-4（D）は、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数が「2」である場合における、保留2個用の保留表示の変化パターンを決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。この実施の形態では、保留表示の変化パターンとして、変化パターン201～変化パターン206の何れかを決定可能となっており、これらの各変化パターンに対して、それぞれ判定値が割り振られている。

【0446】

図9-4（D）に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が通常態様となる場合であって、（1）始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン201が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、（2）始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン201が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0447】

図9-4（D）に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が青色態様となる場合であって、（1）始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン202が40%の確率で選択され、変化パターン203が60%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、（2）始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン202が60%の確率で選択され、変化パターン203が40%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0448】

図9-4（D）に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が赤色態様となる場合であって、（1）始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン

２０４が１０％の確率で選択され、変化パターン２０５が３０％の確率で選択され、変化パターン２０６が６０％の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、（２）始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第１保留記憶）に基づく変動表示に対応した第１保留表示の変化パターンは、変化パターン２０４が６０％の確率で選択され、変化パターン２０５が３０％の確率で選択され、変化パターン２０６が１０％の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【０４４９】

図９－４（Ｅ）は、第１保留記憶数保存領域に格納されている第１保留記憶数が「３」である場合における、保留３個用の保留表示の変化パターンを決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。この実施の形態では、保留表示の変化パターンとして、変化パターン３０１～変化パターン３１０の何れかを決定可能となっており、これらの各変化パターンに対して、それぞれ判定値が割り振られている。

【０４５０】

図９－４（Ｅ）に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が通常態様となる場合であって、（１）始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第１保留記憶）に基づく変動表示に対応した第１保留表示の変化パターンは、変化パターン３０１が１００％の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、（２）始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第１保留記憶）に基づく変動表示に対応した第１保留表示の変化パターンは、変化パターン３０１が１００％の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【０４５１】

図９－４（Ｅ）に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が青色態様となる場合であって、（１）始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第１保留記憶）に基づく変動表示に対応した第１保留表示の変化パターンは、変化パターン３０２が２０％の確率で選択され、変化パターン３０３が２０％の確率で選択され、変化パターン３０４が６０％の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、（２）始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第１保留記憶）に基づく変動表示に対応した第１保留表示の変化パターンは、変化パターン３０２が４０％の確率で選択され、変化パターン３０３が４０％の確率で選択され、変化パターン３０４が２０％の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【０４５２】

図９－４（Ｅ）に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が赤色態様となる場合であって、（１）始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第１保留記憶）に基づく変動表示に対応した第１保留表示の変化パターンは、変化パターン３０５が１３％の確率で選択され、変化パターン３０６が１３％の確率で選択され、変化パターン３０７が４％の確率で選択され、変化パターン３０８が２０％の確率で選択され、変化パターン３０９が２０％の確率で選択され、変化パターン３１０が３０％の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、（２）始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第１保留記憶）に基づく変動表示に対応した第１保留表示の変化パターンは、変化パターン３０５が２０％の確率で選択され、変化パターン３０６が２０％の確率で選択され、変化パターン３０７が３０％の確率で選択され、変化パターン３０８が１３％の確率で選択され、変化パターン３０９が１３％の確率で選択され、変化パターン３１０が４％の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0453】

図9-4(F)は、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数が「4」である場合における、保留4個用の保留表示の変化パターンを決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。この実施の形態では、保留表示の変化パターンとして、変化パターン401～変化パターン415の何れかを決定可能となっており、これらの各変化パターンに対して、それぞれ判定値が割り振られている。

【0454】

図9-4(F)に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が通常態様となる場合であって、(1)始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン401が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、(2)始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン401が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0455】

図9-4(F)に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が青色態様となる場合であって、(1)始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン402が20%の確率で選択され、変化パターン403が20%の確率で選択され、変化パターン404が20%の確率で選択され、変化パターン405が40%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、(2)始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン402が30%の確率で選択され、変化パターン403が30%の確率で選択され、変化パターン404が30%の確率で選択され、変化パターン405が10%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0456】

図9-4(F)に示すように、アクティブシフト時のアクティブ表示が赤色態様となる場合であって、(1)始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン406が3%の確率で選択され、変化パターン407が3%の確率で選択され、変化パターン408が3%の確率で選択され、変化パターン409が10%の確率で選択され、変化パターン410が10%の確率で選択され、変化パターン411が10%の確率で選択され、変化パターン412が15%の確率で選択され、変化パターン413が15%の確率で選択され、変化パターン414が15%の確率で選択され、変化パターン415が16%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。一方で、(2)始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合(即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合)には、当該始動入賞(新たな第1保留記憶)に基づく変動表示に対応した第1保留表示の変化パターンは、変化パターン406が10%の確率で選択され、変化パターン407が10%の確率で選択され、変化パターン408が10%の確率で選択され、変化パターン409が15%の確率で選択され、変化パターン410が15%の確率で選択され、変化パターン411が15%の確率で選択され、変化パターン412が7%の確率で選択され、変化パターン413が7%の確率で選択され、変化パターン414が7%の確率で選択され、変化パターン415が4%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【0457】

(変動表示開始時の演出決定処理)

CPU103は、特別図柄の変動表示を開始するときに、表示結果を指定する表示結果指定コマンドと、変動パターンを指定する変動パターン指定コマンドと、保留記憶数減算指定コマンド(第1保留記憶数減算指定コマンド又は第2保留記憶数減算指定コマンド)と、を演出制御用CPU120に送信する。

【0458】

演出制御用CPU120は、特別図柄(第1特別図柄又は第2特別図柄)の変動表示が開始されるときに、保留記憶数が減算されたことを指定する保留記憶数減算指定コマンド(第1保留記憶数減算指定コマンド又は第2保留記憶数減算指定コマンド)、表示結果(大当たり又ははずれ、大当たりとなる場合の大当たり種別)を指定する表示結果指定コマンド、並びに、特別図柄の変動時間及び演出内容(リーチ及び擬似連等)を指定する変動パターン指定コマンド、という1セットのコマンドを、遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信したことに基づいて、特別図柄の変動表示が実行されること、並びに、特別図柄の変動時間及び演出内容(リーチ及び擬似連等)を特定可能となっている。

【0459】

また、演出制御用CPU120は、特別図柄の変動表示が終了して表示結果が確定したときに、図柄確定指定コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信したことに基づいて、特別図柄(第1特別図柄又は第2特別図柄)の変動表示が終了して表示結果が導出されたことを特定可能となっている。

【0460】

図9-5は、変動開始時に実行される演出決定処理を示すフローチャートである。演出制御用CPU120は、図7に示した演出制御プロセス処理の可変表示開始設定処理(ステップS171)において、図9-5に示す変動開始時演出決定処理を実行する。具体的には、演出制御用CPU120は、特別図柄の変動表示が開始されることに伴う上記1セットのコマンドを受信すると、当該特別図柄の変動表示に対応した飾り図柄の変動表示を表示結果指定コマンド及び変動パターン指定コマンドに基づいて実行するための演出制御パターン(表示制御部123に演出の実行を指示するための制御データの集まり)を設定するとともに、指定された変動パターンに基づく飾り図柄の変動表示中に実行させる演出を、図9-5に示す変動開始時演出決定処理により決定する。

【0461】

まず、演出制御用CPU120は、後述する第1設定示唆演出の実行有無を、第1設定示唆演出の実行有無決定テーブル(図9-6(G)を参照)に基づいて決定する(ステップS16TM2000)。

【0462】

ここで、本実施形態では、低確低ベース状態のときに、現在設定されている設定値を示唆する演出として第1設定示唆演出を実行可能である。この第1設定示唆演出は、ミニスロット16TM030のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、同一図柄の組合せとして[ベル]、[ベル]、[ベル]のミニスロット図柄の組合せを停止表示させることにより、「ベル」の役成立とする演出である。即ち、ミニスロット16TM030のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に、[ベル]、[ベル]、[ベル]のミニスロット図柄の組合せが停止表示したことに基づいて、遊技者は、設定値を示唆するための第1設定示唆演出が実行されたことを認識する。

【0463】

図9-6(G)のテーブルに示すように、現在設定されている設定値に応じて、第1設定示唆演出の実行有無を決定するための判定値が割り振られている。演出制御用CPU120は、設定値が「1」である場合には、第1設定示唆演出を97%の割合で実行しないことに決定し、3%の割合で実行することに決定する。また、設定値が「2」である場合には、第1設定示唆演出を96%の割合で実行しないことに決定し、4%の割合で実行することに決定する。また、設定値が「3」である場合には、第1設定示唆演出を95%の割合で実行しないことに決定し、5%の割合で実行することに決定する。また、設定値が

「4」である場合には、第1設定示唆演出を94%の割合で実行しないことに決定し、6%の割合で実行することに決定する。また、設定値が「5」である場合には、第1設定示唆演出を93%の割合で実行しないことに決定し、7%の割合で実行することに決定する。また、設定値が「6」である場合には、第1設定示唆演出を92%の割合で実行しないことに決定し、8%の割合で実行することに決定する。

【0464】

図9-6(G)に示すように、設定値に応じて第1設定示唆演出の実行割合が異なり、設定値が高いほど、高い割合で第1設定示唆演出が実行されることになる。本実施形態では、変動表示を実行する毎に変動開始時演出決定処理を実行するため、変動表示毎に第1設定示唆演出の実行有無を決定することになる(ステップS16TM2000)。即ち、前述した第1のミニスロット可変表示の成立役を「ベル」とするか又は「はずれ」とするかを決定する。これにより、遊技者は、変動表示が実行される毎に第1設定示唆演出が実行されるか否かに関心を持つことになり、また、変動表示が実行された回数に対しての第1設定示唆演出が実行された回数(第1設定示唆演出の実行割合)に対しても関心を持つことになる。このような構成によれば、変動表示毎に遊技者に設定値を推測させることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【0465】

次いで、演出制御用CPU120は、第1設定示唆演出を実行することに決定した場合には(ステップS16TM2010でYES)、期待度予告演出の実行有無を、第1設定示唆演出を実行する場合に選択される期待度予告演出の実行有無決定テーブル1(図9-6(H1)及び(H2)を参照)に基づいて決定する(ステップS16TM2020)。一方、第1設定示唆演出を実行しないことに決定した場合には(ステップS16TM2010でNO)、後述するステップS16TM2120に移行する。

【0466】

図9-6(H1)は、第1設定示唆演出を実行することに決定している場合であって、表示結果が「はずれ」となるときの期待度予告演出の実行割合を示している。期待度予告演出の実行有無決定テーブル1には、はずれ用変動パターンの各々に対して期待度予告演出の実行有無を決定するための判定値が割り振られている。演出制御用CPU120は、変動パターンが「非リーチはずれ」(変動時間が10秒)である場合には、期待度予告演出を100%の割合で実行しないことに決定する。また、変動パターンが「ノーマルリーチはずれ」(変動時間が30秒)である場合には、期待度予告演出を100%の割合で実行しないことに決定する。また、変動パターンが「スーパーリーチはずれ」(変動時間が120秒)である場合には、期待度予告演出を60%の割合で実行しないことに決定し、40%の割合で実行することに決定する。

【0467】

図9-6(H2)は、第1設定示唆演出を実行することに決定している場合であって、表示結果が「大当たり」となるときの期待度予告演出の実行割合を示している。期待度予告演出の実行有無決定テーブル1には、大当たり用変動パターンの各々に対して期待度予告演出の実行有無を決定するための判定値が割り振られている。演出制御用CPU120は、変動パターンが「ノーマルリーチ大当たり」(変動時間が30秒)である場合には、期待度予告演出を100%の割合で実行しないことに決定する。また、変動パターンが「スーパーリーチ大当たり」(変動時間が120秒)である場合には、期待度予告演出を20%の割合で実行しないことに決定し、80%の割合で実行することに決定する。

【0468】

図9-6(H1)及び(H2)に示すように、期待度予告演出の実行有無は、変動パターン(変動時間)に基づいて決定されている。本実施形態では、第1設定示唆演出を実行することに決定している場合に、変動パターン(変動時間)が、非リーチはずれ(10秒)、ノーマルリーチはずれ(30秒)、又はノーマルリーチ大当たり(30秒)である場合には、期待度予告演出を100%の割合で実行しないことに決定し、変動パターン(変動時間)がスーパーリーチはずれ(120秒)である場合には、期待度予告演出を40%の

割合で実行することに決定し、スーパーリーチ大当たり（１２０秒）である場合には、期待度予告演出を８０％の割合で実行することに決定している。

【０４６９】

変動時間が短い変動パターン（非リーチはずれ（１０秒）、ノーマルリーチはずれ（３０秒）、ノーマルリーチ大当たり（３０秒））が選択されている場合には、第１設定示唆演出と期待度予告演出の両方の演出を実行するだけの十分な期間が確保されていない。そのため、変動時間が短い変動パターンに基づく変動表示が実行される場合には、第１設定示唆演出を実行可能ではあるものの、第１設定示唆演出の実行後に期待度予告演出を実行しないようにしている。

【０４７０】

一方で、変動時間が長い変動パターン（スーパーリーチはずれ（１２０秒）、スーパーリーチ大当たり（１２０秒））が選択されている場合には、第１設定示唆演出と期待度予告演出の両方の演出を実行するだけの十分な期間が確保されている。そのため、第１設定示唆演出を実行した後に、期待度予告演出を実行することが可能となっている。

【０４７１】

このように、本実施形態では、変動時間にかかわらず第１設定示唆演出が実行されるか否かを共通のテーブルに基づいて決定するようにしており、変動時間が短い場合、変動時間が長い場合、のいずれの場合であっても、共通の割合で第１設定示唆演出が実行されることになる。これに対して、期待度予告演出は、変動時間が短い場合よりも変動時間が長い場合の方が高い割合で実行されることになる。即ち、実行される変動表示の変動時間が短い場合に「第１設定示唆演出が実行された後に期待度予告演出が実行される割合」よりも、実行される変動表示の変動時間が長い場合に「第１設定示唆演出が実行された後に期待度予告演出が実行される割合」の方が高くなる。

【０４７２】

次いで、演出制御用ＣＰＵ１２０は、期待度予告演出を実行することに決定した場合には（ステップＳ１６ＴＭ２０３０でＹＥＳ）、前述した第２のミニスロット可変表示で停止表示させる表示結果、及び、第２変化演出の実行有無を、文字アイコン決定テーブル（図９－６（Ｊ）を参照）に基づいて決定する（ステップＳ１６ＴＭ２０４０）。第２変化演出とは、「第２のミニスロット可変表示で停止された表示結果としての文字図柄」に基づく文字アイコンを、アクティブ表示１６ＴＭ００３に重畳表示させることにより、アクティブ表示１６ＴＭ００３の表示態様を変化させる演出である。本実施形態では、第２のミニスロット可変表示で停止された表示結果が、文字図柄が表示されない「表示なし」の表示結果となった場合を除いて、第２変化演出が実行されることになる。一方、期待度予告演出を実行しないことに決定した場合には（ステップＳ１６ＴＭ２０３０でＮＯ）、後述するステップＳ１６ＴＭ２０６０に移行する。

【０４７３】

図９－６（Ｊ）は、文字アイコン決定テーブルの具体例を示す説明図である。図９－６（Ｊ）に示すように、この実施の形態では、期待度予告演出を実行することに決定している場合、第２のミニスロット可変表示の表示結果として、文字図柄がミニスロット図柄表示エリア５ＬＣＲ１に表示されない表示結果である「表示なし」、並びに、文字図柄である「ＣＨＡＮＣＥ」、「激熱」、及び「ＦＥＶＥＲ」の何れかを決定可能となっており、これらの各表示結果に対して、それぞれ判定値が割り振られている。

【０４７４】

図９－６（Ｊ）に示すように、当該変動表示の表示結果が「はずれ」となる場合（即ち表示結果指定コマンドにより指定される表示結果が「はずれ」である場合）には、当該変動表示において実行する第２のミニスロット可変表示の表示結果として、７０％の割合で「表示なし」が選択され、２５％の割合で「ＣＨＡＮＣＥ」が選択され、５％の割合で「激熱」が選択される。

【０４７５】

一方、当該変動表示の表示結果が「大当たり」となる場合（即ち表示結果指定コマンドに

10

20

30

40

50

より指定される表示結果が「大当たり」である場合)には、当該変動表示において実行する第2のミニスロット可変表示の表示結果として、22%の割合で「表示なし」が選択され、35%の割合で「CHANCE」が選択され、40%の割合で「激熱」が選択され、3%の割合で「FEVER」が選択される。そのため、第2のミニスロット可変表示の表示結果が「FEVER」となった場合には、大当たりの発生が確定する。

【0476】

図9-6(J)に示すように、第2のミニスロット可変表示(1リールでの可変表示)の表示結果に関しては、「表示なし」<「CHANCE」<「激熱」<「FEVER」の順で大当たりとなる期待度が高くなっている。従って、「CHANCE」、「激熱」、及び「FEVER」の何れかの文字図柄が停止した場合(その後に第2変化演出が実行される場合)には、何れの文字図柄も停止せず表示結果が「表示なし」となった場合(その後に第2変化演出が実行されない場合)よりも、大当たりとなる割合が高い。また、停止する文字図柄に応じて大当たり期待度も異なることから、遊技者は、第2のミニスロット可変表示の表示結果に注目することになる。

【0477】

本実施形態では、第2のミニスロット可変表示の表示結果として文字図柄(「CHANCE」、「激熱」、及び「FEVER」の何れか)が停止した場合に、アクティブ表示の表示態様を変化させる第2変化演出が実行される。具体的には、ミニスロット16TM030のミニスロット図柄表示エリア5LCR1(1リール)において、「CHANCE」、「激熱」、及び「FEVER」の何れかの文字図柄が停止表示されると、(i)停止表示された文字図柄がミニスロット図柄表示エリア5LCR1から上方に移動して、アクティブ表示領域16TM013に表示されているアクティブ表示16TM003に作用し(図9-10(11)を参照)、(ii)そのアクティブ表示16TM003と、移動してきた文字図柄に基づく文字アイコンとが重畳表示される(図9-10(12)を参照)。この文字アイコンは、第2のミニスロット可変表示の表示結果となった文字図柄と同じ文字を示すアイコンである。即ち、アクティブ表示16TM003に、表示結果となった文字図柄と同じ文字を示す文字アイコンが付加される演出が、第2変化演出として実行されることになる。一方で、第2のミニスロット可変表示の表示結果が「表示なし」となった場合には、第2変化演出は実行されない。

【0478】

次いで、演出制御用CPU120は、期待度予告演出の成立役を、第1設定示唆演出を実行する場合に使用する期待度予告演出の成立役決定テーブル1(図9-7(K)を参照)に基づいて決定し(ステップS16TM2050)、ステップS16TM2060に進む。

【0479】

図9-7(K)は、期待度予告演出の成立役決定テーブル1の具体例を示す説明図である。図9-7(K)に示すように、この実施の形態では、第1設定示唆演出を実行することに決定している場合、期待度予告演出の成立役、より具体的には、期待度予告演出において実行される第1のミニスロット可変表示の成立役(以下同様)として、「はずれ」、「スイカ」、「スイカ(リプレイ経由)」、「チェリー」、「チェリー(リプレイ経由)」、「チェリー(フリーズ)」、「7揃い」、及び「7揃い(フリーズ)」の何れかを決定可能となっており、これらの各成立役に対して、それぞれ判定値が割り振られている。

【0480】

本実施形態では、期待度予告演出の成立役として「はずれ」が選択された場合には、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に、異なる図柄を含む組合せのミニスロット図柄を停止表示させる。例えば、ミニスロット図柄表示エリア5L1に[リプレイ]、ミニスロット図柄表示エリア5C1に[リプレイ]、ミニスロット図柄表示エリア5R1に[ベル]が停止表示する場合には、期待度予告演出の成立役は「はずれ」となる。

【0481】

本実施形態では、期待度予告演出の成立役として「スイカ」、「チェリー」、「7揃い

10

20

30

40

50

」が選択された場合には、ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 に同一図柄の組合せのミニスロット図柄を停止表示させる。例えば、ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 に同一図柄の組合せとして「スイカ」、「スイカ」、「スイカ」のミニスロット図柄の組合せが停止表示する場合には、期待度予告演出の成立役は「スイカ」となる。

【0482】

本実施形態では、期待度予告演出の成立役として「スイカ（リプレイ経由）」、「チェリー（リプレイ経由）」が選択された場合には、ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 に同一図柄の組合せとして「リプレイ」、「リプレイ」、「リプレイ」のミニスロット図柄の組合せを停止表示させた後に、ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 においてミニスロット図柄の再変動を行い、ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 に同一図柄の組合せとして「スイカ」、「スイカ」、「スイカ」のミニスロット図柄の組合せ、又は、「チェリー」、「チェリー」、「チェリー」のミニスロット図柄の組合せを停止表示させる。

【0483】

本実施形態では、期待度予告演出の成立役として「チェリー（フリーズ）」、「7 揃い（フリーズ）」が選択された場合には、ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 において、通常態様（上から下方向へのスクロール表示や更新表示）とは異なるフリーズ態様でミニスロット図柄の可変表示を実行した後に、ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 に「チェリー」、「チェリー」、「チェリー」のミニスロット図柄の組合せ、又は、「7」、「7」、「7」のミニスロット図柄の組合せを停止表示させる。本実施形態におけるフリーズ態様の可変表示とは、ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 の視認性を低下させた状態で、下から上方向へのスクロール表示や更新表示を実行するミニスロット図柄の可変表示である。

【0484】

図 9-7（K）に示すように、ミニスロット図柄表示エリア 5 L C R 1 に停止表示させる表示結果が「表示なし」（文字が表示されていない図柄）である場合（即ち第 2 変化演出が実行されない場合）には、期待度予告演出における成立役は、100%の割合で「はずれ」となる。

【0485】

また、図 9-7（K）に示すように、ミニスロット図柄表示エリア 5 L C R 1 に停止表示させる文字図柄が「CHANCE」である場合（即ち第 2 変化演出でアクティブ表示に重畳表示させる文字アイコンが「CHANCE」である場合）には、期待度予告演出における成立役は、5%の割合で「はずれ」となり、45%の割合で「スイカ」となり、20%の割合で「スイカ（リプレイ経由）」となり、20%の割合で「チェリー」となり、2%の割合で「チェリー（リプレイ経由）」となり、8%の割合で「チェリー（フリーズ）」となる。

【0486】

また、図 9-7（K）に示すように、ミニスロット図柄表示エリア 5 L C R 1 に停止表示させる文字図柄が「激熱」である場合（即ち第 2 変化演出でアクティブ表示に重畳表示させる文字アイコンが「激熱」である場合）には、期待度予告演出における成立役は、15%の割合で「スイカ」となり、10%の割合で「スイカ（リプレイ経由）」となり、40%の割合で「チェリー」となり、10%の割合で「チェリー（リプレイ経由）」となり、25%の割合で「チェリー（フリーズ）」となる。

【0487】

また、図 9-7（K）に示すように、ミニスロット図柄表示エリア 5 L C R 1 に停止表示させる文字図柄が「FEVER」である場合（即ち第 2 変化演出でアクティブ表示に重畳表示させる文字アイコンが「FEVER」である場合）には、期待度予告演出における成立役は、70%の割合で「7 揃い」となり、30%の割合で「7 揃い（フリーズ）」となる。

【0488】

図9-7(K)に示すように、成立役が「はずれ」のときには、停止図柄が「表示なし」又は「CHANCE」となり、成立役が「スイカ」、「チェリー」のときには、停止図柄（文字アイコン）が「CHANCE」又は「激熱」となり、成立役が「7揃い」のときには、停止図柄（文字アイコン）が「FEVER」となる。また、成立役が「はずれ」のときには、停止図柄として「CHANCE」よりも「表示なし」の方が選択されやすく、成立役が「スイカ」のときには、停止図柄（文字アイコン）として「激熱」よりも「CHANCE」の方が選択されやすく、成立役が「チェリー」のときには、停止図柄（文字アイコン）として「CHANCE」よりも「激熱」の方が選択されやすい。

【0489】

即ち、第2のミニスロット可変表示の停止図柄に関して、大当り遊技状態に制御される期待度は、「表示なし」<「CHANCE」<「激熱」<「FEVER」の順で高くなり、第1のミニスロット可変表示の成立役に関して、大当り遊技状態に制御される期待度は、「はずれ」<「スイカ」<「チェリー」<「7揃い」の順で高くなっている。また、第1のミニスロット可変表示の成立役として「7揃い」が選択される場合は、第2のミニスロット可変表示の停止図柄は必ず「FEVER」となるので、「7揃い」は大当り確定の演出となっている。このような構成によれば、複数種類のミニスロット図柄により構成される成立役に応じて、大当り遊技状態に制御される期待度を異ならせることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【0490】

ここで、図9-7(K)に示すように、フリーズ態様の可変表示を伴う成立役は、「チェリー（フリーズ）」及び「7揃い（フリーズ）」に限られる。そして、成立役として「チェリー（フリーズ）」が選択された場合は、表示結果（文字アイコン）が「CHANCE」又は「激熱」となり、成立役として「7揃い（フリーズ）」が選択された場合は、予告文字（文字アイコン）が「FEVER」となる。即ち、ミニスロット図柄がフリーズ態様の可変表示を行う場合には、「チェリー」以上の成立役（「チェリー」又は「7揃い」）が確定するので、ミニスロット図柄が通常態様のまま可変表示を行う場合よりも、大当り遊技状態に制御される期待度が高くなっている。このような構成によれば、ミニスロット図柄の可変表示態様に遊技者を注目させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【0491】

一方、演出制御用CPU120は、第1設定示唆演出を実行しないことに決定した場合には（ステップS16TM2010でNO）、期待度予告演出の実行有無を、第1設定示唆演出を実行しない場合に選択される期待度予告演出の実行有無決定テーブル2（図9-6(I1)及び(I2)を参照）に基づいて決定する（ステップS16TM2120）。

【0492】

図9-6(I1)は、第1設定示唆演出を実行しないことに決定している場合であって、表示結果が「はずれ」となるときの期待度予告演出の実行割合を示している。期待度予告演出の実行有無決定テーブル2には、はずれ用変動パターンの各々に対して期待度予告演出の実行有無を決定するための判定値が割り振られている。演出制御用CPU120は、変動パターンが「非リーチはずれ」（変動時間が10秒）である場合には、期待度予告演出を100%の割合で実行しないことに決定する。また、変動パターンが「ノーマルリーチはずれ」（変動時間が30秒）である場合には、期待度予告演出を80%の割合で実行しないことに決定し、20%の割合で実行することに決定する。また、変動パターンが「スーパーリーチはずれ」（変動時間が120秒）である場合には、期待度予告演出を40%の割合で実行しないことに決定し、60%の割合で実行することに決定する。

【0493】

図9-6(I2)は、第1設定示唆演出を実行しないことに決定している場合であって、表示結果が「大当り」となるときの期待度予告演出の実行割合を示している。期待度予告演出の実行有無決定テーブル2には、大当り用変動パターンの各々に対して期待度予告

10

20

30

40

50

演出の実行有無を決定するための判定値が割り振られている。演出制御用CPU120は、変動パターンが「ノーマルリーチ大当たり」（変動時間が30秒）である場合には、期待度予告演出を30%の割合で実行しないことに決定し、70%の割合で実行することに決定する。また、変動パターンが「スーパーリーチ大当たり」（変動時間が120秒）である場合には、期待度予告演出を10%の割合で実行しないことに決定し、90%の割合で実行することに決定する。

【0494】

ここで、第1設定示唆演出を実行することに決定した図9（H1）及び（H2）の例では、「ノーマルリーチ」の変動パターンが選択された場合に、期待度予告演出を実行しないことに決定した（「実行なし」が100%となる）が、第1設定示唆演出を実行しないことに決定した図9（I1）及び（I2）の例では、「ノーマルリーチ」の変動パターンが選択された場合に、期待度予告演出を実行することに決定する可能性がある（「実行あり」が、「ノーマルリーチはずれ」で20%、「ノーマルリーチ大当たり」で70%となる）。

【0495】

また、第1設定示唆演出を実行することに決定した図9（H1）及び（H2）の例で、「スーパーリーチ」の変動パターンが選択された場合に期待度予告演出を実行する割合（「スーパーリーチはずれ」で40%、「スーパーリーチ大当たり」で80%）よりも、第1設定示唆演出を実行しないことに決定した図9（I1）及び（I2）の例で、「スーパーリーチ」の変動パターンが選択された場合に期待度予告演出を実行する割合の方が高い（「スーパーリーチはずれ」で60%、「スーパーリーチ大当たり」で90%となる）。このように、本実施形態では、第1設定示唆演出が実行されなかった場合には、第1設定示唆演出が実行された場合よりも、高い割合で期待度予告演出が実行されることになる。

【0496】

次いで、演出制御用CPU120は、期待度予告演出を実行することに決定した場合には（ステップS16TM2130でYES）、前述した第2のミニスロット可変表示で停止表示させる表示結果、及び、第2変化演出の実行有無を、文字アイコン決定テーブル（図9-6（J）を参照）に基づいて決定する（ステップS16TM2140）。一方、期待度予告演出を実行しないことに決定した場合には（ステップS16TM2130でNO）、後述するステップS16TM2060に移行する。

【0497】

次いで、演出制御用CPU120は、期待度予告演出の成立役を、第1設定示唆演出を実行しない場合に使用する期待度予告演出の成立役決定テーブル2（図9-7（L）を参照）に基づいて決定し（ステップS16TM2150）、ステップS16TM2060に進む。

【0498】

図9-7（L）は、期待度予告演出の成立役決定テーブル2の具体例を示す説明図である。図9-7（L）に示すように、この実施の形態では、第1設定示唆演出を実行しないことに決定している場合、期待度予告演出の成立役、より具体的には、期待度予告演出において実行される第1のミニスロット可変表示の成立役（以下同様）として、「はずれ」、「スイカ」、「スイカ（リプレイ経由）」、「チェリー」、「チェリー（リプレイ経由）」、「チェリー（フリーズ）」、「7揃い」、及び「7揃い（フリーズ）」の何れかを決定可能となっており、これらの各成立役に対して、それぞれ判定値が割り振られている。

【0499】

図9-7（L）に示すように、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1に停止表示させる表示結果が「表示なし」（文字が表示されていない図柄）である場合（即ち第2変化演出が実行されない場合）には、期待度予告演出における成立役は、100%の割合で「はずれ」となる。

【0500】

また、図9-7（L）に示すように、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1に停止表

10

20

30

40

50

示させる文字図柄が「CHANCE」である場合（即ち第2変化演出でアクティブ表示に重畳表示させる文字アイコンが「CHANCE」である場合）には、期待度予告演出における成立役は、5%の割合で「はずれ」となり、15%の割合で「スイカ」となり、50%の割合で「スイカ（リプレイ経由）」となり、2%の割合で「チェリー」となり、18%の割合で「チェリー（リプレイ経由）」となり、10%の割合で「チェリー（フリーズ）」となる。

【0501】

また、図9-7（L）に示すように、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1に停止表示させる文字図柄が「激熱」である場合（即ち第2変化演出でアクティブ表示に重畳表示させる文字アイコンが「激熱」である場合）には、期待度予告演出における成立役は、10%の割合で「スイカ」となり、15%の割合で「スイカ（リプレイ経由）」となり、10%の割合で「チェリー」となり、38%の割合で「チェリー（リプレイ経由）」となり、27%の割合で「チェリー（フリーズ）」となる。

10

【0502】

また、図9-7（L）に示すように、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1に停止表示させる文字図柄が「FEVER」である場合（即ち第2変化演出でアクティブ表示に重畳表示させる文字アイコンが「FEVER」である場合）には、期待度予告演出における成立役は、30%の割合で「7揃い」となり、70%の割合で「7揃い（フリーズ）」となる。

【0503】

なお、本実施形態では、第1設定示唆演出を実行することに決定された場合と、第1設定示唆演出を実行しないことに決定された場合とで、期待度予告演出における第1のミニスロット可変表示の成立役（即ち「ベル」以外の成立役）が、異なるテーブルに基づいて決定される例を示したが、このような形態に限らず、第1設定示唆演出を実行することに決定された場合と、第1設定示唆演出を実行しないことに決定された場合とで、期待度予告演出における第1のミニスロット可変表示の成立役（即ち「ベル」以外の成立役）が、共通のテーブルに基づいて決定されるようにしても良い。即ち、ステップS16TM2020とステップS16TM2120とで異なる割合で（異なる期待度予告演出の実行有無決定テーブルに基づいて）期待度予告演出の実行有無を決定する一方、ステップS16TM2050とステップS16TM2150とで共通の成立役決定テーブルに基づいて期待度予告演出における第1のミニスロット可変表示の成立役を決定するようにしてもよい。

20

30

【0504】

以上に示したように、本実施形態では、遊技状態が低確低ベース状態（通常状態）のときに、変動表示が実行される毎にミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1で第1のミニスロット可変表示（1回目）が実行されて、その成立役が「ベル」又は「はずれ」となる。そして、第1のミニスロット可変表示（1回目）の終了後に、当該変動表示中に（i）第1のミニスロット可変表示（2回目）が実行される場合（期待度予告演出が実行される場合）と、（ii）第1のミニスロット可変表示（2回目）が実行されない場合（期待度予告演出が実行されない場合）とがある。

【0505】

ここで、（i）第1のミニスロット可変表示（2回目）が実行された場合（期待度予告演出が実行された場合）は、成立役決定テーブルに基づいて決定された成立役が成立した後に、さらに、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1で第2のミニスロット可変表示（1回目）が実行される。そして、第2のミニスロット可変表示（1回目）の表示結果として、（a）文字が含まれない図柄（「表示なし」）、または、（b）文字図柄（「CHANCE」、「激熱」、「FEVER」）が停止する。（b）文字図柄（「CHANCE」、「激熱」、「FEVER」）が停止した場合には、その文字図柄に基づく文字アイコンがアクティブ表示に付加される第2変化演出が実行されることになる。

40

【0506】

このように、上記の実施形態では、第2のミニスロット可変表示（1回目）が実行され

50

て、(a)文字が含まれない図柄(「表示なし」)が停止する場合、即ち、第2変化演出が実行されない場合であっても、その前に必ず(i)第1のミニスロット可変表示(2回目)が実行され、その成立役が必ず「はずれ」になる演出構成を採用している。これに限らず、第2のミニスロット可変表示(1回目)が実行されて、(a)文字が含まれない図柄(「表示なし」)が停止する場合(第2変化演出が実行されない場合)に、その前に実行される(i)第1のミニスロット可変表示(2回目)で、「はずれ」以外の成立役が成立する可能性があるようにしてもよい。

【0507】

また、第2のミニスロット可変表示(1回目)が実行されて、(a)文字が含まれない図柄(「表示なし」)が停止する場合(第2変化演出が実行されない場合)には、(i)第1のミニスロット可変表示(2回目)自体が実行されないようにしてもよい。即ち、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1での(3リール方式での)第1のミニスロット可変表示(1回目)の後に、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1での(1リール方式での)第2のミニスロット可変表示(1回目)が実行されるようにしてもよい。

【0508】

また、第2のミニスロット可変表示(1回目)の表示結果として、必ず(b)文字図柄(「CHANCE」、「激熱」、「FEVER」)が停止するようにしてもよい。即ち、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1での(1リール方式での)第2のミニスロット可変表示が実行された場合には、その後に必ず第2変化演出が実行されるようにしてもよい。このような演出構成を採用した場合には、第2のミニスロット可変表示(1回目)の前に実行される(i)第1のミニスロット可変表示(2回目)の成立役が「はずれ」とはならないようにしてもよい。

【0509】

次いで、演出制御用CPU120は、変動回数カウンタの値が $25 \times n$ (n は整数)[25の倍数]である場合には(ステップS16TM2060でYES)、後述する第2設定示唆演出を実行するか否かを、第2設定示唆演出の実行有無決定テーブル(図9-7(M))を参照)に基づいて決定し(ステップS16TM2070)、そのまま処理を終了する。一方で、変動回数カウンタの値が $25 \times n$ (n は整数)でない場合には(ステップS16TM2060でNO)、そのまま処理を終了する。

【0510】

ここで、本実施形態では、低確低ベース状態のときに、現在設定されている設定値を示唆する演出として第2設定示唆演出を実行可能である。この第2設定示唆演出は、画像表示装置5の画面左下部において通常態様(本例では白色態様)で表示されている変動回数表示16TM040を、特別図柄の変動表示が開始されたタイミングで、紫色態様に変化させる演出である。そして、第2設定示唆演出を開始してから所定期間が経過すると、第2設定示唆演出を終了し、画像表示装置5の画面左下部において紫色態様で表示されている変動回数表示16TM040を通常態様に戻す。

【0511】

図9-7(M)は、現在設定されている設定値に応じて、第2設定示唆演出の実行有無を決定するための判定値が割り振られている。演出制御用CPU120は、設定値が「1」である場合には、第2設定示唆演出を90%の割合で実行しないことに決定し、10%の割合で実行することに決定する。また、設定値が「2」である場合には、第2設定示唆演出を88%の割合で実行しないことに決定し、12%の割合で実行することに決定する。また、設定値が「3」である場合には、第2設定示唆演出を86%の割合で実行しないことに決定し、14%の割合で実行することに決定する。また、設定値が「4」である場合には、第2設定示唆演出を84%の割合で実行しないことに決定し、16%の割合で実行することに決定する。また、設定値が「5」である場合には、第2設定示唆演出を82%の割合で実行しないことに決定し、18%の割合で実行することに決定する。また、設定値が「6」である場合には、第2設定示唆演出を80%の割合で実行しないことに決定し、20%の割合で実行することに決定する。

【0512】

なお、本実施形態では、遊技状態が低確低ベース状態のときに、画像表示装置5にミニスロット16TM030を表示して、第1設定示唆演出、第2変化演出、及び期待度予告演出を実行する例を示したが、このような形態に限らず、遊技状態が低確高ベース状態、高確高ベース状態、または高確低ベース状態の何れかであるときに、画像表示装置5にミニスロット16TM030を表示して、第1設定示唆演出、第2変化演出、または期待度予告演出の何れかを実行してもよい。

【0513】

また、本実施形態では、遊技状態が低確低ベース状態のときに、画像表示装置5に変動回数表示16TM040を表示して、第2設定示唆演出を実行する例を示したが、このよ

10

【0514】

図9-5に示すように、ステップS16TM2000で第1設定示唆演出の実行有無を決定した後に、ステップS16TM2020又はステップS16TM2120で期待度予告演出の実行有無を決定し、さらに、ステップS16TM2050又はステップS16TM2150で期待度予告演出の成立役を決定している。ステップS16TM2000で第1設定示唆演出を決定するときには、図9-6(G)に示すように、現在設定されている設定値に基づいて、第1設定示唆演出の実行有無を決定しているので、本実施形態では変

20

【0515】

また、第1設定示唆演出を実行し（ステップS16TM2010でYES）、期待度予告演出を実行する場合には、図9-6(H1)及び(H2)に示すように、変動パターン（変動時間）に基づいて、期待度予告演出の実行有無を決定している。変動パターン（変動時間）が非リーチはずれ（10秒）、ノーマルリーチはずれ（30秒）、ノーマルリーチ大当たり（30秒）の場合には、100%の割合で「期待度予告演出を実行しない」と決定する一方で、変動パターン（変動時間）がスーパーリーチはずれ（120秒）の場合には、40%の割合で「期待度予告演出を実行する」と決定し、スーパーリーチ大当たり（120秒）の場合には、80%の割合で「期待度予告演出を実行する」と決定する。

30

【0516】

このように、変動パターン（変動時間）にかかわらず第1設定示唆演出を実行可能であり、変動パターン（変動時間）にかかわらず、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に、[ベル]、[ベル]、[ベル]のミニスロット図柄の組合せを停止表示させることが可能である。また、変動パターン（変動時間）がスーパーリーチ（120秒）である場合に、第1設定示唆演出と期待度予告演出とを実行可能であり、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に、[ベル]、[ベル]、[ベル]のミニスロット図柄の組合せ停止表示させた後に、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に、[ベル]以外の同一図柄の組合せ（例えば、[スイカ]、[スイカ]、[スイカ]又は[7]、[7]、[7]等）を停

40

【0517】

図9-6(G)に示すように、設定値に応じて実行割合が異なる第1設定示唆演出が実行される毎に、第1設定示唆演出の実行回数を遊技者自身でカウントすることにより、第1設定示唆演出の実行割合を遊技者自身が算出[第1設定示唆演出の実行割合=(第1設定示唆演出の実行回数/変動回数)×100]し、その算出した第1設定示唆演出の実行割合が、周知の設定値毎の第1設定示唆演出の実行割合のいずれの設定値に近似するの

50

を判断することによって、遊技者は設定値を推測することが可能となる。

【0518】

仮に、期待度予告演出の実行有無の決定を、第1設定示唆演出の実行有無の決定よりも先に行い、期待度予告演出を第1設定示唆演出よりも優先して実行する構成を採用した場合、期待度予告演出が実行されることに決定されたことと変動時間との関係で、第1設定示唆演出の実行抽選自体が行われないケースや、第1設定示唆演出の実行抽選に当選しても期待度予告演出が優先されることにより第1設定示唆演出が実行されないケースが発生しうる。その結果、遊技者が算出した第1設定示唆演出の実行割合と、実際の設定値に基づく第1設定示唆演出の実行割合との乖離度合いが大きくなってしまい、遊技者が注目しなくなる可能性がある。このような問題を解決するために、図9-5のステップS16TM2000及びステップS16TM2020に示すように、第1設定示唆演出の実行有無を、期待度予告演出の実行有無よりも先に決定して、第1設定示唆演出を期待度予告演出よりも優先的に実行する構成を採用している。

10

【0519】

(変化演出及び設定示唆演出を実行する具体例)

次に、第1変化演出、第2変化演出、第1設定示唆演出、第2設定示唆演出、及び期待度予告演出を実行することに決定した場合の具体例に関して、図9-8～図9-10を用いて説明する。図9-8は、第1変化演出、第2変化演出、第1設定示唆演出、第2設定示唆演出、及び期待度予告演出を実行する場合のタイムチャートであり、図9-9及び図9-10は、第1変化演出、第2変化演出、第1設定示唆演出、第2設定示唆演出、及び期待度予告演出を実行する場合に画像表示装置5に表示される演出画像の一例を示す説明図である。

20

【0520】

図9-8～図9-10に示す演出例は、CPU103が、始動入賞時に、第1始動入賞判定処理(S101A)において、当該始動入賞に対応した変動表示の表示結果が「大当たり」となることを判定した場合(図柄指定コマンドにより指定した場合)の例である。そして、これに基づいて、演出制御用CPU120が、始動入賞時変化演出決定処理において、ステップS16TM1010でアクティブ表示の最終表示態様(最終表示色)を赤色態様に決定し、ステップS16TM1020でアクティブ表示の変化パターンを変化パターン022とすることに決定し、成功態様の第1変化演出を実行することに決定した場合の例である。

30

【0521】

また、CPU103が、変動開始時に、当該変動表示の表示結果が「大当たり」となることを判定し(表示結果指定コマンドにより指定し)、当該変動表示の変動パターン(変動時間)を「スーパーリーチ大当たり(120秒)」と決定した場合(変動パターンコマンドにより指定した場合)の例である。そして、これに基づいて、演出制御用CPU120が、変動開始時に、変動開始時演出決定処理において、ステップS16TM2000で第1設定示唆演出を実行することに決定し、ステップS16TM2020で期待度予告演出を実行することに決定し、ステップS16TM2040で第2のミニスロット可変表示の表示結果を「激熱」とすることに決定すると共に第2変化演出を実行することに決定し、ステップS16TM2050で期待度予告演出の成立役を「チェリー(フリーズ)」とすることに決定し、ステップS16TM2070で第2設定示唆演出を実行することに決定した場合の例である。

40

【0522】

まず、図9-9(1)に示すように、遊技状態が低確低ベース状態に制御されているときに、前回実行された(直近に実行された)第1特別図柄の変動表示の表示結果が「はずれ」であったことに基づいて、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、図柄表示エリア5C、及び図柄表示エリア5Rにおいて、その変動表示が確定停止したときの飾り図柄の組合せ(本例では、「247」)を継続して表示させている。

50

また、前回実行された（直近に実行された）第1特別図柄の変動表示の表示結果が「はずれ」であったことに基づいて、画像表示装置5の小図柄表示エリア5 l、小図柄表示エリア5 c、及び小図柄表示エリア5 rにおいて、その変動表示が確定停止したときの小図柄の組合せ（本例では、「247」）を継続して表示させている。演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が4であることに基づいて、画像表示装置5の第1保留表示領域16 T M 0 1 1に第1保留表示16 T M 0 0 1を4つ表示させている。

【0523】

低確低ベース状態中である場合には、図9-9（1）に示すように、画像表示装置5において、低確低ベース状態（通常状態）の期間に変動表示が実行された回数を示す変動回数表示16 T M 0 4 0が表示される。本例では、低確低ベース状態に移行した後、現時点までに変動表示が124回実行されているものとし、図9-9（1）に示すように、変動回数表示16 T M 0 4 0として「124」などの文字が通常態様（白色態様）で表示されている場合の画面が示されている。

【0524】

また、演出制御用CPU120は、前回実行された（直近に実行された）ミニスロット図柄の可変表示の成立役（表示結果）が「はずれ」であったことに基づいて、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5 L 1、5 C 1、5 R 1において、その可変表示が確定停止したときのミニスロット図柄の組合せ（本例では、[リプレイ] [リプレイ] [ベル]）を継続して表示させている。

【0525】

次いで、図9-9（2）に示すように、CUP103が、第1特別図柄の変動表示を開始すると（図9-8に示すT1のタイミング）、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5 L、5 C、5 Rにおいて、飾り図柄の変動表示を開始し、画像表示装置5の小図柄表示エリア5 l、5 c、5 rにおいて、小図柄の変動表示を開始する。このとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5のアクティブ表示領域16 T M 0 1 3に、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示16 T M 0 0 3を表示させており、第1保留記憶数が3であることに基づいて、画像表示装置5の第1保留表示領域16 T M 0 1 1に第1保留表示16 T M 0 0 1を3つ表示させている。

【0526】

このとき、図9-9（2）に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5 L、5 C、5 Rにおいて、飾り図柄の変動表示を継続している状態で、ステップS16 T M 2 0 7 0で第2設定示唆演出を実行することに決定していることに基づいて、第2設定示唆演出を実行する。本例では、低確低ベース状態に移行した後、現時点までに変動表示が125回実行されているものとし、図9-9（2）に示すように、変動回数表示16 T M 0 4 0として「125」などの文字が紫色態様で表示されている場合が示されている。遊技者は、変動回数表示16 T M 0 4 0の表示態様が、それまでの通常態様（白色態様）から紫色態様に変化したことにより、設定示唆が行われたことを把握する。このとき、画像表示装置5の小図柄表示エリア5 l、5 c、5 rにおいて、小図柄の変動表示を継続している。

【0527】

次いで、図9-9（3）に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5 L、5 C、5 Rにおいて、飾り図柄の変動表示を継続している状態で（図9-8に示すT2のタイミング）、ステップS16 T M 2 0 0 0で第1設定示唆演出を実行することに決定していることに基づいて、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5 L 1、5 C 1、5 R 1において、ミニスロット図柄の可変表示（第1のミニスロット可変表示）を開始する。このとき、画像表示装置5の小図柄表示エリア5 l、5 c、5 rにおいて、小図柄の変動表示を継続している。

【0528】

次いで、図9-9（4）に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5 L、5 C、5 Rにおいて、飾り図柄の変動表示を継続している状態で（

10

20

30

40

50

図9-8に示すT3のタイミング)、第2設定示唆演出を終了させ、紫色態様で表示されていた変動回数表示16TM040(「125」などの文字)を通常態様(白色態様)に戻す。このとき、画像表示装置5の小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、小図柄の変動表示を継続し、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、ミニスロット図柄の可変表示を継続している。

【0529】

次いで、図9-9(5)に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄の変動表示を継続している状態で(図9-8に示すT4のタイミング)、ステップS16TM1020でアクティブ表示の変化パターンを変化パターン022とすることに決定し、成功態様の第1変化演出を実行することに決定していることに基づいて、成功態様の第1変化演出を実行する。本例では、キャラクタ16TM050が登場して、アクティブ表示16TM003に向かってボールを投げるような態様の演出が実行されている。キャラクタ16TM050が投げたボールが、アクティブ表示16TM003に当たる画像が表示されることによって、そのアクティブ表示16TM003の態様が変化することを遊技者に期待させることができる。

【0530】

このとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、小図柄の変動表示を継続し、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、ミニスロット図柄の可変表示を継続している。

【0531】

次いで、図9-9(6)に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄の変動表示を継続している状態で(図9-8に示すT5のタイミング)、成功態様の第1変化演出を実行したことに応じて、アクティブ表示16TM003の表示態様を通常態様から赤色態様(本例では白色の丸形表示から赤色の丸形表示)に変化させる。このとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、小図柄の変動表示を継続している。また、演出制御用CPU120は、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、第1設定示唆演出が実行されたときのミニスロット図柄の組合せ(本例では、[ベル][ベル][ベル])を停止表示させる。

【0532】

次いで、図9-9(7)に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄の変動表示を継続している状態で(図9-8に示すT6のタイミング)、ステップS16TM2050で期待度予告演出の成立役を「チェリー(フリーズ)」とすることに決定していることに基づいて、期待度予告演出を実行し、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、フリーズ態様のミニスロット図柄の可変表示を開始する。本例では、フリーズ態様の可変表示が実行されると、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1を覆う被覆画像として暗転画像16TM100を表示することにより、ミニスロット図柄の視認性を低下させて視認困難状態とした状態で、下から上方向へのミニスロット図柄の可変表示(スクロール表示や更新表示)を実行する。このとき、演出制御用CPU120は、

【0533】

なお、本実施形態では、ミニスロット図柄の視認性を低下させるためにミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1を覆う暗転画像16TM100を表示することにより、暗転画像16TM100よりも表示優先度の低いミニスロット図柄が視認困難ではあるものの僅かに視認可能な状態となる(即ち、暗転画像16TM100のレイヤ透過率が0%ではない)ようにしたが、このような形態に限らず、暗転画像16TM100よりも表示優先度の低いミニスロット図柄(表示レイヤが下位であり遊技者から見て暗転画像16TM100よりも奥に見える画像)が全く視認不能な状態となる(即ち、暗転画像16

TM100のレイヤ透過率が0%となる)ようにしても良い。

【0534】

次いで、図9-9(8)に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄の変動表示を継続している状態で(図9-8に示すT7のタイミング)、ステップS16TM2050で期待度予告演出の成立役を「チェリー(フリーズ)」とすることに決定していることに基づいて、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、成立役が「チェリー」となるときのミニスロット図柄の組合せ(本例では、[チェリー][チェリー][チェリー])を停止表示させる。このとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、小図柄の変動表示を継続している。

10

【0535】

次いで、図9-10(9)に示すように、演出制御用CPU120は、変動パターンにおけるリーチ状態を成立させるべきタイミングにおいて、画像表示装置5の図柄表示エリア5L及び図柄表示エリア5Rに「7」の飾り図柄を停止表示させることによりリーチ状態とし、画像表示装置5の上部に「リーチ!!」の文字を表示させる(図9-8のT8のタイミング)。このとき、小図柄表示エリア5l、5c、5rでは、小図柄の変動表示を継続している。即ち、飾り図柄が停止表示された図柄表示エリア5Lに対応した小図柄表示エリア5l、及び、飾り図柄が停止表示された図柄表示エリア5Rに対応した小図柄表示エリア5rにおいても、小図柄を停止表示させることなく継続して変動表示させている。

【0536】

20

また、演出制御用CPU120は、リーチ状態の成立を契機として、ミニスロット16TM030の態様を、第1のミニスロット可変表示に対応した態様から、第2のミニスロット可変表示に対応した態様に変化させる。即ち、ミニスロット16TM030が表示されるエリアを、3リールのミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1から、1リールのミニスロット図柄表示エリア5LCR1に変化させる。1リールのミニスロット図柄表示エリア5LCR1には、表示結果として複数種類のミニスロット図柄(「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、「FEVER」)の何れかを表示可能であり、表示結果が予告文字を含む図柄(「CHANCE」、「激熱」、「FEVER」)となった場合には、その表示結果に基づいて、表示結果となった予告文字のアイコンをアクティブ表示に付加する第2変化演出が実行される。そして、演出制御用CPU120は、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1において、ミニスロット図柄の可変表示を開始する。

30

【0537】

次いで、図9-10(10)に示すように、演出制御用CPU120は、ステップS16TM2040で第2のミニスロット可変表示の表示結果を「激熱」とすることに決定していること、即ち、期待度予告演出の予告文字を「激熱」とすることに決定していることに基づいて、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5LCR1に「激熱」の予告文字を含む図柄を停止表示させる(図9-8のT9のタイミング)。このとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、小図柄の変動表示を継続している。

【0538】

40

次いで、図9-10(11)に示すように、演出制御用CPU120は、ステップS16TM2040で第2変化演出を実行すること(予告文字を含む図柄を停止表示させること)に決定していることに基づいて、第2変化演出を実行する(図9-8のT10のタイミング)。本例では、アクティブ表示16TM003の表示態様を変化させる際に、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1に停止表示されたミニスロット図柄(本例では「激熱」の図柄)が、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1からアクティブ表示領域16TM013まで移動して、アクティブ表示16TM003に作用する演出が実行される。より具体的には、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1から飛び出したミニスロット図柄(本例では「激熱」の図柄)が、アクティブ表示16TM003に当たったことを示すエフェクト画像が表示されることによって、そのアクティブ表示16TM003の態様が変化

50

することを遊技者に示唆している。このとき、小図柄表示エリア 5 l、5 c、5 r では、小図柄の変動表示を継続している。

【0539】

次いで、図 9-10 (12) に示すように、スーパーリーチの変動パターンであることに応じてバトル演出を実行する。ここで、バトル演出の実行に伴い、画像表示装置 5 に味方キャラクタ 16 TM060 と敵キャラクタ 16 TM070 とを表示させる (図 9-8 に示す T11 のタイミング)。このとき、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 の小図柄表示エリア 5 l、5 c、5 r において、小図柄の変動表示を継続している。

【0540】

また、演出制御用 CPU 120 は、ミニスロット図柄表示エリア 5 LCR1 に停止表示されたミニスロット図柄に基づく文字アイコン (本例では「激熱」の文字アイコン) を、アクティブ表示 16 TM003 に重畳表示させることにより、アクティブ表示 16 TM003 の表示態様を変化させる。即ち、表示結果となった予告文字 (本例では「激熱」) と同じ文字を示す文字アイコンを、アクティブ表示 16 TM003 に付加する。

【0541】

図 9-9 及び図 9-10 に示したように、アクティブ表示領域 16 TM013 に現在実行中の変動表示に対応するアクティブ表示 16 TM003 が表示されているときに、ミニスロット図柄表示エリア 5 L1、5 C1、5 R1 に、成立役が「チェリー」となるミニスロット図柄の組合せ (本例では [チェリー] [チェリー] [チェリー]) が停止表示され (図 9-9 (8))、続いて、ミニスロット図柄表示エリア 5 LCR1 に、期待度予告演出の予告文字としてのミニスロット図柄 (本例では「激熱」) が停止表示され (図 9-10 (10))、その後、ミニスロット図柄表示エリア 5 LCR1 に停止表示したミニスロット図柄の文字と同じ文字 (本例では「激熱」) を示す文字アイコンをアクティブ表示 16 TM003 に付加する第 2 変化演出が実行されている (図 9-10 (11) 及び (12))。

【0542】

このような構成によれば、第 1 設定示唆演出が実行されるミニスロット図柄表示エリア 5 L1、5 C1、5 R1 において停止表示したミニスロット図柄の組合せに応じて、アクティブ表示 16 TM003 の表示態様を変化させる第 2 変化演出を実行可能となるので、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0543】

また、図 9-8 ~ 図 9-10 に示したように、スーパーリーチの変動パターンであることに応じて実行されるバトル演出が開始されるよりも前に、第 1 設定示唆演出を終了させるようにしている。即ち、バトル演出が実行される前に、画像表示装置 5 のミニスロット図柄表示エリア 5 L1、5 C1、5 R1 において、第 1 設定示唆演出に対応したミニスロット図柄の組合せ (本例では、[ベル] [ベル] [ベル]) は非表示となる。このように、設定値を示唆する第 1 設定示唆演出を、変動表示の前半 (リーチ状態成立前)、即ち当該変動表示の表示結果が示唆される前の段階で実行することにより、第 1 設定示唆演出への関心を高めることができる。また、変動表示の後半 (リーチ状態成立以降)、即ち当該変動表示の表示結果が示唆された後の段階 (表示結果が「大当たり」となるか否かを報知するバトル演出が開始された後) では、第 1 設定示唆演出が既に終了しているため、当該変動表示の表示結果 (バトル演出の結果) に注目させることができる。

【0544】

また、図 9-9 (1) に示すように、第 1 設定示唆演出を実行せず且つ期待度予告演出を実行しないことに決定されたことに基づいて、画像表示装置 5 のミニスロット図柄表示エリア 5 L1、5 C1、5 R1 に、成立役が「はずれ」となるミニスロット図柄の組合せ (本例では、[リプレイ] [リプレイ] [ベル]) が停止する。また、図 9-9 (6) に示すように、第 1 設定示唆演出を実行することに決定されたことに基づいて、画像表示装置 5 のミニスロット図柄表示エリア 5 L1、5 C1、5 R1 に、成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せ (本例では、[ベル] [ベル] [ベル]) が停止する。また、

10

20

30

40

50

図9-9(8)に示すように、期待度予告演出を実行することに決定され且つ成立役が「チェリー」に決定されたことに基づいて、画像表示装置5のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に、成立役が「チェリー」となるミニスロット図柄の組合せ(本例では、[チェリー][チェリー][チェリー])が停止する。このように、ミニスロット16TM030には、複数種類の成立役のうちの何れかを停止表示させることが可能であるため、ミニスロット16TM030でミニスロット図柄の可変表示が実行されることにより、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0545】

また、図9-9(2)及び(3)に示すように、特別演出領域16TM035(画像表示装置5の画面中央下部)とは異なる画像表示装置5の画面左下部の領域において、変動回数表示16TM040を、通常態様(白色態様)から紫色態様に変化させる第2設定示唆演出が実行される。ここで、図9-6(G)に示すように、第1設定示唆演出の実行割合は、3%(設定値1)~8%(設定値6)の幅であるのに対して、図9-7(M)に示すように、第2設定示唆演出の実行割合は、10%(設定値1)~20%(設定値6)の幅であるため、両方の演出が同じ回数だけ実行されたと仮定した場合には、第2設定示唆演出の方が、第1設定示唆演出よりも設定値を推測しやすいことになる。具体的には、第1設定示唆演出の実行回数に基づいて算出された実行割合と、各設定値(1~6)に対応した所定の演出実行割合(3%~8%)とを比較して、前者に最も近い演出実行割合に対応した設定値を、当該遊技機の設定値として推測する。また、第2設定示唆演出の実行回数に基づいて算出した実行割合と、各設定値(1~6)に対応した所定の演出実行割合(10%~20%)とを比較して、前者に最も近い演出実行割合に対応した設定値を、当該遊技機の設定値として推測する。このような推測を行った場合、第2設定示唆演出の実行回数に基づいて推測された設定値の方が、第1設定示唆演出の実行回数に基づいて推測された設定値よりも、当該遊技機の設定値である可能性が高い(設定示唆の信頼度が高い)。但し、本実施形態では、第1設定示唆演出に関しては1回の変動表示毎に実行抽選が行われ、第2設定示唆演出に関しては25回の変動表示毎に実行抽選が行われるため、第1設定示唆演出の実行頻度は第2設定示唆演出の実行頻度よりも高い。そのため、第1設定示唆演出の方が、第2設定示唆演出よりも、同じ変動表示回数内(同じ時間内)に多くの回数実行されることになるため、設定値の推測には有用である。このように、演出によって示唆される設定値が当該遊技機の設定値である割合が異なる複数種類の設定示唆演出を設けることにより、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0546】

本実施形態では、図9-9及び図9-10に示すように、画像表示装置5の画面右上部に設けられた小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、小図柄の変動表示を実行している。一方で、図9-9に示すように、特別演出領域16TM035(画像表示装置5の画面中央下部)において、第1設定示唆演出を実行しており、画像表示装置5の画面左下部において、第2設定示唆演出を実行している。このように、画面上部では、特別図柄の変動表示に対応した演出として、小図柄の変動表示を実行しているのに対して、画面下部では、設定示唆演出(第1設定示唆演出、第2設定示唆演出)を実行することで、何れか一方の演出によって他方の演出の視認性が低下することがないようにしている。

【0547】

また、本実施形態では、図9-3(A)に示すように、始動入賞時の判定結果に基づくアクティブ表示の表示態様として、通常態様、青色態様、及び赤色態様という複数種類の表示態様(表示色)がある。そして、図9-9(5)に示すように、キャラクタ16TM050が登場して、アクティブ表示16TM003に向かってボールを投げる態様の作用演出が実行されたことに伴い、アクティブ表示16TM003の表示態様(表示色)を通常態様(白色の丸形表示)から赤色態様(赤色の丸形表示)に変化させる第1変化演出が実行される。また、変動開始時の判定結果に基づいてミニスロット図柄表示エリア5LCR1で第2のミニスロット可変表示が実行され、その表示結果となった文字図柄に基づいて、当該文字図柄が示す文字のアイコンをアクティブ表示16TM003に付加する第2

変化演出が実行される。このように、設定示唆演出が実行される領域とは異なる領域で実行された作用演出に応じてアクティブ表示の表示色を変化させる第1変化演出と、第1設定示唆演出が実行される領域（特別演出領域16TM035）に表示された予告文字に基づく作用演出に応じてアクティブ表示の表示形状を変化させる第2変化演出という、複数系統の変化演出を設けることにより、アクティブ表示を変化させる際の興味を一層向上させることができる。

【0548】

また、図9-10（11）及び（12）に示すように、第2変化演出が実行される際に、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1に停止したミニスロット図柄（本例では「激熱」）が、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1から飛び出して、アクティブ表示領域16TM013に表示されているアクティブ表示16TM003に当たる演出が実行される。具体的には、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1から飛び出したミニスロット図柄（本例では「激熱」）が、アクティブ表示16TM003に当たったことを示すエフェクト画像が表示された後に、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1に停止したミニスロット図柄の文字と同じ文字を示す文字アイコンがアクティブ表示16TM003に付加される。このような構成によれば、ミニスロット16TM030において実行される演出と、アクティブ表示16TM003の表示態様とに関連性を持たせ、遊技に対する興味を向上させることができる。

【0549】

また、図9-7（K）及び（L）に示すように、ミニスロット16TM030における期待度予告演出（第1のミニスロット可変表示（2回目））の成立役は、「はずれ」、「スイカ」、「チェリー」、及び「7揃い」の何れかに決定される。そして、決定された成立役に応じて、第2のミニスロット可変表示の表示結果が、「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、及び「FEVER」の何れになるのかの選択割合が異なっている。さらに、本実施形態では、第2のミニスロット可変表示の表示結果が、「CHANCE」、「激熱」、及び「FEVER」の何れかの文字図柄になった場合、その文字図柄の態様と、アクティブ表示16TM003に付加される文字アイコンの態様とは合致する。即ち、ミニスロット16TM030において実行される期待度予告演出（第1のミニスロット可変表示（2回目））の成立役に応じて、アクティブ表示16TM003に付加される文字アイコンの態様が何れになるのかの割合が異なっている。このような構成によれば、ミニスロット16TM030において実行される演出と、アクティブ表示16TM003の表示態様とに関連性を持たせ、遊技に対する興味を向上させることができる。

【0550】

（成立役の集計結果表示）

本実施形態では、デモ表示中に、遊技中の音量を調整するための「音量調整」のアイコン、遊技中の光量を調整するための「光量調整」のアイコン、低確低ベース状態（通常状態）における変動表示回数（特別図柄の変動表示回数）とミニスロット16TM030における各成立役の当選回数とを確認するための「ミニリール情報」のアイコン等、を含むメニュー画面が表示される。このメニュー画面で、スティックコントローラ31A及びプッシュボタン31Bを操作することにより、「音量調節」、「光量調節」、及び「ミニリール情報」の各アイコンを選択可能となっている。

【0551】

図9-11は、メニュー画面が表示されているときに、スティックコントローラ31A及びプッシュボタン31Bの操作により「ミニリール情報」のアイコンが選択された場合に、画像表示装置5の全画面に表示されるミニリール情報の一例を示す説明図である。

【0552】

図9-11に示すように、画像表示装置5の画面左上部には、「ミニリール情報」という文字が表示されている。また、画像表示装置5の画面中央部には、低確低ベース状態（通常状態）で実行された変動表示（特別図柄の変動表示）の累計回数とミニスロット16TM030における各成立役の当選回数とを含むミニリール情報16TM200、「本日

」という文字が表示された選択中タブ16TM210、及び、「前日」という文字が表示された次選択タブ16TM220が表示されている。また、画像表示装置5の画面右部には、選択中タブ16TM210に対応して、スティックコントローラ31Aを操作するように促す操作促進表示16TM270が表示されている。また、画像表示装置5の画面右下部には、「戻る」という文字とともにプッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示16TM280が表示されている。

【0553】

ミニリール情報16TM200には、最上段に、変動表示回数を示す項目として「回転数」という文字が表示され、これに対応して、低確低ベース状態（通常状態）で実行された変動表示の累計回数「XXXX回」が表示されている。2段目には、成立役のベルを示す項目として「ベル」という文字が表示され、これに対応して、第1のミニスロット可変表示で成立役が「ベル」となった累計回数「AAAA回」と、「ベル」の当選確率「 $(1/a a a a . a)$ 」 $[=「ベル」が成立した累計回数/低確低ベース状態（通常状態）で実行された変動表示の累計回数]$ が表示されている。3段目には、成立役のスイカを示す項目として「スイカ」という文字が表示され、これに対応して、第1のミニスロット可変表示で成立役が「スイカ」となった累計回数「BBBB回」と、「スイカ」の当選確率「 $(1/b b b b . b)$ 」 $[=「スイカ」が成立した累計回数/低確低ベース状態（通常状態）で実行された変動表示の累計回数]$ が表示されている。4段目には、成立役のチェリーを示す項目として「チェリー」という文字が表示され、これに対応して、第1のミニスロット可変表示で成立役が「チェリー」となった累計回数「CCCC回」と、「チェリー」の当選確率「 $(1/c c c c . c)$ 」 $[=「チェリー」が成立した累計回数/低確低ベース状態（通常状態）で実行された変動表示の累計回数]$ が表示されている。5段目には、成立役の7揃いを示す項目として「777」という文字が表示され、これに対応して、第1のミニスロット可変表示で成立役が「7揃い」となった累計回数「DDDD回」と、「7揃い」の当選確率「 $(1/d d d d . d)$ 」 $[=「7揃い」が成立した累計回数/低確低ベース状態（通常状態）で実行された変動表示の累計回数]$ が表示されている。

【0554】

なお、「7揃い」が当選した累計回数（DDDD回）とは、あくまで、ミニスロット16TM030のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に「7揃い」となるミニスロット図柄の組合せ（本例では、 $[7][7][7]$ ）が停止した回数を示しており、大当りの発生回数とは別に集計され、大当りの発生回数とは異なる項目として表示される。

【0555】

また、各累計回数（XXXX回、AAAA回、BBBB回、CCCC回、DDDD回）は最大4桁で表示され、「9999回」でカウントストップする。また、当選確率の分母は小数点第一位を含めて最大5桁で表示され、「 $1/9999.9$ 」でカウントストップする。なお、各成立役に関して、当選回数が1回以上の場合は、当選確率を表示するようにし、当選回数が0回の場合は、当選確率表示を非表示とする。

【0556】

本実施形態では、演出制御基板12のRAM122にミニリール情報に関する履歴情報（上述した各累計回数等）を記憶しており、演出制御用CPU120は、記憶されている履歴情報に基づいてミニリール情報を画像表示装置5に表示可能である。具体的には、「本日」、「前日」、及び「前々日」の3日分の履歴情報をRAM122のバックアップ記憶領域に記憶しており、電源断中も履歴情報が保持されている。

【0557】

ミニリール情報は、「本日」のミニリール情報をデフォルトとし、選択中タブ16TM210に「本日」の文字、次選択タブ16TM220に「前日」の文字が表示される。また、画像表示装置5の画面右部にスティックコントローラ31Aを操作するように促す操作促進表示16TM270が表示される。操作促進表示16TM270が表示されている状態で、スティックコントローラ31Aが操作されたことをコントローラセンサユニット

が検出する毎に、ミニリール情報は「前日」→「前々日」と切り替わり、選択中タブ16 TM210の文字は「前日」→「前々日」と切り替わり、次選択タブ16 TM220の文字は「前々日」→「本日」と切り替わる。そして、「前々日」のミニリール情報が選択されているときに、スティックコントローラ31Aが操作されたことをコントローラセンサユニットが検出すると、再び「本日」のミニリール情報に切り替わり、選択中タブ16 TM210の文字は「本日」、次選択タブ16 TM220の文字は「前日」と切り替わる。

【0558】

なお、遊技機の電源投入時に、バックアップRAMに記憶されている電源投入履歴を参照し、前回電源投入した日付と現在電源投入した日付が異なっていた場合には、「前日」の履歴情報を「前々日」に対応した格納領域に格納（履歴情報の上書き）した後に、「本日」の履歴情報を「前日」に対応した格納領域に格納（履歴情報の上書き）して、データを更新する。これにより、「本日」の営業開始時に電源が投入されたときには、バックアップ記憶領域に記憶されている更新後の「前日」及び「前々日」の履歴情報に基づいて、「前日」及び「前々日」のミニリール情報を表示可能となっている。

【0559】

また、本実施形態では、画像表示装置5の画面右下部に、「戻る」という文字とともにプッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示16 TM280が表示されている。操作促進表示16 TM280が表示されている状態で、プッシュボタン31Bが操作されたことをプッシュセンサが検出すると、ミニリール情報の表示が終了してメニュー画面に戻る。

【0560】

図9-11に示すように、メニュー画面が表示されているときに、スティックコントローラ31A及びプッシュボタン31Bの操作により「ミニリール情報」のアイコンが選択されると、バックアップされている「本日」、「前日」、及び「前々日」の履歴情報に基づくミニリール情報が、画像表示装置5に表示される。そして、ミニリール情報16 TM200において、第1設定示唆演出の実行確率であり、「ベル」の当選確率である「(1/a a a a . a)」[=「ベル」が成立した累計回数/低確低ベース状態（通常状態）で実行された変動表示の累計回数]が表示される。

【0561】

本実施形態では、前述したように第1設定示唆演出の実行回数を遊技者自身でカウントして、第1設定示唆演出の実行割合を遊技者自身が算出し、算出した第1設定示唆演出の実行割合が、周知の設定値毎の第1設定示唆演出の実行割合のいずれの設定値に近似するのかを判断することによって、設定値を推測することが可能となる。しかしながら、第1設定示唆演出の実行回数を遊技者自身でカウントするときに、第1設定示唆演出の実行回数を誤ってカウントしてしまうことがある。本実施形態では、デモ表示中に、遊技者がスティックコントローラ31A及びプッシュボタン31Bを操作することにより、ミニリール情報における第1設定示唆演出の実行確率（「ベル」の当選確率）を確認することが可能となっているため、第1設定示唆演出の実行回数を誤ってカウントしてしまった場合であっても、第1設定示唆演出の正確な実行確率を容易に把握することができる。

【0562】

（他の変形例）

（1）上記の実施形態では、第1設定示唆演出及び第2設定示唆演出は、現在設定されている設定値を示唆する演出であったが、第1設定示唆演出及び第2設定示唆演出は、設定変更が行われたことを示唆する演出であるともいえる。例えば、第1設定示唆演出の実行割合が、設定値4に対応した第1設定示唆演出の実行割合（周知の実行割合）に近似しており、第2設定示唆演出の実行割合が、設定値2に対応した第2設定示唆演出の実行割合（周知の実行割合）に近似している場合に、遊技者が実際の設定値を推定することは困難である。ただし、このような状況で、「前日」及び「前々日」のミニリール情報が示す第1設定示唆演出の実行割合が、何れも設定値1に対応した第1設定示唆演出の実行割合（周知の実行割合）に近似している場合に、遊技者は、少なくとも設定値が変更されてい

10

20

30

40

50

る可能性が高いことを推測することができる。即ち、「前日」及び「前々日」の設定値が設定値1であると推測することができ、「本日」は設定値の変更がされている可能性が高いことから、現在の設定値が少なくとも設定値2以上であると推測することができる。

【0563】

なお、設定示唆演出（第1設定示唆演出、第2設定示唆演出）は、当日に設定値の変更が行われたか否かに応じて異なる割合で実行される演出であってもよい。例えば、当日に設定値の変更が行われた場合には、当日に設定値の変更が行われなかった場合よりも高い割合で設定示唆演出が実行されるようにしても良い。

【0564】

また、設定示唆演出（第1設定示唆演出、第2設定示唆演出）は、設定値に応じて異なる割合で実行される演出であってもよい。例えば、設定値が2以下である場合よりも、設定値が3以上である場合の方が高い割合で実行される演出であっても良い。また、設定示唆演出（第1設定示唆演出、第2設定示唆演出）は、設定値に応じて異なる割合で演出態様が決定される演出であってもよい。例えば、設定値が2以下である場合には、設定示唆演出の表示色が70%の割合で青色に決定され、30%の割合で赤色に決定される一方、設定値が3以上である場合には、設定示唆演出の表示色が30%の割合で青色に決定され、70%の割合で赤色に決定されるようにしてもよい。

【0565】

(2) 上記の実施形態では、成立役に応じて大当たり遊技状態に制御される期待度が異なり、「はずれ」<「スイカ」<「チェリー」<「7揃い」の順で期待度が高くなる例を示したが、このような形態に限らず、成立役に応じて特定の大当たり種別の大当たりとなる期待度を異ならせてもよい。例えば、成立役に応じて大当たり種別が確変大当たりとなる期待度が異なり、「はずれ」<「スイカ」<「チェリー」<「7揃い」の順で期待度が高くなるようにしてもよい。

【0566】

(3) 上記の実施形態では、第1設定示唆演出を実行しないことに決定したことに基づいて、成立役が「はずれ」となる第1のミニスロット可変表示（1回目）を実行する例を示したが、これに限らず、第1設定示唆演出を実行しないことに決定したことに基づいて、(i) 成立役が「はずれ」となる第1のミニスロット可変表示（1回目）を実行する場合と、(ii) 第1のミニスロット可変表示自体を実行しない場合とがあるようにしてもよい。

【0567】

このような演出構成を採用した場合であって、第1設定示唆演出を実行しないことに決定したことに基づいて、(ii) 第1のミニスロット可変表示自体を実行しない場合に、(a) 期待度予告演出を実行することに決定したときには、当該期待度予告演出に関する第1のミニスロット可変表示を実行して、その成立役として「ベル」以外の成立役（「はずれ」を含む）を成立させた後に、当該期待度予告演出に関する第2のミニスロット可変表示を実行する。一方、第1設定示唆演出を実行しないことに決定したことに基づいて、(ii) 第1のミニスロット可変表示自体を実行しない場合に、(b) 期待度予告演出を実行しないことに決定したときには、当該変動表示中に、第1のミニスロット可変表示及び第2のミニスロット可変表示を何れも実行しないことになる。

【0568】

(4) 上記の実施の形態では、デモ表示中にメニュー画面が表示されているときに、スティックコントローラ31A及びプッシュボタン31Bの操作により「ミニリール情報」のアイコンが選択されることで、ミニリール情報が画像表示装置5に表示され、第1設定示唆演出の実行確率が報知される例を示したが、このような形態に限らず、デモ表示中以外の期間にミニリール情報を表示してもよい。例えば、ファンファーレ期間およびエンディング期間を含む大当たり遊技状態の期間中や、変動表示の期間中に、スティックコントローラ31A及びプッシュボタン31Bの操作により「ミニリール情報」のアイコンが選択されることで、ミニリール情報が画像表示装置5に表示され、第1設定示唆演出の実行確

10

20

30

40

50

率が報知されるようにしてもよい。なお、操作を要することなく第1設定示唆演出の実行確率が報知されるようにしてもよい、例えば、大当り遊技状態のエンディング期間や、高ベース状態が終了する変動表示等、遊技者にとっての有利な期間が終了するときに、第1設定示唆演出の実行確率が表示されるようにしてもよい。

【0569】

(5) 上記の実施の形態では、ミニリール情報が画像表示装置5に表示される例を示したが、このような形態に限らず、画像表示装置5とは異なる領域にミニリール情報を表示しても良い。例えば、画像表示装置5とは異なる各種の演出画像を表示するサブ画像表示装置を備える遊技機において、デモ表示中、大当り遊技状態中、または変動表示中に、ミニリール情報をサブ画像表示装置に表示しても良い。

10

【0570】

(6) 上記の実施の形態では、第2変化演出が、アクティブ表示の表示態様を変化させる演出である例を示したが、このような形態に限らず、第2変化演出が、保留表示の表示態様を変化させる演出であってもよい。例えば、第2のミニスロット可変表示の表示結果(文字図柄)によって、実行されていない変動表示(先読み予告のターゲットとなる変動表示)の表示結果を予告する先読み予告演出を実行し、第2のミニスロット可変表示の表示結果に基づく文字アイコンを、当該先読み予告のターゲットとなる変動表示に対応した保留表示に付加する第2変化演出を実行してもよい。このように、第2のミニスロット可変表示によって示唆する表示結果は、実行されている変動表示の表示結果に限らず、実行されていない変動表示の表示結果であってもよい。また、第2変化演出により変化させる対応情報の対象とは、実行されている変動表示に対応した対応情報(アクティブ表示)に限らず、実行されていない変動表示に対応した対応情報(保留表示)であってもよい。

20

【0571】

(7) 上記の実施形態では、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1(3リール)で実行される第1のミニスロット可変表示を2回(1回目の成立役が「ベル」又は「はずれ」、2回目の成立役が「ベル」以外となる)まで実行可能である例を示したが、これに限らず、第1のミニスロット可変表示を3回以上実行可能としてもよい。例えば、第1設定示唆演出を実行することに決定したことに基づいて、第1のミニスロット可変表示を2回実行し、期待度予告演出を実行することに決定したことに基づいて、期待度予告演出に関する第1のミニスロット可変表示を2回し、さらに期待度予告演出に関する第2のミニスロット可変表示を実行してもよい。例えば、第1のミニスロット可変表示が計4回実行される場合、1回目の成立役を「はずれ」とした後に2回目の成立役を「ベル」として(第1設定示唆演出)、3回目の成立役を「スイカ」とした後に4回目の成立役を「チェリー」とすることが可能である。

30

【0572】

(8) 上記の実施形態では、期待度予告演出を実行することに決定したことに基づいて、第2のミニスロット可変表示を1回のみ実行する例を示したが、これに限らず、第2のミニスロット可変表示を2回以上実行してもよい。例えば、1回目のミニスロット可変表示の表示結果を「CHANCE」とした後に、2回目のミニスロット可変表示の表示結果を「激熱」としてもよい。このように、第2のミニスロット可変表示を複数回実行する場合には、期待度の高い表示結果の後に期待度の低い表示結果となることがないように、それぞれの表示結果を決定し、予告文字の成り下がり制限するものとする。

40

【0573】

また、第2のミニスロット可変表示が複数回実行されたことに対応して、第2変化演出を複数回実行するようにしてもよい。例えば、1回目のミニスロット可変表示の表示結果が「CHANCE」となったことに基づいて、「CHANCE」の文字アイコンをアクティブ表示に重畳表示させ、その後、2回目のミニスロット可変表示の表示結果が「激熱」となったことに基づいて、「CHANCE」の文字アイコンに代えて「激熱」の文字アイコンをアクティブ表示に重畳表示させてもよい。このように、第2変化演出を複数回実行する場合には、期待度の高い表示態様から期待度の低い表示態様に変化することがないよ

50

うに、それぞれの表示態様を決定し、アクティブ表示の表示態様の成り下がり制限するものとする。

【0574】

(9) 上記の実施形態では、ミニスロット図柄の可変表示の特殊態様として、フリーズ態様のみを例示したが、これに限らず、複数種類の特殊態様を設けてもよい。例えば、特殊態様として、上述したフリーズ態様の他に、ミニスロット図柄が可変表示される速さ（スクロールの速度）が通常態様よりも極端に早い又は極端に遅い態様を設けてもよく、可変表示されるミニスロット図柄が拡大される（例えば通常態様の200%となる）態様を設けてもよい。さらに、特殊態様の種類に応じて成立役の割合が異なるようにしてもよい。例えば、第1特殊態様（ミニスロット図柄が拡大される態様）よりも第2特殊態様（フリーズ態様）の方が、当該ミニスロット図柄の可変表示の成立役が「チェリー」または「7揃い」となる割合が高いようにしてもよい。

10

【0575】

(10) 上記の実施形態において、ミニスロット図柄の可変表示パターン（可変表示時間）を複数設けてもよい。例えば、ミニスロット図柄の可変表示パターンとして、可変表示時間が3.5秒の可変表示パターンと、可変表示時間が30秒の可変表示パターンとを設けてもよい。そして、ミニスロット図柄の可変表示パターンに応じて、成立役が異なる割合で決定されるようにしてもよい。例えば、可変表示時間が30秒の可変表示パターンである場合には、可変表示時間が3.5秒の可変表示パターンである場合よりも、成立役が「チェリー」または「7揃い」となる割合が高いようにしてもよい。

20

【0576】

(11) 上記の実施形態において、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1にミニスロット図柄の組合せが停止表示される（成立役が成立する）タイミングで、成立役に対応した態様でミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1にエフェクト画像を表示してもよい。例えば、成立役として「リプレイ」が成立した場合、青色のエフェクト画像を表示し、成立役として「ベル」が成立した場合、黄色のエフェクト画像を表示し、成立役として「スイカ」が成立した場合、緑色のエフェクト画像を表示し、成立役として「チェリー」が成立した場合、赤色のエフェクト画像を表示し、成立役として「7揃い」が成立した場合、虹色のエフェクト画像を表示してもよい。

【0577】

(12) 上記の実施形態では、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に、大当たりが確定したことを報知する成立役として「7揃い」を停止表示させる例を示したが、これに限らず、大当たりが確定したことを報知する成立役として「BAR揃い」を停止表示させるようにしてもよい。成立役としての「BAR揃い」停止表示させることは、ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に[BAR][BAR][BAR]の組合せを停止表示させることである。また、「7揃い」が成立したときには確変大当たりが確定し、「BAR揃い」が成立したときには通常大当たりが確定するような構成にしてもよい。

30

【0578】

(13) 上記の実施形態では、ミニスロット図柄を含むミニスロット16TM030が、特別図柄の変動表示が実行されているか否か（飾り図柄の変動表示が実行されているか否か）によらず、また、保留記憶数によらず表示可能な情報である例を示したが、このような形態に限らず、所定の期間においてミニスロット16TM030を非表示としてもよい。例えば、スーパーリーチの演出が実行されている期間において、ミニスロット16TM030を非表示としてもよい。

40

【0579】

(14) 上記の実施形態では、1回の特別図柄の変動表示中に、「はずれ」を除いて同一の成立役（例えば[ベル]）が複数回成立することがない例を示したが、このような形態に限らず、1回の特別図柄の変動表示中に、「はずれ」ではない同一の成立役（例えば[ベル]）が複数回成立することがあるようにしてもよい。このような構成を採用した場

50

合、仮に、成立役（例えば「ベル」）が成立した回数全てを累計回数に含めてしまうと、
「実行された n 回の変動表示のうちの何回の変動表示に対応して成立役「ベル」が成立したか」という、設定値を推測する上で最も重要な情報を把握することが極めて困難になり、ミニルール情報 1 6 T M 2 0 0 に表示されている情報の重要性が低下して、遊技者が注目しなくなる可能性がある。このような問題を解決するために、1 回の特別図柄の変動表示中に、同一の成立役（例えば「ベル」）が複数回成立した場合でも、その同一の成立役がこの変動表示中に成立した回数を 1 回として、累計回数をカウントする。例えば、1 回の特別図柄の変動表示中に、「ベル」の成立役が 3 回成立した場合でも、「ベル」の成立役がこの変動表示中に成立した回数を 1 回とみなして、ミニルール情報 1 6 T M 2 0 0 の「ベル」が当選した累計回数に 1 を加算する。

10

【0580】

(15) 上記の実施形態では、変動回数表示 1 6 T M 0 4 0 の表示態様を、設定値に対応した割合で通常態様（白色態様）から設定示唆態様（例えば紫色態様）に変化させる例を示したが、特定の設定値（例えば 5、6 等の特に遊技者にとって有利な設定値）に関しては、設定示唆態様が他の設定値の場合とは異なるようにしてもよい。例えば、設定値が 1～4 の範囲である場合は、変動回数表示 1 6 T M 0 4 0 の表示態様を、設定値に対応した割合で通常態様（白色態様）から第 1 設定示唆態様（例えば紫色態様）に変化させ、設定値が 5 または 6 である場合は、変動回数表示 1 6 T M 0 4 0 の表示態様を、設定値に対応した割合で通常態様（白色態様）から第 2 設定示唆態様（例えば金色態様）に変化させる。なお、第 1 設定示唆態様とするか否かに関しては、前述したように 25 回に 1 回の割合で抽選が行われるのに対して、第 2 設定示唆態様とするか否かに関しては、50 回に 1 回の割合で別に抽選が行われるようにしてもよい。そして、第 2 設定示唆態様とすることに決定された場合には、第 1 設定示唆態様とすることに決定されたか否かにかかわらず、変動回数表示 1 6 T M 0 4 0 を第 2 設定示唆態様（例えば金色態様）とする。

20

【0581】

(16) 上記の実施形態では、低確低ベース状態（通常状態）において、変動パターン（変動時間）にかかわらず第 1 設定示唆演出の実行割合が共通に設定されている例を示したが、これに限らず、変動パターン（変動時間）に応じて第 1 設定示唆演出の実行割合が異なるようにしてもよく、例えば、短い変動時間の変動パターンよりも、長い変動時間の変動パターンの方が、高い割合で第 1 設定示唆演出が実行されるようにしてもよい。

30

【0582】

(17) 上記の実施形態では、画面の中央下部でミニスロット図柄の可変表示が実行され、その表示結果によって設定値が示唆される例を示したが、このような形態に限らず、ミニスロット図柄の可変表示に対応して実行される他の演出によって設定値が示唆されるようにしてもよい。例えば、ミニスロット図柄の可変表示に対応して複数種類のキャラクタのうちのいずれかのキャラクタが出現する演出が実行され、出現したキャラクタの種別によって設定値が示唆されるようにしてもよい。

【0583】

なお、ミニスロット図柄の可変表示や、ミニスロット図柄の可変表示に対応した他の演出は、画面の中央下部とは異なる領域で実行されてもよい。例えば、画面の右端または左端であって、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R と重ならない（重畳しない）領域で実行されてもよく、画像表示装置 5 とは異なる表示装置（所謂サブ表示装置）で実行されてもよい。

40

【0584】

(18) 上記の実施形態では、保留表示に作用する演出、アクティブ表示に作用する演出が、画面の中央下部（図 9-10（11）を参照）または右下部（図 9-9（5）を参照）で実行される例を示したが、これらの演出は異なる領域で実行されてもよい。例えば、画面の右端または左端であって、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R と重ならない（重畳しない）領域で実行されてもよく、画像表示装置 5 とは異なる表示装置（所謂サブ表示装置）で実行されてもよい。

50

【0585】

(19) 上記の実施形態では、ミニスロット図柄の可変表示による設定示唆演出や期待度予告演出が、低確低ベース状態（通常状態）において実行される例を示したが、これに限らず、高確高ベース状態や、高確低ベース状態（通常状態よりも小当りになりやすいKT制御）で実行されてもよい。

【0586】

このような演出構成において、設定示唆演出の実行割合（成立役が「ベル」となる割合）は、〔（設定示唆演出を実行可能な遊技状態で実行された飾り図柄（特別図柄）の変動表示回数）に対しての、（当該遊技状態における設定示唆演出の実行回数（ミニスロット図柄の可変表示で成立役が「ベル」となった回数）の割合）である。従って、高確高ベース状態（KT状態）でミニスロット図柄の可変表示が実行される場合には、〔（高確高ベース状態において実行されたミニスロット図柄の可変表示で成立役が「ベル」となった回数）÷（高確高ベース状態で実行された飾り図柄（特別図柄）の変動表示回数）〕により、設定示唆演出の実行割合が算出され、その算出値によって設定値が示唆される。また、高確低ベース状態（KT状態）でミニスロット図柄の可変表示が実行される場合には、〔（高確低ベース状態（KT状態）において実行されたミニスロット図柄の可変表示で成立役が「ベル」となった回数）÷（高確低ベース状態（KT状態）で実行された飾り図柄（特別図柄）の変動表示回数）〕により、設定示唆演出の実行割合が算出され、その算出値によって設定値が示唆される。

【0587】

上記〔特徴部16T Mに関する説明〕には、以下の手段A1～手段A10に係る構成の一例、並びに、以下の手段B1～手段B10に係る構成の一例が示されている。

【0588】

ここで、特開2010-200902号公報（図12）に示すように、遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能であり、設定変更前後の設定値に応じたキャラクタ画像を表示する遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報（図12）に記載されたような、複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能な遊技機に関しては、演出の興趣を向上させる余地がある。以下に示す手段A1～手段A10に係る構成、並びに、以下に示す手段B1～手段B10に係る構成は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能な遊技機に関する演出の興趣を向上させることを目的とする。

【0589】

手段A1の遊技機（パチンコ遊技機1）は、

遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）のうちのいずれかの設定値に設定可能な設定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

可変表示（変動表示）を実行可能な可変表示手段（遊技制御用マイクロコンピュータ100、演出制御用CPU120）と、

遊技者にとって有利な有利状態（大当たり遊技状態）に制御可能な有利状態制御手段（遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

表示手段（演出制御用CPU120、画像表示装置5）と、を備え、

前記表示手段は、前記設定手段に関する設定示唆に対応する特別表示（成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せ）と、前記有利状態の制御の示唆に対応する特定表示（成立役が「スイカ」、「チェリー」、または「7揃い」となるミニスロット図柄の組合せ、「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、または「FEVER」の図柄）とを表示可能であり、

可変表示期間が所定期間のときには前記特別表示を表示可能であり（変動パターン（変動時間）が、非リーチはずれ（10秒）、ノーマルリーチはずれ（30秒）、またはノーマルリーチ大当たり（30秒）の場合、成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せを停止表示させることが可能であり）、可変表示期間が前記所定期間よりも長いときには

前記特別表示を表示した後に前記特定表示を表示可能である（変動パターン（変動時間）がスーパーリーチはずれ（120秒）またはスーパーリーチ大当り（120秒）の場合、成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せを停止表示させた後に、成立役が「スイカ」、「チェリー」、または「7揃い」となるミニスロット図柄の組合せを停止表示させ、さらに、「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、または「FEVER」の図柄を停止表示させることが可能である）ことを特徴とする。

このような構成によれば、特別表示を特定表示よりも優先して表示させることが可能であるため、設定示唆に関する興趣を向上させることができる。

【0590】

手段A2の遊技機は、

手段A1の遊技機であって、

演出を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）を備え、

前記演出制御手段は、前記可変表示手段（遊技制御用マイクロコンピュータ100、演出制御用CPU120）による可変表示（変動表示）が実行されるときに、設定値に応じて異なる割合で前記特別表示を表示するか否かを決定する（変動表示毎に第1設定示唆演出の実行有無を決定しており（ステップS16TM2000）、図9-6（G）に示すように、設定値に応じて第1設定示唆演出の実行割合が異なっている）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、可変表示が実行されるときに、遊技者が設定値を推測することが可能となる。

【0591】

手段A3の遊技機は、

手段A1又は手段A2の遊技機であって、

演出を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）を備え、

前記演出制御手段は、前記可変表示手段（遊技制御用マイクロコンピュータ100、演出制御用CPU120）による可変表示（変動表示）が実行されるときに、設定値に応じて異なる割合で前記特別表示を表示するか否かを決定し、該決定を行った後に前記特定表示を表示するか否かを決定する（図9-5に示すように、ステップS16TM2000で第1設定示唆演出の実行有無を決定した後に、ステップS16TM2020で期待度予告演出の実行有無を決定する）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、特別表示を表示するか否かを決定した後に、特定表示を表示するか否かを決定するので、特別表示を優先した適切な演出制御が可能となる。

【0592】

手段A4の遊技機は、

手段A1～手段A3から選択される何れかの遊技機であって、

前記表示手段（演出制御用CPU120、画像表示装置5）は、特定演出（スーパーリーチにおけるバトル演出）が実行されるときに前記特別表示（成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せ）を非表示とする

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技者を特定演出に注目させることができる。

【0593】

手段A5の遊技機は、

手段A1～手段A4から選択される何れかの遊技機であって、

前記可変表示手段（演出制御用CPU120）は、装飾識別情報の可変表示（飾り図柄の変動表示）を実行可能であり、

前記表示手段（演出制御用CPU120、画像表示装置5）は、特定領域（ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1、または、5LCR1）において前記装飾識別情報とは異なる情報の可変表示（ミニスロット図柄の可変表示）を実行可能であり、当該特定領域に前記特別表示（成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せ）または前

10

20

30

40

50

記特定表示（成立役が「スイカ」、「チェリー」、もしくは「7揃い」となるミニスロット図柄の組合せ、または、「CHANCE」、「激熱」、もしくは「FEVER」の文字図柄）、もしくは所定表示（成立役が「はずれ」となるミニスロット図柄の組合せ、または、「表示なし」の図柄）を表示可能である

ことを特徴とする。

このような構成によれば、表示手段の特定領域において実行される演出の興趣を向上させることができる。

【0594】

手段A6の遊技機は、

手段A1～手段A5から選択される何れかの遊技機であって、

前記可変表示手段（演出制御用CPU120）は、装飾識別情報の可変表示（飾り図柄の変動表示）を実行可能であり、

前記表示手段（演出制御用CPU120）は、特定領域（ミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1）において前記装飾識別情報とは異なる情報の可変表示（ミニスロット図柄の変動表示）を実行可能であり、

前記特定領域において実行される可変表示の態様が特殊態様（フリーズ態様）となったときには、特殊態様（フリーズ態様）とならなかったときよりも前記有利状態（大当り遊技状態）に制御される割合が高い（図9-7（K）に示すように、ミニスロット図柄がフリーズ態様の変動表示を行うときの成立役は、「チェリー（フリーズ）」又は「7揃い（フリーズ）」となり、「チェリー」以上の成立役（「チェリー」又は「7揃い」）が確定するので、ミニスロット図柄が通常態様の変動表示を行うときよりも、大当り遊技状態に制御される期待度が高くなっている）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、可変表示の態様が特殊態様となることにより、遊技者を表示手段に注目させることができる。

【0595】

手段A7の遊技機は、

手段A1～手段A6から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定表示は複数種類あり（成立役として「スイカ」、「チェリー」、及び「7揃い」があり、表示結果として「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、及び「FEVER」があり）、

前記特定表示の種類に応じて前記有利状態に制御される割合が異なる（図9-7（K）に示すように、大当り遊技状態に制御される期待度は、「スイカ」＜「チェリー」＜「7揃い」の順で高くなっている）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、特定表示の種類に関心を持たせることができる。

【0596】

手段A8の遊技機は、

手段A1～手段A7から選択される何れかの遊技機であって、

前記特別表示の表示履歴（成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せが停止表示した累計回数）を記憶する記憶手段（演出制御基板12のRAM122）と、

所定条件が成立したときに（メニュー画面が表示されているときに、スティックコントローラ31A及び押しボタン31Bの操作により「ミニリール情報」のアイコンが選択されたこと）、前記表示履歴に関する情報（成立役が「ベル」となる当選確率）を表示可能な履歴表示手段（ミニリール情報16TM200を表示する画像表示装置5）と、を備える

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技者が設定値を推測するために、特別表示の表示履歴に関する情報を容易に把握することができる。

【0597】

10

20

30

40

50

手段 A 9 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 8 から選択される何れかの遊技機であって、

前記表示手段（演出制御用 CPU 120）は、特殊領域（画像表示装置 5 の画面左下部）に設定値を示唆する特殊表示（変動回数表示 16 T M 0 4 0）を表示可能であり、

前記特殊表示が表示される割合と、前記特別表示が表示される割合とは異なり（第 1 設定示唆演出は 1 回の変動表示毎に実行抽選を行っており、第 2 設定示唆演出は 25 回の変動表示毎に実行抽選を行っており）、

前記特殊表示により示唆された設定値が当該遊技機の設定値に対応する割合と、前記特別表示により示唆された設定値が当該遊技機の設定値に対応する割合とは異なる（図 9-6（G）に示すように、第 1 設定示唆演出の実行割合が、3%（設定値 1）～8%（設定値 6）であるのに対して、図 9-7（M）に示すように、第 2 設定示唆演出の実行割合は、10%（設定値 1）～20%（設定値 6）であるため、第 1 設定示唆演出と第 2 設定示唆演出とは、実際の演出実行割合に基づいて推測される設定値が当該遊技機の設定値と合致する割合が異なる）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、特別表示であるか又は特殊表示であるかに応じて、示唆された設定値が当該遊技機の設定値に対応する割合が異なるため、何れの表示によって設定値を示唆されるかに注目させることができる。

【0598】

手段 A 10 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 9 から選択される何れかの遊技機であって、

前記可変表示手段（演出制御用 CPU 120）は、第 1 装飾識別情報の可変表示（飾り図柄の変動表示）を第 1 領域（画面中央の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R）で実行可能であり、第 1 装飾識別情報よりも視認性が低い第 2 装飾識別情報の可変表示（小図柄の変動表示）を第 2 領域（画面右上部の小図柄表示エリア 5 l、5 c、5 r）で実行可能であり、

前記表示手段（演出制御用 CPU 120）は、前記特別表示または前記特定表示の少なくとも一方を前記第 1 領域に表示可能であり（画面中央下部のミニリール図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 にミニスロット図柄の組合せが表示され）、前記第 2 領域における前記特別表示および前記特定表示の表示を制限する（小図柄表示エリア 5 l、5 c、5 r には、ミニスロット図柄を表示させない）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第 2 領域における第 2 装飾識別情報の可変表示の視認性が低下することを防ぐことができる。

【0599】

手段 B 1 の遊技機（パチンコ遊技機 1）は、

遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値 1～6）のうちのいずれかの設定値に設定可能な設定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

可変表示（変動表示）を実行可能な可変表示手段（遊技制御用マイクロコンピュータ 100、演出制御用 CPU 120）と、

遊技者にとって有利な有利状態（大当たり遊技状態）に制御可能な有利状態制御手段（遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

表示手段（演出制御用 CPU 120、画像表示装置 5）と、を備え、

前記表示手段は、前記設定手段に関する設定示唆に対応する特別表示（成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せ）と、前記有利状態の制御の示唆に対応する特定表示（成立役が「スイカ」、「チェリー」、または「7 揃い」となるミニスロット図柄の組合せ、「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、または「FEVER」の図柄）とを特定領域に表示可能であり、

可変表示に対応する対応表示（アクティブ表示 16 T M 0 0 3）を表示可能な対応表示

10

20

30

40

50

手段（演出制御用CPU120、画像表示装置5）と、

前記特定表示が前記特定領域に表示された（図9-9（8）に示すように、ミニスロット図柄表示領域5L1、5C1、5R1に、成立役が「チェリー」となるミニスロット図柄の組合せを停止表示させた後に、図9-10（10）に示すように、ミニスロット図柄表示領域5LCR1に、「激熱」の文字図柄を停止表示させる）ことに対応して前記対応表示の態様を変化させる変化演出（図9-10（11）及び（12）に示すように、ミニスロット図柄の文字（「激熱」）と同じ文字を示す文字アイコンをアクティブ表示16TM030に付加する第2変化演出）を実行可能な演出実行手段（演出制御用CPU120）と、を備える

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、設定示唆に対応する特別表示を表示可能な遊技機で、特定表示が特定領域に表示されたことに対応して変化演出を実行可能であるため、演出の興趣を向上させることができる。

【0600】

手段B2の遊技機は、

手段B1の遊技機であって、

前記対応表示（アクティブ表示）の態様として複数種類の特別態様（通常態様、青色態様、赤色態様）があり、

前記演出実行手段（演出制御用CPU120）は、前記対応表示の前記特別態様を変化させる特別演出（第1変化演出）を実行可能である

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特別態様の対応表示が変化することを遊技者に期待させることができる。

【0601】

手段B3の遊技機は、

手段B1又は手段B2の遊技機であって、

前記演出実行手段（演出制御用CPU120）は、前記変化演出（第2変化演出）として、前記変化演出の対象となる対応表示（アクティブ表示）に作用する演出を実行可能である（図9-10（11）及び（12）に示すように、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1に停止表示されたミニスロット図柄（「激熱」）が、ミニスロット16TM30から飛び出してアクティブ表示16TM003に当たったことを示すエフェクト画像が表示された後に、ミニスロット図柄表示エリア5LCR1に停止表示されたミニスロット図柄の文字（「激熱」）と同じ文字を示す文字アイコンがアクティブ表示16TM030に付加される）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、変化演出の興趣を向上させることができる。

【0602】

手段B4の遊技機は、

手段B1～手段B3の何れかの遊技機であって、

前記特定表示は複数種類あり（第1のミニスロット可変表示の成立役として「はずれ」、「スイカ」、「チェリー」、「7揃い」があり、第2のミニスロット可変表示の表示結果として「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、「FEVER」があり）、

前記特定表示の種類に応じて、前記変化演出の対象となる対応表示の態様が異なる割合で決定される（図9-7（K）及び（L）に示すように、期待度予告演出における第1のミニスロット可変表示の成立役は「はずれ」、「スイカ」、「チェリー」、及び「7揃い」の何れに決定され、何れの成立役に決定されたかに応じて、第2のミニスロット可変表示の表示結果が「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、及び「FEVER」の何れになるのかの選択割合が異なっている。そして、第2のミニスロット可変表示の表示結果とアクティブ表示16TM003に付加される文字アイコンの態様とは合致しているので、期待度予告演出における第1のミニスロット可変表示の成立役が何れに決定されたかに

10

20

30

40

50

応じて、アクティブ表示 1 6 T M 0 0 3 に付加される文字アイコンの態様が何れになるのかの割合が異なる)

ことを特徴とする。

このような構成によれば、特定表示の種類と対応表示の態様に関連性を持たせることができ、演出の興趣を向上させることができる。

【0603】

手段 B 5 の遊技機は、

手段 B 1 ～手段 B 4 から選択される何れかの遊技機であって、

演出を制御する演出制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）を備え、

前記演出制御手段は、前記可変表示手段（遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0、演出制御用 C P U 1 2 0）による可変表示（変動表示）が実行されるときに、設定値に応じて異なる割合で前記特別表示を表示するか否かを決定し、該決定を行った後に前記特定表示を表示するか否かを決定する（図 9-5 に示すように、ステップ S 1 6 T M 2 0 0 0 で第 1 設定示唆演出の実行有無を決定した後に、ステップ S 1 6 T M 2 0 2 0 で期待度予告演出の実行有無を決定する）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、特別表示を表示するか否かを決定した後に、特定表示を表示するか否かを決定するので、特別表示を優先した適切な演出制御が可能となる。

【0604】

手段 B 6 の遊技機は、

手段 B 1 ～手段 B 5 から選択される何れかの遊技機であって、

前記可変表示手段（演出制御用 C P U 1 2 0）は、装飾識別情報の可変表示（飾り図柄の変動表示）を実行可能であり、

前記表示手段（演出制御用 C P U 1 2 0、画像表示装置 5）は、特定領域（ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1、または、5 L C R 1）において前記装飾識別情報とは異なる情報の可変表示（ミニスロット図柄の可変表示）を実行可能であり、当該特定領域に前記特別表示（成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せ）または前記特定表示（成立役が「スイカ」、「チェリー」、もしくは「7 揃い」となるミニスロット図柄の組合せ、または、「CHANCE」、「激熱」、もしくは「FEVER」の文字図柄）、もしくは所定表示（成立役が「はずれ」となるミニスロット図柄の組合せ、または、「表示なし」の図柄）を表示可能である

ことを特徴とする。

このような構成によれば、表示手段の特定領域において実行される演出の興趣を向上させることができる。

【0605】

手段 B 7 の遊技機は、

手段 B 1 ～手段 B 6 から選択される何れかの遊技機であって、

前記可変表示手段（演出制御用 C P U 1 2 0）は、装飾識別情報の可変表示（飾り図柄の変動表示）を実行可能であり、

前記表示手段（演出制御用 C P U 1 2 0）は、特定領域（ミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1）において前記装飾識別情報とは異なる情報の可変表示（ミニスロット図柄の変動表示）を実行可能であり、

前記特定領域において実行される可変表示の態様が特殊態様（フリーズ態様）となったときには、特殊態様（フリーズ態様）とならなかったときよりも前記有利状態（大当り遊技状態）に制御される割合が高い（図 9-7（K）に示すように、ミニスロット図柄がフリーズ態様の変動表示を行うときの成立役は、「チェリー（フリーズ）」又は「7 揃い（フリーズ）」となり、「チェリー」以上の成立役（「チェリー」又は「7 揃い」）が確定するので、ミニスロット図柄が通常態様の変動表示を行うときよりも、大当り遊技状態に制御される期待度が高くなっている）

ことを特徴とする。

10

20

30

40

50

このような構成によれば、可変表示の態様が特殊態様となることにより、遊技者を表示手段に注目させることができる。

【0606】

手段B8の遊技機は、

手段B1～手段B7から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定表示は複数種類あり（成立役として「スイカ」、「チェリー」、及び「7揃い」があり、表示結果として「表示なし」、「CHANCE」、「激熱」、及び「FEVER」があり）、

前記特定表示の種類に応じて前記有利状態に制御される割合が異なる（図9-7（K）に示すように、大当り遊技状態に制御される期待度は、「スイカ」＜「チェリー」＜「7揃い」の順で高くなっている）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、特定表示の種類に関心を持たせることができる。

【0607】

手段B9の遊技機は、

手段B1～手段B8から選択される何れかの遊技機であって、

前記特別表示の表示履歴（成立役が「ベル」となるミニスロット図柄の組合せが停止表示した累計回数）を記憶する記憶手段（演出制御基板12のRAM122）と、

所定条件が成立したときに（メニュー画面が表示されているときに、スティックコントローラ31A及び押しボタン31Bの操作により「ミニリール情報」のアイコンが選択されたこと）、前記表示履歴に関する情報（成立役が「ベル」となる当選確率）を表示可能な履歴表示手段（ミニリール情報16TM200を表示する画像表示装置5）と、を備える

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技者が設定値を推測するために、特別表示の表示履歴に関する情報を容易に把握することができる。

【0608】

手段B10の遊技機は、

手段B1～手段B9から選択される何れかの遊技機であって、

前記表示手段（演出制御用CPU120）は、特殊領域（画像表示装置5の画面左下部）に設定値を示唆する特殊表示（変動回数表示16TM040）を表示可能であり、

前記特殊表示が表示される割合と、前記特別表示が表示される割合とは異なり（第1設定示唆演出は1回の変動表示毎に実行抽選を行っており、第2設定示唆演出は25回の変動表示毎に実行抽選を行っており）、

前記特殊表示により示唆された設定値が当該遊技機の設定値に対応する割合と、前記特別表示により示唆された設定値が当該遊技機の設定値に対応する割合とは異なる（図9-6（G）に示すように、第1設定示唆演出の実行割合が、3%（設定値1）～8%（設定値6）であるのに対して、図9-7（M）に示すように、第2設定示唆演出の実行割合は、10%（設定値1）～20%（設定値6）であるため、第1設定示唆演出と第2設定示唆演出とは、実際の演出実行割合に基づいて推測される設定値が当該遊技機の設定値と合致する割合が異なる）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、特別表示であるか又は特殊表示であるかに応じて、示唆された設定値が当該遊技機の設定値に対応する割合が異なるため、何れの表示によって設定値を示唆されるかに注目させることができる。

【0609】

〔特徴部27TMに関する説明〕

次に、特徴部27TMに関して説明する。前述した〔特徴部16TMに関する説明〕において示した遊技機、即ち、設定値を変更可能な遊技機が、以下に示す特徴部27TMを備えるようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【0610】

具体的には、特徴部27TMを備える遊技機では、特別図柄の変動表示中に画像表示装置5の画面全体において表示されていた演出画像（特別図柄の変動表示に対応した演出画像）が、縮小された態様で演出表示領域左部と演出表示領域右部とに分割して表示される分割演出が実行される（図10-1参照）。この分割演出によって、あたかも複数の特別図柄の変動表示（あるいは、複数の特別図柄の変動表示各々に対応した複数の飾り図柄の変動表示）が同時に並行して実行されているかのような印象を遊技者に与えることができる。この【特徴部27TMに関する説明】では、前述した【特徴部16TMに関する説明】で示した構成と同様の構成に関しては、説明を省略する。

【0611】

（分割演出実行時の画面構成）

図10-1は、本実施形態において分割演出が実行されたときに画面に表示される各演出情報の具体例を示す説明図である。本実施形態では、図10-1に示すように、画像表示装置5において演出情報を表示可能な領域（画面全体の領域）を、演出表示領域27TM005Aとしている。

【0612】

演出表示領域27TM005Aの左上部には、第1小図柄表示エリア5l、5c、5rが設けられており、第1小図柄表示エリア5l、5c、5rでは、第1特別図柄の変動表示に対応した第1小図柄の変動表示が実行される。また、演出表示領域27TM005Aの画面右上部には、第2小図柄表示エリアが設けられており、この第2小図柄表示エリアでは、第2特別図柄の変動表示に対応した第2小図柄の変動表示が実行されるものとする。

【0613】

すなわち、この実施の形態では、第1特別図柄の変動表示に対応した演出用図柄の変動表示として、図柄表示エリア5L、5C、5Rでは飾り図柄（主演出用図柄）の変動表示が実行され、第1小図柄表示エリア5l、5c、5rでは第1小図柄（主演出用図柄よりも小さく視認性が低い副演出用図柄）の変動表示が実行される。また、第2特別図柄の変動表示に対応した演出用図柄の変動表示として、図柄表示エリア5L、5C、5Rでは飾り図柄（主演出用図柄）の変動表示が実行され、第2小図柄表示エリアでは第2小図柄（主演出用図柄よりも小さく視認性が低い副演出用図柄）の変動表示が実行される。

【0614】

演出表示領域27TM005Aの下部には第1保留記憶数（0～4の第1保留表示27TM010）を表示する第1保留表示領域27TM011と、現在実行中の変動表示に対応するアクティブ表示27TM030を表示するアクティブ表示領域27TM031と、第2保留記憶数（0～4の第2保留表示27TM020）を表示する第2保留表示領域27TM021が設けられている。アクティブ表示領域27TM031を中央に、遊技者から見て左側が第1保留表示領域27TM011、右側が第2保留表示領域27TM021となっている。

【0615】

また、演出表示領域27TM005Aの左端部近傍で鉛直方向中央部には、第1保留記憶数を数字により表示する第1保留記憶数特別表示領域27TM015が設けられ、演出表示領域27TM005Aの右端部近傍で鉛直方向中央部には、第2保留記憶数を数字により表示する第2保留記憶数特別表示領域27TM025が設けられている。第1保留表示領域27TM011には第1保留記憶数に対応した数のオブジェクト（第1保留表示27TM010）が表示されるため、第1保留表示領域27TM011に表示される第1保留記憶数よりも第1保留記憶数特別表示領域27TM015に表示される第1保留記憶数の方が目立たず視認性が低い。また、第2保留表示領域27TM021には第2保留記憶数に対応した数のオブジェクト（第2保留表示27TM020）が表示されるため、第2保留表示領域27TM021に表示される第2保留記憶数よりも第2保留記憶数特別表示領域27TM025に表示される第2保留記憶数の方が目立たず視認性が低い。

【0616】

分割演出では、変動表示する飾り図柄（主演出用図柄）とその飾り図柄の周囲を囲む枠の組合せが1組から2組に増加して、その一方が第1演出画像表示領域27TM100Aに表示され、他方は第2演出画像表示領域27TM200Aに表示されることになる。第1演出画像表示領域27TM100Aには、第1飾り図柄（第1の主演出用図柄）を含む第1演出画像27TM100及び第1演出画像枠27TM110が表示される。第2演出画像表示領域27TM200Aには、第2飾り図柄（第2の主演出用図柄）を含む第2演出画像27TM200及び第2演出画像枠27TM210が表示される。

【0617】

このように、第1演出画像表示領域27TM100Aに表示される第1演出画像27TM100及び第1演出画像枠27TM110を含む第1の演出情報と、第2演出画像表示領域27TM200Aに表示される第2演出画像27TM200及び第2演出画像枠27TM210を含む第2の演出情報は、いずれも実行中の特別図柄の変動表示に対応した演出情報である。例えば、第1特別図柄の変動表示が実行されているときに、その第1特別図柄の変動表示（共通の特別図柄の変動表示）に対応して、第1の演出情報と第2の演出情報とが同時に並行して表示されることになる。

【0618】

ここで、第1の演出情報（第1演出画像表示領域27TM100Aに表示される第1演出画像27TM100及び第1演出画像枠27TM110を含む演出情報）は、特別図柄の変動表示が開始されることに伴って演出制御用CPU120が受信した変動パターン指定コマンドに対応した演出情報であって、その変動パターン指定コマンドに対応した変動パターンの変動表示期間中に、分割演出が終了した後も継続して演出表示領域27TM005Aに表示可能な演出情報（例えば、第1飾り図柄）を含む。

【0619】

一方、第2の演出情報（第2演出画像表示領域27TM200Aに表示される第2演出画像27TM200及び第2演出画像枠27TM210を含む演出情報）も、特別図柄の変動表示が開始されることに伴って演出制御用CPU120が受信した変動パターン指定コマンドに対応した演出情報であるが、第1の演出情報とは異なり、その変動パターン指定コマンドに対応した変動パターンの変動表示期間中に、分割演出が終了したことに伴い表示されなくなる（非表示制御される）演出情報である。

【0620】

また、第1演出画像27TM100と第2演出画像27TM200は、所定期間（分割演出が実行されている期間内で）左右に並んで表示される画像であり、当該所定期間内において一方が他方と異なる態様となる場合がある。また、本実施形態では、第1演出画像27TM100に、変動開始時演出決定処理において決定された当該変動表示の表示結果を示唆する予告演出の画像（例えば、後述するカットイン予告演出のカットイン画像）が重畳表示される場合がある。

【0621】

これに対して、第2演出画像27TM200は、変動パターンに対応して予め定められた所定期間のムービー（本例では、後述するムービーA（ショート／ロング）、ムービーB（ショート／ロング））に基づく画像である。そのため、第1演出画像27TM100とは異なり、変動開始時演出決定処理において決定された当該変動表示の表示結果を示唆する予告演出の画像が重畳表示されることはないが、ムービー中の画像として予告演出の画像（例えば、後述するカットイン画像）が表示される場合がある。

【0622】

分割演出が実行されると、（1）演出表示領域27TM005Aの右部に第1演出画像表示領域27TM100Aが形成され、演出表示領域27TM005Aの左部に第2演出画像表示領域27TM200Aが形成される第1パターンの演出制御が実行される場合と、（1）とは逆に、（2）演出表示領域27TM005Aの右部に第2演出画像表示領域27TM200Aが形成され、演出表示領域27TM005Aの左部に第1演出画像表示領域27TM100Aが形成される第2パターンの演出制御が実行される場合とがある。

図10-1に示す例では、分割演出において(1)第1パターンの演出制御が実行されている。

【0623】

本実施形態では、CPU103による特別図柄の変動開始時の判定(例えば、第1特別図柄の変動開始時の判定)で、(1)画面右部が第1演出画像表示領域27TM100Aとなり、画面左部が第2演出画像表示領域27TM200Aとなる第1パターンの演出制御を実行することに決定されたことに基づいて、画面右部に、第1演出画像27TM100及び第1演出画像枠27TM110が表示され、画面左部に、第2演出画像27TM200及び第2演出画像枠27TM210が表示されることになる(図10-1を参照)。

【0624】

また、CPU103による特別図柄の変動開始時の判定(例えば、第1特別図柄の変動開始時の判定)で、(2)画面右部が第2演出画像表示領域27TM200Aとなり、画面左部が第1演出画像表示領域27TM100Aとなる第2パターンの演出制御を実行することに決定されたことに基づいて、画面左部に、第1演出画像27TM100及び第1演出画像枠27TM110が表示され、画面右部に、第2演出画像27TM200及び第2演出画像枠27TM210が表示されることになる。

【0625】

分割演出において第1パターンの演出制御が実行されて、画面右部に第1の演出情報が表示され、画面左部に第2の演出情報が表示された場合(図10-1の場合)、分割演出前よりも縮小された背景画像及び飾り図柄を含む第1演出画像27TM100、並びに第1演出画像枠27TM110は、矩形の右辺(画面右側の辺)よりも矩形の左辺(画面中央側の辺)が短く表示され、矩形の上辺と矩形の下辺とは、右端(画面右側)から左端(画面中央側)に向けて両者の間隔が狭まるように表示される。即ち、第1演出画像27TM100及び第1演出画像枠27TM110は、仮想の三次元空間内で右端(画面右側)より左端(画面中央側)が画面奥側(遊技者から遠ざかる方向)に位置しており、その第1演出画像27TM100及び第1演出画像枠27TM110を、画面と垂直方向であって画面よりも遊技者側にある視点から見た態様となっている。

【0626】

また、分割演出前よりも縮小された背景画像及び飾り図柄を含む第2演出画像27TM200、並びに第2演出画像枠27TM210は、矩形の左辺(画面左側の辺)よりも矩形の右辺(画面中央側の辺)が短く表示され、矩形の上辺と矩形の下辺とは、左端(画面左側)から右端(画面中央側)に向けて両者の間隔が狭まるように表示される。即ち、第2演出画像27TM200及び第2演出画像枠27TM210は、仮想の三次元空間内で左端(画面左側)より右端(画面中央側)が画面奥側(遊技者から遠ざかる方向)に位置しており、その第2演出画像27TM200及び第2演出画像枠27TM210を、画面と垂直方向であって画面よりも遊技者側にある視点から見た態様となっている。

【0627】

一方、分割演出において第2パターンの演出制御が実行されて、画面右部に第2の演出情報が表示され、画面左部に第1の演出情報が表示された場合(図10-1とは逆の場合)、分割演出前よりも縮小された背景画像及び飾り図柄を含む第1演出画像27TM100、並びに第1演出画像枠27TM110は、矩形の左辺(画面左側の辺)よりも矩形の右辺(画面中央側の辺)が短く表示され、矩形の上辺と矩形の下辺とは、左端(画面左側)から右端(画面中央側)に向けて両者の間隔が狭まるように表示される。即ち、第1演出画像27TM100及び第1演出画像枠27TM110は、仮想の三次元空間内で左端(画面左側)より右端(画面中央側)が画面奥側(遊技者から遠ざかる方向)に位置しており、その第1演出画像27TM100及び第1演出画像枠27TM110を、画面と垂直方向であって画面よりも遊技者側にある視点から見た態様となる。

【0628】

また、分割演出前よりも縮小された背景画像及び飾り図柄を含む第2演出画像27TM200、並びに第2演出画像枠27TM210は、矩形の右辺(画面右側の辺)よりも矩

10

20

30

40

50

形の左辺（画面中央側の辺）が短く表示され、矩形の上辺と矩形の下辺とは、右端（画面右側）から左端（画面中央側）に向けて両者の間隔が狭まるように表示される。即ち、第2演出画像27TM200及び第2演出画像枠27TM210は、仮想の三次元空間内で右端（画面右側）より左端（画面中央側）が画面奥側（遊技者から遠ざかる方向）に位置しており、その第2演出画像27TM200及び第2演出画像枠27TM210を、画面と垂直方向であって画面よりも遊技者側にある視点から見た態様となっている。

【0629】

（第1実施形態）

【特徴部16TMに関する説明】で示したように、設定コマンドを受信した演出制御用CPU120は、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。即ち、演出制御用CPU120は、設定値を示唆する設定示唆演出を実行することが可能である。以下に説明する第1実施形態では、分割演出中に設定示唆演出を実行可能な例として、第1演出画像表示領域27TM100Aにおいて設定示唆演出を実行可能である一方で、第2演出画像表示領域27TM200Aにおいて設定示唆演出を実行しない構成を特徴とする。

【0630】

（分割演出の具体例）

図10-2を用いて分割演出の具体的態様を説明する。図10-2は、分割演出が実行されるときに画像表示装置5に表示される演出画像の一例を示す説明図である。

【0631】

本実施形態において、分割演出を伴う変動パターン指定コマンドを受信した演出制御用CPU120は、分割演出を伴う変動パターン指定コマンドに対応した演出画像と、変動開始時演出決定処理で決定された各種演出の演出画像とを、当該変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに基づく飾り図柄の変動表示期間中に、演出表示領域27TM005Aに表示させる。

【0632】

図10-2（1）に示すように、分割演出の実行前は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、第1特別図柄の変動表示に同期して、装飾識別情報としての飾り図柄（主演出演図柄）の変動表示が行われる。CPU103が、第1特別図柄の変動表示を実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、第1小図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させている。

【0633】

演出制御用CPU120は、分割演出の実行前は、演出表示領域27TM005Aに単一の背景画像を表示させるとともに、演出表示領域27TM005Aの中央より左側の図柄表示エリア5Lには左飾り図柄を表示させ、演出表示領域27TM005Aの中央の図柄表示エリア5Cには中飾り図柄を表示させ、演出表示領域27TM005Aの中央より右側の図柄表示エリア5Rには右飾り図柄を表示させる。

【0634】

分割演出前の背景画像及び飾り図柄の表示態様は、矩形の背景画像に複数の飾り図柄（左飾り図柄、中飾り図柄、右飾り図柄）が、同サイズ、等間隔で重畳表示された態様となっている。即ち、仮想の三次元空間内で背景画像及び飾り図柄が画面と平行に配置されており、その背景画像及び飾り図柄を、画面と垂直方向（画面よりも遊技者側）にある視点から見た態様となっている。

【0635】

また、演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が3であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域27TM015に「3」を表示させており、第2保留記憶数が0であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域27TM025に「0」を表示させている。また、アクティブ表示領域27TM031には、現在実行中の変動表

10

20

30

40

50

示に対応したアクティブ表示 27TM030 を表示させており、第1保留表示領域 27TM011 には、第1保留表示 27TM010 を3つ表示させている。

【0636】

次いで、演出制御用CPU120は、分割演出の実行に伴い、演出表示領域 27TM005A に表示されている情報のうちの背景画像及び飾り図柄に基づいて、2組の背景画像及び飾り図柄の組み合わせを演出表示領域 27TM005A 上に出現させる。その一方の組み合わせが第1演出画像 27TM100 を含む第1の演出情報となり、他方が第2演出画像 27TM200 を含む第2の演出情報となる。

【0637】

図10-2(2)に示すように、演出制御用CPU120は、分割演出の実行に伴い、演出表示領域 27TM005A 右部の第1演出画像表示領域 27TM100A に第1演出画像 27TM100 を表示させ、演出表示領域 27TM005A 左部の第2演出画像表示領域 27TM200A に第2演出画像 27TM200 を表示させる。即ち、本例では、第1パターンの演出制御を実行することに決定されたことに基づいて、第1の演出情報を画面右部に表示させ、第2の演出情報を画面左部に表示させている。

【0638】

そして、第1演出画像 27TM100 の第1図柄表示エリア 5L1、5C1、5R1では、第1特別図柄の変動表示に対応して、装飾識別情報としての第1飾り図柄の変動表示が行われ、第2演出画像 27TM200 の第2図柄表示エリア 5L2、5C2、5R2では、第1特別図柄の変動表示に対応して、装飾識別情報としての第2飾り図柄の変動表示が行われる。このとき、第1特別図柄の変動表示が継続して実行されていることに対応して、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア 5l、5c、5rにおいて第1小図柄の変動表示を継続させている。

【0639】

また、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域 27TM015 に「3」を継続して表示させており、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域 27TM025 に「0」を継続して表示させている。また、アクティブ表示領域 27TM031 には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示 27TM030 を継続して表示させており、第1保留表示領域 27TM011 には、第1保留表示 27TM010 を継続して3つ表示させている。

【0640】

即ち、本実施形態では、分割演出が実行され、画面右部の第1演出画像表示領域 27TM100A に第1演出画像 27TM100 が表示され、画面左部の第2演出画像表示領域 27TM200A に第2演出画像 27TM200 が表示されている状態であっても、第1保留記憶数特別表示領域 27TM015、第2保留記憶数特別表示領域 27TM025、アクティブ表示領域 27TM031、及び第1保留表示領域 27TM011 の各位置を、分割演出開始前の各位置から変更せず、第1保留記憶数の「3」、第2保留記憶数の「0」、アクティブ表示 27TM030、及び第1保留表示 27TM010 を、分割演出開始前の各位置に継続して表示させている。

【0641】

次いで、図10-2(3)に示すように、分割演出が実行されてから所定期間が経過すると、演出制御用CPU120は、第1演出画像 27TM100 を徐々に拡大表示させる。この第1演出画像 27TM100 を徐々に拡大表示させる拡大表示期間において、第1演出画像 27TM100 は、第2演出画像 27TM200 よりも高い優先度（第2演出画像 27TM200 よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示される。このように、拡大表示期間における第1演出画像 27TM100 及び第2演出画像 27TM200 の表示優先度について、第2演出画像 27TM200 < 第1演出画像 27TM100 の関係が成立するため、拡大表示期間において、第1演出画像 27TM100 と第2演出画像 27TM200 とが重複した領域については、第1演出画像 27TM100 の視認性が第2演出画像 27TM200 の視認性よりも高くな

10

20

30

40

50

る。

【0642】

図10-2(3)の状態から第1演出画像27TM100がさらに拡大表示されて、第2演出画像27TM200を完全に覆い隠した後(第2演出画像27TM200が完全に視認不能になった後)、最終的に第1演出画像27TM100の矩形(第1演出画像枠27TM110)が、演出表示領域27TM005Aの矩形と重なるまで拡大表示されたタイミングで(図10-2(4)に示す状態となったときに)分割演出が終了する。

【0643】

図10-2(3)及び(4)に示すように、分割演出が終了するタイミングで、第1演出画像27TM100の第1図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に表示されていた第1飾り図柄は、分割演出が終了した後に演出表示領域27TM005Aの図柄表示エリア5L、5C、5Rに飾り図柄として表示されることになる。

【0644】

このように、第1の演出情報は、第2の演出情報よりも演出表示領域27TM005Aに表示される表示期間が長い。また、分割演出が終了するときの第1の演出情報と、分割演出が終了した後に演出表示領域27TM005Aに表示される演出情報とは、共通の演出情報(例えば、同一の飾り図柄の組合せ)を有しているため、分割演出の実行中から分割演出の終了後にかけて演出の継続性が担保されている。

【0645】

従って、遊技者にとっては、分割演出の終了後も継続して同一の演出情報が表示されることになる第1の演出情報の方が真の演出情報であり、分割演出の終了に伴い非表示となる第2の演出情報(予め変動パターンに関連付けられたムービー)の方は偽の演出情報であるということもできる。また、分割演出が終了するとき視認性が高くなる第1の演出情報の方が真の演出情報であり、分割演出が終了するとき視認性が低くなる第2の演出情報(予め変動パターンに関連付けられたムービー)の方が偽の演出情報であるということもできる。

【0646】

(変動パターンの決定)

前述したようにROM101には、変動パターンを決定するための変動パターン判定テーブルが記憶されている。CPU103は、特別図柄の変動開始時に判定した当該変動表示の表示結果(「はずれ」又は「大当たり」)に対応した変動パターン判定テーブルと、始動入賞時に抽出した変動パターン判定用乱数とに基づいて、当該変動表示の変動パターンを決定する。そして、変動パターンを指定する変動パターン指定コマンドを演出制御用CPU120に送信する。

【0647】

本実施形態では、変動パターン判定テーブルとして、変動表示結果を「はずれ」にすることが事前決定されたときに使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルと、変動表示結果を「大当たり」にすることが事前決定されたときに使用される大当たり用変動パターン判定テーブルとが予め用意されている。

【0648】

(変動パターン種別)

図10-3に示すように、本実施形態では、はずれ用変動パターンの種別として、「非リーチはずれ」、「ノーマルリーチはずれ」、「スーパーリーチAはずれ」、「スーパーリーチBはずれ」、の各種別がある。そして、各変動パターンの種別毎に、分割演出の実行有無及び分割演出の態様(第2表示ムービー種別)、並びに、擬似連の実行回数及び擬似連の態様(擬似連種別)、に対応した各変動パターンが存在する。

【0649】

「非リーチはずれ」の変動パターン種別は、変動表示が開始された後にリーチ状態が成立することなく、最終的に変動表示結果が「はずれ」となることを示す飾り図柄の組み合わせが確定停止される変動パターンの種別である。

10

20

30

40

50

【0650】

「ノーマルリーチはずれ」の変動パターン種別は、変動表示が開始されてリーチ状態が成立した後に、後述するスーパーリーチ演出（バトル演出）が実行されることなく、最終的に変動表示結果が「はずれ」となることを示す飾り図柄の組み合わせが確定停止される変動パターンの種別である。

【0651】

「スーパーリーチAはずれ」の変動パターン種別は、変動表示が開始されてリーチ状態が成立した後に、スーパーリーチ演出として、味方キャラクタと敵キャラクタAとがバトルを行うことにより大当りに当選しているか否かを報知するバトル演出Aが実行され、さらに味方キャラクタが敵キャラクタAに敗北する演出が実行されて、最終的に変動表示結果が「はずれ」となることを示す飾り図柄の組み合わせが確定停止される変動パターンの種別である。

10

【0652】

「スーパーリーチBはずれ」の変動パターン種別は、変動表示が開始されてリーチ状態が成立した後に、スーパーリーチ演出として、味方キャラクタと敵キャラクタBとがバトルを行うことにより大当りに当選しているか否かを報知するバトル演出Bが実行され、さらに味方キャラクタが敵キャラクタBに敗北する演出が実行されて、最終的に変動表示結果が「はずれ」となることを示す飾り図柄の組み合わせが確定停止される変動パターンの種別である。

20

【0653】

また、図10-4に示すように、本実施形態では、大当り変動パターンの種別として、「ノーマルリーチ大当り」、「スーパーリーチA大当り」、「スーパーリーチB大当り」、の各種別がある。そして、各変動パターンの種別毎に、分割演出の実行有無及び分割演出の態様（第2表示ムービー種別）、並びに、擬似連の実行回数及び擬似連の態様（擬似連種別）、に対応した各変動パターンが存在する。

【0654】

「ノーマルリーチ大当り」の変動パターン種別は、変動表示が開始されてリーチ状態が成立した後に、後述するスーパーリーチ演出（バトル演出）が実行されることなく、最終的に変動表示結果が「大当り」となることを示す飾り図柄の組み合わせが確定停止される変動パターンの種別である。

30

【0655】

「スーパーリーチA大当り」の変動パターン種別は、変動表示が開始されてリーチ状態が成立した後に、スーパーリーチ演出として、味方キャラクタと敵キャラクタAとがバトルを行うことにより大当りに当選しているか否かを報知するバトル演出Aが実行され、さらに味方キャラクタが敵キャラクタAに勝利する演出が実行されて、最終的に変動表示結果が「大当り」となることを示す飾り図柄の組み合わせが確定停止される変動パターンの種別である。

【0656】

「スーパーリーチB大当り」の変動パターン種別は、変動表示が開始されてリーチ状態が成立した後に、スーパーリーチ演出として、味方キャラクタと敵キャラクタBとがバトルを行うことにより大当りに当選しているか否かを報知するバトル演出Bが実行され、さらに味方キャラクタが敵キャラクタBに勝利する演出が実行されて、最終的に変動表示結果が「大当り」となることを示す飾り図柄の組み合わせが確定停止される変動パターンの種別である。

40

【0657】

このように、スーパーリーチを伴う変動パターン（「スーパーリーチAはずれ」及び「スーパーリーチBはずれ」、並びに、「スーパーリーチA大当り」及び「スーパーリーチB大当り」）では、リーチ状態が成立した後に、スーパーリーチ演出として、味方キャラクタと敵キャラクタとがバトルを行うことにより大当りに当選しているか否かを報知するバトル演出が実行される。そして、最終表示結果が「大当り」となる場合（大当り図柄が

50

確定停止される場合)には味方キャラクタが敵キャラクタに勝利する演出が実行され、最終表示結果が「はずれ」となる場合(はずれ図柄が確定停止される場合)には味方キャラクタが敵キャラクタに敗北する演出が実行される。

【0658】

図10-3に示すはずれ用変動パターン判定テーブルにおいては、「非リーチはずれ」の変動パターン種別、「ノーマルリーチはずれ」の変動パターン種別、「スーパーリーチAはずれ」の変動パターン種別、及び「スーパーリーチBはずれ」の変動パターン種別、の各変動パターン種別に対応した各変動パターンに対して、それぞれ表示結果が「はずれ」となる変動パターンを決定するための判定値が割り振られている。

【0659】

図10-4に示す大当り用変動パターン判定テーブルにおいては、「ノーマルリーチ大当り」の変動パターン種別、「スーパーリーチA大当り」の変動パターン種別、及び「スーパーリーチB大当り」の変動パターン種別、の各変動パターン種別に対応した各変動パターンに対して、それぞれ表示結果が「大当り」となる変動パターンを決定するための判定値が割り振られている。

【0660】

(擬似連)

本実施形態では、各変動パターンについて、擬似連が実行されるか否かと、擬似連が実行される場合の実行回数とが設定されている。擬似連を1回以上実行する変動パターンに決定された場合、当該変動パターンを指定する変動パターン指定コマンドを受信した演出制御用CPU120は、画像表示装置5において当該変動パターンに基づく飾り図柄の変動表示期間中に擬似連を1回以上実行することになる。

【0661】

擬似連とは、飾り図柄の変動表示が開始されてから飾り図柄が確定停止して表示結果が導出表示されるまでの期間内に、左図柄、中図柄、及び右図柄の各表示領域において飾り図柄を一旦は仮停止させた後に再度変動表示させる演出である。擬似連が実行されることにより、特別図柄の変動表示が1回実行される期間内、即ち、1の保留記憶に対応した1の変動パターン指定コマンドに基づく飾り図柄の変動表示期間内に、あたかも複数回の飾り図柄の変動表示が実行されているかのように見せることができる。

【0662】

本実施形態に示す擬似連では、左図柄の表示領域及び右図柄の表示領域に、それぞれ数字からなる飾り図柄が仮停止した状態となり、次いで、中図柄の表示領域に「NEXT」という文字からなる擬似連図柄(後述する図10-9(A2)及び(B2)に示す擬似連図柄27TM300)が仮停止した状態となった後に、左図柄、中図柄、及び右図柄の各表示領域における飾り図柄の変動表示が再開される(所謂再変動が行われる)。ここで、「飾り図柄が仮停止した状態」とは、完全に飾り図柄が停止せずに、上下に僅かに動く状態であるが、これに限らず、飾り図柄が揺動している状態、飾り図柄が拡大・縮小を繰り返している状態、及び、飾り図柄が最終停止時(図柄確定時)とは異なる形態となっている(変形している)状態等であってもよい。

【0663】

また、本実施形態では、後述するように、擬似連の種別として、大当りとなる期待度が低い種別Xの擬似連と、大当りとなる期待度が高い種別Yの擬似連とが存在する。

【0664】

(はずれ変動パターン)

「非リーチはずれ」の変動パターン種別として、分割演出が実行されず、擬似連も実行されない「非リーチはずれ[分割演出無し、擬似連無し]」の変動パターンのみが存在する。

【0665】

表示結果が「はずれ」となる場合には、「非リーチはずれ[分割演出無し、擬似連無し]」の変動パターンが60%の割合で選択される。

【0666】

「ノーマルリーチはずれ」の変動パターン種別として、分割演出が実行されず、擬似連も実行されない「ノーマルリーチはずれ〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が1回実行される「ノーマルリーチはずれ〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0667】

表示結果が「はずれ」となる場合には、「ノーマルリーチはずれ〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンが7%の割合で選択され、「ノーマルリーチはずれ〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンが5.5%の割合で選択される。

【0668】

「スーパーリーチAはずれ」の変動パターン種別として、分割演出が実行されず、擬似連も実行されない「スーパーリーチAはずれ〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が1回実行される「スーパーリーチAはずれ〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が2回実行される「スーパーリーチAはずれ〔分割演出無し、擬似連2回（種別X）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチAはずれ〔分割演出無し、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0669】

表示結果が「はずれ」となる場合には、「スーパーリーチAはずれ〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンが3.5%の割合で選択され、「スーパーリーチAはずれ〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンが3%の割合で選択され、「スーパーリーチAはずれ〔分割演出無し、擬似連2回（種別X）〕」の変動パターンが2.5%の割合で選択され、「スーパーリーチAはずれ〔分割演出無し、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが2%の割合で選択される。

【0670】

「スーパーリーチAはずれ」の変動パターン種別として、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーAの種別のうち再生期間が短い種別のムービーA（ショート）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチAはずれ〔第1パターン分割演出（ムービーA（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーAの種別のうち再生期間が長い種別のムービーA（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチAはずれ〔第1パターン分割演出（ムービーA（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0671】

「スーパーリーチAはずれ」の変動パターン種別として、第1演出画像が画面左部に表示され第2演出画像が画面右部に表示される第2パターンの演出制御が実行されるとともにムービーAの種別のうち再生期間が短い種別のムービーA（ショート）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチAはずれ〔第2パターン分割演出（ムービーA（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、第1演出画像が画面左部に表示され第2演出画像が画面右部に表示される第2パターンの演出制御が実行されるとともにムービーAの種別のうち再生期間が長い種別のムービーA（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチAはずれ〔第2パターン分割演出（ムービーA（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0672】

表示結果が「はずれ」となる場合には、「スーパーリーチAはずれ〔第1パターン分割演出（ムービーA（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが1.5%

10

20

30

40

50

の割合で選択され、「スーパーリーチAはずれ〔第1パターン分割演出（ムービーA（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが1%の割合で選択され、「スーパーリーチAはずれ〔第2パターン分割演出（ムービーA（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが1.5%の割合で選択され、「スーパーリーチAはずれ〔第2パターン分割演出（ムービーA（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが1%の割合で選択される。

【0673】

「スーパーリーチBはずれ」の変動パターン種別として、分割演出が実行されず、擬似連も実行されない「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が1回実行される「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が高い種別Yの擬似連が1回実行される「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連1回（種別Y）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が2回実行される「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連2回（種別X）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0674】

表示結果が「はずれ」となる場合には、「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンが2.5%の割合で選択され、「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンが2%の割合で選択され、「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連1回（種別Y）〕」の変動パターンが1.5%の割合で選択され、「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連2回（種別X）〕」の変動パターンが1.5%の割合で選択され、「スーパーリーチBはずれ〔分割演出無し、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが1%の割合で選択される。

【0675】

「スーパーリーチBはずれ」の変動パターン種別として、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が短い種別のムービーB（ショート）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチBはずれ〔第1パターン分割演出（ムービーB（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が長い種別のムービーB（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチBはずれ〔第1パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0676】

「スーパーリーチBはずれ」の変動パターン種別として、第1演出画像が画面左部に表示され第2演出画像が画面右部に表示される第2パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が短い種別のムービーB（ショート）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチBはずれ〔第2パターン分割演出（ムービーB（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、第1演出画像が画面左部に表示され第2演出画像が画面右部に表示される第2パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が長い種別のムービーB（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチBはずれ〔第2パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0677】

表示結果が「はずれ」となる場合には、「スーパーリーチBはずれ〔第1パターン分割演出（ムービーB（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが1%の割

10

20

30

40

50

合で選択され、「スーパーリーチBはずれ〔第1パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが0.5%の割合で選択され、「スーパーリーチBはずれ〔第2パターン分割演出（ムービーB（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが1%の割合で選択され、「スーパーリーチBはずれ〔第2パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが0.5%の割合で選択される。

【0678】

（大当り変動パターン）

「ノーマルリーチ大当り」の変動パターン種別として、分割演出が実行されず、擬似連も実行されない「ノーマルリーチ大当り〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が1回実行される「ノーマルリーチ大当り〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンと、が存在する。

10

【0679】

表示結果が「大当り」となる場合には、「ノーマルリーチ大当り〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンが0.5%の割合で選択され、「ノーマルリーチ大当り〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンが1%の割合で選択される。

【0680】

「スーパーリーチA大当り」の変動パターン種別として、分割演出が実行されず、擬似連も実行されない「スーパーリーチA大当り〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が1回実行される「スーパーリーチA大当り〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が2回実行される「スーパーリーチA大当り〔分割演出無し、擬似連2回（種別X）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチA大当り〔分割演出無し、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

20

【0681】

表示結果が「大当り」となる場合には、「スーパーリーチA大当り〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンが1.5%の割合で選択され、「スーパーリーチA大当り〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンが2%の割合で選択され、「スーパーリーチA大当り〔分割演出無し、擬似連2回（種別X）〕」の変動パターンが2.5%の割合で選択され、「スーパーリーチA大当り〔分割演出無し、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが5%の割合で選択される。

30

【0682】

「スーパーリーチA大当り」の変動パターン種別として、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーAの種別のうち再生期間が短い種別のムービーA（ショート）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチA大当り〔第1パターン分割演出（ムービーA（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーAの種別のうち再生期間が長い種別のムービーA（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチA大当り〔第1パターン分割演出（ムービーA（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

40

【0683】

「スーパーリーチA大当り」の変動パターン種別として、第1演出画像が画面左部に表示され第2演出画像が画面右部に表示される第2パターンの演出制御が実行されるとともにムービーAの種別のうち再生期間が短い種別のムービーA（ショート）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチA大当り〔第2パターン分割演出（ムービーA（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、第1演出画像が画面左部に表示され第2演出画像が画面右部に表示され

50

る第2パターンの演出制御が実行されるとともにムービーAの種別のうち再生期間が長い種別のムービーA（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチA大当り〔第2パターン分割演出（ムービーA（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0684】

表示結果が「大当り」となる場合には、「スーパーリーチA大当り〔第1パターン分割演出（ムービーA（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが6%の割合で選択され、「スーパーリーチA大当り〔第1パターン分割演出（ムービーA（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが7%の割合で選択され、「スーパーリーチA大当り〔第2パターン分割演出（ムービーA（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが6%の割合で選択され、「スーパーリーチA大当り〔第2パターン分割演出（ムービーA（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが7%の割合で選択される。

【0685】

「スーパーリーチB大当り」の変動パターン種別として、分割演出が実行されず、擬似連も実行されない「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が1回実行される「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が高い種別Yの擬似連が1回実行される「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連1回（種別Y）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が低い種別Xの擬似連が2回実行される「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連2回（種別X）〕」の変動パターンと、分割演出が実行されず、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0686】

表示結果が「大当り」となる場合には、「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連無し〕」の変動パターンが2%の割合で選択され、「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連1回（種別X）〕」の変動パターンが2.5%の割合で選択され、「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連1回（種別Y）〕」の変動パターンが3%の割合で選択され、「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連2回（種別X）〕」の変動パターンが3%の割合で選択され、「スーパーリーチB大当り〔分割演出無し、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが7%の割合で選択される。

【0687】

「スーパーリーチB大当り」の変動パターン種別として、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が短い種別のムービーB（ショート）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチB大当り〔第1パターン分割演出（ムービーB（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が長い種別のムービーB（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチB大当り〔第1パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0688】

「スーパーリーチB大当り」の変動パターン種別として、第1演出画像が画面左部に表示され第2演出画像が画面右部に表示される第2パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が短い種別のムービーB（ショート）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチB大当り〔第2パターン分割演出（ムービーB（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、第1演出画像が画面左部に表示され第2演出画像が画面右部に表示され

る第2パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が長い種別のムービーB（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチB大当り〔第2パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンと、が存在する。

【0689】

表示結果が「大当り」となる場合には、「スーパーリーチB大当り〔第1パターン分割演出（ムービーB（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが10%の割合で選択され、「スーパーリーチB大当り〔第1パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが12%の割合で選択され、「スーパーリーチB大当り〔第2パターン分割演出（ムービーB（ショート））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが10%の割合で選択され、「スーパーリーチB大当り〔第2パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが12%の割合で選択される。

【0690】

図10-3に示すように、表示結果が「はずれ」である場合（即ち表示結果指定コマンドにより指定される表示結果が「はずれ」である場合）に、「スーパーリーチAはずれ」の変動パターンが選択される割合は、 $[3.5 + 3 + 2.5 + 2 + 1.5 + 1 + 1.5 + 1 = 16\%]$ であり、「スーパーリーチBはずれ」の変動パターンが選択される割合は、 $[2.5 + 2 + 1.5 + 1.5 + 1 + 1 + 0.5 + 1 + 0.5 = 11.5\%]$ である。

【0691】

一方、図10-4に示すように、表示結果が「大当り」である場合（即ち表示結果指定コマンドにより指定される表示結果が「大当り」である場合）に、「スーパーリーチA大当り」の変動パターンが選択される割合は、 $[1.5 + 2 + 2.5 + 5 + 6 + 7 + 6 + 7 = 37\%]$ であり、「スーパーリーチB大当り」の変動パターンが選択される割合は、 $[2 + 2.5 + 3 + 3 + 7 + 10 + 12 + 10 + 12 = 61.5\%]$ である。

【0692】

このように、「スーパーリーチA」の変動パターンが選択される場合よりも、「スーパーリーチB」の変動パターンが選択される場合の方が、表示結果が「大当り」となる割合が高くなっている。

【0693】

図10-3に示すように、表示結果が「はずれ」である場合（即ち表示結果指定コマンドにより指定される表示結果が「はずれ」である場合）に、スーパーリーチを伴う変動パターンにおいて「分割演出実行なし」の変動パターンが選択される割合は、 $[スーパーリーチA（分割演出実行なし）+スーパーリーチB（分割演出実行なし）]$ の割合であるので、 $[(3.5 + 3 + 2.5 + 2) + (2.5 + 2 + 1.5 + 1.5 + 1) = 19.5\%]$ であり、スーパーリーチを伴う変動パターンにおいて「分割演出実行あり」の変動パターンが選択される割合は、 $[スーパーリーチA（分割演出実行あり）+スーパーリーチB（分割演出実行あり）]$ の割合であるので、 $[(1.5 + 1 + 1.5 + 1) + (1 + 0.5 + 1 + 0.5) = 8\%]$ である。

【0694】

一方、図10-4に示すように、表示結果が「大当り」である場合（即ち表示結果指定コマンドにより指定される表示結果が「大当り」である場合）に、スーパーリーチを伴う変動パターンにおいて「分割演出実行なし」の変動パターンが選択される割合は、 $[スーパーリーチA（分割演出実行なし）+スーパーリーチB（分割演出実行なし）]$ の割合であるので、 $[(1.5 + 2 + 2.5 + 5) + (2 + 2.5 + 3 + 3 + 7) = 28.5\%]$ であり、スーパーリーチを伴う変動パターンにおいて「分割演出実行あり」の変動パターンが選択される割合は、 $[スーパーリーチA（分割演出実行あり）+スーパーリーチB（分割演出実行あり）]$ の割合であるので、 $[(6 + 7 + 6 + 7) + (10 + 12 + 10 + 12) = 70\%]$ である。

【0695】

このように、「分割演出実行なし」の変動パターンが選択される場合よりも、「分割演出実行あり」の変動パターンが選択される場合の方が、表示結果が「大当たり」となる割合が高くなっている。

【0696】

図10-3に示すように、表示結果が「はずれ」である場合（即ち表示結果指定コマンドにより指定される表示結果が「はずれ」である場合）に、「擬似連回数0回（なし）」の変動パターンが選択される割合は、[非リーチはずれ（擬似連回数0回（なし））+ノーマルリーチはずれ（擬似連回数0回（なし））+スーパーリーチAはずれ（擬似連回数0回（なし））+スーパーリーチBはずれ（擬似連回数0回（なし））]の割合であるので、 $[60 + 7 + 3.5 + 2.5 = 73\%]$ であり、「擬似連回数1回」の変動パターンが選択される割合は、[ノーマルリーチはずれ（擬似連回数1回）+スーパーリーチAはずれ（擬似連回数1回）+スーパーリーチBはずれ（擬似連回数1回）]の割合であるので、 $[5.5 + 3 + (2 + 1.5) = 12\%]$ であり、「擬似連回数2回」の変動パターンが選択される割合は、[スーパーリーチAはずれ（擬似連回数2回）+スーパーリーチBはずれ（擬似連回数2回）]の割合であるので、 $[(2.5 + 2 + 1.5 + 1 + 1.5 + 1) + (1.5 + 1 + 1 + 0.5 + 1 + 0.5) = 15\%]$ である。

【0697】

一方、図10-4に示すように、表示結果が「大当たり」である場合（即ち表示結果指定コマンドにより指定される表示結果が「大当たり」である場合）に、「擬似連回数0回（なし）」の変動パターンが選択される割合は、[ノーマルリーチ大当たり（擬似連回数0回（なし））+スーパーリーチA大当たり（擬似連回数0回（なし））+スーパーリーチB大当たり（擬似連回数0回（なし））]の割合であるので、 $[0.5 + 1.5 + 2 = 4\%]$ であり、「擬似連回数1回」の変動パターンが選択される割合は、[ノーマルリーチ大当たり（擬似連回数1回）+スーパーリーチA大当たり（擬似連回数1回）+スーパーリーチB大当たり（擬似連回数1回）]の割合であるので、 $[1 + 2 + (2.5 + 3) = 8.5\%]$ であり、「擬似連回数2回」の変動パターンが選択される割合は、[スーパーリーチA大当たり（擬似連回数2回）+スーパーリーチB大当たり（擬似連回数2回）]の割合であるので、 $[(2.5 + 5 + 6 + 7 + 6 + 7) + (3 + 7 + 10 + 12 + 10 + 12) = 87.5\%]$ である。

【0698】

このように、「擬似連回数0回（なし）」の変動パターンと、「擬似連回数1回」の変動パターンと、「擬似連回数2回」の変動パターンとの関係について、表示結果が「大当たり」となる割合は、「擬似連回数0回（なし）」<「擬似連回数1回」<「擬似連回数2回」の順で高くなっている。従って遊技者は、擬似連が多く実行されることを期待する。

【0699】

図10-3に示すように、表示結果が「はずれ」である場合（即ち表示結果指定コマンドにより指定される表示結果が「はずれ」である場合）に、擬似連が実行され、その擬似連の種別として種別Xが選択される割合は、 $[5.5 + 3 + 2.5 + 2 + 1.5 = 14.5\%]$ であり、擬似連が実行され、その擬似連の種別として種別Yが選択される割合は、 $[2 + 1.5 + 1 + 1.5 + 1 + 1.5 + 1 + 1 + 0.5 + 1 + 0.5 = 12.5\%]$ である。

【0700】

図10-4に示すように、表示結果が「大当たり」である場合（即ち表示結果指定コマンドにより指定される表示結果が「大当たり」である場合）に、擬似連が実行され、その擬似連の種別として種別Xが選択される割合は、 $[1 + 2 + 2.5 + 2.5 + 3 = 11\%]$ であり、擬似連が実行され、その擬似連の種別として種別Yが選択される割合は、 $[5 + 6 + 7 + 6 + 7 + 3 + 7 + 10 + 12 + 10 + 12 = 85\%]$ である。

【0701】

このように、種別Xの擬似連が実行される変動パターンよりも、種別Yの擬似連が実行される変動パターンの方が、表示結果が「大当たり」となる割合が高い。

【0702】

(始動入賞時演出決定処理)

図10-5は、始動入賞時に実行される演出決定処理を示すフローチャートである。演出制御用CPU120は、図7に示した演出制御プロセス処理の先読予告設定処理(ステップS161)において、図10-5に示す始動入賞時演出決定処理を実行する。

【0703】

始動入賞時演出決定処理において、演出制御用CPU120は、まず、第1始動入賞口への始動入賞が発生したことに基づく1セットの始動入賞時のコマンド(例えば、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、及び第1保留記憶数加算指定コマンド)を新たに受信したか否かを確認する(ステップS27TM1000)。

10

【0704】

図柄指定コマンドは、入賞時判定結果のうち、大当たりとなるか否か、及び、大当たりの種別の判定結果を示す演出制御コマンドである。CPU103は、始動入賞時に抽出した大当たり判定用乱数及び大当たり種別判定用乱数に基づいて、大当たりとなるか否か、及び、大当たりとなる場合の大当たり種別を判定して、その判定結果を指定する図柄指定コマンドを出力する。また、変動カテゴリコマンドは、入賞時判定結果のうち、変動パターンの判定結果を示す演出制御コマンドである。CPU103は、始動入賞時に抽出した変動パターン判定用乱数に基づいて、ノーマルリーチとなるか否か、スーパーリーチとなるか否か、及び、分割演出が実行されるか否か等を判定して、その判定結果を指定する変動カテゴリコマンドを出力する。また、第1保留記憶数加算指定コマンドは、第1保留記憶数が1増加したことを指定する演出制御コマンドである。

20

【0705】

本実施形態では、CPU103が、始動入賞時に抽出した変動パターン判定用乱数と、図10-3及び図10-4に示した変動パターン判定用テーブルに基づいて、当該始動入賞に対応した変動表示に対応した変動パターンを、当該始動入賞に対応した変動表示の実行前に判定して、その判定結果に基づく変動カテゴリコマンドを演出制御用CPU120に送信することが可能となっている。そのため、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドを受信するよりも前に、始動入賞時の判定結果に基づいて分割演出が実行されるか否かを確認することができる。

【0706】

具体的には、演出制御用CPU120は、始動入賞時コマンド格納領域に1セットの始動入賞時のコマンド(図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、及び第1保留記憶数加算指定コマンド)が新たに格納されているか否かを判定する。1セットの始動入賞時のコマンドを新たに受信していなければ(ステップS27TM1000でNO)、そのまま処理を終了する。

30

【0707】

1セットの始動入賞時のコマンドを新たに受信していれば(ステップS27TM1000でYES)、演出制御用CPU120は、CPU103から受信した変動カテゴリコマンドに基づいて、分割演出を実行すると判定されたか否かを確認する(ステップS27TM1010)。

40

【0708】

分割演出を実行すると判定されていなければ(ステップS27TM1010でNO)、演出制御用CPU120は、ステップS27TM1030に処理を進める。分割演出を実行すると判定されていれば(ステップS27TM1010でYES)、演出制御用CPU120は、変化禁止フラグをセットし(ステップS27TM1020)、ステップS27TM1030に処理を進める。変化禁止フラグは、ステップS27TM1020でセットされ(オンとなり)、受信した当該始動入賞時のコマンドに対応した変動表示が終了したタイミングでリセットされる(オフとなる)。

【0709】

次いで、演出制御用CPU120は、変化禁止フラグがセットされているか否かを判定

50

する（ステップS 2 7 T M 1 0 3 0）。変化禁止フラグがセットされていれば（ステップS 2 7 T M 1 0 3 0でYES）、そのまま処理を終了する。変化禁止フラグがセットされていなければ（ステップS 2 7 T M 1 0 3 0でNO）、アクティブ表示の最終表示態様を、アクティブ表示の最終表示態様決定テーブル（図9-3（A）を参照）に基づいて決定する（ステップS 1 6 T M 1 0 1 0）。

【0710】

次いで、演出制御用CPU120は、アクティブ表示の変化パターン、並びに、第1変化演出の実行有無及び実行回数を、アクティブ表示の変化パターン決定テーブル（図9-3（B）を参照）に基づいて決定する（ステップS 1 6 T M 1 0 2 0）。

【0711】

次いで、演出制御用CPU120は、保留表示の変化パターンを、保留表示の変化パターン決定テーブル（図9-4を参照）に基づいて決定し（ステップS 1 6 T M 1 0 3 0）、そのまま処理を終了する。

【0712】

本実施形態では、図10-2（1）～（4）に示すように、分割演出が実行されているか否かにかかわらず、第1保留表示27TM010は、第1演出画像27TM100及び第2演出画像27TM200のいずれとも異なる領域である第1保留表示領域27TM011に表示されており、アクティブ表示27TM030は、第1演出画像27TM100及び第2演出画像27TM200のいずれとも異なる領域であるアクティブ表示領域27TM031に表示されている。

【0713】

そして、図10-5に示すように、変化禁止フラグがセットされていない場合（ステップS 2 7 T M 1 0 3 0でNO）、演出制御用CPU120は、ステップS 1 6 T M 1 0 1 0～ステップS 1 6 T M 1 0 3 0の処理を実行し、アクティブ表示又は保留表示の態様を変化させる第1変化演出の実行有無を決定して、第1変化演出を実行可能となっている。一方で、変化禁止フラグがセットされている場合（ステップS 2 7 T M 1 0 3 0でYES）、ステップS 1 6 T M 1 0 1 0～ステップS 1 6 T M 1 0 3 0の処理をスキップし、そのまま処理を終了しているため、第1変化演出を実行不能となっている。

【0714】

このように、始動入賞時の判定で分割演出を実行すると判定された場合には、当該始動入賞時から当該始動入賞時の判定対象となった変動表示が終了するまでの期間、保留表示及びアクティブ表示の表示態様を変化させないようにすることで、遊技者の関心を、「分割演出が実行されるか否かということ」に向けさせることができる。また、分割演出が実行されているときに、保留表示及びアクティブ表示の表示態様を変化させないようにすることで、遊技者を分割演出に注目させることができる。

【0715】

なお、始動入賞時の判定で分割演出を実行すると判定された場合に、当該始動入賞時から当該始動入賞時の判定対象となった変動表示が開始される前までの期間は、保留表示又はアクティブ表示の表示態様を変化させることを許容するが（第1変化演出を実行可能とするが）、分割演出を伴う変動表示の実行中（あるいは分割演出の実行中）は、保留表示及びアクティブ表示の表示態様を変化させない（第1変化演出を実行不能とする）ようにしてもよい。

【0716】

仮に、分割演出が実行されているときに、アクティブ表示の表示態様を変化させたとすると、第1演出画像27TM100及び第2演出画像27TM200の態様と、アクティブ表示の表示態様が変化したタイミングによっては、左右何れの画像が第1演出画像27TM100であるか（即ち、遊技者にとって真の画像であるか）を、遊技者が容易に把握してしまう可能性があるため、少なくとも分割演出が実行されている期間は、アクティブ表示を対象とした作用演出を実行しないことが好ましい。

【0717】

10

20

30

40

50

一方で、分割演出を伴う変動表示の実行中（あるいは分割演出の実行中）は、保留表示の表示態様を変化させないものの、アクティブ表示の表示態様を変化させることが可能であるようにしてもよい。例えば、分割演出を伴う変動表示に対応した対応情報であるアクティブ表示の表示態様を変化させることを可能とすることで、分割演出が実行されていることにより、アクティブ表示がどのような態様に変化するかについて、遊技者に関心を持たせることができる。

【0718】

本実施形態において、演出制御用CPU120が、保留表示やアクティブ表示に作用する作用演出を実行可能な演出構成としてもよい。例えば、キャラクタが投げたボールが保留表示又はアクティブ表示に当たる作用演出が実行されたことに伴い、そのボールが当たった保留表示又はアクティブ表示の表示態様に変化する場合があるようにしてもよい。

10

【0719】

そして、始動入賞時の判定で分割演出を実行すると判定された場合には、当該始動入賞時から当該始動入賞時の判定対象となった変動表示が終了するまでの期間、作用演出を実行しないようにしてもよい。

【0720】

なお、始動入賞時の判定で分割演出を実行すると判定された場合に、当該始動入賞時から当該始動入賞時の判定対象となった変動表示が開始される前までの期間は、作用演出を実行可能とするが、分割演出を伴う変動表示の実行中（あるいは分割演出の実行中）は、作用演出を実行しないようにしてもよい。

20

【0721】

また、始動入賞時の判定で分割演出を実行すると判定された場合には、当該始動入賞時から当該始動入賞時の判定対象となった変動表示が終了するまでの期間、保留表示及びアクティブ表示の表示態様を変化させない（第1変化演出を実行不能である）一方で作用演出は実行可能であってもよい。例えば、キャラクタが投げたボールが保留表示又はアクティブ表示に当たる作用演出は実行されるものの、結果として、ボールが当たった保留表示又はアクティブ表示の表示態様は変化しないようにしてもよい。

【0722】

以上に示したように、本実施形態では、変動表示中に分割演出が実行されていない期間よりも、変動表示中に分割演出が実行されている期間の方が、保留表示又はアクティブ表示の表示態様を変化させる演出（保留表示又はアクティブ表示に作用する演出）の実行割合が低くなる。

30

【0723】

（演出動画の具体例）

次に、演出動画の具体例に関して、図10-6及び図10-7を用いて説明する。図10-6は、分割演出が実行されるときに、第2演出画像表示領域27TM200Aに表示される第2演出画像27TM200の一例である「ムービーA」の一例を示す説明図であり、図10-7は、分割演出が実行されるときに、第2演出画像表示領域27TM200Aに表示される第2演出画像27TM200の一例である「ムービーB」の一例を示す説明図である。

40

【0724】

前述したように、本実施形態において分割演出が実行される場合には、第2演出画像27TM200として、変動パターンに対応した所定のムービーの画像が表示されることになる。そして、第2演出画像表示領域27TM200Aにおいて設定示唆演出は実行されない。

【0725】

（ムービーAの具体例）

図10-6（1）に示すように、演出制御用CPU120により分割演出が実行されると、第2演出画像27TM200の第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2において、第2飾り図柄の変動表示が開始される。

50

【0726】

次いで、図10-6(2)に示すように、演出制御用CPU120は、第2図柄表示エリア5L2及び第2図柄表示エリア5R2に「2」の第2飾り図柄、第2図柄表示エリア5C2に擬似連図柄27TM300を仮停止させるとともに、第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2に、それぞれ、白色のエフェクト画像27TM400Aを表示させる。このときの第2飾り図柄は、エフェクト画像よりも高い優先度（エフェクト画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示される。即ち、第2飾り図柄、エフェクト画像、及び背景画像の表示優先度は、背景画像<エフェクト画像<第2飾り図柄の順で高くなっている。

【0727】

この第2演出画像27TM200としてムービーAが再生される例では、擬似連図柄27TM300が仮停止したときに後述する擬似連エフェクト画像27TM300Aが表示されておらず、擬似連の種別のうち種別X（期待度低）の擬似連が実行されている。また、この第2演出画像27TM200としてムービーAが再生される例では、エフェクト画像27TM400Aは、後述する第4設定示唆演出のように設定値を示唆する態様（青又は赤）とはなっていない。

【0728】

次いで、図10-6(3)に示すように、演出制御用CPU120は、第2演出画像27TM200の第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2において、第2飾り図柄の1回目の再変動表示を実行させる。

【0729】

次いで、図10-6(4)に示すように、演出制御用CPU120は、第2演出画像27TM200の第2図柄表示エリア5L2及び第2図柄表示エリア5R2に「2」の第2飾り図柄を停止表示させることによりリーチ状態とし、第2演出画像27TM200の上部に「リーチ!!」の文字を表示させる。

【0730】

このとき、演出制御用CPU120は、リーチ状態を継続したまま、第2演出画像27TM200の中央部に、押しボタン31Bを操作するよう遊技者に促すための操作促進表示27TM350と、押しボタン31Bの操作が有効となる残り期間を報知するためのタイムバー27TM360とを表示させる。操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360は、背景画像及び飾り図柄よりも表示優先度の高い（表示レイヤが上位である）画像であるため、遊技者からは背景画像及び飾り図柄よりも手前に表示されているように見える。

【0731】

本実施形態においてタイムバー27TM360は、表示された当初のタイミングでは残り時間が100%の表示となっており、時間経過に応じて徐々に残り時間の割合が減少し、操作促進表示27TM350の表示が終了するタイミングで残り時間が0%の表示となる。

【0732】

しかしながら、第2演出画像27TM200として操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が表示されるときには、その操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360は、あくまで変動パターンに対応したムービー中のオブジェクトにすぎない。実際には、操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360の表示期間中にも、押しボタン31Bの操作が有効となっておらず、押しボタン35Bの動作検出手段によって動作が検出されない。

【0733】

本実施形態において、第2演出画像27TM200としてタイムバー27TM360が表示されるときには、後述するように、タイムバー27TM360の残り時間が20%の表示となるタイミングで、遊技者による押しボタン31Bの操作が実際に行われたか否かにかかわらず、後述するカットイン予告演出の態様を模した演出画像が表示されるこ

10

20

30

40

50

とになる。

【0734】

次いで、図10-6(5)に示すように、タイムバー27TM360が表示されてから所定期間が経過したことに応じて、演出制御用CPU120により、タイムバー27TM360の表示は残り25%に更新されている。

【0735】

次いで、図10-6(6)に示すように、タイムバー27TM360の表示が残り20%まで更新されたタイミングで、演出制御用CPU120は、遊技者によるプッシュボタン31Bの操作が実際に行われたか否かにかかわらず、第2演出画像27TM200として、「チャンス?」という文字が表示されたカットイン画像27TM370Aを表示させる。ただし、第2演出画像27TM200として表示されるカットイン画像は、あくまで変動パターンに対応したムービー中のオブジェクトにすぎない。このカットイン画像27TM370Aは、実行中の他の演出よりも優先度の高い表示態様で表示される。

【0736】

このように、第2演出画像27TM200として表示されたタイムバー27TM360により示唆される残りの操作有効期間が所定期間(残り20%)となったタイミングで、実際の操作の有無にかかわらずカットイン画像が表示されることになる。即ち、プッシュボタン31Bの操作が有効である場合に、実際にプッシュボタン31Bの操作が行われて、プッシュセンサ35Bの動作検出手段によって動作が検出されたときと同様の演出が実行されることになる。

【0737】

次いで、図10-6(7)に示すように、演出制御用CPU120は、第2演出画像27TM200として、「バトル」という文字が表示されるとともに、味方キャラクタ27TM500と敵キャラクタA(27TM510A)とがバトルを行うバトル演出の画像を表示させる。バトル演出の画像の中央下部には、「期待度」という文字とともに2個の星形のオブジェクト画像27TM550が表示されており、オブジェクト画像27TM550の数によって大当たりとなる期待度を示唆する態様となっている。ただし、第2演出画像27TM200として表示されるオブジェクト画像27TM550は、あくまで変動パターンに対応したムービー中のオブジェクトにすぎない。

【0738】

(ムービーBの具体例)

図10-7(1)に示すように、演出制御用CPU120により分割演出が実行されると、第2演出画像27TM200の第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2において、第2飾り図柄の変動表示が開始される。

【0739】

次いで、図10-7(2)に示すように、演出制御用CPU120は、第2図柄表示エリア5L2及び第2図柄表示エリア5R2に「2」の第2飾り図柄、第2図柄表示エリア5C2に擬似連図柄27TM300を仮停止させるとともに、第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2に、それぞれ、白色のエフェクト画像27TM400Aを表示させる。このときの第2飾り図柄は、エフェクト画像よりも高い優先度(エフェクト画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様)で表示される。即ち、第2飾り図柄、エフェクト画像、及び背景画像の表示優先度は、背景画像<エフェクト画像<第2飾り図柄の順で高くなっている。

【0740】

次いで、図10-7(3)に示すように、演出制御用CPU120は、第2演出画像27TM200として擬似連エフェクト画像27TM300Aを表示させる。

【0741】

この第2演出画像27TM200としてムービーBが再生される例では、擬似連図柄27TM300が仮停止したときに擬似連エフェクト画像27TM300Aが表示されており、擬似連の種別のうち種別Y(期待度高)の擬似連が実行されている。また、この第2

10

20

30

40

50

演出画像 27TM200 としてムービー B が再生される例では、エフェクト画像 27TM400A は、後述する第 4 設定示唆演出のように設定値を示唆する態様（青又は赤）とはなっていない。

【0742】

次いで、図 10-7（4）に示すように、演出制御用 CPU120 は、第 2 演出画像 27TM200 の第 2 図柄表示エリア 5L2、5C2、5R2 において、第 2 飾り図柄の 1 回目の再変動表示を実行させる。

【0743】

次いで、図 10-7（5）に示すように、演出制御用 CPU120 は、第 2 演出画像 27TM200 の第 2 図柄表示エリア 5L2 及び第 2 図柄表示エリア 5R2 に「5」の第 2 飾り図柄を停止表示させることによりリーチ状態とし、第 2 演出画像 27TM200 の上部に「リーチ！！」の文字を表示させる。

10

【0744】

このとき、演出制御用 CPU120 は、リーチ状態を継続したまま、第 2 演出画像 27TM200 の中央部に、プッシュボタン 31B を操作するよう遊技者に促すための操作促進表示 27TM350 と、プッシュボタン 31B の操作が有効となる残り期間を報知するためのタイムバー 27TM360 とを表示させる。操作促進表示 27TM350 及びタイムバー 27TM360 は、背景画像及び飾り図柄よりも表示優先度の高い（表示レイヤが上位である）画像であるため、遊技者からは背景画像及び飾り図柄よりも手前に表示されているように見える。

20

【0745】

次いで、図 10-7（6）に示すように、タイムバー 27TM360 が表示されてから所定期間が経過したことに応じて、演出制御用 CPU120 は、タイムバー 27TM360 の表示は残り 25% に更新されている。

【0746】

次いで、図 10-7（7）に示すように、タイムバー 27TM360 の表示が残り 20% まで更新されたタイミングで、演出制御用 CPU120 は、遊技者によるプッシュボタン 31B の操作が実際に行われたか否かにかかわらず、第 2 演出画像 27TM200 として、「チャンス！」という文字が表示されたカットイン画像 27TM370B を表示させる。このカットイン画像 27TM370B は、実行中の他の演出よりも優先度の高い表示態様で表示される。

30

【0747】

次いで、図 10-7（8）に示すように、演出制御用 CPU120 は、第 2 演出画像 27TM200 として、「バトル」という文字が表示されるとともに、味方キャラクタ 27TM500 と敵キャラクタ A（27TM510A）とがバトルを行うバトル演出の画像を表示させる。バトル演出の画像の中央下部には、「期待度」という文字とともに 2 個の星形のオブジェクト画像 27TM550 が表示されており、オブジェクト画像 27TM550 の数によって大当たりとなる期待度を示唆する態様となっている。

【0748】

（演出動画の再生制御）

40

本実施形態では、図 10-2 及び図 10-3 に示したように、分割演出を伴う変動パターンに対応した第 2 演出画像 27TM200 として再生可能な演出動画として、[ムービー A（ショート）] と、[ムービー A（ロング）] と、[ムービー B（ショート）] と、[ムービー B（ロング）] とがある。図 10-8 は、分割演出が実行される場合の各演出動画の再生期間を示すタイムチャートである。

【0749】

図 10-8 に示すように、演出動画種別として [ムービー A（ショート）] が選択された場合には、演出制御用 CPU120 は、[ムービー A] の演出画像の表示を開始させ（T0 のタイミング）、図 10-6（1）～（3）に示す [ムービー A] の演出画像を表示させた後に、[ムービー A] の演出画像の表示を終了させる（TA1 のタイミング）。ま

50

た、演出動画種別として「ムービーA（ロング）」が選択された場合には、演出制御用CPU120は、「ムービーA」の演出画像の表示を開始させ（T0のタイミング）、図10-6（1）～（7）に示す「ムービーA」の演出画像を表示させた後に、「ムービーA」の演出画像の表示を終了させる（TA2のタイミング）。

【0750】

ここで「ムービーA（ショート）」の演出画像（図10-6（1）～（3））と、「ムービーA（ロング）」の前半部分の演出画像（図10-6（1）～（3））とは共通である。そのため「ムービーA（ショート）」の再生は、「ムービーA（ロング）」の前半部分を再生させる制御を実行することで足りる。従って、演出制御基板12のROM121には「ムービーA（ロング）」に関する演出データを記憶させておき、演出制御用CPU120が、変動パターン指定コマンドに応じて、「ムービーA（ロング）」の前半部分のみの表示制御を実行するか（「ムービーA（ショート）」を再生させるか）、又は、「ムービーA（ロング）」の全体部分（フル）の表示制御を実行するか（「ムービーA（ロング）」を再生させるか）を決定して、その決定に基づいて表示制御を実行することで、2パターンのムービー再生が可能となる。

【0751】

また、演出動画種別として「ムービーB（ショート）」が選択された場合には、演出制御用CPU120は、「ムービーB」の演出画像の表示を開始させ（T0のタイミング）、図10-7（1）～（4）に示す「ムービーB」の演出画像を表示させた後に、「ムービーB」の演出画像の表示を終了させる（TB1のタイミング）。また、演出動画種別として「ムービーB（ロング）」が選択された場合には、演出制御用CPU120は、「ムービーB」の演出画像の表示を開始させ（T0のタイミング）、図10-7（1）～（8）に示す「ムービーB」の演出画像を表示させた後に、「ムービーB」の演出画像の表示を終了させる（TB2のタイミング）。

【0752】

ここで「ムービーB（ショート）」の演出画像（図10-7（1）～（4））と、「ムービーB（ロング）」の前半部分の演出画像（図10-7（1）～（4））とは共通である。そのため「ムービーB（ショート）」の再生は、「ムービーB（ロング）」の前半部分を再生させる制御を実行することで足りる。従って、演出制御基板12のROM121には「ムービーB（ロング）」に関する演出データを記憶させておき、演出制御用CPU120が、変動パターン指定コマンドに応じて、「ムービーB（ロング）」の前半部分のみの表示制御を実行するか（「ムービーB（ショート）」を再生させるか）、又は、「ムービーB（ロング）」の全体部分（フル）の表示制御を実行するか（「ムービーB（ロング）」を再生させるか）を決定して、その決定に基づいて表示制御を実行することで、2パターンのムービー再生が可能となる。

【0753】

図10-8に示したように、ROM121に記憶される1の演出動画に複数の終了タイミングを設けることにより、分割演出を伴う変動パターン毎に個別の演出動画を記憶させておく必要がなくなり、演出データの記憶容量が過度に増大してしまうことを防止することができる。また、1の演出動画の終了タイミングを変動パターンに応じて異ならせることにより、遊技者に対してあたかも複数の演出動画が用意されているかのように見せることができる。

【0754】

なお、本実施形態では、図10-3及び図10-4に示したように、表示結果が「はずれ」になる場合には、「ムービーA（ショート）」の変動パターンが選択される割合が $[1.5 + 1.5] = 3\%$ であり、「ムービーA（ロング）」の変動パターンが選択される割合が $[1 + 1] = 2\%$ であるのに対して、表示結果が「大当たり」になる場合には、「ムービーA（ショート）」の変動パターンが選択される割合が $[6 + 6] = 12\%$ であり、「ムービーA（ロング）」の変動パターンが選択される割合が $[7 + 7] = 14\%$ である。従って、「ムービーA（ショート）」の変動パターンが選択された場合よりも、「ムー

10

20

30

40

50

ビーA（ロング）」の変動パターンが選択された場合の方が、大当たりとなる割合が高い。

【0755】

また、本実施形態では、図10-3及び図10-4に示したように、表示結果が「はずれ」になる場合には、「ムービーB（ショート）」の変動パターンが選択される割合が $[1+1]=2\%$ であり、「ムービーB（ロング）」の変動パターンが選択される割合が $[0.5+0.5]=1\%$ であるのに対して、表示結果が「大当たり」になる場合には、「ムービーB（ショート）」の変動パターンが選択される割合が $[10+10]=20\%$ であり、「ムービーB（ロング）」の変動パターンが選択される割合が $[12+12]=24\%$ である。従って、「ムービーB（ショート）」の変動パターンが選択された場合よりも、「ムービーB（ロング）」の変動パターンが選択された場合の方が、大当たりとなる割合が高い。

10

【0756】

従って、「ムービーA」が再生された場合には、その再生期間が長いほど（終了タイミングが遅いほど）大当たり期待度が高く、「ムービーB」が再生された場合にも、その再生期間が長いほど（終了タイミングが遅いほど）大当たり期待度が高いことになる。このような演出制御を行うことにより、遊技者は、分割演出が一旦実行されると（ムービーが一旦再生されると）、その分割演出ができるだけ長く継続する（そのムービーができるだけ長く再生される）ことを期待するようになる。

【0757】

また、本実施形態では、図10-3及び図10-4に示したように、表示結果が「はずれ」になる場合に、「ムービーA」の変動パターンが選択される割合が $[1.5+1+1.5+1]=5\%$ であり、「ムービーB」の変動パターンが選択される割合が $[1+0.5+1+0.5]=3\%$ であるのに対して、表示結果が「大当たり」になる場合には、「ムービーA」の変動パターンが選択される割合が $[6+7+6+7]=26\%$ であり、「ムービーB」の変動パターンが選択される割合が $[10+12+10+12]=44\%$ である。従って、図10-8に示すように、再生期間が比較的短い演出動画であるムービーAが再生された場合よりも、再生期間が比較的長い演出動画であるムービーBが再生された場合の方が、大当たりとなる割合が高い。

20

【0758】

従って、遊技者は、分割演出が実行されたときに、ムービーAよりもムービーBが再生されること、即ち、再生期間が比較的長い演出動画が再生されることを期待するようになる。

30

【0759】

なお、本実施形態では、演出動画の再生期間が長いほど大当たり期待度が高くなる例を示したが、このような形態に限らず、演出動画の種別によっては、再生期間が短いほど大当たり期待度が高くなる場合があるようにしてもよい。また、演出動画の再生期間と大当たり期待度とが関連していない（演出動画の終了タイミングによって大当たり期待度が変化しない）演出構成としてもよい。

【0760】

（擬似連演出の具体例）

40

本実施形態に示す擬似連演出として、前述したように、種別Xの擬似連演出（以下、擬似連演出[X：弱]ともいう）と、種別Yの擬似連演出（以下、擬似連演出[Y：強]ともいう）とがある。擬似連演出[X：弱]が実行される場合よりも擬似連演出[Y：強]が実行される場合の方が、表示結果が「大当たり」となる割合が高くなっている。擬似連演出の具体例に関して、図10-9（A1）～（A3）及び（B1）～（B4）を用いて説明する。

【0761】

図10-9（A1）～（A3）は、擬似連演出[X：弱]が実行されるときに画像表示装置5に表示される演出画像の一例を示す説明図であり、図10-9（B1）～（B4）は、擬似連演出[Y：強]が実行されるときに画像表示装置5に表示される演出画像の一

50

例を示す説明図である。

【0762】

（擬似連演出〔X：弱〕の具体例）

図10-9（A1）に示すように、CUP103が、第1特別図柄の変動表示を実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、第1小図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させている。

【0763】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が3であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域27TM015に「3」を表示させており、第2保留記憶数が0であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域27TM025に「0」を表示させている。また、アクティブ表示領域27TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示27TM030を表示させており、第1保留表示領域27TM011には、第1保留表示27TM010を3つ表示させている。

【0764】

次いで、図10-9（A2）に示すように、演出制御用CPU120は、擬似連演出〔X：弱〕の実行に伴い、図柄表示エリア5L及び図柄表示エリア5Rに「2」の飾り図柄をそれぞれ仮停止させ、図柄表示エリア5Cに擬似連図柄27TM300を仮停止させる。

【0765】

次いで、図10-9（A3）に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄の再変動表示を実行させる。

【0766】

（擬似連演出〔Y：強〕の具体例）

図10-9（B1）に示すように、CUP103が、第1特別図柄の変動表示を実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、第1小図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させている。

【0767】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が3であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域27TM015に「3」を表示させており、第2保留記憶数が0であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域27TM025に「0」を表示させている。また、アクティブ表示領域27TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示27TM030を表示させており、第1保留表示領域27TM011には、第1保留表示27TM010を3つ表示させている。

【0768】

次いで、図10-9（B2）に示すように、演出制御用CPU120は、擬似連演出〔Y：強〕の実行に伴い、図柄表示エリア5L及び図柄表示エリア5Rに「2」の飾り図柄をそれぞれ仮停止させ、図柄表示エリア5Cに擬似連図柄27TM300を仮停止させる。

【0769】

次いで、図10-9（B3）に示すように、演出制御用CPU120は、図柄表示エリア5L及び図柄表示エリア5Rに「2」の飾り図柄、図柄表示エリア5Cに擬似連図柄27TM300を仮停止させた状態で、擬似連エフェクト画像27TM300Aを表示させる。このとき擬似連図柄を含む飾り図柄は、擬似連エフェクト画像よりも高い優先度（擬似連エフェクト画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。即ち、擬似連図柄を含む飾り図柄、擬似連エフェクト画像、及び背景画像の表示優先度は、背景画像<擬似連エフェクト画像<飾り図柄の順で高くなっている。

【0770】

10

20

30

40

50

また、演出制御用CPU120は、擬似連演出[Y：強]が実行されたことに対応して可動体演出を実行し、可動体27TM600を傾倒位置から起立位置に動作させる。本例では、可動体27TM600が起立位置に動作したことにより、擬似連図柄27TM300の前方に可動体27TM600が位置している。即ち、擬似連演出に係る擬似連図柄27TM300と動作後の可動体27TM600とは対応した位置関係にあるため、擬似連エフェクト画像27TM300Aは、擬似連図柄27TM300に対応したエフェクト画像であるとともに、起立位置にある可動体27TM600に対応したエフェクト画像でもある。

【0771】

次いで、図10-9(B4)に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄の再変動表示を実行させるとともに、可動体27TM600を起立位置から傾倒位置に動作させることにより可動体演出を終了させる。

【0772】

このように、擬似連演出[X：弱]が実行されると、擬似連図柄27TM300が仮停止した後に、擬似連エフェクト画像27TM300Aが表示されることなく、また、可動体演出が実行されることなく、飾り図柄の再変動表示が実行されている。一方で、擬似連演出[Y：強]が実行されると、擬似連図柄27TM300が仮停止した後に、擬似連エフェクト画像27TM300Aが表示されるとともに、可動体27TM600が傾倒位置から起立位置に動作する。次いで、飾り図柄の再変動表示が実行されるとともに、可動体27TM600が起立位置から傾倒位置に動作する。

【0773】

ここで、図10-9に示した例では、分割演出が実行されていない状態で、図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて擬似連演出[X：弱]又は擬似連演出[Y：強]が実行される例を説明したが、擬似連演出[X：弱]及び擬似連演出[Y：強]は、分割演出が実行されているときに、第1演出画像表示領域27TM100A及び第2演出画像表示領域27TM200Aの少なくとも一方で実行可能である。

【0774】

即ち、分割演出が実行されたことに伴い、第1演出画像27TM100の第1図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、装飾識別情報としての第1飾り図柄の変動表示が実行されて、その第1飾り図柄に基づいて、擬似連演出[X：弱]及び擬似連演出[Y：強]の何れかが実行される場合がある。また、分割演出が実行されたことに伴い、第2演出画像27TM200の第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2において、装飾識別情報としての第2飾り図柄の変動表示が実行されて、その第2飾り図柄に基づいて、擬似連演出[X：弱]及び擬似連演出[Y：強]の何れかが実行される場合がある。

【0775】

ただし、本実施形態において、分割演出が実行されていない状態(図10-9に示した例)では、擬似連演出[Y：強]が実行されたことに対応して、擬似連エフェクト画像27TM300Aが表示されるとともに可動体演出が実行されるようになっているが、分割演出が実行されている状態(図10-7に示した例)では、擬似連演出[Y：強]が実行されたことに対応して、擬似連エフェクト画像27TM300Aは表示されるものの、可動体演出は実行されないようになっている。

【0776】

(設定示唆演出の概要)

本実施形態の遊技機は、遊技機の設定値を示唆する設定示唆演出として、第3設定示唆演出及び第4設定示唆演出を実行可能である。本実施形態の遊技機を、[特徴部16TM]で説明した第1設定示唆演出及び第2設定示唆演出に加えて、第3設定示唆演出及び第4設定示唆演出を実行可能な構成とすることも可能である。

【0777】

第3設定示唆演出及び第4設定示唆演出は、分割演出が実行されていないときに、図柄

10

20

30

40

50

表示エリア 5 L、5 C、5 R に飾り図柄が停止するタイミング（図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R に擬似連図柄が仮停止するタイミングを含む）で、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R に表示されるエフェクト画像の態様を、設定値に応じて異なる割合で決定することにより、表示されたエフェクト画像の態様によって設定値を示唆する演出である。

【0778】

また、第3設定示唆演出及び第4設定示唆演出は、分割演出が実行されているときに、第1図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 に第1飾り図柄が停止するタイミング（第1図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 に擬似連図柄が仮停止するタイミングを含む）で、第1図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 に表示されるエフェクト画像の態様を、設定値に応じて異なる割合で決定することにより、表示されたエフェクト画像の態様によって設定値を示唆する演出である。

10

【0779】

本実施形態では、(i) 変動パターンが、「非リーチ」である場合には、飾り図柄が停止するタイミングで、第3設定示唆演出又は第4設定示唆演出を実行可能である。(ii) 変動パターンが、「擬似連を伴わないノーマルリーチ又はスーパーリーチ」である場合には、図柄表示エリア 5 L 及び 5 R に同じ飾り図柄が停止してリーチ状態となるタイミング（分割演出を伴う場合には、第1図柄表示エリア 5 L 1 及び 5 R 1 に同じ第1飾り図柄が停止してリーチ状態となるタイミング）で、第3設定示唆演出又は第4設定示唆演出を実行可能である。(iii) 変動パターンが「擬似連を伴うノーマルリーチ又はスーパーリーチ」である場合には、図柄表示エリア 5 C に最初に擬似連図柄が仮停止するタイミング（分割演出を伴う場合には、第1図柄表示エリア 5 C 1 に最初に擬似連図柄が仮停止するタイミング）で、第3設定示唆演出又は第4設定示唆演出を実行可能である。

20

【0780】

第3設定示唆演出又は第4設定示唆演出が実行されたときの飾り図柄（擬似連図柄を含む）は、エフェクト画像よりも高い優先度（エフェクト画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示される。即ち、第3設定示唆演出又は第4設定示唆演出が実行されるときは飾り図柄（擬似連図柄を含む）、エフェクト画像、及び背景画像の表示優先度は、背景画像<エフェクト画像<飾り図柄の順で高くなっている。

【0781】

詳細に関しては後述するが、本実施形態において第3設定示唆演出が実行された場合は、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R（分割演出が実行されているときは第1図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1）に表示されるエフェクト画像が金色となり、第4設定示唆演出が実行された場合には、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R（分割演出が実行されているときは第1図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1）に表示されるエフェクト画像が青色又は赤色となる。

30

【0782】

また、本実施形態において第3設定示唆演出及び第4設定示唆演出の何れも実行されない場合には、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R（分割演出が実行されているときは第1図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1）に表示されるエフェクト画像が白色となる。

40

【0783】

このように、飾り図柄の停止位置に対応させて設定値を示唆する設定示唆情報（エフェクト画像）を表示させることにより、遊技者は、停止した飾り図柄のみならず、飾り図柄に対応して表示される設定示唆情報にも注目することになる。

【0784】

また、第1実施形態では、第2演出画像 27TM200 で設定示唆を行わないようにしており、第2演出画像 27TM200 として再生されるムービー中の画像として、第3設定示唆演出に係る画像及び第4設定示唆演出に係る画像は何れも表示されない。従って、第2図柄表示エリア 5 L 2、5 C 2、5 R 2 に表示される飾り図柄のエフェクト画像は白色である。

50

【0785】

(カットイン予告演出の概要)

次に、大当り遊技状態に制御されることを予告する予告演出について説明する。本例では、予告演出としてカットイン予告演出を実行可能となっている。カットイン予告演出は、大当り遊技状態に制御される期待度を示唆する予告演出である。

【0786】

後述する図10-13(2)～(4)に示すように、演出制御用CPU120は、分割演出が実行されていない場合には、図柄表示エリア5L及び5Rの飾り図柄でリーチ状態が成立しているときに、画像表示装置5の画面中央部に、押しボタン31Bを操作するよう遊技者に促すための操作促進表示27TM350と、押しボタン31Bの操作が有効となる残り期間を報知するためのタイムバー27TM360とを表示させる。

10

【0787】

そして、演出制御用CPU120は、画面中央部に操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が表示されているときに、遊技者によって押しボタン31Bが操作されたことに応じて、カットイン予告演出を実行する。カットイン予告演出が実行されると、カットイン画像が、画面上下方向の中央領域全体に表示される。このカットイン画像は、他の演出画像(背景画像、飾り図柄、及び「リーチ!!」の文字)よりも優先度の高い表示態様で表示される。

【0788】

また、本実施形態において、演出制御用CPU120は、分割演出が実行されている場合には、第1図柄表示エリア5L1及び5R1の第1飾り図柄でリーチ状態が成立しているときに、第1演出画像表示領域27TM100Aの中央部に、押しボタン31Bを操作するよう遊技者に促すための操作促進表示27TM350と、押しボタン31Bの操作が有効となる残り期間を報知するためのタイムバー27TM360とを表示させる。

20

【0789】

そして、演出制御用CPU120は、第1演出画像表示領域27TM100Aの中央部に操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が表示されているときに、遊技者によって押しボタン31Bが操作されたことに応じて、カットイン予告演出を実行する。カットイン予告演出が実行されると、カットイン画像が、第1演出画像表示領域27TM100Aの上下方向の中央領域全体に表示される。このカットイン画像は、第1演出画像表示領域27TM100Aの他の演出画像(背景画像、飾り図柄、及び「リーチ!!」の文字)よりも優先度の高い表示態様で表示される。

30

【0790】

(変動開始時演出決定処理)

CPU103は、特別図柄の変動表示を開始するときに、表示結果を指定する表示結果指定コマンドと、変動パターンを指定する変動パターン指定コマンドと、保留記憶数減算指定コマンド(第1保留記憶数減算指定コマンド又は第2保留記憶数減算指定コマンド)と、を演出制御用CPU120に送信する。

【0791】

演出制御用CPU120は、特別図柄(第1特別図柄又は第2特別図柄)の変動表示が開始されるときに、保留記憶数が減算されたことを指定する保留記憶数減算指定コマンド(第1保留記憶数減算指定コマンド又は第2保留記憶数減算指定コマンド)、表示結果(大当り又ははずれ、大当りとなる場合の大当り種別)を指定する表示結果指定コマンド、並びに、特別図柄の変動表示期間及び演出内容(リーチ及びスーパーリーチ等)を指定する変動パターン指定コマンド、という1セットのコマンドを、遊技制御用マイクロコンピュータ100(CPU103)から受信したことに基づいて、特別図柄の変動表示が実行されること、並びに、特別図柄の変動表示期間及び演出内容(リーチ及びスーパーリーチ等)を特定可能となっている。また、演出制御用CPU120は、特別図柄の変動表示が終了して表示結果が確定したときに、図柄確定指定コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信したことに基づいて、特別図柄(第1特別図柄又は第2特別図柄)

40

50

の変動表示が終了して表示結果が導出されたことを特定可能となっている。

【0792】

本実施形態では、変動パターン指定コマンドによって、分割演出の実行有無及び分割演出のムービー種別（ムービーA（ショート）、ムービーA（ロング）、ムービーB（ショート）、ムービーB（ロング））、並びに、擬似連回数（0、1、2）及び擬似連種別（種別X、種別Y）が指定されている。そのため、演出制御用CPU120は、受信した変動パターン指定コマンドに基づいて、これから実行する飾り図柄の変動表示に対応して、分割演出を実行するか否かと、分割演出を実行する場合の分割演出の態様を決定することが可能であり、また、擬似連回数と、擬似連を実行する場合の擬似連の態様を決定することが可能となっている。

10

【0793】

図10-10は、変動開始時演出決定処理を示すフローチャートである。この変動開始時演出決定処理では、第3設定示唆演出、第4設定示唆演出、及びカットイン予告演出について、それぞれの実行有無及び演出態様が決定される。

【0794】

演出制御用CPU120は、図7に示した演出制御プロセス処理の可変表示開始設定処理（ステップS171）において、この変動開始時演出決定処理を実行する。具体的には、演出制御用CPU120は、特別図柄の変動表示が開始されることに伴う上記1セットのコマンド（保留記憶数減算指定コマンド、表示結果指定コマンド、及び変動パターン指定コマンド）を受信すると、当該特別図柄の変動表示に対応した飾り図柄の変動表示を表示結果指定コマンド及び変動パターン指定コマンドに基づいて実行するための演出制御パターン（表示制御部123に演出の実行を指示するための制御データの集まり）を設定するとともに、指定された変動パターンに基づく飾り図柄の変動表示中に実行する演出を、図10-10に示す変動開始時演出決定処理により決定する。

20

【0795】

まず、演出制御用CPU120は、設定値が「6」（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「6」）であるか否かを判定する（ステップS27TM2000）。設定値が「6」ではない場合（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「6」ではない場合）には（ステップS27TM2000でNO）、演出制御用CPU120は、ステップS27TM2030に処理を進める。

30

【0796】

設定値が「6」である場合（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「6」である場合）には（ステップS27TM2000でYES）、演出制御用CPU120は、第3設定示唆演出の実行有無を、第3設定示唆演出の実行有無決定テーブル（図10-11（A）参照）に基づいて決定し、ステップS27TM2020に処理を進める。

【0797】

図10-11（A）に示すように、第3設定示唆演出の実行有無決定テーブルでは、設定された設定値が「6」である場合にのみ第3設定示唆演出が実行されるように判定値が割り振られている。演出制御用CPU120は、設定値が「6」である場合（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「6」である場合）には、99.5%の割合で第3設定示唆演出を実行しないことに決定し、0.5%の割合で第3設定示唆演出を実行することに決定する。

40

【0798】

このように、設定値が「6」である場合にのみ（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「6」である場合にのみ）、第3設定示唆演出の実行有無が決定されて、決定結果に基づいて第3設定示唆演出が実行される。第3設定示唆演出が実行された場合には、その遊技機について設定された設定値が「6」であることが確定することになるため、遊技者は、第3設定示唆演出が実行されるか否かについて大きな関心を持つことになり、飾り図柄のエフェクト画像が金色で表示されることを期待することになる。

【0799】

50

次いで、演出制御用CPU120は、第3設定示唆演出を実行することに決定されたか否かを判定する（ステップS27TM2020）。第3設定示唆演出を実行することに決定された場合には（ステップS27TM2020でYES）、演出制御用CPU120は、ステップS27TM2040に処理を進める。

【0800】

第3設定示唆演出を実行することに決定されていない場合（ステップS27TM2020でNO）、演出制御用CPU120は、第4設定示唆演出の実行有無及び演出態様を、第4設定示唆演出の実行有無決定テーブル（図10-11（B）参照）に基づいて決定し、ステップS27TM2040に処理を進める。

【0801】

図10-11（B）に示すように、第4設定示唆演出の実行有無決定テーブルでは、設定された設定値に応じて、第4設定示唆演出の実行有無及び演出態様を決定するための判定値が割り振られている。

【0802】

演出制御用CPU120は、設定値が「1」、「3」、「5」の何れかである場合（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「1」、「3」、「5」の何れかである場合）には、30%の割合で第4設定示唆演出を実行しないことに決定し、40%の割合で青色態様の第4設定示唆演出を実行することに決定し、30%の割合で赤色態様の第4設定示唆演出を実行することに決定する。

【0803】

演出制御用CPU120は、設定値が「2」、「4」、「6」の何れかである場合（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「2」、「4」、「6」の何れかである場合）には、30%の割合で第4設定示唆演出を実行しないことに決定し、30%の割合で青色態様の第4設定示唆演出を実行することに決定し、40%の割合で赤色態様の第4設定示唆演出を実行することに決定する。

【0804】

このように、設定値が「1」、「3」、「5」の何れかである場合（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「1」、「3」、「5」の何れかである場合）には、飾り図柄のエフェクト画像が赤色で表示される割合よりも、飾り図柄のエフェクト画像が青色で表示される割合の方が高くなっている。一方、設定値が「2」、「4」、「6」の何れかである場合（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「2」、「4」、「6」の何れかである場合）には、飾り図柄のエフェクト画像が青色で表示される割合よりも、飾り図柄のエフェクト画像が赤色で表示される割合の方が高くなっている。

【0805】

従って、青色のエフェクト画像が表示される第4設定示唆演出は、設定値が奇数（設定値が「1」、「3」、「5」の何れか）であることを示唆する演出となっている。また、赤色のエフェクト画像が表示される第4設定示唆演出は、設定値が偶数（設定値が「2」、「4」、「6」の何れか）であることを示唆する演出となっている。このように、第4設定示唆演出は、設定値が偶数であるか又は奇数であるかを示唆する偶奇示唆演出である。

【0806】

次いで、演出制御用CPU120は、変動パターンが「非リーチはずれ」であるか否かを判定する（ステップS27TM2040）。変動パターンが「非リーチはずれ」である場合（ステップS27TM2040でYES）、演出制御用CPU120は、そのまま処理を終了する。

【0807】

変動パターンが「非リーチはずれ」ではない場合（ステップS27TM2040でNO）、演出制御用CPU120は、カットイン予告演出の実行有無及び演出態様を、カットイン予告演出の実行有無決定テーブル（図10-11（C）参照）に基づいて決定して（ステップS27TM2050）、処理を終了する。

【0808】

10

20

30

40

50

図10-11(C)に示すように、カットイン予告演出の実行有無決定テーブルでは、表示結果指定コマンドによって指定された表示結果に応じて、カットイン予告演出の実行有無及び演出態様を決定するための判定値が割り振られている。

【0809】

演出制御用CPU120は、表示結果が「はずれ」である場合には、80%の割合でカットイン予告演出を実行しないことに決定し、15%の割合でカットイン画像27TM370A（「チャンス？」という文字が表示されたカットイン画像）を表示するカットイン予告演出を実行することに決定し、8%の割合でカットイン画像27TM370B（「チャンス！」という文字が表示されたカットイン画像）を表示するカットイン予告演出を実行することに決定し、2%の割合でカットイン画像27TM370C（「大チャンス！！」という文字が表示されたカットイン画像）を表示するカットイン予告演出を実行することに決定する。

10

【0810】

演出制御用CPU120は、表示結果が「大当たり」である場合には、40%の割合でカットイン予告演出を実行しないことに決定し、15%の割合でカットイン画像27TM370A（「チャンス？」という文字が表示されたカットイン画像）を表示するカットイン予告演出を実行することに決定し、20%の割合でカットイン画像27TM370B（「チャンス！」という文字が表示されたカットイン画像）を表示するカットイン予告演出を実行することに決定し、25%の割合でカットイン画像27TM370C（「大チャンス！！」という文字が表示されたカットイン画像）を表示するカットイン予告演出を実行することに決定する。

20

【0811】

（第3設定示唆演出の具体例）

次に、第3設定示唆演出の具体例に関して、図10-12(A1)～(A3)を用いて説明する。図10-12(A1)～(A3)は、設定値が「6」である場合（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「6」である場合）であって、変動パターンが「非リーチはずれ」の変動パターンであるときに、飾り図柄が停止するタイミング（前述した(i)のタイミング）で、第3設定示唆演出が実行される例を示す説明図である。

【0812】

図10-12(A1)に示すように、CUP103が、第1特別図柄の変動表示を実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、第1小図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させている。

30

【0813】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が3であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域27TM015に「3」を表示させており、第2保留記憶数が0であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域27TM025に「0」を表示させている。また、アクティブ表示領域27TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示27TM030を表示させており、第1保留表示領域27TM011には、第1保留表示27TM010を3つ表示させている。

40

【0814】

図10-12(A2)に示すように、変動パターンが「非リーチはずれ」であることに基いて、演出制御用CPU120は、図柄表示エリア5L、5C、5Rに、表示結果が「はずれ」となる非リーチの飾り図柄の組み合わせ（本例では、「247」）を停止表示させるとともに、第3設定示唆演出を実行し、図柄表示エリア5L、5C、5Rに、それぞれ、金色のエフェクト画像27TM400Dを表示させる。

【0815】

このときの飾り図柄は、エフェクト画像よりも高い優先度（エフェクト画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されて

50

いる。即ち、飾り図柄、エフェクト画像、及び背景画像の表示優先度は、背景画像<エフェクト画像<飾り図柄の順で高くなっている。このとき、第1特別図柄の変動表示が継続して実行されていることに対応して、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて第1小図柄の変動表示を継続させている。

【0816】

そして、図10-12(A3)に示すように、主基板11から飾り図柄を確定停止させることを指定するコマンドを受信した演出制御用CPU120は、図柄表示エリア5L、5C、5Rに表示されていた金色のエフェクト画像27TM400Dを消去することにより第3設定示唆演出を終了させるとともに、第1特別図柄の変動表示結果が「はずれ」となることに対応して、図柄表示エリア5L、5C、5Rに、表示結果が「はずれ」となる飾り図柄の組み合わせ（本例では、「247」）を確定停止させる。また、演出制御用CPU120は、図柄表示エリア5L、5C、5Rに確定停止させる飾り図柄の組み合わせを「247」としていることに基づいて、第1小図柄表示エリア5L、5C、5Rに「247」の第1小図柄の組み合わせを確定停止させる。

【0817】

（第4設定示唆演出の具体例）

次に、第4設定示唆演出の具体例に関して、図10-12(B1)～(B3)を用いて説明する。図10-12(B1)～(B3)は、設定値が「6」である場合（即ち設定値指定コマンドにより指定された設定値が「6」である場合）であって、変動パターンが「種別Xの擬似連を伴うノーマルリーチ又はスーパリーチ」の変動パターンであるときに、擬似連図柄が仮停止するタイミング（前述した(iii)のタイミング）で、第4設定示唆演出が実行される例を示す説明図である。

【0818】

図10-12(B1)に示すように、CPU103が、第1特別図柄の変動表示を実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、第1小図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させている。

【0819】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が3であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域27TM015に「3」を表示させており、第2保留記憶数が0であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域27TM025に「0」を表示させている。また、アクティブ表示領域27TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示27TM030を表示させており、第1保留表示領域27TM011には、第1保留表示27TM010を3つ表示させている。

【0820】

図10-12(B2)に示すように、変動パターンが「種別Xの擬似連を伴うノーマルリーチ又はスーパリーチ」であることに基づいて、演出制御用CPU120は、擬似連演出[X:弱]の実行に伴い、図柄表示エリア5L及び図柄表示エリア5Rに「2」の飾り図柄をそれぞれ仮停止させ、図柄表示エリア5Cに擬似連図柄27TM300を仮停止させるとともに、第4設定示唆演出を実行する。

【0821】

本実施形態では、演出制御用CPU120は、赤色態様の第4設定示唆演出を実行することに決定したことに基づいて、図柄表示エリア5L、5C、5Rに、それぞれ、赤色のエフェクト画像27TM400Cを表示させる。

【0822】

このときの飾り図柄は、エフェクト画像よりも高い優先度（エフェクト画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。即ち、飾り図柄、エフェクト画像、及び背景画像の表示優先度は、背景画像<エフェクト画像<飾り図柄の順で高くなっている。このとき、第1特別図柄の変動表示が継続

10

20

30

40

50

して実行されていることに対応して、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて第1小図柄の変動表示を継続させている。

【0823】

そして、図10-12(B3)に示すように、主基板11から飾り図柄を確定停止させることを指定するコマンドを受信した演出制御用CPU120は、図柄表示エリア5L、5C、5Rに表示されていた赤色のエフェクト画像27TM400Cを消去することにより第4設定示唆演出を終了させるとともに、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄の再変動表示を実行させる。このとき、第1特別図柄の変動表示が継続して実行されていることに対応して、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて第1小図柄の変動表示を継続させている。

10

【0824】

(カットイン予告演出の具体例)

次に、カットイン予告演出の具体例に関して、図10-13を用いて説明する。図10-13(1)～(4)は、カットイン予告演出が実行されるときに画像表示装置5に表示される演出画像の一例を示す説明図である。

【0825】

また、図10-13では、演出図と対応させて、押しボタン31Bの態様を演出図の右下方に示している。押しボタンの態様には、押しボタン31Bの操作が有効となっていることを示唆する点滅態様と、押しボタン31Bの操作が有効となっていないことを示唆する通常態様(消灯態様)とがある。

20

【0826】

図10-13(1)に示すように、CPU103が、第1特別図柄の変動表示を実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄(第1特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行させており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、第1小図柄(第1特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行させている。

【0827】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が3であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域27TM015に「3」を表示させており、第2保留記憶数が0であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域27TM025に「0」を表示させている。また、アクティブ表示領域27TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示27TM030を表示させており、第1保留表示領域27TM011には、第1保留表示27TM010を3つ表示させている。

30

【0828】

図10-13(1)に示す演出画像が画像表示装置5に表示されているときは、操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が表示されておらず、且つ、押しボタン31Bの操作が有効となっていないことに対応して、押しボタン31Bは通常態様(消灯態様)となっている。

【0829】

次いで、図10-13(2)に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L及び図柄表示エリア5Rに「7」の飾り図柄を停止表示させることによりリーチ状態とし、画像表示装置5の画面上部に「リーチ!!」の文字を表示させる。このとき、演出制御用CPU120は、リーチ状態を継続したまま、画像表示装置5の画面中央部に、押しボタン31Bを操作するよう遊技者に促すための操作促進表示27TM350と、押しボタン31Bの操作が有効となる残り期間を報知するためのタイムバー27TM360とを表示させる。操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360は、背景画像及び飾り図柄よりも表示優先度の高い(表示レイヤが上位である)画像であるため、遊技者からは背景画像及び飾り図柄よりも手前に表示されているように見える。

40

50

【0830】

演出制御用CPU120は、操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が表示されるとともに、プッシュボタン31Bの操作が有効となったことに対応して（操作有効期間が開始されたことに対応して）、プッシュボタン31Bを通常態様（消灯態様）から点滅態様に切り替える。

【0831】

プッシュボタン31Bの操作が有効となっているものの（操作有効期間内であるものの）、未だプッシュボタン31Bの操作がプッシュセンサ35Bによって検出されていない操作待機状態では、操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が継続して表示される。タイムバー27TM360は、表示された当初のタイミングでは残り時間が100%の表示となっており、操作待機状態における時間の経過に応じて徐々に残り時間の割合が減少する。この操作待機状態においてプッシュボタン31Bは点滅態様となっている。

10

【0832】

次いで、図10-13（3）に示すように、操作待機状態で所定期間が経過したことに応じて、タイムバー27TM360の表示は残り25%に更新されている。そして、操作待機状態であることに対応してプッシュボタン31Bは継続して点滅態様となっている。

【0833】

次いで、タイムバー27TM360の表示が残り0%となる前の操作有効期間内に、遊技者によりプッシュボタン31Bの操作が行われたものとする。このとき、プッシュボタン31Bの操作がプッシュセンサ35Bによって検出されたことにより、操作待機状態が終了する。演出制御用CPU120は、操作待機状態が終了したことに対応して、操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360を非表示とする（消去する）とともに、プッシュボタン31Bを点滅態様から通常態様（消灯態様）に切り替える。また、図10-13（4）に示すように、操作有効期間内にプッシュボタン31Bの操作がプッシュセンサ35Bによって検出されたことに基づいて、カットイン予告演出を実行する。

20

【0834】

図10-13（4）に示すカットイン予告演出の例では、「チャンス！」という文字が表示されたカットイン画像27TM370Bが、画像表示装置5の画面上下方向の中央領域全体に表示されている。このカットイン画像27TM370Bは、他の演出画像（背景画像、飾り図柄、及び「リーチ！！」の文字）よりも優先度の高い表示態様で表示されている。また、カットイン画像が表示されているときは、プッシュボタン31Bの操作が有効となっていないことに対応して（操作有効期間内に操作が完了したことに対応して）、プッシュボタン31Bは通常態様（消灯態様）となっている。

30

【0835】

遊技者から見ると、他の演出に係る画像が表示されているときに、突如として、他の演出に係る画像よりも優先度の高い表示態様の（表示レイヤが上位であり他の演出に係る画像よりも手前側に表示されているように見える）カットイン画像が表示されることになるため、カットイン予告演出実行時の画面変化に引きつけられることになる。また、本実施形態のように複数のカットイン画像が存在することにより、何れのカットイン画像が表示されるかに対しても関心を持つことになる。

40

【0836】

（分割演出実行中の設定示唆演出）

前述したように、第1実施形態の遊技機では、分割演出が実行されているときに、第1演出画像表示領域27TM100Aにおいて設定示唆演出を実行可能である一方で、第2演出画像表示領域27TM200Aにおいて設定示唆演出を実行しないようにしている。この場合の演出例に関して、図10-14～図12-19を用いて説明する。

【0837】

図10-14は、分割演出が実行される場合の各演出の実行タイミングを示すタイムチャートであり、図10-15～図10-19は、分割演出が実行される場合の各演出の演

50

出画像の一例を示す説明図である。

【0838】

本例では、第1特別図柄の変動開始時に、変動パターンが、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が長い種別のムービーB（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチB大当たり〔第1パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」に決定されている。

【0839】

演出制御用CPU120は、「スーパーリーチB大当たり〔第1パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」の変動パターンが指定された変動パターンコマンドに基づいて飾り図柄の変動表示を実行する。この変動パターンでは、分割演出が実行されている期間において、画面右部の第1演出画像表示領域27TM100Aで、擬似連演出〔Y：強〕が2回実行された後に、スーパーリーチ演出として、味方キャラクタと敵キャラクタBとがバトルを行うことにより大当たりで当選しているか否かを報知するバトル演出Bが実行され、画面左部の第2演出画像表示領域27TM200Aで、ムービーB（ロング）に基づいた演出画像が表示されることになる。

【0840】

また、演出制御用CPU120は、変動開始時演出決定処理において、赤色態様の第4設定示唆演出を実行することに決定し（ステップS27TM2030）、「大チャンス！！」という文字が表示されたカットイン画像27TM370Cを表示するカットイン予告演出を実行することに決定した（ステップS27TM2050）したものとする。

【0841】

図10-15～図10-19では、演出図と対応させて、プッシュボタン31Bの態様を演出図の右下方に示している。プッシュボタンの態様には、プッシュボタン31Bの操作が有効となっていることを示唆する点滅態様と、プッシュボタン31Bの操作が有効となっていないことを示唆する通常態様（消灯態様）とがある。

【0842】

図10-15（1）に示すように、CUP103が、図10-14に示すT1のタイミングで開始した第1特別図柄の変動表示を実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、第1小図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行させている。

【0843】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が3であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域27TM015に「3」を表示させており、第2保留記憶数が0であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域27TM025に「0」を表示させている。また、アクティブ表示領域27TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示27TM030を表示させており、第1保留表示領域27TM011には、第1保留表示27TM010を3つ表示させている。

【0844】

また、図10-15（1）に示すように、分割演出が実行されておらず、図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄の変動表示が実行されている状態では、カットイン予告演出を実行するタイミングではないこと（操作促進表示27TM350とタイムバー27TM360を表示させるべきタイミングではないこと）に対応して、プッシュボタン31Bは通常態様（消灯態様）となっている。

【0845】

図10-15（2）に示すように、演出制御用CPU120は、飾り図柄の変動開始から所定期間経過したタイミング（図10-14に示すT2のタイミング）で、分割演出を

10

20

30

40

50

開始する。本例では、第1パターンの演出制御が実行されることに基づいて、演出表示領域27TM005Aの右部に設定された第1演出画像表示領域27TM100Aに、第1演出画像27TM100を表示させ、演出表示領域27TM005Aの左部に設定された第2演出画像表示領域27TM200Aに、第2演出画像27TM200を表示させている。

【0846】

ここで、演出制御用CPU120は、分割演出の開始に伴い、第1演出画像表示領域27TM100Aの第1図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、第1飾り図柄の変動表示を実行させている。また、演出制御用CPU120は、分割演出の開始に伴い、第2演出画像表示領域27TM200Aで「ムービーB」を再生させる。従って、第2演出画像27TM200として、「ムービーB」に基づいた演出画像が表示される。このとき、再生された「ムービーB」に基づいて、第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2において、第2飾り図柄の変動表示が実行されることになる。

【0847】

また、第1特別図柄の変動表示が継続して実行されていることに対応して、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて第1小図柄の変動表示を継続させている。

【0848】

また、図10-15(2)以降に示すように、分割演出が実行されている状態では、カットイン予告演出を実行するタイミングであるか否かにかかわらず（操作促進表示27TM350とタイムバー27TM360を表示させるべきタイミングであるか否かにかかわらず）、プッシュボタン31Bは通常態様（消灯態様）となっている。

【0849】

図10-15(3)に示すように、演出制御用CPU120は、1回目の擬似連演出[Y:強]を実行すべき所定タイミングで、第1図柄表示エリア5L1及び第1図柄表示エリア5R1に「3」の第1飾り図柄をそれぞれ仮停止させる（図10-14に示すT3のタイミング）。そして、第1図柄表示エリア5C1に擬似連図柄27TM300を仮停止させるとともに、赤色態様の第4設定示唆演出を実行する（図10-14に示すT4のタイミング）。即ち、第1図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に、それぞれ赤色のエフェクト画像27TM400Cを表示させる。

【0850】

このとき、演出制御用CPU120は、第1飾り図柄により1回目の擬似連演出が実行される所定タイミングで、第2図柄表示エリア5L2及び第2図柄表示エリア5R2に「2」の第2飾り図柄をそれぞれ仮停止させる（図10-14に示すT3のタイミング）。そして、第2図柄表示エリア5C2に擬似連図柄27TM300を仮停止させるとともに、第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2に、それぞれ白色のエフェクト画像27TM400Aを表示させる（図10-14に示すT4のタイミング）。

【0851】

このように、第2演出画像表示領域27TM200Aで再生される「ムービーB」に基づく第2演出画像27TM200として、第3設定示唆演出及び第4設定示唆演出を何れも実行しないことに決定したときの演出を模した演出画像が表示されることになる。

【0852】

図10-16(4)に示すように、演出制御用CPU120は、第1図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に、赤色のエフェクト画像27TM400Cを継続して表示させた状態で、擬似連演出[Y:強]が実行されたことに対応して、第1演出画像表示領域27TM100Aに擬似連エフェクト画像27TM300Aを表示させる（図10-14に示すT5のタイミング）。このとき、擬似連エフェクト画像27TM300Aは、エフェクト画像27TM400Cよりも高い優先度（エフェクト画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示される。

【0853】

また、演出制御用CPU120は、第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2に、白色のエフェクト画像27TM400Aを継続して表示させた状態で、第2演出画像表示領域27TM200Aに擬似連エフェクト画像27TM300Aを表示させる（図10-14に示すT5のタイミング）。

【0854】

このように、第2演出画像表示領域27TM200Aで再生される「ムービーB」に基づく第2演出画像27TM200として、擬似連演出「Y：強」を模した演出画像が表示されることになる。

【0855】

ここで、図10-9（B3）で示したように、分割演出が実行されていないときには、擬似連演出「Y：強」が実行されたことに対応して、擬似連エフェクト画像27TM300Aが表示されるとともに可動体27TM600が動作する可動体演出が実行されたが、図10-16（4）に示すように、分割演出が実行されているときには、擬似連演出「Y：強」が実行されたことに対応して、擬似連エフェクト画像27TM300Aは表示されるものの可動体演出は実行されない。

【0856】

分割演出が実行されていないときの擬似連演出では、図柄表示エリア5Cに仮停止された擬似連図柄27TM300と、動作して起立位置にある可動体27TM600とが対応する位置関係にあるため、遊技者は、可動体演出が擬似連演出「Y：強」に対応して実行されたものであることを容易に把握することができる。

【0857】

一方で、仮に、分割演出が実行されているときに、擬似連演出に伴い可動体演出を実行させてしまうと、可動体27TM600の動作が、第1演出画像27TM100と第2演出画像27TM200のどちらに対応したものであるのかを遊技者が認識することは困難である。また、起立位置にある可動体27TM600によって、演出表示領域27TM005Aよりも小さい第1演出画像表示領域27TM100Aや第2演出画像表示領域27TM200Aに表示される演出画像の視認性をさらに低下させてしまう。さらに、可動体27TM600の動作を制御するための可動体制御コマンドを、第1演出画像27TM100と第2演出画像27TM200の何れの演出画像に関連付けるかについての設定等が必要となり、演出制御が複雑化する。

【0858】

そのため本実施形態では、分割演出が実行されているときには、擬似連エフェクト画像27TM300Aは表示されるものの可動体演出は実行されないようにしている。ここで、擬似連演出「Y：強」が実行されたことに伴い、分割演出が実行されていないときと同様に擬似連エフェクト画像27TM300Aを表示させるようにしているため、「擬似連演出「Y：強」が実行されたにもかかわらず可動体27TM600が動作しない」ことによる遊技者の違和感を軽減することができる。

【0859】

図10-16（5）に示すように、演出制御用CPU120は、第1図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、第1飾り図柄の再変動表示を実行する（図10-14に示すT6のタイミング）。また、演出制御用CPU120は、第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2において、「ムービーB」に基づいて、第2飾り図柄の再変動表示を実行する（図10-14に示すT6のタイミング）。

【0860】

図10-16（6）に示すように、演出制御用CPU120は、2回目の擬似連演出「Y：強」を実行すべき所定タイミングで、第1図柄表示エリア5L1及び第1図柄表示エリア5R1に「3」の第1飾り図柄をそれぞれ仮停止させる（図10-14に示すT7のタイミング）。そして、第1図柄表示エリア5C1に擬似連図柄27TM300を仮停止させる（図10-14に示すT8のタイミング）。

【0861】

10

20

30

40

50

このとき、演出制御用CPU120は、第2演出画像表示領域27TM200Aにおいて、[ムービーB]に基づいて、リーチ状態の画像を表示する。本例では、第2図柄表示エリア5L2及び第2図柄表示エリア5R2に「2」の第2飾り図柄をそれぞれ停止表示させることによりリーチ状態とし、第2演出画像表示領域27TM200Aの上部に「リーチ!!」の文字を表示させるとともに、第2演出画像表示領域27TM200Aの中央に操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360を表示させる(図10-14に示すT7のタイミング)。

【0862】

また、図10-16(6)～図10-17(8)に示すように、分割演出が実行されている状態では、操作促進表示27TM350とタイムバー27TM360が表示されているか否かにかかわらず、押しボタン31Bは通常態様(消灯態様)となっている。ここで、図10-16(6)において、操作促進表示27TM350とタイムバー27TM360が表示されているのは第2演出画像表示領域27TM200Aであり、これらはムービー中の画像として表示されているにすぎない。そのため、実際には操作有効期間とはなっておらず、遊技者が押しボタン31Bを操作したとしても、その操作に対応してカットイン予告演出の実行制御は行われない。

【0863】

図10-17(7)に示すように、演出制御用CPU120は、擬似連演出[Y:強]が実行されたことに対応して、第1演出画像表示領域27TM100Aに擬似連エフェクト画像27TM300Aを表示させる(図10-14に示すT9のタイミング)。このとき、第2演出画像表示領域27TM200Aにおいて、[ムービーB]に基づく演出画像であるタイムバー27TM360の表示は、残り50%に更新されている。

【0864】

図10-17(8)に示すように、演出制御用CPU120は、第1図柄表示エリア5L1、5C1、5R1において、第1飾り図柄の再変動表示を実行する(図10-14に示すT10のタイミング)。このとき、第2演出画像表示領域27TM200Aにおいて、[ムービーB]に基づく演出画像であるタイムバー27TM360の表示は、残り25%に更新されている。

【0865】

図10-17(9)に示すように、演出制御用CPU120は、第1演出画像表示領域27TM100Aにおいて、第1図柄表示エリア5L1及び第1図柄表示エリア5R1に「3」の第1飾り図柄をそれぞれ停止表示させることによりリーチ状態とし、第1演出画像表示領域27TM100Aの上部に「リーチ!!」の文字を表示させるとともに、第1演出画像表示領域27TM100Aの中央に操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360を表示させる(図10-14に示すT11のタイミング)。

【0866】

このとき、演出制御用CPU120は、第2演出画像表示領域27TM200Aのタイムバー27TM360の表示が残り20%まで更新されたタイミングで、押しボタン31Bの操作が行われたか否かにかかわらず、「チャンス!」という文字が表示されたカットイン画像27TM370Bを、表示中の他の演出画像よりも優先度の高い表示態様で第2演出画像表示領域27TM200Aの中央に表示させている(図10-14に示すT11のタイミング)。このとき、第2演出画像表示領域27TM200Aにおいて、[ムービーB]に基づく演出画像として、カットイン画像27TM370Bが表示されている。

【0867】

図10-14に示すT11のタイミングでは、第1演出画像表示領域27TM100Aに対応したカットイン予告演出が実行されることに決定されていることに基づいて、操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が表示されるとともに、操作有効期間に移行する。操作有効期間において押しボタン31Bが操作されることで、第1演出画像表示領域27TM100Aにカットイン画像が表示されることになる。但し、分割演出が実行されている状態では、操作促進表示27TM350とタイムバー27TM3

10

20

30

40

50

60が表示されているか否かにかかわらず、プッシュボタン31Bは通常態様（消灯態様）となっているため、図10-17（9）に示す例では、操作有効期間であるにもかかわらず、プッシュボタン31Bは通常態様（消灯態様）のままとなっている。

【0868】

本実施形態では、分割演出が実行されていない場合には、操作促進表示27TM350とタイムバー27TM360が表示されたことに対応して、プッシュボタン31Bが通常態様（消灯態様）から点滅態様に変化するとともに操作有効期間に移行する。そして、操作有効期間内におけるプッシュボタン31Bの操作に対応して、演出表示領域27TM005Aの中央にカットイン画像が表示される（図10-13を参照）。

【0869】

一方、分割演出が実行されている場合には、第1演出画像表示領域27TM100A側に操作促進表示27TM350とタイムバー27TM360が表示されたときに、プッシュボタン31Bが通常態様（消灯態様）から点滅態様に変化することなく、プッシュボタン31Bが通常態様（消灯態様）のまま操作有効期間に移行する（図10-17（9）を参照）。そして、操作有効期間内におけるプッシュボタン31Bの操作に対応して、第1演出画像表示領域27TM100Aにカットイン画像が表示される（後述する図10-18（10）を参照）。

【0870】

また、分割演出が実行されている場合には、第2演出画像表示領域27TM200A側に操作促進表示27TM350とタイムバー27TM360が表示されたときに、プッシュボタン31Bが通常態様（消灯態様）から点滅態様に変化せず、操作有効期間に移行しない（図10-16（6）を参照）。そして、プッシュボタン31Bの操作の有無にかかわらず、所定のタイミングで第2演出画像表示領域27TM200Aにカットイン画像が表示される。

【0871】

即ち、分割演出が実行されている期間は、操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が表示されているか否かにかかわらず、また、プッシュボタン31Bの操作が有効となっているか否かにかかわらず、プッシュボタン31Bを点灯態様とせず通常態様（消灯態様）のままにすることで、左右の何れの画像が第1演出画像27TM100であるか（真の演出であるか）を遊技者が容易に把握できないようになっている。

【0872】

なお、本実施形態では、分割演出実行中に、第1演出画像表示領域27TM100Aと第2演出画像表示領域27TM200Aの両方の領域において、操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が表示される操作促進演出を実行可能である例を示したが、このような形態に限らず、分割演出実行中には、第1演出画像表示領域27TM100Aにおいて操作促進演出を実行可能な一方で、第2演出画像表示領域27TM200Aでは操作促進演出を実行しないようにしてもよい。

【0873】

また、上記の例とは異なり、分割演出実行中には、第1演出画像表示領域27TM100Aと第2演出画像表示領域27TM200Aの何れの領域においても、操作促進演出を実行しないようにしてもよい。例えば、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドで指定された変動パターンが、分割演出を伴う変動パターンである場合には、変動開始時演出決定処理において、操作促進演出を伴う予告演出を選択せず、他の種別の予告演出を選択するようにしてもよい。即ち、分割演出が実行されていないときに実行可能な予告演出の種別には、操作促進演出を伴う予告演出が含まれるが、分割演出が実行されているときに実行可能な予告演出の種別には、操作促進演出を伴う予告演出が含まれないようにしてもよい。

【0874】

ここで、本実施形態では、分割演出が実行されていない場合には、操作促進表示27TM350及びタイムバー27TM360が表示されたときに、プッシュボタン31Bは通

10

20

30

40

50

常態様（消灯態様）から点灯態様に切り替わるが、分割演出が実行されている場合には、操作促進表示 27 T M 3 5 0 及びタイムバー 27 T M 3 6 0 が表示されたときに、プッシュボタン 3 1 B は通常態様（消灯態様）のままである。従って、プッシュボタン 3 1 B の態様を変化させるための発光装置（例えば、プッシュボタン 3 1 B の筐体内部に設置され、操作有効期間に発光する L E D）は、分割演出が実行されていない期間に対応した演出装置ということができる。

【0875】

このように、分割演出が実行されていない期間に対応した演出装置を、分割演出を伴う変動パターンの変動表示期間中は動作させないようにしてもよい。例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 は、変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンが、分割演出を伴わない変動パターンである場合には、変動開始時演出決定処理において、プッシュボタン 3 1 B の態様を変化させる装置を用いた演出の実行を決定可能であるが、変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンが、分割演出を伴う変動パターンである場合には、変動開始時演出決定処理において、プッシュボタン 3 1 B の態様を変化させる装置を用いた演出の実行を決定不能とする。

【0876】

このように、所定の演出装置については、分割演出の実行期間中（あるいは分割演出を伴う変動パターンの変動表示中）は動作させないことにより、左右何れの画像が第 1 演出画像 27 T M 1 0 0 であるかを遊技者が容易に把握することができなくなり、分割演出の興趣を向上させることができる。

【0877】

ここで、仮に、分割演出が実行されているときに、第 1 演出画像 27 T M 1 0 0 と第 2 演出画像 27 T M 2 0 0 のそれぞれに対応させて、枠 L E D 9 や装飾用 L E D の発光制御を実行してしまうと、L E D 制御基板 1 4 に対する指令（電飾信号）同士が干渉してしまい、適切な L E D 制御が困難となってしまう問題が発生してしまう。本実施形態では、プッシュボタン 3 1 B の筐体内部に設置された L E D を、分割演出の実行期間中（あるいは分割演出を伴う変動パターンの変動表示中）は発光させないことにより、このような問題が発生しないようにしている。

【0878】

また、分割演出が実行されているとき（あるいは分割演出を伴う変動パターンの変動表示が実行されているとき）にのみ動作可能な演出装置（例えば装飾用 L E D 等）を設けてもよい。例えば、分割演出が実行されていないときには発光せず、分割演出が実行されているときに第 1 演出画像表示領域 27 T M 1 0 0 A の演出に対応して発光する第 1 装飾用 L E D と、分割演出が実行されていないときには発光せず、分割演出が実行されているときに第 2 演出画像表示領域 27 T M 2 0 0 A の演出に対応して発光する第 2 装飾用 L E D とを設けてもよい。このように、分割演出専用の演出装置を設けることにより、上述したような問題の発生を防ぐことができる。

【0879】

図 10-18（10）に示すように、演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 演出画像表示領域 27 T M 1 0 0 A に操作促進表示 27 T M 3 5 0 及びタイムバー 27 T M 3 6 0 が表示されている操作有効期間内に、遊技者によりプッシュボタン 3 1 B の操作が行われて、プッシュセンサ 3 5 B によって操作が検出されたタイミングで（図 10-14 に示す T 1 2 のタイミングで）、「大チャンス！！」という文字が表示されたカットイン画像 27 T M 3 7 0 C を、第 1 演出画像表示領域 27 T M 1 0 0 A に表示させるカットイン予告演出を実行する。

【0880】

このとき、第 2 演出画像表示領域 27 T M 2 0 0 A において、[ムービー B] に基づく演出画像として、カットイン画像 27 T M 3 7 0 B が継続して表示されている。

【0881】

図 10-18（11）に示すように、演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 演出画像表示領

10

20

30

40

50

域 2 7 T M 1 0 0 A において、「大チャンス！！」という文字が表示されたカットイン画像 2 7 T M 3 7 0 C を継続して表示させている（図 1 0 - 1 4 に示す T 1 3 のタイミング）。

【 0 8 8 2 】

このとき、演出制御用 CPU 1 2 0 は、第 2 演出画像表示領域 2 7 T M 2 0 0 A において再生中の「ムービー B」に基づいて、「チャンス！」という文字が表示されたカットイン画像 2 7 T M 3 7 0 B の表示を終了させて、第 2 演出画像表示領域 2 7 T M 2 0 0 A に、「バトル」という文字とともに味方キャラクタ 2 7 T M 5 0 0 及び敵キャラクタ A（2 7 T M 5 1 0 A）を表示させる（図 1 0 - 1 4 に示す T 1 3 のタイミング）。さらに、このとき第 2 演出画像表示領域 2 7 T M 2 0 0 A の下部には、「期待度」という文字とともに、2 個の星形のオブジェクト画像 2 7 T M 5 5 0 を表示させる。

10

【 0 8 8 3 】

このように、第 2 演出画像表示領域 2 7 T M 2 0 0 A において再生中の「ムービー B」に基づく演出画像として、スーパーリーチ A のバトル演出に関する画像（味方キャラクタ 2 7 T M 5 0 0 及び敵キャラクタ A（2 7 T M 5 1 0 A）の画像、並びに、2 個の星形のオブジェクト画像 2 7 T M 5 5 0）が表示される。

【 0 8 8 4 】

図 1 0 - 1 8（1 2）に示すように、演出制御用 CPU 1 2 0 は、第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A において、「大チャンス！！」という文字が表示されたカットイン画像 2 7 T M 3 7 0 C の表示を終了させて、第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A に、「バトル」という文字とともに味方キャラクタ 2 7 T M 5 0 0 及び敵キャラクタ B（2 7 T M 5 1 0 B）を表示させる（図 1 0 - 1 4 に示す T 1 4 のタイミング）。さらに、このとき第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A の下部には、「期待度」という文字とともに、4 個の星形のオブジェクト画像 2 7 T M 5 5 0 を表示させる。

20

【 0 8 8 5 】

このように、第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A には、変動パターン指定コマンドにより指定されたスーパーリーチ B のバトル演出に対応した演出画像として、味方キャラクタ 2 7 T M 5 0 0 及び敵キャラクタ B（2 7 T M 5 1 0 B）の画像、並びに、4 個の星形のオブジェクト画像 2 7 T M 5 5 0 が表示される。

【 0 8 8 6 】

第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A においてスーパーリーチ演出に発展したことに対応して、演出制御用 CPU 1 2 0 は、第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 を拡大表示させる。演出制御用 CPU 1 2 0 は、図 1 0 - 1 4 に示す T 1 4 ~ T 1 5 の拡大表示期間において、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 を拡大させることなく第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 を徐々に拡大表示させる。この拡大表示期間において、第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 は、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 よりも高い優先度（第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示される。

30

【 0 8 8 7 】

即ち、拡大表示期間における第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 と第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 の表示優先度は、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 < 第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 の関係となっており、第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 の拡大表示に伴い、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 は表示される領域が縮小してゆく（図 1 0 - 1 8（1 2）を参照）。このように、第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 と第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 とは並行して表示されているが、拡大表示期間において第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 の視認性が、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 の視認性よりも高められることになる。そして、拡大表示された第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 が第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 を完全に覆うことで、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 が視認不能となる（非表示となる）。

40

【 0 8 8 8 】

図 1 0 - 1 9（1 3）に示すように、演出制御用 CPU 1 2 0 は、第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 が演出表示領域 2 7 T M 0 0 5 A とほぼ同じサイズまで拡大したタイミング（図

50

10-14に示すT15のタイミング)で、分割演出を終了させる。分割演出を終了させたタイミングでは、演出表示領域27TM005Aに、変動パターン指定コマンドにより指定されたスーパーリーチBのバトル演出に対応した演出画像として、味方キャラクタ27TM500及び敵キャラクタB(27TM510B)の画像、並びに、4個の星形のオブジェクト画像27TM550が表示されている。さらに、分割演出が終了した後に、画面下部に表示されている4個の星形のオブジェクト画像27TM550を点滅させることにより、分割演出実行中に遊技者に示された複数の期待度(星2個と星4個)のうち、当該変動表示に対応して最終的に選択された期待度(星4個)が報知されている。

【0889】

即ち、分割演出の終了後も、分割演出の終了直前の第1演出画像27TM100に表示されていた演出情報(味方キャラクタ27TM500及び敵キャラクタB(27TM510B)の画像、並びに、4個の星形のオブジェクト画像27TM550)と共通の演出情報が画面上に継続して表示されることになるため、遊技者は、非表示となった第1演出画像27TM100に対応した演出(スーパーリーチBのバトル演出)が継続していることを理解することができる。

【0890】

図10-15～図10-19に示した例では、第1パターンの演出制御に基づく分割演出が実行されており、画面右部には第1演出画像27TM100が表示され、画面左部には第2演出画像27TM200が表示されている。第1実施形態の遊技機では、第1演出画像表示領域27TM100Aにおいて、変動パターン指定コマンドに基づく演出とともに変動開始時演出決定処理に基づいて決定された設定示唆演出が実行される場合があるが、第2演出画像表示領域27TM200Aにおいては、変動パターンに対応した所定のムービーが再生されることになり、設定示唆演出は実行されない。

【0891】

仮に、分割演出が実行されている状態で、左右に並行して表示されている第1演出画像27TM100と第2演出画像27TM200について、それぞれ設定示唆演出を実行してしまうと、左右の何れの設定示唆演出に基づいて設定値の推測を行うべきか遊技者を混乱させてしまう問題が発生してしまう。本実施形態では、第2演出画像表示領域27TM200Aにおいて設定示唆演出を実行させないことにより、このような問題の発生を防ぐことができる。

【0892】

また、図10-15～図10-19に示すように、第1演出画像27TM100と第2演出画像とで、擬似連演出の実行回数(2回と1回)、カットイン画像の態様(「大チャンス!!」と「チャンス!」)、及び、出現するキャラクタ(キャラクタBとキャラクタA)等、大当たり期待度に関連する表示情報の態様を異ならせることが可能となっている。これにより、分割演出の興趣を一層向上させることができる。

【0893】

ここで、図10-15～図10-19に示したように、「スーパーリーチB大当たり[第1パターン分割演出(ムービーB(ロング))、擬似連2回(種別Y)]」の変動パターンが選択されたことに基づいて、第1演出画像27TM100では2回の擬似連が実行されているのに対して、第2演出画像27TM200では1回の擬似連しか実行されていない。また、第1演出画像27TM100では、最も大当たり期待度の高い「大チャンス!!」の文字が表示されているのに対して、第2演出画像27TM200では、2番目に大当たり期待度が高い「チャンス!」の文字が表示されている。さらに、第1演出画像27TM100では、スーパーリーチのうち大当たり期待度が高いスーパーリーチBに発展してキャラクタB(27TM510B)が出現するのに対して、第2演出画像27TM200では、スーパーリーチのうち大当たり期待度が低いスーパーリーチAに発展してキャラクタA(27TM510A)が出現する。

【0894】

このように、表示期間が短い第2演出画像27TM200よりも、表示期間が長い第1

10

20

30

40

50

演出画像 2 7 T M 1 0 0 の方が、大当たり期待度が高い演出情報が表示される割合が高い。本例では、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 が、ムービー B（ロング）に基づく演出画像である例を示しているが、ムービー B（ショート）、ムービー A（ロング）、及び、ムービー A（ショート）の何れの場合にも、表示期間が短い第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 よりも、表示期間が長い第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 の方が、大当たり期待度が高い演出情報が表示される割合が高いものとする。

【 0 8 9 5 】

このような演出構成により、遊技者は、大当たり期待度の高い演出情報が表示されている方が第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 であるという期待感を抱くようになり、分割演出の興趣を向上させることができる。

【 0 8 9 6 】

（第 2 実施形態）

次に、第 2 実施形態に係る遊技機について説明する。以下の説明では、第 1 実施形態に係る遊技機と共通の部分については説明を省略する。第 2 実施形態に係る遊技機は、第 1 実施形態に係る遊技機とは異なり、第 2 演出画像表示領域 2 7 T M 2 0 0 A において設定示唆演出を実行可能となっている。

【 0 8 9 7 】

図 1 0 - 2 0 は、第 2 実施形態における変動開始時演出決定処理を示すフローチャートである。第 2 実施形態の遊技機は、ステップ S 2 7 T M 2 0 0 0 ~ ステップ S 2 7 T M 2 0 3 0 に示すように、第 1 実施形態の遊技機と同様に、第 3 設定示唆演出の実行有無及び第 3 設定示唆演出の演出態様を決定して、第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A において第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 に対応した第 3 設定示唆演出を実行可能となっている。また、第 1 実施形態の遊技機と同様に、第 4 設定示唆演出の実行有無及び第 4 設定示唆演出の演出態様を決定して、第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A において第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 に対応した第 4 設定示唆演出を実行可能となっている。

【 0 8 9 8 】

また、第 2 実施形態の遊技機は、ステップ S 2 7 T M 2 0 4 0 ~ ステップ S 2 7 T M 2 0 5 0 に示すように、第 1 実施形態の遊技機と同様に、カットイン予告演出の実行有無及びカットイン予告演出の演出態様を決定して、第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A において第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 に対応したカットイン予告演出を実行可能となっている。

【 0 8 9 9 】

ここで、第 2 実施形態の変動開始時演出決定処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、受信した変動パターン指定コマンドにより指定される変動パターンが、分割演出を伴う変動パターンであるか否かを確認する（ステップ S 2 7 T M 3 0 0 0）。そして、分割演出を伴う変動パターンである場合には（ステップ S 2 7 T M 3 0 0 0 で Y E S）、第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 に対応した第 5 設定示唆演出の実行有無及び第 5 設定示唆演出の演出態様を決定するとともに、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 に対応した第 5 設定示唆演出の実行有無及び第 5 設定示唆演出の演出態様を決定する（ステップ S 2 7 T M 3 0 1 0）。

【 0 9 0 0 】

第 5 設定示唆演出は、第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A に表示される第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 に対応した第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 の表示色によって設定値を示唆する演出である。また、第 5 設定示唆演出は、第 2 演出画像表示領域 2 7 T M 2 0 0 A に表示される第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 に対応した第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 の表示色によって設定値を示唆する演出でもある。

【 0 9 0 1 】

本実施形態においては、図 1 0 - 2 1（A 1）に示すように、遊技機の設定値が、1、3、5 の何れかである場合、即ち、奇数設定である場合には、6 0 % の割合で第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 に対応した第 5 設定示唆演出を実行しないことに決定し、3 0 % の割合で第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 に対応した青色態様の第 5 設定示唆演出を実行することに

10

20

30

40

50

決定し、10%の割合で第1演出画像27TM100に対応した赤色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定する。一方、遊技機の設定値が、2、4、6の何れかである場合、即ち、偶数設定である場合には、60%の割合で第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出を実行しないことに決定し、10%の割合で第1演出画像27TM100に対応した青色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定し、30%の割合で第1演出画像27TM100に対応した赤色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定する。

【0902】

本実施形態において、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出を実行しないことに決定された場合には、第1演出画像枠27TM110は白色で表示される。また、第1演出画像27TM100に対応した青色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定された場合には、第1演出画像枠27TM110は青色で表示され、第1演出画像27TM100に対応した赤色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定された場合には、第1演出画像枠27TM110は赤色で表示される。

10

【0903】

従って、遊技者は、第1演出画像枠27TM110が青色で表示された場合には、設定値が奇数である可能性が高く、第1演出画像枠27TM110が赤色で表示された場合には、設定値が偶数である可能性が高いと推測する。また、第1演出画像枠27TM110が白色で表示された場合には、第1演出画像枠27TM110で設定値の示唆が行われていないことを把握する。

20

【0904】

本実施形態においては、図10-21(A2)に示すように、遊技機の設定値が、1、3、5の何れかである場合、即ち、奇数設定である場合には、80%の割合で第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出を実行しないことに決定し、11%の割合で第2演出画像27TM200に対応した青色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定し、9%の割合で第2演出画像27TM200に対応した赤色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定する。一方、遊技機の設定値が、2、4、6の何れかである場合、即ち、偶数設定である場合には、80%の割合で第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出を実行しないことに決定し、9%の割合で第2演出画像27TM200に対応した青色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定し、11%の割合で第2演出画像27TM200に対応した赤色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定する。

30

【0905】

本実施形態において、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出を実行しないことに決定された場合には、第2演出画像枠27TM210は白色で表示される。また、第2演出画像27TM200に対応した青色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定された場合には、第2演出画像枠27TM210は青色で表示され、第2演出画像27TM200に対応した赤色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定された場合には、第2演出画像枠27TM210は赤色で表示される。

【0906】

従って、遊技者は、第2演出画像枠27TM210が青色で表示された場合には、設定値が奇数である可能性が高く、第2演出画像枠27TM210が赤色で表示された場合には、設定値が偶数である可能性が高いと推測する。また、第2演出画像枠27TM210が白色で表示された場合には、第2演出画像枠27TM210で設定値の示唆が行われていないことを把握する。

40

【0907】

このように、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出と、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出との共通点として、(1)第5設定示唆演出が実行された場合には演出画像枠が青色又は赤色で表示されるが、第5設定示唆演出が実行されなかった場合には演出画像枠が白色で表示される点、(2)演出画像枠が青色で

50

表示された場合には設定値が奇数である割合が高く、演出画像枠が赤色で表示された場合には設定値が偶数である割合が高い点、がある。

【0908】

一方で、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出の実行割合(40%)は、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出の実行割合(20%)よりも高い。また、第1演出画像枠27TM110が青色で表示された場合に設定値が奇数である割合は、第2演出画像枠27TM210が青色で表示された場合に設定値が奇数である割合よりも高く、第1演出画像枠27TM110が赤色で表示された場合に設定値が偶数である割合は、第2演出画像枠27TM210が赤色で表示された場合に設定値が偶数である割合よりも高い。

10

【0909】

このように、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出の実行頻度は、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出の実行頻度よりも高い。また、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出で示唆された設定値が、実際の遊技機の設定値に対応している割合は、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出で示唆された設定値が、実際の遊技機の設定値に対応している割合よりも高い。即ち、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出の信頼度(精度)は、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出の信頼度(精度)よりも高い。

【0910】

このように、第1演出画像表示領域27TM100Aで実行される第5設定示唆演出の態様と、第2演出画像表示領域27TM200Aで実行される第5設定示唆演出の態様を異ならせることが可能であるため、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

20

【0911】

図10-22は、分割演出の実行に伴い第5設定示唆演出が実行されるときに演出画像の一例を示す図であり、第1実施形態の図10-2(1)及び(2)に対応する図である。図10-22(1)に示すように、分割演出の実行前は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、第1特別図柄の変動表示に同期して、装飾識別情報としての飾り図柄(主演出用図柄)の変動表示が行われる。CPU103が、第1特別図柄の変動表示を実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄(第1特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行させており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて、第1小図柄(第1特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行させている。

30

【0912】

次いで、演出制御用CPU120は、分割演出の実行に伴い、演出表示領域27TM005Aに表示されている情報のうちの背景画像及び飾り図柄に基づいて、2組の背景画像及び飾り図柄の組み合わせを演出表示領域27TM005A上に出現させる。その一方の組み合わせが第1演出画像27TM100を含む第1の演出情報となり、他方が第2演出画像27TM200を含む第2の演出情報となる。

【0913】

図10-22(2)に示すように、演出制御用CPU120は、分割演出の実行に伴い、演出表示領域27TM005A右部の第1演出画像表示領域27TM100Aに、第1演出画像枠27TM110とともに第1演出画像27TM100を表示させ、演出表示領域27TM005A左部の第2演出画像表示領域27TM200Aに、第2演出画像枠27TM210とともに第2演出画像27TM200を表示させる。即ち、本例では、第1パターンの演出制御を実行することに決定されたことに基いて、第1の演出情報を画面右部に表示させ、第2の演出情報を画面左部に表示させている。

40

【0914】

そして、第1演出画像27TM100の第1図柄表示エリア5L1、5C1、5R1では、第1特別図柄の変動表示に対応して、装飾識別情報としての第1飾り図柄の変動表示が行われ、第2演出画像27TM200の第2図柄表示エリア5L2、5C2、5R2で

50

は、第1特別図柄の変動表示に対応して、装飾識別情報としての第2飾り図柄の変動表示が行われる。このとき、第1特別図柄の変動表示が継続して実行されていることに伴って、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l、5c、5rにおいて第1小図柄の変動表示を継続させている。

【0915】

図10-22(2)に示す例では、第1演出画像27TM100に対応して赤色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定されたことに伴って、第1演出画像枠27TM110が赤色で表示されており、第2演出画像27TM200に対応して青色態様の第5設定示唆演出を実行することに決定されたことに伴って、第2演出画像枠27TM210が青色で表示されている。

【0916】

ここで、本例では、分割演出が実行されたときに、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出と、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出の両方が実行されている。このような例に限らず、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出が実行される（第1演出画像枠27TM110が青色又は赤色で表示される）一方で、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出は実行されない（第2演出画像枠27TM210は白色で表示される）場合もある。また、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出が実行される（第2演出画像枠27TM210が青色又は赤色で表示される）一方で、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出は実行されない（第1演出画像枠27TM110は白色で表示される）場合もある。

【0917】

また、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出と、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出とが共通の態様で実行される場合（第1演出画像枠27TM110が青色で表示され且つ第2演出画像枠27TM210も青色で表示される場合、第1演出画像枠27TM110が赤色で表示され且つ第2演出画像枠27TM210も赤色で表示される場合）もある。

【0918】

図10-23は、第2実施形態の遊技機で分割演出が実行される場合の各演出の実行タイミングを示すタイムチャートであり、第1実施形態の図10-14に対応する図である。図10-23に示す例では、図10-14に示した例と同様に、第1特別図柄の変動開始時に、変動パターンが、第1演出画像が画面右部に表示され第2演出画像が画面左部に表示される第1パターンの演出制御が実行されるとともにムービーBの種別のうち再生期間が長い種別のムービーB（ロング）が再生される分割演出が実行され、期待度が高い種別Yの擬似連が2回実行される「スーパーリーチB大当たり〔第1パターン分割演出（ムービーB（ロング））、擬似連2回（種別Y）〕」に決定されている。

【0919】

図10-22及び図10-23に示すように、第2実施形態では、分割演出が実行されている期間、第1演出画像27TM100に対応した第5設定示唆演出と、第2演出画像27TM200に対応した第5設定示唆演出とを並行して実行可能である。即ち、大当たり期待度の高い演出が実行される割合が高い第1演出画像表示領域27TM100Aにおける第5設定示唆演出と、期待度の低い演出が実行される割合が高い第2演出画像表示領域27TM200Aにおける第5設定示唆演出とを並行して実行可能である。

【0920】

図10-24は、第2実施形態の分割演出が終了するときの演出画像の一例を示す図である。図10-24(12)は、第1実施形態の図10-18(12)に対応する図であり、図10-24(13)は、第1実施形態の図10-19(13)に対応する図である。

【0921】

第1演出画像表示領域27TM100Aにおいてスーパーリーチ演出に発展したことに伴って、演出制御用CPU120は、赤色態様の第5設定示唆演出が実行されている第

10

20

30

40

50

1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 とともに第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 を拡大表示させる。演出制御用 C P U 1 2 0 は、図 1 0 - 1 4 に示す T 1 4 ~ T 1 5 の拡大表示期間において、青色態様の第 5 設定示唆演出が実行されている第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 及び第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 の組合せを拡大させることなく、赤色態様の第 5 設定示唆演出が実行されている第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 及び第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 の組合せを徐々に拡大表示させる。この拡大表示期間において、第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 及び第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 の組合せは、第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 及び第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 の組合せよりも高い優先度（第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 及び第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 の組合せよりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示される。

10

【 0 9 2 2 】

即ち、拡大表示期間における第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 と第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 の表示優先度は、第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 < 第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 の関係となっており、第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 の拡大表示に伴い、第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 は表示される領域が縮小してゆく（図 1 0 - 2 4 （ 1 2 ）を参照）。このように、第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 と第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 とは並行して表示されているが、拡大表示期間において第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 の視認性が、第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 の視認性よりも高められることになる。そして、拡大表示された第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 が第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 を完全に覆うことで、第 2 演出画像枠 2 7 T M 2 1 0 が視認不能となる（非表示となる）。

20

【 0 9 2 3 】

図 1 0 - 2 4 （ 1 3 ）に示すように、演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 演出画像枠 2 7 T M 1 1 0 が演出表示領域 2 7 T M 0 0 5 A の枠とほぼ同じサイズまで拡大したタイミング（図 1 0 - 2 3 に示す T 1 5 のタイミング）で、分割演出を終了させる。

【 0 9 2 4 】

以上に示したように、分割演出が実行されたときに、第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A と第 2 演出画像表示領域 2 7 T M 2 0 0 A の両方の領域で設定示唆演出を実行可能とすることにより、分割演出と設定示唆演出の興趣を向上させることができる。ここで、第 1 演出画像表示領域 2 7 T M 1 0 0 A で実行される設定示唆演出の態様と、第 2 演出画像表示領域 2 7 T M 2 0 0 A で実行される設定示唆演出の態様とを異ならせることが可能であるため、分割演出において並行して実行されている設定示唆演出の興趣を一層向上させることができる。

30

【 0 9 2 5 】

ただし、第 2 実施形態の遊技機についても、第 1 実施形態の遊技機と同様に、第 2 演出画像表示領域 2 7 T M 2 0 0 A において、設定値が「 6 」であることを示唆する第 3 設定示唆演出（設定 6 確定演出）は実行されないようになっている。

【 0 9 2 6 】

仮に、表示期間が短く期待度の低い演出が実行される割合が高い第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 に対応して、設定値が高いことを示唆する第 3 設定示唆演出を実行させたとしても、第 1 演出画像 2 7 T M 1 0 0 に対応した第 3 設定示唆演出が実行されなかった場合に、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 が早いタイミングで非表示となることで遊技者を落胆させるおそれがある。また、遊技者が、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 に対応して実行された第 3 設定示唆演出の信頼性に疑問を持つことになる。本実施形態では、第 2 演出画像 2 7 T M 2 0 0 に対応して、第 5 設定示唆演出を実行可能であるものの、高い信頼度で特定の設定値を示唆する第 3 設定示唆演出は実行させないことで、このような問題を発生させないようにしている。

40

【 0 9 2 7 】

（特徴部 2 7 T M の変形例）

次に、【特徴部 2 7 T M】の変形例について説明する。

【 0 9 2 8 】

50

(1) 前述した特徴部 16 T M に示したように、設定示唆演出は、設定示唆演出の実行回数により設定値を示唆するものであってもよい。例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 は、画像表示装置 5 の画面中央下部であってアクティブ表示 16 T M 0 0 3 の下方に設けられた特別演出領域 16 T M 0 3 5 に、ミニスロット 16 T M 0 3 0 を表示させて、そのミニスロット 16 T M 0 3 0 を変動表示させることにより設定示唆演出を実行してもよい。

【0929】

〔特徴部 16 T M に関する説明〕において示したように、演出制御用 C P U 1 2 0 は、現在設定されている設定値を示唆する演出として第 1 設定示唆演出を実行可能である。この第 1 設定示唆演出は、ミニスロット 16 T M 0 3 0 のミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 において、同一図柄の組合せとして [ベル]、[ベル]、[ベル] のミニスロット図柄の組合せを停止表示させることにより、「ベル」の役成立とする演出である。即ち、ミニスロット 16 T M 0 3 0 のミニスロット図柄表示エリア 5 L 1、5 C 1、5 R 1 に、[ベル]、[ベル]、[ベル] のミニスロット図柄の組合せが停止表示したことに基づいて、遊技者は、設定値を示唆するための第 1 設定示唆演出が実行されたことを認識する。

【0930】

また、前述した図 9 - 6 (G) に示すように、設定値に応じて第 1 設定示唆演出の実行割合が異なり、設定値が高いほど、高い割合で第 1 設定示唆演出が実行されることになる。本実施形態では、変動表示を実行する毎に変動開始時演出決定処理を実行するため、変動表示毎に第 1 設定示唆演出の実行有無を決定することになる (ステップ S 16 T M 2 0 0 0)。即ち、前述した第 1 のミニスロット可変表示の成立役を [ベル] とするか又は「はずれ」とするかを決定する。これにより、遊技者は、変動表示が実行される毎に第 1 設定示唆演出が実行されるか否かに関心を持つことになり、また、変動表示が実行された回数に対しての第 1 設定示唆演出が実行された回数 (第 1 設定示唆演出の実行割合) に対しても関心を持つことになる。

【0931】

このように、第 1 設定示唆演出を実行可能な構成を、第 1 実施形態の遊技機又は第 2 実施形態の遊技機に適用可能である。但し、分割演出が実行されている期間において、第 1 演出画像 27 T M 1 0 0 に対応した第 1 設定示唆演出を実行可能である一方、第 2 演出画像 27 T M 2 0 0 に対応した第 1 設定示唆演出は実行しないものとする。

【0932】

第 1 設定示唆演出は、その実行回数により設定値を示唆するものであるため、遊技者は、表示されたミニスロットの可変表示の成立役を一見しただけでは、設定値を推測することが困難である。このような第 1 設定示唆演出の特徴から、仮に、分割演出の実行中に、第 1 演出画像 27 T M 1 0 0 に対応した第 1 ミニスロットと、第 2 演出画像 27 T M 2 0 0 に対応した第 2 ミニスロットを表示させ、第 1 ミニスロットと第 2 ミニスロットで並行して第 1 設定示唆演出を実行したとすると、遊技者を混乱させてしまうことになる。従って、分割演出実行中は、第 2 演出画像 27 T M 2 0 0 に対応した第 1 設定示唆演出を実行しないものとする。

【0933】

(2) なお、上記変形例 (1) に示した形態に限らず、分割演出を伴う変動パターンに基づく変動表示期間中は、第 1 演出画像 27 T M 1 0 0 に対応した第 1 設定示唆演出と、第 2 演出画像 27 T M 2 0 0 に対応した第 1 設定示唆演出の何れも実行しないようにしてもよい。

【0934】

例えば、分割演出を伴う変動パターンに基づく変動表示期間のうち、分割演出が実行されていない期間 (分割演出実行前の期間や分割演出実行後の期間) は、画像表示装置 5 の画面中央下部 (第 1 演出画像表示領域 27 T M 1 0 0 A 及び第 2 演出画像表示領域 27 T M 2 0 0 A の何れにも対応していない領域) であってアクティブ表示 16 T M 0 0 3 の下方に設けられた特別演出領域 16 T M 0 3 5 に表示されたミニスロット 16 T M 0 3 0 で

10

20

30

40

50

第1設定示唆演出を実行可能であるが、分割演出の実行期間中は、第1演出画像27TM100に対応した第1設定示唆演出と、第2演出画像27TM200に対応した第1設定示唆演出の何れも実行しないようにしてもよい。

【0935】

このように、第1演出画像表示領域27TM100A及び第2演出画像表示領域27TM200Aの何れにも対応していない特別演出領域16TM035に、ミニスロット16TM030を表示させている場合には、分割演出の実行期間中、ミニスロット16TM030のミニスロット図柄表示エリア5L1、5C1、5R1においてミニスロット図柄の変動表示を継続して実行させて、ミニスロット図柄を停止させないようにしてもよい。このような演出制御により、分割演出の実行期間中に、演出表示領域27TM005A内（画面全体）で第1設定示唆演出を実行しないようにしてもよい。

10

【0936】

（3）また、上記の第1実施形態及び第2実施形態では、分割演出の実行期間中に、第1演出画像表示領域27TM100Aと第2演出画像表示領域27TM200Aの少なくとも一方の演出画像表示領域において、何れかの種別の設定示唆演出を実行可能である例を示したが、このような形態に限らず、分割演出の実行期間中（又は分割演出を伴う変動パターンに基づく変動表示期間中）は、第1演出画像表示領域27TM100Aと第2演出画像表示領域27TM200Aの両方の演出画像表示領域において、種別によらず設定示唆演出を実行しないようにしてもよい。

20

【0937】

なお、分割演出の実行期間中（又は分割演出を伴う変動パターンに基づく変動表示期間中）は、第1演出画像表示領域27TM100A及び第2演出画像表示領域27TM200Aを含む演出表示領域27TM005A内（画面全体）で、種別によらず設定示唆演出を実行しないようにしてもよい。

【0938】

（4）上記の実施形態では、分割演出が実行されている期間は、分割演出が実行されていない期間よりも、アクティブ表示の表示態様が変化する割合が低い例を示したが、このような形態に限らず、分割演出が実行されている期間は、分割演出が実行されていない期間よりも、アクティブ表示の表示態様が変化する割合が高くなるようにしてもよい。これにより、分割演出が実行されたことに対応してアクティブ表示がどのような態様に変わることに関心を持たせることができる。

30

【0939】

（5）上記の実施形態では、設定示唆演出が当該遊技機の設定値を示唆する演出である例について説明したが、このような形態に限らず、設定示唆演出は、当該遊技機の電源が投入された際に設定値が変更されたか否かを示唆する演出であってもよい。例えば、当該遊技機の電源が投入された際に設定値を変更するための設定変更モードに制御された場合には、当該遊技機の電源が投入された際に設定変更モードに制御されなかった場合よりも高い割合で所定の設定示唆演出が実行されるようにしてもよい。

【0940】

（6）上記の第2実施形態では、第1演出画像表示領域27TM100Aで実行可能な設定示唆演出の種類（第3設定示唆演出、第4設定示唆演出、第5設定示唆演出）と、第2演出画像表示領域27TM200Aで実行可能な設定示唆演出の種類（第5設定示唆演出）とがあり、第1演出画像表示領域27TM100Aでは実行可能であるが第2演出画像表示領域27TM200Aでは実行されない設定示唆演出の種類（第3設定示唆演出、第4設定示唆演出）が存在する一方で、第2演出画像表示領域27TM200Aでは実行可能であるが第1演出画像表示領域27TM100Aでは実行されない設定示唆演出の種類は存在しない例について説明した。

40

【0941】

このような形態に限らず、第2演出画像表示領域27TM200Aでは実行可能であるが第1演出画像表示領域27TM100Aでは実行されない設定示唆演出の種類を設ける

50

ようにしてもよい。例えば、第5設定示唆演出に関しては、第2演出画像表示領域27TM200Aでは実行可能であるが第1演出画像表示領域27TM100Aでは実行されないようにしてもよい。

【0942】

(7) 上記の実施形態では、第1演出画像表示領域27TM100A及び第2演出画像表示領域27TM200Aの何れか一方の領域（例えば第1演出画像表示領域27TM100A）においてのみ実行可能であり、他方の領域（例えば第2演出画像表示領域27TM200A）では実行されない演出（第3設定示唆演出、第4設定示唆演出等）に関して説明したが、このような形態に限らず、これらの演出について、他方の領域においても実行可能であり、他方の領域においては一方の領域よりも低い割合で実行されるようにしてもよい。

10

【0943】

(8) 上記の実施形態に示した遊技機は、例えば、特開2018-191660等に表示されている遊技機と同様に、立体画像を成すための右目用画像（R）と左目用画像（L）とを水平方向に交互に並べて表示可能な表示体（例えば、画像用液晶パネル）と、該表示体の前方に設けられ、遊技者の左目による右目用画像（R）の視認を阻止するとともに遊技者の右目による左目用画像（L）の視認を阻止するための視差形成体（例えば、レンチキュラシート）と、を有する立体画像表示手段（例えば、画像表示装置5）を備えるものであってもよい。

【0944】

ここで、演出制御基板のROMには、立体画像（立体視用）の画像データ（右目用画像（R）の画像データ及び左目用画像（L）の画像データ）と、非立体画像（平面視用）の画像データが記憶されているものとする。表示制御手段（例えば、演出制御用CPU120やVDP）は、立体画像の画像データに基づいて右目用画像（R）と左目用画像（L）とを水平方向に交互に並べて表示体に表示させる第1制御と、非立体画像の画像データに基づいて非立体画像を表示体に表示させる第2制御とを実行可能である。

20

【0945】

表示制御手段が第1制御を実行することで、遊技者の右目からは、視差形成体を介して左目用画像（L）が視認されることなく右目用画像（R）のみが視認され、遊技者の左目からは、視差形成体を介して右目用画像（R）が視認されることなく左目用画像（L）のみが視認される。そして、遊技者の右目と右目用画像とを結ぶ直線（右目の視線）と、遊技者の左目と左目用画像とを結ぶ直線（左目の視線）との交点に融合像が生ずる効果により、左目用画像と右目用画像に基づく立体視が可能となる。

30

【0946】

一方、表示制御手段が第2制御を実行することで、遊技者の右目から視認される非立体画像と、遊技者の左目から視認される非立体画像との間に視差が形成されないことになる。その結果、遊技者の右目と非立体画像とを結ぶ直線（右目の視線）と、遊技者の左目と非立体画像とを結ぶ直線（左目の視線）との交点が、非立体画像の表示位置と合致して平面視状態になる。例えば、非立体画像として所定の（単一の）右目用画像を使用してもよく、非立体画像として所定の（単一の）左目用画像を使用してもよい。

40

【0947】

このように第1制御を実行している状態と、第2制御を実行している状態とを切り替えることが可能な表示制御手段を備える遊技機において、分割演出の実行期間中（あるいは分割演出を伴う変動パターンに基づく変動期間中）は、第1制御を実行せず第2制御を実行するようにしてもよい。例えば、図10-14又は図10-23に示す分割演出の実行期間（T2からT15の期間）は、第1制御を実行せずに第2制御を実行し、分割演出終了後のバトル演出画像（例えば、図10-19の（13）又は図10-24の（13）に示す画像）を表示させるタイミングで第2制御から第1制御に切り替える（立体視が可能な状態とする）ようにしてもよい。

【0948】

50

仮に、分割演出が実行されているときに第1制御を行い立体視が可能な状態にしようとすると、遊技者に違和感を与えないように、第1演出画像27TM100と第2演出画像27TM200の両方の画像について遊技者から見て画面の奥方向（Z軸方向）に適切な奥行きを有する融合像を生じさせるような右目用画像（R）と左目用画像（L）を予め用意しなければならない。本実施形態では、分割演出が実行されているときには立体視を可能とする第1制御を実行しないことにより、用意すべき演出データが過度に増大してしまうことを防止している。

【0949】

（表示制御部の詳細）

次に、前述した【特徴部27TMに関する説明】で示した分割演出を実行するための構成について詳細に説明する。図10-25は、表示制御部123を示す構成図である。VDP（Video Display Processor）150内の描画回路1510は、演出制御用CPU120からCPUインタフェース1520を介して入力される表示制御指令がCGROM（Character Generator ROM）160から画像データを読み出す指令であった場合には、CGバスインタフェース1530を介してCGROM160から必要な画像データを読み出してデコーダ1550へ出力する。CGROM160には、MPEG2（Moving Picture Experts Group phase 2）方式等で符号化（データ圧縮）された画像データが格納されている。デコーダ1550は、CGROM160から読み出された画像データを伸張して、伸張後の画像データを描画素材データRAM1560に書き込む。

【0950】

描画回路1510は、描画素材データRAM1560に記憶された画像データを用いて、1フレームの画像を画像表示装置5に表示するためのフレーム画像データを生成してVRAM（Video RAM）170の描画領域に書き込む。この実施の形態では、必要に応じて、ポリゴンの集合で形成される表示対象のオブジェクトを仮想三次元空間に配置してそのオブジェクトに対してテクスチャマッピングを行い、更にレンダリング処理によってオブジェクトを仮想スクリーンに投影して得られる画像に応じたフレーム画像データが生成される。駆動回路180は、描画領域内のフレーム画像データにもとづくR（赤）、G（緑）、B（青）の画像信号及び同期信号を画像表示装置5に出力する。画像表示装置5は、例えば、多数の画素（ピクセル）を駆動するドットマトリクス方式による画面表示を行う。

【0951】

なお、VDP1500は、GPU（Graphics Processing Unit）、GCL（Graphics Controller LSI）、あるいは、より一般的にDSP（Digital Signal Processor）と称される画像処理用のマイクロプロセッサであってもよい。また、CGROM160は、例えば書き換え不能な半導体メモリであってもよいし、フラッシュメモリなどの書き換え可能な半導体メモリであってもよく、あるいは、磁気メモリ、光学メモリといった、不揮発性記録媒体のいずれかをを用いて構成されたものであればよい。

【0952】

次に、三次元のオブジェクト画像を用いた演出画像の表示態様について図10-26～図10-30を参照して説明する。図10-26に示すように、オブジェクト画像を描画する場合には、表示制御部123内のVDP1500が、ポリゴンの集合で形成される表示対象のオブジェクトOBを仮想三次元（x，y，z）空間に配置して、そのオブジェクトに対してテクスチャマッピングを行い、更にレンダリング処理によって、オブジェクトを所定の視点EY（例えば、視点EY0）から見たと仮定した場合において、その視点EYから所定距離離れた位置に配置された仮想スクリーンSCに投影して得られる画像IMを演算処理により求め、この画像IMを、駆動回路180を制御して画像表示装置5に表示させる（図10-25参照）。なお、本実施例では、仮想スクリーンSCに投影される画像IMは、透視投影により描画される。

【0953】

以下の説明において、x軸は、水平方向（画面横方向）の軸であり、原点（0，0，0）から画面右に向かう方向が正方向であり、原点（0，0，0）から画面左に向かう方向

10

20

30

40

50

が負方向であるものとする。また、 y 軸は、鉛直方向（画面縦方向）の軸であり、原点（ $0, 0, 0$ ）から画面上に向かう方向が正方向であり、原点（ $0, 0, 0$ ）から画面下に向かう方向が負方向であるものとする。また、 z 軸は、画面と直交する垂直方向（画面奥行き方向）の軸であり、原点（ $0, 0, 0$ ）から画面奥に向かう方向が正方向であり、原点（ $0, 0, 0$ ）から画面手前に向かう方向が負方向であるものとする。

【0954】

本実施形態では、図10-27に示すように、表示制御部123のVDP1500は、演出図柄の変動表示が実行される演出画像EG（演出表示領域27TM005Aを模した画像の一例である）に基づいて、仮想三次元（ x, y, z ）空間に配置された、直方体のオブジェクトOBの xy 平面に対してテクスチャマッピングを行うことにより（図10-27（1））、オブジェクトOBの xy 平面に演出画像EGを合成（マッピング）する。これにより、仮想三次元（ x, y, z ）空間で、オブジェクトOBの xy 平面と演出画像EGとが一体化される（図10-27（2））ことになるため、テクスチャマッピング以降は、オブジェクトOBを対象としたレンダリング処理が実行されることにより演出画像EGを対象として同様のレンダリング処理が実行されることになる。

【0955】

演出図柄の変動表示を実行するときのオブジェクト画像の描画は、プロセスデータの内容に従って表示制御部123を制御するときに行われる。演出制御用CPU120は、プロセスデータの内容に応じて、表示制御部123へ表示制御指令を出力する。表示制御部123には、そのタイミングにおいて表示対象となるオブジェクトOBのデータを指定する情報などが含まれる。表示制御部123のVDP1500内の描画回路1510は、演出制御用CPU120からCPUインタフェース1520を介して入力される表示制御指令に従い、CGROM160から表示対象のオブジェクトOBのデータを選択する。ここで、オブジェクトOBのデータには、仮想三次元空間におけるオブジェクトOBの位置情報、オブジェクトOBを形成するポリゴンの座標情報、テクスチャの座標情報などが含まれる。選択された表示対象のオブジェクトOBのデータは、描画素材データRAM1560に記憶される。そして、選択した表示対象のオブジェクトOBのデータには、そのオブジェクトOBのデータがどの演出に対応するものであるかを示す情報（演出指定情報）が付加されている。演出制御用CPU120は、この演出指定情報に基づいて、選択した表示対象のオブジェクトOBの画像データが演出画像用のオブジェクトであるか、その他の背景用のオブジェクトであるかなどを判定し、描画回路1510を用いてオブジェクトOBの描画を実行する。

【0956】

本実施形態では、図10-27に示したように、オブジェクトOBの xy 平面に合成された演出画像EGにおいて、左、中、右の一組の飾り図柄が変動表示されることになる。そして、仮想三次元空間において、オブジェクトOBを変化（変形又は移動）させることで、左、中、右の一組の飾り図柄の変動表示が実行されている演出画像EGも変化（変形又は移動）することになる。その結果として、描画されたオブジェクト画像の態様（例えば、表示された直線の長さや角度等）が変化し、それに伴い、表示される飾り図柄の態様（例えば、表示される飾り図柄のサイズや縦横比率等）も変化する。

【0957】

図10-28は、仮想三次元空間のオブジェクトOBを、 y 軸を回転軸として回転させることにより、仮想三次元空間におけるオブジェクトOBの位置を変化させる例を示している。図10-28（A）は、仮想三次元空間において、 xy 平面を有する直方体のオブジェクトOBが演出画像EGと合成されたときの初期状態を示す図である。また、図10-28（B1）は、合成処理後の初期状態のオブジェクトOBを、 y 軸を回転軸として、 z 軸の正方向に45度回転させたときの状態を示す図である。また、図10-28（B2）は、合成処理後の初期状態のオブジェクトOBを、 y 軸を回転軸として、 z 軸の負方向に45度回転させたときの状態を示す図である。

【0958】

ここで、図10-29に示すように、オブジェクト画像を描画する場合には、オブジェクトOBに対応する視点（例えば視点EY0）が設定される。本例における視点EY0は、仮想三次元（ x, y, z ）空間の xy 平面に相対する位置に設定されており、視線は z 軸と平行になるように設定されている。即ち、遊技者が画像表示装置5の画面を見る際の視点と同様の視点EY0が設定されている。

【0959】

図10-29の例に示す視点EY0は、図28（A）に示す初期状態にあるオブジェクトOBの xy 平面に関する座標を（ p, q ）〔 p, q は実数〕とすると、その中点（ $o/2, p/2$ ）に位置しており、 z 軸から所定距離 $|r|$ 〔 r は実数、 $r < 0$ 〕離れた位置にある。即ち、本例におけるオブジェクトOBに対応する視点EY0は、仮想三次元（ x, y, z ）空間の定点（ p, q, r ）に位置している。

10

【0960】

オブジェクトOBは、視点EY0から見たと仮定した場合において、仮想スクリーンSCに透視投影して得られる画像として描画される。そのため、合成処理後のオブジェクトOBが初期状態にあるときは、図28（A）に示したように、左、中、右の各飾り図柄が同等のサイズとなる画像が表示される。また、合成後のオブジェクトOGを、 y 軸を回転軸として、 z 軸の正方向に45度回転させたときは、図28（B1）に示したように、左飾り図柄が最も大きなサイズ、中飾り図柄が2番目に大きなサイズ、右飾り図柄が最も小さなサイズとなる画像が表示される。また、合成後のオブジェクトOGを、 y 軸を回転軸として、 z 軸の負方向に45度回転させたときは、図28（B2）に示したように、右飾り図柄が最も大きなサイズ、中飾り図柄が2番目に大きなサイズ、左飾り図柄が最も小さなサイズとなる画像が表示される。

20

【0961】

このように、表示制御部123内のVDP1500は、合成処理として、仮想三次元空間に配置されたオブジェクトOBに対して、演出画像EGに基づくテクスチャマッピングを行い、テクスチャマッピングが行われたオブジェクトOBを変化（変形又は移動）させることにより、その変化後（変形又は移動後）の三次元のオブジェクトOBを視点EY0から見たときの画像を透視投影により描画して画像IMの生成を行っている。その結果、生成された画像IMには、オブジェクトOBにマッピングされた演出画像EGの変化後（変形又は移動後）の表示態様が自ずと反映されることになる。従って、オブジェクトOBのデータに関連付けられてない演出画像EGのデータのみに基づいて、演出画像EGの表示態様を逐次計算させる場合と比較して、表示制御部123の処理負担を軽減させることが可能となる。

30

【0962】

なお、図10-29の例では、視点EY0を仮想三次元空間の定点（ p, q, r ）としている。このような形態に限らず、遊技状態、変動パターン、予告演出、及び、大当たり期待度等に対応して、設定する視点の位置を異ならせてもよい。また、仮想三次元空間に複数のオブジェクトOBを配置する場合には、それぞれのオブジェクトOBについて、対応する視点を設定するようにしてもよい。例えば、以下に示すように、仮想三次元空間に2つのオブジェクトOB1及びOB2を配置した場合には、オブジェクトOB1に対応した視点EY1と、オブジェクトOB2に対応した視点EY2とを設定して、オブジェクトOB1については視点EY1から見たときに得られる画像を描画し、オブジェクトOB2については視点EY2から見たときに得られる画像を描画するようにしてもよい。

40

【0963】

例えば、前述した分割演出が実行されるときには、VDP1500は、第1飾り図柄が表示される演出画像EG1を、仮想三次元（ x, y, z ）空間に配置された直方体のオブジェクトOB1の xy 平面に合成する第1合成処理を実行する。そして、第1合成処理が実行されたオブジェクトOB1を、 y 軸を回転軸として、 z 軸の負方向に45度回転させて（図28（B2）を参照）、回転後のオブジェクトOB1を視点EY1から見たときの画像を透視投影により描画して画像IM1（第1演出画像27TM100に対応した画像

50

）の生成を行う。また、 $VDP1500$ は、第2飾り図柄が表示される演出画像 $EG2$ を、仮想三次元（ x, y, z ）空間に配置された直方体のオブジェクト $OB2$ の xy 平面に合成する第2合成処理を実行する。そして、第2合成処理が実行されたオブジェクト $OB2$ を、 y 軸を回転軸として、 z 軸の正方向に45度回転させて（図28（B1）を参照）、回転後のオブジェクト $OB2$ を視点 $EY2$ から見たときの画像を透視投影により描画して画像 $IM2$ （第2演出画像27TM200に対応した画像）の生成を行う。

【0964】

そして、 $VDP1500$ は、背景画像の右部に画像 $IM1$ を重畳表示させ、背景画像の左部に画像 $IM2$ を重畳表示させる表示制御を実行することにより、例えば、図10-30に示すように、背景画像に重畳表示された第1演出画像27TM100及び第2演出画像27TM200を含む合成画像が、分割演出の演出画像として表示されることになる。

【0965】

ここで、変化後（回転後）のオブジェクト $OB1$ を視点 $EY1$ から見たときの画像を透視投影により描画して画像 $IM1$ の生成を行うときに、視点 $EY1$ を仮想三次元（ x, y, z ）空間の定点（ $p1, q1, r1$ ）〔 $p1, q1, r1$ は実数、 $r1 < 0$ 、且つ、 $|r| < |r1|$ 〕に位置させることにより、視点 $EY0$ よりも離れた位置から見たときの画像を透視投影により描画して画像 $IM1$ の生成を行うことになる（ $\because |r| < |r1|$ ）。これにより、画像 $IM1$ （第1演出画像27TM100に対応した画像）は、演出表示領域27TM005Aよりも小さい領域である第1演出画像表示領域27TM100Aに表示されることになる。

【0966】

同様に、変化後（回転後）のオブジェクト $OB2$ を視点 $EY2$ から見たときの画像を透視投影により描画して画像 $IM2$ の生成を行うときに、視点 $EY2$ を仮想三次元（ x, y, z ）空間の定点（ $p2, q2, r2$ ）〔 $p2, q2, r2$ は実数、 $r2 < 0$ 、且つ、 $|r| < |r2|$ 〕に位置させることにより、視点 $EY0$ よりも離れた位置から見たときの画像を透視投影により描画して画像 $IM2$ の生成を行うことになる（ $\because |r| < |r2|$ ）。これにより、画像 $IM2$ （第2演出画像27TM200に対応した画像）は、画像表示装置5の画面全体よりも小さい領域である第2演出画像表示領域27TM200Aに表示されることになる。

【0967】

なお、上記の分割演出の例では、仮想三次元空間に視点が配置されて描画される態様として、複数のオブジェクト（本例では、2つのオブジェクト $OB1$ 及び $OB2$ ）のそれぞれに対応する複数の視点（本例では、2つの視点 $EY1$ 及び $EY2$ ）から見たときに得られる画像を描画する複数視点描画態様の描画態様が採用されているが、複数のオブジェクト（本例では、2つのオブジェクト $OB1$ 及び $OB2$ ）を共通する1つの視点 $EY1'$ から見たときに得られる画像を描画する1視点描画態様の描画態様が採用されてもよい。

【0968】

なお、本実施形態では、特別図柄の変動表示に対応した演出画像 EG を、仮想三次元（ x, y, z ）空間に配置されたオブジェクト OB の z 軸負方向側（画面手前側）の xy 平面に合成する合成処理（テクスチャマッピング）を実行し、合成処理が実行されたオブジェクト OB を変化（変形又は移動）させ、その変化後（変形又は移動後）のオブジェクト OB を視点 $EY0$ から見たときの画像を透視投影により描画して画像 IM の生成を行う例を示したが、このような形態に限らず、背景画像を、仮想三次元（ x, y, z ）空間に配置されたオブジェクト OB の z 軸正方向側（画面奥側）の xy 平面に合成する合成処理（テクスチャマッピング）を実行し、合成処理が実行されたオブジェクト OB を変化（変形又は移動）させ、その変化後（変形又は移動後）のオブジェクト OB を視点 $EY3$ から見たときの画像を透視投影により描画して画像 $IM3$ の生成を行ってもよい。

【0969】

このように、背景画像をオブジェクト OB に合成した状態で、オブジェクト OB を変化（変形又は移動）させることにより、画像表示装置5の演出表示領域27TM005Aの

10

20

30

40

50

画面全体に表示されていた背景画像の態様を変化させるシェイクビジョン演出を実行可能となる。なお、前述したシェイクビジョン演出は、オブジェクトOBに合成された背景画像の態様を変化させる効果だけでなく、同じオブジェクトOBに合成された演出画像EGの態様を変化させる効果もある。このシェイクビジョン演出は、実行中の演出が終了することを示唆する演出として実行されてもよく、実行中の演出の実行期間が所定期間より長くなった場合の演出として実行されてもよく、大当たり期待度が高いことを示唆するチャンスアップ演出として実行されてもよい。

【0970】

上記の実施形態において、変動パターン指定コマンドを受信した演出制御用CPU120の表示制御部123のVDP1500は、第2演出画像27TM200として、指定された変動パターンに対応した所定のムービー（ムービーA（ショート）、ムービーA（ロング）、ムービーB（ショート）、ムービーB（ロング）の何れか）を再生させることになる。ここで、第2演出画像27TM200に関しては、第1演出画像27TM100とは異なり、第2演出画像27TM200を形成するための元画像（例えば、上記IM2）を仮想三次元（ x ， y ， z ）空間に配置された三次元のオブジェクトOB2に合成する合成処理を行うことなく表示可能としてもよい。

【0971】

例えば、右飾り図柄が最も大きなサイズ、中飾り図柄が2番目に大きなサイズ、左飾り図柄が最も小さなサイズで表示される第1ムービーと、左飾り図柄が最も大きなサイズ、中飾り図柄が2番目に大きなサイズ、右飾り図柄が最も小さなサイズで表示される第2ムービーとを予め用意しておく（演出制御基板のROMに、変動パターンに関連付けて記憶させておく）ものとする。そして、第1パターンの演出制御に基づく分割演出が実行される場合には、背景画像の右部分に、所定形状の第2演出画像枠27TM210を重畳表示させて、その第2演出画像枠27TM210の範囲内で第1ムービーを再生させ、第2パターンの演出制御に基づく分割演出が実行される場合には、背景画像の左部分に、所定形状の第2演出画像枠27TM210を重畳表示させて、その第2演出画像枠27TM210の範囲内で第2ムービーを再生させるようにする。

【0972】

このように、第2演出画像27TM200については、仮想三次元（ x ， y ， z ）空間に配置されたオブジェクトOBに基づく画像生成を行うことなく、背景画像に所定のムービーを重畳表示させることにより表示可能としてもよい。また、第1演出画像27TM100についても、仮想三次元（ x ， y ， z ）空間に配置されたオブジェクトOBに基づく画像生成を行うことなく、背景画像に所定のムービーを重畳表示させることにより表示可能としてもよい。また、分割演出を伴う変動表示期間内（あるいは分割演出期間内）で、仮想三次元（ x ， y ， z ）空間に配置されたオブジェクトOBに基づく画像生成を行う表示制御が実行される期間と、仮想三次元（ x ， y ， z ）空間に配置されたオブジェクトOBに基づく画像生成を行うことなく、背景画像に所定の演出画像EG（例えば変動パターンに対応したムービーの画像）を重畳表示させる表示制御が実行される期間とが切り替えられるようにしてもよい。

【0973】

なお、仮想三次元空間（ x ， y ， z ）に配置されたオブジェクトOBを移動（回転）させるだけでなく、オブジェクトOBを変形させてもよい。例えば、仮想三次元空間（ x ， y ， z ）に配置された直方体のオブジェクトOBの頂点の座標を変更することにより直方体のオブジェクトを立方体に変形させてもよい。また、直方体のオブジェクトOBを2つの直方体のオブジェクトOBに分割して、分割後の一方の直方体のオブジェクトOBには第1演出画像枠27T110に対応した画像を合成し、分割後の他方の直方体のオブジェクトOBには第2演出画像枠27TM210に対応した画像を合成してもよい。

【0974】

本発明は、以上に説明したものに限られるものではない。また、その具体的な構成は、上述の実施形態や後述の他の形態例に加えて、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変

10

20

30

40

50

更や追加があってもこの発明に含まれる。

【0975】

また、上述した実施の形態及び各変形例に示した構成、後述の形態例及び各変形例に示した構成のうち、全部又は一部の構成を任意に組み合わせることとしてもよい。

【0976】

なお、今回開示された上述の実施形態及び後述の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。この発明の範囲は上述の説明及び後述の説明ではなく特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等な意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【0977】

本発明の遊技機としては、他にも、演出画像（画像IM）を表示可能な画像表示装置（画像表示装置5）を備え、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）を仮想空間内（仮想三次元（ x ， y ， z ）空間）に配置し、当該三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）を特定視点から見たときの画像を透視投影により描画して演出画像（画像IM）の生成を行う画像生成手段（表示制御部123のVDP1500）を備え、前記画像生成手段（表示制御部123のVDP1500）は、前記画像表示装置（画像表示装置5）の演出表示領域（演出表示領域27TMO05A）を模した所定画像（演出画像EG）と、仮想空間（仮想三次元（ x ， y ， z ）空間）内に配置された三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）とを関連付ける所定処理（合成処理）を行い、当該所定処理（合成処理）が行われた三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）を変化（変形又は移動）させ、当該変化後の三次元のオブジェクトを特定視点（視点EY0）から見たときの画像を透視投影により描画して演出画像（画像IM）の生成を行い、前記所定画像（演出画像EG）は、更新される更新情報（第1の演出情報、第2の演出情報）を含み、前記所定処理（合成処理）が行われることなく演出画像（画像IM）として前記画像表示装置（画像表示装置5）に表示可能であり、前記画像生成手段（表示制御部123のVDP1500）は、前記所定処理（合成処理）として、仮想空間（仮想三次元（ x ， y ， z ）空間）内に配置された三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）に対して、前記所定画像（演出画像EG）に基づくテクスチャマッピングを行い、当該テクスチャマッピングが行われた三次元のオブジェクトを変化（変形又は移動）させ、当該変化後の三次元のオブジェクト（オブジェクトOB）を特定視点（視点EY0）から見たときの画像を透視投影により描画して演出画像（画像IM）の再生成を行い、さらに、前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、保留表示予告演出やタイマ演出、チャンス目予告演出など）を実行可能な示唆演出実行手段と、前記示唆演出が実行される前に前記示唆演出が実行されることを予告する準備演出（例えば、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出など）を実行可能な準備演出実行手段とを備え、前記示唆演出は、第1示唆演出（例えば、保留表示予告演出）と、該第1示唆演出とは異なる第2示唆演出（例えば、タイマ演出）と、該第1示唆演出および該第2示唆演出とは異なる第3示唆演出（例えば、チャンス目予告演出）とを含み、前記準備演出は、前記第1示唆演出が実行されることを予告する第1準備演出（例えば、保留表示予告準備演出）と、前記第2示唆演出が実行されることを予告する第2準備演出（例えば、タイマ準備演出など）とを含み、前記第3示唆演出、前記第1準備演出および前記第2準備演出は、同一期間に並列して実行可能であり（図15-11（A1），（A2）参照）、前記第1準備演出および前記第2準備演出のいずれかが実行されているときよりも、前記第1準備演出および前記第2準備演出のいずれも実行されていないときの方が、前記第3示唆演出が実行されやすい（例えば、図15-10参照）遊技機が挙げられる。

【0978】

このような構成によれば、演出表示領域の表示態様を変化させる演出の興趣を向上させることができる。また、画像生成手段の処理負担を軽減させることができる。また、好適に興趣を維持することができる。

10

20

30

40

50

【0979】

なお、画像表示装置の演出表示領域を模した所定画像と、仮想空間内に配置された三次元のオブジェクトとを関連付ける所定処理を行い、当該所定処理が行われた三次元のオブジェクトを変化させ、当該変化後の三次元のオブジェクトを特定視点から見たときの画像を透視投影により描画して演出画像の生成を行う画像生成手段によって、示唆演出の表示や準備演出の表示を実行するようにしてもよい。そのようにすれば、期待度を高める第1準備演出や第2準備演出の実行中に第3示唆演出が実行されることが少なくなるため、期待度を高める演出の実行中に他の演出が実行されることが少なくなって好適に興味を維持することができるとともに、画像生成手段によって示唆演出の表示や準備演出の表示が実行されることにより、示唆演出の表示や準備演出の表示が実行される際の演出の興趣を向上させることができる。

10

【0980】

さらに、演出表示領域の表示態様を変化させる演出の興趣を向上させることができ、また、好適に興味を維持することができる遊技機の形態の一例として、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能な遊技機であって、有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、保留表示予告演出やタイマ演出、チャンス目予告演出など）を実行可能な示唆演出実行手段と、示唆演出が実行される前に示唆演出が実行されることを予告する準備演出（例えば、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出など）を実行可能な準備演出実行手段とを備え、示唆演出は、第1示唆演出（例えば、保留表示予告演出）と、該第1示唆演出とは異なる第2示唆演出（例えば、タイマ演出）と、該第1示唆演出および該第2示唆演出とは異なる第3示唆演出（例えば、チャンス目予告演出）とを含み、準備演出は、第1示唆演出が実行されることを予告する第1準備演出（例えば、保留表示予告準備演出）と、第2示唆演出が実行されることを予告する第2準備演出（例えば、タイマ準備演出など）とを含み、第3示唆演出、第1準備演出および第2準備演出は、同一期間に並列して実行可能であり（図15-11（A1）、（A2）参照）、第1準備演出および第2準備演出のいずれかが実行されているときよりも、第1準備演出および第2準備演出のいずれも実行されていないときの方が、第3示唆演出が実行されやすい（例えば、図15-10参照）遊技機が挙げられる。以下に、これらの遊技機の形態例の一例を他の形態例として説明する。

20

【0981】

（本実施の形態の特徴部の前提となる基本説明）

まず、図11～図13を用いて、後述する特徴部の前提となるパチンコ遊技機1の基本的な構成及び制御のうち、前述した図2、図4、図5と相違する点について説明する。これら相違点以外については、特徴部の前提となるパチンコ遊技機1の基本的な構成及び制御は、図1～図8を用いて説明した前述のパチンコ遊技機1の構成及び制御と基本的に同様である。

30

【0982】

図11は、パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図であり、演出制御基板12には、LED制御基板14を介して枠LED9が接続されることに代えて、ランプ制御基板9014を介して遊技効果ランプ909が接続される点が図2との主な相違点である。また、遊技効果ランプ909は、図1の遊技領域周辺部の枠LED9が設けられている箇所に設けられ、遊技効果ランプ909は、LEDを含んで構成されている。

40

【0983】

（基板構成）

パチンコ遊技機1には、例えば図11に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板9014、中継基板15などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、電源基板などといった、各種の基板が配置されている。

【0984】

表示制御部123は、演出制御用CPU120からの演出の実行指示に基づき、実行す

50

る演出に応じた映像信号を画像表示装置 5 に供給することで、演出画像を画像表示装置 5 に表示させる。表示制御部 1 2 3 は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、遊技効果ランプ 9 0 9 の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板 1 3 に供給したり、ランプ信号（ランプの点灯／消灯態様を指定する信号）をランプ制御基板 9 0 1 4 に供給したりする。また、表示制御部 1 2 3 は、可動体 3 2 を動作させる信号を当該可動体 3 2 又は当該可動体 3 2 を駆動する駆動回路に供給する。

【0 9 8 5】

ランプ制御基板 9 0 1 4 は、遊技効果ランプ 9 0 9 を駆動する各種回路を搭載しており、当該ランプ信号に基づき遊技効果ランプ 9 0 9 を駆動し、当該ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ 9 0 9 を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部 1 2 3 は、音声出力、ランプの点灯／消灯を制御する。

10

【0 9 8 6】

演出制御基板 1 2、音声制御基板 1 3、ランプ制御基板 9 0 1 4 といった、主基板 1 1 以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機 1 のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1 のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【0 9 8 7】

前述した図 3 と同様の遊技制御メイン処理を実行した CPU 1 0 3 は、CTC からの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、図 1 2 のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図 1 2 に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU 1 0 3 は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路 1 1 0 を介してゲートスイッチ 2 1、第 1 始動口スイッチ 2 2 A、第 2 始動口スイッチ 2 2 B、カウントスイッチ 2 3 といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する（ステップ S 9 0 2 1）。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機 1 の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする（ステップ S 9 0 2 2）。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機 1 の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報（大当たりの発生回数等を示す情報）、始動情報（始動入賞の回数等を示す情報）、確率変動情報（確変状態となった回数等を示す情報）などのデータを出力する（ステップ S 9 0 2 3）。

20

【0 9 8 8】

情報出力処理に続いて、主基板 1 1 の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する（ステップ S 9 0 2 4）。この後、CPU 1 0 3 は、特別図柄プロセス処理を実行する（ステップ S 9 0 2 5）。CPU 1 0 3 がタイマ割込み毎に特別図柄プロセス処理を実行することにより、特図ゲームの実行及び保留の管理や、大当たり遊技状態や小当たり遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される（詳しくは後述）。

30

【0 9 8 9】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される（ステップ S 9 0 2 6）。CPU 1 0 3 がタイマ割込み毎に普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ 2 1 からの検出信号に基づく（通過ゲート 4 1 に遊技球が通過したことに基づく）普図ゲームの実行及び保留の管理や、「普図当り」に基づく可変入賞球装置 6 B の開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普通図柄表示器 2 0 を駆動することにより行われ、普図保留表示器 2 5 C を点灯させることにより普図保留数を表示する。

40

【0 9 9 0】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理等などが行われてもよい。その後、CPU 1 0 3 は、コマンド制御処理を実行する（ステップ S 9 0 2 7）。CPU 1 0 3 は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップ S 9 0 2 7 のコマンド制御処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板 1 2 などのサブ側の制御基板に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後は、割込

50

みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

【0991】

図13は、特別図柄プロセス処理として、図12に示すステップS9025にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、CPU103は、まず、始動入賞判定処理を実行する（ステップS90101）。

【0992】

始動入賞判定処理では、始動入賞の発生を検出し、RAM102の所定領域に保留情報を格納し保留記憶数を更新する処理が実行される。始動入賞が発生すると、表示結果（大当たり種別を含む）や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報として記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読み判定する処理が実行されてもよい。保留情報や保留記憶数を記憶した後は、演出制御基板12に始動入賞の発生、保留記憶数、先読み判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図12に示すステップS9027のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

10

【0993】

S90101にて始動入賞判定処理を実行した後、CPU103は、RAM102に設けられた特図プロセスフラグの値に応じて、ステップS90110～S90120の処理のいずれかを選択して実行する。なお、特別図柄プロセス処理の各処理（ステップS90110～S90120）では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板12に送信するための送信設定が行われる。

20

【0994】

ステップS90110の特別図柄通常処理は、特図プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される。この特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当たり」または「小当たり」とするか否かや「大当たり」とする場合の大当たり種別を、その表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当たり図柄や小当たり図柄、はずれ図柄のいずれか）が設定される。その後、特図プロセスフラグの値が“1”に更新され、特別図柄通常処理は終了する。なお、第2特図を用いた特図ゲームが第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるようにしてもよい（特図2優先消化ともいう）。また、第1始動入賞口及び第2始動入賞口への遊技球の入賞順序を記憶し、入賞順に特図ゲームの開始条件を成立させるようにしてもよい（入賞順消化ともいう）。

30

【0995】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM101に格納されている各種のテーブル（乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル）が参照される。主基板11における他の決定、演出制御基板12における各種の決定についても同じである。演出制御基板12においては、各種のテーブルがROM121に格納されている。

40

【0996】

ステップS90111の変動パターン設定処理は、特図プロセスフラグの値が“1”のときに実行される。この変動パターン設定処理には、表示結果を「大当たり」または「小当たり」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、特図プロセスフラグの値が“2”に更新され、変動パターン設定処理は終了する。

【0997】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図変動時間）（飾り図柄の可変表示の実行

50

時間でもある)や、飾り図柄の可変表示の態様(リーチの有無等)、飾り図柄の可変表示中の演出内容(リーチ演出の種類等)を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

【0998】

ステップS90112の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“2”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいて特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図変動時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“3”に更新され、特別図柄変動処理は終了する。

10

【0999】

ステップS90113の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“3”のときに実行される。この特別図柄停止処理には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにて特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示(導出)させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当たり」である場合には特図プロセスフラグの値が“4”に更新される。その一方で、大当たりフラグがオフであり、表示結果が「小当たり」である場合には、特図プロセスフラグの値が“8”に更新される。また、表示結果が「はずれ」である場合には、特図プロセスフラグの値が“0”に更新される。表示結果が「小当たり」又は「はずれ」である場合、時短状態や確変状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、特別図柄停止処理は終了する。

20

【1000】

ステップS90114の大当たり開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“4”のときに実行される。この大当たり開放前処理には、表示結果が「大当たり」となったことなどに基づき、大当たり遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当たり種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、特図プロセスフラグの値が“5”に更新され、大当たり開放前処理は終了する。

30

【1001】

ステップS90115の大当たり開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“5”のときに実行される。この大当たり開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ23によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、特図プロセスフラグの値が“6”に更新し、大当たり開放中処理を終了する。

【1002】

40

ステップS90116の大当たり開放後処理は、特図プロセスフラグの値が“6”のときに実行される。この大当たり開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当たり遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、特図プロセスフラグの値が“5”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、特図プロセスフラグの値が“7”に更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、大当たり開放後処理は終了する。

【1003】

ステップS90117の大当たり終了処理は、特図プロセスフラグの値が“7”のときに実

50

行される。この大当り終了処理には、大当り遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当り遊技状態の終了に対応して確変制御や時短制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新され、大当り終了処理は終了する。

【1004】

ステップS90118の小当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“ 8 ”のときに実行される。この小当り開放前処理には、表示結果が「小当り」となったことに基づき、小当り遊技状態において大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。このときには、特図プロセスフラグの値が“ 9 ”に更新され、小当り開放前処理は終了する。

10

【1005】

ステップS90119の小当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“ 9 ”のときに実行される。この小当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。大入賞口を閉鎖状態に戻して小当り遊技状態の終了タイミングとなったときには、特図プロセスフラグの値が“ 10 ”に更新され、小当り開放中処理は終了する。

【1006】

ステップS90120の小当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が“ 10 ”のときに実行される。この小当り終了処理には、小当り遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理などが含まれている。ここで、小当り遊技状態が終了するときには、小当り遊技状態となる以前のパチンコ遊技機1における遊技状態を継続させる。小当り遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新され、小当り終了処理は終了する。

20

(特徴部153SGに関する説明)

【1007】

次に、本実施の形態の特徴部153SGにおける遊技機につき、図14-1～図14-31を参照して説明する。

【1008】

まず、図14-1は、本実施の形態の特徴部153SGにおけるパチンコ遊技機1の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。図14-1及び図14-3に示すように、パチンコ遊技機(遊技機)1は、大別して、縦長の方角枠状に形成された外枠153SG001aと、遊技盤面を構成する遊技盤(ゲージ盤)2と、遊技盤2を支持固定する遊技機用枠(台枠)153SG003とから構成されている。遊技盤2には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。また、遊技機用枠153SG003には、ガラス窓を有するガラス扉枠153SG003aが左側辺を中心として遊技機用枠153SG003の前面を開放する扉開放位置と該前面を閉鎖する扉閉鎖位置との間で回動可能に設けられ、該ガラス扉枠153SG003aにより遊技領域を開閉できるようになっており、ガラス扉枠153SG003aを閉鎖したときにガラス窓を通して遊技領域を透視できるようになっている。

30

40

【1009】

また、遊技機用枠153SG003は、遊技場の店員等が所有する扉キーを図示しない錠前に挿入して解錠することで開放可能となり、店員以外の遊技者等は遊技機用枠153SG003及びガラス扉枠153SG003aを開放することはできないようになっている。

【1010】

左遊技領域153SG002Lは、打球操作ハンドル30の操作によって比較的弱く打ち出された(左打ち)遊技球が流下する遊技領域であり、右遊技領域153SG002Rは、打球操作ハンドル30の操作によって左遊技領域153SG002Lを流下する遊技

50

球よりも強く打ち出された（右打ち）遊技球が、画像表示装置 5 の上方経路 1 5 3 S G 0 0 2 C を通過して流下する遊技領域である。

【1 0 1 1】

また、左遊技領域 1 5 3 S G 0 0 2 L には、一般入賞口 1 0 が配置されており、右遊技領域 1 5 3 S G 0 0 2 R には、該右遊技領域 1 5 3 S G 0 0 2 R の上流方から下流側にかけて、通過ゲート 4 1、可変入賞球装置 6 B、一般入賞口 1 0、特別可変入賞球装置 7 が配置されている。つまり、左遊技領域 1 5 3 S G 0 0 2 L を流下する遊技球は、一般入賞口 1 0 と入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口に入賞可能となっており、右遊技領域 1 5 3 S G 0 0 2 R を流下する遊技球は、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口、一般入賞口 1 0 及び特別可変入賞球装置 7 が形成する大入賞口に入賞可能となっているとともに、通過ゲート 4 1 を通過可能となっている。

10

【1 0 1 2】

図 1 4 - 1 に示すように、入賞球装置 6 A と可変入賞球装置 6 B 及び特別可変入賞球装置 7 の間には、複数の障害釘 1 5 3 S G K 1 が配設されている。このため、左遊技領域 1 5 3 S G 0 0 2 L を流下する遊技球は、第 2 始動入賞口や大入賞口に入賞不能であるとともに、右遊技領域 1 5 3 S G 0 0 2 R を流下する遊技球は、第 1 始動入賞口に入賞不能となっている。

【1 0 1 3】

また、画像表示装置 5 の表示領域の下部の左右 2 箇所には、第 1 保留記憶表示エリア 1 5 3 S G 0 0 5 D、第 2 保留記憶表示エリア 1 5 3 S G 0 0 5 U が設定されている。第 1 保留記憶表示エリア 1 5 3 S G 0 0 5 D、第 2 保留記憶表示エリア 1 5 3 S G 0 0 5 U では、特図ゲームに対応した変動表示の保留記憶数（特図保留記憶数）を特定可能に表示する保留記憶表示が行われる。

20

【1 0 1 4】

図 1 4 - 2 及び図 1 4 - 3 に示すように、本実施の形態の特徴部 1 5 3 S G における主基板 1 1 は、第 1 部材と第 2 部材とにより開放可能に構成された基板ケース 1 5 3 S G 2 0 1 に収納された状態でパチンコ遊技機 1 の背面に搭載されている。また、主基板 1 1 には、パチンコ遊技機 1 の設定値を変更可能な設定値変更状態に切り替えるための錠スイッチ 1 5 3 S G 0 5 1 と、設定値変更状態において後述する大当りの当選確率（出玉率）等の設定値を変更するための設定スイッチとして機能する設定切替スイッチ 1 5 3 S G 0 5 2 と、遊技機用枠 1 5 3 S G 0 0 3 の開放を検知する開放センサ 1 5 3 S G 0 9 0 と、が設けられている。尚、詳細は後述するが、本実施の形態の特徴部 1 5 3 S G における設定値変更状態は、遊技場の店員等がパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値を確認可能な状態（設定値確認状態）でもある。

30

【1 0 1 5】

これら錠スイッチ 1 5 3 S G 0 5 1 及び設定切替スイッチ 1 5 3 S G 0 5 2 といった遊技者が操作可能な操作部が設けられた設定切替本体部は、主基板 1 1 とともに基板ケース 1 5 3 S G 2 0 1 内に收容されており、錠スイッチ 1 5 3 S G 0 5 1 及び設定切替スイッチ 1 5 3 S G 0 5 2 は、基板ケース 1 5 3 S G 2 0 1 を開放しなくても操作可能となるように基板ケース 1 5 3 S G 2 0 1 の背面に形成された開口を介して背面側に露出している。

40

【1 0 1 6】

錠スイッチ 1 5 3 S G 0 5 1 及び設定切替スイッチ 1 5 3 S G 0 5 2 を有する基板ケース 1 5 3 S G 2 0 1 は、パチンコ遊技機 1 の背面に設けられているため、遊技機用枠 1 5 3 S G 0 0 3 を閉鎖した状態では操作が極めて困難であり、所定の扉キーを用いて遊技機用枠 1 5 3 S G 0 0 3 を開放することで操作が可能となる。また、錠スイッチ 1 5 3 S G 0 5 1 は、遊技場の店員等が所有する設定キーの操作を要することから、設定キーを所持する店員のみ操作が可能とされている。また、錠スイッチ 1 5 3 S G 0 5 1 は、設定キーによって、後述する ON と OFF の切替操作を実行可能なスイッチでもある。尚、本実施の形態の特徴部 1 5 3 S G では、扉キーと設定キーとが別個のキーである形態を例示しているが、これらは 1 のキーにて兼用されていてもよい。

50

【1017】

また、基板ケース153SG201には、設定値や後述するベース値を表示可能な表示モニタ153SG029が配置されている。該表示モニタ153SG029は、主基板11に接続されているとともに、基板ケース153SG201の上部に配置されている。つまり、表示モニタ153SG029は、基板ケース153SG201における主基板11を視認する際の正面に配置されている。主基板11は、遊技機用枠153SG003を開放していない状態では視認できないので、主基板11を視認する際の正面とは、遊技機用枠153SG003を開放した状態における遊技盤2の裏面側を視認する際の正面であり、パチンコ遊技機1の正面とは異なる。ただし、主基板11を視認する際の正面とパチンコ遊技機1の正面とが共通するようにしてもよい。

10

【1018】

また、図14-1及び図14-2に示すように、本実施の形態の特徴部153SGにおけるパチンコ遊技機1の遊技盤2の所定位置（例えば、遊技領域の左下方位置）には、第1特図の可変表示を実行可能な第1特別図柄表示装置153SG004A、第2特図の可変表示を実行可能な第2特別図柄表示装置153SG004B、第1保留記憶数を表示可能な第1保留表示器153SG025A、第2保留記憶数を表示可能な第2保留表示器153SG025B、普通図柄の可変表示を実行可能な普通図柄表示器153SG020、普図保留記憶数を表示可能な普図保留表示器153SG025C、大当り遊技中に当該大当り遊技のラウンド数（大当り種別）を表示可能なラウンド表示器153SG131、高ベース状態（時短状態）や大当り遊技状態等の遊技球を右遊技領域153SG002Rに向けて打ち出す遊技状態において点灯する右打ちランプ153SG132、確変状態であるとき点灯する確変ランプ153SG133、高ベース状態（時短状態）において点灯する時短ランプ153SG134が纏めて配置されている遊技情報表示部153SG200が設けられている。

20

【1019】

第1特別図柄表示装置153SG004Aと第2特別図柄表示装置153SG004Bとは、それぞれ8セグメントのLEDから構成されている。また、第1特別図柄表示装置153SG004Aと第2特別図柄表示装置153SG004Bとでは、特別図柄の可変表示結果がはずれや小当りである場合は、共通の組み合わせで該可変表示結果を導出表示可能となっている。

30

【1020】

第1特別図柄の可変表示において該可変表示結果が大当りとなる場合について、第1特別図柄表示装置153SG004Aは、大当り種別毎に2種類の大当り図柄（点灯するLEDの組合せ）にて可変表示結果と導出表示可能となっている。また、第2特別図柄の可変表示において該可変表示結果が大当りとなる場合について、第2特別図柄表示装置153SG004Bは、大当り種別毎に2種類の大当り図柄（点灯するLEDの組合せ）にて可変表示結果と導出表示可能となっている。

【1021】

尚、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、第1特別図柄表示装置153SG004Aと第2特別図柄表示装置153SG004Bとで導出表示可能な大当り図柄は全て異なっているが、第1特別図柄表示装置153SG004Aで導出表示可能な大当り図柄と第2特別図柄表示装置153SG004Bで導出表示可能な大当り図柄は少なくとも一部が重複していてもよい。

40

【1022】

第1保留表示器153SG025Aと第2保留表示器153SG025Bとは、それぞれ4セグメントのLEDが左右方向に並列して配置されている。これら第1保留表示器153SG025Aと第2保留表示器153SG025Bとでは、保留記憶数が1個であれば左端部のLEDのみが点灯し、保留記憶数が増加していく毎に左から2番目、左から3番目、左から4番目のLEDが順次点灯する。そして、可変表示が実行される毎に、保留記憶が減少する（消費される）ことに応じて、該可変表示に対応する保留表示器でのLE

50

Dが所定のシフト方向（本実施の形態の特徴部153SGでは左方向）に向けて消灯していく。

【1023】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、第1特図保留記憶と第2特図保留記憶とが両方存在する場合は、第2特図保留記憶にもとづく可変表示が優先して実行される様になっている。このため例えば第1特図保留記憶が1個存在するとともに第2特図保留記憶が2個存在する場合（第1保留表示器153SG025Aの左端部のLEDのみが点灯しているとともに、第2保留表示器153SG25Bの左2個のLEDが点灯している場合）は、第2特図保留記憶にもとづく可変表示の実行によって第2特図保留記憶が0個となった後に、第1特図保留記憶にもとづく可変表示が実行される。

10

【1024】

また、ラウンド表示器153SG131は5個のセグメント（LED）から構成されている。尚、本実施の形態の特徴部153SGにおける大当たり種別としては、5ラウンド大当たりである大当たりA、10ラウンド大当たりである大当たりB、15ラウンド大当たりである大当たりCの計3個の大当たり種別が設けられており、これら大当たり種別に応じてラウンド表示器153SG131を構成するセグメントのうちいずれのセグメントが点灯するかが異なっている。

【1025】

主基板11から演出制御基板12に向けて伝送される制御信号は、中継基板15によって中継される。中継基板15を介して主基板11から演出制御基板12に対して伝送される制御コマンドは、例えば電気信号として送受信される演出制御コマンドである。演出制御コマンドには、例えば画像表示装置5における画像表示動作を制御するために用いられる表示制御コマンドや、スピーカ8L、8Rからの音声出力を制御するために用いられる音声制御コマンド、遊技効果ランプ9や装飾用LEDの点灯動作などを制御するために用いられるLED制御コマンドが含まれている。

20

【1026】

尚、本実施の形態の特徴部153SGにおける演出制御基板12には、可変表示中等にそれぞれの原点位置と演出位置との間で動作可能な第1可動体153SG321及び第2可動体153SG322と、第1可動体153SG321が該第1可動体153SG321の原点位置に位置していることを検出可能な原点検出センサ153SG331と、第2可動体153SG322が該第2可動体153SG322の原点位置に位置していることを検出可能な原点検出センサ153SG332と、が接続されている。

30

【1027】

図14-4（A）は、本実施の形態における特徴部153SGで用いられる演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。演出制御コマンドは、例えば2バイト構成であり、1バイト目はMODE（コマンドの分類）を示し、2バイト目はEXT（コマンドの種類）を表す。MODEデータの先頭ビット（ビット7）は必ず「1」とされ、EXTデータの先頭ビットは「0」とされる。尚、図14-4（A）に示されたコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。また、この例では、制御コマンドが2つの制御信号で構成されることになるが、制御コマンドを構成する制御信号数は、1であってもよいし、3以上の複数であってもよい。

40

【1028】

図14-4（A）に示す例において、コマンド8001Hは、第1特別図柄表示装置153SG004Aにおける第1特図を用いた特図ゲームにおける可変表示の開始を指定する第1可変表示開始コマンドである。コマンド8002Hは、第2特別図柄表示装置153SG004Bにおける第2特図を用いた特図ゲームにおける可変表示の開始を指定する第2可変表示開始コマンドである。コマンド81XXHは、特図ゲームにおける特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置5における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rで可変表示される飾り図柄などの変動パターン（変動時間）を指定する変動パターン指定コマンドである。ここで、XXHは不特定の16進数であること

50

を示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよい。尚、変動パターン指定コマンドでは、指定する変動パターンなどに応じて、異なるEXTデータが設定される。

【1029】

コマンド8CXXHは、可変表示結果通知コマンドであり、特別図柄や飾り図柄などの可変表示結果を指定する演出制御コマンドである。可変表示結果通知コマンドでは、例えば図14-4(B)に示すように、可変表示結果が「はずれ」であるか「大当り」であるか「小当り」であるかの決定結果（事前決定結果）や、可変表示結果が「大当り」となる場合の大当り種別を複数種類のいずれとするかの決定結果（大当り種別決定結果）に応じて、異なるEXTデータが設定される。

10

【1030】

可変表示結果通知コマンドでは、例えば図14-4(B)に示すように、コマンド8C00Hは、可変表示結果が「はずれ」となる旨の事前決定結果を示す第1可変表示結果指定コマンドである。コマンド8C01Hは、可変表示結果が「大当り」で大当り種別が「大当りA」となる旨の事前決定結果及び大当り種別決定結果を通知する第2可変表示結果指定コマンドである。コマンド8C02Hは、可変表示結果が「大当り」で大当り種別が「大当りB」となる旨の事前決定結果及び大当り種別決定結果を通知する第3可変表示結果指定コマンドである。コマンド8C03Hは、可変表示結果が「大当り」で大当り種別が「大当りC」となる旨の事前決定結果及び大当り種別決定結果を通知する第4可変表示結果指定コマンドである。コマンド8C04Hは、可変表示結果が「小当り」となる旨の事前決定結果を通知する第5可変表示結果指定コマンドである。

20

【1031】

コマンド8F00Hは、画像表示装置5における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L, 5C, 5Rで飾り図柄の変動停止（確定）を指定する図柄確定コマンドである。コマンド95XXHは、パチンコ遊技機1における現在の遊技状態を指定する遊技状態指定コマンドである。遊技状態指定コマンドでは、例えばパチンコ遊技機1における現在の遊技状態に応じて、異なるEXTデータが設定される。具体的な一例として、コマンド9500Hを時短制御が行われない遊技状態（低ベース状態、通常状態）に対応した第1遊技状態指定コマンドとし、コマンド9501Hを時短制御が行われる遊技状態（高ベース状態、時短状態）に対応した第2遊技状態指定コマンドとする。

30

【1032】

コマンド96XXHは、パチンコ遊技機1においてエラー（異常）の発生および発生したエラー（異常）の種別を指定するエラー（異常）指定コマンドである。エラー（異常）指定コマンドでは、例えば、各エラー（異常）に対応するEXTデータが設定されることにより、演出制御基板12側において、いずれのエラー（異常）の発生が判定されたのかを特定することができ、特定したエラー（異常）の発生が、後述するエラー報知処理によって報知される。

【1033】

コマンドA0XXHは、大当り遊技状態または小当り遊技状態の開始を示す演出画像の表示を指定する当り開始指定コマンド（「ファンファーレコマンド」ともいう）である。コマンドA1XXHは、大当り遊技状態または小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態となっている期間であることを通知する大入賞口開放中通知コマンドである。コマンドA2XXHは、大当り遊技状態または小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態から閉鎖状態に変化した期間であることを通知する大入賞口開放後通知コマンドである。コマンドA3XXHは、大当り遊技状態または小当り遊技状態の終了時における演出画像の表示を指定する当り終了指定コマンドである。

40

【1034】

当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、例えば可変表示結果通知コマンドと同様のEXTデータが設定されることなどにより、事前決定結果や大当り種別決定結果に応じて異なるEXTデータが設定されてもよい。あるいは、当り開始指定コマンドや当

50

り終了指定コマンドでは、事前決定結果及び大当り種別決定結果と設定されるE X Tデータとの対応関係を、可変表示結果通知コマンドにおける対応関係とは異ならせるようにしてもよい。大入賞口開放中通知コマンドや大入賞口開放後通知コマンドでは、大当り遊技状態または小当り遊技状態におけるラウンドの実行回数（例えば「1」～「15」）に対応して、異なるE X Tデータが設定される。

【1035】

コマンドB100Hは、入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第1始動口スイッチ22Aにより検出されて始動入賞（第1始動入賞）が発生したことに基づき、第1特別図柄表示装置153SG004Aにおける第1特図を用いた特図ゲームを実行するための第1始動条件が成立したことを通知する第1始動口入賞指定コマンドである。コマンドB200Hは、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第2始動口スイッチ22Bにより検出されて始動入賞（第2始動入賞）が発生したことに基づき、第2特別図柄表示装置153SG004Bにおける第2特図を用いた特図ゲームを実行するための第2始動条件が成立したことを通知する第2始動口入賞指定コマンドである。

【1036】

コマンドC1XXHは、画像表示装置5などにて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第1特図保留記憶数を通知する第1保留記憶数通知コマンドである。コマンドC2XXHは、画像表示装置5などにて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第2特図保留記憶数を通知する第2保留記憶数通知コマンドである。第1保留記憶数通知コマンドは、例えば第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第1始動条件が成立したことに基づいて、第1始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板11から演出制御基板12に対して送信される。第2保留記憶数通知コマンドは、例えば第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第2始動条件が成立したことに基づいて、第2始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板11から演出制御基板12に対して送信される。また、第1保留記憶数通知コマンドや第2保留記憶数通知コマンドは、第1開始条件と第2開始条件のいずれかが成立したとき（保留記憶数が減少したとき）に、特図ゲームの実行が開始されることなどに対応して送信されるようにしてもよい。

【1037】

第1保留記憶数通知コマンドや第2保留記憶数通知コマンドに代えて、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信するようにしてもよい。すなわち、合計保留記憶数の増加（または減少）を通知するための合計保留記憶数通知コマンドが用いられてもよい。

【1038】

コマンドC4XXH及びコマンドC6XXHは、入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンド（入賞時判定結果指定コマンド）である。このうち、コマンドC4XXHは、入賞時判定結果として、変動表示結果が「大当り」となるか否か及び大当り種別（確変や非確変等）の判定結果を示す図柄指定コマンドである。また、コマンドC6XXHは、入賞時判定結果として、変動パターン判定用の乱数値MR3が、「非リーチ」、「スーパリーチ」、「その他」のいずれの変動パターンとなるかの判定結果を示す変動カテゴリコマンドである。

【1039】

コマンドD0XXHは、新たに設定された設定値を主基板11から演出制御基板12（演出制御用CPU120）に指定するための設定値指定コマンドである。コマンドE101Hは、パチンコ遊技機1がRAM102の内容をクリアせずに起動したこと（電断復旧したこと、ホットスタートとも言う）を通知するホットスタート通知コマンドである。コマンドE102Hは、パチンコ遊技機1がRAM102の内容をクリアして起動したこと（コールドスタート）を通知するコールドスタート通知コマンドである。

【1040】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップの

10

20

30

40

50

マイクロコンピュータであり、遊技制御用のプログラムや固定データ等を記憶するROM (Read Only Memory) 101と、遊技制御用のワークエリアを提供するRAM (Random Access Memory) 102と、遊技制御用のプログラムを実行して制御動作を行うCPU (Central Processing Unit) 103と、CPU 103とは独立して乱数値を示す数値データの更新を行う乱数回路104と、I/O (Input/Output port) 105と、時刻情報を出力可能なリアルタイムクロック (RTC) 106とを備えて構成される。

【1041】

一例として、遊技制御用マイクロコンピュータ100では、CPU 103がROM 101から読み出したプログラムを実行することにより、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するための処理が実行される。このときには、CPU 103がROM 101から固定データを読み出す固定データ読出動作や、CPU 103がRAM 102に各種の変動データを書き込んで一時記憶させる変動データ書込動作、CPU 103がRAM 102に一時記憶されている各種の変動データを読み出す変動データ読出動作、CPU 103がI/O 105を介して遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部から各種信号の入力を受け付ける受信動作、CPU 103がI/O 105を介して遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部へと各種信号を出力する送信動作なども行われる。

【1042】

図14-5は、主基板11の側においてカウントされる乱数値を例示する説明図である。図14-5に示すように、この実施の形態の特徴部153SGでは、主基板11の側において、特図表示結果判定用の乱数値MR1の他、大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3、普図表示結果判定用の乱数値MR4、MR4の初期値決定用の乱数値MR5のそれぞれを示す数値データが、カウント可能に制御される。尚、遊技効果を高めるために、これら以外の乱数値が用いられてもよい。これらの乱数値MR1~MR5は、CPU 103にて、異なるランダムカウンタを用いて、ソフトウェアによる更新によってカウントするようにしてもよいし、乱数回路104によって更新されてもよい。乱数回路104は、遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されるものであってもよいし、遊技制御用マイクロコンピュータ100とは異なる乱数回路チップとして構成されるものであってもよい。こうした遊技の進行を制御するために用いられる乱数は、遊技用乱数ともいう。

【1043】

尚、本実施の形態では各乱数値MR1~MR5をそれぞれ図14-5に示す範囲の値として用いる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これら各乱数値MR1~MR5の範囲は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異ならせてもよい。

【1044】

図14-6は、本実施の形態における変動パターンを示している。本実施の形態では、可変表示結果が「はずれ」となる場合のうち、飾り図柄の可変表示態様が「非リーチ」である場合と「リーチ」である場合のそれぞれに対応して、また、可変表示結果が「大当たり」となる場合などに対応して、複数の変動パターンが予め用意されている。また、可変表示結果が「小当たり」となる場合などに対応して、1の変動パターンが予め用意されている。尚、可変表示結果が「はずれ」で飾り図柄の可変表示態様が「非リーチ」である場合に対応した変動パターンは、非リーチ変動パターン（「非リーチはずれ変動パターン」ともいう）と称され、可変表示結果が「はずれ」で飾り図柄の可変表示態様が「リーチ」である場合に対応した変動パターンは、リーチ変動パターン（「リーチはずれ変動パターン」ともいう）と称される。また、非リーチ変動パターンとリーチ変動パターンは、可変表示結果が「はずれ」となる場合に対応したはずれ変動パターンに含まれる。可変表示結果が「大当たり」である場合に対応した変動パターンは、大当たり変動パターンと称される。可変表示結果が「小当たり」である場合に対応した変動パターンは、小当たり変動パターンと称される。

【1045】

大当たり変動パターンやリーチ変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチ α 、スーパーリーチ β といったスーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンとがある。尚、本実施の形態では、ノーマルリーチ変動パターンを1種類のみしか設けていないが、本発明はこれに限定されるものではなく、スーパーリーチと同様に、ノーマルリーチ α 、ノーマルリーチ β 、…のように、複数のノーマルリーチ変動パターンを設けてもよい。また、スーパーリーチ変動パターンでも、スーパーリーチ α やスーパーリーチ β に加えてスーパーリーチ γ …といった3以上のスーパーリーチ変動パターンを設けてもよい。

【1046】

図14-6に示すように、本実施の形態の特徴部153SGにおけるノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンの特図変動時間については、スーパーリーチ変動パターンであるスーパーリーチ α 、スーパーリーチ β よりも短く設定されている。また、本実施の形態におけるスーパーリーチ α 、スーパーリーチ β といったスーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンの特図変動時間については、スーパーリーチ β のスーパーリーチ演出が実行される変動パターンの方が、スーパーリーチ α のスーパーリーチ演出が実行される変動パターンよりも特図変動時間が長く設定されている。

【1047】

尚、本実施の形態では、前述したようにスーパーリーチ β 、スーパーリーチ α 、ノーマルリーチの順に可変表示結果が「大当たり」となる大当たり期待度が高くなるように設定されているため、ノーマルリーチ変動パターン及びスーパーリーチ変動パターンにおいては変動時間が長いほど大当たり期待度が高くなっている。

【1048】

尚、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、後述するように、これら変動パターンを、例えば、非リーチの種別や、ノーマルリーチの種別や、スーパーリーチの種別等のように、変動パターンの種別を先に決定してから、該決定した種別に属する変動パターンに属する変動パターンから実行する変動パターンを決定するのではなく、これらの種別を決定することなしに変動パターン判定用の乱数値MR3のみを用いて決定するようにしているが、本発明はこれに限定されるものではなく、たとえば、変動パターン判定用の乱数値MR3に加えて、変動パターン種別判定用の乱数値を設けて、これら変動パターン種別判定用の乱数値から変動パターンの種別を先に決定してから、該決定した種別に属する変動パターンに属する変動パターンから実行する変動パターンを決定するようにしてもよい。

【1049】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-6に示すように、変動パターン毎に変動内容（演出内容）が予め決定されている形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、設定されている設定値に応じて同じ変動パターンであっても変動内容（演出内容）が異なるようにしてもよい。例えば、ノーマルリーチはずれの変動パターンPA2-1の場合は、設定されている設定値が1の場合は、ノーマルリーチはずれとなる変動パターンとし、設定されている設定値が2の場合は、擬似連演出を2回実行して非リーチはずれとなる変動パターンとして、設定されている設定値が3の場合は、擬似連演出を3回実行してスーパーリーチはずれとなる変動パターン…等とすればよい。

【1050】

遊技制御用マイクロコンピュータ100では、CPU103がROM101から読み出したプログラムを実行し、RAM102をワークエリアとして用いることで、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するための各種の処理が実行される。また、CPU103は、乱数生成プログラムを実行することで、主基板11の側において用いられる各種の乱数の全てを生成可能とされている。

【1051】

遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるROM101には、ゲーム制御用のプログラムの他にも、遊技の進行を制御するために用いられる各種のテーブルデータなどが

10

20

30

40

50

記憶されている。例えば、ROM 101には、CPU 103が各種の判定や決定を行うために用意された、図14-7～図14-11などに示す複数の判定テーブルを構成するテーブルデータが記憶されている。また、ROM 101には、CPU 103が主基板11から各種の制御信号を出力させるために用いられる複数の制御パターンテーブルを構成するテーブルデータや、特別図柄や普通図柄などの可変表示における各図柄の変動態様となる変動パターンを複数種類格納する変動パターンテーブルなどが記憶されている。

【1052】

ROM 101が記憶する判定テーブルには、例えば図14-7(A)に示す第1特図用表示結果判定テーブル、図14-7(B)に示す第2特図用表示結果判定テーブル、図14-8(A)に示す大当たり種別判定テーブル(第1特別図柄用)、図14-8(B)に示す大当たり種別判定テーブル(第2特別図柄用)の他、大当たり変動パターン判定テーブル、小当たり変動パターン判定テーブル、はずれ変動パターン判定テーブル、普図表示結果判定テーブル(図示略)、普図変動パターン決定テーブル(図示略)などが含まれている。

【1053】

本実施の形態の特徴部153SGのパチンコ遊技機1は、設定値に応じて大当たりの当選確率(出玉率)が変わる構成とされている。詳しくは、後述する特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブル(当選確率)を用いることにより、大当たりの当選確率(出玉率)が変わるようになっている。設定値は1～6の6段階からなり、6が最も出玉率が高く、6、5、4、3、2、1の順に値が小さくなるほど出玉率が低くなる。すなわち、設定値として6が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高く、5、4、3、2、1の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。換言すれば、設定値とは、最も大きい値である6が最も遊技場側にとって不利な値であり、5、4、3、2、1の順に値が小さくなるほど遊技場側にとって有利な値となる。

【1054】

図14-7(A)及び図14-7(B)は、表示結果判定テーブルを示す説明図である。表示結果判定テーブルとは、ROM 101に記憶されているデータの集まりであって、MR 1と比較される当り判定値が設定値毎に設定されているテーブルである。本実施の形態の特徴部153SGでは、表示結果判定テーブルとして、第1特図と第2特図とで個別の表示結果判定テーブルを用いているが、本発明はこれに限定されるものではなく、第1特図と第2特図とで共通の表示結果判定テーブルを用いるようにしても良い。

【1055】

図14-7(A)に示すように、設定値が1であり変動特図が第1特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR 1と比較される当り判定値のうち、1020～1237までが「大当たり」に割り当てられており、32767～33094までが「小当たり」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1346までが「大当たり」に割り当てられており、32767～33094までが「小当たり」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1056】

図14-7(B)に示すように、設定値が1であり変動特図が第2特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR 1と比較される当り判定値のうち、1020～1237までが「大当たり」に割り当てられており、32767～33421までが「小当たり」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1346までが「大当たり」に割り当てられており、32767～33421までが「小当たり」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1057】

図14-7(A)に示すように、設定値が2であり変動特図が第1特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1253までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1383までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1058】

図14-7(B)に示すように、設定値が2であり変動特図が第2特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1253までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1383までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1059】

図14-7(A)に示すように、設定値が3であり変動特図が第1特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1272までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1429までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1060】

図14-7(B)に示すように、設定値が3であり変動特図が第2特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1272までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1429までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1061】

図14-7(A)に示すように、設定値が4であり変動特図が第1特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1292までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1487までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1062】

図14-7(B)に示すように、設定値が4であり変動特図が第2特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1292までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられ

10

20

30

40

50

ている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1487までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1063】

図14-7(A)に示すように、設定値が5であり変動特図が第1特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1317までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1556までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1064】

図14-7(B)に示すように、設定値が5であり変動特図が第2特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1317までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1556までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1065】

図14-7(A)に示すように、設定値が6であり変動特図が第1特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1346までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1674までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1066】

図14-7(B)に示すように、設定値が6であり変動特図が第2特図である場合においては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1346までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。また、遊技状態が確変状態である場合は、前述の当り判定値のうち、1020～1674までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1067】

以上のように、各表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態または時短状態（低確状態）であるときよりも多くの判定値が、「大当り」の特図表示結果に割り当てられている。これにより、パチンコ遊技機1において確変制御が行われる確変状態（高確状態）では、通常状態または時短状態（低確状態）であるときに特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率（本実施の形態の特徴部153SGでは、設定値が1の場合は1/300、設定値が2の場合は1/280、設定値が3の場合は1/260、設定値が4の場合は1/240、設定値が5の場合は1/220、設定値が6の場合は1/200）に比べて、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなる（本実施の形態の特徴部153SGでは、設定値が1の場合は1/200、設定値が2の場合は1/

10

20

30

40

50

180、設定値が3の場合は1/160、設定値が4の場合は1/140、設定値が5の場合は1/120、設定値が6の場合は1/100)。即ち、各表示結果判定テーブルでは、パチンコ遊技機1における遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態や時短状態であるときに比べて大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなるように、判定値が大当り遊技状態に制御するか否かの決定結果に割り当てられている。

【1068】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-7に示すように、各設定値に応じて通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率がそれぞれ異なる（例えば、設定値1であれば通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は1.5倍であり、設定値2であれば通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は約1.56倍であり、設定値3であれば通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は1.625倍である）ように設定されている形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、各設定値での通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は全て一定（例えば、5倍）に設定してもよい。

【1069】

また、各第1特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態や設定値にかかわらず、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が同一値となるように判定値が割り当てられている。具体的には、図14-7（A）に示すように、第1特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態や設定値にかかわらず、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が1/200に設定されている。

【1070】

一方で、各第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態や設定値にかかわらず、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が第1特図用表示結果判定テーブルとは異なる同一値となるように判定値が割り当てられている。具体的には、図14-7（B）に示すように、第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態や設定値にかかわらず、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が1/100に設定されている。

【1071】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、設定値にかかわらず特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が同一確率である形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、設定値に応じて特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率を異ならせてもよい。更に、本実施の形態の特徴部153SGでは、変動特図に応じて特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が異なる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、変動特図にかかわらず特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率を同一確率としてもよい。

【1072】

ここで、各表示結果判定テーブルにおいて「大当り」や「小当り」に割り当てられている当り判定値の数値範囲に着目すると、遊技状態が通常状態または時短状態の場合における第1特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち1020～1237までの範囲が、設定値にかかわらず大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲に設定されている。

【1073】

尚、設定値が1の場合は、大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲のみが設定されている（1020～1237までが「大当り」に割り当てられている）一方で、設定値2～設定値6の場合は、該大当り判定値の共通数値範囲から連続するように、1238から各設定値に応じた数値範囲が大当り判定値の非共通数値範囲に設定されている。

この大当たり判定値の非共通数値範囲は、設定値 2 では 1 2 3 8 ～ 1 2 5 3 の範囲、設定値 3 では 1 2 3 8 ～ 1 2 7 2 の範囲、設定値 4 では 1 2 3 8 ～ 1 2 9 2 の範囲、設定値 5 では 1 2 3 8 ～ 1 3 1 7 の範囲、設定値 6 では 1 2 3 8 ～ 1 3 4 6 の範囲にそれぞれ設定されている。

【1074】

つまり、本実施の形態の特徴部 1 5 3 S G では、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、設定値が 1 の場合は 0 ～ 6 5 5 3 5 の範囲で値を取り得る当り判定値のうち、共通数値範囲（1 0 2 0 ～ 1 2 3 7）内の数値のみが「大当たり」に割り当てられている一方で、設定値が 2 以上である場合は、大当たり判定値のうち、共通数値範囲に非共通数値範囲を加えた範囲内の数値が「大当たり」に割り当てられている。更に、非共通数値範囲は、設定値の値が大きくなるに連れて 1 2 3 8 を基準として増加していく。

10

【1075】

このため、大当たり確率は、1 0 2 0 を大当たり判定値の基準値（大当たり基準値）として、設定値が大きくなるに連れて共通数値範囲に連続する非共通数値範囲が増加していくことによって高くなっていく。

【1076】

尚、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち 3 2 7 6 7 ～ 3 3 0 9 4 までの範囲が、設定値にかかわらず小当りを判定するための小当り判定値の共通数値範囲に設定されている。ここで設定値が 6 の場合に注目すると、該設定値が 6 の場合は、前述したように当り判定値のうち 1 0 2 0 ～ 1 3 4 6 までは大当たり判定値の数値範囲に設定されている一方で、小当り判定値は、前記設定値 6 の場合の大当たり判定値の範囲（1 0 2 0 ～ 1 3 4 6）とは異なる数値範囲において、3 2 7 6 7 を小当り判定値の基準値（小当り基準値）として、3 2 7 6 7 ～ 3 3 0 9 4 の範囲に設定されているので、小当り判定値の数値範囲が各設定値に応じて変化する大当たり判定値の範囲に重複することが防止されている。

20

【1077】

次に、遊技状態が確変状態の場合における第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち 1 0 2 0 ～ 1 3 4 6 までの範囲が、設定値にかかわらず大当りを判定するための大当たり判定値の共通数値範囲に設定されている。

30

【1078】

尚、設定値が 1 の場合は、大当りを判定するための大当たり判定値の共通数値範囲のみが設定されている（1 0 2 0 ～ 1 3 4 6 までは「大当たり」に割り当てられている）一方で、設定値 2 ～ 設定値 6 の場合は、該大当たり判定値の共通数値範囲から連続するように、1 3 4 7 から各設定値に応じた数値範囲が大当たり判定値の非共通数値範囲に設定されている。この大当たり判定値の非共通数値範囲は、設定値 2 では 1 3 4 7 ～ 1 3 8 3 の範囲、設定値 3 では 1 3 4 7 ～ 1 4 2 9 の範囲、設定値 4 では 1 3 4 7 ～ 1 4 8 7 の範囲、設定値 5 では 1 3 4 7 ～ 1 5 5 6 の範囲、設定値 6 では 1 3 4 7 ～ 1 6 7 4 の範囲にそれぞれ設定されている。

【1079】

40

つまり、本実施の形態の特徴部 1 5 3 S G では、遊技状態が確変状態である場合における第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、設定値が 1 の場合は 0 ～ 6 5 5 3 5 の範囲で値を取り得る当り判定値のうち、共通数値範囲（1 0 2 0 ～ 1 3 4 6）内の数値のみが「大当たり」に割り当てられている一方で、設定値が 2 以上である場合は、大当たり判定値のうち、共通数値範囲に非共通数値範囲を加えた範囲内の数値が「大当たり」に割り当てられている。更に、非共通数値範囲は、設定値の値が大きくなるに連れて 1 3 4 7 を基準として増加していく。

【1080】

このため、大当たり確率は、1 0 2 0 を大当たり判定値の基準値（大当たり基準値）として、設定値が大きくなるに連れて共通数値範囲に連続する非共通数値範囲が増加していくこと

50

によって高くなっていく。

【1081】

尚、遊技状態が確変状態である場合における第1特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第1特図用表示結果判定テーブルと同じく、当り判定値のうち32767～33094までの範囲が、設定値にかかわらず小当りを判定するための小当り判定値の共通数値範囲に設定されている。ここで設定値が6の場合に注目すると、該設定値が6の場合は、前述したように当り判定値のうち1020～1674までが大当り判定値の数値範囲に設定されている一方で、小当り判定値は、前記設定値6の場合の大当り判定値の範囲（1020～1674）とは異なる数値範囲において、32767を小当り判定値の基準値（小当り基準値）として、32767～33094の範囲に設定されているので、小当り判定値の数値範囲が各設定値に応じて変化する大当り判定値の範囲に重複することが防止されている。

10

【1082】

遊技状態が通常状態または時短状態の場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち1020～1237までの範囲が、設定値にかかわらず大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲に設定されている。

【1083】

尚、設定値が1の場合は、大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲のみが設定されている（1020～1237までが「大当り」に割り当てられている）一方で、設定値2～設定値6の場合は、該大当り判定値の共通数値範囲から連続するように、1238から各設定値に応じた数値範囲が大当り判定値の非共通数値範囲に設定されている。この大当り判定値の非共通数値範囲は、設定値2では1238～1253の範囲、設定値3では1238～1272の範囲、設定値4では1238～1292の範囲、設定値5では1238～1317の範囲、設定値6では1238～1346の範囲にそれぞれ設定されている。

20

【1084】

つまり、本実施の形態の特徴部153SGでは、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、設定値が1の場合は0～65535の範囲で値を取り得る当り判定値のうち、共通数値範囲（1020～1237）内の数値のみが「大当り」に割り当てられている一方で、設定値が2以上である場合は、大当り判定値のうち、共通数値範囲に非共通数値範囲を加えた範囲内の数値が「大当り」に割り当てられている。更に、非共通数値範囲は、設定値の値が大きくなるに連れて1238を基準として増加していく。

30

【1085】

このため、大当り確率は、1020を大当り判定値の基準値（大当り基準値）として、設定値が大きくなるに連れて共通数値範囲に連続する非共通数値範囲が増加していくことによって高くなっていく。

【1086】

尚、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち32767～33421までの範囲が、設定値にかかわらず小当りを判定するための小当り判定値の共通数値範囲に設定されている。ここで設定値が6の場合に注目すると、該設定値が6の場合は、前述したように当り判定値のうち1020～1346までが大当り判定値の数値範囲に設定されている一方で、小当り判定値は、前記設定値6の場合の大当り判定値の範囲（1020～1346）とは異なる数値範囲において、32767を小当り判定値の基準値（小当り基準値）として、32767～33421の範囲に設定されているので、小当り判定値の数値範囲が各設定値に応じて変化する大当り判定値の範囲に重複することが防止されている。

40

【1087】

次に、遊技状態が確変状態の場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち1020～1346までの範囲が、設定値にかかわらず大当りを判定

50

するための大当たり判定値の共通数値範囲に設定されている。

【1088】

尚、設定値が1の場合は、大当たりを判定するための大当たり判定値の共通数値範囲のみが設定されている（1020～1346までが「大当たり」に割り当てられている）一方で、設定値2～設定値6の場合は、該大当たり判定値の共通数値範囲から連続するように、1347から各設定値に応じた数値範囲が大当たり判定値の非共通数値範囲に設定されている。この大当たり判定値の非共通数値範囲は、設定値2では1347～1383の範囲、設定値3では1347～1429の範囲、設定値4では1347～1487の範囲、設定値5では1347～1556の範囲、設定値6では1347～1674の範囲にそれぞれ設定されている。

10

【1089】

つまり、本実施の形態の特徴部153SGでは、遊技状態が確変状態である場合における第2図用表示結果判定テーブルにおいては、設定値が1の場合は0～65535の範囲で値を取り得る当たり判定値のうち、共通数値範囲（1020～1346）内の数値のみが「大当たり」に割り当てられている一方で、設定値が2以上である場合は、大当たり判定値のうち、共通数値範囲に非共通数値範囲を加えた範囲内の数値が「大当たり」に割り当てられている。更に、非共通数値範囲は、設定値の値が大きくなるに連れて1347を基準として増加していく。

【1090】

このため、大当たり確率は、1020を大当たり判定値の基準値（大当たり基準値）として、設定値が大きくなるに連れて共通数値範囲に連続する非共通数値範囲が増加していくことによって高くなっていく。

20

【1091】

尚、遊技状態が確変状態である場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第2特図用表示結果判定テーブルと同じく、当たり判定値のうち32767～33421までの範囲が、設定値にかかわらず小当たりを判定するための小当たり判定値の共通数値範囲に設定されている。ここで設定値が6の場合に注目すると、該設定値が6の場合は、前述したように当たり判定値のうち1020～1674までが大当たり判定値の数値範囲に設定されている一方で、小当たり判定値は、前記設定値6の場合の大当たり判定値の範囲（1020～1674）とは異なる数値範囲において、32767を小当たり判定値の基準値（小当たり基準値）として、32767～33421の範囲に設定されているので、小当たり判定値の数値範囲が各設定値に応じて変化する大当たり判定値の範囲に重複することが防止されている。

30

【1092】

以上、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、各表示結果判定テーブルにおいて、遊技状態及び設定値にかかわらず、当たり判定値の1020を基準として共通数値範囲または共通数値範囲と非共通数値範囲とからなる連続した1の数値範囲内に含まれる判定値を大当たり判定値の数値範囲とするとともに、遊技状態及び設定値にかかわらず、当たり判定値の32767を基準として連続した1の数値範囲（共通数値範囲）内に含まれる判定値を小当たり判定値の数値範囲として可変表示結果を判定するようになっている。

40

【1093】

更に、これら各表示結果判定テーブルにおいては、変動特図が同一である場合は、遊技状態にかかわらず小当たり判定値の数値範囲は同一（小当たり判定値の数値範囲に含まれる判定値数が同一）である。また、変動特図が第1特図であるか第2特図であるかに応じて小当たり判定値の数値範囲に含まれる判定値数が異なる（第1特図用表示結果判定テーブルにおける小当たり判定値の数値範囲に含まれる判定値数は328個であるのに対して、第2特図用表示結果判定テーブルにおける小当たり判定値の数値範囲に含まれる判定値数は655個と約2倍である）一方で、小当たり判定値の数値範囲自体は、32767を基準値（小当たり基準値）として設定されている。

【1094】

50

更に、前述したように、各遊技状態においては、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 1 の場合が最も特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率が低く、設定値の値が大きくなるほど特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなるように判定値が割り当てられている（大当り確率：設定値 6 > 設定値 5 > 設定値 4 > 設定値 3 > 設定値 2 > 設定値 1）。

【1095】

つまり、CPU 103 は、その時点で設定されている設定値に対応する表示結果判定テーブルを参照して、MR 1 の値が大当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り（大当り A ～大当り C）とすることを決定する。また、MR 1 が小当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して小当りとすることを決定する。すなわち、設定値に応じた確率で大当り及び小当りの当選を決定する。尚、図 14-7 に示す「確率」は、大当りになる確率（割合）並びに小当りになる確率（割合）を示す。また、大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第 1 特別図柄表示装置 153SG004A または第 2 特別図柄表示装置 153SG004B における停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。また、小当りにするか否か決定するということは、小当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第 1 特別図柄表示装置 153SG004A または第 2 特別図柄表示装置 153SG004B における停止図柄を小当り図柄にするか否か決定するということでもある。

【1096】

尚、本実施の形態の特徴部 153SG では、パチンコ遊技機 1 に設定可能な設定値として 1 ～ 6 の計 6 個の設定値を設けているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機 1 に設定可能な設定値は、5 個以下や 7 個以上であってもよい。

【1097】

図 14-8 (A) 及び図 14-8 (B) は、ROM 101 に記憶されている大当り種別判定テーブル（第 1 特別図柄用）、大当り種別判定テーブル（第 2 特別図柄用）を示す説明図である。このうち、図 14-8 (A) は、遊技球が第 1 始動入賞口に入賞したことに基づく保留記憶を用いて（すなわち、第 1 特別図柄の可変表示が行われるとき）大当り種別を決定する場合のテーブルである。また、図 14-8 (B) は、遊技球が第 2 始動入賞口に入賞したことに基づく保留記憶を用いて（すなわち、第 2 特別図柄の可変表示が行われるとき）大当り種別を決定する場合のテーブルである。

【1098】

大当り種別判定テーブルは、可変表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数（MR 2）に基づいて、大当りの種別を大当り A ～大当り C のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【1099】

ここで、本実施の形態の特徴部 153SG における大当り種別について、図 14-9 を用いて説明する。本実施の形態の特徴部 153SG では、大当り種別として、大当り遊技状態の終了後において時短制御のみが実行されて低確高ベース状態に移行する大当り A（非確変大当りともいう）と、大当り遊技の終了後において高確制御と時短制御とが実行されて高確高ベース状態に移行する大当り B や大当り C（確変大当りともいう）が設定されている。

【1100】

「大当り A」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態に変化させるラウンドが 5 回（いわゆる 5 ラウンド）、繰り返し実行される通常開放大当りであり、「大当り B」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態に変化させるラウンドが 10 回（いわゆる 10 ラウンド）、繰り返し実行される通常開放大当りである。更に、「大当り C」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態に変化させるラウンドが 15 回（いわゆる 15 ラウンド）、繰り返し実行される通常開放大当りである。

【1101】

「大当りA」による大当り遊技状態の終了後において実行される時短制御は、所定回数（本実施の形態の特徴部153SGでは100回）の特図ゲームが実行されること、或いは該所定回数の特図ゲームが実行される前に大当り遊技状態となることにより終了する。

【1102】

一方、大当りBや大当りCの大当り遊技状態の終了後において実行される高確制御と時短制御は、該大当り遊技状態の終了後において再度大当りが発生するまで継続して実行される。よって、再度発生した大当りが大当りBや大当りCである場合には、大当り遊技状態の終了後に再度、高確制御と時短制御が実行されるので、大当り遊技状態が通常状態を介することなく連続的に発生する、いわゆる連荘状態となる。

【1103】

尚、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、大当り種別として大当りA～大当りCの3種類を設ける形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、大当り種別は2種類以下、または4種類以上設けてもよい。

【1104】

また、図14-8(A)に示すように、大当り種別判定テーブル（第1特別図柄用）においては、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～99までが大当りAに割り当てられており、100～249までが大当りBに割り当てられており、250～299までが大当りCに割り当てられている。一方で、図14-8(B)に示すように、大当り種別判定テーブル（第2特別図柄用）においては、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～99までが大当りAに割り当てられており、100～199までが大当りBに割り当てられており、200～299までが大当りCに割り当てられている。つまり、本実施の形態の特徴部153SGでは、遊技球が入賞した入賞口が第1始動入賞口であるか第2始動入賞口であるかに応じて大当り種別の決定割合が異なっている一方で、パチンコ遊技機1に設定されている設定値にかかわらず共通の割合にて大当り種別を決定するようになっている。

【1105】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、大当り種別を大当り種別判定用の乱数値であるMR2を用いて決定しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、大当り種別は、特図表示結果判定用の乱数値であるMR1を用いて決定してもよい。

【1106】

また、ROM101には、変動パターン判定用の乱数値MR3に基づいて変動パターンを決定するための変動パターン判定テーブルも記憶されており、変動パターンを、事前決定結果に応じて前述した複数種類のうちのいずれかの変動パターンに決定する。

【1107】

具体的には、変動パターン判定テーブルとしては、可変表示結果を「大当り」にすることが事前決定されたときに使用される大当り用変動パターン判定テーブルと、可変表示結果を「小当り」にすることが事前決定されたときに使用される大当り用変動パターン判定テーブルと、可変表示結果を「はずれ」にすることが事前決定されたときに使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルとが予め用意されている。

【1108】

大当り用変動パターン判定テーブルにおいては、ノーマルリーチ大当りの変動パターン（PB1-1）、スーパーリーチα大当りの変動パターン（PB1-2）、スーパーリーチβ大当りの変動パターン（PB1-3）の各変動パターンに対して、変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【1109】

図14-10(A)及び図14-10(B)に示すように、大当り用変動パターン判定テーブルとしては、大当り種別が大当りAである場合に使用される大当り用変動パターン判定テーブル（大当りA用）と、大当り種別が大当りB、大当りC用である場合に使用される大当り用変動パターン判定テーブル（大当りB、大当りC用）が予め用意されており

10

20

30

40

50

、これら大当り用変動パターン判定テーブル（大当りA用）と大当り用変動パターン判定テーブル（大当りB、大当りC用）には、ノーマルリーチ大当りの変動パターン（PB1-1）、スーパーリーチα大当りの変動パターン（PB1-2）、スーパーリーチβ大当りの変動パターン（PB1-3）の各変動パターンに対して、変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【1110】

図14-10（A）に示すように、大当り用変動パターン判定テーブル（大当りA用）においては、MR3の判定値の範囲1～997のうち、1～400までがノーマルリーチ大当りの変動パターン（PB1-1）に割り当てられており、401～850までがスーパーリーチα大当りの変動パターン（PB1-2）に割り当てられており、851～997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン（PB1-3）に割り当てられている。

10

【1111】

図14-10（B）に示すように、大当り用変動パターン判定テーブル（大当りB、大当りC用）においては、MR3の判定値の範囲1～997のうち、1～200までがノーマルリーチ大当りの変動パターン（PB1-1）に割り当てられており、201～550までがスーパーリーチα大当りの変動パターン（PB1-2）に割り当てられており、551～997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン（PB1-3）に割り当てられている。

【1112】

また、小当り用変動パターン判定テーブルにおいては、小当りの変動パターン（PC1-1）の変動パターンに対して、変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。具体的には、図14-10（C）に示すように、小当り用変動パターン判定テーブルにおいては、MR3の判定値の範囲0～997のうち、0～997までが小当りの変動パターン（PC1-1）に割り当てられている。尚、本実施の形態の特徴部153SGにおける小当りの変動パターンとしてはPC1-1のみが設けられているが、本発明はこれに限定されるものではなく、小当りの変動パターンとしては2以上の変動パターンを設けてもよい。

20

【1113】

また、はずれ用変動パターン判定テーブルには、遊技状態が時短制御の実施されていない低ベース状態において保留記憶数が1個以下である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルAと、低ベース状態において合計保留記憶数が2～4個である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルBと、低ベース状態において合計保留記憶数が5～8個である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルCと、遊技状態が時短制御の実施されている高ベース状態である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルDとが予め用意されている。

30

【1114】

はずれ用変動パターン判定テーブルAにおいては、短縮なしの非リーチはずれの変動パターン（PA1-1）、ノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）、スーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）、スーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

40

【1115】

図14-11（A）に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルA（低ベース中合算保留記憶数1個以下用）においては、MR3の判定値の範囲1～997のうち、1～450までが非リーチはずれの変動パターン（PA1-1）に割り当てられており、451～700までがノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）に割り当てられており、701～900までがスーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）に割り当てられ、901～997までがスーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に割り当てられている。

【1116】

50

また、はずれ用変動パターン判定テーブルBにおいては、合計保留記憶数が2～4個に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン（PA1-2）、ノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）、スーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）、スーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【1117】

図14-11（B）に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルB（低ベース中合算保留記憶数2～4個用）においては、MR3の判定値の範囲1～997のうち、1～500までが非リーチはずれの変動パターン（PA1-2）に割り当てられており、501～700までがノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）に割り当てられており、701～900までがスーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）に割り当てられ、901～997までがスーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に割り当てられている。

10

【1118】

また、はずれ用変動パターン判定テーブルCにおいては、合計保留記憶数が5～8個に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン（PA1-3）、ノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）、スーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）、スーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【1119】

20

図14-11（C）に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルC（低ベース中合算保留記憶数5個以上用）においては、MR3の判定値の範囲1～997のうち、1～550までが非リーチはずれの変動パターン（PA1-3）に割り当てられており、551～700までがノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）に割り当てられており、701～900までがスーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）に割り当てられ、901～997までがスーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に割り当てられている。

【1120】

また、はずれ用変動パターン判定テーブルDにおいては、時短制御中に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン（PA1-4）、ノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）、スーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）、スーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

30

【1121】

図14-11（D）に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルD（高ベース中用）においては、MR3の判定値の範囲1～997のうち、1～550までが非リーチはずれの変動パターン（PA1-4）に割り当てられており、551～700までがノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）に割り当てられており、701～900までがスーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）に割り当てられ、901～997までがスーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に割り当てられている。

40

【1122】

このように、はずれ用変動パターン判定テーブルA～Dを用いる場合、非リーチ変動パターンやノーマルリーチ変動パターンを決定する割合は、スーパーリーチ変動パターンを決定する割合よりも高設定されている。また、はずれ用変動パターン判定テーブルA～Dを用いる場合は、変動パターン判定テーブルにかかわらず判定値のうち701～900までがスーパーリーチαはずれの変動パターン、901～997までがスーパーリーチβはずれの変動パターンにそれぞれ割り当てられている、つまり、可変表示結果がはずれである場合は、スーパーリーチの変動パターンを共通の決定割合で決定するので、スーパーリーチの変動パターンによる可変表示が実行されないことにより演出効果が低下してしまうことを防ぐことができる。

50

【1123】

尚、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、はずれ用変動パターンとしてスーパーリーチ α はずれの変動パターンの決定割合とスーパーリーチ β はずれの変動パターンの決定割合とが各設定値間にて完全に同一の形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これらスーパーリーチ α はずれの変動パターンの決定割合とスーパーリーチ β はずれの変動パターンの決定割合とは、各設定値間において僅差（例えば、1%程度）で異なってもよい。

【1124】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、可変表示結果がはずれである場合は、スーパーリーチの変動パターンの決定割合が同一である形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、可変表示結果がはずれである場合は、非リーチ、ノーマルリーチ、スーパーリーチの全ての変動パターンの決定割合が同一であってもよいし、また、非リーチとノーマルリーチとのいずれかの変動パターンの決定割合のみが同一であってもよい。

【1125】

尚、短縮なしの非リーチはずれの変動パターン（PA1-1）よりも非リーチはずれの変動パターン（PA1-2）の方が変動時間は短く、さらに、変動パターン（PA1-2）よりも非リーチはずれの変動パターン（PA1-3）の方が変動時間は短い（図14-6参照）。よって、保留記憶数が増加した場合には、変動時間が短い非リーチはずれの変動パターンが決定されることにより、保留記憶が消化されやすくなって、保留記憶数が上限数である4に達しているときに始動入賞することで、保留記憶がなされない無駄な始動入賞が発生し難くなるようになるとともに、保留記憶数が減少した場合には、変動時間が長い短縮なしの非リーチはずれの変動パターン（PA1-1）が決定されることにより、可変表示の時間が長くなることにより、可変表示が実行されないことによる遊技の興趣低下を防ぐことができるようになる。

【1126】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-11（A）～図14-11（C）に示すように、合算保留記憶数に応じて異なるはずれ用変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、変動対象の特別図柄における保留記憶数（例えば、第1特別図柄の可変表示を実行する場合は第1特別図柄の保留記憶数、第2特別図柄の可変表示を実行する場合は第2特別図柄の保留記憶数）に応じて異なるはずれ用変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定してもよい。

【1127】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、決定した変動パターン毎にリーチ演出を実行するか否かといずれのリーチ演出を実行するかが1対1で対応付いている形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、演出制御用CPU120が、変動パターンの特図変動時間や可変表示結果等にもとづいてリーチ演出を実行するか否かや、いずれのリーチ演出を実行するかを抽選して決定してもよい。

【1128】

図14-1に示す遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるRAM102は、その一部または全部が所定の電源基板において作成されるバックアップ電源によってバックアップされているバックアップRAMであればよい。すなわち、パチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間（バックアップ電源としてのコンデンサが放電してバックアップ電源が電力供給不能になるまで）は、RAM102の一部または全部の内容は保存される。特に、少なくとも、遊技状態すなわち遊技制御手段の制御状態に応じたデータ（特図プロセスフラグなど）と未払出賞球数を示すデータとは、バックアップRAMに保存されるようにすればよい。遊技制御手段の制御状態に応じたデータとは、停電等が生じた後に復旧した場合に、そのデータにもとづいて、制御状態を停電等の発生前に復旧させるために必要なデータである。また、制御状態に応じたデータと未払出賞球数を示すデ

10

20

30

40

50

ータとを遊技の進行状態を示すデータと定義する。

【1129】

次に、本実施の形態の特徴部153SGにおける表示モニタ153SG029の表示について説明する。

【1130】

図14-12(A)に示すように、表示モニタ153SG029は、第1表示部153SG029A、第2表示部153SG029B、第3表示部153SG029C、第4表示部153SG029Dを備えている。第1表示部153SG029A～第5表示部153SG29Eは、いずれも「8」の字を描く7つのセグメントによって構成される7セグメントと、7セグメントの右側方下部に配置されたドットによって構成されている。これらの第1表示部153SG029A～第5表示部153SG29Eは、それぞれ種々の色、例えば赤色、青色、緑色、黄色、白色等で点灯、点滅可能とされている。また、これらの色を極短周期で変化させながら異なる色やいわゆるレインボーで表示させることも可能である。

【1131】

尚、本実施の形態の特徴部153SGにおける表示モニタ153SG029の表示制御は、パチンコ遊技機1の試験時においてROM101やRAM102の全領域における試験対象外の領域を用いて実行されるようになっている。

【1132】

表示モニタ153SG029には、図14-12(B)及び図14-12(C)に示すように、全遊技状態のアウト6000球毎の通常状態（低確低ベース状態）で算出されたベース値（計測中のリアルタイム値）であるベースLと、全遊技状態における1回目のアウト6000球毎の通常状態（低確低ベース状態）で算出されたベース値であるベース1と、全遊技状態における2回目のアウト6000球毎の通常状態（低確低ベース状態）で算出されたベース値であるベース2と、全遊技状態における3回目のアウト6000球毎の通常状態（低確低ベース状態）で算出されたベース値であるベース3と、を表示可能となっている。ベースL、ベース1、ベース2、ベース3は、百分率にて表示モニタ153SG029に表示される。

【1133】

実際に表示モニタ153SG029にてベースLを表示する場合は、該ベースLの略記である「bL.」を表示するために第1表示部153SG029Aに「b」、第2表示部153SG029Bに「L.」が表示されるとともに、算出した値の上位2桁（「00」～「99」の値）が第3表示部153SG029Cと第4表示部153SG029Dとにおいて表示される。また、表示モニタ153SG029にてベース1を表示する場合は、該ベースの略記である「b1.」を表示するために第1表示部153SG029Aに「b」、第2表示部153SG029Bに「1.」が表示されるとともに、算出した値の上位2桁（「00」～「99」の値）が第3表示部153SG029Cと第4表示部153SG029Dとにおいて表示される。また、表示モニタ153SG029にてベース2を表示する場合は、該ベースの略記である「b2.」を表示するために第1表示部153SG029Aに「b」、第2表示部153SG029Bに「2.」が表示されるとともに、算出した値の上位2桁（「00」～「99」の値）が第3表示部153SG029Cと第4表示部153SG029Dとにおいて表示される。また、表示モニタ153SG029にてベース3を表示する場合は、該ベースの略記である「b3.」を表示するために第1表示部153SG029Aに「b」、第2表示部153SG029Bに「3.」が表示されるとともに、算出した値の上位2桁（「00」～「99」の値）が第3表示部153SG029Cと第4表示部153SG029Dとにおいて表示される。

【1134】

本実施の形態の表示モニタ153SG029では、主基板11（CPU103）の制御によってこれらベースL、ベース1、ベース2、ベース3を順次表示する制御を実行するようになっている。例えば、主基板11は、ベースL→ベース1→ベース2→ベース3の

順番で表示モニタ153SG029の表示を5秒間隔で切り替える制御を実行する。尚、これら表示モニタ153SG029における各ベース値の表示は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて表示色が異なるようになっている。具体的には、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が「1」である場合は表示モニタ153SG029における各ベース値を白色にて表示し、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が「2」である場合は表示モニタ153SG029における各ベース値を青色にて表示し、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が「3」である場合は表示モニタ153SG029における各ベース値を黄色にて表示し、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が「4」である場合は表示モニタ153SG029における各ベース値を緑色にて表示し、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が「5」である場合は表示モニタ153SG029における各ベース値を赤色にて表示し、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が「6」である場合は表示モニタ153SG029における各ベース値を紫色にて表示する。このため遊技場の店員等は、CPU103が後述する設定値変更処理を実行せずとも、表示モニタ153SG029の表示色を確認するのみでパチンコ遊技機1に設定されている設定値を特定可能となっている。

10

【1135】

図14-2に示す演出制御基板12に搭載されたRAM122には、演出動作を制御するために用いられる各種データを保持する領域として、例えば図14-13(A)に示すような演出制御用データ保持エリア153SG190が設けられている。図14-13(A)に示す演出制御用データ保持エリア153SG190は、演出制御フラグ設定部153SG191と、演出制御タイマ設定部153SG192と、演出制御カウンタ設定部153SG193と、演出制御バッファ設定部153SG194とを備えている。

20

【1136】

演出制御フラグ設定部153SG191には、例えば画像表示装置5の画面上における演出画像の表示状態などといった演出動作状態や主基板11から送信された演出制御コマンド等に応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、演出制御フラグ設定部153SG191には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

【1137】

演出制御タイマ設定部153SG192には、例えば画像表示装置5の画面上における演出画像の表示動作などといった各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のタイマが設けられている。例えば、演出制御タイマ設定部153SG192には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

30

【1138】

演出制御カウンタ設定部153SG193には、各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のカウンタが設けられている。例えば、演出制御カウンタ設定部153SG193には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウント値を示すデータが記憶される。

【1139】

演出制御バッファ設定部153SG194には、各種演出動作の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、演出制御バッファ設定部153SG194には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

40

【1140】

本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-13(B)に示すような始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aを構成するデータが、演出制御バッファ設定部153SG194の所定領域に記憶される。始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aには、第1特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値(例えば「4」)に対応した格納領域(バッファ番号「1-1」～「1-4」に対応した領域)と、変動表示中の第1特図に対応した格納領域(バッファ番号「1-0」に対応した領域)とが設けられている。

50

また、始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aには、第2特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値（例えば「4」）に対応した格納領域（バッファ番号「2-1」～「2-4」に対応した領域）と、変動表示中の第2特図に対応した格納領域（バッファ番号「2-0」に対応した領域）とが設けられている。第1始動入賞口や第2始動入賞口への始動入賞があったときには、始動口入賞指定コマンド（第1始動口入賞指定コマンドまたは第2始動口入賞指定コマンド）、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド及び保留記憶数通知コマンド（第1保留記憶数通知コマンドまたは第2保留記憶数通知コマンド）という4つのコマンドが1セットとして、主基板11から演出制御基板12へと送信される。始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aにおける第1特図保留記憶に対応した格納領域と第2特図保留記憶に対応した格納領域は、これらの始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド、保留記憶数通知コマンドを対応付けて、第1特図保留記憶と第2特図保留記憶とに分けて格納するための格納領域（エントリ）が確保されている。

10

【1141】

これら格納領域（エントリ）の記憶内容は、開始条件が成立して最上位の保留記憶（バッファ番号「1-1」またはバッファ番号「2-1」）の変動表示が開始されるときに、後述するように1つずつ上位にシフトされていくとともに、該開始条件が成立した保留記憶の内容を格納するバッファ番号「1-0」またはバッファ番号「2-0」の記憶内容は、当該変動表示を終了するときに実行される飾り図柄変動停止処理においてクリアされるようになっている。

20

【1142】

更に、本実施の形態の特徴部153SGにおける始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aには、後述する先読予告設定処理（図14-18）において保留記憶表示の表示パターン（表示態様）に応じたフラグ値がセットされる保留表示フラグの記憶領域が各格納領域（エントリ）毎に確保されている。

【1143】

尚、保留表示フラグには、後述する先読予告設定処理において、保留表示予告演出の実行が決定されなかった場合には、通常の保留記憶表示の表示パターンに対応する「0」が格納されることで、通常の表示態様（例えば、白抜き○）の保留記憶表示が第1保留記憶表示エリア153SG005D、第2保留記憶表示エリア153SG005Uに表示され、保留表示予告演出の実行が決定された場合には、通常の表示態様とは異なる特別態様（例えば、四角形（◇）や星（☆））の保留記憶表示の表示パターンに対応する「1」（四角形（◇））または「2」（星（☆））や特殊態様（例えば、青色や赤色のカメラ）の保留記憶表示の表示パターンに対応する「3」（青色のカメラ）または「4」（赤色のカメラ）がセットされることで、通常の表示態様とは異なる態様の保留記憶表示が第1保留記憶表示エリア153SG005D、第2保留記憶表示エリア153SG005Uに表示されて、該保留記憶表示に対応する変動表示において、大当たりとなる可能性やスーパーリーチとなる可能性、該パチンコ遊技機1に設定されている設定値を示唆する設定示唆演出が実行される可能性が高いことが予告されるようになっている。

30

【1144】

演出制御用CPU120は、第1始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aの第1特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していき、第2始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aの第2特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していく。始動入賞時には、始動口入賞指定コマンドから保留記憶数通知コマンドまでが順次送信される。従って、コマンド受信が行われれば、第1特図保留記憶または第2特図保留記憶に対応するバッファ番号の末尾「1」～「4」のそれぞれに対応する格納領域に、始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド、保留記憶数通知コマンドの順に格納されていくことになる。

40

50

【1145】

図14-13(B)に示す始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aに格納されているコマンドは、飾り図柄の変動表示を開始するごとに、直前に終了した変動表示の保留記憶に対応したエントリ(バッファ番号「1-0」または「2-0」のエントリ)に格納されているものが削除されるとともに、該開始する変動表示の保留記憶に対応したエントリ(バッファ番号「1-1」または「2-1」に対応したエントリ)に格納されているものと、該開始する変動表示の保留記憶以降のエントリの記憶内容がシフトされる。例えば図14-13(B)に示す格納状態において第1特図保留記憶の飾り図柄の変動表示が終了した場合には、バッファ番号「0」に格納されている各コマンドが削除され、バッファ番号「1」に格納されている各コマンドがバッファ番号「0」にシフトされるとともに、バッファ番号「2」に対応した領域にて格納されている各コマンドがバッファ番号「1」に対応した領域にシフトされ、バッファ番号「3」、「4」のそれぞれに対応した領域にて格納されている各コマンドが、バッファ番号「2」、「3」に対応した領域にシフトされる。よって、バッファ番号「0」は、その時点において変動表示されている保留記憶に関する各コマンドを格納するための領域(エントリ)となる。

10

【1146】

次に、本実施の形態の特徴部153SGにおける遊技制御メイン処理について説明する。図14-14は、CPU103が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。遊技制御メイン処理では、CPU103は、先ず、割込禁止に設定する(153SGSa001)。続いて、必要な初期設定を行う(153SGSa002)。初期設定には、スタックポインタの設定、内蔵デバイス(CTC(カウンタ/タイマ回路)、パラレル入出力ポート等)のレジスタ設定、RAM102をアクセス可能状態にする設定等が含まれる。

20

【1147】

次いで、CPU103は、RAM102にバックアップデータが記憶されているか否か(107SGSa003)や、RAM102(バックアップRAM)が正常であるか否か(107SGSa004)を判定する。バックアップデータが記憶されていない場合(153SGSa003;N)やRAM102が正常でない場合(153SGSa004;N)は、153SGSa017に進み、バックアップデータが記憶されており、且つRAM102が正常である場合(153SGSa003;Y、153SGSa004;Y)は、更にRAM102に格納されている設定値が1~6のいずれかであるか、つまり、RAM102に正常な値の設定値が格納されているか否かを判定する(153SGSa005)。

30

【1148】

RAM102に格納されている設定値が1~6のいずれかではない場合(153SGSa005;N)は、153SGSa017に進み、RAM102に格納されている設定値が1~6のいずれかである場合(153SGSa005;Y)は、電断前に後述する設定値変更処理の実行中であつたこと(設定値変更処理の実行中に電断が発生したこと)を示す設定値変更中フラグがセットされているか否かを判定する(153SGSa006)。設定値変更中フラグがセットされている場合(153SGSa006;Y)は、153SGSa017に進み、設定値変更中フラグがセットされていない場合は、後述するRAMクリア処理を実行したことを示すRAMクリアフラグがセットされていれば該RAMクリアフラグをクリアし(153SGSa007)、クリアスイッチがONであるか否か、つまり、クリアスイッチが操作されている状態でパチンコ遊技機1が起動したか否かを判定する(153SGSa008)。

40

【1149】

クリアスイッチがONである場合(153SGSa008;Y)は、RAMクリアフラグをセットして153SGSa011に進み(153SGSa010)、クリアスイッチがOFFである場合(153SGSa008;N)は、153SGSa010を実行せずに153SGSa011に進む。

【1150】

50

153SGSa011においてCPU103は、錠スイッチ153SG051がONであるか否かを判定する(153SGSa011)。錠スイッチ153SG051がONである場合(153SGSa011; Y)は、更に開放センサ153SG090がONであるか否かを判定する(153SGSa012)。開放センサ153SG090がONである場合、つまり、錠スイッチ153SG051がON且つ遊技機用枠153SG003が開放されている状態でパチンコ遊技機1が起動した場合(153SGSa012; Y)は、RAMクリアフラグがセットされているか否かを判定する(153SGSa013a)。

【1151】

RAMクリアフラグがセットされている場合(153SGSa013a; Y)は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値を変更するための設定値変更処理(153SGSa013b)を実行して153SGSa013dに進み、RAMクリアフラグがセットされていない場合(153SGSa013a; N)は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値を確認するための設定値確認処理(153SGSa013c)を実行して153SGSa013dに進む。

【1152】

尚、設定値変更処理(153SGSa013b)では、CPU103は、先ず、表示モニタ153SG029において現在設定されている設定値の表示を行う。次いで、設定切替スイッチ153SG052が操作される毎に表示モニタ153SG029における設定値の更新表示を行う。そして、錠スイッチ153SG051がOFFとなったことにもとづいて表示モニタ153SG029に表示されている設定値をRAM102に更新記憶するとともに、該新たにRAM102に更新記憶された設定値を特定可能な設定値指定コマンドを演出制御用CPU120に対して出力する。

【1153】

また、設定値確認処理(153SGSa013c)では、CPU103は、表示モニタ153SG029において現在設定されている設定値の表示を行う。そして、錠スイッチ153SG051がOFFとなったことにもとづいて表示モニタ153SG029における設定値の表示を終了すればよい。

【1154】

尚、153SGSa011において錠スイッチ153SG051がOFFである場合(153SGSa011; N)や開放センサがOFFである場合(153SGSa012; N)は、153SGSa013a~153SGSa013cの処理を実行せずに153SGSa013dに進む。

【1155】

153SGSa013dにおいてCPU103は、RAMクリアフラグがセットされているか否か、つまり、今回のパチンコ遊技機1の起動に際してRAM102をクリアするか(RAMクリア処理(153SGSa009)を実行するか)否かを判定する(153SGSa013d)。RAMクリアフラグがセットされている場合(153SGSa013d; Y)はRAMクリア処理(153SGSa013e)を実行した後に153SGSa014に進み、RAMクリアフラグがセットされていない場合(153SGSa013d; N)はRAMクリア処理(153SGSa013e)を実行せずに153SGSa014に進む。

【1156】

尚、RAMクリア処理(153SGSa013e)では、CPU103は、設定値が格納されているアドレスとRAMクリアフラグが格納(セット)されているアドレスを除く全てのアドレスに「00H」をセットする処理を実行する。つまり、本実施の形態の特徴部153SGでは、153SGSa001~153SGSa013e及び後述する153SGSa017~153SGSa021に示すように、RAM102に異常がない場合は、設定値が格納されているアドレスとRAMクリアフラグが格納されているアドレスを除く全てのアドレスの内容をクリアするようになっている。

【1157】

10

20

30

40

50

153SGSa014においてCPU103は、再度RAMクリアフラグがセットされているか否か判定する(153SGSa014)。RAMクリアフラグがセットされている場合(153SGSa014;Y)は153SGSa022に進み、RAMクリアフラグがセットされていない場合(153SGSa014;N)は、主基板11の内部状態を電力供給停止(電断)時の状態に戻すための復旧処理を行う(153SGSa015)。

【1158】

復旧処理では、CPU103は、RAM102の記憶内容(バックアップしたデータの内容)に基づいて作業領域の設定を行う。これにより、電力供給停止時の遊技状態に復旧し、特別図柄の変動中であつた場合には、後述の遊技制御用タイマ割込み処理の実行によって、復旧前の状態から特別図柄の変動が再開されることになる。そして、CPU103は、パチンコ遊技機1が電断前の状態で復旧(ホットスタートで起動)したとして、演出制御基板12に対してホットスタート通知コマンドを含む復旧時のコマンドを送信し、153SGSa028に進む(153SGSa016)。

【1159】

また、153SGSa017においてCPU103は、クリアスイッチがONであるか否か、つまり、クリアスイッチが操作されている状態でパチンコ遊技機1が起動したか否かを判定する(153SGSa017)。クリアスイッチがONである場合(153SGSa017;Y)は、更に錠スイッチ153SG051がONであるか否か(153SGSa018)や、開放センサ153SG090がONであるか否かを判定する(153SGSa019)。

【1160】

錠スイッチ153SG051がONであり(153SGSa018;Y)、且つ開放センサ153SG090がONである場合、つまり、RAM102にバックアップデータが存在しない、RAM102が正常ではない、または、正常な設定値が設定されていないが、遊技場の従業員等の操作により正式な手順によりパチンコ遊技機1を起動した場合(遊技機用枠153SG003を開放し、錠スイッチ153SG051をONとした状態でクリアスイッチを操作しつつパチンコ遊技機1を起動した場合は、RAM102に記憶されている設定値をクリアするとともに(153SGSa020)、設定値変更中フラグがセットされていれば該設定値変更中フラグをクリアする(153SGSa021)。そして、前述した153SGSa009~153SGSa016の処理を実行する。

【1161】

尚、クリアスイッチがOFFである場合(153SGSa017;N)、錠スイッチ153SG051がOFFである場合(153SGSa018;N)、開放センサ153SG090がOFFである場合(153SGSa019;N)は、153SGSa031に進む。

【1162】

また、2078SGSa022においてCPU103は、パチンコ遊技機1がコールドスタートにて起動したとして、演出制御基板12に対してコールドスタート通知コマンドを含む復旧時のコマンドを送信する(153SGSa022)。そして、パチンコ遊技機1のコールドスタートを報知するための期間に応じたコールドスタート報知タイマをセットし(153SGSa023)、表示モニタ153SG029を構成する全セグメントの点滅を開始することによってコールドスタートの報知を開始する(153SGSa024)。

【1163】

153SGSa024の実行後、CPU103は、コールドスタート報知タイマの値を-1し(153SGSa025)、該コールドスタート報知タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(153SGSa026)。コールドスタート報知タイマがタイマアウトしていない場合(153SGSa026;N)は、153SGSa025と153SGSa026の処理を繰り返し実行し、コールドスタート報知タイマがタイマアウトした場合(153SGSa026;Y)は、表示モニタ153SG029における全セグメントの

10

20

30

40

50

点滅を終了し（１５３ＳＧＳａ０２７）、１５３ＳＧＳａ０２８に進む。

【１１６４】

尚、本実施の形態の特徴部１５３ＳＧでは、パチンコ遊技機１のコールとスタート時にコールドスタート報知タイマの期間（例えば、５秒間）に亘って表示モニタ１５３ＳＧ０２９を構成する全セグメントを点滅させる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機１のコールとスタート時には、表示モニタ１５３ＳＧ０２９を構成する全セグメントのうち一部のセグメントのみを点滅させるようにしてもよいし、また、表示モニタ１５３ＳＧ０２９を構成する全セグメントのうち少なくとも一部のセグメントを点灯させるようにしてもよい。

【１１６５】

そして、１５３ＳＧＳａ０２８においてＣＰＵ１０３は、乱数回路１０４を初期設定する乱数回路設定処理（１５３ＳＧＳａ０２８）を実行し、所定時間（例えば２ｍｓ）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ１００に内蔵されているＣＴＣのレジスタの設定を行い（１５３ＳＧＳａ０２９）、割込みを許可する（１５３ＳＧＳａ０３０）。その後、ループ処理に入る。以後、所定時間（例えば２ｍｓ）ごとにＣＴＣから割込み要求信号がＣＰＵ１０３へ送出され、ＣＰＵ１０３は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【１１６６】

また、１５３ＳＧＳａ０３１においてＣＰＵ１０３は、ＲＡＭ１０２に異常な設定値が記憶されていること（設定値異常エラー）や、後述する設定変更中の電断から復帰したこと等にもとづいて、演出制御基板１２に対して設定値の異常に応じたエラー指定コマンドを送信する（１５３ＳＧＳａ０３１）。更に、エラー報知実行待ちタイマをセットする（１５３ＳＧＳａ０３２）。そして、ＣＰＵ１０３は、エラー報知実行待ちタイマの値を－１し（１５３ＳＧＳａ０３３）、該エラー報知実行待ちタイマがタイマアウトしたか否かを判定する（１５３ＳＧＳａ０３４）。エラー報知実行待ちタイマがタイマアウトしていない場合（１５３ＳＧＳａ０３４；Ｎ）は、１５３ＳＧＳａ０３３と１５３ＳＧＳａ０３４の処理を繰り返し実行し、エラー報知実行待ちタイマがタイマアウトした場合（１５３ＳＧＳａ０３４；Ｙ）は、設定値異常エラーの発生や設定変更中の電断から復帰しことの報知（エラー報知）として、表示モニタ１５３ＳＧ０２９を構成する第１表示部１５３ＳＧ０２９Ａ、第２表示部１５３ＳＧ０２９Ｂ、第３表示部１５３ＳＧ０２９Ｃ、第４表示部１５３ＳＧ０２９Ｄのそれぞれにおいて「Ｅ．」を表示する（１５３ＳＧＳａ０３５）。

【１１６７】

また、ＣＰＵ１０３は、第１特別図柄表示装置１５３ＳＧ００４Ａ及び第２特別図柄表示装置１５３ＳＧ００４Ｂを構成する全てのＬＥＤを点滅させるとともに（１５３ＳＧＳａ０３６）、パチンコ遊技機１に設けられた図示しないターミナル基板を介して遊技場の管理コンピュータ等の管理装置に対してセキュリティ信号を出力し１５３ＳＧＳａ０３２に進む（１５３ＳＧＳａ０３７）。以降、ＣＰＵ１０３は、パチンコ遊技機１の電断発生まで（遊技場の店員等の操作によってパチンコ遊技機１の電源がＯＦＦになるまで）１５３ＳＧＳａ０３２～１５３ＳＧＳａ０３７の処理を繰り返し実行することで、表示モニタ１５３ＳＧ０２９、第１特別図柄表示装置１５３ＳＧ００４Ａ、第２特別図柄表示装置１５３ＳＧ００４Ｂによるエラーの発生報知を実行する。

【１１６８】

このように、本実施の形態の特徴部１５３ＳＧにおけるパチンコ遊技機１は、異常な設定値が設定されていることや設定値の変更中の電断から復帰した場合に、表示モニタ１５３ＳＧ０２９、第１特別図柄表示装置１５３ＳＧ００４Ａ、第２特別図柄表示装置１５３ＳＧ００４Ｂによるエラーの発生報知を実行するので、遊技場の店員等は、パチンコ遊技機１の正面側と背面側の両面からエラーの発生や設定値の変更中の電断から復帰したことを認識することが可能となっている。加えて、パチンコ遊技機１のエラーの発生や設定値の変更中の電断からの復帰は遊技場の管理装置においても認識することができるので、パチンコ遊技機１のセキュリティ性を向上できるようになっている。

10

20

30

40

50

【1169】

尚、本実施の形態の特徴部153SGの遊技制御メイン処理では、図14-14に示すように、153SGSa008においてクリアスイッチがONであると判定した場合（153SGSa008；Y）や153SGSa021において設定値変更中フラグをクリアした後にRAMクリア処理（153SGSa009）を実行する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、本発明はこれに限定されるものではなく、該RAMクリア処理は、153SGSa008においてクリアスイッチがONであると判定した場合（153SGSa008；Y）や153SGSa021において設定値変更中フラグをクリアした後ではなく、153SGSa014においてRAMクリアフラグがセットされていると判定した場合（153SGSa014；Y）に実行してもよい。

10

【1170】

図14-15は、CPU103が図13に示す特別図柄プロセス処理において実行する始動入賞判定処理（S101）を示すフローチャートである。始動入賞判定処理においてCPU103は、まず、入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口に対応して設けられた第1始動口スイッチ22Aからの検出信号に基づき、第1始動口スイッチ22Aがオンであるか否かを判定する（153SGS101）。このとき、第1始動口スイッチ22Aがオンであれば（153SGS101；Y）、第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第1特図保留記憶数が、所定の上限値（例えば上限記憶数としての「4」）となっているか否かを判定する（153SGS102）。CPU103は、例えば図示しない遊技制御カウンタ設定部に設けられた第1保留記憶数カウンタの格納値である第1保留記憶数カウント値を読み取ることにより、第1特図保留記憶数を特定できればよい。153SGS102にて第1特図保留記憶数が上限値ではないときには（153SGS102；N）、例えば図示しない遊技制御バッファ設定部に設けられた始動口バッファの格納値を、「1」に設定する（153SGS103）。

20

【1171】

153SGS101にて第1始動口スイッチ22Aがオフであるときや（153SGS101；N）、153SGS102にて第1特図保留記憶数が上限値に達しているときには（153SGS102；Y）、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に対応して設けられた第2始動口スイッチ22Bからの検出信号に基づき、第2始動口スイッチ22Bがオンであるか否かを判定する（153SGS104）。このとき、第2始動口スイッチ22Bがオンであれば（153SGS104；Y）、第2特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第2特図保留記憶数が、所定の上限値（例えば上限記憶数としての「4」）となっているか否かを判定する（153SGS105）。CPU103は、例えば図示しない遊技制御カウンタ設定部に設けられた第2保留記憶数カウンタの格納値である第2保留記憶数カウント値を読み取ることにより、第2特図保留記憶数を特定できればよい。153SGS105にて第2特図保留記憶数が上限値ではないときには（153SGS105；N）、例えば図示しない遊技制御バッファ設定部に設けられた始動口バッファの格納値を、「2」に設定する（153SGS106）。

30

【1172】

153SGS103、153SGS106の処理のいずれかを実行した後は、始動口バッファの格納値である始動口バッファ値に応じた特図保留記憶数を1加算するように更新する（153SGS107）。例えば、始動口バッファ値が「1」であるときには第1保留記憶数カウント値を1加算する一方で、始動口バッファ値が「2」であるときには第2保留記憶数カウント値を1加算する。こうして、第1保留記憶数カウント値は、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第1特図を用いた特図ゲームに対応した第1始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。また、第2保留記憶数カウント値は、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第2特図を用いた特図ゲームに対応した第2始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。このときには、合計保留記憶数も1加算するように更新する（153SGS108）。例えば、図示しない遊技制御カウンタ設定部に設けられた合計保留記憶数カウンタの格納値である合計保留記憶数カウ

40

50

ント値を、1 加算するように更新すればよい。

【1173】

153SGS108の処理を実行した後に、CPU103は、乱数回路104や図示しない遊技制御カウンタ設定部のランダムカウンタによって更新されている数値データのうちから、特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当り種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データを抽出する(153SGS109)。こうして抽出した各乱数値を示す数値データは、始動口バッファ値に応じた特図保留記憶部における空きエントリの先頭に、保留情報としてセットされることで記憶される(153SGS110)。例えば、始動口バッファ値が「1」であるときには、図示しない第1特図保留記憶部に乱数値MR1～MR3を示す数値データが格納される一方、始動口バッファ値が「2」であるときには、図示しない第2特図保留記憶部に乱数値MR1～MR3を示す数値データが格納される。

10

【1174】

特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当り種別判定用の乱数値MR2を示す数値データは、特別図柄や飾り図柄の変動表示結果を「大当り」とするか否か、更には変動表示結果を「大当り」とする場合の大当り種別を判定するために用いられる。変動パターン判定用の乱数値MR3は、特別図柄や飾り図柄の変動表示時間を含む変動パターンを判定するために用いられる。CPU103は、153SGS109の処理を実行することにより、特別図柄や飾り図柄の変動表示結果や変動表示時間を含む可変表示態様の判定に用いられる乱数値のうち全部を示す数値データを抽出する。

20

【1175】

153SGS110の処理に続いて、始動口バッファ値に応じた始動口入賞指定コマンドの送信設定が行われる(153SGS111)。例えば、始動口バッファ値が「1」であるときにはROM101における第1始動口入賞指定コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファにおいて送信コマンドポインタにより指定されたバッファ領域に格納することなどにより、演出制御基板12に対して第1始動口入賞指定コマンドを送信するための設定を行う。これに対して、始動口バッファ値が「2」であるときにはROM101における第2始動口入賞指定コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファのバッファ領域に格納することなどにより、演出制御基板12に対して第2始動口入賞指定コマンドを送信するための設定を行う。こうして設定された始動口入賞指定コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図12に示すS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

30

【1176】

153SGS111の処理に続いて、入賞時乱数値判定処理を実行する(153SGS112)。その後、例えばROM101における保留記憶数通知コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファにおいて送信コマンドポインタによって指定されたバッファ領域に格納することなどにより、演出制御基板12に対して保留記憶数通知コマンドを送信するための設定を行う(153SGS113)。こうして設定された保留記憶数通知コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図12に示すS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

40

【1177】

153SGS113の処理を実行した後は、始動口バッファ値が「1」であるか否かを判定する(153SGS114)。このとき、始動口バッファ値が「1」であれば(153SGS114でY)始動口バッファをクリアして、その格納値を「0」に初期化してから(153SGS115)、153SGS104の処理に進む。これに対して、始動口バッファ値が「2」であるときには(153SGS114でN)、始動口バッファをクリアして、その格納値を「0」に初期化してから(S116)、始動入賞処理を終了する。これにより、第1始動口スイッチ22Aと第2始動口スイッチ22Bの双方が同時に有効な遊技球の始動入賞を検出した場合でも、確実に双方の有効な始動入賞の検出に基づく処

50

理を完了できる。

【1178】

図14-16(A)は、入賞時乱数値判定処理として、図14-15の153SGS112にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。本実施の形態の特徴部153SGにおいて、特別図柄や飾り図柄の変動表示が開始されるときには、特別図柄通常処理(図13のS110)により、特図表示結果(特別図柄の変動表示結果)を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否か、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御するか否か等の判定が行われる。また、変動パターン設定処理(図13のS111)において、飾り図柄の変動表示態様を具体的に規定する変動パターンの判定などが行われる。他方、これらの判定とは別に、遊技球が始動入賞口(第1始動入賞口または第2始動入賞口)にて検出されたタイミングで、CPU103が153SGS112の入賞時乱数値判定処理を実行することにより、特図表示結果として大当り図柄を導出表示すると判定されるか否かの判定や、特図表示結果として小当り図柄を導出表示すると判定されるか否かの判定、飾り図柄の変動表示態様がスーパーリーチを伴う所定表示態様となるか否かの判定などを行う。これにより、始動入賞口に進入した遊技球の検出に基づく特別図柄や飾り図柄の変動表示が開始されるより前、つまり、該変動表示の開始時に大当りや小当りとするか否かが判定されるよりも前に、特図表示結果が「大当り」や「小当り」となることや、飾り図柄の変動表示態様がいずれのカテゴリの変動表示態様となるかを判定し、この判定結果に基づいて、演出制御用CPU120などにより、後述するように、保留表示予告演出が実行されるようになる。

【1179】

図14-16(A)に示す入賞時乱数値判定処理において、CPU103は、まず、例えば図示しない遊技制御フラグ設定部などに設けられた時短フラグや確変フラグの状態を確認することなどにより、パチンコ遊技機1における現在の遊技状態を特定する(153SGS121)。CPU103は、確変フラグがオンであるときには確変状態であることを特定し、確変フラグがオフで時短フラグがオンであるときには時短状態であることを特定し、確変フラグと時短フラグがともにオフであるときには通常状態であることを特定すればよい。

【1180】

153SGS121の処理に続いて、図14-7に示す表示結果判定テーブルを選択してセットする(153SGS122)。このとき、CPU103は、始動口バツファ値が1であれば図14-7(A)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、始動口バツファ値が2であれば図14-7(B)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットすればよい。

【1181】

その後、セットした表示結果判定テーブルにおけるパチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じた大当りの数値範囲(大当りの判定範囲)を参照し、図14-15の153SGS109にて抽出された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが該大当り判定範囲内であるか否かを判定する(153SGS123)。大当り判定範囲には、153SGS122の処理により選択された表示結果判定用テーブルにおいて「大当り」の特図表示結果に割り当てられた個々の判定値が設定され、CPU103が乱数値MR1と各判定値とを逐一比較することにより、乱数値MR1と合致する判定値の有無を判定できればよい。あるいは、大当り判定範囲に含まれる判定値の最小値(下限値)と最大値(上限値)とを示す数値を設定して、CPU103が乱数値MR1と大当り判定範囲の最小値や最大値とを比較することにより、乱数値MR1が大当り判定範囲の範囲内であるか否かを判定できればよい。このとき、乱数値MR1が大当り判定範囲の範囲内であると判定されることにより、その乱数値MR1を含む保留データに基づく変動表示結果が「大当り」に決定されると判定できる。

【1182】

153SGS123にて大当り判定範囲内ではないと判定された場合、つまり、可変表

10

20

30

40

50

示時に大当たりとならないと判定された場合には（１５３ＳＧＳ１２３；Ｎ）、更にセットした表示結果判定テーブルにおけるパチンコ遊技機１に設定されている設定値に応じた小当りの数値範囲（小当りの判定範囲）を参照し、図１４－１５の１５３ＳＧＳ１０９にて抽出された特図表示結果判定用の乱数値ＭＲ１を示す数値データが該小当り判定範囲内であるか否かを判定する（１５３ＳＧＳ１２４）。小当り判定範囲には、１５３ＳＧＳ１２２の処理により選択された表示結果判定用テーブルにおいて「小当り」の特図表示結果に割り当てられた個々の判定値が設定され、ＣＰＵ１０３が乱数値ＭＲ１と各判定値とを逐一比較することにより、乱数値ＭＲ１と合致する判定値の有無を判定できればよい。あるいは、小当り判定範囲に含まれる判定値の最小値（下限値）と最大値（上限値）とを示す数値を設定して、ＣＰＵ１０３が乱数値ＭＲ１と小当り判定範囲の最小値や最大値とを比較することにより、乱数値ＭＲ１が小当り判定範囲の範囲内であるか否かを判定できればよい。このとき、乱数値ＭＲ１が小当り判定範囲の範囲内であると判定されることにより、その乱数値ＭＲ１を含む保留データに基づく変動表示結果が「小当り」に決定されると判定できる。

【１１８３】

１５３ＳＧＳ１２４にて小当り判定範囲内ではないと判定された場合、つまり、可変表示時に小当たりとならないと判定された場合には（１５３ＳＧＳ１２４；Ｎ）、可変表示結果が「はずれ」となることに応じた図柄指定コマンドの送信設定を実行し（１５３ＳＧＳ１２５）、時短フラグがセットされているか否か、つまり、現在の遊技状態が時短状態であるか否かを判定する（１５３ＳＧＳ１２６）。時短フラグがセットされていない場合は（１５３ＳＧＳ１２６；Ｎ）はずれ用変動パターン判定テーブルＡを選択してセットし（１５３ＳＧＳ１２７）、時短フラグがセットされている場合は（１５３ＳＧＳ１２６；Ｙ）、はずれ用変動パターン判定テーブルＤを選択してセットする（１５３ＳＧＳ１２８）。

【１１８４】

尚、はずれ用変動パターン判定テーブルＡは、図１４－１１（Ａ）に示すように、保留記憶数が１個以下である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルである。また、はずれ用変動パターン判定テーブルＤは、図１４－１１（Ｄ）に示すように、遊技状態が時短制御の実行されている高ベース状態である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルである。

【１１８５】

尚、本実施の形態の特徴部１５３ＳＧでは、これらのはずれ用変動パターン判定テーブルＡやはずれ用変動パターン判定テーブルＤに加えて、合計保留記憶数が２～４個である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルＢと、合計保留記憶数が５～８個である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルＣが予め用意されているが、図１４－１１に示すように、これらのはずれ用変動パターン判定テーブルＡ～Ｃのうち、はずれ用変動パターン判定テーブルＡでは、非リーチの変動パターンに対して変動パターン判定用の乱数値ＭＲ３がとりうる範囲のうち０～４５０までの値が割り当てられており、はずれ用変動パターン判定テーブルＢ，Ｃでは、非リーチの変動パターンに対して変動パターン判定用の乱数値ＭＲ３がとりうる範囲のうち０～４５０を超える値が割り当てられている。一方、はずれ用変動パターン判定テーブルＡ～Ｃでは、スーパーリーチの変動パターンに対して変動パターン判定用の乱数値ＭＲ３がとりうる範囲のうち７０１～９９７までの値が割り当てられている。

【１１８６】

このため、後述する１５３ＳＧＳ１３２においてははずれ用変動パターン判定テーブルＡを用いて変動パターン（変動カテゴリ）を判定することで、非リーチとスーパーリーチの判定は、該判定後に保留記憶数が変化しても必ず非リーチまたはスーパーリーチの変動パターンとなるので、始動入賞時の判定においては、はずれ用変動パターン判定テーブルＡを用いて判定するようになっている。

【１１８７】

図14-16(A)に示すように、153SGS123にて大当り判定範囲内であると判定された場合、つまり、可変表示時に大当りとなると判定された場合には(153SGS123;Y)、大当り種別判定用の乱数値MR2に基づいて、大当り種別を判定する(153SGS130)。このとき、CPU103は、始動口バッファ値に対応して特定される変動特図(「1」に対応する「第1特図」または「2」に対応する「第2特図」)に応じて、大当り種別判定テーブルを構成するテーブルデータから大当り種別判定用テーブルデータを選択する。そして、選択した大当り種別判定用テーブルデータを参照することにより、大当り種別が複数種別のいずれに判定されるかを判定する。

【1188】

また、153SGS130において判定した大当り種別に応じた図柄指定コマンドの送信設定を実行し(153SG131)、大当り変動パターンを複数のいずれかに判定するためのテーブルとして、大当り用変動パターン判定テーブルを選択してセットする(153SG132)。

【1189】

また、153SGS124にて小当り判定範囲内であると判定された場合、つまり、可変表示時に小当りとなると判定された場合には(153SGS124;Y)、小当り種別に応じた図柄指定コマンドの送信設定を実行する(153SG129)。

【1190】

153SGS127、153SGS128、153SGS129、153SGS132の処理のいずれかを実行した後は、153SGS127、153SGS128、153SGS129、153SGS132の処理にて設定された変動パターン判定テーブルと変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データとを用いて、乱数値MR3が含まれる判定値の範囲に応じた変動カテゴリを判定する(153SGS133)。本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-16(B)に示すように、少なくとも可変表示結果が「はずれ」となる場合に、合計保留記憶数にかかわらず共通して「非リーチ」の可変表示態様となる変動カテゴリと、「スーパーリーチ」の可変表示態様となる変動カテゴリと、「非リーチ」と「スーパーリーチ」以外の可変表示態様(例えばノーマルリーチや小当り)となる「その他」の変動カテゴリと、を設け、乱数値MR3に基づいて、このような変動カテゴリに決定されるか否かを判定できればよい。

【1191】

その後、153SGS132の処理による判定結果に応じた変動カテゴリ指定コマンドを、演出制御基板12に対して送信するための設定を行ってから(153SGS134)、入賞時乱数値判定処理を終了する。

【1192】

図14-17は、本実施の形態の特徴部153SGにおける演出制御プロセス処理(S76)のフローチャートの一部である。本実施の形態の特徴部153SGにおける演出制御プロセス処理では、図7に示す先読予告設定処理(S161)の実行後に、第1保留記憶表示エリア153SG005D及び第2保留記憶表示エリア153SG005Uに表示されている保留記憶表示の表示態様や表示数を図14-13(B)に示す始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aに応じて更新する保留表示更新処理を実行した後に図7に示すS170~S177のいずれかの処理を実行するようになっている。

【1193】

図14-18は、演出制御用CPU120が図14-17に示す演出制御プロセス処理において実行する先読予告設定処理(S161)を示すフローチャートである。先読予告設定処理において演出制御用CPU120は、まず、図14-13(B)に示す始動入賞時受信コマンドバッファ153SG194Aの内容をチェックし(153SGS241)、保留表示フラグがセットされていないエントリが有るか否かを判定する(153SGS242)。保留表示フラグがセットされていないエントリが無い場合は先読予告設定処理を終了し、保留表示フラグがセットされていないエントリが有る場合は、既に保留表示フラグの値が1~4のいずれかにセットされているエントリが有るか否かを判定する(15

10

20

30

40

50

3 S G S 2 4 3)。

【1194】

既に保留表示フラグの値が1～4のいずれかにセットされているエントリが有る場合、つまり、既に保留表示予告演出が実行されている場合は、該エントリ（153SGS242にて保留表示フラグがセットされていないと判定したエントリ）の保留表示フラグに保留表示予告演出の非実行に対応する「0」をセット（つまり、該エントリに対応する保留記憶表示を「○」で表示することを決定）して先読予告設定処理を終了する（153SGS251）。後述するように、既に保留表示フラグの値が1～4のいずれかにセットされているエントリが有る場合とは、既に保留表示予告演出が実行されている場合である。つまり、153SGS243の処理では、既に保留表示予告演出が実行される場合は、新たな保留表示予告演出の実行を制限している。

10

【1195】

演出制御用CPU120は、153SGS243において、保留表示フラグの値の1～4のいずれかにセットされているエントリが無い場合は、該エントリ（153SGS242にて保留表示フラグがセットされていないと判定したエントリ）の図柄指定コマンドが大当たりを示しているか否かを判定する（153SGS244）。該エントリの図柄指定コマンドが大当たりを示している場合は、該エントリの図柄指定コマンドから大当たり種別を特定するとともに（153SGS245）、例えば乱数回路124や演出制御カウンタ設定部153SG193のランダムカウンタなどから抽出した保留表示予告演出用の乱数値を示す数値データと153SGS245において特定した大当たり種別に基づいて、図示しない大当たり時保留表示予告演出判定テーブルを参照することにより、保留表示予告演出の実行の有無と保留表示予告演出を実行する場合における表示パターンとを決定する（153SGS246）。

20

【1196】

153SG246においては、例えば、図14-19（A）に示すような決定割合で保留表示予告演出の実行の有無と表示パターン（予告種別）とを決定する。図14-19（A）に示す決定割合の設定例では、153SGS245の処理において特定した大当たり種別に応じて、保留表示予告演出の有無や表示パターン（予告種別）の決定割合を異ならせている。

【1197】

本実施の形態の特徴部153SGでは、保留表示予告演出の表示パターン（予告種別）として、表示パターンα、表示パターンβ、表示パターンγ、表示パターンδの4種類が設けられている。このうち、保留表示予告演出の表示パターンが表示パターンαに決定された場合には、保留記憶表示が白色の四角形（◇）で第1保留記憶表示エリア153SG005Dまたは第2保留記憶表示エリア153SG005Uに表示され、保留表示予告演出の表示パターンが表示パターンβに決定された場合には、保留記憶表示が白色の星型（☆）で第1保留記憶表示エリア153SG005Dまたは第2保留記憶表示エリア153SG005Uに表示され、保留表示予告演出の表示パターンが表示パターンγに決定された場合には、保留記憶表示が青色のカメラで第1保留記憶表示エリア153SG005Dまたは第2保留記憶表示エリア153SG005Uに表示され、保留表示予告演出の表示パターンが表示パターンδに決定された場合には、保留記憶表示が赤色のカメラで第1保留記憶表示エリア153SG005Dまたは第2保留記憶表示エリア153SG005Uに表示される。また、保留表示予告演出の非実行が決定された場合には、保留記憶表示が白色の丸形（○）で第1保留記憶表示エリア153SG005Dまたは第2保留記憶表示エリア153SG005Uに表示される。

30

40

【1198】

ここで、図14-19（A）に示すように、大当たり種別が大当たりA（非確変大当たり）である場合は、5%の割合で保留表示予告演出の非実行が決定され、55%の割合で表示パターンαでの保留表示予告演出の実行が決定され、20%の割合で表示パターンβでの保留表示予告演出の実行が決定され、10%の割合で表示パターンγでの保留表示予告演出

50

の実行が決定され、10%の割合で表示パターンδでの保留表示予告演出の実行が決定される。また、大当たり種別が大当たりBまたは大当たりC（確変大当たり）である場合は、5%の割合で保留表示予告演出の非実行が決定され、20%の割合で表示パターンαでの保留表示予告演出の実行が決定され、55%の割合で表示パターンβでの保留表示予告演出の実行が決定され、10%の割合で表示パターンγでの保留表示予告演出の実行が決定され、10%の割合で表示パターンδでの保留表示予告演出の実行が決定される。

【1199】

153SGS244に戻り、演出制御用CPU120は、該エントリの図柄指定コマンドがはずれや小当たりである場合は、該エントリの変動カテゴリ指定コマンドから変動カテゴリを特定し（153SGS248）、例えば乱数回路124や演出制御カウンタ設定部153SG193のランダムカウンタなどから抽出した保留表示予告演出用の乱数値を示す数値データと153SGS249において特定した大当たり種別に基づいて、図示しない小当たり・はずれ時保留表示予告演出判定テーブルを参照することにより、保留表示予告演出の実行の有無と表示パターンとを決定する。

【1200】

具体的には、図14-19（B）に示すように、可変表示結果がはずれであり変動カテゴリが非リーチである場合は、95%の割合で保留表示予告演出の非実行が決定され、5%の割合で表示パターンαでの保留表示予告演出の実行が決定され、0%の割合で表示パターンβでの保留表示予告演出の実行が決定され、0%の割合で表示パターンγでの保留表示予告演出の実行が決定され、0%の割合で表示パターンδでの保留表示予告演出の実行が決定される。また、可変表示結果がはずれまたは小当たりであり変動カテゴリがその他である場合（ノーマルリーチはずれまたは小当たりである場合）は、75%の割合で保留表示予告演出の非実行が決定され、20%の割合で表示パターンαでの保留表示予告演出の実行が決定され、5%の割合で表示パターンβでの保留表示予告演出の実行が決定され、0%の割合で表示パターンγでの保留表示予告演出の実行が決定され、0%の割合で表示パターンδでの保留表示予告演出の実行が決定される。また、可変表示結果がはずれであり変動カテゴリがスーパーリーチである場合は、55%の割合で保留表示予告演出の非実行が決定され、25%の割合で表示パターンαでの保留表示予告演出の実行が決定され、10%の割合で表示パターンβでの保留表示予告演出の実行が決定され、5%の割合で表示パターンγでの保留表示予告演出の実行が決定され、5%の割合で表示パターンδでの保留表示予告演出の実行が決定される。

【1201】

つまり、図14-19（A）及び図14-19（B）に示すように本実施の形態の特徴部153SGにおいては、保留表示予告演出が実行される場合は保留表示予告演出が実行されない場合よりも高い割合で大当たり遊技状態に制御されるようになっており、表示パターンβにて保留表示予告演出が実行される場合は、表示パターンαにて保留表示予告演出が実行される場合よりも高い割合で大当たり種別が大当たりBまたは大当たりC（確変大当たり）となるように設定されている。このような設定により、可変表示結果が「大当たり」であり、かつ表示パターン（予告種別）として表示パターンβの表示が実行された場合は、表示パターンαの表示が実行された場合よりも大当たり種別が確変大当たりである割合が高くなり、遊技者の確変大当たりとなることに対する期待度を高めることができる。

【1202】

表示パターンγや表示パターンδは、後述する設定示唆演出の実行を示唆する表示パターンであるため、表示パターンαや表示パターンβよりも大当たり遊技状態に制御されることに対する期待度（大当たり期待度）が高くなるように設定されていないとともに、大当たり種別が大当たりBや大当たりCとなることに対する期待度（確変大当たり期待度）が同一となっている。

【1203】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、可変表示結果が大当たりとなる場合に決定可能な変動パターンはノーマルリーチとスーパーリーチの変動パターンであり、図14-1

10

20

30

40

50

9に示すように、表示パターンγや表示パターンδが決定される場合とは可変表示結果が大当たりもしくは可変表示結果がはずれであり変動カテゴリがスーパーリーチである場合である。つまり、表示パターンγや表示パターンδ（青色や赤色のカメラの態様）の保留記憶表示は、後述する設定示唆演出を実行可能なスーパーリーチの可変表示であることも示唆している。一方で、図14-19（B）に示すように、変動カテゴリが非リーチやその他（ノーマルリーチや小当たり）である場合、すなわち、特図変動時間がスーパーリーチよりも短いと判定された場合には、保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示されることがない。

【1204】

図14-18に戻り、演出制御用CPU120は、153SGS246または153SGS249の処理の実行後、保留表示予告演出の実行を決定したか否かを判定する（153SGS250）。保留表示予告演出の実行を決定している場合は、該エントリの保留表示フラグに153SGS246または153SGS249の処理にて決定した表示パターンに対応した値（1～4のいずれか）をセットして先読予告設定処理を終了する（153SGS247）。尚、保留表示予告演出の非実行を決定している場合は、該エントリの保留表示フラグに保留表示予告演出の非実行に対応する「0」をセットして先読予告設定処理を終了する（153SGS251）。

【1205】

図14-20は、図7に示された演出制御プロセス処理における可変表示開始設定処理（S171）を示すフローチャートである。可変表示開始設定処理において、演出制御用CPU120は、まず、第1変動開始コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する（153SGS271）。第1変動開始コマンド受信フラグがセットされている場合は（153SGS271；Y）、図示しない始動入賞時受信コマンドバッファにおける第1特図保留記憶のバッファ番号「1-0」～「1-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグ（すなわち、可変表示中である第1特別図柄に対応する各種コマンドデータと各種フラグ、1個目～4個目の第1特図保留記憶に対応する各種コマンドデータと各種フラグ）を、バッファ番号1個分ずつ上位にシフトする（153SGS272）。尚、バッファ番号「1-0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないので消去される。

【1206】

具体的には、第1特図保留記憶のバッファ番号「1-1」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「1-0」に対応付けて格納するようにシフトし、第1特図保留記憶のバッファ番号「1-2」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「1-1」に対応付けて格納するようにシフトし、第1特図保留記憶のバッファ番号「1-3」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「1-2」に対応付けて格納するようにシフトし、第1特図保留記憶のバッファ番号「1-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「1-3」に対応付けて格納するようにシフトする。

【1207】

また、153SGS271において第1変動開始コマンド受信フラグがセットされていない場合は（153SGS271；N）、第2変動開始コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する（153SGS273）。第2変動開始コマンド受信フラグがセットされていない場合は（153SGS273；N）、可変表示開始設定処理を終了し、第2変動開始コマンド受信フラグがセットされている場合は（153SGS273；Y）、図示しない始動入賞時受信コマンドバッファにおける第2特図保留記憶のバッファ番号「2-0」～「2-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグ（すなわち、可変表示中である第2特別図柄に対応する各種コマンドデータと各種フラグ、1個目～4個目の第2特図保留記憶に対応する各種コマンドデータと各種フラグ）を、バッファ番号1個分ずつ上位にシフトする（153SGS274）。尚、バッファ番号「2-0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないの

10

20

30

40

50

で消去される。

【1208】

具体的には、第2特図保留記憶のバッファ番号「2-1」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「2-0」に対応付けて格納するようにシフトし、第2特図保留記憶のバッファ番号「2-2」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「2-1」に対応付けて格納するようにシフトし、第2特図保留記憶のバッファ番号「2-3」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「2-2」に対応付けて格納するようにシフトし、第2特図保留記憶のバッファ番号「2-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「2-3」に対応付けて格納するようにシフトする。

10

【1209】

153SGS272または153SGS274の実行後、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンド格納領域から変動パターン指定コマンドを読み出す(153SGS275)。

【1210】

次いで、表示結果指定コマンド格納領域に格納されているデータ(即ち、受信した表示結果指定コマンド)に応じて飾り図柄の表示結果(停止図柄)を決定する(153SGS276)。この場合、演出制御用CPU120は、表示結果指定コマンドで指定される表示結果に応じた飾り図柄の停止図柄を決定し、決定した飾り図柄の停止図柄を示すデータを飾り図柄表示結果格納領域に格納する。

20

【1211】

尚、本特徴部153SGでは、受信した可変表示結果指定コマンドが大当たりAに該当する第2可変表示結果指定コマンドである場合において、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄として3図柄が偶数図柄で揃った飾り図柄の組合せ(大当たり図柄)を決定する。また、受信した可変表示結果指定コマンドが大当たりBに該当する第3可変表示結果指定コマンドである場合においては、停止図柄として、「7」以外の奇数図柄の複数の組合せ(例えば「111」、「333」、「555」、「999」などの飾り図柄の組合せ)の中から決定する。また、受信した可変表示結果指定コマンドが大当たりCに該当する第4可変表示結果指定コマンドである場合においては、停止図柄として3図柄が「7」で揃った飾り図柄の組合せ(大当たり図柄)を決定する。また、受信した可変表示結果指定コマンドが小当りに該当する第5可変表示結果指定コマンドである場合においては、停止図柄として、小当たりであることを示すチャンス目(3図柄が特定の法則の下で不揃いとなる「334」、「556」、「778」等)の中から決定する。また、受信した可変表示結果指定コマンドが、はずれに該当する第1可変表示結果指定コマンドである場合には、停止図柄として3図柄が不揃いとなる飾り図柄であって、上記したチャンス目以外の組合せ(はずれ図柄)を決定する。

30

【1212】

これら停止図柄の決定においては、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄を決定するための乱数を抽出し、飾り図柄の組合せを示すデータと数値とが対応付けられている停止図柄判定テーブルを用いて、飾り図柄の停止図柄を決定すればよい。即ち、抽出した乱数に一致する数値に対応する飾り図柄の組合せを示すデータを選択することによって停止図柄を決定すればよい。

40

【1213】

次いで、演出制御用CPU120は、当該可変表示の変動パターンがスーパーリーチの変動パターンであるか否かを判定する(153SGS277)。当該可変表示の変動パターンがスーパーリーチの変動パターンでない場合は153SGS285に進み、当該可変表示の変動パターンがスーパーリーチの変動パターンである場合は、当該可変表示のリーチ演出中において後部可変表示中示唆演出を実行するか否か及び該後部可変表示中示唆演出としていずれの演出を実行するかを決定する後部可変表示中示唆演出決定処理を実行する(153SGS278)。つまり、本実施の形態の特徴部153SGでは、153SG

50

S 2 7 7 ~ 1 5 3 S G 2 7 8 に示すように、後部可変表示中示唆演出（大当り示唆演出や設定示唆演出）は、特図変動時間が長いスーパーリーチの変動パターンの可変表示でのみ実行可能であり、特図変動時間が短いノーマルリーチや非リーチの変動パターンの可変表示では実行されることがない。

【1 2 1 4】

尚、本実施の形態の特徴部 1 5 3 S G におけるスーパーリーチの可変表示においては、図 1 4 - 2 8 に示すように、可変表示の開始タイミングから前部可変表示中示唆演出として当該可変表示結果が大当りとなること画像表示装置 5 に表示するキャラクタによって示唆するキャラクタ演出または当該可変表示結果が大当りとなること示唆するとともに後部可変表示中示唆演出の実行開始までの期間を示唆するタイマ演出を実行可能であるとともに、該可変表示の後半であるリーチ演出中に後部可変表示中示唆演出として当該可変表示結果が大当りとなることを示唆する大当り示唆演出またはパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値を示唆する設定示唆演出を実行可能となっている。つまり、1 5 3 S G S 2 7 8 の処理は、後部可変表示中示唆演出を実行するか否かと該後部可変表示中示唆演出としてリーチ演出中に大当り示唆演出と設定示唆演出のどちらを実行するかを決定する処理である。

【1 2 1 5】

そして、演出制御用 CPU 1 2 0 は、1 5 3 S G S 2 7 8 の処理において後部可変表示中示唆演出（大当り示唆演出と設定示唆演出のどちらか）の実行を決定したか否かを判定する（1 5 3 S G S 2 7 9）。1 5 3 S G S 2 7 8 の処理において後部可変表示中示唆演出の非実行を決定した場合は 1 5 3 S G S 2 8 5 に進み、1 5 3 S G S 2 7 8 の処理において後部可変表示中示唆演出の実行を決定した場合は、更に当該可変表示の開始時から前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出とタイマ演出のどちらを実行するかを決定する前部可変表示中示唆演出決定処理を実行する（1 5 3 S G S 2 8 0）。つまり、本実施の形態の特徴部 1 5 3 S G では、後部可変表示中演出の実行が決定されなければ前部可変表示中示唆演出の実行を決定することが無い、すなわち、設定示唆演出を実行不能な非リーチやノーマルリーチの可変表示においては前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出やキャラクタ演出が実行されることが無い。

【1 2 1 6】

そして、演出制御用 CPU 1 2 0 は、前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行を決定したか否かを判定する（1 5 3 S G S 2 8 1）。前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行を決定した場合は、後部可変表示中示唆演出開始待ちタイマに後部可変表示中示唆演出開始までの期間（図 1 4 - 2 8 （A）に示すようにリーチ演出の開始から 5 秒後）に応じた値をセットして 1 5 3 S G S 2 8 5 に進み（1 5 3 S G S 2 8 2）、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出の実行を決定した場合は、後部可変表示中示唆演出開始待ちタイマに後部可変表示中示唆演出開始までの期間（図 1 4 - 2 8 （B）に示すように、タイマ演出の演出パターンに応じた値（具体的には、タイマ演出の演出パターンが 2 5 秒間の演出期間であるパターン T S - 1 である場合はリーチ演出の開始から 5 秒後、タイマ演出の演出パターンが 3 0 秒間の演出期間であるパターン T S - 2 である場合はリーチ演出の開始から 1 0 秒後）をセットして 1 5 3 S G S 2 8 5 に進む（1 5 3 S G S 2 8 3）。

【1 2 1 7】

そして、演出制御用 CPU 1 2 0 は、1 5 3 S G S 2 8 5 において、変動パターンに応じた演出制御パターン（プロセステーブル）を選択する。そして、選択したプロセステーブルのプロセスデータ 1 におけるプロセスタイマをスタートさせる（1 5 3 S G S 2 8 6）。

【1 2 1 8】

尚、プロセステーブルには、画像表示装置 5 の表示を制御するための表示制御実行データ、各 LED の点灯を制御するためのランプ制御実行データ、スピーカ 8 L, 8 R から出力する音の制御するための音制御実行データや、プッシュボタン 3 1 B やスティックコン

10

20

30

40

50

トローラ 3 1 A の操作を制御するための操作部制御実行データ等が、各プロセスデータ n (1 ~ N 番まで) に対応付けて時系列に順番配列されている。

【1 2 1 9】

次いで、演出制御用 CPU 1 2 0 は、プロセスデータ 1 の内容 (表示制御実行データ 1、ランプ制御実行データ 1、音制御実行データ 1、操作部制御実行データ 1) に従って演出装置 (演出用部品としての画像表示装置 5、演出用部品としての各種ランプ及び演出用部品としてのスピーカ 8 L, 8 R、操作部 (プッシュボタン 3 1 B、スティックコントローラ 3 1 A 等)) の制御を実行する (1 5 3 S G S 2 8 7)。例えば、画像表示装置 5 において変動パターンに応じた画像を表示させるために、表示制御部 1 2 3 に指令を出力する。また、各種ランプを点灯/消灯制御を行わせるために、ランプ制御基板 1 4 に対して制御信号 (ランプ制御実行データ) を出力する。また、スピーカ 8 L, 8 R からの音声出力を行わせるために、音声制御基板 1 3 に対して制御信号 (音番号データ) を出力する。

10

【1 2 2 0】

尚、本特徴部 1 5 3 S G では、演出制御用 CPU 1 2 0 は、変動パターン指定コマンドに 1 対 1 に対応する変動パターンによる飾り図柄の可変表示が行われるように制御するが、演出制御用 CPU 1 2 0 は、変動パターン指定コマンドに対応する複数種類の変動パターンから、使用する変動パターンを選択するようにしてもよい。

【1 2 2 1】

そして、可変表示時間タイマに、変動パターン指定コマンドで特定される可変表示時間に相当する値を設定する (1 5 3 S G S 2 8 8)。また、可変表示制御タイマに所定時間 (1 5 3 S G S 2 8 9) を設定する。尚、所定時間は例えば 3 0 m s であり、演出制御用 CPU 1 2 0 は、所定時間が経過する毎に左中右の飾り図柄の表示状態を示す画像データを V R A M に書き込み、表示制御部 1 2 3 が V R A M に書き込まれた画像データに応じた信号を画像表示装置 5 に出力し、画像表示装置 5 が信号に応じた画像を表示することによって飾り図柄の可変表示 (変動) が実現される。次いで、演出制御プロセスフラグの値を可変表示中演出処理 (S 1 7 2) に対応した値に更新して可変表示開始設定処理を終了する (1 5 3 S G S 2 9 0)。

20

【1 2 2 2】

図 1 4 - 2 1 は、図 1 4 - 2 0 に示された可変表示開始設定処理における後部可変表示中示唆演出決定処理 (1 5 3 S G S 2 7 8) を示すフローチャートである。図 1 4 - 2 1 に示す後部可変表示中示唆演出決定処理において演出制御用 CPU 1 2 0 は、図 1 4 - 1 3 (B) に示す始動入賞時受信コマンドバッファ 1 5 3 S G 1 9 4 A を参照して当該可変表示に対応する保留表示フラグの値を特定する (1 5 3 S G S 3 0 1)。尚、該処理では、第 1 可変表示開始コマンド受信フラグがセットされている場合には始動入賞時受信コマンドバッファ 1 5 3 S G 1 9 4 A の「1 - 0」のエントリの保留表示フラグの値を特定し、第 2 可変表示開始コマンド受信フラグがセットされている場合には始動入賞時受信コマンドバッファ 1 5 3 S G 1 9 4 A の「2 - 0」のエントリを特定すればよい。

30

【1 2 2 3】

次いで、演出制御用 CPU 1 2 0 は、1 5 3 S G S 3 0 1 において特定した保留表示フラグの値にもとづいて後部可変表示中示唆演出の実行の有無及び後部可変表示中示唆演出として実行する演出を決定する (1 5 3 S G S 3 0 2)。

40

【1 2 2 4】

具体的には、図 1 4 - 2 2 (A) に示すように、1 5 3 S G S 3 0 1 において特定した保留表示フラグの値が「0」である場合、すなわち、当該可変表示を対象として保留表示予告演出が実行されていなかった場合は、9 0 % の割合で後部可変表示中示唆演出の非実行を決定し、1 0 % の割合で後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出の実行を決定し、0 % の割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行を決定する。また、1 5 3 S G S 3 0 1 において特定した保留表示フラグの値が「1」または「2」である場合、つまり、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が白色の四角形または星形にて表示されていた場合は、5 0 % の割合で後部可変表示中示唆演出の非

50

実行を決定し、50%の割合で後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出の実行を決定し、0%の割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行を決定する。

【1225】

更に、153SGS301において特定した保留表示フラグの値が「3」である場合、つまり、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が青色のカメラにて表示されていた場合は、30%の割合で後部可変表示中示唆演出の非実行を決定し、35%の割合で後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出の実行を決定し、35%の割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行を決定する。そして、153SGS301において特定した保留表示フラグの値が「4」である場合、つまり、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が赤色のカメラにて表示されていた場合は、0%の割合で後部可変表示中示唆演出の非実行を決定し、30%の割合で後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出の実行を決定し、70%の割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行を決定する。

10

【1226】

つまり、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、当該可変表示を対象として保留表示予告演出が実行されていた場合は、当該可変表示を対象として保留表示予告演出が実行されていなかった場合よりも高い割合で後部可変表示中示唆演出の実行が決定されるように設定されている。更に、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が青色や赤色のカメラにて表示されていた場合（保留表示フラグの値が「3」や「4」である場合）は、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が白色の四角形や星形にて表示されていた場合（保留表示フラグの値が「1」や「2」である場合）よりも高い割合で後部可変表示中示唆演出の実行が決定されるように設定されているとともに、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が白色の四角形や星形にて表示されていた場合よりも高い割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行が決定されるように設定されている。

20

【1227】

また、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が青色や赤色のカメラにて表示されていた場合（保留表示フラグの値が「3」や「4」である場合）に着目すると、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が赤色のカメラにて表示されていた場合は、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が青色のカメラにて表示されていた場合よりも高い割合で後部可変表示中示唆演出の実行が決定されるように設定されているとともに、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が青色のカメラにて表示されていた場合よりも高い割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行が決定されるように設定されている。

30

【1228】

以上から、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が四角形や星形にて表示されていた場合は、後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出が実行されるか否かに対して遊技者を注目させることができる一方で、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が青色や赤色のカメラにて表示されていた場合は、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行されるか否かに対して遊技者を注目させることができるようになっている。

40

【1229】

更に、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が赤色のカメラにて表示されていた場合は、当該可変表示を対象とした保留表示予告演出として保留記憶表示が青色のカメラにて表示されていた場合よりも後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行される割合が高いので、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行されるか否かに対してより一層遊技者を注目させることができるようになっている。

【1230】

図14-21に戻り、演出制御用CPU120は、153SGS302の処理において後部可変表示中示唆演出の実行を決定したか否かを判定する（153SGS303）。1

50

5 3 S G S 3 0 2 の処理において後部可変表示中示唆演出の非実行を決定した場合は、後部可変表示中示唆演出決定処理を終了し、1 5 3 S G S 3 0 2 の処理において後部可変表示中示唆演出の実行を決定した場合は、更に、1 5 3 S G S 3 0 2 の処理において後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出の実行を決定したか否かを判定する（1 5 3 S G S 3 0 4）。

【1 2 3 1】

1 5 3 S G S 3 0 2 の処理において後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出の実行を決定した場合は、可変表示結果にもとづいて大当り示唆演出の演出パターンを決定して記憶し、後部可変表示中示唆演出決定処理を終了する（1 5 3 S G S 3 0 5）。

【1 2 3 2】

尚、1 5 3 S G S 3 0 5 の処理において決定可能な演出パターンとしては、図 1 4 - 2 2（B）に示すように、パターン A S - 1 ~ パターン A S - 3 までの計 3 個の演出パターンが設けられている。これら演出パターンのうちパターン A S - 1 は、当該可変表示結果が大当りとなる割合（大当り期待度）が最も低いことを示唆する演出パターン（大当り期待度：低）であり、パターン A S - 2 は、当該可変表示結果が大当りとなる割合がパターン A S - 1 よりも高いことを示唆する演出パターン（大当り期待度：中）であり、パターン A S - 3 は、当該可変表示結果が大当りとなる割合が最も高いことを示唆する演出パターン（大当り期待度：高）である。

【1 2 3 3】

そして、前述した 1 5 3 S G S 3 0 5 の処理では、図 1 4 - 2 3 に示すように、演出制御用 CPU 1 2 0 は、可変表示結果が大当りである場合は、大当り示唆演出の演出パターンを 1 0 % の割合でパターン A S - 1 に決定し、3 0 % の割合でパターン A S - 2 に決定し、6 0 % の割合でパターン A S - 3 に決定する。

【1 2 3 4】

一方、1 5 3 S G S 3 0 2 の処理において後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行を決定した場合、演出制御用 CPU 1 2 0 は、RAM 1 2 2 を参照し、CPU 1 0 3 から受信した設定値指定コマンドから設定値（パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値）を特定する（1 5 3 S G S 3 0 6）。そして、演出制御用 CPU 1 2 0 は、特定した設定値にもとづいて設定示唆演出の演出パターンを決定して記憶し、後部可変表示中示唆演出決定処理を終了する（1 5 3 S G S 3 0 7）。

【1 2 3 5】

尚、1 5 3 S G 3 0 7 において決定可能な演出パターンとしては、図 1 4 - 2 2（B）に示すように、パターン S S - 1 ~ パターン S S - 5 までの計 5 個のパターンが設けられている。これらパターン S S - 1 ~ パターン S S - 5 のうち、パターン S S - 1 は、設定値が奇数（例えば 1、3、5）である可能性を示唆し、パターン S S - 2 は、設定値が偶数（例えば、2、4、6）である可能性を示唆し、パターン S S - 3 は、設定値が奇数寄りの中間設定以上（例えば、3 または 5）である可能性を示唆し、パターン S S - 4 は、設定値が偶数寄りの中間設定以上（例えば、4 または 6）である可能性を示唆し、パターン S S - 5 は、設定値が最高設定（例えば、6）である可能性を示唆する。

【1 2 3 6】

そして、パターン S S - 1 及び S S - 2 については、設定値が 1 ~ 4（低設定）のいずれかである場合に高い割合で決定されることで、設定値 5、6（高設定）のいずれかであることの期待度が低いとされ、パターン S S - 3 及びパターン S S - 4 については、設定値が 5、6 のいずれかである場合に高い割合で決定されることで、設定値 5、6 であることの期待度が高いとされている。

【1 2 3 7】

尚、本特徴部 1 5 3 S G では、設定値 1 ~ 4 を低設定、設定値 5、6 を高設定として説明するが、設定値 1 ~ 3 を低設定、設定値 4 ~ 6 を高設定としてもよいし、設定値 1、2 を低設定、設定値 3、4 を中間設定、設定値 5、6 を高設定として演出パターンの実行割合を設定するようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【1238】

前述した153SGS307の処理において演出制御用CPU120は、図14-24に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1である場合は、演出パターンを60%の割合でパターンSS-1に決定し、25%の割合でパターンSS-2に決定し、9%の割合でパターンSS-3に決定し、6%の割合でパターンSS-4に決定し、0%の割合でパターンSS-5に決定する。また、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が2である場合は、演出パターンを25%の割合でパターンSS-1に決定し、60%の割合でパターンSS-2に決定し、6%の割合でパターンSS-3に決定し、9%の割合でパターンSS-4に決定し、0%の割合でパターンSS-5に決定する。また、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が3である場合は、演出パターンを50%の割合でパターンSS-1に決定し、20%の割合でパターンSS-2に決定し、20%の割合でパターンSS-3に決定し、10%の割合でパターンSS-4に決定し、0%の割合でパターンSS-5に決定する。

10

【1239】

また、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4である場合は、演出パターンを20%の割合でパターンSS-1に決定し、50%の割合でパターンSS-2に決定し、10%の割合でパターンSS-3に決定し、20%の割合でパターンSS-4に決定し、0%の割合でパターンSS-5に決定する。また、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が5である場合は、演出パターンを20%の割合でパターンSS-1に決定し、30%の割合でパターンSS-2に決定し、30%の割合でパターンSS-3に決定し、20%の割合でパターンSS-4に決定し、0%の割合でパターンSS-5に決定する。また、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が6である場合は、演出パターンを30%の割合でパターンSS-1に決定し、20%の割合でパターンSS-2に決定し、15%の割合でパターンSS-3に決定し、30%の割合でパターンSS-4に決定し、5%の割合でパターンSS-5に決定する。

20

【1240】

このように、本特徴部153SGでは、設定値示唆演出がパターンSS-1やパターンSS-2にて実行されることで設定値が1~4のいずれかであることが示唆され、設定値示唆演出がパターンSS-3やパターンSS-4にて実行されることによって設定値が5または6であることが示唆される。そして、設定示唆演出がパターンSS-5にて実行される場合は、設定値が6であることが確定する。

30

【1241】

図14-25は、図14-20に示す可変表示開始設定処理において演出制御用CPU120が実行する前部可変表示中示唆演出決定処理(153SGS280)を示すフローチャートである。図14-25に示す前部可変表示中示唆演出決定処理において演出制御用CPU120は、まず、当該可変表示の可変表示結果を特定する(153SGS311)。また、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行が決定されているか否かを判定する(153SGS312)。

【1242】

後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出の実行が決定されている場合は、大当り示唆演出の実行と可変表示結果にもとづいて前部可変表示中示唆演出の実行の有無及び前部可変表示中示唆演出として実行する演出をキャラクタ演出とタイマ演出とから決定する(153SGS313)。具体的には、図14-26(A)に示すように、可変表示結果が大当りである場合は、40%の割合で前部可変表示中示唆演出の非実行を決定し、30%の割合で前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行を決定し、30%の割合で前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出の実行を決定する。また、可変表示結果がはずれである場合は、70%の割合で前部可変表示中示唆演出の非実行を決定し、25%の割合で前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行を決定し、5%の割合で前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出の実行を決定する。

40

【1243】

50

つまり、後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出の実行が決定されている場合については、可変表示結果が大当りである場合は可変表示結果がはずれである場合よりも高い割合で前部可変表示中示唆演出の実行が決定されるとともに、可変表示結果が大当りである場合は前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行とタイマ演出の実行とが同一割合で決定される一方で、可変表示結果がはずれである場合は前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行がタイマ演出の実行よりも高い割合で決定される、つまり、タイマ演出の大当り期待度がキャラクタ演出の大当り期待度よりも高く設定されている。

【1244】

また、演出制御用CPU120は、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行が決定されている場合は、設定示唆演出の実行と可変表示結果にもとづいて前部可変表示中示唆演出の実行の有無及び前部可変表示中示唆演出として実行する演出をキャラクタ演出とタイマ演出とから決定する(153SGS314)。具体的には、図14-26(B)に示すように、可変表示結果が大当りである場合は、30%の割合で前部可変表示中示唆演出の非実行を決定し、0%の割合で前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行を決定し、70%の割合で前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出の実行を決定する。また、可変表示結果がはずれである場合は、80%の割合で前部可変表示中示唆演出の非実行を決定し、0%の割合で前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行を決定し、20%の割合で前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出の実行を決定する。

【1245】

つまり、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行が決定されている場合については、可変表示結果が大当りである場合は可変表示結果がはずれである場合よりも高い割合で前部可変表示中示唆演出の実行が決定されるとともに、可変表示結果が大当りであるかははずれであるかにかかわらず前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行が決定されることが無いように設定されている、つまり、タイマ演出の大当り期待度がキャラクタ演出の大当り期待度よりも高く設定されている。

【1246】

このため、可変表示結果が大当りである場合は、結果的に可変表示結果がはずれである場合よりも高い割合でタイマ演出の実行が決定されるようになっているので、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出が実行される場合は、可変表示結果が大当りとなることに對して遊技者を注目させることが可能となっている。

【1247】

そして、図14-25に示すように、演出制御用CPU120は、153SGS313または153SGS314の実行後、前部可変表示中示唆演出の実行を決定したか否かを判定する(153SGS315)。前部可変表示中示唆演出の非実行を決定している場合は前部可変表示中示唆演出決定処理を終了し、前部可変表示中示唆演出の実行を決定している場合は、更に前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行を決定しているか否かを判定する(153SGS316)。

【1248】

前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行を決定している場合は、可変表示結果にもとづいてキャラクタ演出の演出パターンを決定するとともに記憶し、前部可変表示中示唆演出決定処理を終了する(153SGS317)。

【1249】

尚、153SGS317の処理において決定可能なキャラクタ演出の演出パターンとしては、図14-26(C)に示すように、パターンCS-1及びパターンCS-2の計2個の演出パターンが設けられている。これら演出パターンのうちパターンCS-1は、画像表示装置5において図示しないキャラクタAを表示することによって可変表示結果が大当りとなる割合が最も低いことを示唆する演出パターン(大当り期待度：低)であり、パターンCS-2は、画像表示装置5において図示しないキャラクタBを表示することによって可変表示結果が大当りとなる割合がパターンCS-1よりも高いことを示唆する演出パターン(大当り期待度：中)である。

【1250】

このため、153SGS317の処理において演出制御用CPU120は、図14-27(A)に示すように、可変表示結果が大当りである場合は、キャラクタ演出の演出パターンを20%の割合でパターンCS-1に決定し、80%の割合でパターンCS-2に決定する。一方で、可変表示結果がはずれである場合は、キャラクタ演出の演出パターンを80%の割合でパターンCS-1に決定し、20%の割合でパターンCS-2に決定する。

【1251】

また、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出の実行を決定している場合は、演出制御用CPU120は、後部可変表示中示唆演出として実行が決定されている演出にもとづいてタイマ演出の演出パターンを決定するとともに記憶し、前記部可変表示中示唆演出決定処理を終了する(153SGS318)。

10

【1252】

153SGS318の処理において決定可能なタイマ演出の演出パターンとしては、図14-26(C)に示すように、パターンTS-1及びパターンTS-2の計2個の演出パターンが設けられている。これら演出パターンのうちパターンTS-1は、画像表示装置5において可変表示結果が大当りとなる割合がキャラクタ演出のパターンCS-1やパターンCS-2よりも高いことを示唆する(大当り期待度:高)とともに後部可変表示中示唆演出の実行開始までの期間をキャラクタXの画像とともに25秒間に亘って示唆する演出であり、パターンTS-2は、画像表示装置5において可変表示結果が大当りとなる割合がキャラクタ演出のパターンCS-1やパターンCS-2よりも高いことを示唆する(大当り期待度:高)とともに後部可変表示中示唆演出の実行開始までの期間をキャラクタYの画像とともに25秒間に亘って示唆する演出である(図14-27(C)及び図14-29(D)及び図14-29(E)参照)。

20

【1253】

このため、153SGS318の処理において演出制御用CPU120は、図14-27(B)に示すように、実行が決定されている後部可変表示中示唆演出が大当り示唆演出である場合は、タイマ演出の演出パターンを、80%の割合でパターンTS-1に決定し、20%の割合でパターンTS-2に決定する。また、演出制御用CPU120は、実行が決定されている後部可変表示中示唆演出が設定示唆演出である場合は、80%の割合でパターンTS-1に決定し、20%の割合でパターンTS-2に決定する。

30

【1254】

つまり、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出が実行される場合においては、該タイマ演出がパターンTS-1にて実行される場合よりもパターンTS-2にて実行される場合(つまり、タイマ演出の演出期間が長く、且つ画像表示装置5においてキャラクタAよりもキャラクタBが表示される場合)の方が後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行される割合が高く設定されている。このため、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、タイマ演出の演出期間や画像表示装置5に表示されるキャラクタに対して遊技者を注目させることができる。また、タイマ演出がパターンTS-2にて実行される場合は、タイマ演出がパターンTS-1にて実行される場合よりも遊技者に設定示唆演出が実行されることを期待させることができるので遊技興趣の向上を図ることができる。

40

【1255】

以上、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、図14-26(D)に示すように、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出が実行される場合については、前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出が実行される場合よりも大当り期待度が高く設定されているとともに、前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出が実行される場合よりも高い割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行されるようになっている。

【1256】

図14-20~図14-28に示すように、可変表示中における前部可変表示中示唆演出の実行を決定した場合、演出制御用CPU120は、可変表示中演出処理(S172)において、決定した前部可変表示中示唆演出の演出パターンに応じたプロセスデータをセ

50

ットし、以降の可変表示中演出処理（S172）においてプロセスタイマに応じたプロセスデータの内容にしたがって演出装置を制御すればよい。また、可変表示中における後部可変表示中示唆演出の実行を決定した場合、演出制御用CPU120は、可変表示中演出処理を実行する毎に後部可変表示中示唆演出開始待ちタイマの値を－1していき、該後部可変表示中示唆演出開始待ちタイマの値が0になったことにもとづいて、決定した後部可変表示中示唆演出の演出パターンに応じたプロセスデータをセットする。そして、以降の可変表示中演出処理（S172）においてプロセスタイマに応じたプロセスデータの内容にしたがって演出装置を制御すればよい。

【1257】

尚、図14-28（A）及び図14-28（B）に示すように、本特徴部153SGにおける後部可変表示中示唆演出としての大当り示唆演出や設定示唆演出は、リーチ演出の実行期間中において非リーチの変動パターンの特図変動時間よりも長い期間（図14-6参照）である7秒間に亘って実行される。このため、仮に遊技者が画像表示装置5から一瞬目を離れたとしても、遊技者が大当り示唆演出や設定示唆演出を見逃してしまうことを防ぐことが可能となっている。

【1258】

次に、本特徴部153SGにおける可変表示中の演出態様について図14-29～図14-31にもとづいて説明する。先ず、図14-29（A）及び図14-29（B）に示すように、可変表示中に新たな始動入賞が発生し、該始動入賞にもとづいて先読予告演出として保留記憶表示の表示パターンが表示パターンγまたは表示パターンδに決定されると、第1保留記憶表示エリア153SG005Dや第2保留記憶表示エリア153SG005Uにおいて、新たな保留記憶表示が青色または赤色のカメラの態様にて表示される。

【1259】

そして、図14-29（C）～図14-29（E）に示すように、新たな可変表示として、該カメラの態様である保留記憶表示に対応した可変表示が開始されると、前部可変表示中示唆演出としてのタイマ演出が開始される。このとき、タイマ演出の演出パターンがパターンTS-1である場合は、図14-29（D）に示すように、画像表示装置5の左部においてキャラクタXの画像153SG005Xが表示されるとともに、後部可変表示中示唆演出までの期間である25秒間のタイマの更新表示が開始される。また、タイマ演出の演出パターンがパターンTS-2である場合は、図14-29（E）に示すように、画像表示装置5の左部においてキャラクタYの画像153SG005Yが表示されるとともに、後部可変表示中示唆演出までの期間である30秒間のタイマの更新表示が開始される。

【1260】

次いで、図14-30（F）～図14-30（H）に示すように、後部可変表示中示唆演出までのタイマの更新表示とともに可変表示が進行すると、スーパーリーチ演出が開始される。そして、該スーパーリーチ演出の実行中にタイマが0秒に到達する（タイマ演出が終了する）と、後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出または設定示唆演出が開始される。

【1261】

具体的には、後部可変表示中示唆演出として大当り示唆演出の実行が決定されている場合は、決定されている演出パターンがパターンAS-1であれば、図14-30（I）に示すように、画像表示装置5において「チャンス！」等の大当り期待度が低い旨を示すメッセージが表示され、決定されている演出パターンがパターンAS-2であれば、図14-30（J）に示すように、画像表示装置5において「熱い！」等の大当り期待度がパターンAS-1よりも高い旨を示すメッセージが表示され、決定されている演出パターンがパターンAS-3であれば、図14-30（K）に示すように、画像表示装置5において「激アツ！」等の大当り期待度がパターンAS-2よりも高い旨を示すメッセージが表示される。

【1262】

一方で、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の実行が決定されている場合は、図14-31(L)～図14-31(P)に示すように、設定示唆演出の演出パターンがパターンSS-1～パターンSS-4である場合は、画像表示装置5においてそれぞれ異なるキャラクタの設定値示唆画像131SG005H、131SG005I、131SG005J、131SG005Kが表示されることで、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が示唆される。更に、設定値示唆演出の演出パターンがパターンSS-5である場合は、パターンSS-1～パターンSS-4において画像表示装置5に表示する全キャラクタが集合した設定値示唆画像131SGS005Lが画像表示装置5において表示される。

【1263】

以上のように、本実施の形態の特徴部153SGでは、先読予告として保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示された場合は、先読予告が非実行の場合や保留記憶表示が白色の四角形や星形にて表示される場合よりも高い割合で設定示唆演出が実行されるようになっている。このため、遊技者は、保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示された段階で予め設定示唆演出が実行されることを予期して所持しているスマートフォン等の携帯端末によって設定示唆演出を撮影するための準備を整えることが出来るようになっている。つまり、本実施の形態の特徴部153SGにおける青色や赤色のカメラの態様の保留記憶表示は、遊技者に対して設定示唆演出を撮影するための準備を促す演出でもある。

【1264】

以上、本実施の形態の特徴部153SGにおいては、大当たり期待度を示唆する前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出と該キャラクタ演出よりも大当たり期待度が高いタイマ演出を実行可能であり、図14-26(D)に示すように、可変表示中にタイマ演出が実行される場合は、可変表示中にキャラクタ演出が実行される場合よりも高い割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行される。つまり、タイマ演出が実行される場合は、キャラクタ演出が実行される場合よりも大当たり期待度が高いことによって可変表示結果が大当たりとなるか否かに遊技者がより一層注目するので、該遊技者が注目している状態で設定示唆演出が実行されることとなり、遊技者により設定示唆演出の見逃しを防ぐことができる。

【1265】

また、可変表示中の前部可変表示中示唆演出としては、キャラクタ演出に加えて後部可変表示中示唆演出の開始までの期間を示唆するタイマ演出を実行可能となっているので、設定示唆演出が実行されることによって設定示唆演出の実行開始タイミングを遊技者が認識し易くできる。

【1266】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、タイマ演出として、後部可変表示中示唆演出の実行開始までの期間を数値の表示(図14-29(D)及び図14-29(E)参照)により明確に報知する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、タイマ演出としては、例えば、ゲージやメータ等の増加・減少表示を行うことによって後部可変表示中示唆演出の実行開始までの期間を明確に報知しない(大凡の期間のみを示唆する)ようにしてもよい。

【1267】

更に、本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-29(D)及び図14-29(E)に示すように、タイマ演出を画像表示装置5での画像表示にて実行する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、画像表示装置5での画像表示、スピーカ8L、8Rからの音出力、遊技効果ランプ9の発光、画像表示装置5以外の表示手段での表示のうちいずれか1の態様また複数の態様を組み合わせ実行してもよい。

【1268】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-30(H)及び図14-31(L)に示すように、タイマ演出として画像表示装置5に表示されているタイマが0となっ

10

20

30

40

50

たことにもとづいて、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出の他に大当り示唆演出が実行される場合がある。つまり、タイマ演出が実行された場合であっても設定示唆演出ではなく大当り示唆演出が実行される場合があるので、意外性を演出することができ、遊技興趣を向上できる。

【1269】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、タイマ演出として画像表示装置5に表示されているタイマが0となったことにもとづいて、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出と大当り示唆演出のいずれか一方のみを実行可能な形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、タイマ演出として画像表示装置5に表示されているタイマが0となったことにもとづいて、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出と大当り示唆演出との両方を実行可能としてもよい。

10

【1270】

更に、本実施の形態の特徴部153SGでは、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出が実行された場合は必ず後部可変表示中示唆演出が実行される形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出が実行されても後部可変表示中示唆演出が実行されない場合を設けてもよい。

【1271】

また、図14-27(B)及び図14-27(C)に示すように、タイマ演出の演出パターンとしては、演出期間が25秒であるパターンTS-1と演出期間が30秒であるパターンTS-2とが設けられており、タイマ演出がパターンTS-2にて実行される場合はタイマ演出がパターンTS-1にて実行される場合よりも高い割合で設定示唆演出が実行される。つまり、タイマ演出がパターンTS-2にて実行される場合はタイマ演出がパターンTS-1にて実行される場合よりも長期間に亘って設定示唆演出が実行されることが示唆されるので、遊技者による設定示唆演出の見逃しをより一層防ぐことができる。

20

【1272】

また、図14-28に示すように、設定示唆演出を含む後部可変表示中示唆演出は、スーパーリーチの可変表示における後半期間であるリーチ演出期間中に実行されるので、遊技者による設定示唆演出の見逃しをより一層防ぐことができる。

【1273】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、スーパーリーチの可変表示における後半期間であるリーチ演出期間中に設定示唆演出が実行される形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、スーパーリーチの可変表示における前半期間に設定示唆演出が実行される場合を設けてもよい。

30

【1274】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-18及び図14-22に示すように、先読予告として保留記憶表示の表示態様を白色の四角形や星形、青色や赤色のカメラの態様等にて表示可能な保留表示予告演出を実行可能であり、表示態様が青色や赤色のカメラの態様である保留記憶表示（保留表示フラグの値が3や4）に対応する可変表示では、表示態様が白色の四角形や星形である保留記憶表示（保留表示フラグの値が1や2）に対応する可変表示よりも高い割合で設定示唆演出の実行を決定可能となっている。このため、表示態様が青色や赤色のカメラの態様である保留記憶表示（保留表示フラグの値が3や4）に対応する可変表示では、可変表示結果が大当りとなるか否かに遊技者が注目しているときに設定示唆演出が実行されるので、遊技者による設定示唆演出の見逃しを防ぐことができる。

40

【1275】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-29及び図14-31に示すように、保留表示予告演出を実行した場合は、該保留表示予告演出の対象である保留記憶表示に対応した可変表示（保留表示予告演出を終了した直後の可変表示）において設定示唆演出を実行可能となっている。このため、保留表示予告演出の対象である保留記憶表示に対応した可変表示に対し遊技者が注目しているときに設定示唆演出が実行されるので、

50

遊技者による設定示唆演出の見逃しをより一層防ぐことができる。

【1276】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、先読予告として保留表示予告演出を実行可能な形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、先読予告としては保留表示予告演出以外の演出を実行可能とし、該演出の演出態様として設定示唆演出が実行されることを示唆してもよい。

【1277】

更に、本実施の形態の特徴部153SGでは、保留表示予告演出の対象である保留記憶表示に対応した可変表示（保留表示予告演出を終了した直後の可変表示）において設定示唆演出を実行可能な形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、保留表示予告演出の実行期間中（すなわち、保留表示予告演出の対象である保留記憶表示に対応した可変表示の開始よりも前のタイミング）から設定示唆演出を実行可能としてもよい。

【1278】

また、図14-19に示すように、先読予告演出として保留記憶表示を青色や赤色のカメラの態様にて表示する割合は、先読予告演出として保留記憶表示を白色の四角形や星形にて表示する割合よりも低く設定されているので、保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示されることで保留記憶表示が白色の四角形や星形にて表示される場合よりも遊技者を注目させることができ、技者による設定示唆演出の見逃しをより一層防ぐことができる。

【1279】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、先読予告演出として保留記憶表示を青色や赤色のカメラの態様にて表示する割合が、先読予告演出として保留記憶表示を白色の四角形や星形にて表示する割合よりも低く設定されている形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、先読予告演出として保留記憶表示を青色や赤色のカメラの態様にて表示する割合は、先読予告演出として保留記憶表示を白色の四角形や星形にて表示する割合よりも高く設定してもよいし、また、先読予告演出として保留記憶表示を青色や赤色のカメラの態様にて表示する割合と先読予告演出として保留記憶表示を白色の四角形や星形にて表示する割合とを同一としてもよい。

【1280】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、保留表示予告演出として、保留記憶表示を青色や赤色のカメラの態様にて表示することで、設定示唆演出を撮影するための準備を遊技者に対して促すようになっているので、遊技者は、設定示唆演出の開始前からスマートフォン等の形態端末を準備することができるので、遊技者による設定示唆演出の撮影の成功率を高めることができる。

【1281】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、保留表示予告演出として、保留記憶表示を青色や赤色のカメラの態様にて表示することで、設定示唆演出を撮影するための準備を遊技者に対して促す形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、保留表示予告演出として保留記憶表示を青色や赤色のカメラの態様にて表示する場合は、スピーカ8L、8Rからの音出力や画像表示装置5におけるメッセージ画像の表示等により別途遊技者に対して設定示唆演出を撮影するための準備を遊技者に対して促すようにしてもよい。

【1282】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、保留記憶表示を青色のカメラの態様で表示する表示パターンγと保留記憶表示を赤色のカメラの態様で表示する表示パターンδとで保留表示予告演出を実行可能であり、図14-22(A)に示すように、保留記憶表示が青色のカメラの態様にて表示される場合（保留表示フラグの値が3である場合）と保留記憶表示が赤色のカメラの態様にて表示される場合（保留表示フラグの値が4である場合）とでは設定示唆演出が実行される割合が異なっている。特に、保留記憶表示が赤色のカ

10

20

30

40

50

メラの態様にて表示される場合は、保留記憶表示が青色のカメラの態様にて表示される場合よりも高い割合で設定示唆演出が実行されるので、保留記憶表示が赤色のカメラの態様にて表示される場合は、保留記憶表示が青色のカメラの態様にて表示される場合よりも設定示唆演出が実行されるか否かに対して遊技者を注目させることができ、遊技興趣を向上できる。

【1283】

尚、本実施の形態の特徴部153SGでは、保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示された場合は、該保留記憶表示に対応する可変表示が開始するまで該保留記憶表示の表示態様に変化しない形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、保留記憶表示の表示態様が青色のカメラの態様から赤色のカメラの態様に変化する場合を設けてもよいし、また、実行中の可変表示に対応する保留記憶表示をアクティブ表示として継続して表示しておき、該アクティブ表示の表示態様を青色のカメラの態様から赤色のカメラの態様に変化する場合を設けてもよい。このようにすることで、可変表示が終了するまで設定示唆演出が実行されるか否かについて遊技者を注目させることができるので、遊技興趣を向上できる。

【1284】

また、本実施の形態の特徴部153SGでは、図14-20に示すように、設定示唆演出を含む後部可変表示中示唆演出は、特図変動時間が長いスーパーリーチの変動パターンの可変表示でのみ実行可能となっており、特図変動時間が短いノーマルリーチや非リーチの変動パターンの可変表示では実行されることがないので、短い可変表示期間中に設定示唆演出が実行されることを抑え、遊技者による設定示唆演出の見逃しを防ぐことができる。

【1285】

また、図14-6及び図14-28に示すように、設定示唆演出の実行期間は短縮非リーチの変動パターンの特図変動時間よりも長い7秒に設定されているので、スーパーリーチの可変表示中（リーチ演出の実行中）において遊技者による設定示唆演出の見逃しを一層防ぐことができる。

【1286】

また、図14-19に示すように、保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示される場合は、該保留記憶表示に対応する可変表示が設定示唆演出を実行可能なスーパーリーチの可変表示であることを示唆するので、保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示されることにより設定示唆演出が実行されるか否かに遊技者を注目させることができ、遊技興趣を向上できる。

【1287】

また、図14-19に示すように、変動カテゴリが非リーチやその他（ノーマルリーチや小当り）である場合、すなわち、特図変動時間がスーパーリーチよりも短いと判定された場合には、保留表示予告演出として保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示されることがないので、保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示されたことによって遊技者が注目していたにもかかわらず、該保留記憶表示に対応する可変表示が非リーチやノーマルリーチ等の可変表示であったことによって設定示唆演出が実行されることなく興趣が低下してしまうことを防ぐことができる。

【1288】

また、図14-20～図14-28に示すように、スーパーリーチの可変表示中は、タイマ演出を含む前部可変表示中示唆演出を実行可能であるが、スーパーリーチの可変表示よりも特図変動時間が短い非リーチやノーマルリーチの可変表示中はタイマ演出を実行しないので、設定示唆演出を含む後部可変表示中示唆演出が実行されることのない非リーチやノーマルリーチの可変表示中にタイマ演出が実行されることによって演出に不整合が生じてしまうことを防ぐことができる。

【1289】

以上、本発明の実施の形態を図面により説明してきたが、具体的な構成はこれら実施の形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっ

10

20

30

40

50

ても本発明に含まれる。

【1290】

例えば、前記実施の形態の特徴部153SGでは、図14-26(D)に示すように、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出が実行される場合については、前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出が実行される場合よりも大当たり期待度が高く設定されているとともに、前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出が実行される場合よりも高い割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行されるよう設定されているが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例153SG-1として図14-32に示すように、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出の実行を決定する割合が前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行を決定する割合よりも低く設定されているとともに、前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出が実行される場合は、前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出が実行される場合よりも高い割合で後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行される用に設定されてもよい。

10

【1291】

また、前記実施の形態の特徴部153SGでは、先読予告として、画像表示装置5の第1保留記憶表示エリア153SG005Dや第2保留記憶表示エリア153SG005Uにおいて保留記憶表示を白色の四角形や星形、青色や赤色のカメラの態様にて表示する保留表示予告演出を実行可能な形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例153SG-2として図14-33(A)及び図14-33(B)に示すように、第1保留記憶表示エリア153SG005Dや第2保留記憶表示エリア153SG005Uにおいて保留記憶表示が表示されているときに画像表示装置5において第1保留記憶表示エリア153SG005Dや第2保留記憶表示エリア153SG005Uに所定の演出画像153SG005Eが重複する場合は、少なくとも青色や赤色のカメラの態様の保留記憶表示を該演出画像153SG005Eよりも優先して表示する(青色や赤色のカメラの態様の保留記憶表示が演出画像153SG005Eによって隠蔽されないように表示する)ようにしてもよい。このようにすることで、青色や赤色のカメラの態様の保留記憶表示が演出画像153SG005Eに遮られてしまうことによって遊技者が青色や赤色のカメラの態様の保留記憶表示を見逃してしまうことを防ぐことができる。

20

【1292】

また、前記実施の形態の特徴部153SGでは、スーパーリーチの可変表示中にのみ7秒間に亘って設定示唆演出を実行可能な形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例153SG-3として図14-34(A)及び図14-34(B)に示すように、ノーマルリーチや短縮なしの非リーチの可変表示中に設定示唆演出を7秒間に亘って実行可能としてもよい。更に、短縮非リーチの可変表示中においては、該短縮非リーチの可変表示専用の期間(例えば、図14-34(C)に示すように、短縮非リーチの可変表示の特図変動時間である3.75秒~5.75秒よりも短い3秒間)に亘って設定示唆演出を実行してもよい。

30

【1293】

また、前記実施の形態の特徴部153SGでは、図14-22(A)に示すように、保留表示予告演出として保留記憶表示が青色のカメラの態様にて表示される場合と赤色のカメラの態様にて表示される場合とで設定示唆演出の実行割合が異なる形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例153SG-4として、保留記憶表示が青色のカメラの態様にて表示される場合と赤色のカメラの態様にて表示される場合とで設定示唆演出における少なくとも1の演出パターンの決定割合を異ならせてもよい。このようにすることで保留表示予告演出として保留記憶表示が青色のカメラの態様と赤色のカメラの態様のどちらで表示されるかに遊技者を注目させることができるので、遊技興趣を向上できる。

40

【1294】

また、前記実施の形態の特徴部153SGでは、スーパーリーチの可変表示中における後部可変表示中示唆演出の開始タイミングとして2つのタイミング(可変表示開始から2

50

5 秒後と 30 秒後) を設け、後のタイミングから後部可変表示中示唆演出を実行する方が該後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行され易い形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例 153SG-5 として、設定示唆演出の開始タイミングを可変表示開始から 30 秒後とする場合は、設定示唆演出の開始タイミングを可変表示開始から 25 秒後とする場合よりも高い割合で該設定示唆演出をパターン S-3 ~ パターン S-5 等の高設定値を示唆する演出パターンにて実行してもよい。このようにすることで、設定示唆演出が実行されるタイミングに遊技者を注目させることができるので、遊技興趣を向上できる。

【1295】

また、前記実施の形態の特徴部 153SG では、前部可変表示中示唆演出として実行される演出と、保留表示予告演出として表示される保留記憶表示の表示態様と、に応じて設定示唆演出が実行されるか否かを示唆する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、前部可変表示中示唆演出として実行される演出と、保留表示予告演出として表示される保留記憶表示の表示態様と、のいずれか一方のみで設定示唆演出が実行されるか否かを示唆してもよい。また、前記実施の形態の特徴部 153SG では、前部可変表示中示唆演出としてのタイマ演出を実行する可変表示中において、後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出を実行可能な形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、タイマ演出を実行する可変表示の可変表示結果が大当たりである場合は、該可変表示にもとづく大当たり遊技（本発明における有利状態）中に設定示唆演出を実行してもよい。

【1296】

また、前記実施の形態の特徴部 153SG においては、既に保留表示予告演出が実行される場合は、新たな保留表示予告演出の実行を制限する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、既に保留表示予告演出が実行される場合は、新たな保留表示予告演出のうち一部の表示パターンでの実行のみを制限してもよい。例えば、既に保留表示予告演出が表示パターン γ や表示パターン δ にて実行される場合（保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示されている場合）は、新たな保留表示予告演出が表示パターン α や表示パターン β にて実行されること（保留記憶表示が白色の四角形や星形にて表示されること）のみを制限する。このようにすることで、示唆する内容が異なる保留表示予告演出が同時に複数実行されることにより遊技が分かり難くなってしまうことを防ぐことができる。更に、このように既に保留表示予告演出が表示パターン γ や表示パターン δ にて実行される場合に、新たな保留表示予告演出が表示パターン α や表示パターン β にて実行されることを制限することで、設定示唆演出が実行されるか否かに対して遊技者をより一層注目させることができる。また、既に保留表示予告演出が表示パターン α や表示パターン β にて実行されている場合（保留記憶表示が白色の四角形や星形にて表示されている場合）は、新たな保留表示予告演出が表示パターン γ や表示パターン δ にて実行されること（保留記憶表示が青色や赤色のカメラの態様にて表示されること）のみを制限することで、可変表示結果が大当たりとなるか否かに遊技者をより一層注目させることができる。

【1297】

尚、前記実施の形態の特徴部 153SG では、本発明における先読演出として保留表示予告演出を実行可能な形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、先読演出としては、対象の可変表示が開始するよりも前のタイミングから実行可能な演出であれば保留表示予告演出以外の演出を実行可能としてもよい。

【1298】

また、前記実施の形態の特徴部 153SG では、可変表示結果が大当たりとなることを示唆する前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出とタイマ演出とを実行可能な形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、前部可変表示中示唆演出としては、可変表示結果が大当たりとなることを示唆する演出であればキャラクタ演出やタイマ演出以外の演出を実行可能としてもよい。

【1299】

(特徴部092IWに関する説明)

次に、特徴部092IWについて説明する。本特徴部092IWでは、可変表示の可変表示結果が大当たりとなることを示唆する大当たり示唆演出と、大当たり示唆演出が実行される前に大当たり示唆演出が実行されることを予告する準備演出とを実行可能である。なお、準備演出により実行が予告される大当たり示唆演出は、実行前の可変表示（実行が保留されている可変表示）における大当たり信頼度を予告する先読み予告演出と、実行中の可変表示における大当たり信頼度を予告する予告演出とのいずれであってもよい。本特徴部092IWでは、大当たり示唆演出として、保留表示予告演出、タイマ演出およびチャンス目予告演出を実行可能である。また、大当たり示唆演出が実行される前に大当たり示唆演出が実行されることを予告する準備演出として、保留表示予告演出が実行される前に保留表示予告演出が実行されることを予告する保留表示予告準備演出と、タイマ演出が実行される前にタイマ演出が実行されることを予告するタイマ準備演出とを実行可能である。

10

【1300】

図15-1は、本特徴部092IWにおける演出制御プロセス処理（ステップS76）のフローチャートの一部である。本特徴部092IWにおける演出制御プロセス処理では、図7に示される先読み予告演出を実行するための判定や決定、設定などが行われる先読予告設定処理（ステップS161）の実行後に、先読み予告演出を実行するための先読予告実行処理（ステップ092IWS162）を実行し、その後、図7に示されるステップS170～S177のいずれかの処理を実行するようになっている。

20

【1301】

図15-2は、演出制御用CPU120が図15-1に示す演出制御プロセス処理において実行する先読予告設定処理（ステップS161）を示すフローチャートである。

【1302】

先読予告設定処理において演出制御用CPU120は、まず、1セットの始動入賞時のコマンドを新たに受信したか否かを確認する（ステップ092IWS001）。具体的には、始動入賞時受信コマンドバッファに1セットの始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド、保留記憶数通知コマンドが新たに格納されているか否かを確認する。本例では、コマンド解析処理（ステップS75）において、始動入賞時のコマンドを受信すると、RAM122に設けられた始動入賞時受信コマンドバッファに、受信した始動入賞時のコマンドを格納する。本例では、第1保留記憶数および第2保留記憶数の上限数は4であることから、始動入賞時受信コマンドバッファは、第1保留記憶および第2保留記憶に対応してそれぞれ4つの格納領域が設けられている。1セットの始動入賞時のコマンドを新たに受信していなければ、そのまま処理を終了する。

30

【1303】

1セットの始動入賞時のコマンドを新たに受信している場合には、演出制御用CPU120は、先読み予告演出の実行中であるか否かを確認する（ステップ092IWS001）。先読み予告演出の実行中である場合には、そのまま処理を終了する（すなわち新たな先読み予告演出を実行しない）。

【1304】

先読み予告演出の実行中ではない場合には、演出制御用CPU120は、保留記憶数が2以上であるか否かを確認する（ステップ092IWS002）。保留記憶数が2以上ではない場合には、そのまま処理を終了する（すなわち新たな先読み予告演出を実行しない）。なお、保留記憶数が2以上であるか否かは、例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信した保留記憶数通知コマンドを確認することにより判定できる。

40

【1305】

保留記憶数が2以上である場合には、演出制御用CPU120は、保留表示予告演出を実行するか否かと、実行する場合の演出態様とを決定する（ステップ092IWS003）。

【1306】

50

保留表示予告演出は、保留記憶表示（およびアクティブ表示）の表示態様を通常態様とは異なる表示態様に変化させることにより、対応する可変表示の表示結果が大当たりとなることを示唆する演出である。なお、本特徴部 092IW では、保留表示予告演出として、保留記憶表示として表示されている時点で表示態様を変化させるパターンが示されているが、このような構成に限らず、保留記憶表示として表示されているときには通常態様により表示され、アクティブ表示として表示されているときに表示態様を変化させるパターンを含むようにしてもよい。すなわち、始動入賞時点から対象となる可変表示が終了するまでの任意のタイミングで保留記憶表示またはアクティブ表示の表示態様を変化させる保留表示予告演出を実行可能に構成してもよい。同様に、保留表示予告演出が実行されることを予告する保留表示予告準備演出についても、始動入賞時点から対象となる可変表示が終了するまでの任意のタイミングで実行可能に構成してもよい。また、保留記憶表示またはアクティブ表示の表示態様が複数回変化するように構成してもよい。このように構成する場合には、保留表示予告演出ごとに対応する保留表示予告準備演出を実行可能としてもよい。

10

【1307】

図 15-3 (A) は、保留表示予告演出決定テーブルの一例を示す説明図である。ステップ 092IWS003 では、演出決定用の乱数を抽出し、保留表示予告演出決定テーブルを参照して、新たに受信した始動入賞時のコマンド（図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンド）が、「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」、「大当たり A 以外の大当たり」および「大当たり A」のいずれに該当するかにもとづいて、保留表示予告演出について、「実行なし 保留記憶表示：通常態様（白色）」、「実行あり 保留記憶表示：第 1 演出態様（青色）」、「実行あり 保留記憶表示：第 2 演出態様（緑色）」および「実行あり 保留記憶表示：第 3 演出態様（赤色）」のいずれかに決定する。

20

【1308】

図 15-3 (A) に示す保留表示予告演出決定テーブルでは、入賞時判定結果ごとに演出決定用の乱数に対応する判定値が割り当てられているが、説明を簡略化するために、割り当てられた判定値の割合が示されている。つまり、入賞時判定結果ごとに、保留表示予告演出について、「実行なし 保留記憶表示：通常態様（白色）」、「実行あり 保留記憶表示：第 1 演出態様（青色）」、「実行あり 保留記憶表示：第 2 演出態様（緑色）」および「実行あり 保留記憶表示：第 3 演出態様（赤色）」のいずれに決定されるかの割合が示されている。本例では、図 15-3 (A) に示す保留表示予告演出決定テーブルの他に、図 15-3 (B) に示す保留表示予告準備演出決定テーブルや、図 15-4 (A) に示すタイマ演出決定テーブル、図 15-4 (B) に示すタイマ準備演出決定テーブル、図 15-5 (A) に示すチャンス目予告演出決定テーブルについても、説明を簡略化するために、いずれの決定事項に決定されるかの割合が示されている。

30

【1309】

保留表示予告演出決定テーブルの特徴について説明する。図 15-3 (A) に示すように、保留表示予告演出決定テーブルでは、入賞時判定結果が「大当たり」の場合には、「はずれ」の場合に比べて、保留表示予告演出について「実行なし」よりも「実行あり」と決定される割合が高くなるように判定値が割り当てられている。また、保留表示予告演出決定テーブルでは、入賞時判定結果が「大当たり」の場合には、「はずれ」の場合に比べて、「実行あり 保留記憶表示：第 1 演出態様（青色）」よりも「実行あり 保留記憶表示：第 2 演出態様（緑色）」、「実行あり 保留記憶表示：第 2 演出態様（緑色）」よりも「実行あり 保留記憶表示：第 3 演出態様（赤色）」に決定される割合が高くなるように判定値が割り当てられている。このような構成により、保留表示予告演出が実行されたとき、さらに第 1 演出態様（青色）よりも第 2 演出態様（緑色）、第 2 演出態様（緑色）よりも第 3 演出態様（赤色）で実行されたときに、大当たりとなることが示唆されることになる。すなわち、第 3 演出態様（赤色）>第 2 演出態様（緑色）>第 1 演出態様（青色）>実行なしの順に大当たりとなる期待度が高くなる。

40

【1310】

50

ステップ092IWS003で保留表示予告演出を実行しないと決定した場合には（ステップS092IWS004のN）、ステップS092IWS008に移行し、実行すると決定した場合には（ステップS092IWS004のY）、演出制御用CPU120は、保留表示予告演出を実行すると決定したことを示す保留表示予告演出フラグをセットする（ステップS092IWS005）。

【1311】

次いで、演出制御用CPU120は、保留表示予告準備演出の演出態様を決定する（ステップS092IWS006）。保留表示予告準備演出は、準備演出の1つであって、保留表示予告演出が実行される前に保留表示予告演出が実行されることを予告するものである。

【1312】

図15-3（B）は、保留表示予告準備演出決定テーブルの一例を示す説明図である。ステップ092IWS006では、演出決定用の乱数を抽出し、保留表示予告準備演出決定テーブルを参照して、保留表示予告演出の演出態様にもとづいて、保留表示予告準備演出について、「実行なし」、「実行あり 第1演出態様（エフェクト小）」および「実行あり 第2演出態様（エフェクト大）」のいずれかに決定する。

【1313】

保留表示予告準備演出決定テーブルの特徴について説明する。図15-3（B）に示すように、保留表示予告準備演出決定テーブルでは、保留表示予告演出の演出態様が大当たりとなる期待度が高い演出態様である程、保留表示予告準備演出について「実行なし」よりも「実行あり」と決定される割合が高くなるように判定値が割り当てられている。また、保留表示予告準備演出決定テーブルでは、保留表示予告演出の演出態様が大当たりとなる期待度が高い演出態様である程、「実行あり 第1演出態様（エフェクト小）」よりも「実行あり 第2演出態様（エフェクト大）」に決定される割合が高くなるように判定値が割り当てられている。このような構成により、保留表示予告準備演出が実行されたとき、さらに第1演出態様（エフェクト小）よりも第2演出態様（エフェクト大）で実行されたときに、大当たりとなることが示唆されることになる。すなわち、第2演出態様（エフェクト大）＞第1演出態様（エフェクト小）＞実行なしの順に大当たりとなる期待度が高くなる。

【1314】

次いで、演出制御用CPU120は、保留記憶数が3以上であるか否かを確認する（ステップ092IWS007）。保留記憶数が3以上ではない場合には、そのまま処理を終了する。なお、保留記憶数が3以上であるか否かは、例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信した保留記憶数通知コマンドを確認することにより判定できる。

【1315】

保留記憶数が3以上である場合には、演出制御用CPU120は、タイマ演出を実行するか否かと、実行する場合の演出態様とを決定する（ステップ092IWS008）。

【1316】

タイマ演出は、対象となる可変表示の開始タイミングから当該可変表示結果が大当たりとなること示唆するとともに特定演出（例えば、特徴部153SGにおける後部可変表示中示唆演出）の実行開始までの期間を示唆する演出である。

【1317】

本特徴部092IWでは、タイマ演出は、対象となる可変表示中に実行されるため、例えば、タイマ演出を実行すると決定した可変表示の可変表示開始設定処理（S171）においてタイマ演出を実行するための演出制御パターンを設定し、可変表示中演出処理（S172）において演出制御パターンに基づく各種の演出制御を実行することによって実現される）。

【1318】

なお、本特徴部092IWの構成に限らず、例えば、始動入賞時にタイマ演出を実行するか否かを決定せず、後述するタイマ準備演出を実行するか否かと、実行する場合の演出態様とを決定し、対象となる可変表示が開始されるときに、タイマ演出を実行するか否か

10

20

30

40

50

を決定するようにしてもよい。また、この場合には、タイマ準備演出の実行の有無、演出態様に応じて、異なる割合によりタイマ演出を実行するか否かと、実行する場合の演出態様とを決定するようにしてもよい。

【1319】

また、例えば、タイマ演出については、対象となる可変表示よりも前に実行される可変表示中に開始するようにしてもよいし、対象となる可変表示が開始されてから所定期間経過したタイミングで開始するようにしてもよい。すなわち、始動入賞のタイミングから対象となる可変表示が終了するまでの任意のタイミングでタイマ演出を開始するようにしてもよい。同様に、タイマ演出が実行されることを予告するタイマ準備演出についても、始動入賞のタイミングから対象となる可変表示が終了するまで（ただしタイマ演出の実行期間を確保できるタイミングまで）の任意のタイミングで開始するようにしてもよい。

10

【1320】

図15-4(A)は、タイマ演出決定テーブルの一例を示す説明図である。ステップ092IWS008では、演出決定用の乱数を抽出し、タイマ演出決定テーブルを参照して、新たに受信した始動入賞時のコマンド（図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンド）が、「非スーパーリーチ」、「スーパーリーチはずれ」および「スーパーリーチ大当たり」のいずれに該当するかにもとづいて、タイマ演出について、「実行なし」、「実行あり 第1演出態様（25秒）」および「実行あり 第2演出態様（30秒）」のいずれかに決定する。

【1321】

タイマ演出決定テーブルの特徴について説明する。図15-4(A)に示すように、タイマ演出決定テーブルでは、入賞時判定結果が「大当たり」の場合には、「はずれ」の場合に比べて、タイマ演出について「実行なし」よりも「実行あり」と決定される割合が高くなるように判定値が割り当てられている。また、タイマ演出決定テーブルでは、入賞時判定結果が「大当たり」の場合には、「はずれ」の場合に比べて、「実行あり 第1演出態様（25秒）」よりも「実行あり 第2演出態様（30秒）」に決定される割合が高くなるように判定値が割り当てられている。このような構成により、タイマ演出が実行されたとき、さらに第1演出態様（25秒）よりも第2演出態様（30秒）で実行されたときに、大当たりとなることが示唆されることになる。すなわち、第2演出態様（30秒）>第1演出態様（25秒）>実行なしの順に大当たりとなる期待度が高くなる。

20

30

【1322】

ステップ092IWS008でタイマ演出を実行しないと決定した場合には（ステップS092IWS009のN）、ステップS092IWS012に移行し、実行すると決定した場合には（ステップS092IWS009のY）、演出制御用CPU120は、タイマ演出を実行すると決定したことを示すタイマ演出フラグをセットする（ステップS092IWS010）。

【1323】

次いで、演出制御用CPU120は、タイマ準備演出の演出態様を決定する（ステップS092IWS011）。タイマ準備演出は、準備演出の1つであって、タイマ演出が実行される前にタイマ演出が実行されることを予告するものである。

40

【1324】

図15-4(B)は、タイマ準備演出決定テーブルの一例を示す説明図である。ステップ092IWS006では、演出決定用の乱数を抽出し、タイマ準備演出決定テーブルを参照して、タイマ準備演出の演出態様にもとづいて、タイマ準備演出について、「実行なし」、「実行あり 第1演出態様（エフェクト小）」および「実行あり 第2演出態様（エフェクト大）」のいずれかに決定する。

【1325】

タイマ準備演出決定テーブルの特徴について説明する。図15-4(B)に示すように、タイマ準備演出決定テーブルでは、タイマ準備演出の演出態様が大当たりとなる期待度が高い演出態様である程、タイマ準備演出について「実行なし」よりも「実行あり」と決定され

50

る割合が高くなるように判定値が割り当てられている。また、タイマ準備演出決定テーブルでは、タイマ演出の演出態様が大当たりとなる期待度が高い演出態様である程、「実行あり

第1演出態様（キャラクタA）」よりも「実行あり 第2演出態様（キャラクタB）」に決定される割合が高くなるように判定値が割り当てられている。このような構成により、タイマ準備演出が実行されたとき、さらに第1演出態様（キャラクタA）よりも第2演出態様（キャラクタB）で実行されたときに、大当たりとなることが示唆されることになる。すなわち、第2演出態様（キャラクタB）＞第1演出態様（キャラクタA）＞実行なしの順に大当たりとなる期待度が高くなる。

【1326】

本特徴部092IWでは、いずれの演出態様の準備演出が実行されるかに応じて、実行可能な大当たり示唆演出の演出態様が異なるように構成されている。具体的には、図15-3（B）に示すように、第1演出態様の保留表示予告準備演出が実行された場合には、第1～第3演出態様のうちのいずれかにより保留表示予告演出が実行され、第2演出態様の保留表示予告準備演出が実行された場合には、第2～第3演出態様のうちのいずれかにより保留表示予告演出が実行される。また、図15-4（B）に示すように、第1演出態様のタイマ準備演出が実行された場合には、第1～第2演出態様のうちのいずれかによりタイマ演出が実行され、第2演出態様のタイマ演出が実行された場合には、第2演出態様によりタイマ演出が実行される。このような構成により、準備演出の演出態様により期待度を異ならせることができるとともに、準備演出の演出態様ごと（すなわち期待度ごと）に、他の準備演出や大当たり示唆演出と組み合わせて実行されたときの期待度を好適に調整することができる。

【1327】

また、本特徴部092IWでは、大当たり示唆演出は、対応する準備演出が実行されることなく実行可能に構成されている。具体的には、保留表示予告演出やタイマ演出を実行すると決定したときに、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出が実行なしと決定する場合がある（図15-3（B）、図15-4（B）参照）。そして、対応しない準備演出が実行されたか否かに応じて、実行されやすさが異なるように構成されている。具体的には、図15-3に示すように、入賞時判定結果が大当たりの場合には、保留表示予告演出および保留表示予告準備演出を実行すると決定されやすい。また、図15-4に示すように、タイマ演出も実行すると決定されやすい。しかし、タイマ準備演出を実行しないと決定されることがある。すると、タイマ演出に対応しない保留表示予告準備演出が実行されたときの方が、保留表示予告準備演出が実行されないときよりも、タイマ演出が実行されやすくなる。このような構成により、好適に興味を維持することができる。

【1328】

なお、本特徴部092IWでは、準備演出が実行されると、必ず対応する大当たり示唆演出が実行されるように構成されているが、例えば、準備演出として、演出後に対応する大当たり示唆演出が実行される通常準備演出と、演出後に対応する大当たり示唆演出が実行されないガセ準備演出とを実行可能に構成してもよい。この場合には、ガセ保留表示予告準備演出が実行されたときには、ガセ保留表示予告準備演出が実行されていないときに比べて、タイマ演出（タイマ準備演出を伴うものであってもよいし、伴わないものであってもよい）が実行される割合が高くなるようにしてもよい。このような構成により、保留表示予告準備演出がガセであったときの遊技者の落胆を軽減することができ、好適に興味を維持することができる。

【1329】

また、本特徴部092IWでは、準備演出が実行されたか否かに応じて、いずれの演出態様の大当たり示唆演出が実行されるかの割合が異なるように構成されている。具体的には、保留表示予告演出やタイマ準備演出の演出態様を第2演出態様と決定した場合には、第1演出態様と決定した場合に比べて、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出を実行すると決定する割合が高い（図15-3（B）、図15-4（B）参照）。このような構成により、好適に興味を維持することができる。

【1330】

次いで、演出制御用CPU120は、チャンス目予告演出を実行するか否かを決定する（ステップ092IWS012）。

【1331】

チャンス目予告演出は、対象となる可変表示よりも前に実行される可変表示の表示結果としてチャンス目図柄（本例では「123」となる飾り図柄の組み合わせ）を導出表示することにより、対象となる可変表示（または対象となる可変表示が特定されず、保留記憶されている可変表示のいずれか）の可変表示結果が大当たりとなること示唆する演出である。

【1332】

図15-5（A）は、チャンス目予告演出決定テーブルの一例を示す説明図である。ステップ092IWS012では、演出決定用の乱数を抽出し、チャンス目予告演出決定テーブルを参照して、新たに受信した始動入賞時のコマンド（図柄指定コマンドおよび変動カテゴリコマンド）が、「非スーパーリーチ」、「スーパーリーチはずれ」、「大当たりA以外の大当たり」および「大当たりA」のいずれに該当するかにもとづいて、チャンス目予告演出について、「実行なし」および「実行あり」のいずれかに決定する。

【1333】

チャンス目予告演出決定テーブルの特徴について説明する。図15-5（A）に示すように、チャンス目予告演出決定テーブルでは、入賞時判定結果が「大当たり」の場合には、「はずれ」の場合に比べて、チャンス目予告演出について「実行なし」よりも「実行あり」と決定される割合が高くなるように判定値が割り当てられている。このような構成により、チャンス目予告演出が実行されたときに、大当たりとなることが示唆されることになる。

【1334】

本特徴部092IWでは、大当たり示唆演出として、保留表示予告演出、タイマ演出およびチャンス目予告演出を実行可能に構成されているが、図15-3（A）、図15-4（A）および図15-5（A）に示されるように、チャンス目予告演出については、保留表示予告演出やタイマ演出よりも、入賞時判定結果が大当たり実行される割合が低く、はずれであるときに実行される割合が高いため、入賞時判定結果が大当たりのときとははずれのときとで、実行割合の差が小さい。そのため、チャンス目予告演出は、保留表示予告演出やタイマ演出よりも、大当たりとなる期待度が低い。

【1335】

ステップ092IWS012でチャンス目予告演出を実行しないと決定した場合には（ステップS092IWS013のN）、ステップS092IWS015に移行し、実行すると決定した場合には（ステップS092IWS013のY）、演出制御用CPU120は、チャンス目予告演出を実行すると決定したことを示すチャンス目予告演出フラグをセットする（ステップS092IWS014）。

【1336】

次いで、演出制御用CPU120は、保留表示予告演出フラグがセットされている場合には（ステップS092IWS015のY）、保留表示予告準備演出の決定に応じて新たな保留記憶表示を表示する（ステップS092IWS016）。

【1337】

ステップS092IWS016では、例えば、第1演出態様の保留表示予告準備演出を実行すると決定している場合には、画像表示装置5において、通常態様により新たな保留記憶表示を表示するとともに、当該保留記憶表示の近傍にエフェクト小画像（例えば、図15-11（B1）のエフェクト小の画像092IW004b参照）を表示する。また、第2演出態様の保留表示予告準備演出を実行すると決定している場合には、画像表示装置5において、通常態様により新たな保留記憶表示を表示するとともに、当該保留記憶表示の近傍にエフェクト大画像（例えば、図15-11（A1）のエフェクト大の画像092IW004b参照）を表示する。

【1338】

次いで、演出制御用CPU120は、タイマ演出フラグがセットされていない場合には

(ステップ S 0 9 2 I W S 0 1 7 の N)、そのまま処理を終了し、タイマ演出フラグがセットされている場合には(ステップ S 0 9 2 I W S 0 1 7 の Y)、保留表示予告準備演出が第 1 演出態様であるか否かを確認する(ステップ S 0 9 2 I W S 0 1 8)。そして、保留表示予告準備演出が第 1 演出態様である場合には(ステップ S 0 9 2 I W S 0 1 8 の Y)、演出制御用 C P U 1 2 0 は、タイマ準備演出を実行する(ステップ S 0 9 2 I W S 0 1 9)。その後、処理を終了する。

【1339】

ステップ S 0 9 2 I W S 0 1 9 (および後述するステップ S 0 9 2 I W S 0 2 2)では、例えば、第 1 演出態様のタイマ準備演出を実行すると決定している場合には、画像表示装置 5 において、タイマ演出が実行されることを予告するキャラクタ A 画像(例えば、図 1 5 - 1 0 (E)のキャラクタ A の画像 0 9 2 I W 0 0 5 参照)を表示する。また、第 2 演出態様のタイマ準備演出を実行すると決定している場合には、画像表示装置 5 において、タイマ演出が実行されることを予告するキャラクタ B 画像を表示する。

【1340】

ステップ S 0 9 2 I W S 0 1 5 で保留表示予告演出フラグがセットされていない場合には(ステップ S 0 9 2 I W S 0 1 5 の N)、演出制御用 C P U 1 2 0 は、通常態様により新たな保留記憶表示を表示する(ステップ S 0 9 2 I W S 0 2 0)。

【1341】

次いで、演出制御用 C P U 1 2 0 は、タイマ演出フラグがセットされていない場合には(ステップ S 0 9 2 I W S 0 2 1 の N)、そのまま処理を終了し、タイマ演出フラグがセットされている場合には(ステップ S 0 9 2 I W S 0 2 1 の Y)、タイマ準備演出を実行する(ステップ S 0 9 2 I W S 0 2 2)。その後、処理を終了する。

【1342】

図 1 5 - 6 は、演出制御用 C P U 1 2 0 が図 1 5 - 1 に示す演出制御プロセス処理において実行する先読予告実行処理(ステップ 0 9 2 I W S 1 6 1)を示すフローチャートである。

【1343】

先読予告実行処理において演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、保留記憶のシフトタイミングである場合には(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 1 の Y)、保留表示予告演出フラグがセットされているか否かを確認する(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 2)。

【1344】

保留表示予告演出フラグがセットされている場合には(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 2 の Y)、演出制御用 C P U 1 2 0 は、保留表示予告準備演出の実行中であるか否かを確認する(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 3)。

【1345】

保留表示予告準備演出の実行中である場合には(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 3 の Y)、演出制御用 C P U 1 2 0 は、保留表示予告準備演出を終了し、保留表示予告演出を実行する(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 4)。

【1346】

次いで、タイマ演出フラグがセットされている場合には(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 5 の Y)、演出制御用 C P U 1 2 0 は、タイマ準備演出の実行中であるか否かを確認する(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 6)。

【1347】

タイマ準備演出の実行中ではない場合には(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 3 の N)、演出制御用 C P U 1 2 0 は、タイマ準備演出を実行する(ステップ 0 9 2 I W S 1 0 7)。

【1348】

次に、保留表示予告演出および保留表示予告準備演出と、タイマ演出およびタイマ準備演出との実行タイミングについて説明する。図 1 5 - 7 は、保留表示予告演出(準備演出)およびタイマ演出(準備演出)の実行タイミングの一例を示す説明図である。

【1349】

図15-7(A)は、始動入賞時に保留表示予告演出および保留表示予告準備演出の実行を決定した場合の一例を示している。この場合には、始動入賞のタイミングで保留表示予告準備演出が開始され(例えば、図15-2に示す先読予告設定処理のステップ092 IWS015~092 IWS016の処理に相当)、保留記憶のシフトタイミングで保留表示予告準備演出が終了して保留表示予告演出が実行される(例えば、図15-6に示す先読予告実行処理のステップ092 IWS101~092 IWS104の処理に相当)。

【1350】

図15-7(B)は、始動入賞時にタイマ演出およびタイマ予告準備演出の実行を決定した場合の一例を示している。この場合には、始動入賞のタイミングでタイマ準備演出が開始され(例えば、図15-2に示す先読予告設定処理のステップ092 IWS021~092 IWS022の処理に相当)、対象となる可変表示の開始タイミングでタイマ準備演出が終了してタイマ演出が開始される(例えば、可変表示開始設定処理(S171)においてタイマ演出を実行するための演出制御パターンを設定し、可変表示中演出処理(S172)において出制御パターンに基づく各種の演出制御を実行することによって実現される)。

【1351】

図15-7(C)は、始動入賞時に保留表示予告演出および保留表示予告準備演出(第1演出態様)と、タイマ演出およびタイマ予告準備演出との実行を決定した場合の一例を示している。この場合には、始動入賞のタイミングで保留表示予告準備演出(第1演出態様)が開始される(例えば、図15-2に示す先読予告設定処理のステップ092 IWS015~092 IWS016の処理に相当)とともに、タイマ準備演出が開始される(例えば、図15-2に示す先読予告設定処理のステップ092 IWS018~092 IWS019の処理に相当)。そして、保留記憶のシフトタイミングで保留表示予告準備演出が終了して保留表示予告演出が実行される(例えば、図15-6に示す先読予告実行処理のステップ092 IWS101~092 IWS104の処理に相当)。その後、対象となる可変表示の開始タイミングでタイマ準備演出が終了してタイマ演出が開始される(例えば、可変表示開始設定処理(S171)においてタイマ演出を実行するための演出制御パターンを設定し、可変表示中演出処理(S172)において出制御パターンに基づく各種の演出制御を実行することによって実現される)。

【1352】

図15-7(D)は、始動入賞時に保留表示予告演出および保留表示予告準備演出(第2演出態様)と、タイマ演出およびタイマ予告準備演出との実行を決定した場合の一例を示している。この場合には、始動入賞のタイミングで保留表示予告準備演出(第1演出態様)が開始される(例えば、図15-2に示す先読予告設定処理のステップ092 IWS015~092 IWS016の処理に相当)が、タイマ準備演出は開始されない(例えば、図15-2に示す先読予告設定処理のステップ092 IWS018の処理に相当)。そして、保留記憶のシフトタイミングで保留表示予告準備演出が終了して保留表示予告演出が実行されると(例えば、図15-6に示す先読予告実行処理のステップ092 IWS101~092 IWS104の処理に相当)、タイマ準備演出が開始される(例えば、図15-6に示す先読予告実行処理のステップ092 IWS105~092 IWS107の処理に相当)。その後、対象となる可変表示の開始タイミングでタイマ準備演出が終了してタイマ演出が開始される(例えば、可変表示開始設定処理(S171)においてタイマ演出を実行するための演出制御パターンを設定し、可変表示中演出処理(S172)において出制御パターンに基づく各種の演出制御を実行することによって実現される)。

【1353】

次に、保留表示予告準備演出およびタイマ準備演出の演出態様について説明する。図15-8は、保留表示予告準備演出およびタイマ準備演出の演出態様を示す説明図である。

【1354】

図15-8は、始動入賞時に保留表示予告演出および保留表示予告準備演出(第2演出態様)と、タイマ演出およびタイマ予告準備演出との実行を決定した場合の一例を示して

10

20

30

40

50

おり、図15-7(D)の例に対応する。

【1355】

図15-8(A)、(B)に示すように、可変表示中に新たな始動入賞が発生し、該始動入賞にもとづいて保留表示予告演出および保留表示予告準備演出(第2演出態様)と、タイマ演出およびタイマ予告準備演出(第1演出態様)との実行を決定すると、第1保留記憶表示エリア092IW001や第2保留記憶表示エリア092IW002において、通常態様により新たな保留記憶表示が表示される。このとき保留表示予告準備演出(第2演出態様)が開始され、新たな保留記憶表示の近傍に稲妻型のエフェクト大の画像092IW004aが表示される。なお、タイマ予告準備演出は、保留表示予告準備演出(第2演出態様)と同時に実行されることが制限されるため、このタイミングでは実行されない。

10

【1356】

そして、図15-8(C)~図15-8(D)に示すように、可変表示が終了して保留記憶のシフトが行われ、新たな可変表示が開始されると、保留表示予告準備演出(第2演出態様)が発展的に終了し(例えば、稲妻型のエフェクト大の画像092IW004aが保留記憶表示に作用して消える表示制御が行われ)、保留記憶表示の表示態様が赤色に変化する保留表示予告演出(第3演出態様)が実行される。さらに、図15-8(E)に示すように、タイマ準備演出(第1演出態様)が開始され、タイマ演出が実行されることを予告するキャラクタAの画像092IW005が表示される。

【1357】

その後、図15-8(F)~図15-8(G)に示すように、タイマ演出の対象となる新たな可変表示が開始されると、タイマ準備演出(第1演出態様)が発展的に終了し、当該可変表示中の特定演出までの期間である25秒間のタイマの更新表示を行うタイマ演出(第1演出態様)が開始される。

20

【1358】

本特徴部092IWでは、可変表示の可変表示結果が大当たりとなることを示唆する大当たり示唆演出として、保留表示予告演出およびタイマ演出を実行可能に構成されている。また、保留表示予告演出が実行される前に保留表示予告演出が実行されることを予告する保留表示予告準備演出と、タイマ演出が実行される前にタイマ演出が実行されることを予告するタイマ準備演出とを準備演出として実行可能に構成されている。

【1359】

このような準備演出は、準備演出の後に実行される大当たり示唆演出に注目させる機能を有するが、複数の準備演出が同時に実行されると、遊技者の期待が高まり過ぎてしまい、結果として大当たりとならなかったときに、大きく興趣を低下させてしまうおそれがある。そこで、本特徴部092IWでは、複数の準備演出が同時に実行されることが制限されている。具体的には、保留表示予告準備演出(第2演出態様)とタイマ準備演出とは、実行される期間が異なり、同時に実行されないように構成されている(本例では、保留表示予告準備演出(第2演出態様)の実行が終了した後に、タイマ準備演出が実行される。図15-7(D)参照)。このような構成により、好適に興趣を維持することができる。

30

【1360】

なお、本特徴部092IWの構成では、保留表示予告準備演出(第2演出態様)とタイマ準備演出とは、実行される期間が全く重ならないように構成されているが、例えば、少なくとも開始タイミングと終了タイミングとのいずれかを異ならせることにより、実行される期間が異なるようにしてもよい。

40

【1361】

また、本特徴部092IWの構成では、保留表示予告準備演出(第2演出態様)よりも期待度が低い保留表示予告準備演出(第1演出態様)については、タイマ準備演出と同時に実行可能に構成されているが、このような構成に限らず、保留表示予告準備演出(第1演出態様)についても、保留表示予告準備演出(第2演出態様)程ではなくても、所定の割合でタイマ準備演出と同時に実行されないようにしてもよい。また、常に複数の準備演出が同時に実行されないようにしてもよい。

50

【1362】

また、例えば、保留表示予告準備演出の演出態様が第2演出態様よりも期待度が低い第1演出態様であり、かつタイマ準備演出の演出態様が第2演出態様よりも期待度が低い第1演出態様である場合にのみ、同時に実行されるようにしてもよい。

【1363】

また、例えば、複数の準備演出が同時に実行される場合（または複数の準備演出がいずれも期待度が高い第2演出態様で同時に実行される場合）には、大当たり確定となるようにしてもよい。

【1364】

また、本特徴部092IWの構成では、保留記憶表示の表示態様が1回変化するパターンが示されているが、保留記憶表示（およびアクティブ表示）の表示態様が複数回変化するパターンが設けられている場合には、保留記憶表示（またはアクティブ表示）が通常態様以外の表示態様（具体的には、さらに期待度が高い表示態様が存在する表示態様）により表示されているときに、当該保留記憶表示（またはアクティブ表示）の表示態様が変化することを示唆する演出（例えば、保留記憶表示（またはアクティブ表示）に向かって矢が飛んできて、保留記憶表示（またはアクティブ表示）に刺されば変化し、刺さらなければ変化しない演出（保留記憶表示（またはアクティブ表示）が通常態様以外の表示態様であるときのみ実行される専用演出としてもよい）など）の実行頻度が高くなるようにしてもよいし、逆に実行されないようにしてもよい。

【1365】

次に、チャンス目予告演出を実行するための処理について説明する。図15-9は、チャンス目予告設定処理の一例を示すフローチャートである。チャンス目予告設定処理は、演出制御用CPU120が図15-1に示す演出制御プロセス処理において実行する可変表示開始設定処理（ステップS171）の一部として実行される。

【1366】

チャンス目予告設定処理において演出制御用CPU120は、チャンス目予告演出フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ092IWS201）。チャンス目予告演出フラグがセットされている場合には、チャンス目予告実行可否決定テーブルを用いて、チャンス目予告演出の実行の可否を決定する（ステップ092IWS202）。

【1367】

図15-10は、チャンス目予告実行可否決定テーブルの一例を示す説明図である。図15-10に示すように、保留表示予告準備演出およびタイマ準備演出のいずれも実行されていない状況である場合には、100%の割合で「実行可」（すなわちチャンス目予告演出の実行を許可する）と決定される。また、保留表示予告準備演出およびタイマ準備演出のいずれかが第2演出態様で実行されている状況である場合には、20%の割合で「実行可」（すなわちチャンス目予告演出の実行を許可する）と決定し、80%の割合で「実行否」（すなわちチャンス目予告演出の実行を許可しない）と決定される。また、保留表示予告準備演出およびタイマ準備演出のいずれかが第1演出態様で実行されている（かつ、いずれも第2演出態様で実行されていない）状況である場合には、100%の割合で「実行否」（すなわちチャンス目予告演出の実行を許可しない）と決定される。

【1368】

ステップ092IWS202でチャンス目予告演出の実行を許可する場合には（ステップ092IWS203のY）、飾り図柄の停止図柄をチャンス目図柄（本例では「123」となる飾り図柄の組み合わせ）に決定する（ステップ092IWS204）。なお、ステップ092IWS204以前に、既に飾り図柄の停止図柄を決定している場合には、飾り図柄の停止図柄をチャンス目図柄に変更する。

【1369】

次に、保留表示予告準備演出およびチャンス目予告演出の演出態様について説明する。図15-11は、保留表示予告準備演出およびチャンス目予告演出の演出態様を示す説明図である。

【1370】

図15-11(A1), (A2)に示すように、保留表示予告準備演出(第2演出態様)が実行され、保留記憶表示の近傍に稲妻型のエフェクト大の画像092IW004aが表示されているときには、チャンス目予告演出の実行が許可される場合があり、実行が許可された場合には、飾り図柄の停止図柄として、チャンス目図柄(本例では「123」となる飾り図柄の組み合わせ)が表示される。すなわち、保留表示予告準備演出(第2演出態様)とチャンス目予告演出とが同時に実行されることになる。

【1371】

図15-11(B1), (B2)に示すように、保留表示予告準備演出(第1演出態様)が実行され、保留記憶表示の近傍に稲妻型のエフェクト小の画像092IW004bが表示されているときには、チャンス目予告演出の実行が許可されないため、チャンス目図柄(本例では「123」となる飾り図柄の組み合わせ)とは異なる飾り図柄の停止図柄が表示される。すなわち、保留表示予告準備演出(第1演出態様)とチャンス目予告演出とは同時に実行されない。

10

【1372】

本特徴部092IWでは、大当り示唆演出として、保留表示予告演出およびタイマ演出とは別にチャンス目予告演出を実行可能であり、このチャンス目予告演出は、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出という準備演出と同一期間に並列して実行されるように構成されている(すなわち、対象となる可変表示の実行前の期間において実行される。図15-11(A1), (A2)参照)。また、上述したように、チャンス目予告演出は、保留表示予告演出やタイマ演出よりも、大当りとなる期待度が低い。そのため、準備演出が実行されているとき(すなわち大当り示唆演出が実行される前であって、その期待度が不明であるとき)に、大当りとなる期待度が低いチャンス目予告演出が実行されると、準備演出の演出効果を低下させてしまうおそれがある。また、示唆される期待度が分かりにくくなるおそれがある。そこで、本特徴部092IWでは、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出が実行されているときよりも、実行されていないときの方が、チャンス目予告演出が実行されやすいように構成されている(例えば、図15-10参照)。このような構成により、好適に興味を維持することができる。

20

【1373】

また、本特徴部092IWでは、第1演出態様の準備演出が実行されるときと、第1演出態様よりも期待度が高い第2演出態様の準備演出が実行されるときとで、チャンス目予告演出の実行されやすさが異なるように構成されている。具体的には、チャンス目予告演出は、保留表示予告準備演出が第2演出態様(エフェクト大)で実行されるときの方が、第1演出態様(エフェクト小)で実行されるときよりも、実行が許可されやすいように構成されている(図15-10参照)。このような構成により、チャンス目予告演出を実行する機会を確保しながら、好適に興味を維持することができる。

30

【1374】

以上に説明したように、本特徴部092IWでは、有利状態(例えば、大当り遊技状態)に制御されることを示唆する示唆演出(例えば、保留表示予告演出やタイマ演出、チャンス目予告演出など)を実行可能な示唆演出実行手段と、示唆演出が実行される前に示唆演出が実行されることを予告する準備演出(例えば、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出など)を実行可能な準備演出実行手段とを備え、示唆演出は、第1示唆演出(例えば、保留表示予告演出)と、該第1示唆演出とは異なる第2示唆演出(例えば、タイマ演出)とを含み、準備演出は、第1示唆演出が実行されることを予告する第1準備演出(例えば、保留表示予告準備演出)と、第2示唆演出が実行されることを予告する第2準備演出(例えば、タイマ準備演出など)とを含み、第1示唆演出と第2示唆演出とは、同時に実行可能であり、第1準備演出と第2準備演出とは、同時に実行されることが制限される(例えば、保留表示予告準備演出(第2演出態様)とタイマ準備演出とは、同時に実行されない。図15-7(D)参照)。そのため、好適に興味を維持することができる。

40

【1375】

50

また、本特徴部 092IWでは、有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、保留表示予告演出やタイマ演出、チャンス目予告演出など）を実行可能な示唆演出実行手段と、示唆演出が実行される前に示唆演出が実行されることを予告する準備演出（例えば、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出など）を実行可能な準備演出実行手段とを備え、示唆演出は、第1示唆演出（例えば、保留表示予告演出）と、該第1示唆演出とは異なる第2示唆演出（例えば、タイマ演出）と、該第1示唆演出および該第2示唆演出とは異なる第3示唆演出（例えば、チャンス目予告演出）とを含み、準備演出は、第1示唆演出が実行されることを予告する第1準備演出（例えば、保留表示予告準備演出）と、第2示唆演出が実行されることを予告する第2準備演出（例えば、タイマ準備演出など）とを含み、第3示唆演出、第1準備演出および第2準備演出は、同一期間に並列して実行可能であり（図15-11（A1）、（A2）参照）、第1準備演出および第2準備演出のいずれかが実行されているときよりも、第1準備演出および第2準備演出のいずれも実行されていないときの方が、第3示唆演出が実行されやすい（例えば、図15-10参照）。そのため、好適に興味を維持することができる。

【1376】

また、本特徴部 092IWでは、有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、保留表示予告演出やタイマ演出、チャンス目予告演出など）を実行可能な示唆演出実行手段と、示唆演出が実行される前に示唆演出が実行されることを予告する準備演出（例えば、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出など）を実行可能な準備演出実行手段とを備え、示唆演出は、期待度が異なる複数種類の第1示唆演出（例えば、演出態様により期待度が異なる保留表示予告演出）と、該第1示唆演出とは異なる第2示唆演出（例えば、タイマ演出）とを含み、第1示唆演出は、所定第1示唆演出と、該所定第1示唆演出よりも期待度が高い特別第1示唆演出とを含み（例えば、第1演出態様（青色）の保留表示予告演出と、第3演出態様（赤色）の保留表示予告演出とを含む）、準備演出は、第1示唆演出が実行されることを予告する第1準備演出（例えば、保留表示予告準備演出）と、第2示唆演出が実行されることを予告する第2準備演出（例えば、タイマ準備演出など）とを含み、第1準備演出は、演出態様として、第1演出態様と、該第1演出態様よりも特別第1示唆演出が実行されやすい第2演出態様とがあり（例えば、第1演出態様（エフェクト小）と第2演出態様（エフェクト大）とがあり、第2演出態様（エフェクト大）の保留表示予告準備演出が実行されるときには、第1演出態様（青色）の保留表示予告演出が実行されず、第3演出態様（赤色）の保留表示予告演出が実行されやすい。図15-3（B）参照）、第1演出態様の第1準備演出が実行されるときと、第2演出態様の第1準備演出が実行されるときとで、第2準備演出の実行割合が異なる（例えば、タイマ準備演出は、第1演出態様（エフェクト小）の保留表示予告準備演出が実行されているときには、同時に実行されるが、第2演出態様（エフェクト大）の保留表示予告準備演出が実行されているときには、同時に実行されない。図15-7参照）。そのため、好適に興味を維持することができる。

【1377】

また、本特徴部 092IWでは、有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、保留表示予告演出やタイマ演出、チャンス目予告演出など）を実行可能な示唆演出実行手段と、示唆演出が実行される前に示唆演出が実行されることを予告する準備演出（例えば、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出など）を実行可能な準備演出実行手段とを備え、示唆演出は、期待度が異なる複数種類の第1示唆演出（例えば、演出態様により期待度が異なる保留表示予告演出）と、該第1示唆演出とは異なる第2示唆演出（例えば、タイマ演出）と、該第1示唆演出および該第2示唆演出とは異なる第3示唆演出（例えば、チャンス目予告演出）とを含み、第1示唆演出は、所定第1示唆演出と、該所定第1示唆演出よりも期待度が高い特別第1示唆演出とを含み（例えば、第1演出態様（青色）の保留表示予告演出と、第3演出態様（赤色）の保留表示予告演出とを含む）、準備演出は、第1示唆演出が実行されることを予告する第1準備演出（例えば、保留表示予告準備演出）と、第2示唆演出が実行されることを予告する第2準備

演出（例えば、タイマ準備演出など）とを含み、第3示唆演出、第1準備演出および第2準備演出は、同一期間に並列して実行可能であり（図15-11（A1），（A2）参照）、第1準備演出は、演出態様として、第1演出態様と、該第1演出態様よりも特別第1示唆演出が実行されやすい第2演出態様とがあり（例えば、第1演出態様（エフェクト小）と第2演出態様（エフェクト大）とがあり、第2演出態様（エフェクト大）の保留表示予告準備演出が実行されるときには、第1演出態様（青色）の保留表示予告演出が実行されず、第3演出態様（赤色）の保留表示予告演出が実行されやすい。図15-3（B）参照）、第1演出態様の第1準備演出が実行されるときと、第2演出態様の第1準備演出が実行されるときとで、第3示唆演出の実行割合が異なる（例えば、チャンス目予告演出は、保留表示予告準備演出が第2演出態様（エフェクト大）で実行されるときの方が、第1演出態様（エフェクト小）で実行されるときよりも、実行が許可されやすい。図15-10参照）。そのため、好適に興味を維持することができる。

10

【1378】

また、本特徴部092IWでは、第1準備演出と第2準備演出とは、実行される期間が異なる（例えば、保留表示予告準備演出（第2演出態様）の実行が終了した後に、タイマ準備演出が実行される。図15-7（D）参照）。そのため、好適に興味を維持することができる。

【1379】

また、本特徴部092IWでは、第1示唆演出は、複数種類の演出態様（例えば、第1演出態様（青色）、第2演出態様（緑色）、第3演出態様（赤色）など。図15-3（A）参照）のうちのいずれかにより実行され、第1準備演出は、複数種類の演出態様（例えば、第1演出態様（エフェクト小）、第2演出態様（エフェクト大）など。図15-3（B）参照）のうちのいずれかにより実行され、いずれの演出態様の第1準備演出が実行されるかに応じて、実行可能な第1示唆演出の演出態様が異なる（例えば、第1演出態様の保留表示予告準備演出が実行された場合には、第1～第3演出態様のうちのいずれかにより保留表示予告演出が実行され、第2演出態様の保留表示予告準備演出が実行された場合には、第2～第3演出態様のうちのいずれかにより保留表示予告演出が実行される）。そのため、好適に興味を維持することができる。

20

【1380】

また、本特徴部092IWでは、示唆演出は、対応する準備演出が実行されることなく実行可能であり（例えば、保留表示予告演出やタイマ演出を実行すると決定したときに、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出が実行なしと決定する場合がある。図15-3（B）、図15-4（B）参照）、対応しない準備演出が実行されたか否かに応じて、実行されやすさが異なる（例えば、図15-3に示すように、入賞時判定結果が大当りの場合には、保留表示予告演出および保留表示予告準備演出を実行すると決定されやすい。また、図15-4に示すように、タイマ演出も実行すると決定されやすい。しかし、タイマ準備演出を実行しないと決定されることがある。すると、タイマ演出に対応しない保留表示予告準備演出が実行されたときの方が、保留表示予告準備演出が実行されないときよりも、タイマ演出が実行されやすくなる）。そのため、好適に興味を維持することができる。

30

【1381】

また、本特徴部092IWでは、準備演出が実行されたか否かに応じて、いずれの演出態様の示唆演出が実行されるかの割合が異なる（例えば、保留表示予告演出やタイマ準備演出の演出態様を第2演出態様と決定した場合には、第1演出態様と決定した場合に比べて、保留表示予告準備演出やタイマ準備演出を実行すると決定する割合が高い。図15-3（B）、図15-4（B）参照）。そのため、好適に興味を維持することができる。

40

【1382】

なお、本特徴部092IWで示した構成は、特徴部153SGなど他の特徴部で示した構成と適宜組み合わせることで遊技機を構成することが可能である。例えば、本特徴部092IWで示したタイマ準備演出は、特徴部153SGで示した大当たりとなること示唆するとともに後部可変表示中示唆演出の実行開始までの期間を示唆するタイマ演出が実行されるこ

50

とを予告し、当該タイマ演出は、リーチ演出中に後部可変表示中示唆演出として大当たりとなることを示唆する大当たり示唆演出またはパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値を示唆する設定示唆演出を実行可能となっているようにしてもよい。

【符号の説明】

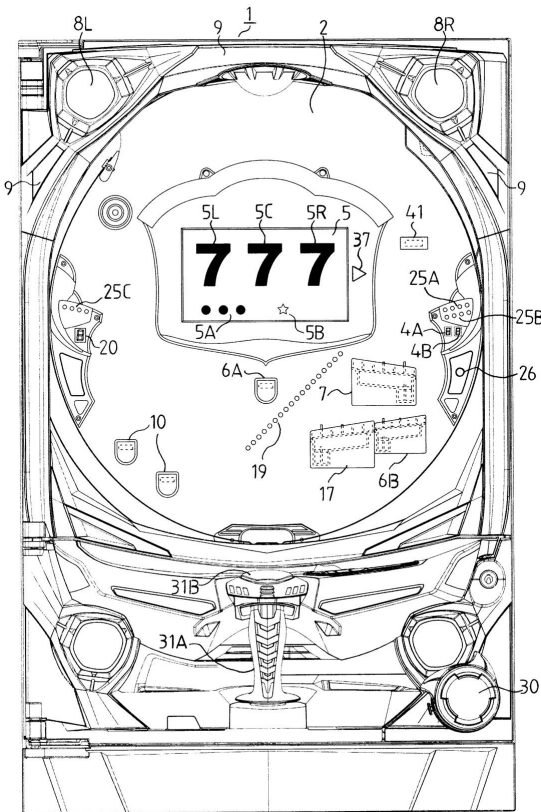
【1 3 8 3】

1	…	パチンコ遊技機	
2	…	遊技盤	
3	…	遊技機用枠	
4 A、4 B	…	特別図柄表示装置	
5	…	画像表示装置	10
6 A	…	入賞球装置	
6 B	…	可変入賞球装置	
7	…	特別可変入賞球装置	
8 L、8 R	…	スピーカ	
9	…	枠 L E D	
1 0	…	一般入賞口	
1 1	…	主基板	
1 2	…	演出制御基板	
1 3	…	音声制御基板	
1 4	…	L E D 制御基板	20
1 5	…	中継基板	
1 7	…	特殊可変入賞球装置	
2 0	…	普通図柄表示器	
2 1	…	ゲートスイッチ	
2 2 A、2 2 B	…	始動口スイッチ	
2 3	…	第 1 カウントスイッチ	
2 4	…	第 2 カウントスイッチ	
3 0	…	打球操作ハンドル	
3 1 A	…	スティックコントローラ	
3 1 B	…	プッシュボタン	30
3 2	…	可動体	
4 1	…	通過ゲート	
1 0 0	…	遊技制御用マイクロコンピュータ	
1 0 1、1 2 1	…	R O M	
1 0 2、1 2 2	…	R A M	
1 0 3	…	C P U	
1 0 4、1 2 4	…	乱数回路	
1 0 5、1 2 5	…	I / O	
1 2 0	…	演出制御用 C P U	
1 2 3	…	表示制御部	40

【図面】

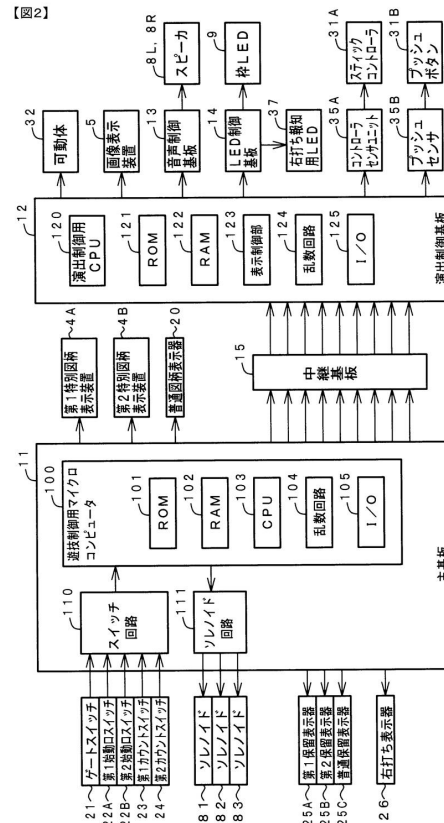
【図 1】

【図1】



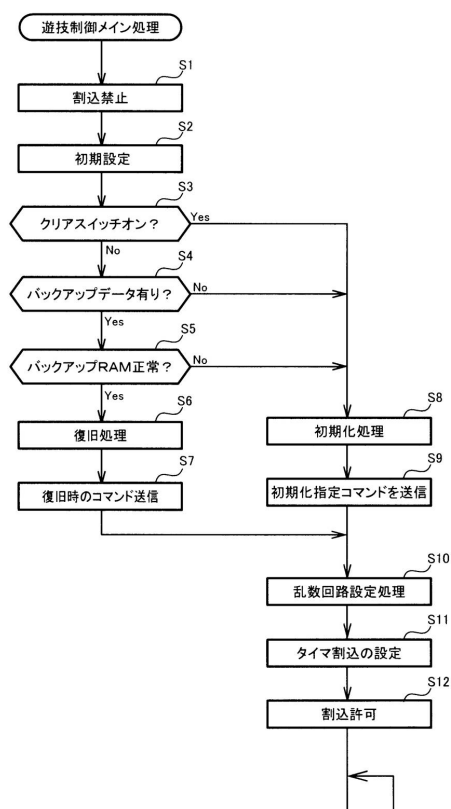
【図 2】

【図2】



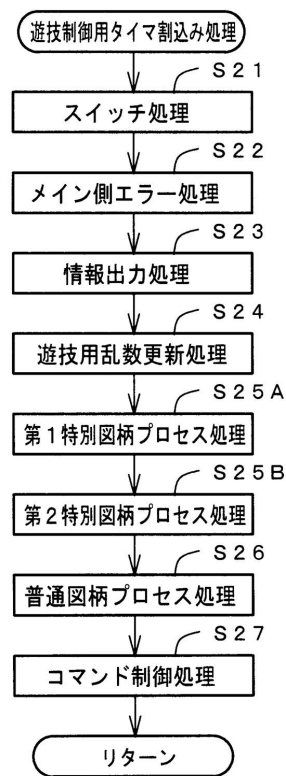
【図 3】

【図3】



【図 4】

【図4】



10

20

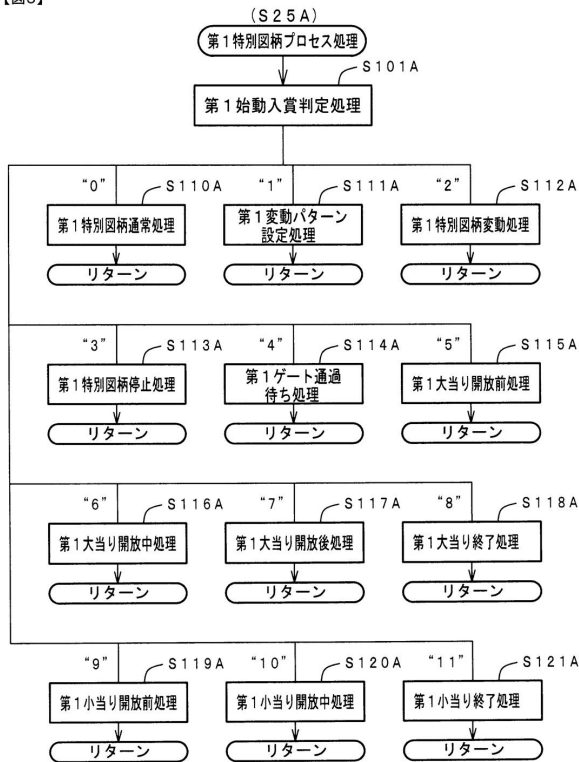
30

40

50

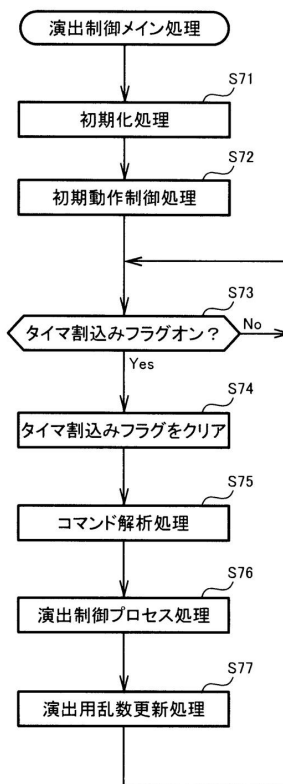
【図 5】

【図5】



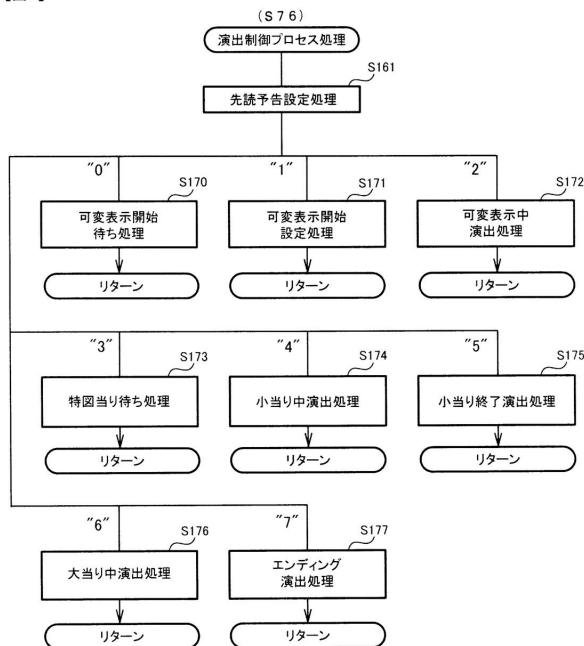
【図 6】

【図6】



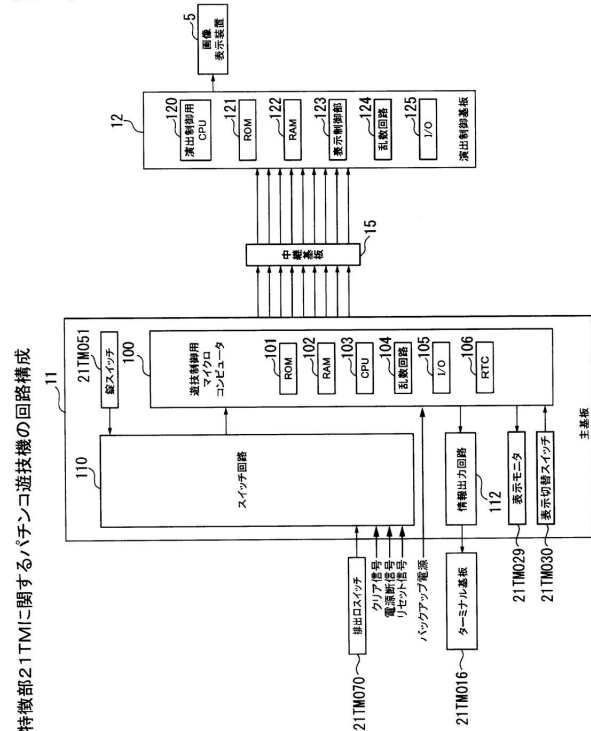
【図 7】

【図7】



【図 8 - 1】

【図8-1】



10

20

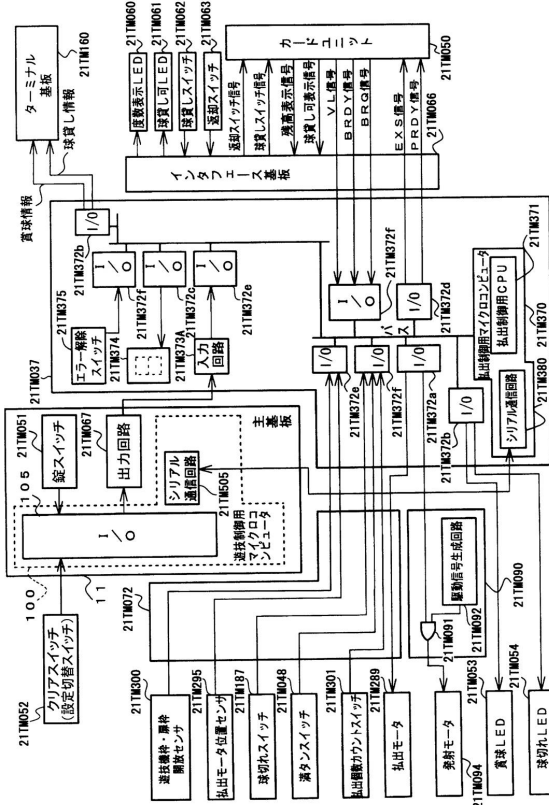
30

40

50

【図 8-2】

【图8-2】



【図 8-4】

【图8-4】

(A) 表示結果判定テーブル(設定値1)			
大当り判定値(MR1[0~65535]と比較される)			
変動特図指定バッファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13477(確率:1/300)	
変動特図指定バッファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13477(確率:1/300)	

(B) 表示結果判定テーブル(設定値2)			
大当り判定値(MR1[0~65535]と比較される)			
変動特図指定バッファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13493(確率:1/280)	
変動特図指定バッファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13493(確率:1/280)	

(C) 表示結果判定テーブル(設定値3)			
大当り判定値(MR1[0~65535]と比較される)			
変動特図指定バッファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13506(確率:1/265)	
変動特図指定バッファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13506(確率:1/265)	

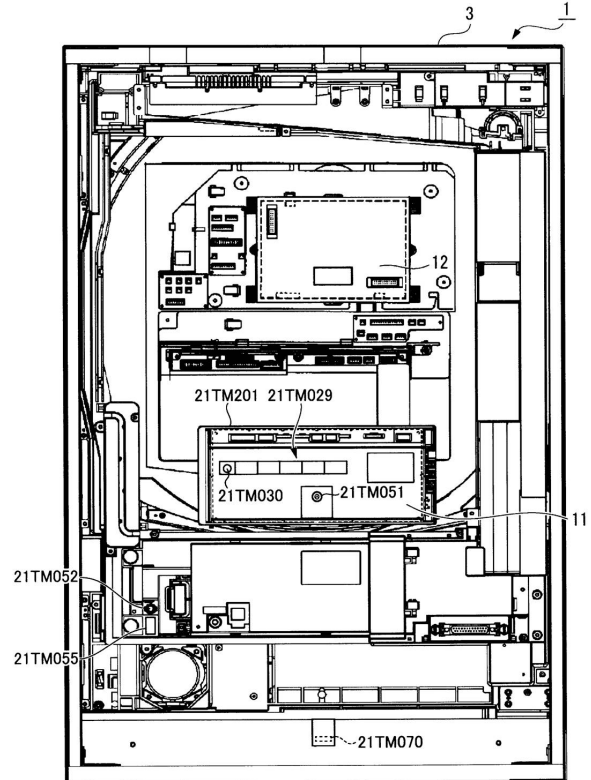
(D) 表示結果判定テーブル(設定値4)			
大当り判定値(MR1[0~65535]と比較される)			
変動特図指定バッファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13521(確率:1/250)	
変動特図指定バッファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13521(確率:1/250)	

(E) 表示結果判定テーブル(設定値5)			
大当り判定値(MR1[0~65535]と比較される)			
変動特図指定バッファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13538(確率:1/235)	
変動特図指定バッファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13538(確率:1/235)	

(F) 表示結果判定テーブル(設定値6)			
大当り判定値(MR1[0~65535]と比較される)			
変動特図指定バッファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13557(確率:1/220)	
変動特図指定バッファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13557(確率:1/220)	

【圖 8-3】

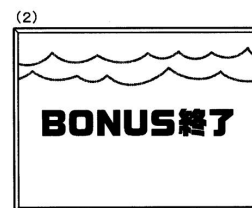
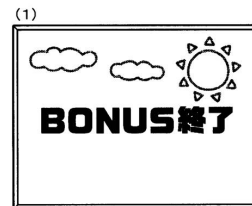
【图8-3】



【圖 8-5】

【图8-5】

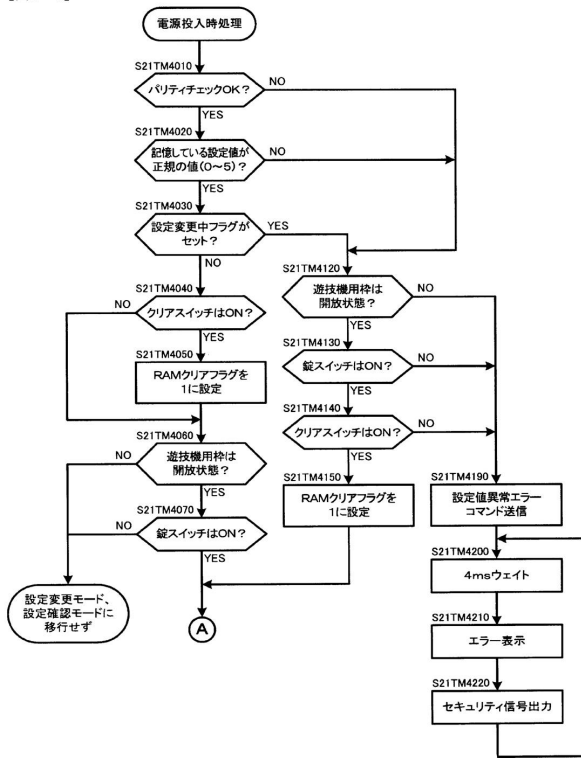
設定示唆演出



設定 示唆演出	設定値		
	1, 2	3, 4	5, 6
(1)	低	低	高
(2)	中	高	低
(3)	中	中	中

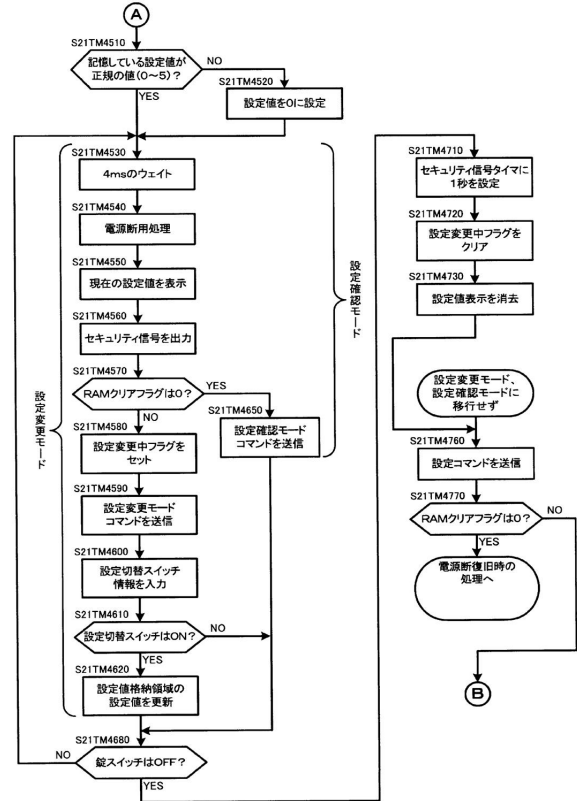
【図 8-6】

【图8-6】



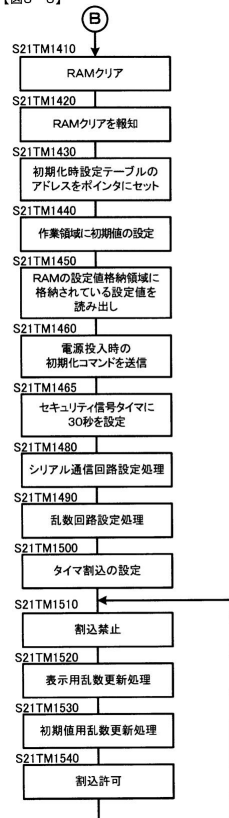
【図 8-7】

【图8-7】



【図 8-8】

【图8-8】



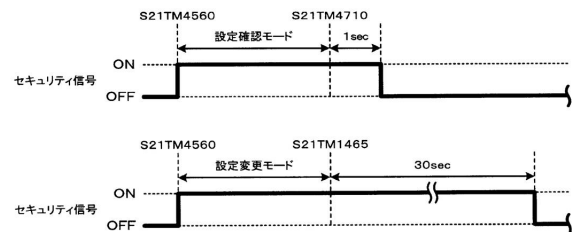
【図 8-9】

【图8-9】

(1) 当初の出力設定

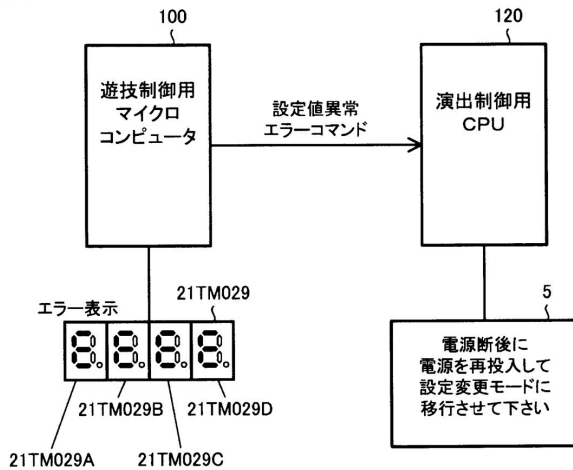


(2) 最終的な出力設定



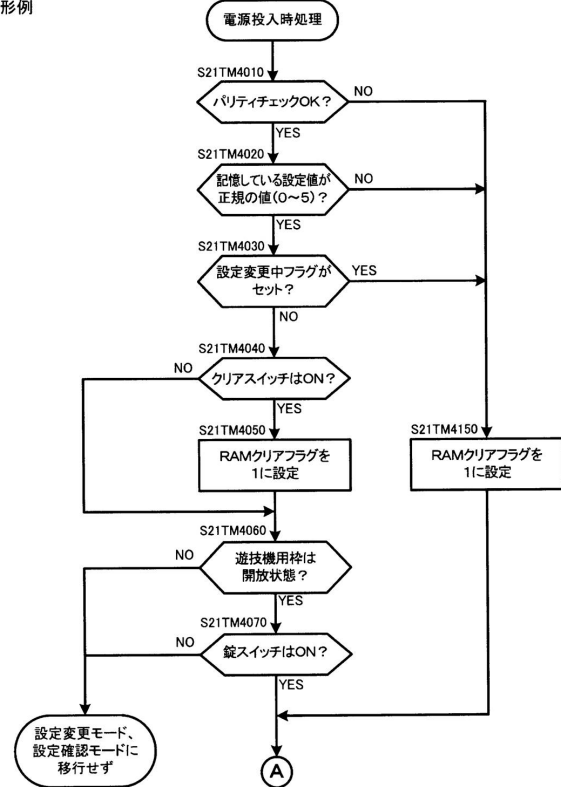
【図 8 - 1 0】

【図8-10】



【図 8 - 1 1】

【図8-11】
変形例



【図 8 - 1 2】

【図8-12】

(1) 設定変更モード中の設定値確定前に電源断した場合

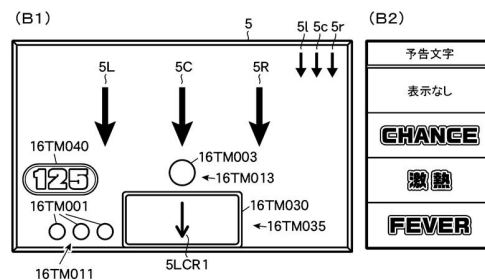
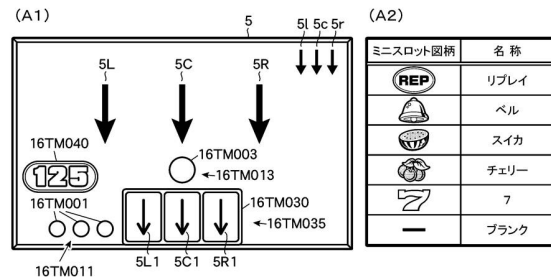
設定値確定前に電源断				
順	状況	錠スイッチ	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	0	
2	設定変更モード開始	ON	0	1
3	設定値変更中	ON	1	2
4	設定値変更中	ON	2	3
5	電源断	ON	2	
6	電源投入	ON	2	
7	設定変更モード開始	ON	2	3

(2) 設定変更モード中の設定値確定後に電源断した場合

設定値確定後に電源断				
順	状況	錠スイッチ	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	0	
2	設定変更モード開始	ON	0	1
3	設定値変更中	ON	1	2
4	設定値変更中	ON	2	3
5	設定値確定	OFF	2	3
6	電源断	OFF	2	
7	電源投入	ON	2	
8	設定変更モード開始	ON	2	3

【図 9 - 1】

【図9-1】



10

20

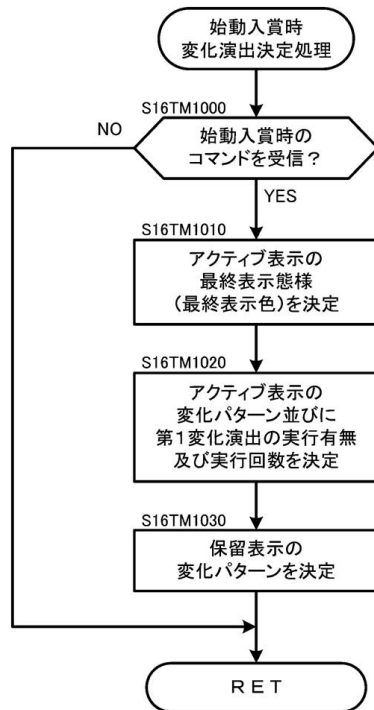
30

40

50

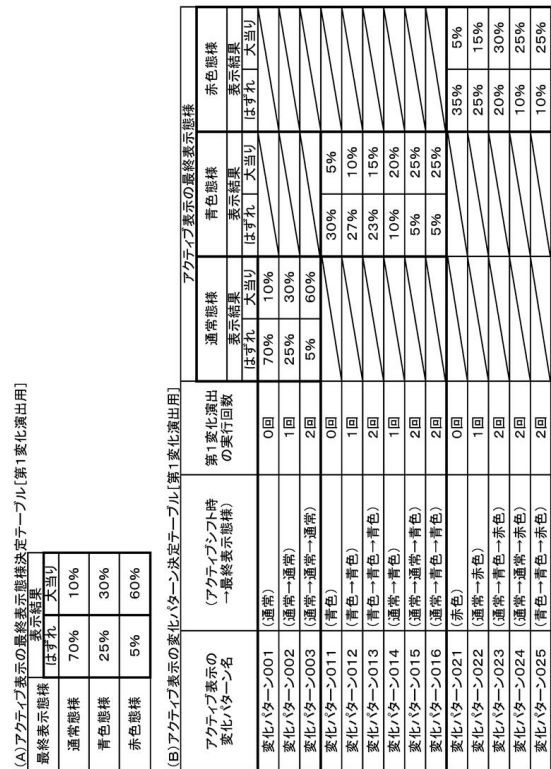
【図 9 - 2】

【図9-2】



【図 9 - 3】

【図9-3】



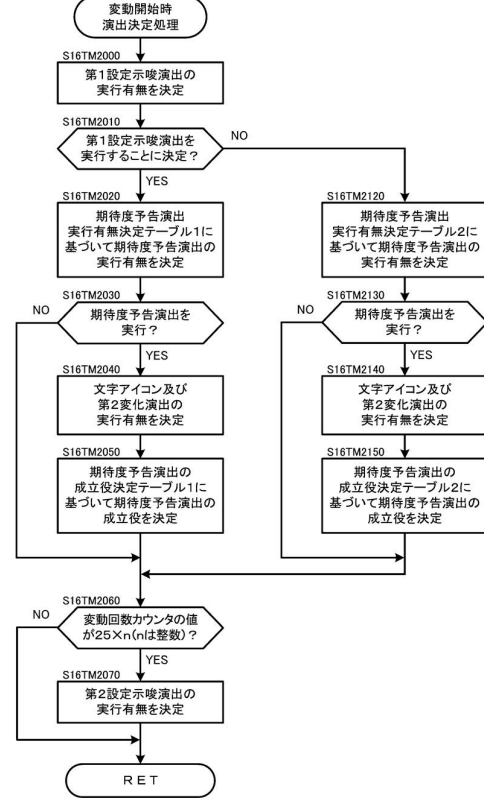
【図 9 - 4】

【図9-4】



【図 9 - 5】

【図9-5】



10

20

30

40

50

【図 9 - 6】

【図9-6】

(G)第1設定示唆演出の実行有無決定テーブル

設定値	実行なし	実行あり
1	97%	3%
2	96%	4%
3	95%	5%
4	94%	6%
5	93%	7%
6	92%	8%

[第1設定示唆演出を実行する場合]

(H1)期待度予告演出の実行有無決定テーブル1
[はずれ用]

変動パターン (変動時間)	期待度予告演出 実行なし	期待度予告演出 実行あり
非リーチはずれ (10秒)	100%	0%
ノーマルリチはずれ (30秒)	100%	0%
スーパーリチはずれ (120秒)	60%	40%

(H2)期待度予告演出の実行有無決定テーブル1
[大当り用]

変動パターン	期待度予告演出 実行なし	期待度予告演出 実行あり
ノーマルリチ大当り (30秒)	100%	0%
スーパーリチ大当り (120秒)	20%	80%

[第1設定示唆演出を実行しない場合]

(I1)期待度予告演出の実行有無決定テーブル2
[はずれ用]

変動パターン (変動時間)	期待度予告演出 実行なし	期待度予告演出 実行あり
非リチはずれ (10秒)	100%	0%
ノーマルリチはずれ (30秒)	80%	20%
スーパーリチはずれ (120秒)	40%	60%

(I2)期待度予告演出の実行有無決定テーブル2
[大当り用]

変動パターン	期待度予告演出 実行なし	期待度予告演出 実行あり
ノーマルリチ大当り (30秒)	30%	70%
スーパーリチ大当り (120秒)	10%	90%

(J)文字アイコン決定テーブル[第2変化演出用]

文字アイコン	第2変化演出 の実行有無	表示結果
[表示なし]	実行なし	はずれ 70% 大当り 22%
CHANCE		25% 35%
激熱	実行あり	5% 40%
FEVER		0% 3%

【図 9 - 7】

【図9-7】

(K)第1設定示唆演出を実行する場合]期待度予告演出の成立決定テーブル1
成立役

発生文字 (文字アイコン)	はずれ	スライ	チェリー	リプレイ確由	リプレイ確由	7揃い
[表示なし]	100%	0%	0%	0%	0%	0%
CHANCE	5%	45%	20%	20%	8%	0%
激熱	0%	15%	10%	10%	25%	0%
FEVER	0%	0%	0%	0%	0%	30%

(L)第1設定示唆演出を実行しない場合]期待度予告演出の成立決定テーブル2
成立役

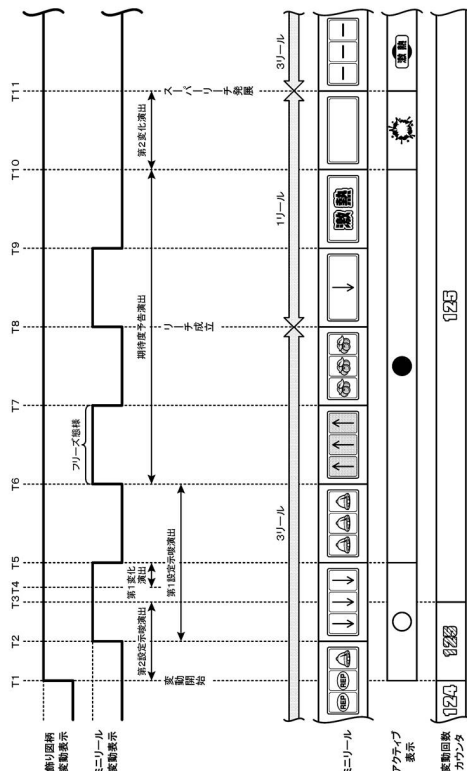
発生文字 (文字アイコン)	はずれ	スライ	チェリー	リプレイ確由	リプレイ確由	7揃い
[表示なし]	100%	0%	0%	0%	0%	0%
CHANCE	5%	15%	50%	50%	18%	0%
激熱	0%	10%	15%	15%	38%	0%
FEVER	0%	0%	0%	0%	0%	70%

(M)第2設定示唆演出の実行有無決定テーブル

設定値	実行なし	実行あり
1	90%	10%
2	88%	12%
3	86%	14%
4	84%	16%
5	82%	18%
6	80%	20%

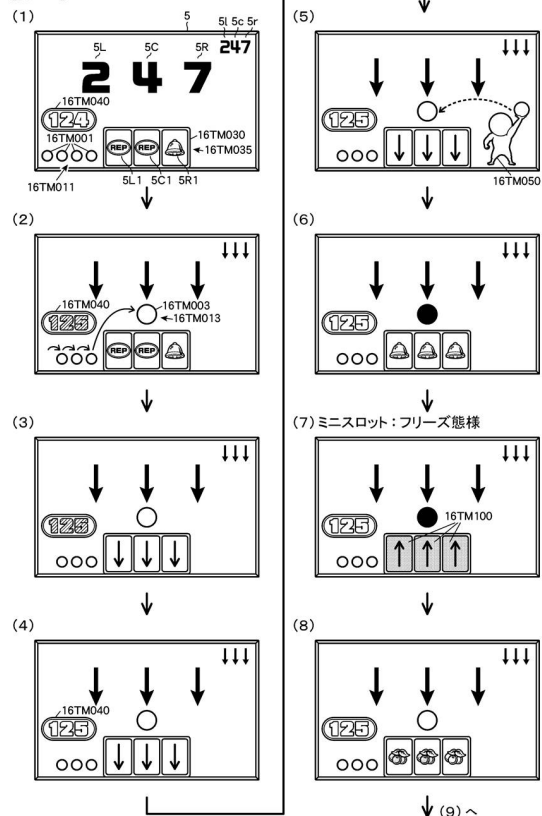
【図 9 - 8】

【図9-8】



【図 9 - 9】

【図9-9】



10

20

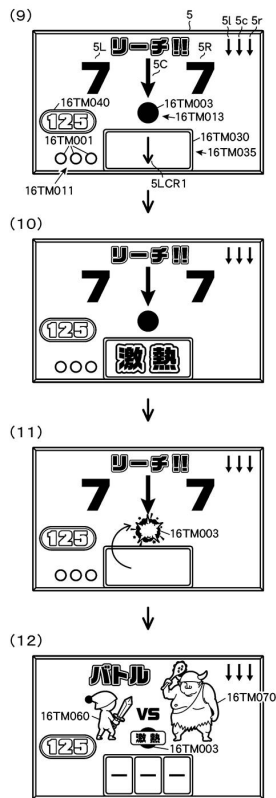
30

40

50

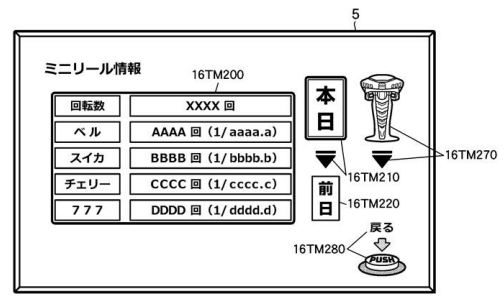
【図 9 - 10】

【図9-10】



【図 9 - 11】

【図9-11】

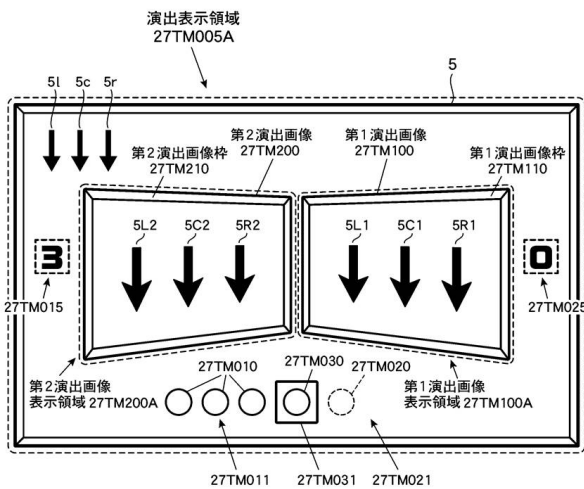


10

20

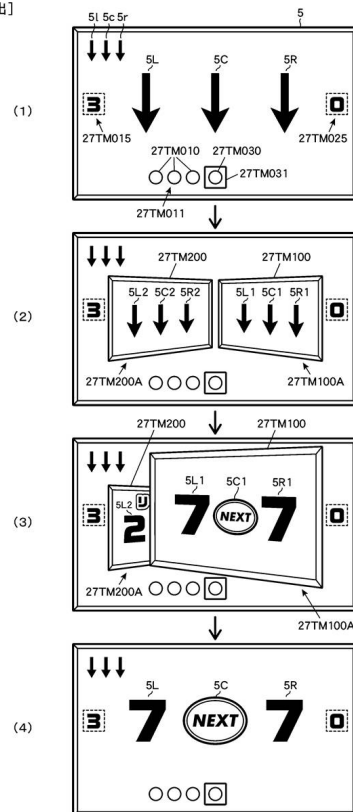
【図 10 - 1】

【図10-1】



【図 10 - 2】

【図10-2】
[分割演出]



30

40

50

【図 10 - 3】

【図10-3】

【第1実施形態、第2実施形態共通】

【はずれ用】変動パターン判定テーブル

変動パターン種別	分割演出	ムービー種別	擬似連回数	種別	割り振り
非リーチはずれ			なし		60%
ノーマルリーチはずれ			なし		7%
			1回	X	5.5%
スーパーリーチAはずれ	なし		なし		3.5%
			1回	X	3%
			2回	X	2.5%
			2回	Y	2%
			2回	Y	1.5%
					1%
					1.5%
					1%
スーパーリーチBはずれ	なし		なし		2.5%
			1回	X	2%
				Y	1.5%
			2回	X	1.5%
				Y	1%
			2回	Y	1%
					0.5%
					1%
					0.5%
					0.5%

【図 10 - 4】

【図10-4】

【第1実施形態、第2実施形態共通】

【大当たり用】変動パターン判定テーブル

変動パターン種別	分割演出		ムービー種別	擬似連回数	種別	割り振り
ノーマルリーチ大当たり				なし		0.5%
				1回	X	1%
スーパーリーチA大当たり	なし			なし		1.5%
				1回	X	2%
				2回	X	2.5%
					Y	5%
	あり	第1演出画像(画面右部) 第2演出画像(画面左部)	ムービー-A(ショート) ムービー-A(ロング) ムービー-A(ショート) ムービー-A(ロング)	2回	Y	6%
						7%
						6%
						7%
スーパーリーチB大当たり	なし			なし		2%
				1回	X	2.5%
					Y	3%
				2回	X	3%
					Y	7%
	あり	第1演出画像(画面右部) 第2演出画像(画面左部) 第1演出画像(画面左部) 第2演出画像(画面右部)	ムービー-B(ショート) ムービー-B(ロング) ムービー-B(ショート) ムービー-B(ロング)	2回	Y	10%
						12%
						10%
						12%

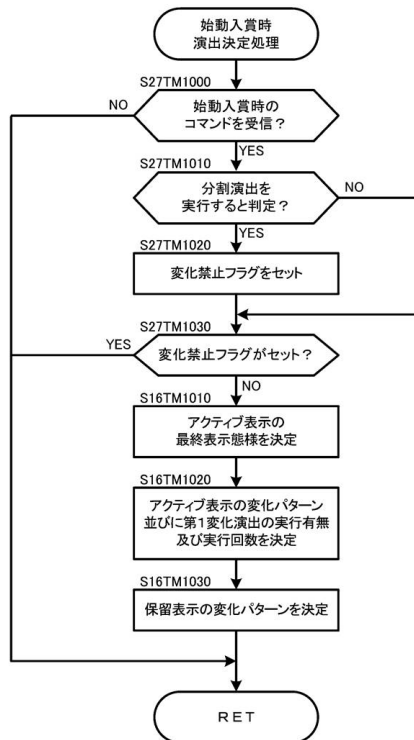
10

20

【図 10 - 5】

【図10-5】

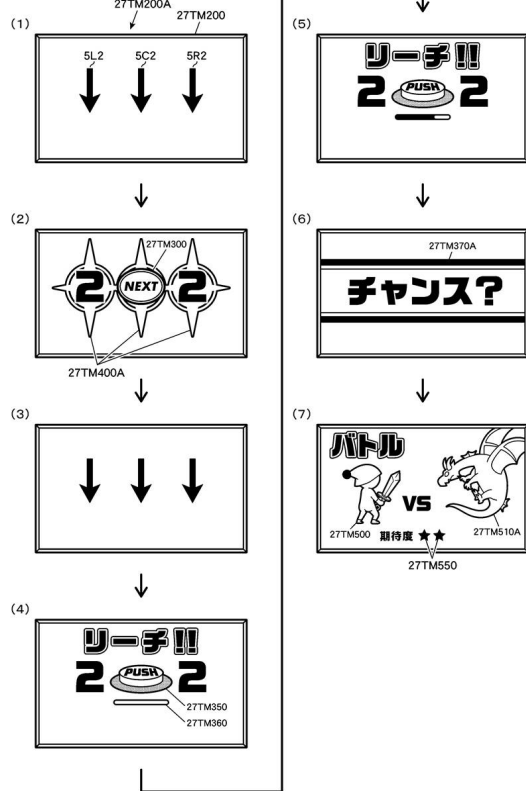
【第1実施形態、第2実施形態 共通】



【図 10 - 6】

【図10-6】

【ムービーA】

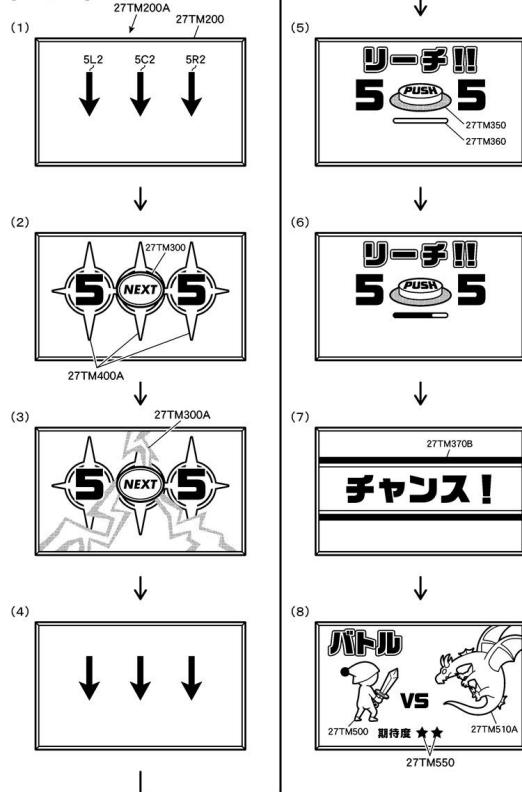


30

40

50

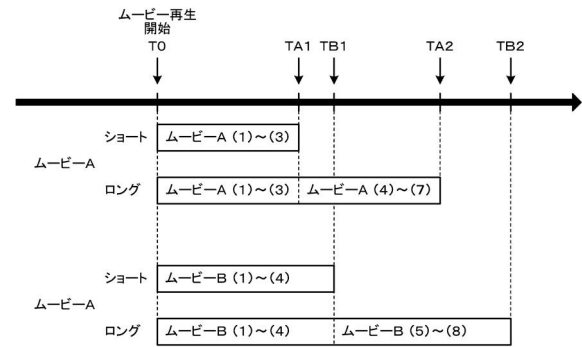
【図10-7】

【図10-7】
【ムービーB】

【図10-8】

【図10-8】

【ムービー再生期間】



10

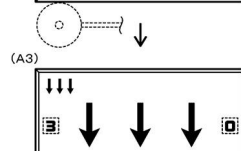
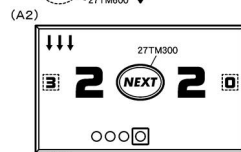
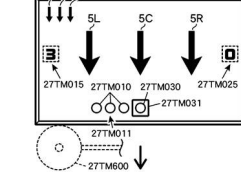
20

【図10-9】

【図10-9】

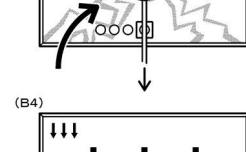
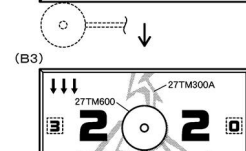
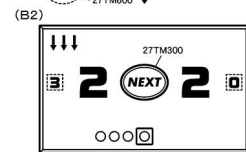
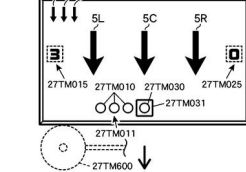
擬似連演出【X:弱】

(A1) 5L 5C 5R



擬似連演出【Y:強】

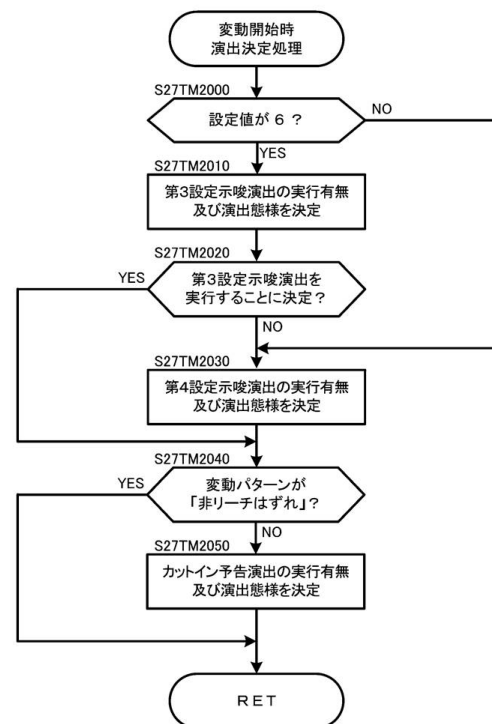
(B1) 5L 5C 5R



【図10-10】

【図10-10】

【第1実施形態】



30

40

50

【図 10-11】

【図10-11】

【第1実施形態、第2実施形態共通】

(A)第3設定示唆演出の実行有無決定テーブル

設定値	第3設定示唆演出 [6確定演出] (図柄エフェクト)	
	実行なし	実行あり
6 (6確定)	99.5%	0.5%

(B)第4設定示唆演出の実行有無決定テーブル

設定値	第4設定示唆演出 [偶奇示唆演出] (図柄エフェクト)		
	実行なし	実行あり	
	白 (デフォルト)	青	赤
1, 3, 5 (奇数示唆)	30%	40%	30%
2, 4, 6 (偶数示唆)	30%	30%	40%

(C)カットイン予告演出の実行有無決定テーブル

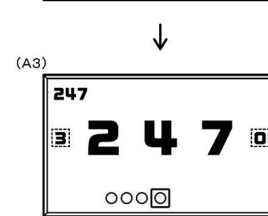
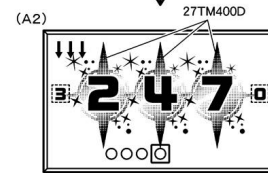
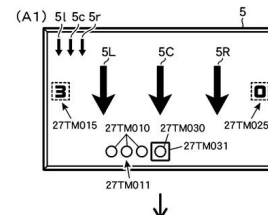
表示結果	カットイン予告演出			
	実行なし	実行あり		
		「チャンス？」	「チャンス！」	「大チャンス!!」
はずれ	80%	15%	8%	2%
大当たり	40%	15%	20%	25%

【図 10-12】

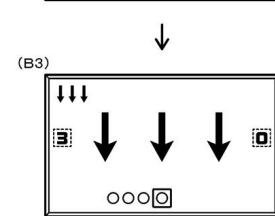
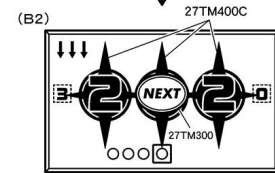
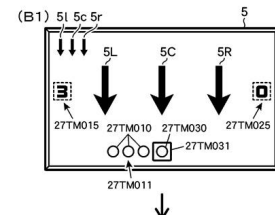
【図10-12】

【第3設定示唆演出、第4設定示唆演出】

(A)変動パターンが「非リーチ」の場合における第3設定示唆演出



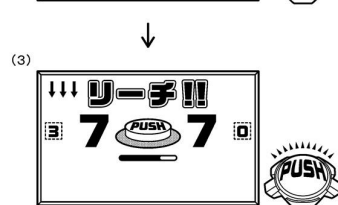
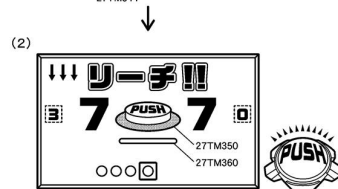
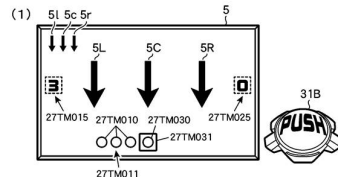
(B)変動パターンが「リーチ(擬似連)」の場合における第4設定示唆演出



【図 10-13】

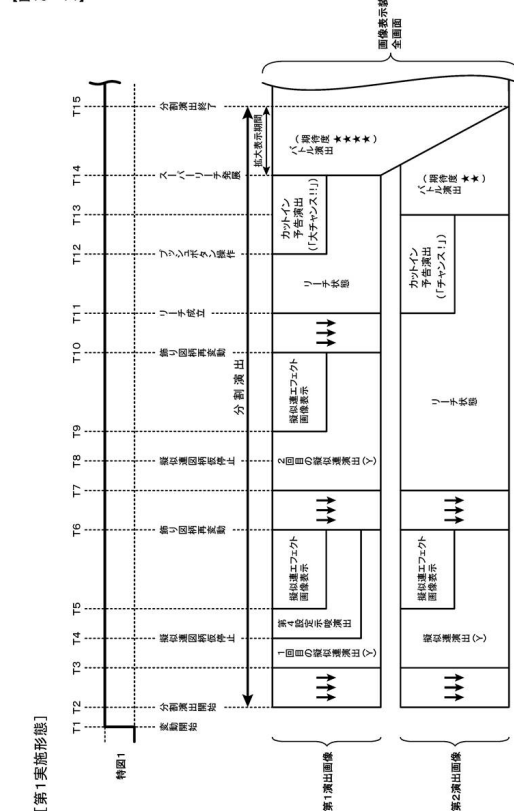
【図10-13】

【カットイン予告演出】



【図 10-14】

【図10-14】



10

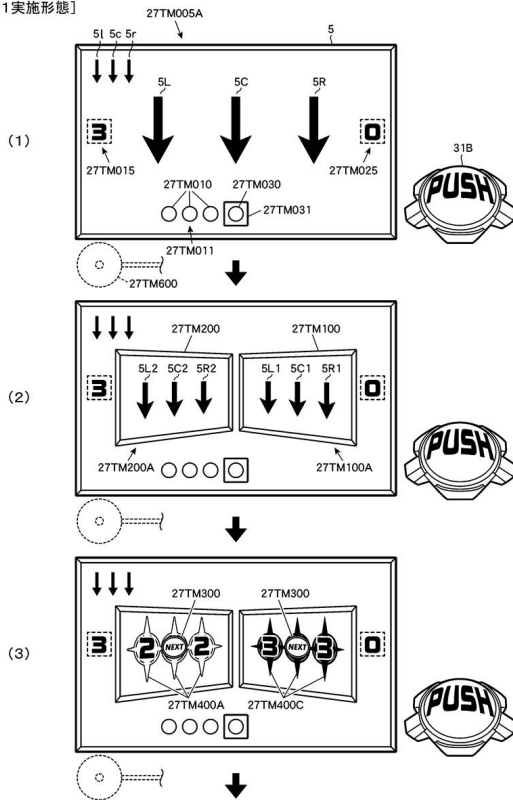
20

30

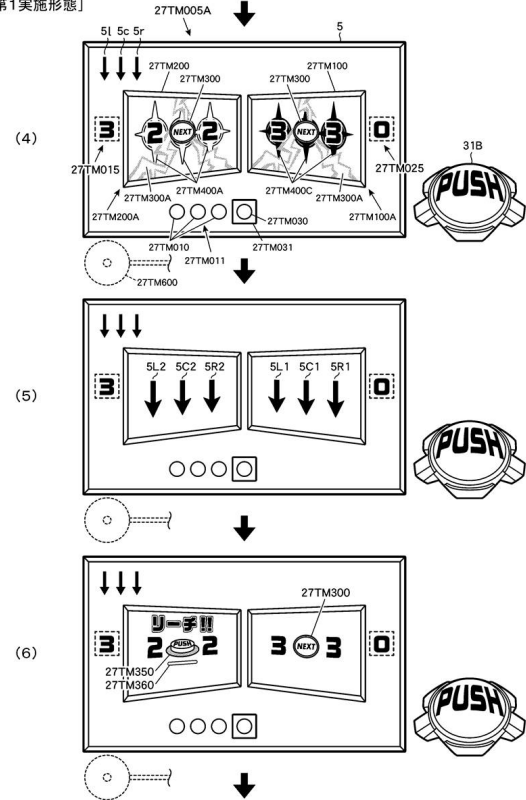
40

50

【図10-15】

【図10-15】
【第1実施形態】

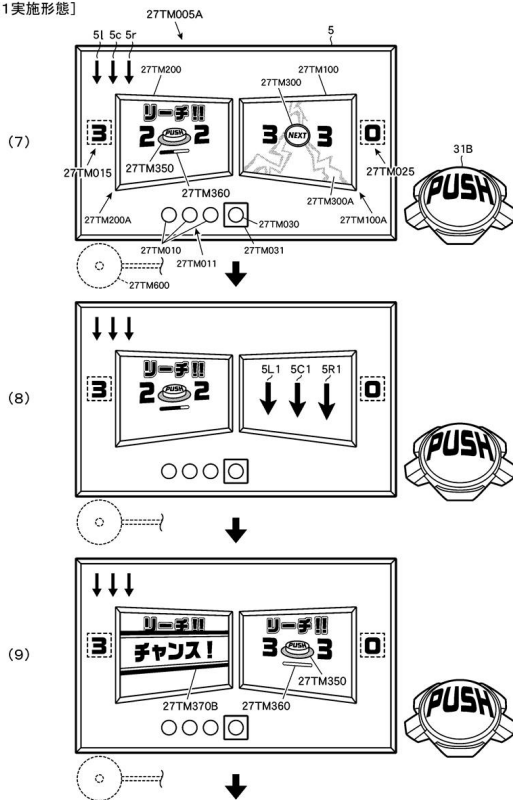
【図10-16】

【図10-16】
【第1実施形態】

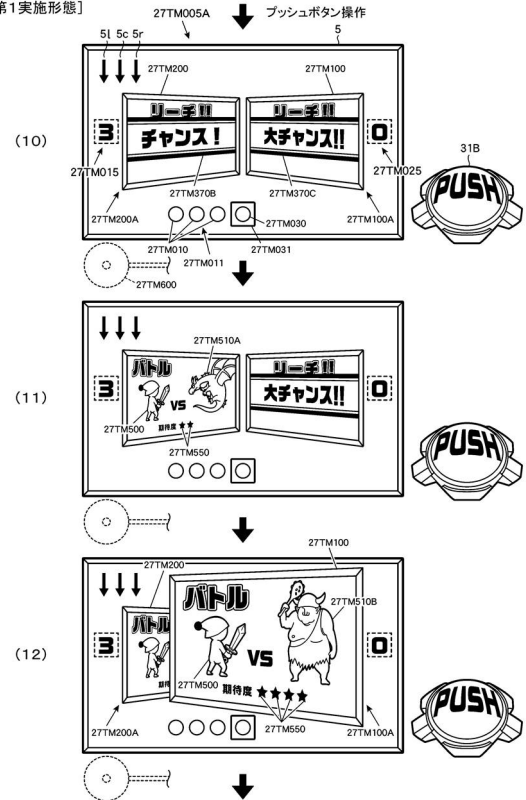
10

20

【図10-17】

【図10-17】
【第1実施形態】

【図10-18】

【図10-18】
【第1実施形態】

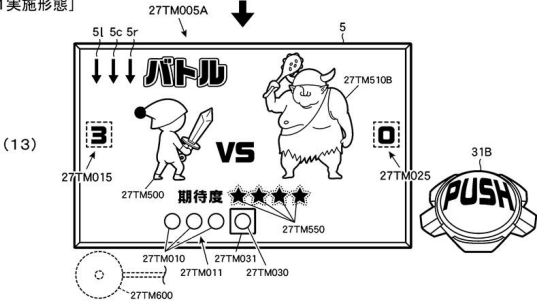
30

40

50

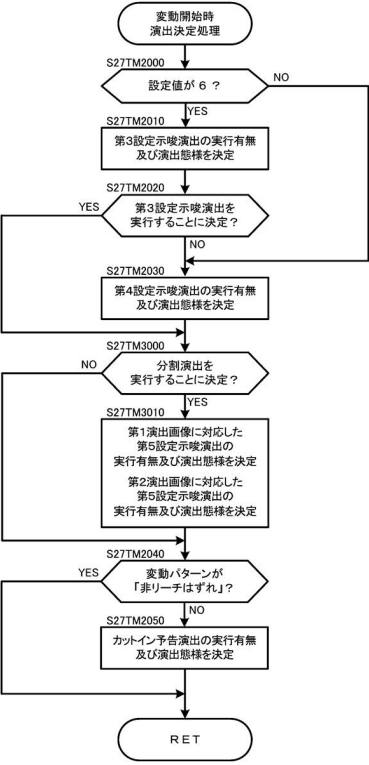
【図 10 - 19】

【図10-19】
[第1実施形態]



【図 10 - 20】

【図10-20】
[第2実施形態]



10

20

【図 10 - 21】

【図10-21】

[第2実施形態]

(A1)第1演出画像における第5設定示唆演出の実行有無決定テーブル

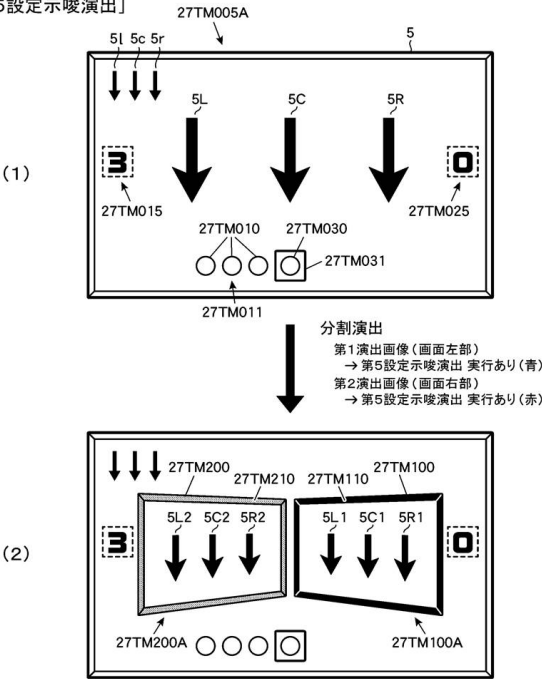
設定値	第5設定示唆演出 [偶奇示唆演出] (分割画面枠の態様)		
	実行なし	実行あり	
	白 (デフォルト)	青	赤
1, 3, 5 (奇数示唆)	60%	30%	10%
2, 4, 6 (偶数示唆)	60%	10%	30%

(A2)第2演出画像における第5設定示唆演出の実行有無決定テーブル

設定値	第5設定示唆演出 [偶奇示唆演出] (分割画面枠の態様)		
	実行なし	実行あり	
	白 (デフォルト)	青	赤
1, 3, 5 (奇数示唆)	80%	11%	9%
2, 4, 6 (偶数示唆)	80%	9%	11%

【図 10 - 22】

【図10-22】
[第5設定示唆演出]



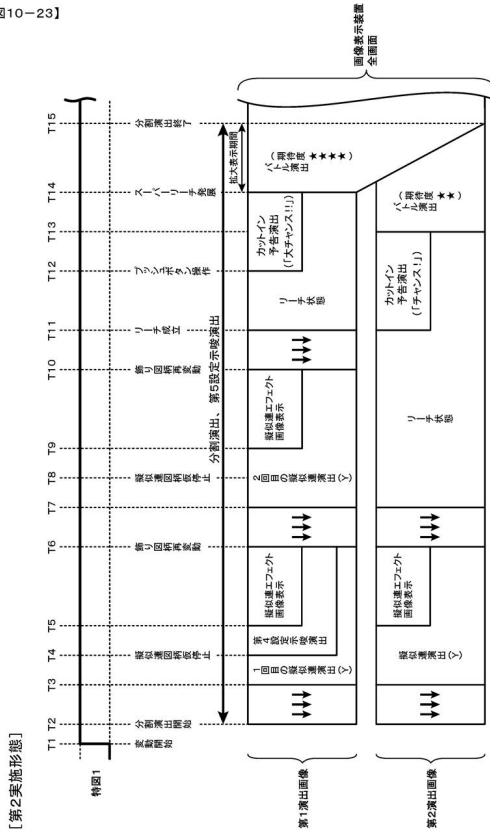
30

40

50

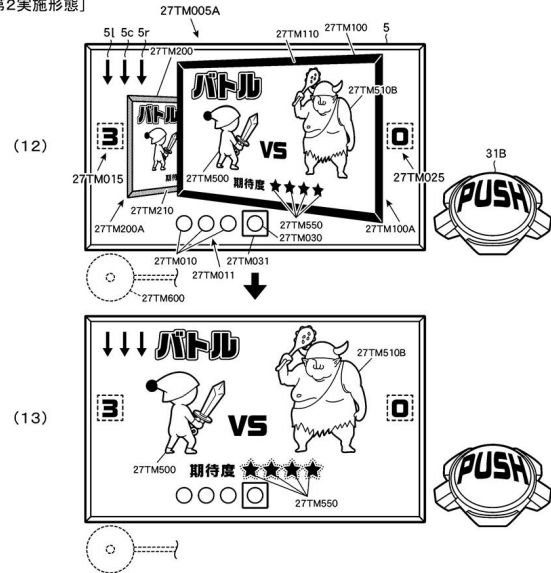
【図 10-23】

【图10-23】



【図 10-24】

【図10-24】
[第2実施形態]

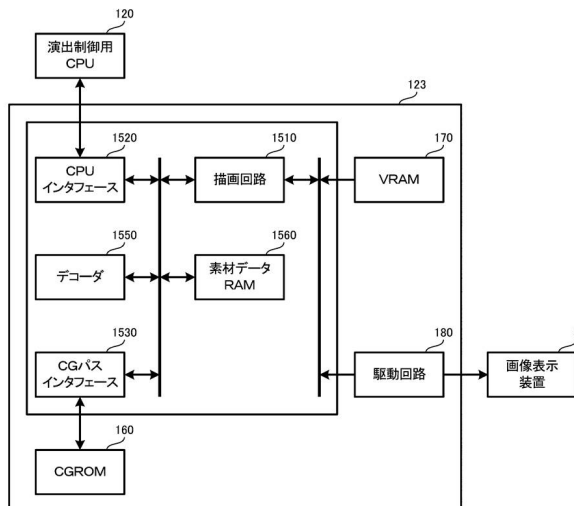


10

20

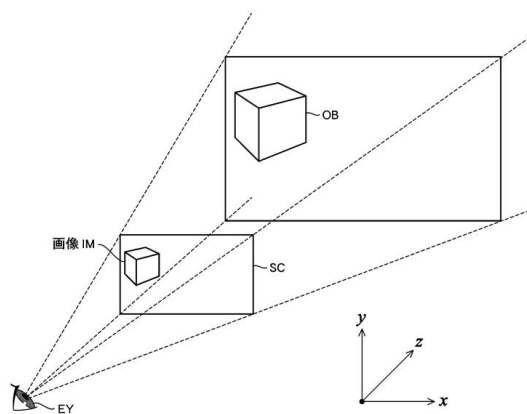
【図 10-25】

【图10-25】



【図 10-26】

【图10-26】

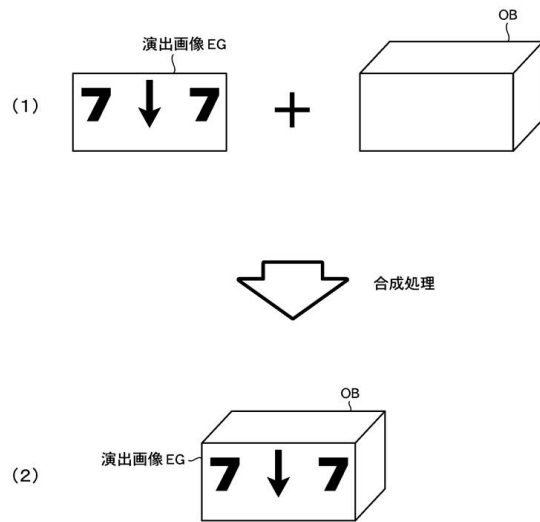


30

40

【図 10-27】

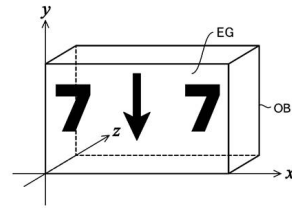
【図10-27】
[合成処理]



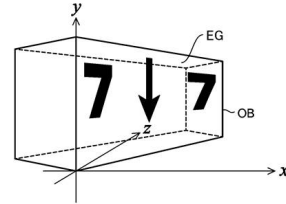
【図 10-28】

【図10-28】
[オブジェクトの回転]

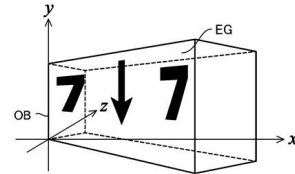
(A) 回転前のオブジェクトOB



(B1) 回転後のオブジェクトOB

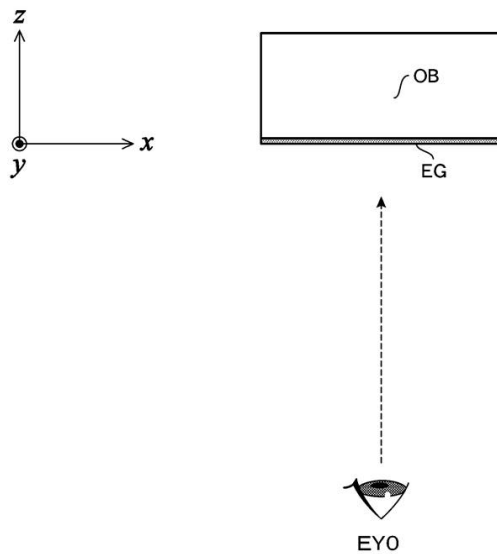


(B2) 回転後のオブジェクトOB



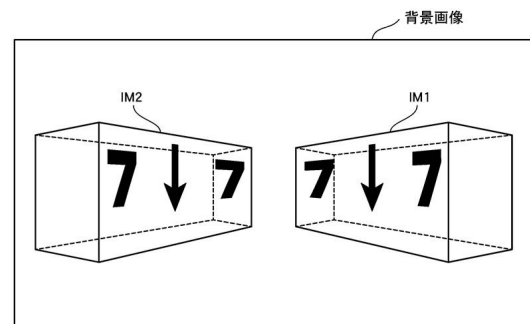
【図 10-29】

【図10-29】



【図 10-30】

【図10-30】



10

20

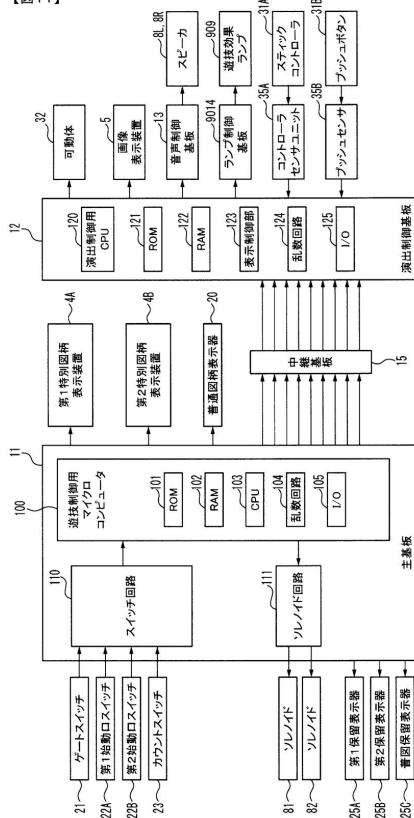
30

40

50

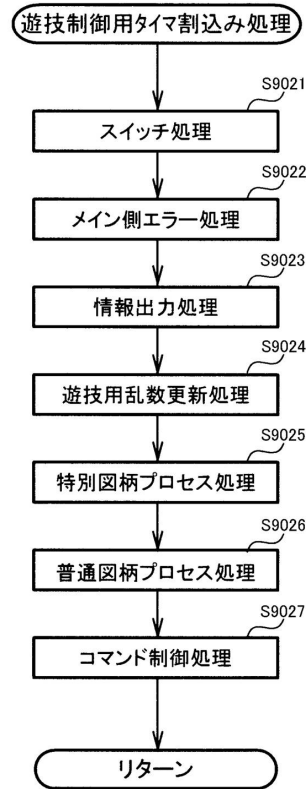
【図 1 1】

【图11】



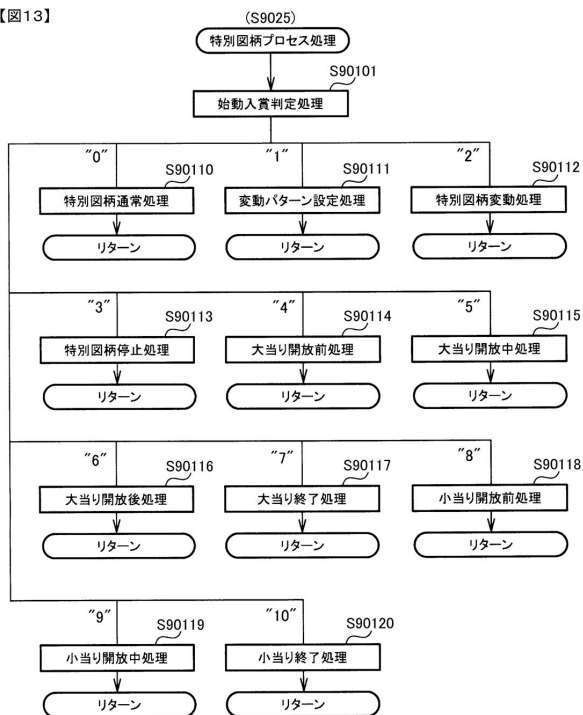
【図 12】

【図12】



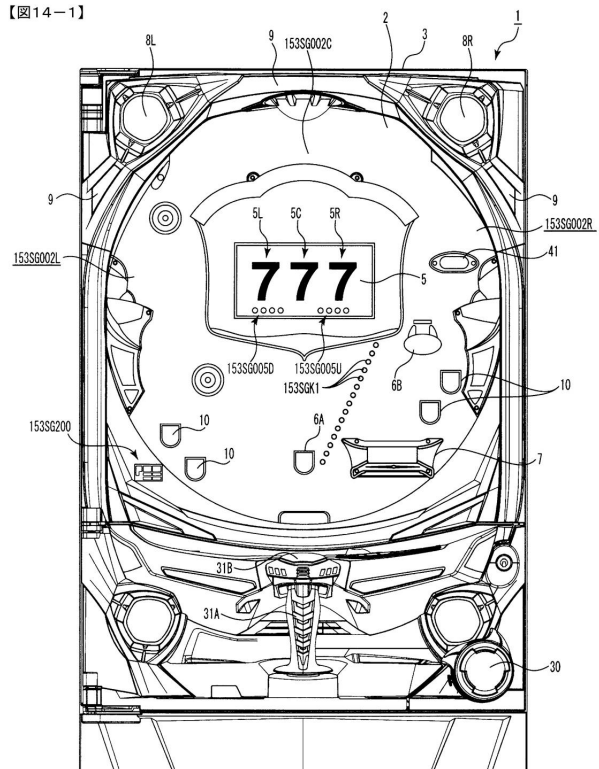
【図 13】

【图13】



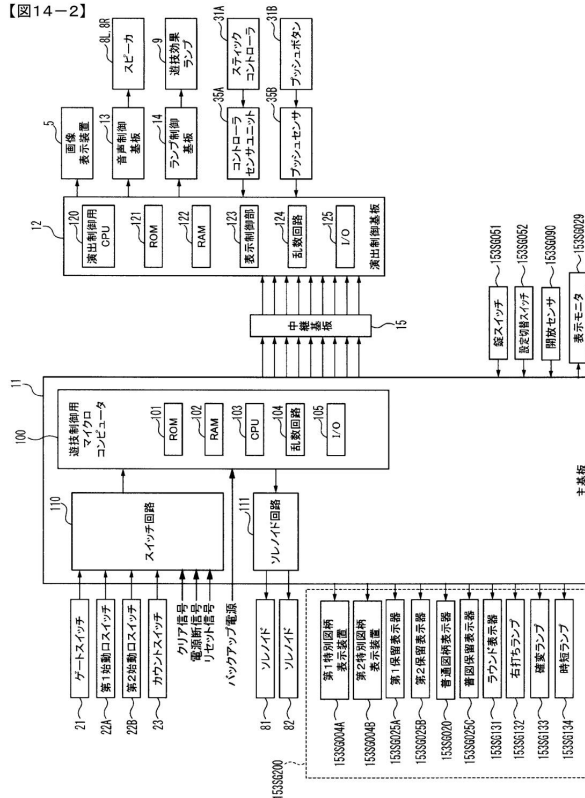
【図 14-1】

【图14-1】



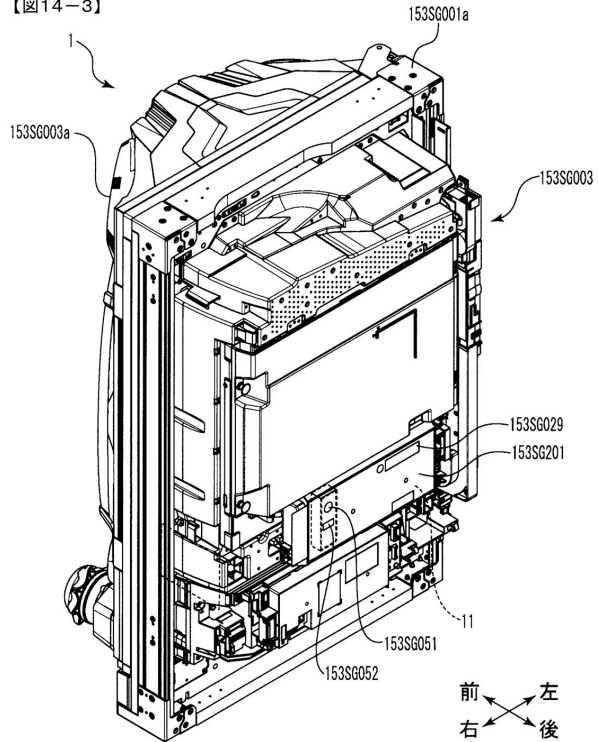
【図 14-2】

【図 14-2】



【図 14-3】

【図 14-3】



【図 14-4】

【図 14-4】

MODE	EXT	名称	内容
80	01	第1可変表示開始	第1特図の可変表示開始を指定
80	02	第2可変表示開始	第2特図の可変表示開始を指定
81	XX	変動パターン指定	変動パターン(変動表示時間)を指定
8C	XX	可変表示結果通知	可変表示結果を指定
8F	00	図柄確定	演出図柄の可変表示の停止指定
95	XX	遊技状態指定	現在の遊技状態を指定
96	XX	エラー指定	XXで示すエラーの発生を指定
A0	XX	当り開始指定	大当り・小当りの開始指定
A1	XX	大入賞口開放中指定	大入賞口開放中を指定
A2	XX	大入賞口開放後指定	大入賞口開放後を指定
A3	XX	当り終了指定	大当り・小当りの終了指定
B1	00	第1始動口入賞指定	第1始動入賞口への入賞を通知
B2	00	第2始動口入賞指定	第2始動入賞口への入賞を通知
C1	XX	第1保留記憶数通知	第1保留記憶数を通知
C2	XX	第2保留記憶数通知	第2保留記憶数を通知
G4	XX	図柄指定	始動入賞時の入賞時判定結果(表示結果)を指定
G6	XX	変動力ゲリ	始動入賞時の入賞時判定結果(変動力ゲリ)を指定
D0	XX	設定値指定	設定値を指定
E1	01	ホットスタート通知	ホットスタートを通知
E1	02	コールドスタート通知	コールドスタートを通知

(B)

MODE	EXT	名称	指定内容
8C	00	第1可変表示結果指定	はずれ
8C	01	第2可変表示結果指定	大当りA
8C	02	第3可変表示結果指定	大当りB
8C	03	第4可変表示結果指定	大当りC
8C	04	第5可変表示結果指定	小当り

【図 14-5】

【図 14-5】

乱数	範囲	用途	加算
MR1	0~65535	特図表示結果判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR2	0~299	大当り種別判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR3	1~997	変動パターン判定用	0.002秒毎および割込処理 余り時間に1ずつ加算
MR4	3~23	普通図柄当り判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR5	3~23	MR4初期値決定用	0.002秒毎および割込処理 余り時間に1ずつ加算

10

20

30

40

50

【図 1 4 - 6】

【図 14-6】

変動パターン	特図変動時間 (ms)	内容
PA1-1	12000	短縮なし (通常状態)→非リーチ (はずれ)
PA1-2	5750	保留2〜4個短縮 (通常状態)→非リーチ (はずれ)
PA1-3	3750	保留5〜8個短縮 (通常状態)→非リーチ (はずれ)
PA1-4	5000	短縮 (時短制御中)→非リーチ (はずれ)
PA2-1	20000	ノーマルリーチ (はずれ)
PA2-2	43000	スーパーリーチ α (はずれ)
PA2-3	53000	スーパーリーチ β (はずれ)
PB1-1	20000	ノーマルリーチ (大当り)
PB1-2	43000	スーパーリーチ α (大当り)
PB1-3	53000	スーパーリーチ β (大当り)
PC1-1	4000	小当り

【図 1 4 - 7】

【図 14-7】

遊技状態	特図表示結果	MR1 (設定値1)						MR1 (設定値2)						MR1 (設定値3)						MR1 (設定値4)						MR1 (設定値5)						MR1 (設定値6)					
		1020〜1237 (確率:1/200)						1020〜1253 (確率:1/280)						1020〜1272 (確率:1/260)						1020〜1292 (確率:1/240)						1020〜1317 (確率:1/220)						1020〜1346 (確率:1/200)					
		32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)					
		上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外					
通常状態 または時短状態	大当り	1020〜1346 (確率:1/200)						1020〜1383 (確率:1/180)						1020〜1429 (確率:1/160)						1020〜1487 (確率:1/140)						1020〜1556 (確率:1/120)						1020〜1674 (確率:1/100)					
	小当り	32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)					
	はずれ	上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外					
確変状態	大当り	1020〜1346 (確率:1/200)						1020〜1383 (確率:1/180)						1020〜1429 (確率:1/160)						1020〜1487 (確率:1/140)						1020〜1556 (確率:1/120)						1020〜1674 (確率:1/100)					
	小当り	32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)						32767〜33094 (確率:1/200)					
	はずれ	上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外					

(A) 第1特図用表示結果判定テーブル

遊技状態	特図表示結果	MR1 (設定値1)						MR1 (設定値2)						MR1 (設定値3)						MR1 (設定値4)						MR1 (設定値5)						MR1 (設定値6)					
		1020〜1237 (確率:1/200)						1020〜1253 (確率:1/280)						1020〜1272 (確率:1/260)						1020〜1292 (確率:1/240)						1020〜1317 (確率:1/220)						1020〜1346 (確率:1/200)					
		32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)					
		上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外					
通常状態 または時短状態	大当り	1020〜1346 (確率:1/200)						1020〜1383 (確率:1/180)						1020〜1429 (確率:1/160)						1020〜1487 (確率:1/140)						1020〜1556 (確率:1/120)						1020〜1674 (確率:1/100)					
	小当り	32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)					
	はずれ	上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外					
確変状態	大当り	1020〜1346 (確率:1/200)						1020〜1383 (確率:1/180)						1020〜1429 (確率:1/160)						1020〜1487 (確率:1/140)						1020〜1556 (確率:1/120)						1020〜1674 (確率:1/100)					
	小当り	32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)						32767〜33421 (確率:1/100)					
	はずれ	上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外						上記数値以外					

(B) 第2特図用表示結果判定テーブル

【図 1 4 - 8】

【図 14-8】

(A) 大当り種別判定テーブル(第1特別図柄用) (B) 大当り種別判定テーブル(第2特別図柄用)

判定結果	MR2
大当りA	0〜99
大当りB	100〜249
大当りC	250〜299

判定結果	MR2
大当りA	0〜99
大当りB	100〜199
大当りC	200〜299

【図 1 4 - 9】

【図 14-9】

大当り種別

大当り種別	確変制御	時短制御	ラウンド数
大当りA	無し	100回 (100回以内の大当りまで)	5
大当りB	次回大当りまで	次回大当りまで	10
大当りC	次回大当りまで	次回大当りまで	15

10

20

30

40

50

【図 14-10】

【図14-10】

(A) 大当り用変動パターン判定テーブル(大当りA用)

変動パターン	MR3
ノーマルPB1-1	1~400
スーパーPB1-2	401~850
スーパーPB1-3	851~997

(B) 大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)

変動パターン	MR3
ノーマルPB1-1	1~200
スーパーPB1-2	201~550
スーパーPB1-3	551~997

(C) 小当り用変動パターン判定テーブル

変動パターン	MR3
小当りPC1-1	1~997

【図 14-11】

【図14-11】

(A) はずれ用変動パターン判定テーブルA(低ベース中合算保留記憶数1個以下用)

変動パターン	MR3
非リーチPA1-1	1~450
ノーマルPA2-1	451~700
スーパーPA2-2	701~900
スーパーPA2-3	901~997

(B) はずれ用変動パターン判定テーブルB(低ベース中合算保留記憶数2~4個用)

変動パターン	MR3
非リーチPA1-2	1~500
ノーマルPA2-1	501~700
スーパーPA2-2	701~900
スーパーPA2-3	901~997

(C) はずれ用変動パターン判定テーブルC(低ベース中合算保留記憶数5個以上用)

変動パターン	MR3
非リーチPA1-3	1~550
ノーマルPA2-1	551~700
スーパーPA2-2	701~900
スーパーPA2-3	901~997

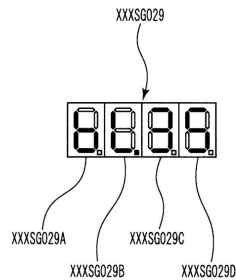
(D) はずれ用変動パターン判定テーブルD(高ベース中用)

変動パターン	MR3
非リーチPA1-4	1~550
ノーマルPA2-1	551~700
スーパーPA2-2	701~900
スーパーPA2-3	901~997

【図 14-12】

【図14-12】

(A)



(B) 7セグ+ドット

表示内容	略記	1、2桁目	3、4桁目
ベース L (%)	bL.	b	L. 00~99
ベース 1 (%)	B1.	b	1. 00~99
ベース 2 (%)	B2.	b	2. 00~99
ベース 3 (%)	B3.	b	3. 00~99

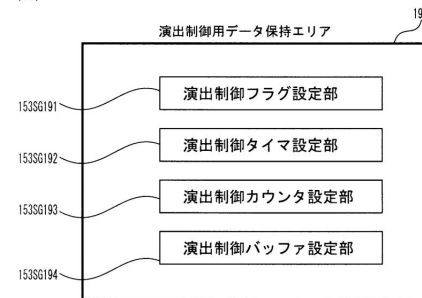
(C) ベース

表示内容	説明
ベース L (%)	全遊技状態のアウト6000個毎の通常状態でのベース(計測中のリアルタイム値)
ベース 1 (%)	全遊技状態のアウト6000個毎の通常状態でのベース(1回前の6000個の累計値)
ベース 2 (%)	全遊技状態のアウト6000個毎の通常状態でのベース(2回前の6000個の累計値)
ベース 3 (%)	全遊技状態のアウト6000個毎の通常状態でのベース(3回前の6000個の累計値)

【図 14-13】

【図14-13】

(A)



(B)

始動入賞時受信コマンド/バッファ					
バッファ番号	始動口入賞指定	図柄指定	変動カテゴリ	保留記憶数通知	保留表示フラグ
第1特図保留記憶	1-0	B100 (H)	C400 (H)	C600 (H)	C102 (H) 0
	1-1	B100 (H)	C400 (H)	C600 (H)	C102 (H) 0
	1-2	B100 (H)	C410 (H)	C601 (H)	C102 (H) 1
	1-3	B100 (H)	C400 (H)	C600 (H)	C103 (H) —
第2特図保留記憶	2-0	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H) —
	2-1	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H) —
	2-2	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H) —
	2-3	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H) —
第3特図保留記憶	3-0	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H) —
	3-1	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H) —

保留表示フラグ "0" — ○
 保留表示フラグ "1" — ◇
 保留表示フラグ "2" — ☆
 保留表示フラグ "3" — カメラ (青)
 保留表示フラグ "4" — カメラ (赤)

10

20

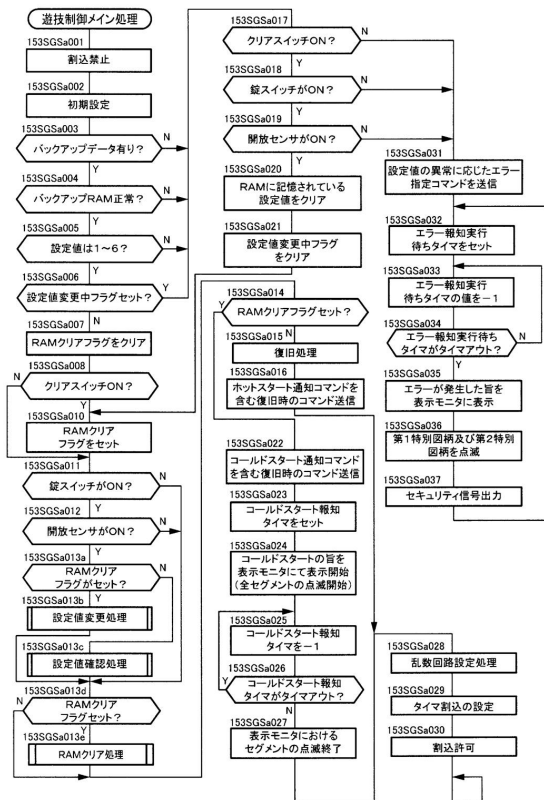
30

40

50

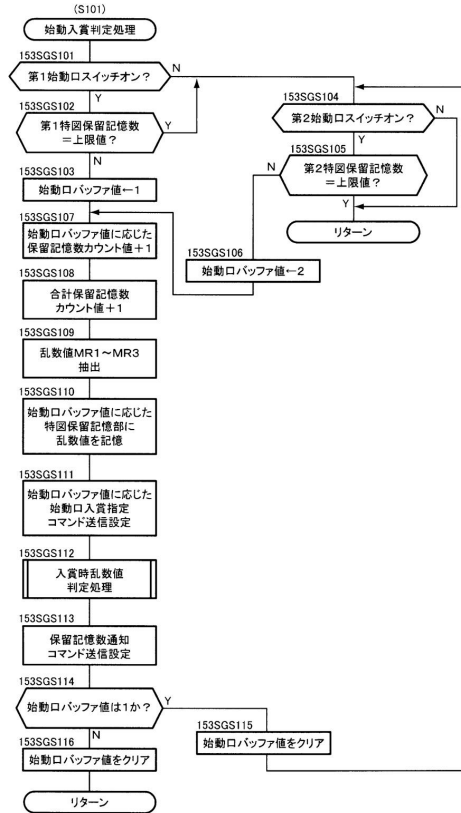
【図14-14】

【図14-14】



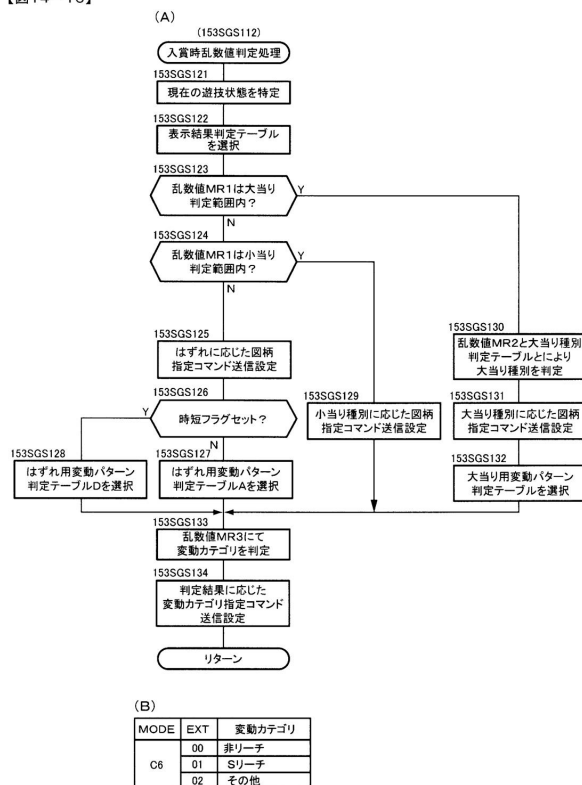
【図14-15】

【図14-15】



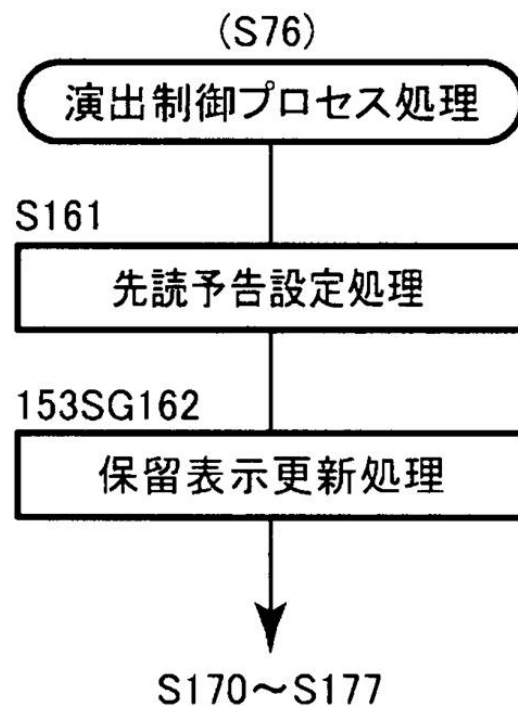
【図14-16】

【図14-16】



【図14-17】

【図14-17】



10

20

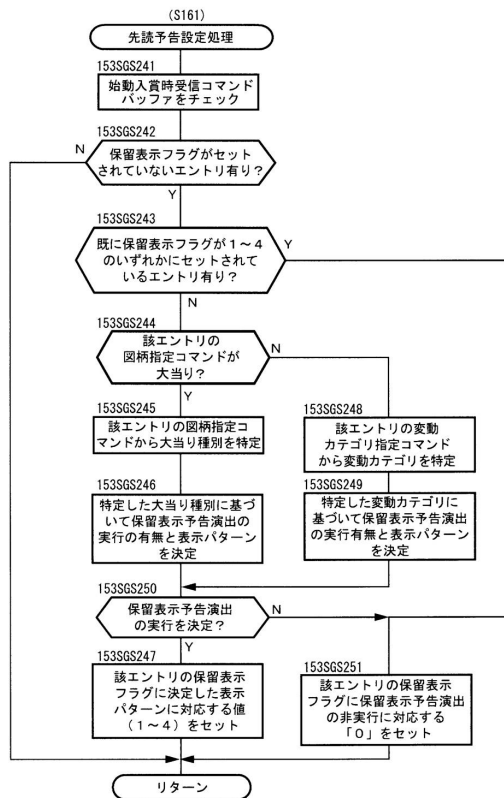
30

40

50

【図 14-18】

【図 14-18】



【図 14-19】

【図 14-19】

(A) 表示パターン決定割合 (大当りの場合)

可変表示結果	保留表示 予告演出なし	保留表示予告演出あり			
		表示パターンα	表示パターンβ	表示パターンγ	表示パターンδ
大当り (大当り A)	○	◇	☆	カメラ (青)	カメラ (赤)
大当り (大当り B or C)	5%	55%	20%	10%	10%

(B) 表示パターン決定割合 (はずれ・小当りの場合)

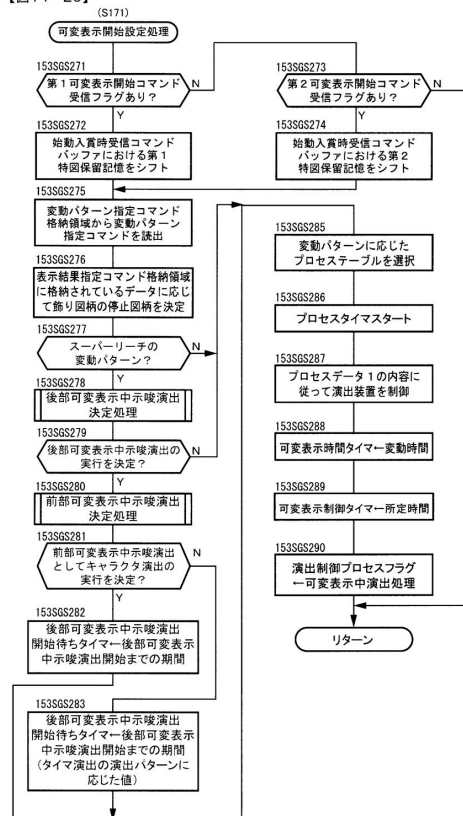
可変表示結果及び 変動カテゴリ	保留表示 予告演出なし	保留表示予告演出あり			
		表示パターンα	表示パターンβ	表示パターンγ	表示パターンδ
はずれ (非リーチ)	○	◇	☆	カメラ (青)	カメラ (赤)
はずれ・小当り (その他)	95%	5%	0%	0%	0%
はずれ (Sリーチ)	75%	20%	5%	0%	0%
	55%	25%	10%	5%	5%

10

20

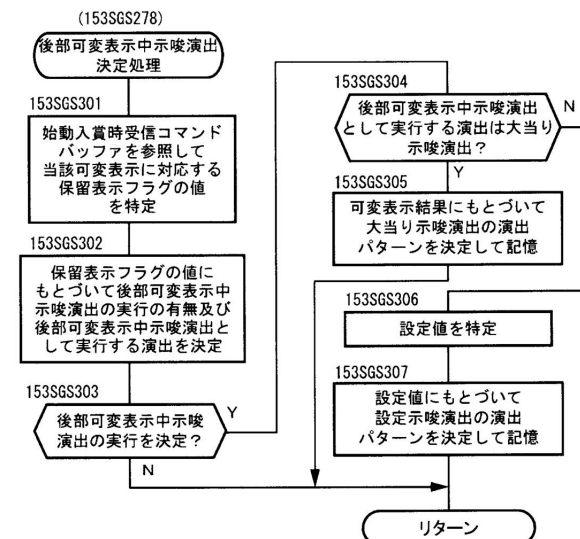
【図 14-20】

【図 14-20】



【図 14-21】

【図 14-21】



30

40

50

【図 14-22】

【図14-22】

(A) 後部可変表示中示唆演出の実行の有無及び
後部可変表示中示唆演出として実行する演出の決定割合

保留表示フラグ の値	非実行	大当り 示唆演出	設定示唆演出
0	90%	10%	0%
1 or 2 (表示パターン α or 表示パターン β)	50%	50%	0%
3 (表示パターン γ)	30%	35%	35%
4 (表示パターン δ)	0%	30%	70%

(B) 大当り示唆演出と設定示唆演出の演出パターン

演出	演出パターン	内容
大当り示唆演出	パターンAS-1	大当り示唆(期待度:低)
	パターンAS-2	大当り示唆(期待度:中)
	パターンAS-3	大当り示唆(期待度:高)
設定示唆演出	パターンSS-1	奇数設定値示唆
	パターンSS-2	偶数設定値示唆
	パターンSS-3	奇数寄りの中間設定値以上
	パターンSS-4	偶数寄りの中間設定値以上
	パターンSS-5	最高設定値示唆

【図 14-24】

【図14-24】

設定示唆演出の演出パターン決定割合

演出パターン	設定値1	設定値2	設定値3	設定値4	設定値5	設定値6
パターンSS-1	60%	25%	50%	20%	20%	30%
パターンSS-2	25%	60%	20%	50%	30%	20%
パターンSS-3	9%	6%	20%	10%	30%	15%
パターンSS-4	6%	9%	10%	20%	20%	30%
パターンSS-5	0%	0%	0%	0%	0%	5%

【図 14-23】

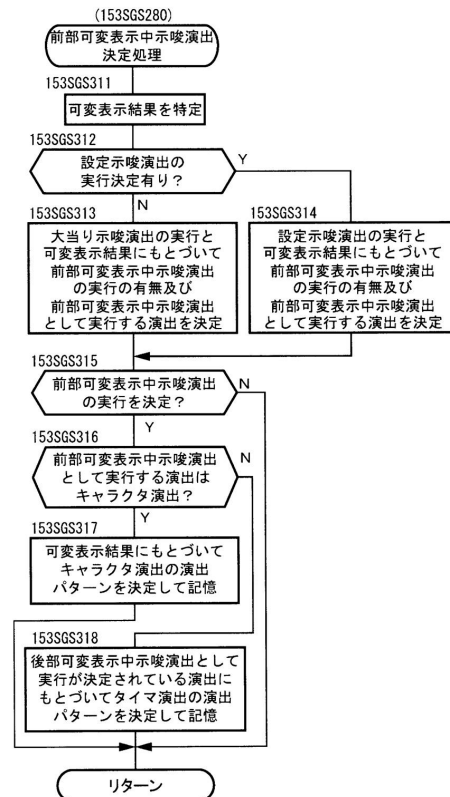
【図14-23】

大当り示唆演出の演出パターン決定割合

可変表示結果	パターンAS-1	パターンAS-2	パターンAS-3
大当り	10%	30%	60%
はずれ	75%	20%	5%

【図 14-25】

【図14-25】



10

20

30

40

50

【図 14-26】

【図14-26】

(A) 前部可変表示中示唆演出の実行の有無及び
前部可変表示中示唆演出として実行する演出の決定割合
(大当り示唆演出の実行が決定されている場合)

可変表示結果	非実行	キャラクタ 演出	タイマ 演出
大当り	40%	30%	30%
はずれ	70%	25%	5%

(B) 前部可変表示中示唆演出の実行の有無及び
前部可変表示中示唆演出として実行する演出の決定割合
(設定示唆演出の実行が決定されている場合)

可変表示結果	非実行	キャラクタ 演出	タイマ 演出
大当り	30%	0%	70%
はずれ	80%	0%	20%

(C) キャラクタ演出とタイマ演出の演出パターン

演出	演出パターン	内容
キャラクタ演出	パターンCS-1	大当り示唆(期待度:低)
	パターンCS-2	大当り示唆(期待度:中)
タイマ演出	パターンTS-1	大当り示唆(期待度:高)、後部可変表示中示唆演出の実行開始までの期間示唆
	パターンTS-2	大当り示唆(期待度:高)、後部可変表示中示唆演出の実行開始までの期間示唆

(D)

前部可変表示中示唆演出 として実行する演出	前部可変表示中示唆演出 としての大当り期待度	後部可変表示中示唆演出として 設定示唆演出が実行される割合
キャラクタ演出	低	低
タイマ演出	高	高

【図 14-27】

【図14-27】

(A) キャラクタ演出の演出パターン決定割合

可変表示結果	パターンCS-1	パターンCS-2
大当り	20%	80%
はずれ	80%	20%

(B) タイマ演出の演出パターン決定割合

実行が決定されている 後部可変表示中示唆 演出	パターンTS-1	パターンTS-2
大当り示唆演出	80%	20%
設定示唆演出	20%	80%

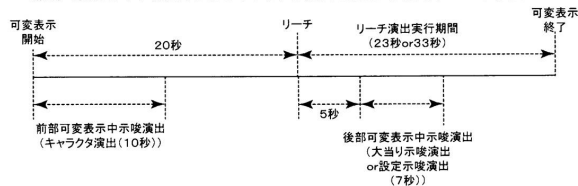
(C) タイマ演出の各演出パターンの内容

演出パターン	演出期間	表示キャラクタ
パターンTS-1	25秒	キャラクタX
パターンTS-2	30秒	キャラクタY

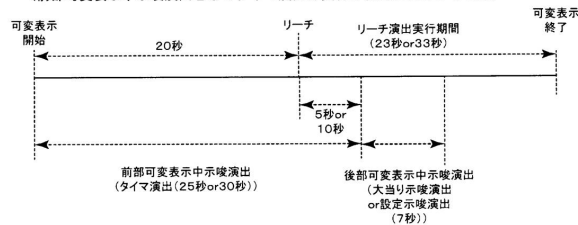
【図 14-28】

【図14-28】

(A) スーパーリーチの可変表示における演出実行期間
(前部可変表示中示唆演出としてキャラクタ演出の実行が決定されている場合)

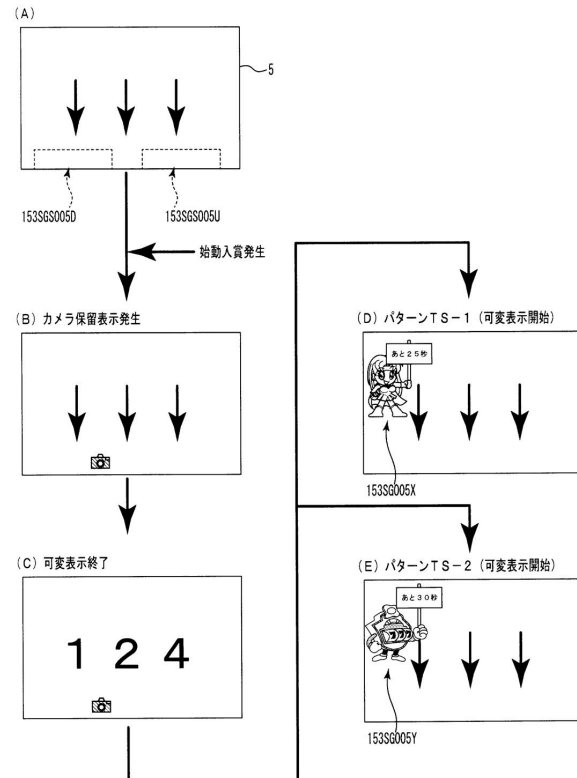


(B) スーパーリーチの可変表示における演出実行期間
(前部可変表示中示唆演出としてタイマ演出の実行が決定されている場合)



【図 14-29】

【図14-29】



10

20

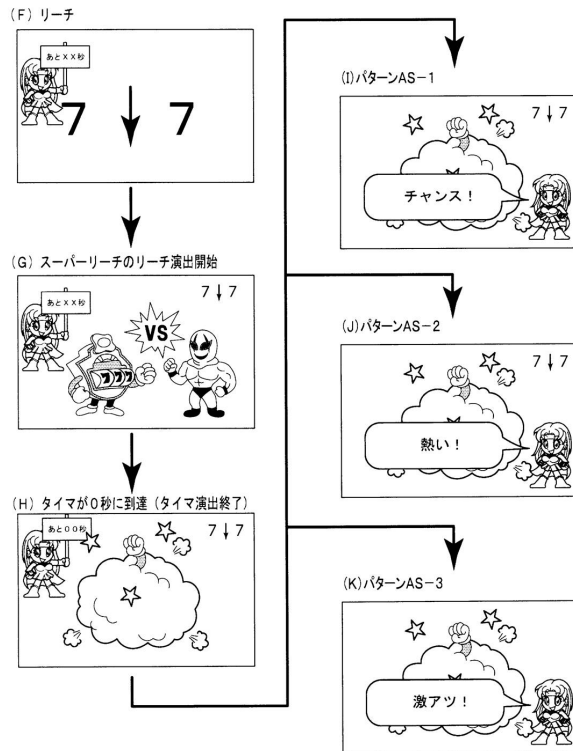
30

40

50

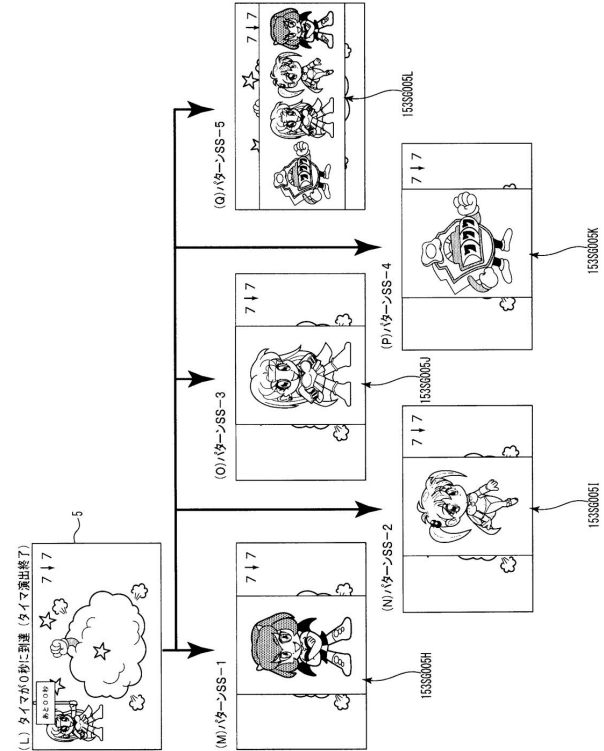
【図 14-30】

【図14-30】



【図 14-31】

【図14-31】



【図 14-32】

【図14-32】

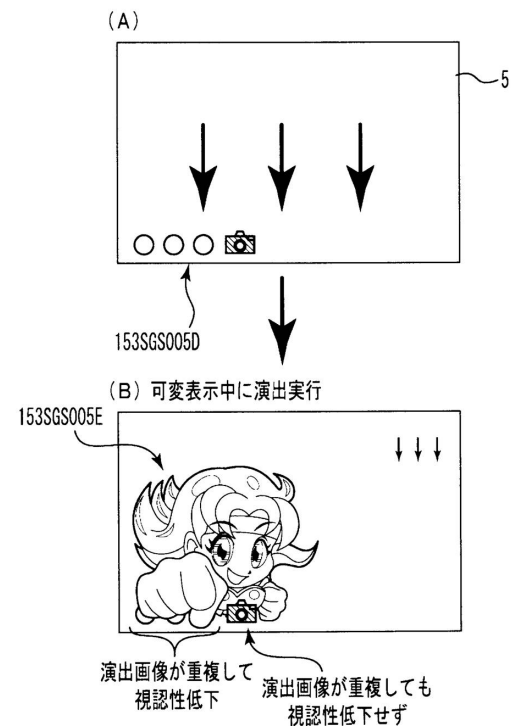
変形例 153SG-1

前部可変表示中示唆演出として実行する演出	前部可変表示中示唆演出としての実行決定割合	後部可変表示中示唆演出として設定示唆演出が実行される割合
キャラクタ演出	高	低
タイマ演出	低	高

【図 14-33】

【図14-33】

変形例 153SG-2



10

20

30

40

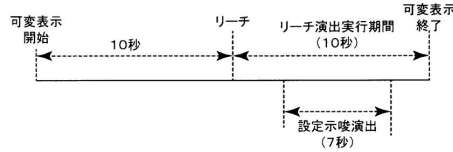
50

【図 14-34】

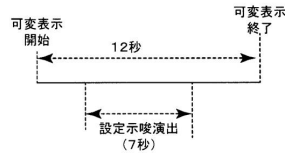
【図14-34】

変形例 153SG-3

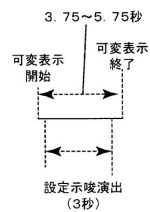
(A) ノーマルリーチの可変表示における演出実行期間



(B) 非リーチ（短縮なし）の可変表示における演出実行期間

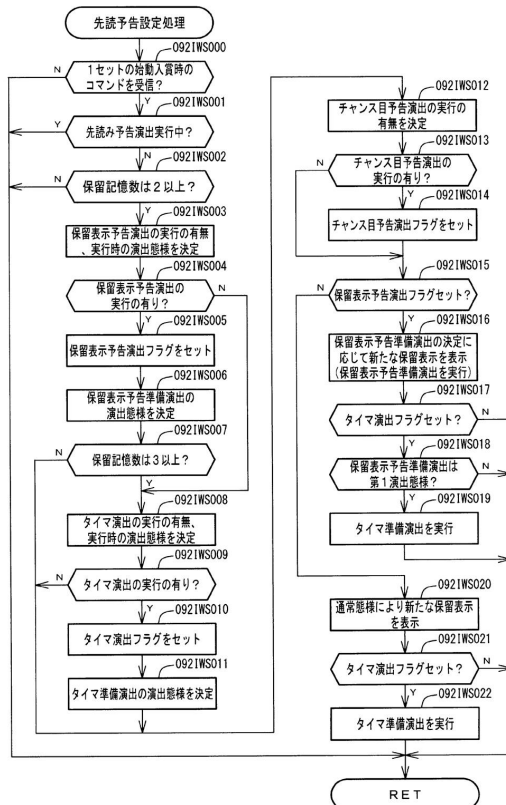


(C) 短縮非リーチの可変表示における演出実行期間



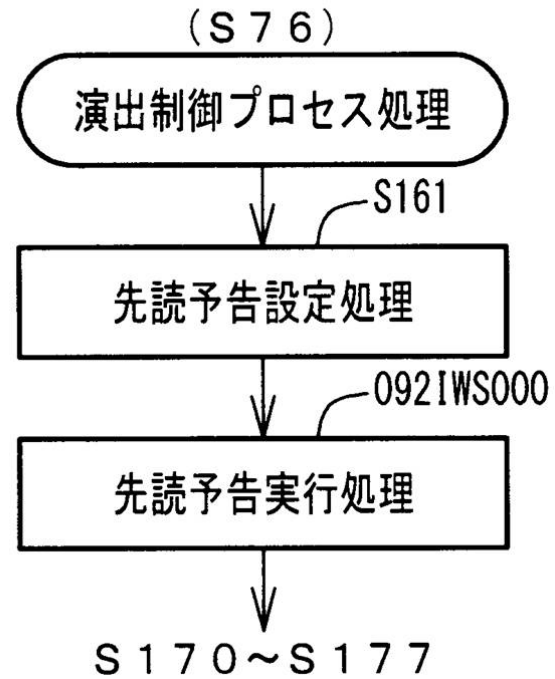
【図 15-2】

【図15-2】



【図 15-1】

【図15-1】



【図 15-3】

【図15-3】

(A) 保留表示予告演出決定テーブル

保留表示予告演出	入賞時判定結果			
	非リーチはずれ	スーパリーチはずれ	大当りA以外の大当り	大当りA
実行なし 通常態様(白色)	99%	55%	40%	10%
実行あり 第1演出態様(青色)	1%	25%	30%	40%
実行あり 第2演出態様(緑色)	0%	15%	20%	30%
実行あり 第3演出態様(赤色)	0%	5%	10%	20%

(B) 保留表示予告準備演出決定テーブル

保留表示予告準備演出	保留表示予告演出		
	第1演出態様(青色)	第2演出態様(緑色)	第3演出態様(赤色)
実行なし	40%	20%	10%
実行あり 第1演出態様(エフェクト小)	60%	70%	70%
実行あり 第2演出態様(エフェクト大)	0%	10%	20%

10

20

30

40

50

【図 15 - 4】

【図15-4】

(A) タイマ演出決定テーブル

タイマ演出	入賞時判定結果		
	非スーパーリーチ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り
実行なし	100%	40%	20%
実行あり 第1演出態様(25秒)	0%	50%	50%
実行あり 第2演出態様(30秒)	0%	10%	30%

(B) タイマ準備演出決定テーブル

タイマ準備演出	タイマ演出	
	第1演出態様 (25秒)	第2演出態様 (30秒)
実行なし	40%	10%
実行あり 第1演出態様(キャラクタA)	60%	70%
実行あり 第2演出態様(キャラクタB)	0%	20%

【図 15 - 5】

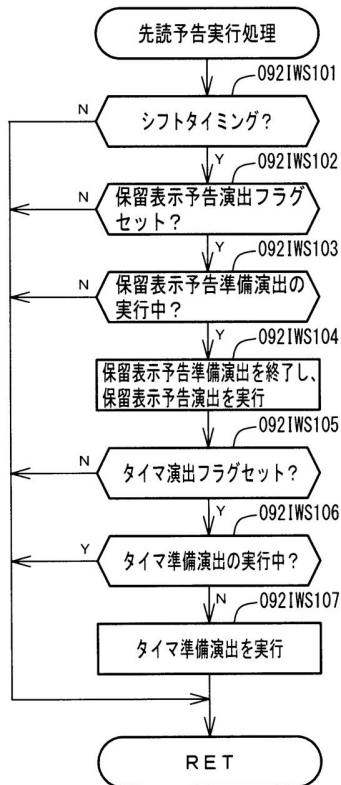
【図15-5】

(A) チャンス目予告演出決定テーブル

チャンス目予告演出	入賞時判定結果			
	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	大当りA 以外の大当り	大当りA
実行なし	98%	94%	93%	92%
実行あり	2%	6%	7%	8%

【図 15 - 6】

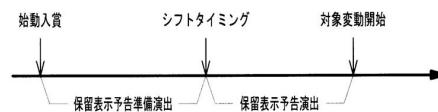
【図15-6】



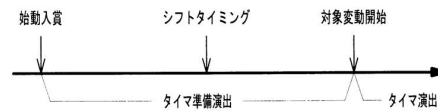
【図 15 - 7】

【図15-7】

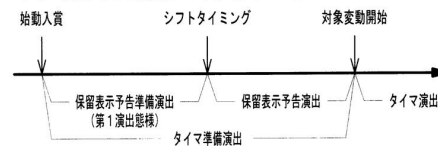
(A) 始動入賞時に保留表示予告演出および準備演出の実行を決定した場合



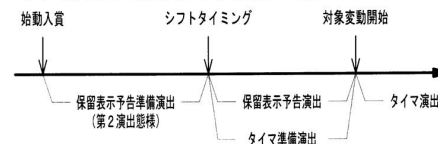
(B) 始動入賞時にタイマ演出および準備演出の実行を決定した場合



(C) 始動入賞時に保留表示予告演出および準備演出(第1演出態様)と、タイマ演出および準備演出との実行を決定した場合



(D) 始動入賞時に保留表示予告演出および準備演出(第2演出態様)と、タイマ演出および準備演出との実行を決定した場合



10

20

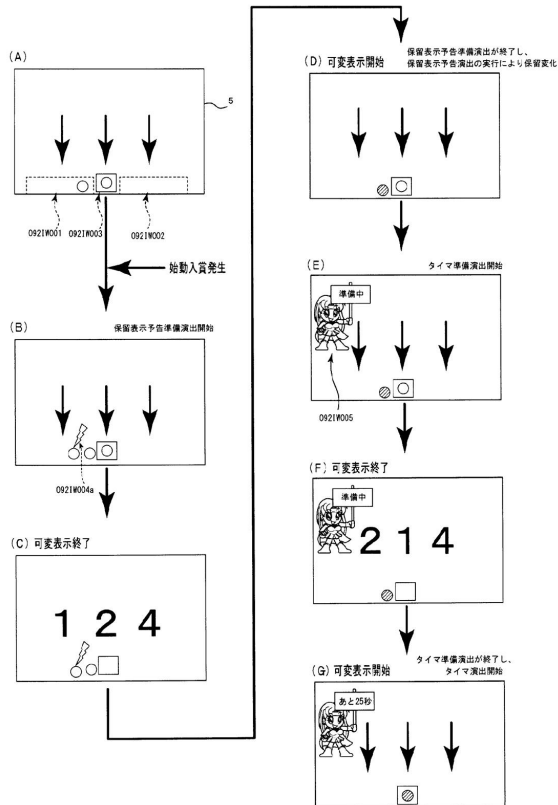
30

40

50

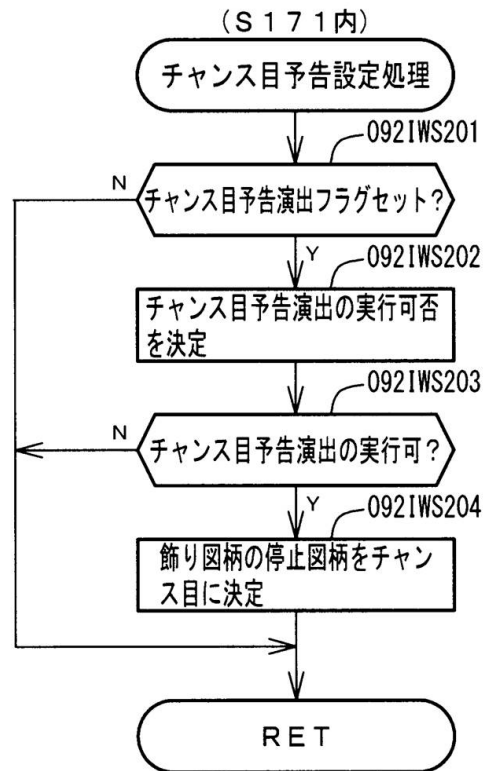
【図 15-8】

【図15-8】



【図 15-9】

【図15-9】



【図 15-10】

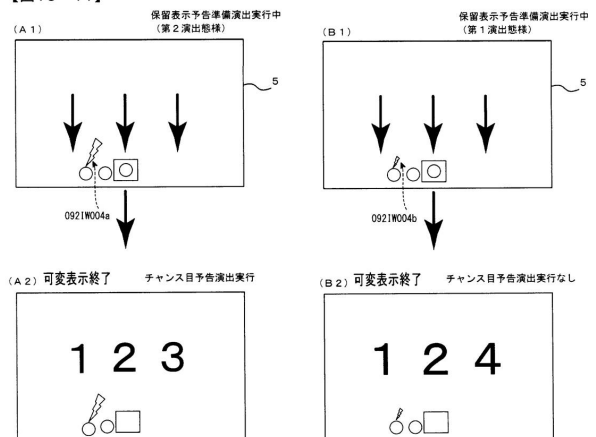
【図15-10】

(A) チャンス目予告実行可否決定テーブル

チャンス目予告演出	各準備演出の実行状況		
	実行なし	第1演出態様で実行中	第2演出態様で実行中
実行可	100%	0%	20%
実行否	0%	100%	80%

【図 15-11】

【図15-11】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特許第6909774(JP, B2)
特開2018-038642(JP, A)
特開2019-135004(JP, A)
特開2021-040921(JP, A)
特開2019-088528(JP, A)
特開2019-063260(JP, A)
特開2021-040927(JP, A)
特開2021-040929(JP, A)
特開2019-068967(JP, A)
特開2017-143861(JP, A)
特開2012-213563(JP, A)
- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02